

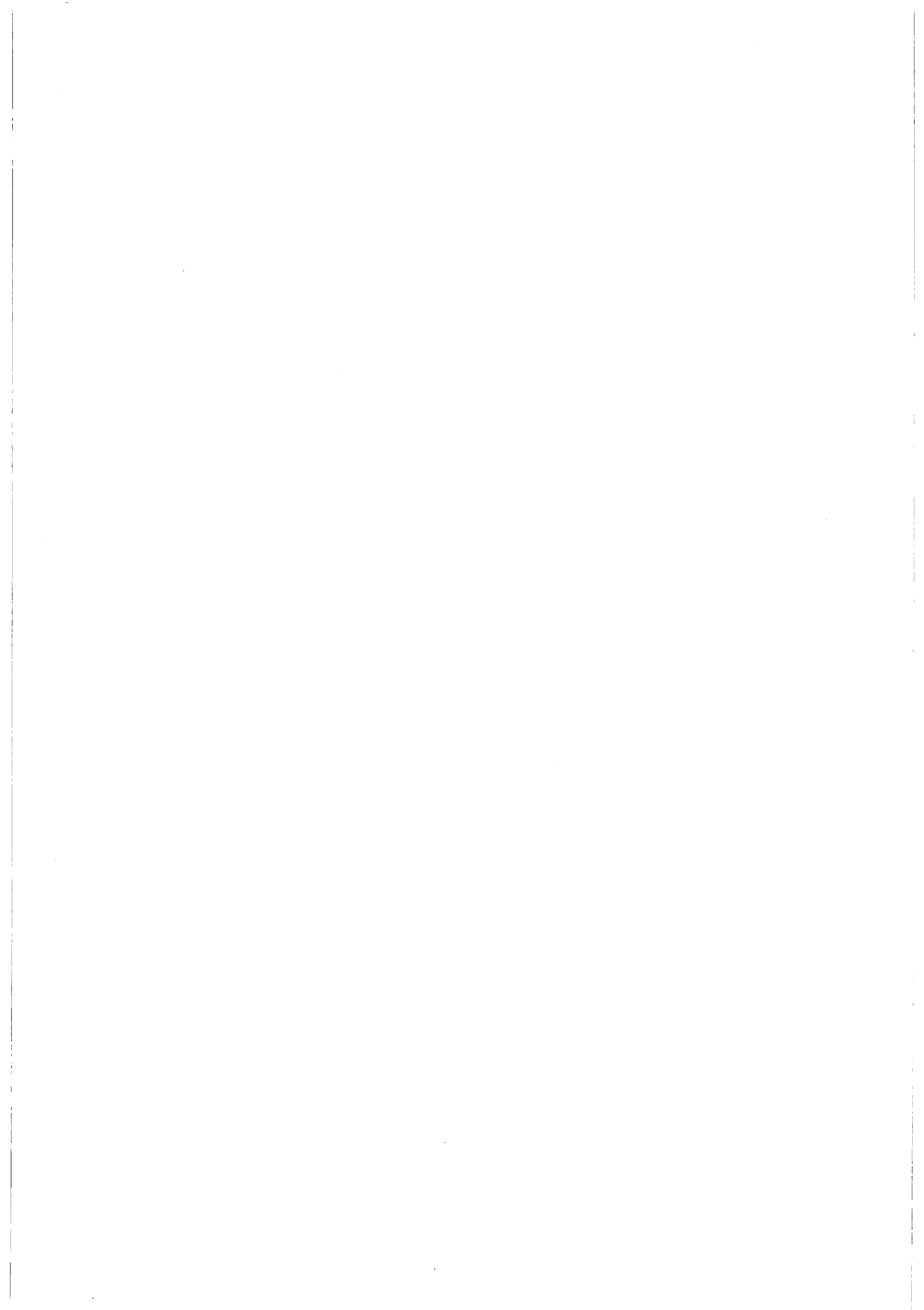
恵庭市

# ユカンボシE5遺跡

一般国道36号恵庭バイパス建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

平成3・4年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



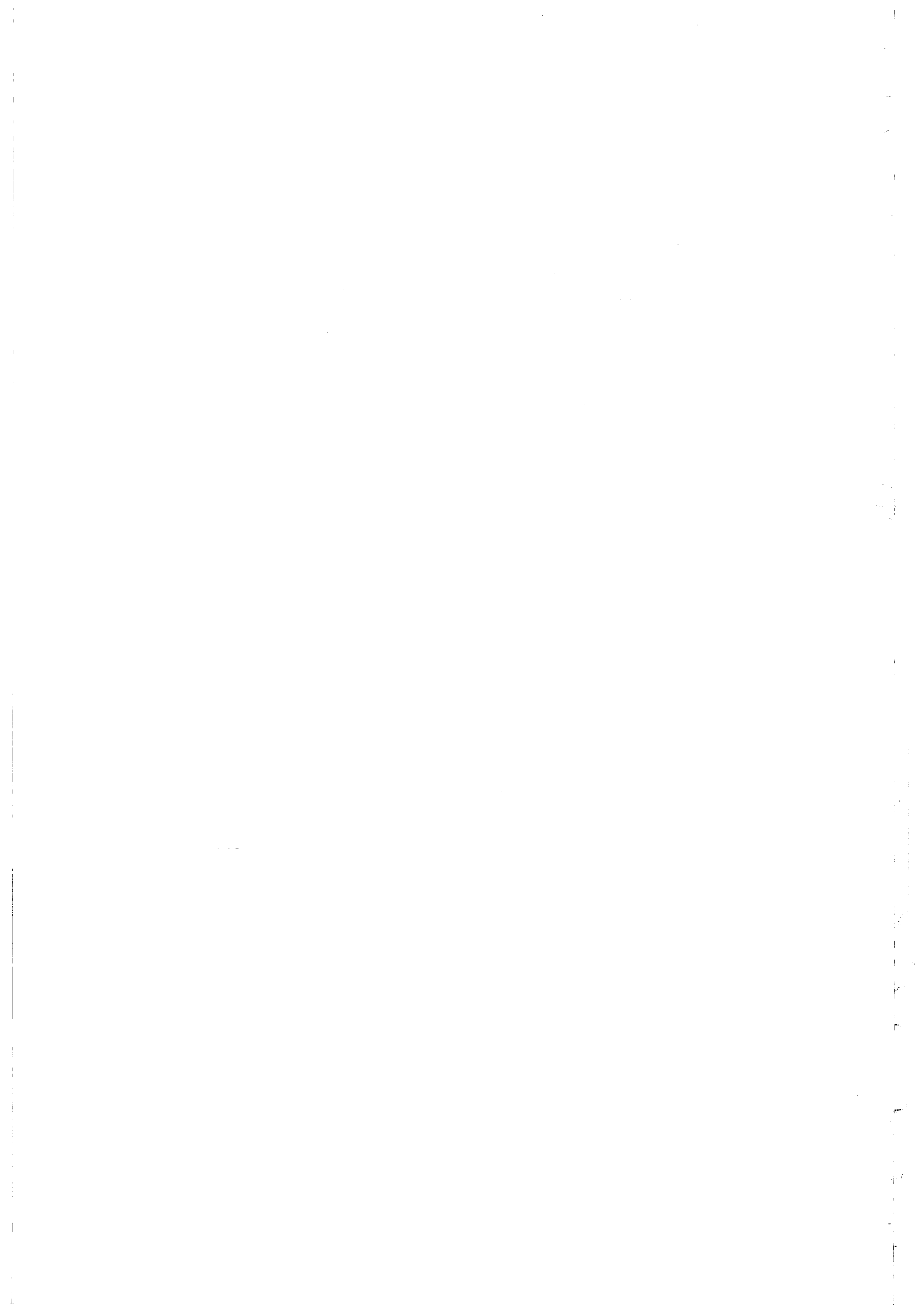
恵庭市

# ユカンボシE5遺跡

一般国道36号恵庭バイパス建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

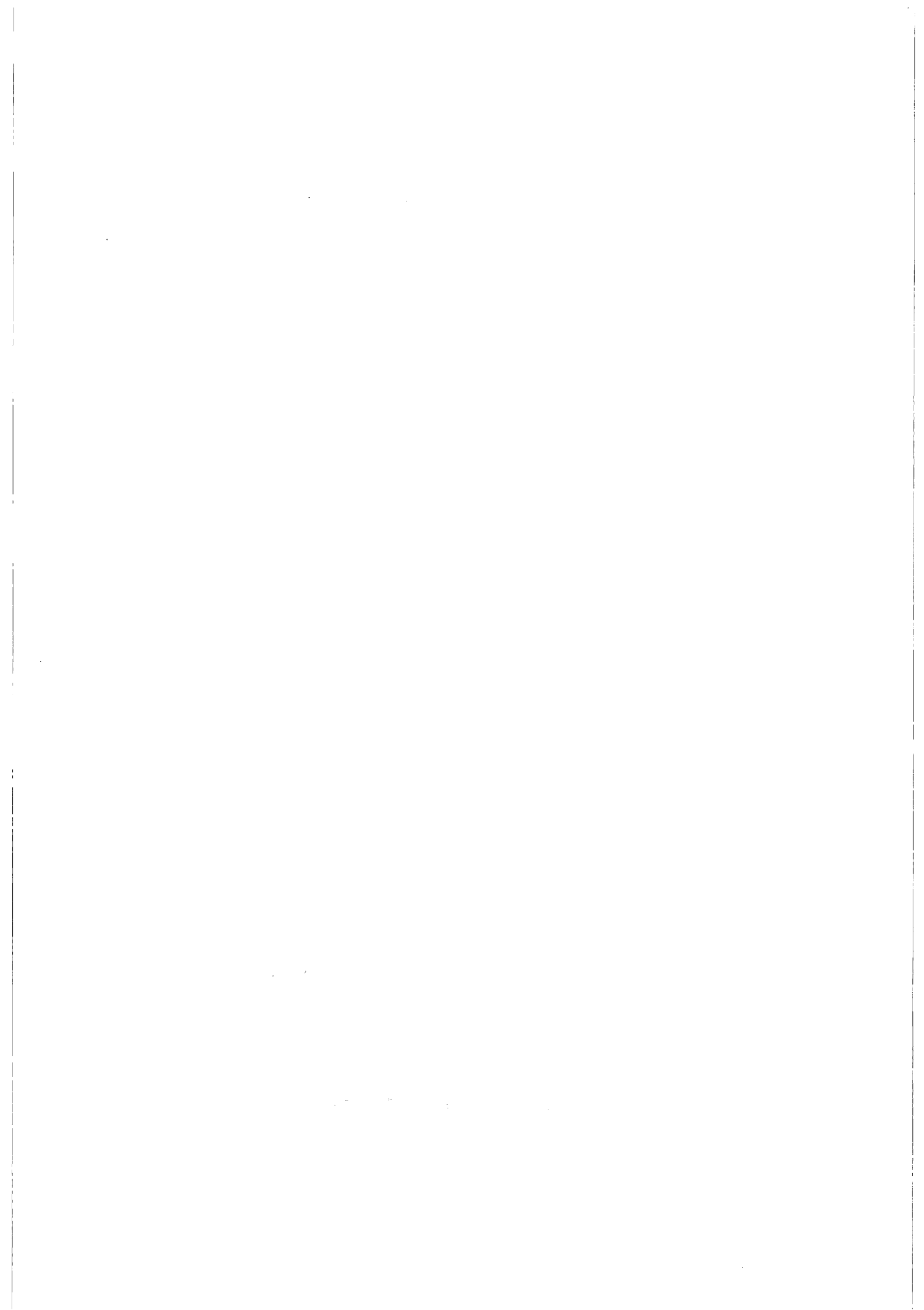
平成3・4年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





続縄文時代の墓（上）と出土土器（下）

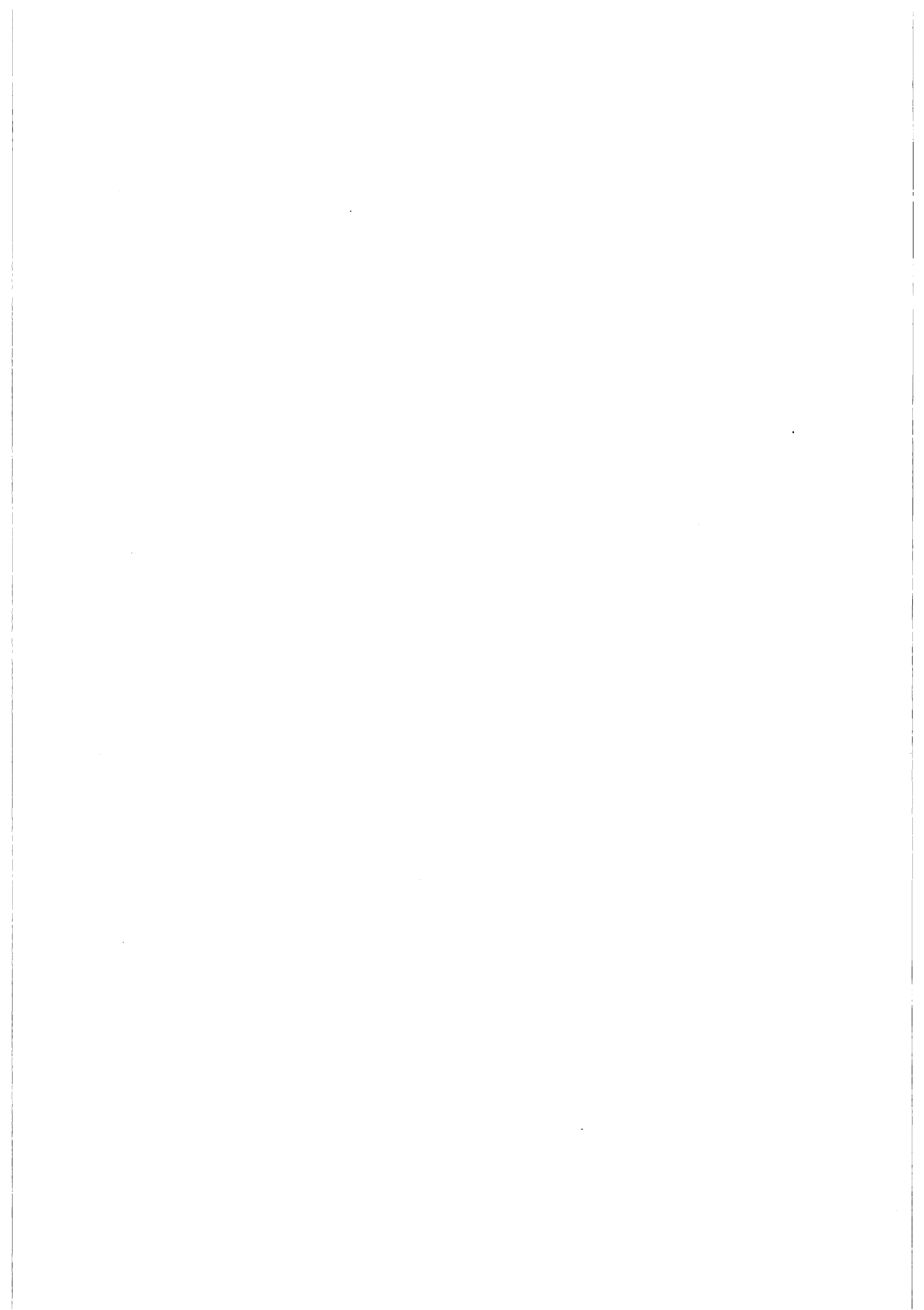




遺跡近景



焼土とTピット





## 例 言

1 本書は一般国道36号恵庭バイパス建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが、平成3年度および4年度に調査を実施した恵庭市ユカンボシE5遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 本書の編集と執筆は、発掘および整理にあたった下記の5名が行った。文責者は以下のとおりである。

鬼柳 彰：Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ-1-1)、Ⅳ-3-2)・3)、Ⅳ-4-2)、Ⅳ-5-1

田才 雅彦：Ⅲ-2、Ⅴ-1、Ⅴ-2-1) HP 2・3、Ⅴ-2-2) P 1・5・8~11、Ⅴ-2-3)、Ⅴ-2-4) TP 4・5・7・11・13・14・17・18・21・26・30~33、Ⅴ-2-5) FP 1~31・33~37・41、Ⅴ-2-6)・7)、Ⅴ-3-2・4

鎌田 望：Ⅲ-1、Ⅳ-4-1)、Ⅴ-2-1) HP 1、Ⅴ-2-2) P 2・3・6、Ⅴ-2-4) TP 1・3・24・25・27~29、Ⅴ-2-5) FP 32・38~40・42~58・60~71・73~75、Ⅴ-3-1)、Ⅴ-3-4

西脇対名夫：Ⅳ-1-2)、Ⅳ-2・3、Ⅳ-3-1)・4)、Ⅴ-2-2) P-7、Ⅴ-2-4) TP 15・16・19・20・22・23・32、Ⅴ-2-5) FP 72

倉橋 直孝：Ⅴ-2-2) P-4、Ⅴ-2-4) TP 2・6・8~10・12

3 植物種子等の同定および執筆については北海道大学文学部吉崎昌一教授に依頼した。

4 層序の記載については、花岡正光の教示を受けた。

5 整理後の遺物写真撮影は森岡建治が担当した。

6 実測図の縮尺は原則として次のとおりである。

竪穴住居跡 (HP) 1:40

Tピット (TP)・墓墳 (GP)・土墳 (P)・小土墳 (SP)・B地区の集石・焼土あるいは炭化物の集中地点 (FP) 1:20、Tピットの排土 1:40、A地区の集石 (X) 1:10

復元土器 1:4、土器拓本 1:3、剥片石器 1:2、礫石器 1:3

7 図中における遺物の表示は次のとおりである。

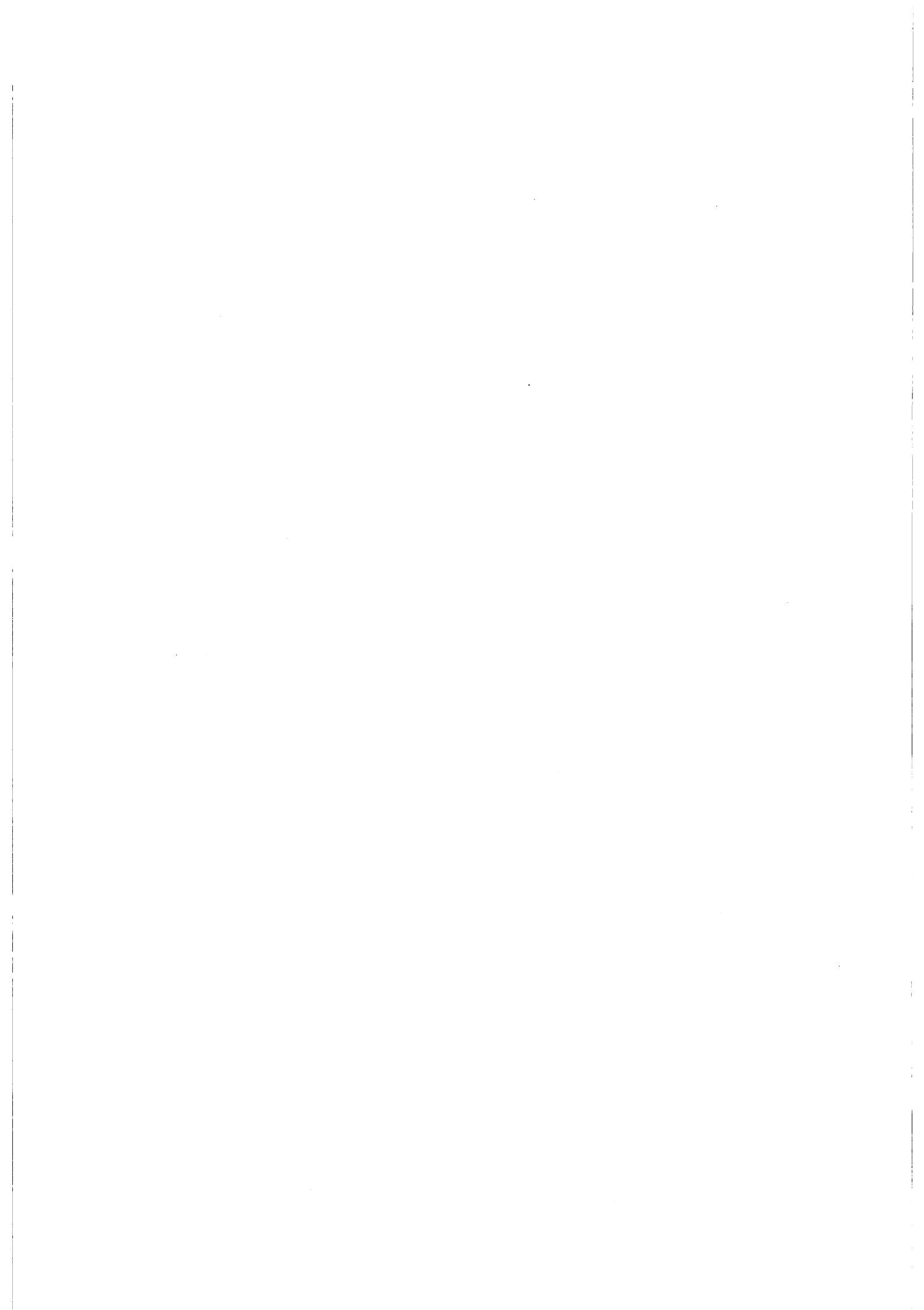
○ 土器、△ 剥片石器、□ 礫石器、・ 剥片

遺物の形を図示した場合には、P (土器)、Y (剥片石器)、B (礫石器)、F (剥片) の略号を付した。

8 調査にあたっては、下記の機関および人々の助言と協力を受けた (順不同、敬称略)。

恵庭市教育委員会、恵庭市郷土資料館、広島町教育委員会

上屋真一、松谷純一、佐藤幾子、松沢亜生、吉崎昌一、椿坂恭代、清水雅男、木村哲朗、工藤利幸、高橋與右衛門、中川重紀、石橋孝夫、工藤義衛、中島孝幸、乾 哲也、大谷敏三、田村俊之、高橋 理、豊田宏良、松田淳子、土屋周三、石神 敏、大島秀俊、石川直章、宮 宏明、菊池徹夫、大塚和義、梅原達治、平川善祥、山田悟郎、小林幸雄、右代啓視、手塚 薫、出利葉浩二、野中一宏、北沢 実、佐藤一夫、宮夫靖夫、工藤 肇、鈴木耕榮、大泉博嗣、加藤邦雄、上野秀一、羽賀憲二、仙庭伸久、横山英介、宮田栄二、福田祐二、沢田廣政、富樫哲夫、村元良夫



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査要項	1
2	調査体制	1
3	調査の経過	1
4	調査結果の要旨	2
II	環境と地形	3
III	遺物の分類	6
1	土器の分類	6
2	石器の分類	7
IV	A地区	8
1	調査の方法	8
1)	発掘区の設定	8
2)	層序	8
2	II-1層の遺構と遺物	12
1)	小土壌	13
2)	炭化物の集中地点	15
3	II-3・4層の遺構と遺物	16
1)	土壌	16
2)	集石	17
3)	Tピット	22
4)	焼土および炭化物の集中地点	23
4	包含層出土の遺物	29
1)	土器	29
2)	石器	37
5	まとめ	48
1)	遺構と遺物	48
2)	地質・層序	49
V	B地区	50
1	調査の方法	50
1)	発掘区の設定	50
2)	層序	50
2	遺構と遺物	53
1)	竪穴住居跡	54
2)	土壌	72
3)	集石	81
4)	Tピット	82
5)	焼土	125
6)	F・C集中	146
7)	土壌墓	147
3	包含層出土の遺物	150
1)	土器・土製品	150

2) 石器類 .....	171
4 まとめ .....	208
引用・参考文献 .....	210
ユカンボシ E 5 遺跡出土の植物遺体 (吉崎昌一) .....	213
写真図版 .....	217

# I 調査の概要

## 1 調査要項

事業名	一般国道36号恵庭バイパス建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査		
事業委託者	北海道開発局札幌開発建設部		
遺跡名	ユカンボシ E 5 遺跡		
所在地	恵庭市戸磯180-4 ほか		
調査面積	6,767m <sup>2</sup>	平成3年度	B地区3,285m <sup>2</sup> 平成4年度 A地区2,155m <sup>2</sup> 、B地区1,327m <sup>2</sup>
調査期間	平成3年4月16日～平成4年3月27日（発掘 平成3年8月1日～10月26日） 平成4年4月21日～平成5年3月26日（発掘 平成4年5月7日～8月8日）		

## 2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	寺山 敏保
	専務理事	永田 春男
	常務理事	中村 福彦
	業務部長	伊藤 庄吉
	調査部長	森田 知忠
	調査第1課長	鬼柳 彰（発掘担当者）
	主任	田才 雅彦（ 〃 ）
	嘱託	鎌田 望
	〃	倉橋 直孝〔平成3年度〕
	〃	西脇対名夫〔平成4年度〕

## 3 調査の経過

恵庭バイパスの建設工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は、恵庭市教育委員会が平成元年度に実施した柏木川11遺跡と当センターが平成3年5月から7月にかけて発掘したユカンボシ E 4 遺跡について、本遺跡の調査が3件目となる。

発掘調査区は、本遺跡のうちバイパス建設用地にかかる A・B 両地区である。このうち B 地区の約70%（グリッド5ラインから北側）は平成3年8月から10月にかけて発掘した。平成4年度は A 地区全域と B 地区南部の残る1,300m<sup>2</sup>あまりについて、5月から8月初めまで発掘を行い、延べ6ヵ月にわたる調査を終了した。両地区とも、予想よりわずかに遺物包含層の範囲が広がることが判明したため、調査面積は当初計画より A 地区が45m<sup>2</sup>、B 地区は65m<sup>2</sup>増加した。

B 地区のうち、平成3年度調査区では縄文時代の竪穴住居跡や土壌のほか T ピット、焼土が多数検出され、さらに2個体の土器を副葬した続縄文時代の墓が1基みついている。出土遺物も縄文時代、続縄文時代の各時期におよんでいることから、4年度も同様の遺構と遺物が検出されることが予想された。平成4年度調査区の面積は B 地区全体の約30%に過ぎないが、遺構と遺物の量は前年度よりもかなり多い。本書では A 地区および B 地区の2ヵ年度分の調査について、まとめて報告する。なお、昨年度調査したユカンボシ E 4 遺跡の調査結果については、報告書（『ユカンボシ E 4 遺跡』北埋調報75）を刊行済みである。

#### 4 調査結果の要旨

〈A地区〉発掘された遺構は土壙1基、Tピット2基、集石4ヵ所、焼土あるいは炭化物の集中地点12ヵ所と上部に鉄鍋が伏せられた小土壙1基である。このうち、Tピットと小土壙および炭化物集中地点3ヵ所を除くほかの遺構は、供伴した遺物から縄文時代早期のものとみられる。遺物包含層からは早期のコッタロ式、中茶路式、東釧路Ⅲ式に相当する土器片が出土しており、石器もこの時期の特徴をもつ石鏃やすり石などが多い。ほかに縄文時代前期、中期、後期の遺物もわずかに出土している。遺構と遺物の分布状態などから、調査区西側に縄文時代の集落跡があるものと推定される。

鉄鍋は現在、類例を見出すことができていないが、樽前a火山灰直下で出土したことから、1739年以前の遺物の可能性がある。

〈B地区〉2ヵ年の調査で発掘された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡3軒、土壙11基、Tピット32基、焼土75ヵ所および統縄文時代の土壙墓1基である。出土遺物から、住居跡のうち1軒は縄文時代前期、ほかの2軒は中期のものとみられる。土壙は早期および中期に属するものがある。Tピットと焼土は調査区全域で検出されたが、とくに南部に多く、等高線に沿って分布している。Tピットには楕円形と溝状のものがあり、構築時の排土も5ヵ所確認された。また、土壌のフローテーションにより、イネ科の種子などが検出されている。出土した土器や石器は、縄文時代早期から後期のものが大部分を占めるが、ほかに統縄文時代の後北式土器1個体と土壙墓から出土した北大式土器3個体がある。縄文時代の土器の多くは中期の萩ヶ岡2式と天神山式に相当するものである。石器も様々な器種が出土しているが、縄文時代早期および中期のものが多くを占める。

#### 遺構・遺物一覧（遺物は破片点数）

A地区		遺 物	
遺 構		遺 物	
土 壙	1	土 器(縄文)	6,202
集 石	4	土 製 品	6
T ピ ッ ト	2	剥 片 石 器	201
焼土・炭化物 集中地点	12	礫 石 器	56
小 土 壙	1	剥 片	3,551
		礫	628
		鉄 鍋 (1個体)	42
計	20	計	10,686

B地区		遺 物	
遺 構		遺 物	
住 居 跡	3	土 器(縄文)	20,859
墓	1	" (統縄文)	255
土 壙	11	土 製 品	7
集 石	1	剥 片 石 器	375
T ピ ッ ト	33	礫 石 器	441
焼 土	75	剥 片	27,917
		礫	408
計	20	計	50,262

## Ⅱ 環境と地形

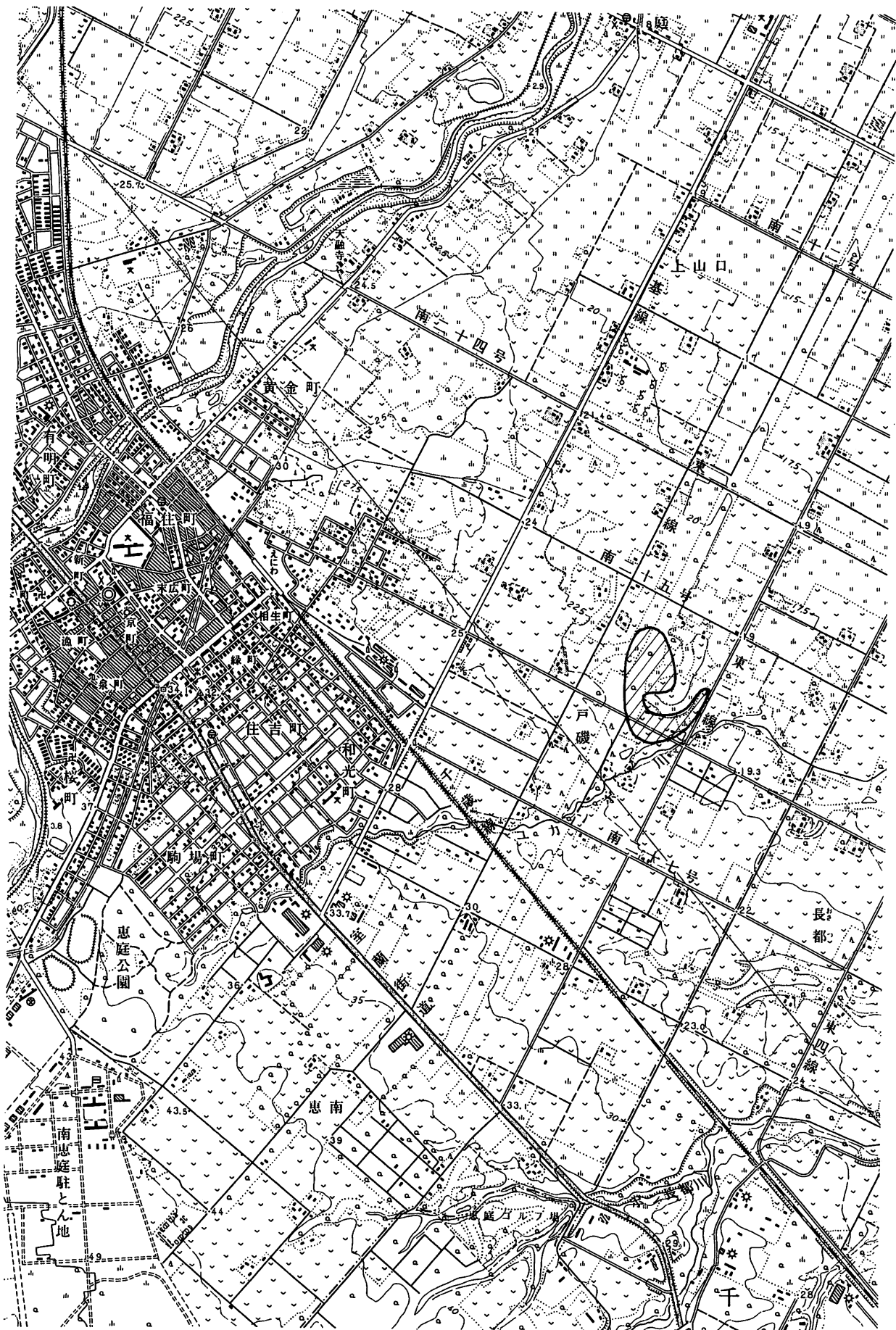
恵庭市の市街地南部の湧水に源をもつユカンボシ川は東流して、千歳川の支流の長都川に入っている。流路延長6.2km、幅は約2～4m、下流の千歳市側から改修工事が進んでいるが、上流の恵庭市側では今も蛇行をくりかえしている。本遺跡はこの川の中流部左岸に位置しており、平成3年度に調査した右岸のユカンボシE4遺跡とは指呼の間にある。

本遺跡の北側に接する河道跡は、今の恵庭駅あたりを水源とし東流していたユカンボシ川の支流で、本遺跡の東方で本流に入っていたらしい。付近の人の話によると、この川はトイソ川と呼ばれていたが、昭和の初め頃までに埋め立てられ水田化されたという。明治29年の仮製5万分1図には「トイソ川」と記されている。現在も旧トイソ川の跡は周囲より低く、空中写真や地形図からたどることができる。本遺跡付近では氾濫原とみられる低地の幅が約50mあるが、流路幅は今のユカンボシ川くらいだったものと思われる。現在、本遺跡付近では川跡を牧草地として利用しているが、今回の調査で、地表下には今も多量の水が流れていることが判明した。

本遺跡は南西方向に大きく屈曲する旧トイソ川の右岸に沿って広がっている。今回、発掘を行ったところは、本遺跡のうちバイパス建設用地にかかる2つの地区である。このうちA地区は馬蹄形に蛇行する旧トイソ川の北西岸に位置しており、南端部を除いて大部分が国有保安林のなかにある。B地区はこれより150mほど下流の南西岸に位置しており、調査前までは畑や宅地であった。両地区とも旧トイソ川の右岸にあたる。A地区の保安林は明治26年に、「千歳原野植民地区画割」が設定された際、防風林として自然林が残されたものである。同様の防風林は恵庭市から千歳市にかけて、道路区画に沿って幅182m（100間）、延長10数kmにわたり国有保安林として管理されている。本遺跡付近では昭和の初め頃、東側の60間が国から払い下げられ農地に転換したという。B地区も払い下げ前まで西側の一部が保安林であったが、大半は明治中頃の開墾当時から畑地として利用されてきた所である。

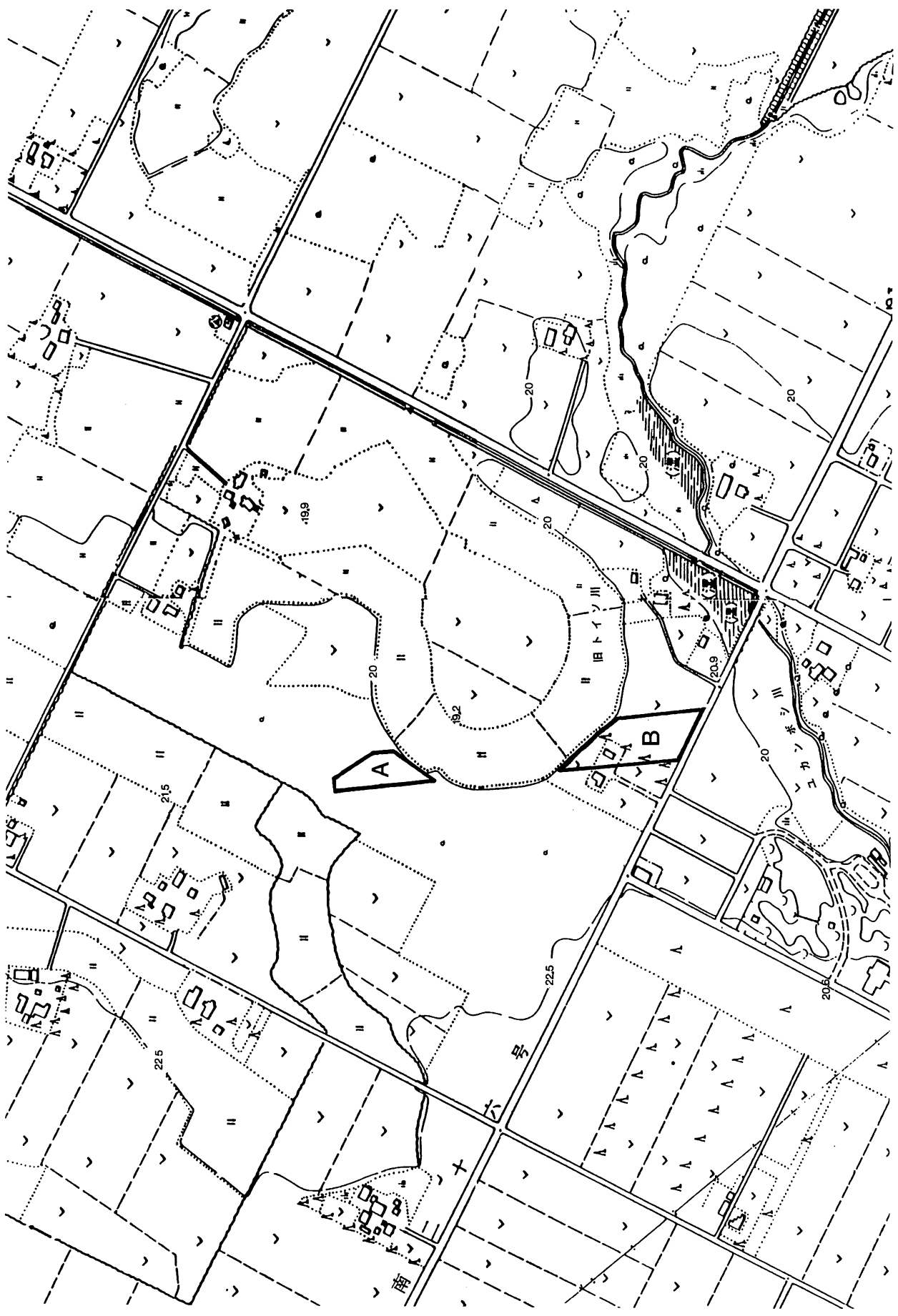
このようなことから現在、A・B両地区の地形や植生はまったく異なっている。A地区には、ナラ、アカダモ、ハンノキ、ニレ、クルミなどの樹木が生い茂り、先史時代を思わせる景観が残っている。調査区の南端部には旧トイソ川の河道跡が湾入し、ここに西側を流れる小流が入っている。この小川の南側はB地区に続く段丘面で、調査区の南東端部がここにかかっている。A地区では表土下に樽前a火山灰（Ta-a、1739年降灰）が厚く残っており、人為的な改変をほとんど受けていないことが分かる。これに対してB地区は全域にわたって遺物包含層上部まで耕作されている。B地区は北海道教育委員会が平成2年度に行った範囲確認調査の結果から、南半部に遺構と遺物が多いことが判明していた。今回、調査区南端に接する南26号道路までを発掘したが、遺跡はさらに南方のユカンボシ川近くまで続いていたものと考えられる。付近の人の話によれば、この道路南側の畑には多くの土器や石器が散布していたが、ユカンボシ川左岸の河川敷に客土するため、かつて土取を行ったという。範囲確認調査では遺物がまったく出土していない。本遺跡はユカンボシ川の左岸にあることが、その名称の根拠になっているが、これらのことから判断するとA地区は旧トイソ川右岸に、B地区はユカンボシ川左岸に立地する遺跡とみることができよう。

ユカンボシ川の両岸には、水源から河口にかけて23ヵ所の遺跡が分布している。各種の工事に伴い現在まで本遺跡を含めて、11ヵ所の遺跡で発掘調査が行われた。これらの調査では縄文時代、続縄文時代、擦文時代さらにアイヌ文化期におよぶ遺構、遺物が発掘されており、先史時代からこの川が人間の活動にとって重要な位置を占めていたことが分かる。



図Ⅱ-1-1 遺跡の位置





図II-1-2 遺跡周辺の地形

### Ⅲ 遺物の分類

#### 1 土器の分類

今回の調査で出土した土器片は、A地区では縄文時代のもの6,202点（早期4,826点、前期692点、中期130点、後期66点、時期不明488点）である。なお、他に縄文時代早期の土製円盤が6点出土している。B地区では、縄文時代のもの20,859点（早期3,126点、前期263点、中期12,586点、後期2,137点、時期不明2,747点）、続縄文時代後北式のもの208点、北大式3個体の計20,859点と3個体である。なお、他に縄文時代中期の三角土製品が7点出土している。

基本的な分類は、昨年度のユカンボシE4遺跡の報告で記したものと変わっていない。

**I群** 縄文時代早期に属する土器を本群とする。大きく二つに分類される。

**a類**：貝類腹縁圧痕文、条痕文のある土器群。今年度の調査では出土していない。

**b類**：縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文のある土器群。更に四者に分けられる。

**b1類**：東釧路Ⅱ・Ⅲ式に相当するもの。

**b2類**：コッタロ式に相当するもの。

**b3類**：中茶路式に相当するもの。

**b4類**：東釧路Ⅳ式に相当するもの。今回の調査では出土していない。

**Ⅱ群** 縄文時代前期に属する土器を本群とする。大きく二つに分類される。

**a類**：胎土に繊維を含む、厚手で縄文の施された円底・尖底の土器群。更に二者に分けられる。

**a1類**：縄文土器に相当するもの。

**a2類**：静内中野式に相当するもの。

**b類**：円筒土器下層式、大麻Ⅴ式に相当する土器群。HP1とP1が本時期の遺構である。

**Ⅲ群** 縄文時代中期に属する土器を本群とする。大きく二つに分類される。

**a類**：円筒土器上層式、萩ヶ岡1・2式に相当するもの。大半の遺構は本時期のものと思われる。

**b類**：天神山式、柏木川式、北筒式等に相当するもの。更に三者に分かれる。

**b1類**：天神山式、萩ヶ岡3式に相当するもの。

**b2類**：柏木川式、萩ヶ岡4式に相当するもの。

**b3類**：北筒式に相当するもの。今回の調査では出土していない。

**Ⅳ群** 縄文時代後期に属する土器を本群とする。大きく三つに分類される。

**a類**：前葉の土器、余市式、手稲砂山式、入江式に相当するもの。

**b類**：中葉の土器。手稲式、鯨澗式、エリモB式に相当するもの。

**c類**：後葉の土器。堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの。今回の調査では出土していない。

**Ⅴ群** 縄文時代晩期に属する土器を本群とする。今回の調査では出土していない。

**Ⅵ群** 続縄文時代に属する土器を本群とする。大きく三つに分類される。

**a類**：大狩部式、恵山式及びそれに平行するもの。今回の調査では出土していない。

**b類**：後北式及びそれに平行するもの。今回の調査では後北C<sub>2</sub>・D式が出土している。

**c類**：北大Ⅰ－Ⅱ式に平行するもの。このうち北大Ⅱ式には、斜行縄文と沈線の組合せでV字状モチーフを描くグループと、沈線のみで描くグループがあり、田才（1983）は前者を北大B式、後者を北大C式とした。今回の調査では、B地区で北大C式の土壇墓1基が確認されている。

## 2 石器の分類

今回の調査で出土した石器等は、A地区の総数は10,686点で、内訳は剥片石器類201点、剥片3,551点、礫石器類56点、方割礫350点、礫278点である。B地区の総数は29,141点で、内訳は剥片石器類375点、剥片27,917点、礫石器類441点、方割礫260点、礫148点である。

基本的分類については、「忍路土場遺跡・忍路5遺跡」の報告(1989)で示した基準を踏襲しているが、以下に特徴的なものあるいは本文中に用いる略語について記す。

**搔器**：ユカンボシE4遺跡の報告(1992)では、つまみ付きナイフとラウンド・スクレイパー以外には削・搔器として一括で扱ったが、今回はその刃部形態に着目して区分した。搔器としたものは、直角ないし直角に近い斜角の刃部をもつものと、粗い調整による波形の刃部をもつもので、それぞれ直角刃、斜角刃、波形刃としている。このうち波形刃は、その剥離痕や原石面の残り方から、剥片を剥いだ後の残核を転用している可能性が高い。

**F・C集中**：剥片(flake)・碎片(chip)が集中して出土した地点。

**R・F(retouched flake)**：二次加工(retouch)のある剥片。器種の特定できない各種石器類の未製品・破損品を含む。

**U・F(utilized flake)**：使用痕(肉眼での識別による)のある剥片。

**ニードル**：棒状原石をそのまま、あるいは剥片を棒状に作出し、石錐のような刃部加工をせずに刺す・突くなどの用途に用いたと思われるもの。

**石斧**：製作過程の素材残片や剥片、使用過程での剥片類を含む。

**縞頁岩**：木目状の白い縞がみられる珪質の頁岩で、珪化木の可能性がある。一般の頁岩・珪質頁岩と区別するため縞頁岩とした。なお、この原石は現在でも漁川上流部で採取できる。

**板状礫**：厚さ6cm未満の板状を呈する礫。石皿・台石の素材として、あるいはそのまま台石的に用いられたものと考えている。

**方割礫**：様々に割られた(割れた)礫で、焼けているものが目立つ。ワッカオイ遺跡の報告(1977)で飽津が注目した「方割石」に準じ、破断面の数によってB型(1面)～E型(4面)と、その他の破片に細分した。なお破断面OのA型は礫として扱っている。

**焼け弾け**：加熱されたことによって、礫や黒曜石・メノウの原石・剥片などが割れたものを指す。破断面にバルブなどの加撃痕がみられず、破断面中央からリングが広がる特徴がある。なお、出土資料を奈良国立文化財研究所の松沢亜生氏に実見していただき、以下のコメントをいただいた。

- 1 打撃による剥離ではない。
- 2 熱による剥離・分解の可能性が強い。
- 3 表面の状態変化が少ないので、それほど高温ではないと思われる。
- 4 低めの温度で徐々に加熱された場合には表面の変化が少ない。
- 5 直接炎にあてるのではなく、土に埋めたりして温度調節をしている可能性がある。
- 6 木材を割るなどの加工に使用した楔などは、木の摩擦や圧力のため楔自体が非常に高温となり割れが発生すると考えている。こうした例は弥生時代の遺跡などにみられるが、実検はされていない。
- 7 本資料については、表面の稜線に摩耗やスレが認められないので楔の可能性は薄い。今後、いろいろな条件で加熱・冷却実験を行う必要がある。

なお、焼成実検の成果については、昨年度のユカンボシE4遺跡の報告書中で木村哲朗氏が述べられているので参照されたい。

## IV A地区

### 1 調査の方法

#### 1) 発掘区の設定

発掘区の設定にあたっては、恵庭バイパス建設予定地の用地境界杭を基準に用いた。測量基点としたR.57杭からL.57杭の方向(東)をX軸の正方向、R.58杭の方向(南)をY軸の負方向とする座標を設定、X軸とY軸をそれぞれ10m毎に区切り、調査区全域を10m×10mの発掘区に分割した。

この一辺10mの発掘区を大グリッドとし、それぞれをさらに、1m×1mの小グリッド100個に分割した。各グリッドの表示は大グリッドを1・0区、2・4区等とし、小グリッドの場合は1・0-00区、4・10-55区等々とした。なお、Y軸の方位はN-5°40'-Wである。

各基準杭の座標値は以下のとおりである。

R.57 : X = -124,496.948、Y = -52,174.363

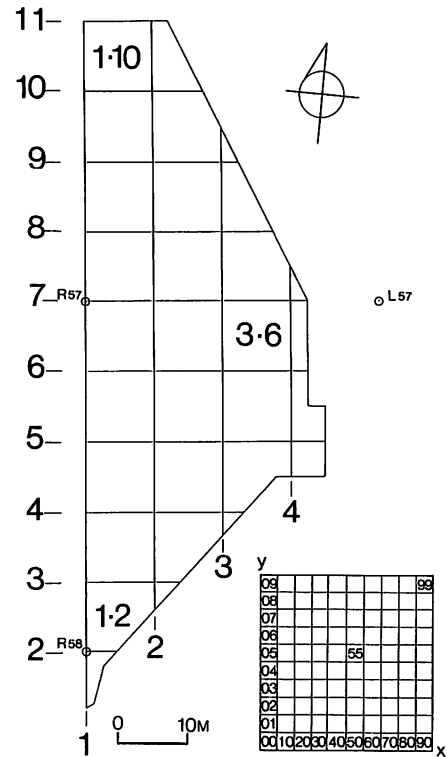
L.57 : X = -124,492.624、Y = -52,129.576

R.58 : X = -124,549.716、Y = -52,169.578

#### 2) 層序

**基本層序** A地区の層序は、B地区および平成3年度度に調査したユカンボシE4遺跡の層序に対比してI層(表土、Ta-a降下火山灰の土壌化したもの)・II層(旧表土)・III層(黄橙色土)に大別した。調査区南西端にある流路から北側では腐植に乏しい間層が数枚観察されたので、これらのうち連続性のよいものを境にII層をII-1~4層に細分した。

- I層 : 暗褐色 細礫混じりシルト(礫はTa-a) やや鬆 下限は曖昧 現代の溝を検出
- a層 : 灰黄褐色 細~中礫(中位はシルト質粗粒砂~細礫) 軟~鬆 下限は画然 Ta-a火山灰層
- II a層 : 黒褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 流路以南に分布 縄文中期遺物を検出
- II b層 : 黒色 粘土質シルト 軟 下限は判然 流路以南に分布 縄文中期遺物を検出
- II-1 a層 : 灰褐色(厚い部分では下部は黒褐色) 粘土質シルト 軟(乾くと堅) 下限は判然~曖昧 分布広く、連続性よい 炭の集中・近世遺物を稀に検出
- b層 : 黄橙色~橙色(c層より赤みが強い)シルト(稀に炭を交える) 軟 下限は判然 分布は広いが不連続 無遺物
- II-1 b層 : 黒褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 分布は広いが薄いためb層が欠ける地点ではII-1 a層との区別がしばしば困難 ほぼ無遺物
- c1層 : 黄橙色 粘土質シルト 軟 下限は判然~画然 分布広く連続性よい 無遺物
- II-2 a層 : 暗褐色 シルト質粘土 軟 下限は判然 不連続で厚さ2cm未満と薄い 無遺物
- c2層 : 黄橙色(c1層より明、鈍色)シルト 軟 下限は判然~画然 分布は広いが不連続



図IV-1-1 発掘区の設定

無遺物

- Ⅱ-2 b層：黒褐色 シルト質粘土 軟 下限は判然～曖昧 ほぼ無遺物  
d層：灰褐色～褐灰色 粘土質シルト 軟 下限は判然 分布広く連続性よい 無遺物  
Ⅱ-3 a層：黒褐色～暗褐色 細～中礫混じり粘土質シルト（礫はe層のものと同一） 軟 下限は判然 調査区の全域に分布する ほぼ無遺物  
e層：黄褐色 細～中礫混じりシルト 軟 下限は判然 広い範囲に分布するがごく不連続 Ta-c<sub>2</sub>層のものに似た岩片に富む 無遺物  
Ⅱ-3 b層：黒褐色～暗褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 調査区全域に分布する おもに縄文中期の遺物を検出  
Ⅱ-3 c層：暗褐色 粘土質シルト 軟 下限は判然 比較的連続性よいが範囲が限られる ほぼ無遺物  
f層：黄橙色～灰黄褐色 粘土質シルト 下限は判然 比較的連続性よいが範囲が限られる 腐植の多い部分と少ない部分に細分することもできるがともに一連の堆積物とみられる 火山ガラスに富み植苗層に対比される可能性がある 無遺物  
Ⅱ-4 a層：暗褐色（Ⅱ-3 b層より明） 粘土質シルト 軟 下限は判然 調査区の全域に分布する 主に縄文早期の遺構・遺物を検出  
Ⅱ-4 b層：灰黄褐色（明暗の土壌がいきりまじる） シルト質粘土 軟 下限は漸移的 全域に分布 稀に縄文早期の遺物を検出  
Ⅲ層：黄橙色 粘土質シルト やや堅 下限は判然～曖昧

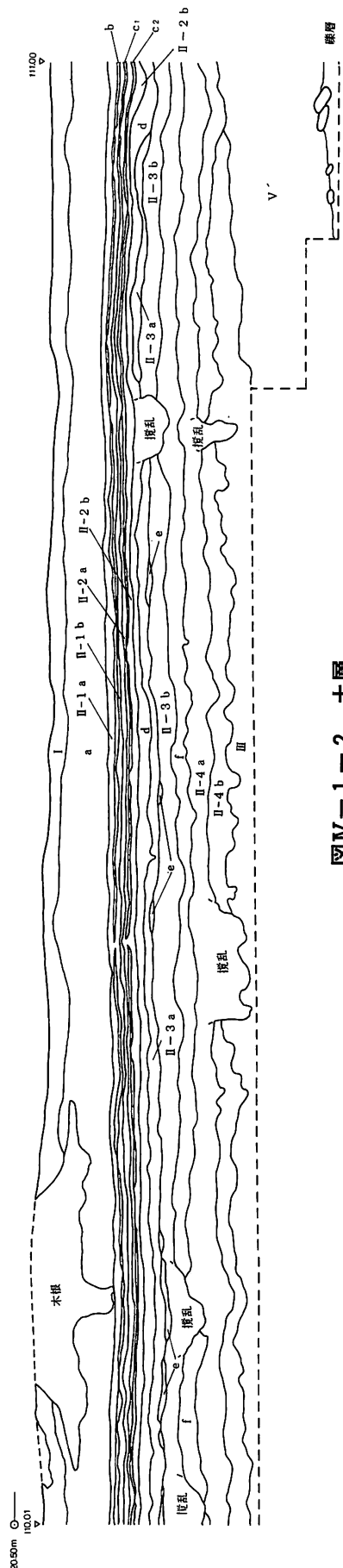
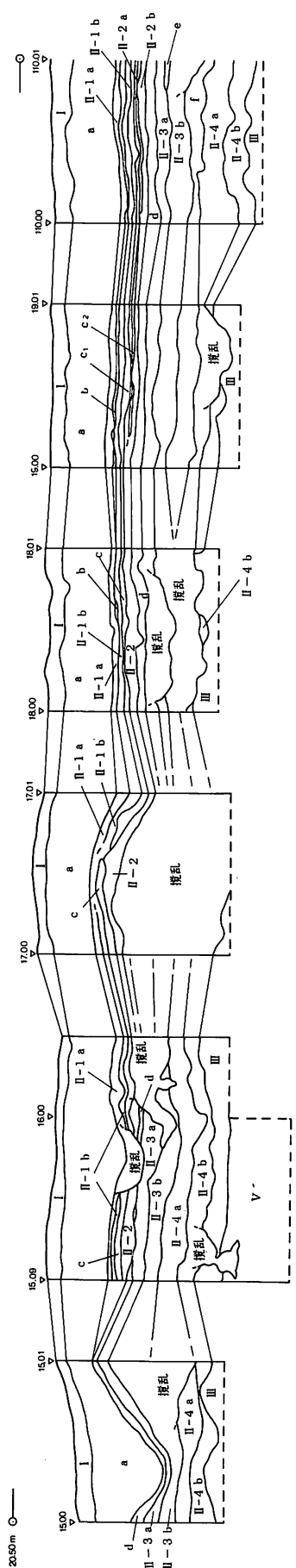
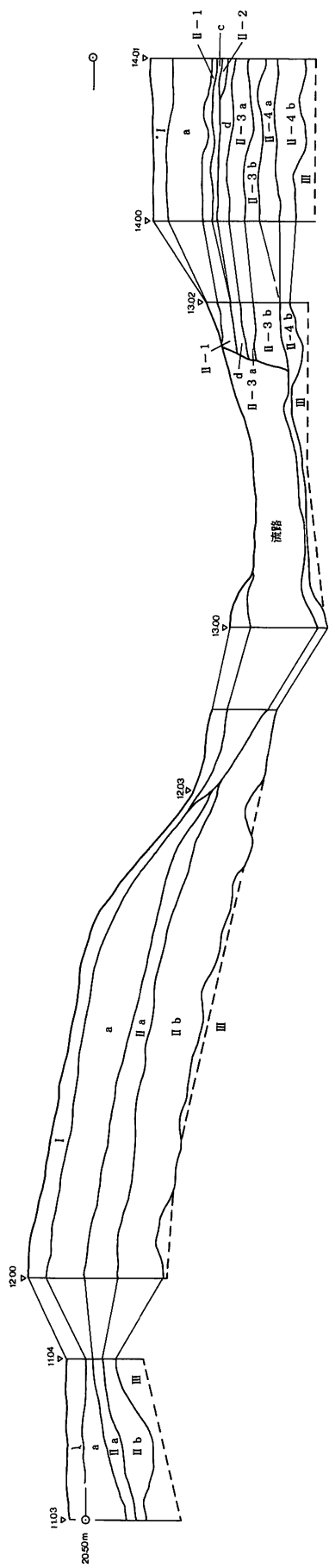
なおb・c 1・c 2層は土質、色調が類似しており、この3層が明瞭に累重していない場所ではⅡ-1 a・b、Ⅱ-2 a・b各層の識別が困難であった。この場合その位置で認められる黄橙色粘土質シルトをc層と呼び、より上位の旧表土をⅡ-1層、下位をⅡ-2層として扱った。

間層のうちb・c 1・c 2層は降下火山灰とは考えがたいこと、またe層がTa-c<sub>2</sub>（曾谷・佐藤1980）層に、さらにf層が植苗層（同前書）に対比される可能性があることについて花岡正光の教示を受けた（本章5節「まとめ」を参照）。d層はその層位と野外での外見からB-Tm火山灰に似ていると考えたが、火山ガラスに乏しいことなどから花岡により否定された。

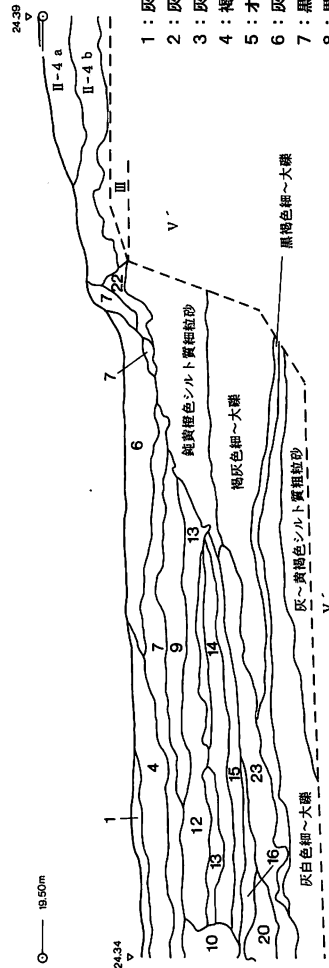
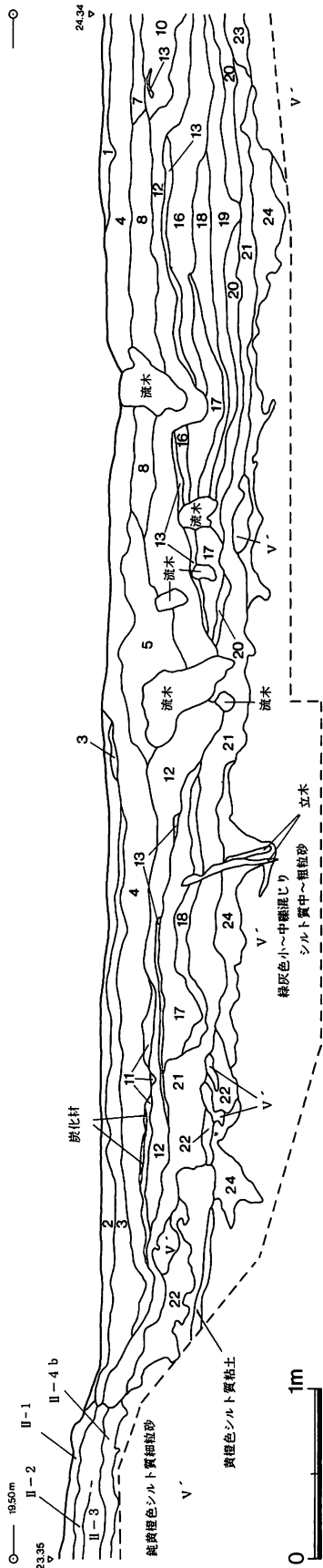
B地区およびユカンボシE 4遺跡でⅢ層の下に堆積しているⅣ層（黄褐色中～細粒砂混じり粘土）Ⅴ層（細礫混じり極粗～粗粒砂と軽石礫）は確認されていない。Ⅲ層より下には砂を主として円礫層を挟む堆積が認められ、その下部にはB地区・E 4遺跡のⅤ層に見るような軽石礫の風化したものが含まれる。これらの堆積物を一括してⅤ'層と呼ぶことにした。Ⅴ'層はおそらくトイソ川あるいはユカンボシ川の旧氾濫原の堆積物で、その上面は小規模ながらB地区・E 4遺跡の位置する面よりも新しい段丘面に当たるものと思われるが、詳しい検討をおこなっていない。調査区南端の流路を境に50cmほどの段差があり、これが新旧の段丘面の間段丘崖に当たる可能性がある。

**低湿度の層序** 調査区の南東側にトイソ川の旧河道に連なる低地の湾入が2カ所以上認められる。ほぼ全体が地下水面上にあり、植物遺体の保存がよい。このうち1ヵ所の断面図を示した（図Ⅳ-1-3）。下位（18～24層）には腐植質の暗色粘土と明色シルトの互層がみられ、暗色粘土層から縄文後期土器などの遺物が出土する。上位（1～17層）では湾入の縁辺部を除いて粘土が主体である。

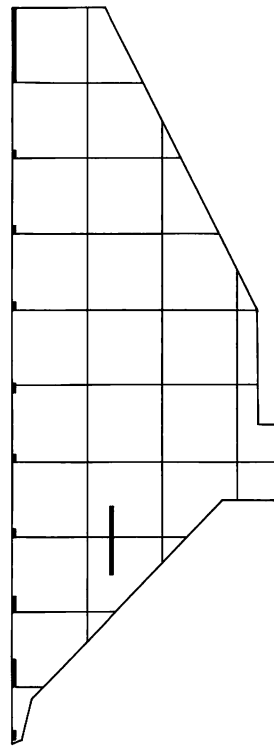
上位の堆積物の中にみられる灰白色の粘土層（11・13層、一部で炭化物を伴う）が基本層序のb・c層に対応するとすれば、湾入内が安定した水面になった時期は比較的新しく、d層の形成より後になる可能性が高い。下位の堆積の年代は出土遺物から推定できるが、遺物の原位置には問題がある。



圖IV-1-2 土層

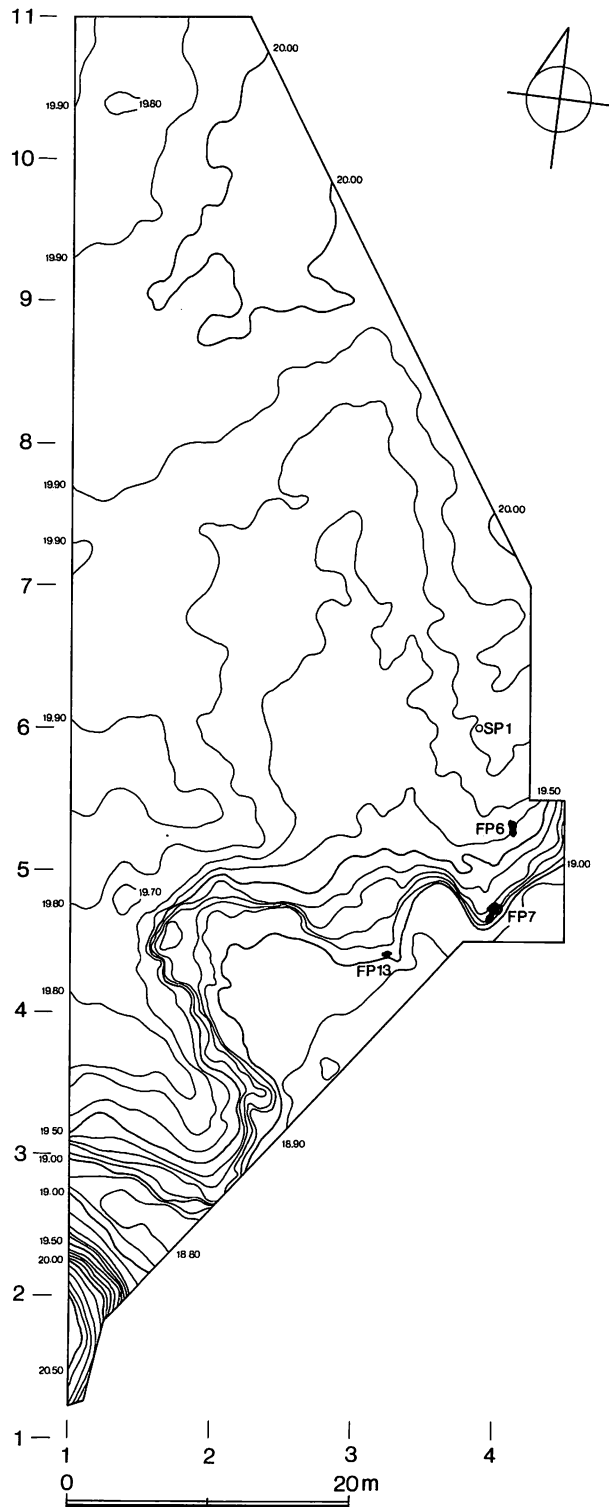


- 1: 灰褐色 (7.5YR4/2) シルト質粘土 草根・植物遺体多い
- 2: 灰色 (5Y4/1) シルト質粘土 植物遺体多い
- 3: 灰色 (5Y4/1) 細粒砂質粘土 砂はV'層起源か 植物遺体多い
- 4: 褐灰色 (7.5YR4/1) シルト質粘土 植物遺体多い
- 5: オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト質粘土 植物遺体多い、特に流木目立つ
- 6: 灰色 (5Y4/1) 細粒砂質シルト～粘土 植物遺体多い
- 7: 黒褐色 (7.5YR3/1) 細粒砂～シルト質粘土 植物遺体多い
- 8: 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂～シルト質粘土 植物遺体多い
- 9: 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質細粒砂 砂はV'層起源か 植物遺体やや多い
- 10: 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂～シルト質粘土 植物遺体多い 倒木痕か
- 11: 灰色 (5Y4/1) 細粒砂～シルト質粘土 V'塊を含む 植物遺体少ない
- 12: 褐灰色 (10YR4/1) シルト質粘土 植物遺体多い
- 13: 灰白色 (10YR6/2) 粘土 植物遺体少ない
- 14: 灰色 (5Y4/1) 細粒砂質シルト～粘土 植物遺体やや多い
- 15: 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト～粘土質細粒砂 砂はV'層起源か 植物遺体少ない
- 16: 灰色 (5Y4/1) 細粒砂質シルト～粘土 植物遺体非常に多い
- 17: 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂～シルト質粘土 植物遺体やや多い
- 18: 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 細粒混じり細粒砂質シルト 植物遺体少ない
- 19: 黒褐色 (10YR2.5/1) 細粒混じり細粒砂～シルト質粘土 植物遺体少ない
- 20: 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 細粒砂質シルト～粘土 植物遺体やや多い
- 21: 黒褐色 (10YR2.5/1) 細粒砂質シルト 砂を含む 植物遺体少ない
- 22: 黒褐色 (10YR2.5/1) ～純黄褐色 (7YR6/2) シルト質粘土 (腐植土) とV'塊の混合 植物遺体少ない
- 23: 褐灰色 (10YR4/1) 中～細粒混じり細粒砂質シルト 植物遺体なし
- 24: 褐灰色 (10YR4/1) シルト質細粒砂 V'層に腐植のしみこんだもの



図IV-1-2 及び図IV-1-3の実測位置

図IV-1-3 低温地土層断面図



図Ⅳ-2-1 II-1層の遺構位置図

## 2 II-1層の遺構と遺物

### II-1・2層上面の地形

Ta-a火山灰を除去した段階の地形は、地表で観察されるものと大差がない。調査区の大部分は標高19.6~20mの弱い起伏をもつ段丘面で、南東側に旧トイソ川の侵触によるとみられる湾入部がある。水成の堆積物で埋積された湾入部の内部は標高19m弱で非常に平坦であり、段丘面との境は狭い斜面ないし崖面となる。南西端には小さい流路を隔てて、標高20mを超えるより高位の段丘面の端が調査区に含まれている。この流路は現在、機能しているが、Ta-a火山灰の降下前にも存在していたかどうか不明である。

### II-1層の遺構

II-1層では小土壙1基、炭化物の集地点3ヵ所が確認された。このほかに低地部の堆積の上位で炭化物の集地点が1ヵ所検出されており、不確実ながらII-2層より新しいものの可能性が高いので、II-1層の遺構とあわせて記載することにした。遺構はいずれもII-1層の人力調査を行った発掘区南部で確認したものである。



### 1) 小土壌

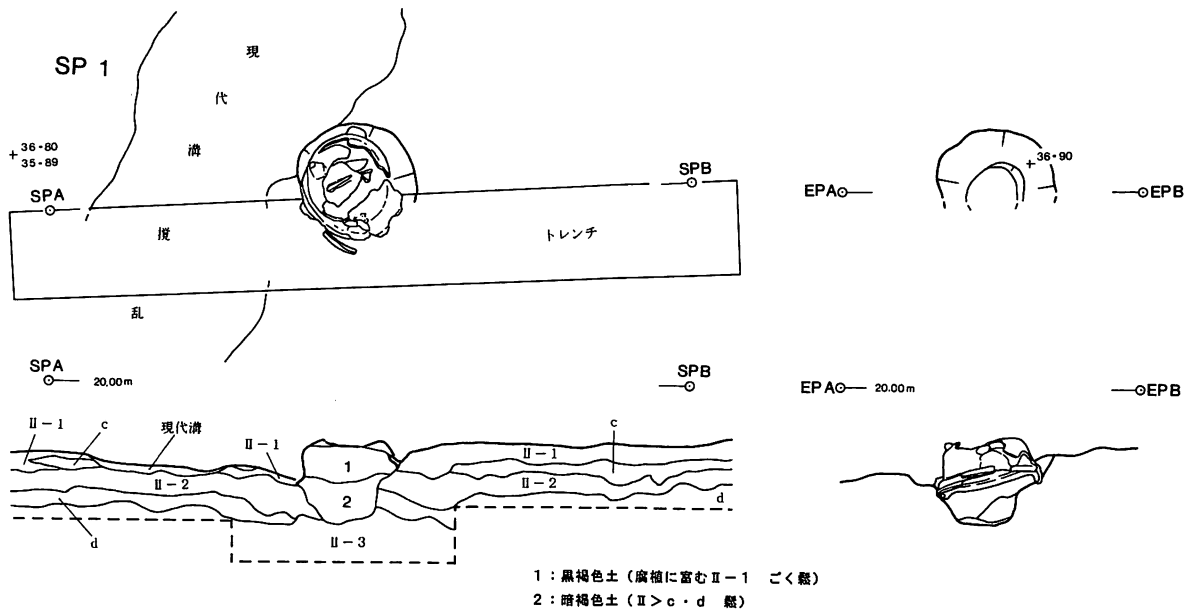
SP-1 確認面での径32cm、底径14cm、深さ16cm。

3・5-89区に位置する。II-1層上面の調査中に底を上にして半ば埋没した鉄鍋を認め、これを断ち割る形で試掘溝を設けて精査したところ鍋の直下に小さな土壌を確認した。平面形はほぼ円形と思われる、底面・壁面ともあまり整った堀方ではない。覆土は締まりに乏しく、特にその上部(1層)は鍋の破損後に流入したものとみられる。おそらく小穴に蓋をするように鍋を倒置したもので、当初は遺構内に覆土のない空間があったと想像される。鍋の復元中に別個体の破片が2点混在していることに気付いた。本来どの位置にあったか記録がないが、復元個体とともに穴の上位にあったことは確かだ、あるいは復元個体の破損部を塞ぐように使われていたかとも思われる。

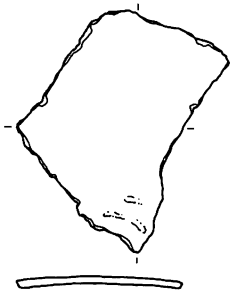
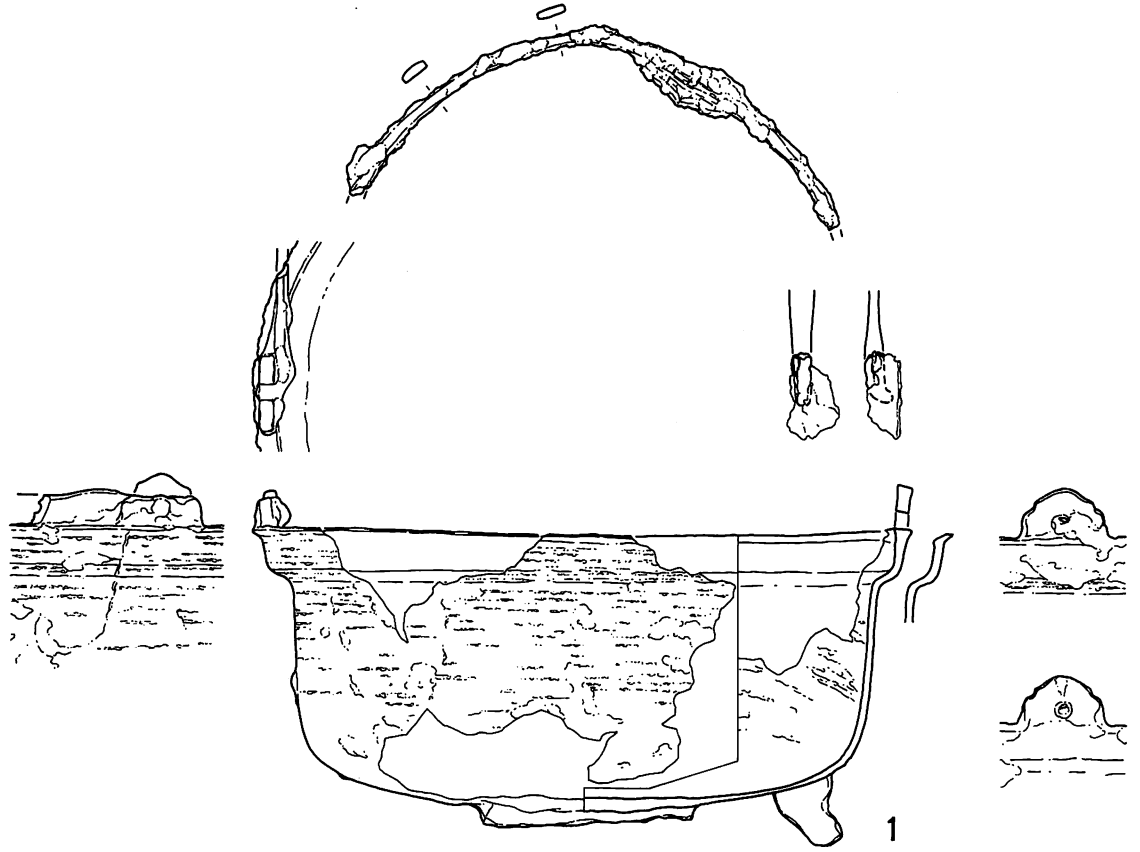
復元された鉄鍋(図IV-2-3)は口径約26.3cm、深さ10.5cm、脚から耳までの高さ14.3cmを測る比較的小型のもの。花卉状の吊耳一对と三脚がつき、口縁部と胴部の境に蓋受けの段があり、一文字湯口を備える。内部はほとんど腐蝕していない。外面の口縁部と胴部には木製の基型を回した痕、内面には内型を削った痕らしいものが見られる。脚は獣脚状の特徴あるもので、脚部の内面に湯冷えによる窪みが全く認められないことから、あるいは別鑄の脚を鑄付けしたものではないかとも思われる。底部と胴部の境付近に、脚の型(あるいは脚そのもの)を外型に埋め込んだ痕跡らしいものがあり、ここでみると脚の周囲は砂ではなく、真土のようなきめ細かいものである。耳孔は各1か所。鉉は鍛造で、口縁に沿って倒した状態で両端が耳に鑄着していた。幅広い方の面が炉鉤にあたる形の鉉で、端部は捻らずに断面を丸く作る。遺跡出土の吊耳鉄鍋で一文字湯口のは管見の範囲では他に例がなく、年代・産地についても現在のところ不明である。

図IV-2-2・3は上記の個体より大型の鍋か釜の破片で同一個体かと思われるもの。やはり外面には木製基型の痕があり、内部は全くと言ってよいほど腐蝕していない。

覆土中にはTa-a軽石がほとんど認められないので、火山灰の降下以前にSP-1の埋没が完了していたものと判断できる。一応1739年以前の遺構とみられるが、出土鉄製品の劣化が軽微なのが疑問である。遺構の性格も不明であるが、覆土及び遺構底面のII-3層を採取して残存脂肪分析を依頼しており、現在分析の結果を検討中である。



図IV-2-2 SP-1



2



3

0 10cm

图IV-2-3 铁锅

## 2) 炭化物の集中地点

3ヶ所確認された。いずれも旧河道に臨む段丘面の縁ないし氾濫原へ連なる斜面上に位置する。3ヶ所とも掘り込みを伴わない薄いもので、旧地表に形成されたことは分かるが、炭化物が現地性のものかどうか判断できない。炭化物の多くは木片と思われ、細かく砕けたもの(径2cm未満)が大半であった。

**FP-6** 長径120cm以上、短径70cm、厚さ2cm。

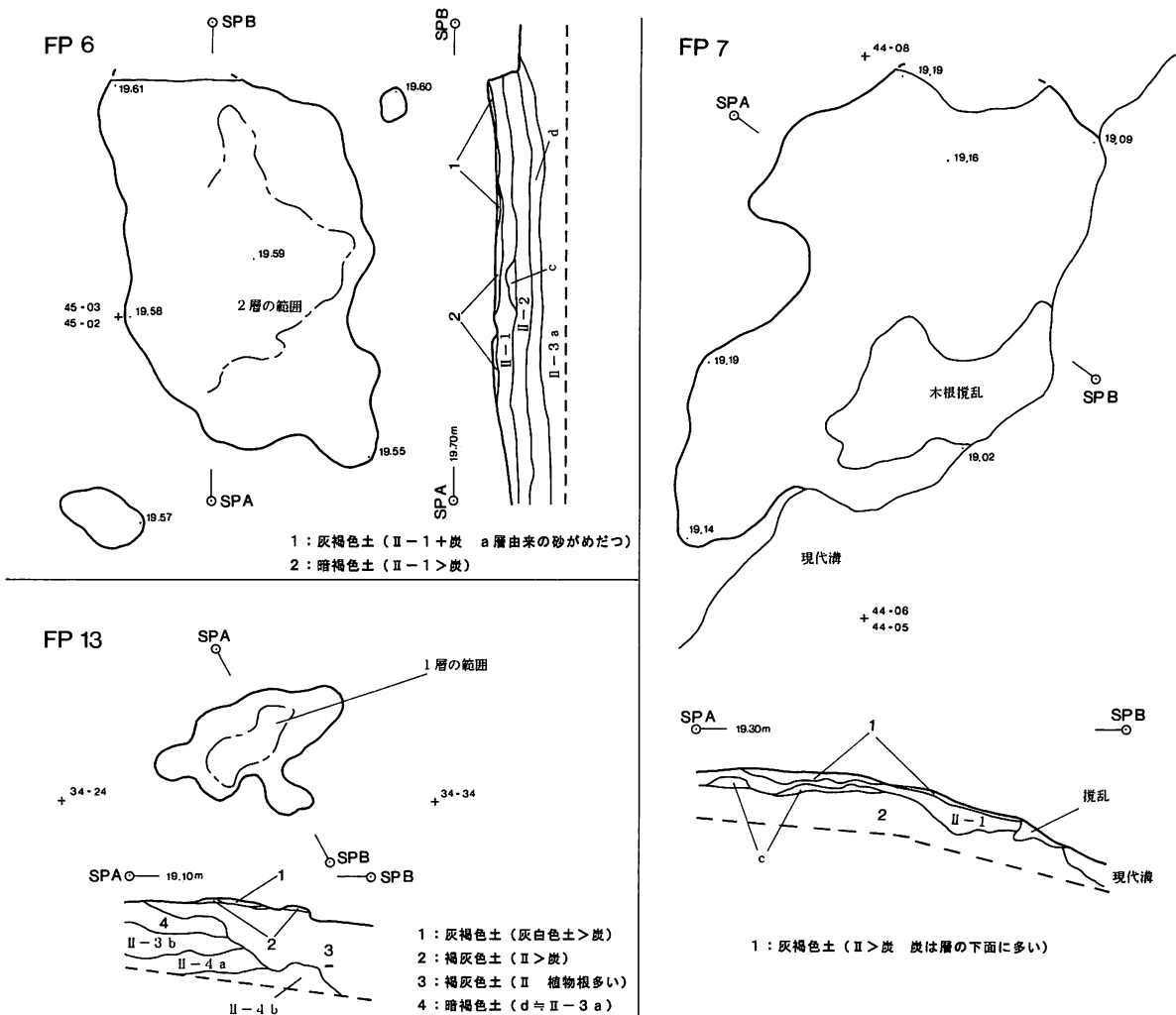
4・5-12区から13区にかけてa層の直下で確認。II-1層上面に炭化材片の集中があり(2層)、これを粒の細かいTa-a火山灰と炭化材片を交えた薄い層(1層)が覆う。遺物はない。Ta-a軽石降下にかかなり近い時期のものと思われる。

**FP-7** 長径155cm以上、短径80cm以上、厚さ3cm。

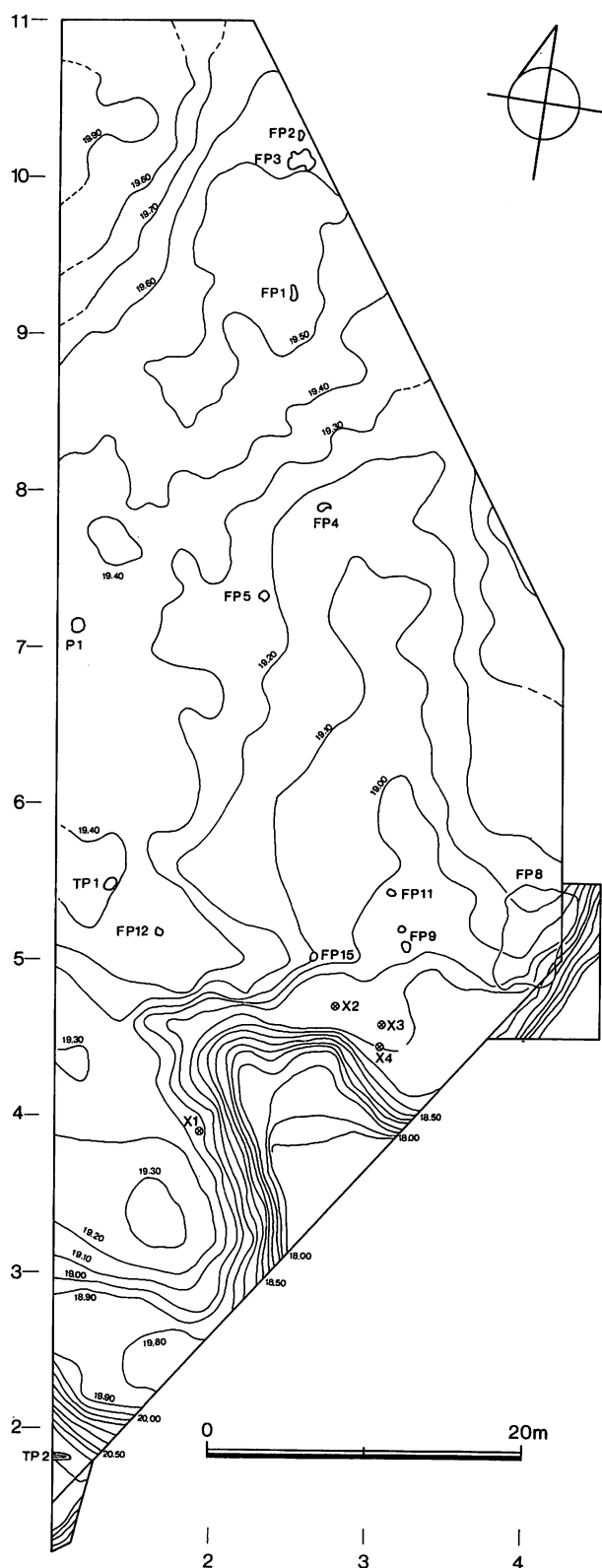
3・4-96区から4・4-06区にかけて確認したが、南東側は現代の溝や木根痕に攪乱されている。c1層とみられる黄橙色の粘土層より上位にあることは確実。炭化材片を交える層(1層)の直下に鈍い橙色のごく薄い土壌(焼土か)が観察されたが、これがb層に対応する可能性がある。遺物はない。

**FP-13** 長径54cm、短径36cm、厚さ1cm。

3・4-24区で確認。d層・II-3a層より新しい低地部の堆積物(3層)の上に形成され、中央部に灰らしいものを交える(2層)。遺物はない。



図IV-2-4 炭化物の集中地点



図Ⅳ-3-1 II-3・4層の遺構位置図

### 3 II-3・4層の遺構と遺物

II-3・4層からIII層上面にかけて土壌1基、Tピット2基、焼土4ヶ所、炭化物の集中地点4ヶ所が確認された。人為的なものかどうか疑問を残す焼土、炭化物の集中地点を別にすると、遺構は調査区の南西部に偏って分布している。

II-3層と4層は調査区北半部では明瞭に分層できるが、南に寄るほど薄くなり判別が困難であった。II-4層からは縄文時代早期の遺物、II-3層では早期のものとともに、わずかではあるが中期や後期の遺物が出土する傾向があった。しかし、両層出土のもので接合する土器、石器が多数確認されたことから、同一層位として取り扱うこととした。

II-3層で確認された遺構は、調査区南東隅にある規模の大きい焼土と炭化物の集中それぞれ1ヶ所があるのみで、しかも前述のように層位に多少疑問がある。

#### 1) 土壌

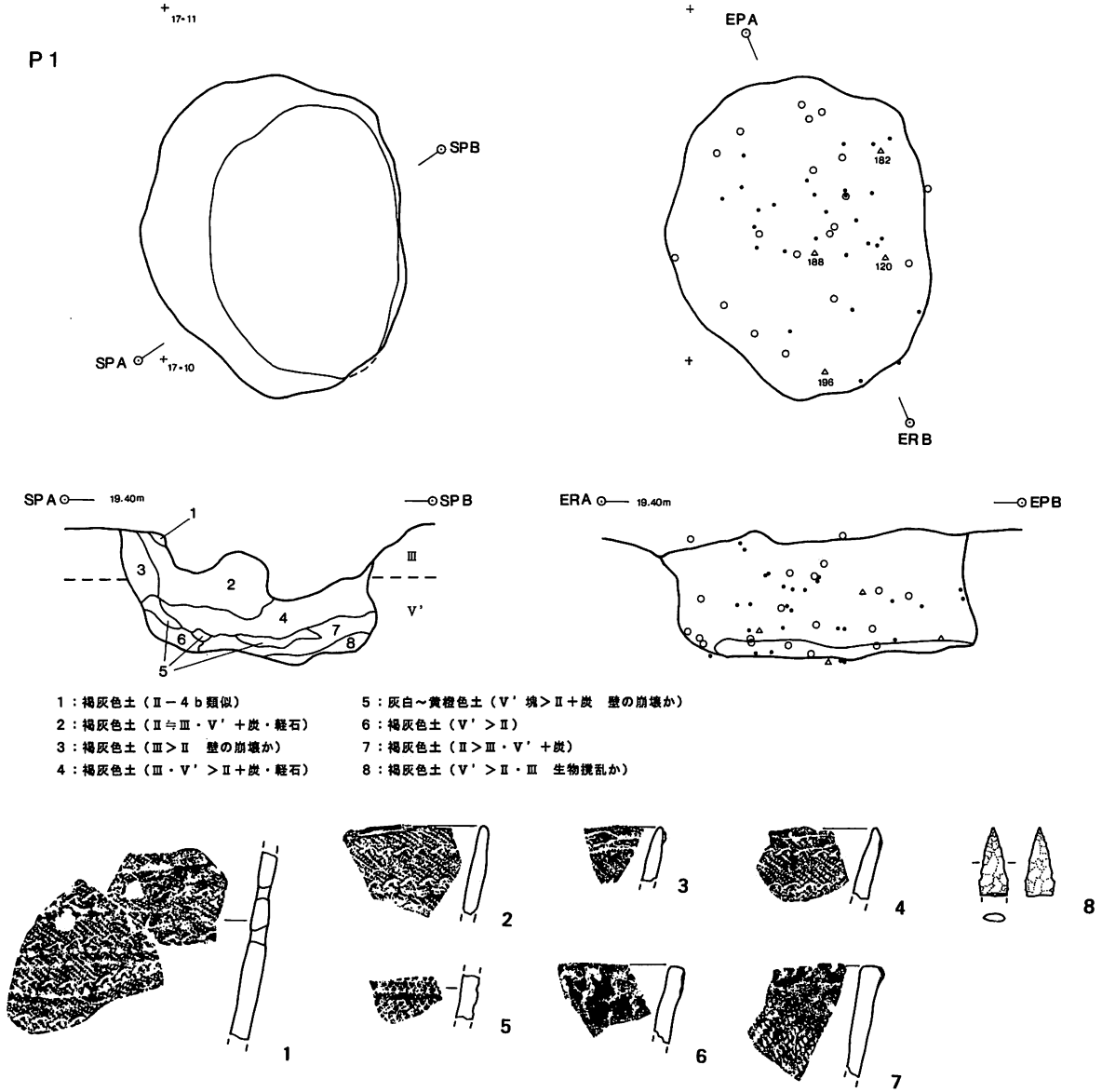
P-1 確認面での長さ93cm、幅75cm/底面の長さ78cm、幅55cm/深さ35cm。

1・7区の南西隅で確認。II層の調査を終えてIII層上面に認められる不整形の腐植土落ちこみを掘り上げたところ、その下位に整った平面形をもつ遺構が認められた。

平面形は楕円形、底面では概ね南北方向に長軸をもつ。底面はほぼ水平だが細かい凹凸が目立つ。壁面は垂直に近く、東側ではオーバーハングしている。北西側の壁面はより緩やかだが、これは崩壊の結果らしい。底部には腐植がちの覆土(7層)があり、これを覆って壁面の崩壊土とみられる5層が北西側に偏って形成される。上部にはロームがちの褐灰色土(2~4層)が堆積するが、これにはV層下部由来とみられる軽石を含み、別の深い遺構からの排土が流入している可能性を示す。

覆土からは土器32点と黒曜石製遺物41点が出土しており、特に底面に近い7層では同一個体とみられる中茶路式土器16点・石鏃1点・UF 1点などを検出した。石鏃は黒曜石製、基部を欠損しているが柳葉形のとみられる。焼けたものか、光沢がない。

出土遺物から縄文時代早期末の遺構と考えられる。性格が不明であるが規模と形状から考えて土壌墓の可能性もある。



図IV-3-2 P-1

## 2) 集石

調査区南東端のII-4層にて、旧トイソ川の湾入部をとり囲むように、それぞれ小さな範囲にまとまった礫群が4ヵ所検出された。石の形態は円礫、亜円礫などで、安山岩と凝灰岩のものが混在しており、割れた石も多い。焼けた痕跡を残すものが多く、なかには炭化物が付着しているものもある。火熱をうけて剥がれたものとみられる石の破片も混入している。個数は10数個から100個以上までのものがあり、集中の密度も様々だが、検出層位や形態から4ヵ所とも同種の遺構と推定される。

X-1 集中範囲の長径約45cm、短径約40cm

旧トイソ川湾入部西側の縁にちかいⅡ-4層上面にて検出した。ほかの3ヵ所に比べてすこし高い位置にある。100個以上の石が径50cm以内のほぼ円形の範囲に積み重ねられたようにまとまっており、その周辺にもいくつかの礫がみられる。中央部が少し高く盛り上げたような形になっているが、底面はほぼたいらである。礫は風化した凝灰岩が大半であるが、安山岩も混じっている。接合できたものは少ないが、凝灰岩は数個体の礫が割れたものの可能性がある。これらは火焼を受けて割れたものとみられるが、ほかの集石に比べて炭化物の付着が顕著であるものは少ない。安山岩は拳大の円礫で割れたものが多く、やはり火熱を受けたものとみられる。焼けた際に剥がれたものとみられる礫の破片も多く出土している。礫に混じって縄文時代早期の土器口縁部破片が1点出土した。下表には図Ⅳ-3-3にみられるものを記載したが、このほかにも数十個の礫片が出土している。

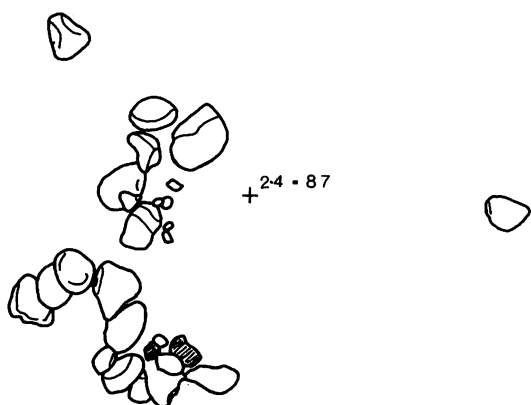
表Ⅳ-3-1 集石X-1

NO.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	遺物NO.	形態	備考
1	1・3-98	27.5	52.4	74.0	156.3	安山岩	545	長円礫 破片	
2		86.7	62.5	33.6	206.9	安山岩	546	長円礫	
3		50.0	58.8	30.0	87.5	凝灰岩	547	長円礫 破片	
4		190.2	88.8	63.6	1110.0	安山岩	548	円礫 破片	4点接合
5		62.5	64.0	31.6	124.3	凝灰岩	549	方割礫	
6		81.0	67.0	35.0	178.6	凝灰岩	550	長円礫 破片	炭化物が薄く付着
7		66.4	60.5	18.0	109.1	凝灰岩	553	亜円礫 破片	
8		47.6	33.0	16.4	19.2	凝灰岩	554	亜円礫 破片	
9		32.8	30.7	24.0	15.9	凝灰岩	555	破片	
10		67.2	42.0	25.0	45.6	凝灰岩	556	破片	
11		48.5	46.9	39.1	57.4	凝灰岩	557	亜円礫 破片	2点接合
12		34.5	40.8	34.0	43.9	凝灰岩	560	破片	
13		60.0	50.0	32.2	93.6	凝灰岩	563	方割礫	
14		45.6	33.5	17.6	14.4	凝灰岩	564	破片	
15		33.6	29.4	16.6	10.5	凝灰岩	565	破片	
16		75.0	54.0	30.5	109.0	凝灰岩	566	破片	
17		45.0	31.7	19.2	22.0	凝灰岩	567-1	破片	
18		27.1	33.0	23.8	17.1	凝灰岩	567-2	破片	
19		57.8	42.4	37.4	69.5	凝灰岩	570	破片	2点接合
20		75.8	35.0	47.0	149.2	凝灰岩	571	角礫	2点接合
21		37.5	21.2	20.5	12.1	凝灰岩	572	破片	
22		39.2	65.1	39.4	63.4	凝灰岩	581	方割礫	
23	1・3-99	72.6	48.0	18.0	77.4	凝灰岩	536	方割礫	
24		128.7	71.3	41.2	320.0	安山岩	538	亜円礫	2点接合
25		30.0	78.0	64.0	157.8	凝灰岩	541	円礫 破片	
26		45.0	48.0	37.6	82.4	安山岩	542	方割礫	
27		67.0	57.0	30.7	145.0	安山岩	543	円礫 破片	
28		73.0	51.0	30.0	133.9	安山岩	544	円礫 破片	
29		81.6	51.0	31.0	137.6	凝灰岩	551	亜円礫 破片	
30		62.4	50.6	23.5	69.5	凝灰岩	552	円礫 破片	
31		56.0	56.0	31.8	99.8	安山岩	574	亜円礫 破片	
32		132.5	97.0	45.5	378.9	凝灰岩	576	方割礫	2点接合
33		53.0	51.1	45.0	118.9	凝灰岩	577	方割礫	
34		70.0	48.2	25.8	85.5	凝灰岩	578	亜円礫	
35		57.3	29.8	20.0	39.9	凝灰岩	580	亜円礫 破片	

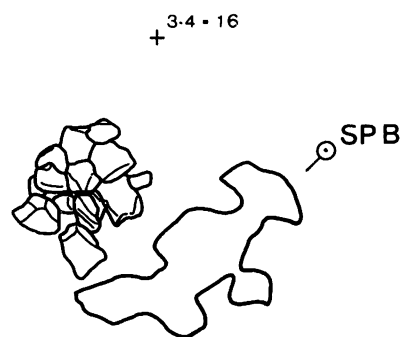
X1



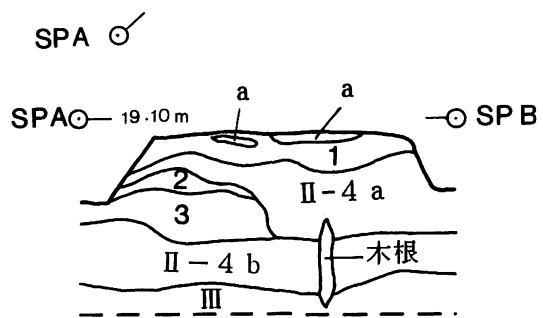
X2



X3



X4



- a : 暗赤褐色土 (きわめて薄い)
- 1 : 暗黄赤褐色土 (a+間層3)
- 2 : 褐色土 (II-4 a+間層3)
- 3 : 暗褐色土 (II-4 a+II-4 b)

図IV-3-3 集石 (縮尺 1:10)

X-2 集中範囲の長径約45cm、短径約30cm

旧トイソ川湾入部北側縁のⅡ-4層にて検出した。約20個の安山岩あるいは凝灰岩のおもに円礫がまとまっている。南端部の礫の上には炭化物がわずかに出土した。礫は焼けたものが多く、表面に黒く煤や炭化物が付着したのもみられる。また、焼けた際に割れたものとみられる礫の破片も多く混入していた。土器や石器は出土していない。

X-3 集中範囲の長径約20cm、短径約16cm

旧トイソ川湾入部北東縁にちかいⅡ-4層で検出。15個の安山岩と凝灰岩の礫が狭い範囲に積み上げられた状態で出土した。多くは円礫で、割れたものも入っている。半数ちかくの礫に焼けた痕跡があり、薄く炭化物が付着している。炭化物は礫表面と割れ口にも残っている。南西側に接するように焼土が検出されており、集石と合わせて一つの遺構を構成するものと推定される。集石中から、縄文時代早期の土器片が1点出土している。

X-4 集中範囲の長径約40cm、短径約45cm

旧トイソ川湾入部東側縁のⅡ-4層にて検出。26個の安山岩礫がまとまっているが、密度はほかの3ヵ所に比べるとまばらである。礫は凝灰岩が多く安山岩はわずかである。大半が焼けた痕跡をもち、表面あるいは表面と割れ口に黒く煤が付着しているのが認められる。焼けた際に剥がれたものとみられる破片も少し混入している。

表Ⅳ-3-2 集石X-2

NO.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	遺物NO.	形態	備考
1	2・4-77	77.0	50.3	43.0	211.5	安山岩	679	亜円礫	焼けている
2		60.0	50.5	25.2	88.1	凝灰岩	680	亜円礫	
3		65.8	47.4	17.8	43.3	凝灰岩	681	亜円礫	
4		97.3	48.6	25.2	111.9	凝灰岩	682	亜円礫	焼けた後、割れている
5		62.1	42.4	31.2	102.2	安山岩	683	亜円礫	
6		68.2	48.0	25.8	105.0	安山岩	687	亜円礫	焼けている 炭化物付着
7		53.0	51.1	36.0	122.5	安山岩	688	亜円礫	焼けている 炭化物付着
8		66.8	45.6	34.0	97.0	安山岩	689	亜円礫	焼けている 炭化物付着
9		73.6	59.3	22.8	87.5	凝灰岩	690	角礫	
10		67.0	47.0	30.6	115.2	安山岩	691	亜円礫	
11		46.5	39.7	10.8	14.9	凝灰岩	692	破片	
12		67.4	50.0	45.0	201.6	安山岩	693	亜円礫	焼けている
13		39.0	29.6	12.2	10.9	凝灰岩	694	破片	
14		54.3	40.0	14.3	21.9	安山岩	695	破片	
15		73.6	38.6	8.8	25.4	安山岩	697	破片	
16		38.0	56.3	40.0	73.2	安山岩	698	亜円礫	焼けている
17		48.0	45.8	21.8	58.0	安山岩	700	亜円礫	焼けている 全面に炭化物付着
18		58.0	25.4	13.8	12.4	凝灰岩	701	亜円礫	
19		70.4	58.0	30.0	106.6	凝灰岩	707	亜円礫	炭化物付着



表Ⅳ-3-3 集石X-3

NO.	グリッド	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石 質	遺物NO.	形態	備 考
1	3・4-05	26.4	39.0	31.9	30.9	安山岩	728	亜円礫	2点接合
2		42.7	35.3	31.0	32.8	安山岩	729	亜円礫 破片	
3		63.0	55.4	40.4	142.0	凝灰岩	730	亜円礫 破片	
4		52.0	38.5	31.0	67.0	凝灰岩	731	亜円礫 破片	
5		60.0	52.8	36.7	106.5	安山岩	732	亜円礫	
6		60.2	56.5	27.7	81.4	凝灰岩	734	亜円礫 破片	
7		52.3	46.2	23.0	45.8	安山岩	735	亜円礫 破片	
8		58.6	49.0	46.6	206.9	安山岩	736	亜円礫	焼けている
9		66.2	65.0	57.6	232.6	安山岩	776	亜円礫	割れた後、焼けている
10		86.4	38.8	37.1	138.8	凝灰岩	777	亜円礫	割れた後、焼けている
11		60.0	36.0	47.0	87.1	凝灰岩	778	角 礫	2点接合 焼けている
12		32.4	29.5	24.6	29.0	凝灰岩	779	角 礫	焼けている
13		65.0	46.4	35.5	91.2	凝灰岩	780	角 礫	
14		44.2	32.2	22.3	31.5	凝灰岩	781	破 片	3点接合 割れた後、焼けている
15		58.3	33.2	39.1	50.9	凝灰岩	783	亜円礫	割れた後、焼けている

表Ⅳ-3-4 集石X-4

NO.	グリッド	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石 質	遺物NO.	形態	備 考
1	3・4-04	64.2	33.6	16.3	34.5	凝灰岩	737	破 片	
2		30.0	24.5	17.8	13.8	凝灰岩	738	破 片	3点接合
3		52.3	58.1	44.2	147.2	凝灰岩	739	破 片	
4		30.0	25.0	17.0	9.2	凝灰岩	740	破 片	
5		53.0	69.1	41.0	179.6	安山岩	741	長円礫	割れた後、焼けている
6		73.3	46.4	30.5	115.2	安山岩	742	亜円礫	
7		32.4	29.0	11.0	8.7	安山岩	743	破 片	
8		53.5	44.1	39.0	91.6	凝灰岩	744	亜円礫	焼けている
9		57.0	57.1	22.7	55.6	凝灰岩	745	亜円礫	焼けている
10		34.1	20.9	12.8	5.8	凝灰岩	746	破 片	5点接合
11		33.2	22.0	8.6	5.2	凝灰岩	747	破 片	
12		26.0	23.0	10.0	5.2	凝灰岩	748	破 片	
13		29.4	35.2	14.3	10.4	凝灰岩	749	破 片	
14		63.0	42.1	15.6	31.4	凝灰岩	750	破 片	表面に炭化物付着
15		42.4	26.0	32.0	33.7	凝灰岩	751	破 片	焼けている
16		46.0	53.3	32.4	55.2	凝灰岩	752	亜円礫	2点接合
17		42.2	24.3	27.4	16.6	凝灰岩	753	亜円礫	焼けている
18		34.4	27.8	13.6	12.4	凝灰岩	754	亜円礫	
19		26.0	25.4	16.1	8.2	凝灰岩	755	破 片	
20		26.6	18.0	20.0	6.6	凝灰岩	756	破 片	
21		51.1	42.6	28.2	52.4	凝灰岩	758	亜円礫	焼けている
22		31.6	22.3	19.0	9.0	凝灰岩	759	破 片	
23		30.5	21.2	15.0	9.0	凝灰岩	760	破 片	
24		49.0	54.7	29.1	97.1	凝灰岩	761	亜円礫	割れた後、焼けている
25		56.7	54.6	31.0	124.2	凝灰岩	762	亜円礫	表面全体が焼けている
26		37.4	33.0	11.0	10.6	凝灰岩	763	破 片	

### 3) Tピット

Tピットは2基発掘された。いずれも調査区南西部にあるが、形状や長軸方向が異なり、標高も異なることから同一列に属するものとはみられない。

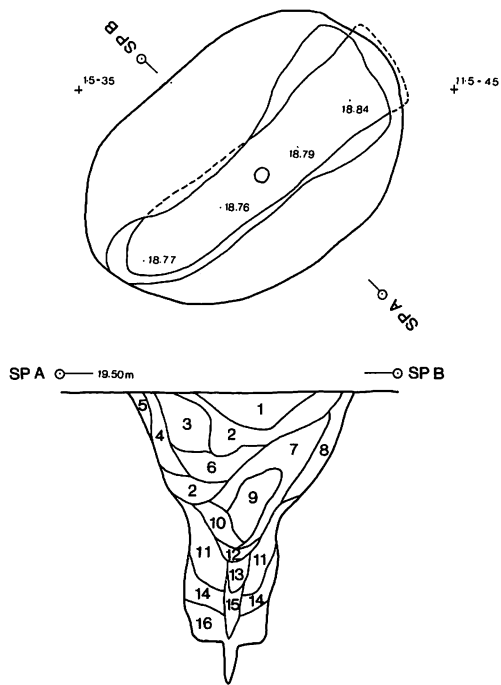
TP-1 長さ94cm、幅61cm、深さ77cm。

1・5-25・35区のII-4層下位で確認したが、堀込み面はさらに上部だったものとみられる。確認面では小判型を呈するが、壁が崩落したことによるものと推定され、断面をみると上半部が大きく開いている。堀底の平面形は北東端が広く角ばり、他端は尖っている。北東側の壁はオーバーハングしている。堀底中央に杭跡が1ヵ所あり、土層断面でも杭の痕跡がみとめられた。杭は太さ約5cm、先端が尖がり、長さは30cm以上あったことが分かる。覆土1層から土器の小片1点が出土したが、摩耗しており時期、形式等は不明である。

TP-2 確認した長さ114cm、幅45cm、深さ115cm

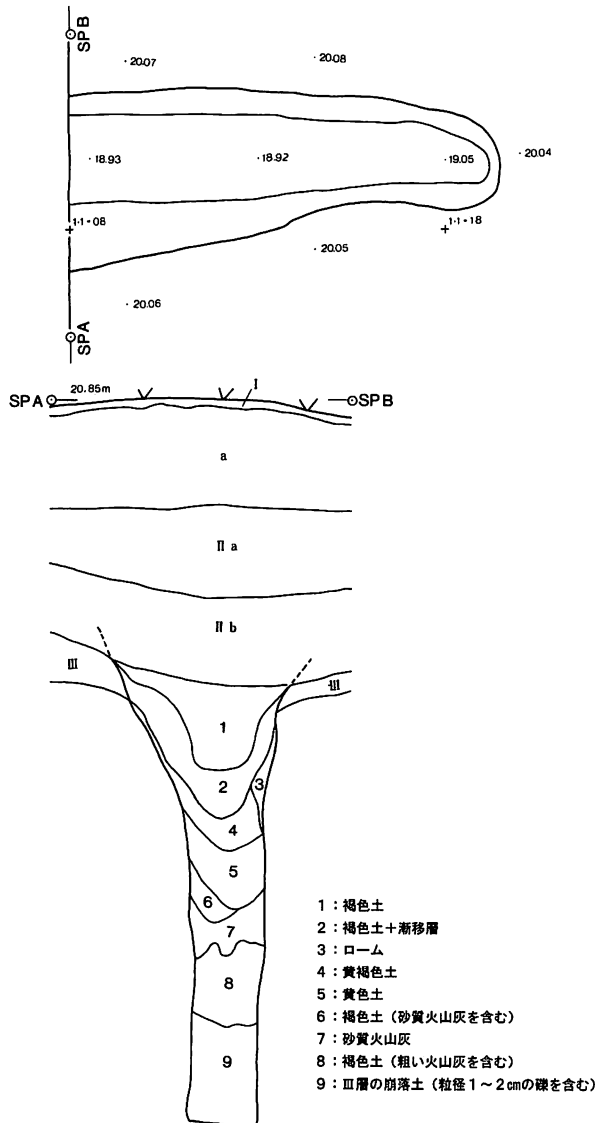
調査区西側を流れる小川によって区切られた南西端部の1・1-08区で確認した。この部分は

TP 1



- 1: 黒褐色土
- 2: 黒色土
- 3: 褐色土 (II>III)
- 4: 暗黄褐色土 (II+III)
- 5: " (II>III)
- 6: 暗褐色土 (II) IV)
- 7: 褐色土 (II>III、3よりIIが少ない)
- 8: 暗黄褐色土 (III+II)
- 9: 黒褐色土 (II>III)
- 10: 暗黄褐色土 (II>IV)
- 11: 黄褐色土 (IV>III)
- 12: 褐色土 (II=IV、締まりなし)
- 13: 暗黄褐色土 (IV+III、締まりなし)
- 14: 灰褐色土 (IV+II)
- 15: 黒色土、締まりなし
- 16: 漆黒土、粘性が強い

TP 2



- 1: 褐色土
- 2: 褐色土+漸移層
- 3: ローム
- 4: 黄褐色土
- 5: 黄色土
- 6: 褐色土 (砂質火山灰を含む)
- 7: 砂質火山灰
- 8: 褐色土 (粗い火山灰を含む)
- 9: III層の崩落土 (粒径1~2cmの礫を含む)

図IV-3-4 Tピット

調査区の大部分をしめる北東部よりも高く、B地区の標高にちかい。確認した長さは1 mあまり、西端部は調査区外にある。全体の長さは1.5 mくらいあるものと考えられる。壙底の幅は約20 cm、上部はわずかに崩落しているが土層断面をみると壙底にIV層の崩落土が堆積しており、構築時には壙口から壙底まで同じくらいの幅だったものと推定される。壙底の東端がわずかに高くなっている。

#### 4) 焼土および炭化物の集中地点

9ヶ所確認された。下位と周囲に不整形の落ち込みを伴うものが大半で、層位的に問題が多い。また遺物を伴った例もなく、時期の決定は困難であった。調査区の全域に散在しており、南西部に集まる傾向はない。

**FP-1** 長さ107 cm、幅34 cm、厚さ13 cm。

2・9-52区で確認。橙色の焼土(2層)の周囲に炭化物を含む腐植質土(1・3層)が分布する。遺物はない。2・9-32区付近を中心とする倒木痕とみられる落ち込みの端に位置し、攪乱を受けている可能性が高い。同じ落ち込みの他の部分からも炭化材が検出されている。

**FP-2** 長さ66 cm、幅25 cm、厚さ8 cm。

2・10-52区で確認。FP-1に似て細長く形成された焼土(1層)の周囲に炭化物を含む腐植質土(2層)、さらに下位には周囲のII-4層より暗色の落ち込みが伴う(3層)。遺物はない。

**FP-3** 長さ172 cm以上、幅143 cm、厚さ15 cm。

2・10-40区から51区にかけて確認。FP-1・2同様、細長い焼土(1層)の周囲に炭化物を含む腐植質土(4層)が見られ、その中にやや大きな炭化材が散在する。東釧路Ⅲ式(?)土器3点が出土した。やはり不整形の落ち込みの中に位置するが、その下面が一部焼土化している(7層)ことからみて、この落ち込み自体樹木の株が焼けて陥没した跡ではないかと思われる。

Ⅲ層の上面で認められる落ち込みの形状と、炭化物の散布範囲とはかなりよく対応している

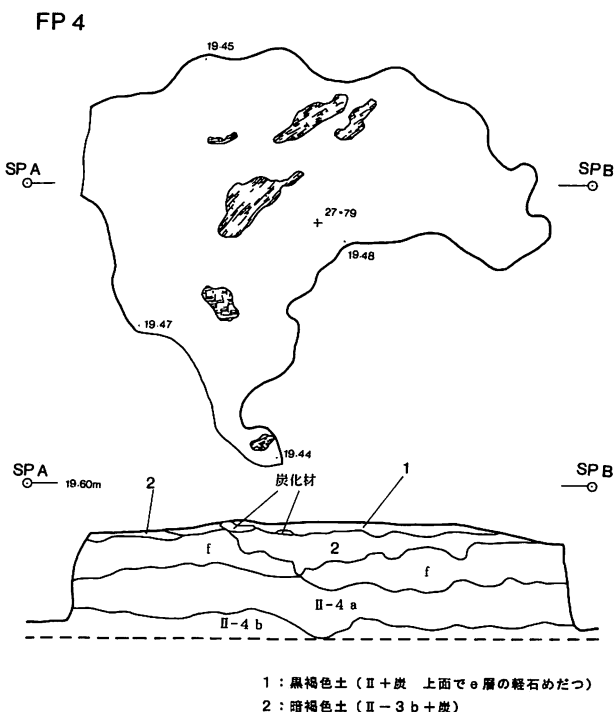
**FP-4** 長径125 cm以上、短径110 cm以上、厚さ4 cm。

2・7-68区から97区にかけてII-3 b層の下部で確認。比較的大きな炭化材を含む腐植土層(1層)の下位にII-3 b層が不整形に

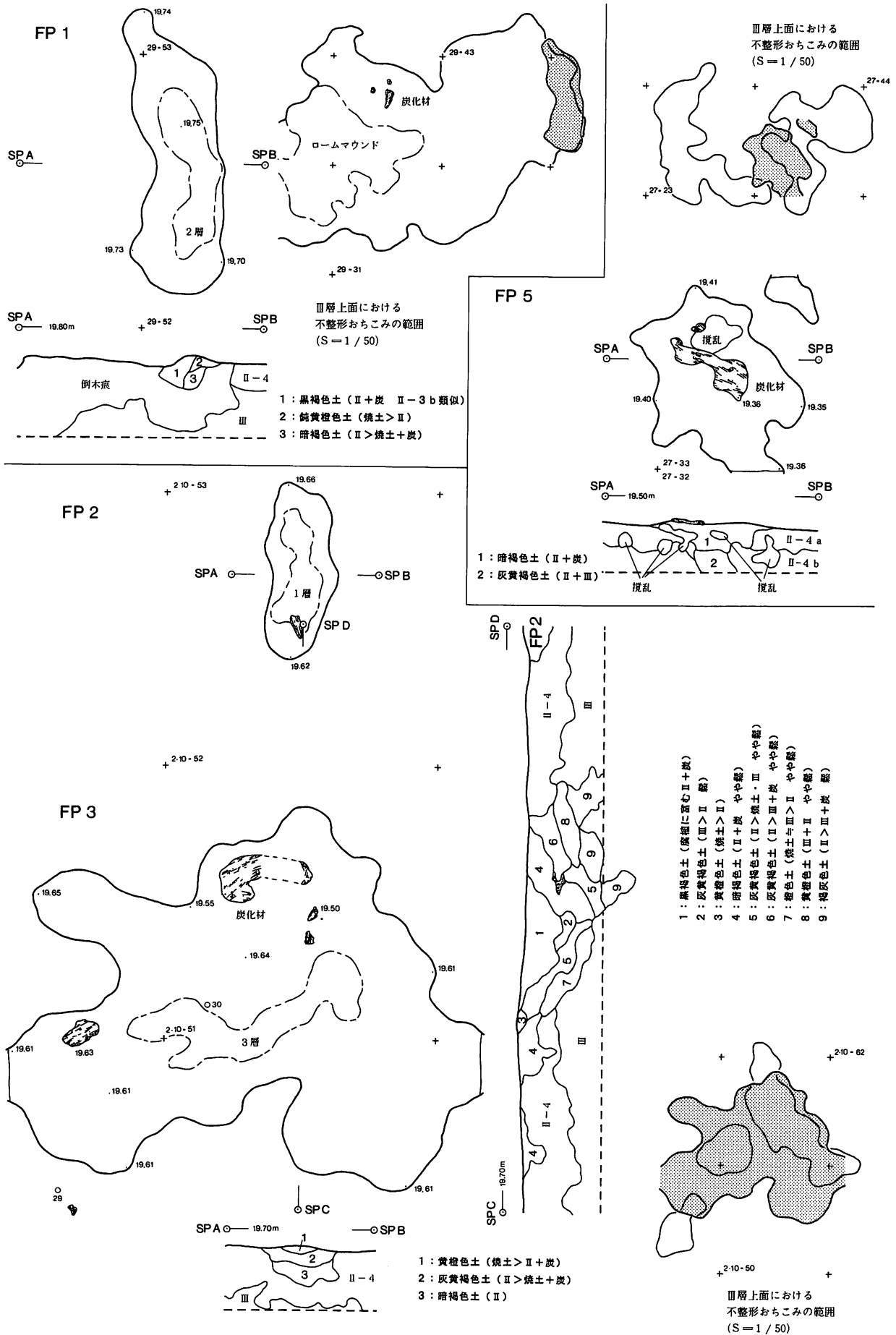
落ち込んでいる(2層)。遺物はない。検出面付近でe層のものと思われる軽石を認めたが、炭化材とは混在していない。輪郭・断面形とも出入りの多い不整形な形状であること、大きな炭化木の付近以外では炭化物の密度が低いことなどから、樹木の株が燃えた痕とも考えられる。f層とe層の間に形成されてはいるが、新しい攪乱である疑いを残す。

**FP-5** 長さ74 cm以上、幅58 cm、厚さ12 cm。

2・7-33区のII-4層上面付近で確認。ほぼ水平に横たわった薄い炭化材の周囲に材片を含む腐植質土(1層)が見られ、下位に不整形の落ち込みを伴う(2層)。FP-3などの焼土の周囲に形成



図Ⅳ-3-5 焼土(1)



図IV-3-6 焼土(2)

される炭化物を含んだ腐植質土層に似ている。遺物はない。

**FP-8** 長径396cm、幅256cm、厚さ10cm。

Ⅱ-3層の調査中に3・5区から4・5区にかけて焼土が広がり、調査範囲外へ続いているのを確認した。調査区を拡張して全体を検出し、平面・断面図の作成後小グリッドを単位として焼土を採取した。その一部について浮遊選別をおこなったが、検出された炭化物はわずかであった。

旧河道に臨む段丘面の縁に形成され、現状で段丘崖から3～5m程の奥行きがあるが南東側は焼土の形成後に侵蝕を受けているらしい。焼土は南東側で厚くなって4・5-11区付近では厚さ8～10cmの堆積がみられる一方、北東側ではやや薄くまた不連続になる。断面の観察からe層より下位にあることは確実である。焼土は均質な橙色の部分(3層)とその上の焼土混じりの腐植土(2層)に分かれ、一部ではⅡ-3b層の再堆積らしい腐植土(1層)に薄く覆われている。

Ⅱ-3b層上面よりは深い位置にあるが、人為的な掘り込みは確認されない。

調査中に確認できた遺物は礫3点とわずかであった。

遺構の年代はe層(晩期中葉のTa-c降下火山灰と推定)以前。Ⅱ-4層より上位にあるので一応縄文早期末より新しいものと判断される。ただ焼土の下ではⅡ-3b層が周囲よりやや深い位置で見られるのが疑問で、これは真のⅡ-3b層ではない(あるいはⅡ-4層が焼土の下で還元を受け暗色になったものか)可能性もある。従ってこの焼土はⅡ-4a層上面に形成された早期の遺構ではないかという疑いが残る。

**FP-9** 長さ47cm、幅36cm、厚さ11cm。

3・5-20区で確認、やはり不整な落ち込み(3・4層)の中に焼土(1・2層)が陥没した状況。炭化物は目立たなかった。北西側に隣接して小さな焼土が見られる。遺物はない。

**FP-11** 長さ49cm以上、幅30cm以上、厚さ6cm。

3・5-14区のⅡ-4層上面付近で確認。比較的薄く水平に広がり、旧地表か浅い掘り込みの中に形成されたものと思われる。炭化物は目立たなかった。遺物なし。

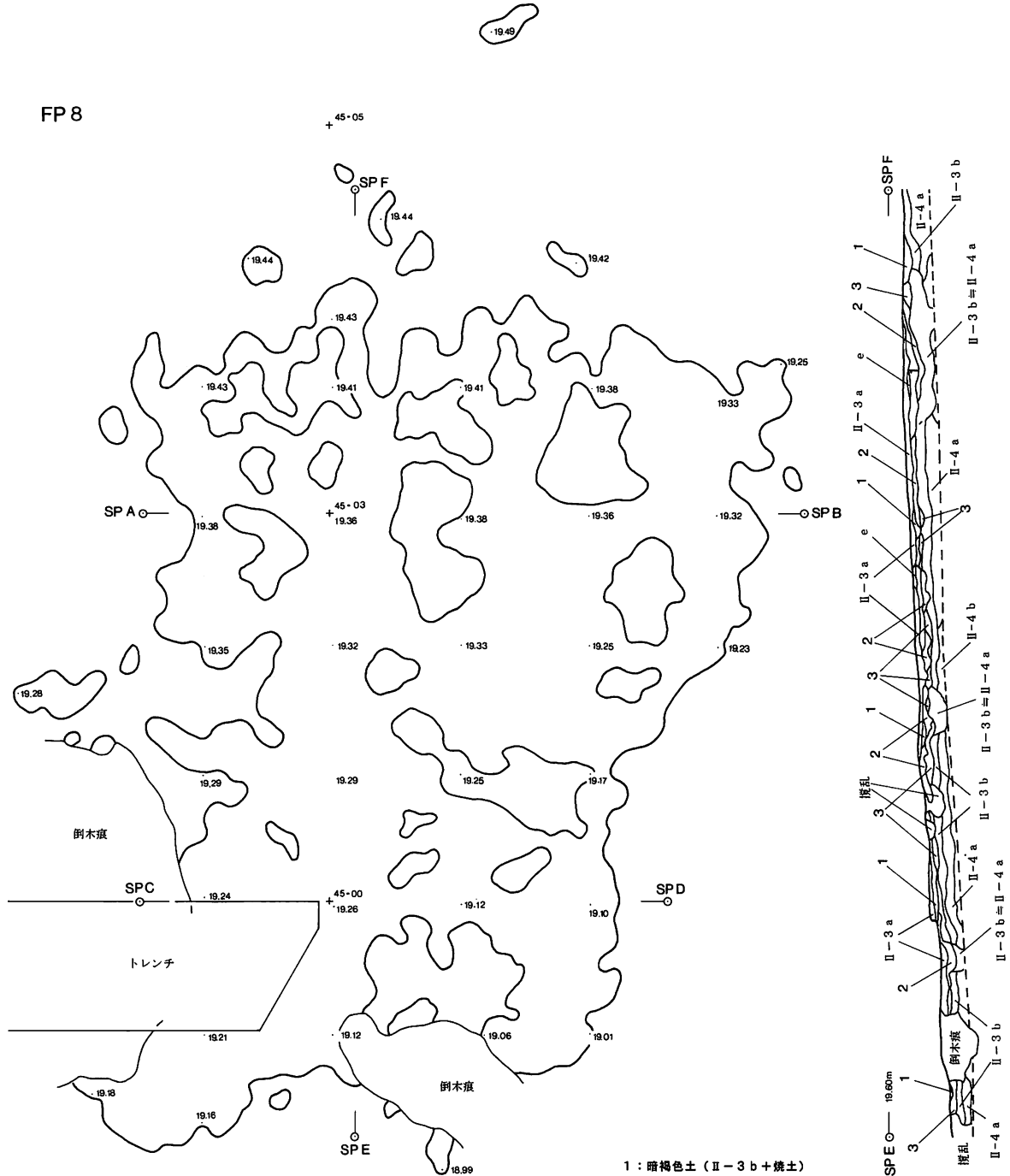
**FP-12** 長さ40cm、幅38cm、厚さ8cm。

1・5-61区付近のⅢ層上面で径1m余りの落ち込みを検出、半截して挿鉢状の不整な掘り方から自然のものであろうと判断したが、落ち込みの残り半分を掘り上げる際に焼土が確認された。落ち込みの底面からかなり浮いた位置に傾斜して形成されている。遺物はない。現地で焼けた形跡があるので(4層)、自然の窪みを利用した焚火などの跡と考えられる。

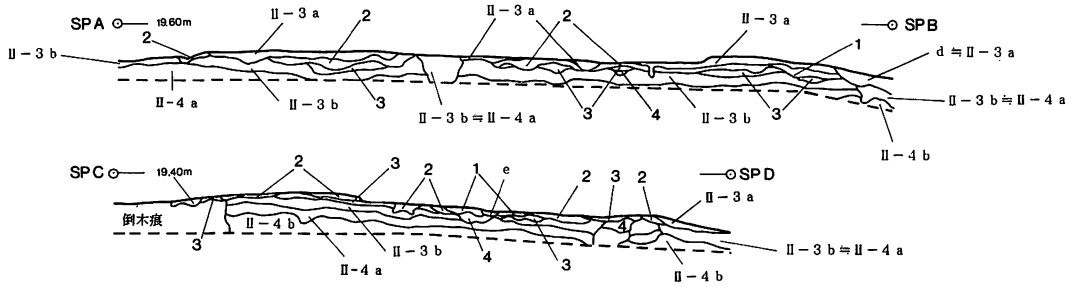
**FP-15** 長さ60cm、幅55cm

調査区南部の2・5-60区Ⅱ-4層にて検出。ほぼ水平に薄く広がっている。上面は赤褐色に焼け、堅く締まっている。遺物は伴っていない。

FP 8

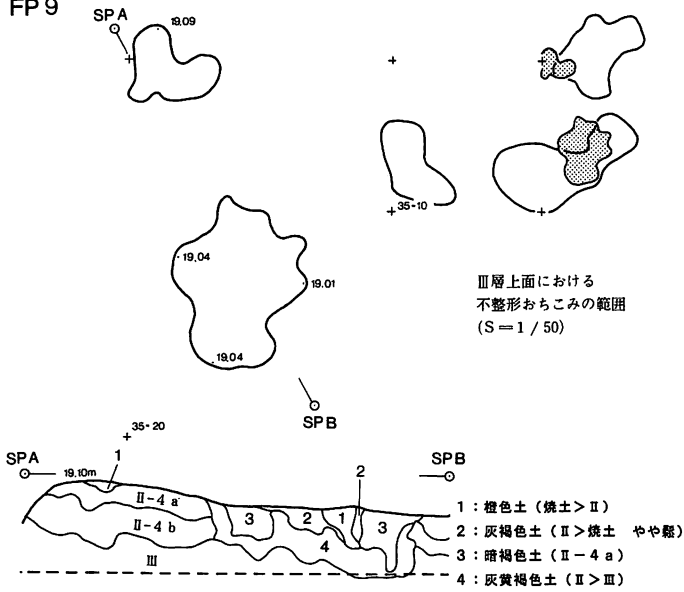


- 1 : 暗褐色土 (II-3 b + 焼土)
- 2 : 褐灰色土 (II > 焼土)
- 3 : 黄橙色土 (焼土 + II 炭は見られない)
- 4 : 褐灰色土 (II-3 b > 焼土 攪乱か)

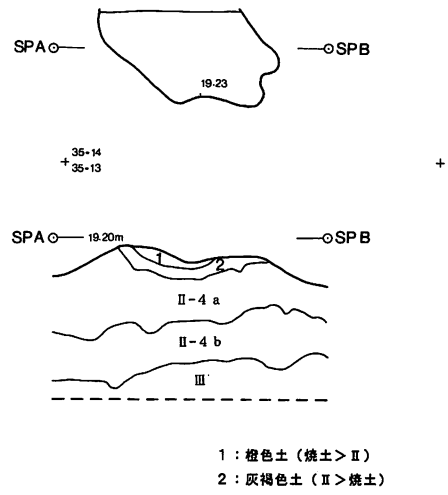


図Ⅳ-3-7 焼土(3)

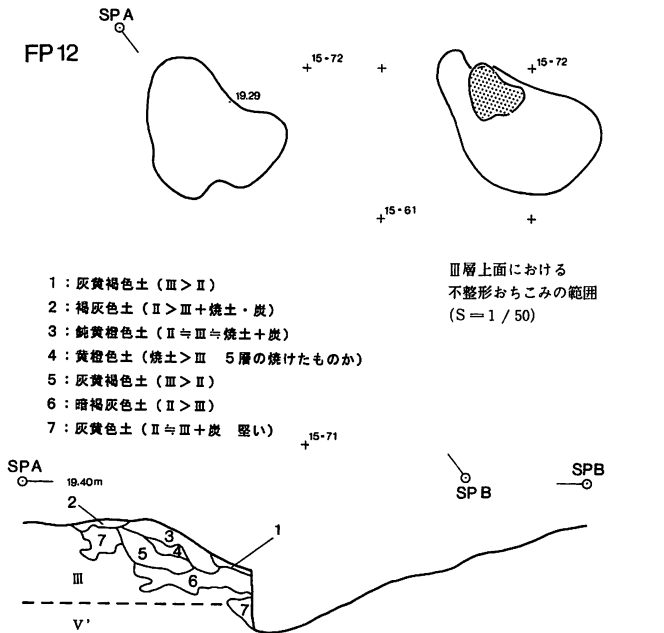
FP 9



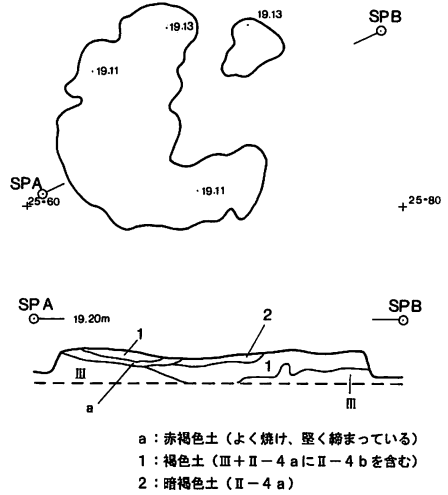
FP 11



FP 12



FP 15



図IV-3-8 焼土(4)

表Ⅳ-3-5 A地区遺構出土土器一覽

遺構名	東御路Ⅲ	コッタロ	中茶路	不明	合計
P-1	11	2	17	2	32
TP-1				1	1
FP-3	2				2
X-1	1				1
X-3	1				1
合計	15	2	17	3	37

表Ⅳ-3-6 P-1層位別・分類別出土土器一覽

層位	東御路Ⅲ	コッタロ	中茶路	不明	合計
覆土上部				2	2
覆土1	4				4
覆土2	5				5
覆土3	2	2			4
覆土5			1		1
覆土7			16		16
合計	11	2	17	2	32

表Ⅳ-3-7 P-1覆土7層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
1	1・7-11	胴部	2	中茶路	189	貼付帯, 綾絡文
—	1・7-11	口縁	1	中茶路	190	貼付帯
—	1・7-11	胴部	1	中茶路	191	貼付帯, 綾絡文
2	1・7-11	口縁	1	中茶路	193	貼付帯, 綾絡文
—	1・7-11	胴部	1	中茶路	194	摩耗
—	1・7-11	胴部	4	中茶路	196	接合, 貼付帯
—	1・7-11	胴部	1	中茶路	197	貼付帯, 細い縄文
—	1・7-11	口縁	1	中茶路	198	貼付帯, 細い縄文
3	1・7-11	口縁	4	中茶路	199	貼付帯, 細い縄文

表Ⅳ-3-8 P-1覆土5層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
4	1・7-11	口縁	4	中茶路	192	貼付帯, 綾絡文

表Ⅳ-3-9 P-1覆土3層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・7-01	胴部	1	東御路Ⅲ	184	縄端圧痕文
—	1・7-11	胴部	1	コッタロ	181	絡糸体圧痕文?
5	1・7-11	胴部	1	コッタロ	182	絡糸体圧痕文?
—	1・7-11	胴部	1	東御路Ⅲ	183	縄端圧痕文

表Ⅳ-3-10 P-1覆土2層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
6	1・7-11	口縁	4	東御路Ⅲ	179	縄端圧痕文
7	1・7-11	口縁	1	東御路Ⅲ	180	口唇に縄の押捺

表Ⅳ-3-11 P-1覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・7-11	口縁	4	東御路Ⅲ	178	縄端圧痕文

表Ⅳ-3-12 P-1覆土上部出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・7-11	胴部	2	不明	171	細片, 東御路Ⅲ?

表Ⅳ-3-13 TP-1覆土出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・5-29	胴部	1	不明	100	細片, 剥離

表Ⅳ-3-14 FP-3出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・10-50	胴部	1	東御路Ⅲ?	29	細片, 摩耗
8	2・10-51	胴部	2	東御路Ⅲ?	30	摩耗, 燃糸文?

表Ⅳ-3-15 X-1出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-99	口縁	1	東御路Ⅲ?	219	細片, 口唇に縄文

表Ⅳ-3-16 X-3出土土器一覽

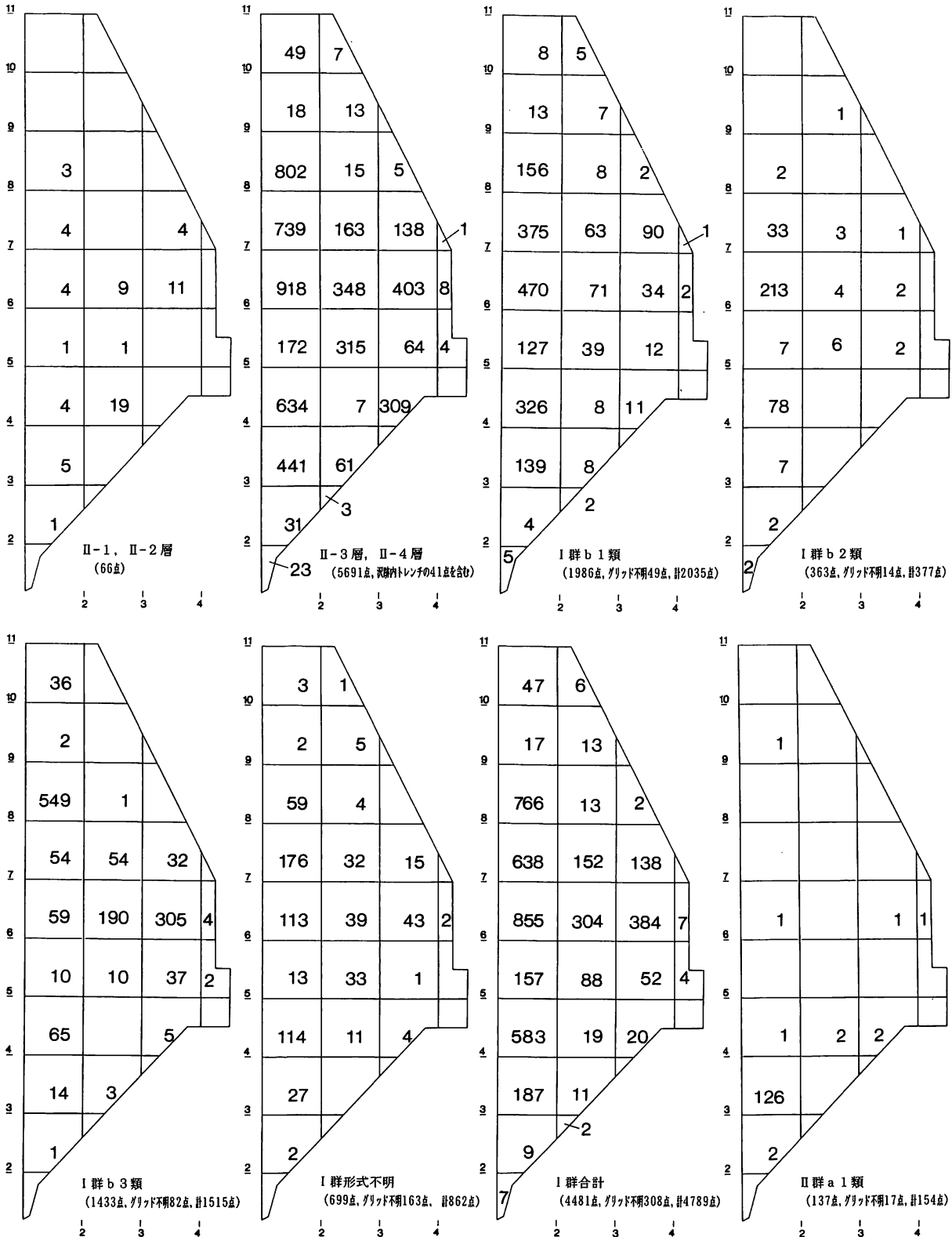
図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・4-05	胴部	1	東御路Ⅲ?	252	細片, 剥離



#### 4. 包含層出土の遺物

##### 1) 土器・土製品

包含層からは6165点の土器片が出土している。層位をⅡ-1～Ⅱ-4に分けて取り上げたが、Ⅱ-1・Ⅱ-2層とⅡ-3・Ⅱ-4層の2つにまとめられる。全体的な傾向としては前者が中期、後者が早・前期の土器の包含層といえるが、土器の多く分布するあたりでは層が近接し両者の判別はつき難い。



図IV-4-1 包含層出土の土器分布 (1)

出土点数は縄文時代早期が4789点と最も多く、次いで前期が692点である。このほか中期が130点、後期の土器が66点出土している。早期の土器は発掘区のほぼ全面から検出されているが、特に遺跡中央部の小高い地域に分布する。前期の土器はその周辺のやや下がった地域や沢の近くから出土している。中期の土器は前期の土器より沢に近い部分や沢の南の小高い部分で出土しており、この地区では異質な分布を示す。後期の土器のほとんどは沢跡のトレンチから出土している。便宜上これもⅡ-4層として集計した。Ⅱ群b類（2点）および時期不明の土器片（488点）の分布図は割愛した。

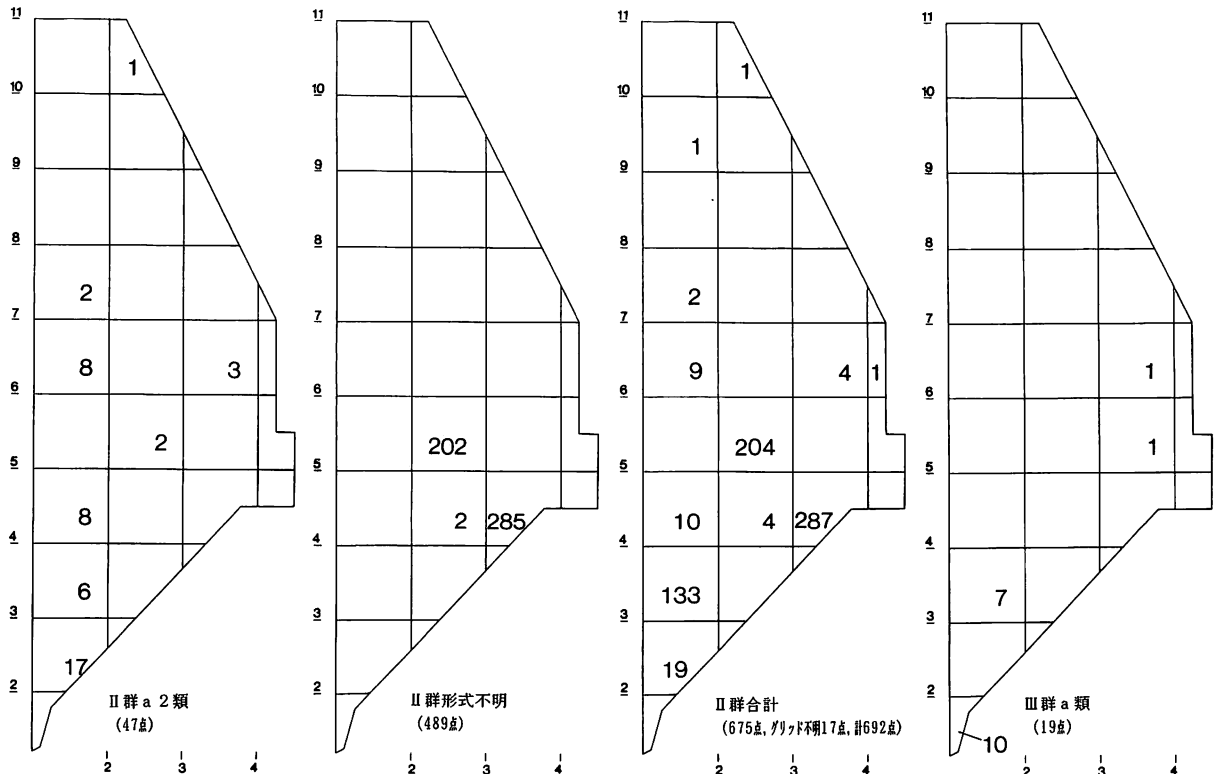
### 縄文時代早期の土器

#### I群b1類（図番1・3～30）

底部が張り出す厚手のものが多く、器面に凹凸がある。口唇は施文の際につぶれて外側に張り出すものが多い。張り出しを貼付状にしたもの（3・4）もある。口唇に縄文による刻み（3・4）、縄線文（6）、縄文の押捺（7・8・10）、半截竹管による刻み（12）の施されているもの、平らに調整されたもの（9）がある。器面に断面三角形の貼付のあるものもある。貼付には縄端刺突（5）、縄の圧痕（14）が施される。器面には斜行縄文（3・4・13・21～23）、短縄文（5～9・11・13～16・23）、組紐圧痕文（9・12・20）、絡条体圧痕文（8・16・17）、縄線文（6・18・19）、縄端圧痕（18～20）などが組み合わせて施文される。底部のくびれには短縄文（24～30）が施されている。1は上面観楕円形の深鉢で、口唇が縄で刻まれ器面には短縄文が施されている。口径13.5×12、器高41.8、底径7cmをはかる。

#### I群b2類（31～37）

底部はあまり張り出さず、口唇は厚みで丸みを帯び、縄文による刻み（31・34）や絡条体圧痕（32・33）のみられるものがある。器面には短縄文（33・34・36）、条の細い斜行縄文（31）、縄文（37）、結束羽状縄文（36）、絡条体圧痕文（32）、軸に細い紐を2本交差させた絡条体圧痕文（34・35）など



図Ⅳ-4-2 包含層出土の土器分布 (2)

が組み合わせて施文される。また、内面に短縄文のみられるもの(34)もある。

**I群b3類 (38~50)**

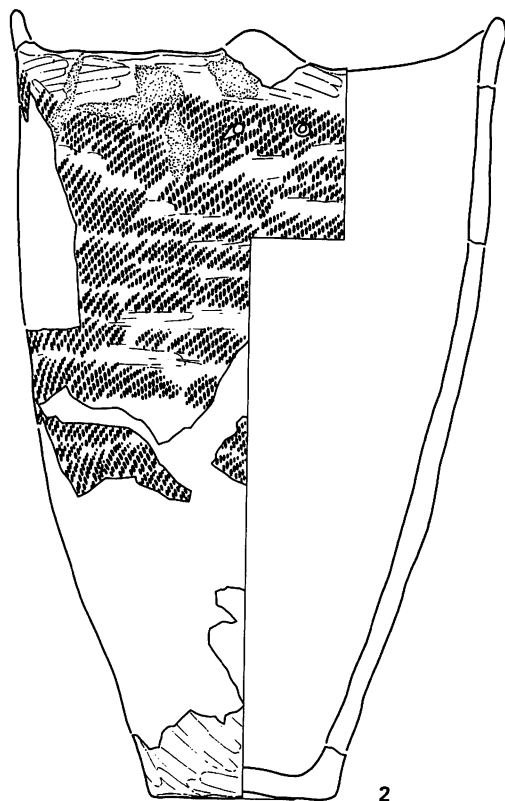
底部は張りださず丸みを帯びる。口唇は薄みで尖り気味。器面に細い貼付帯を横環あるいは縦(41)、縦横(47・48)、波状(42・47)に貼付し、その間に短縄文(45・46・49・50)、斜行縄文(38~40・42)、羽状縄文(47・48)、絡条体圧痕文(44)などを施す。綾絡文のみられるもの(38)もある。

**縄文時代前期の土器 (II群a1類、II群a2類、II群b類、II群)**

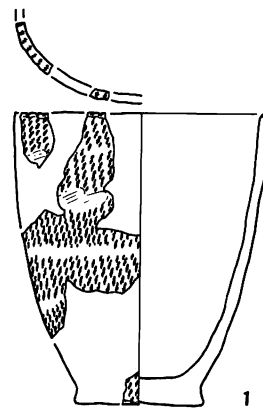
51~55は網文式に相当する土器で器面には横走気味の太い縄文が施されている。56は器面と内面にLRの縄文が施されている。中野式に相当する。57・58は外傾する口唇と口縁に縄線文が施されている。大麻V式に相当する土器はこの2点のみである。59はLRの縄文が斜め、横に入り乱れて施文された胴部破片である。489点出土している。前者3形式とは異なるものとして分類した。

**縄文時代中・後期の土器 (III群a類、III群b2類、III群、IV群b類)**

60は口縁に山形突起をもつ深鉢の破片で、貼付された粘土紐に撚糸圧痕が施されている。器面には馬蹄形の撚糸圧痕が見られる。円筒上層式に相当する。62は半截竹管による刺突と沈線のみられる突起部分で萩ヶ岡2式に相当する。2は口縁に小突起をもつ深鉢で、器面にはLRの斜行縄文が施されている。口径26.5、器高41.8、底径10cmを計る。柏木川式に相当する。62はLRの斜行縄文のみられる胴部である。形式不明のIII群に分類した。63~65は口縁に沈線が施されている。65は波状口縁である。手稻式に相当する。他にグリッド不明で天神山式に相当する土器片が1点出土している。

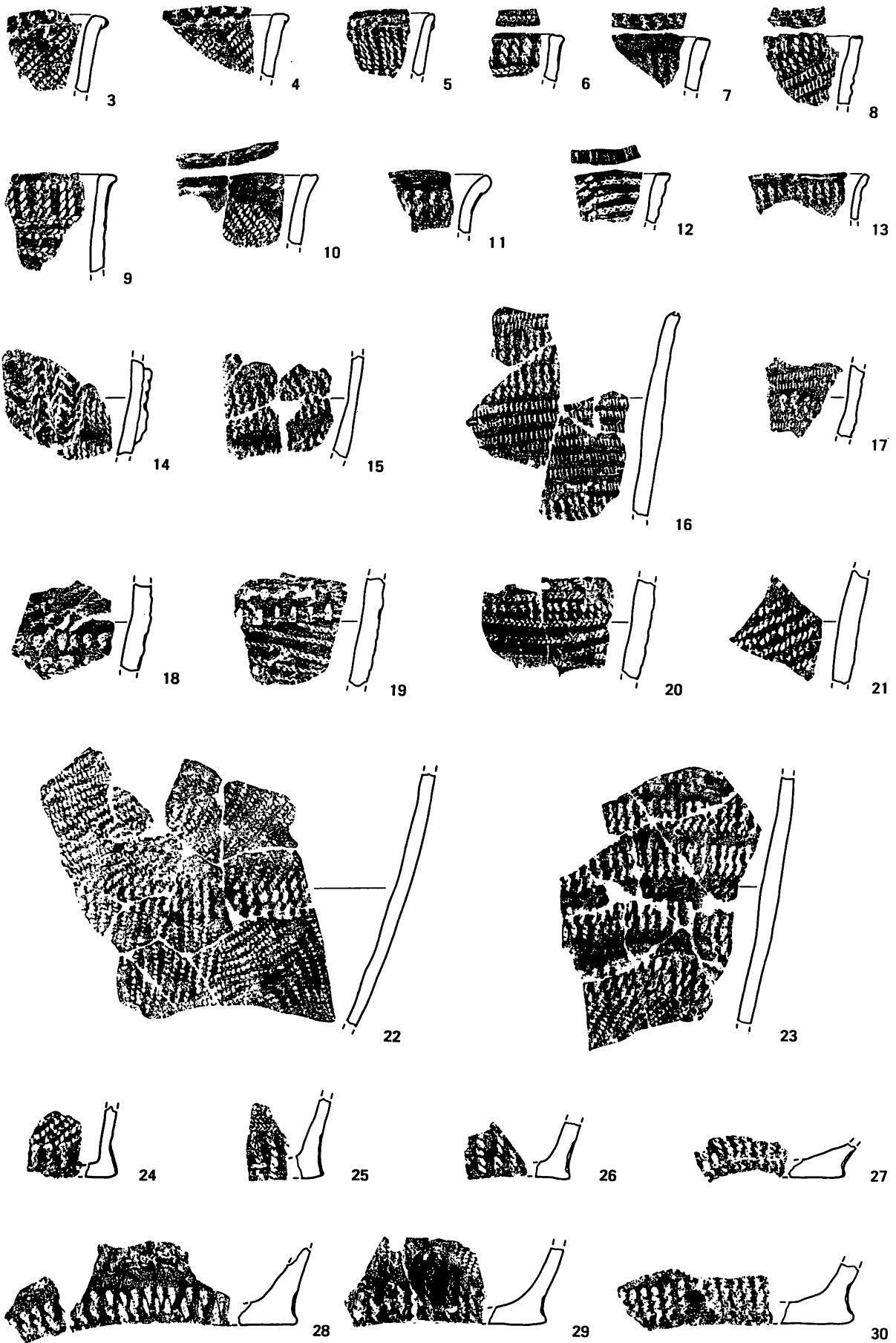


図Ⅳ-4-3 復原土器(東釧路Ⅲ式・柏木川式)

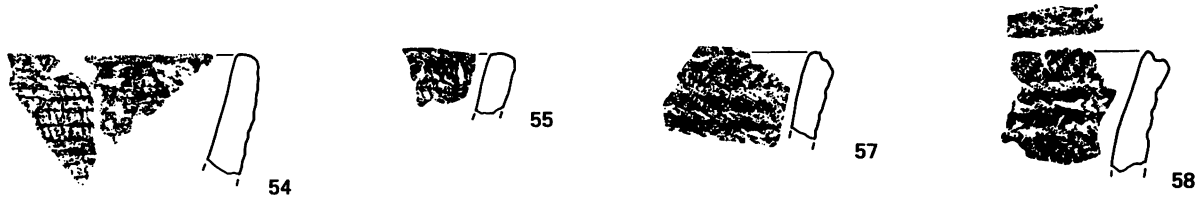
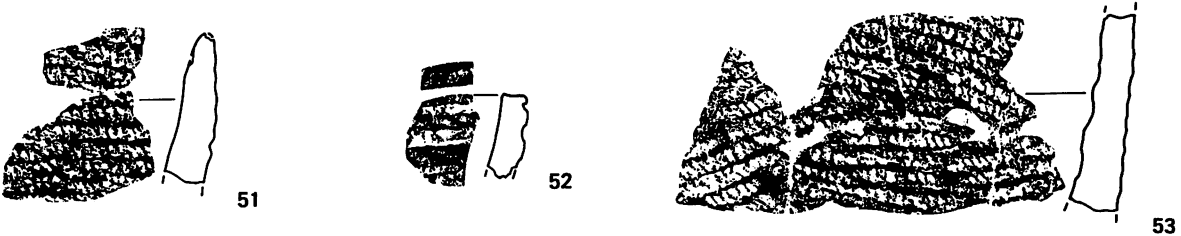
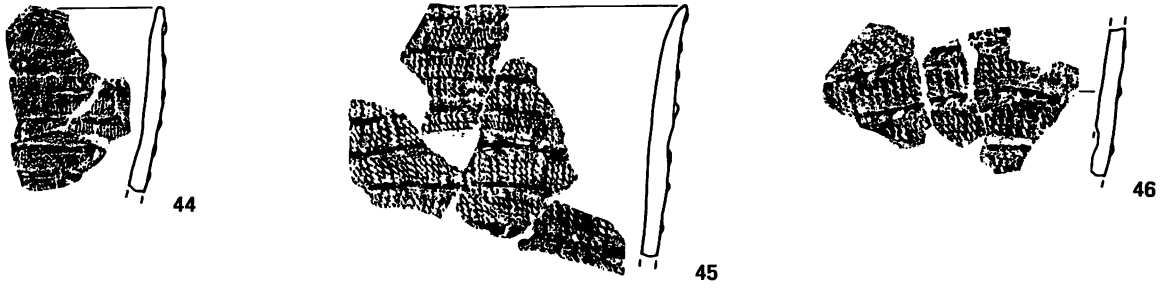
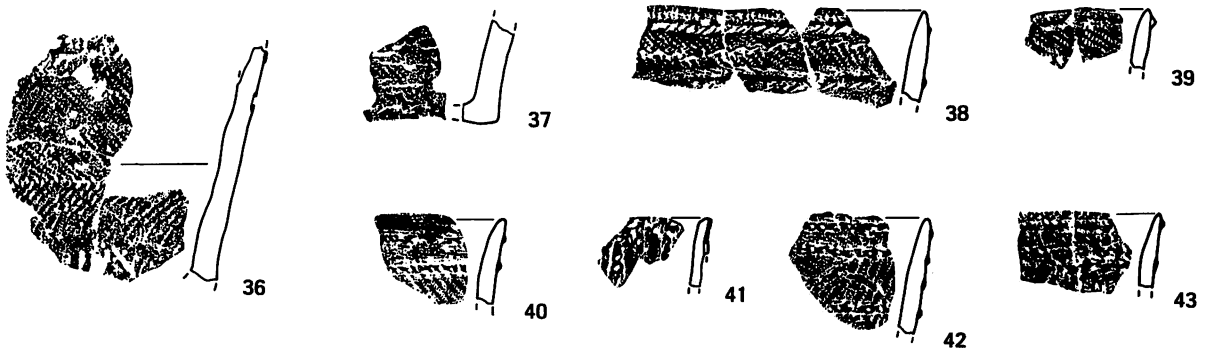
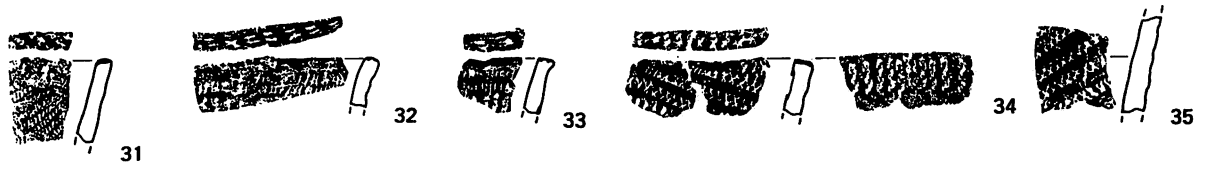


表Ⅳ-4-1 復原土器一覧

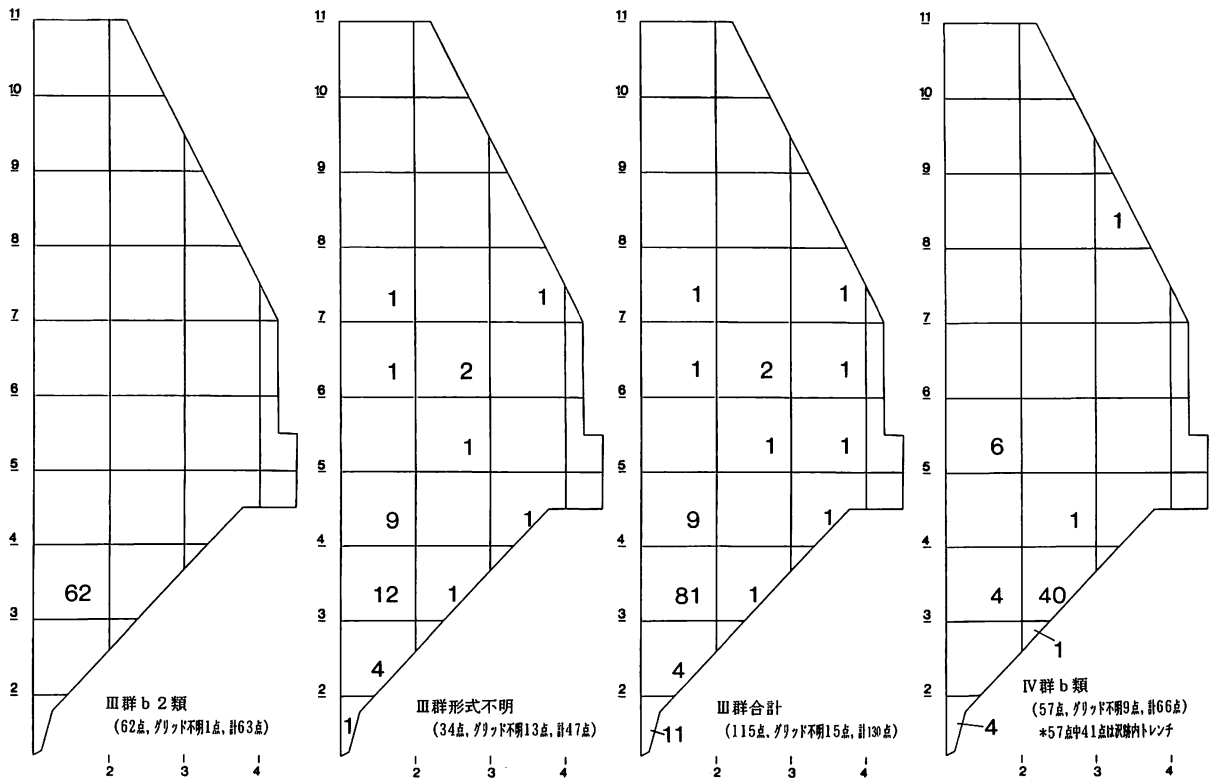
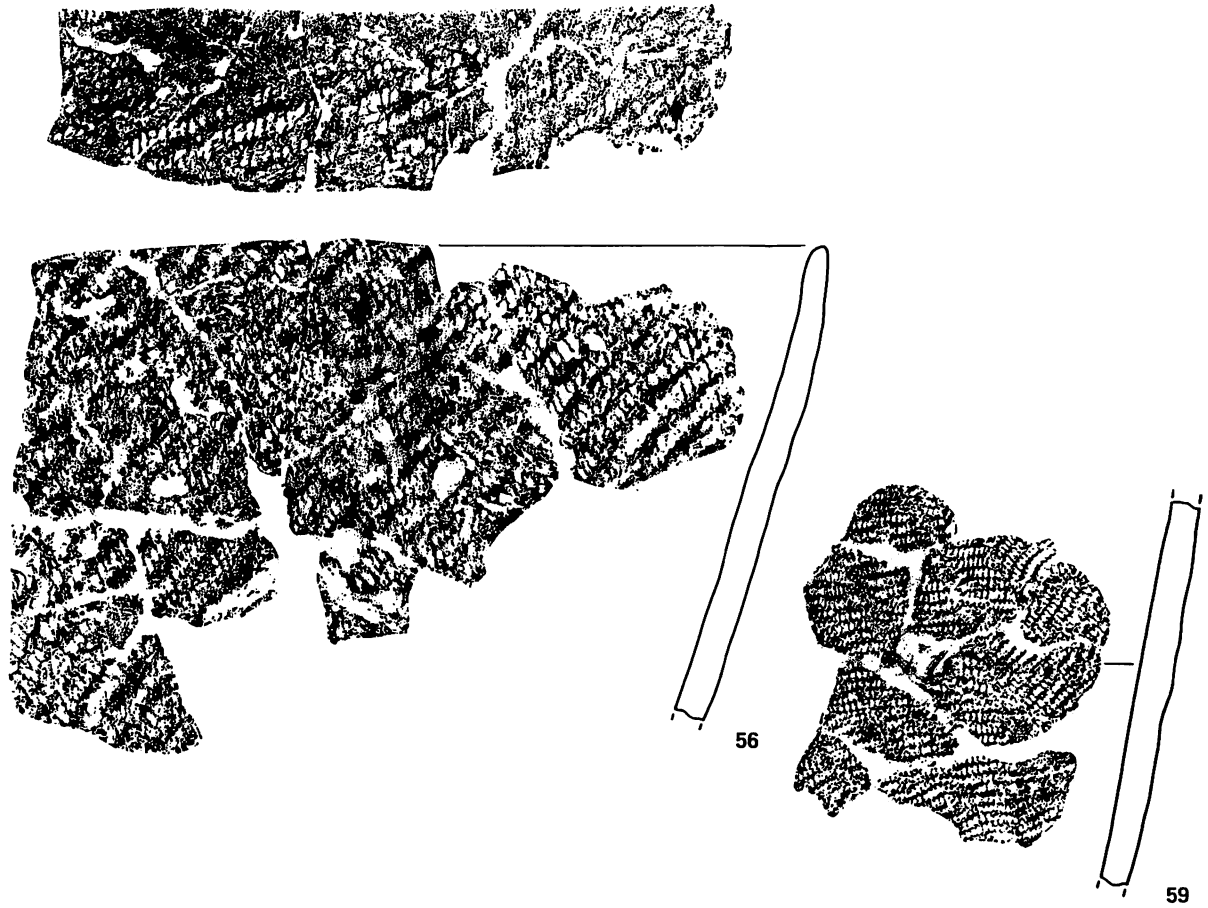
図番	グリッド	層位	部位	点数	分類	遺物No.	備考
1	1・7-76	Ⅱ4	底部	2	東釧路Ⅲ	95	口唇に縄の刻み、器面に短縄文
	1・7-76	Ⅱ4	胴部	4	東釧路Ⅲ		
	1・7-85	Ⅱ4	胴部	15	東釧路Ⅲ		
	1・7-85	Ⅱ4	口縁	1	東釧路Ⅲ		
	1・7-86	Ⅱ4	底部	1	東釧路Ⅲ	106	
	1・7-86	Ⅱ4	胴部	4	東釧路Ⅲ		
	1・7-86	Ⅱ4	胴部	18	東釧路Ⅲ		
	2・7-30	Ⅱ4	胴部	1	東釧路Ⅲ		
	3・8-31	Ⅱ4	胴部	1	東釧路Ⅲ		
2	1・3-80	Ⅱ4	一括	52	柏木川	236	小突起、器面にLR
	1・3-71	Ⅱ3	胴部	6	柏木川		
	1・3-80	Ⅱ4	胴部	4	柏木川		



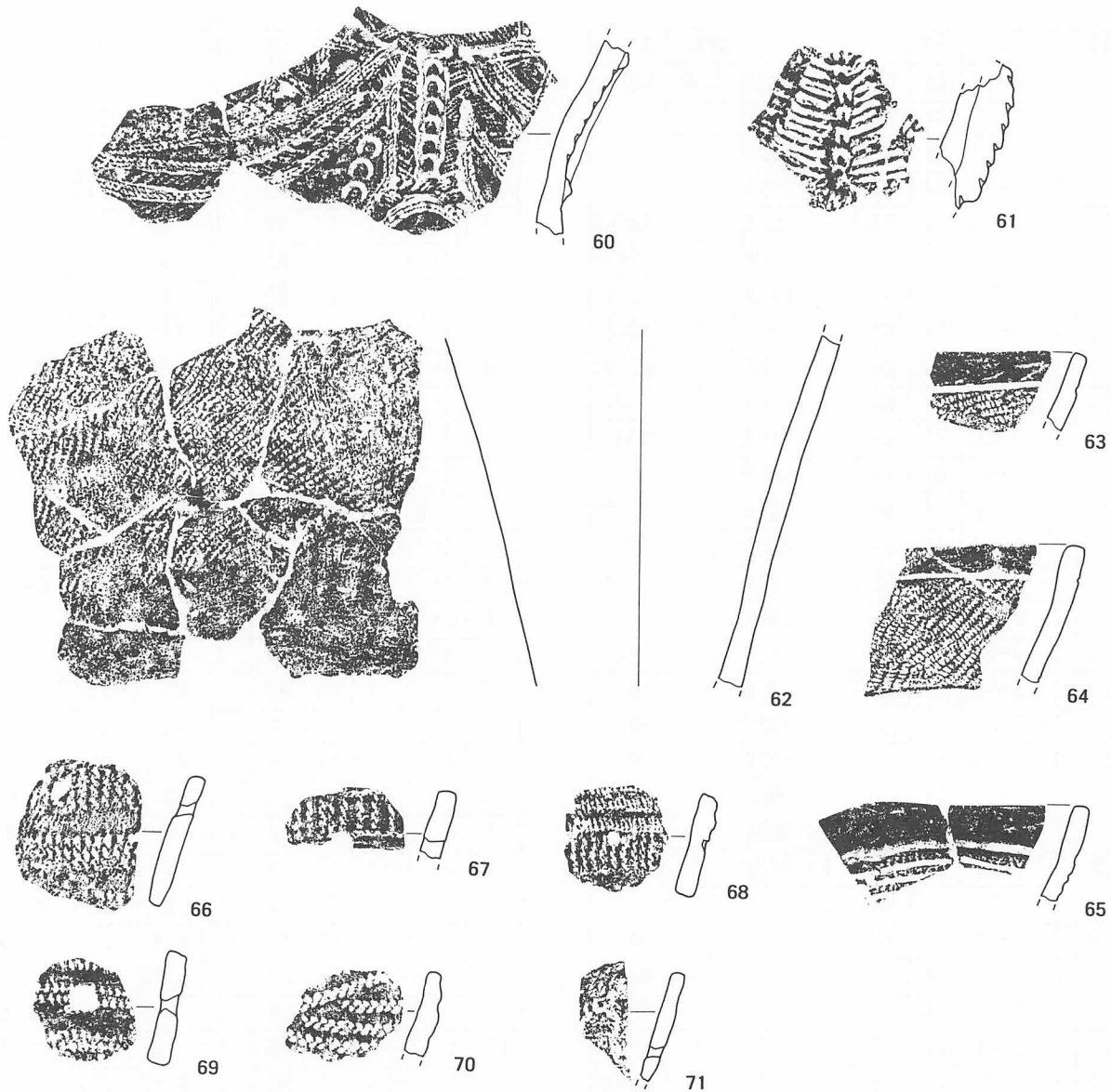
図IV-4-4 縄文時代早期の土器



図IV-4-5 縄文時代早・前期の土器



図IV-4-6 縄文時代前期の土器・包含層出土の土器分布 (3)



図Ⅳ-4-7 縄文時代中・後期の土器, 土製品

土製品

短縄文・組紐圧痕文・絡条体圧痕文などが施されている土器片を削り、穿孔したもので、未貫通のもの(68)もある。67・70・71は穿孔部分で割れている。土器片はいずれも東鋤路Ⅲ式に相当する。

表Ⅳ-4-2 包含層掲載土器一覧

図番	グリッド	層位	部位	点数	分類	遺物No.	備考
3	1・7-20	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	57	縄の刻み
4	1・6-73	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	169	縄の刻み
5	1・4-45	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	224	縄端刺突
6	1・3-78	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	221	縄線文
7	1・5-72	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	210	縄の押捺
8	1・7-00	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	56	縄の押捺
9	3・7-00	Ⅱ4	口縁	2	東鋤路Ⅲ	75	口唇張出す

図番	グリッド	層位	部位	点数	分類	遺物No.	備考
10	1・7-02	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	62	縄の押捺
	1・7-13	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	65	
11	1・7-38	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	84	短縄文
12	2・7-09	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	69	組紐圧痕文
13	1・7-12	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	71	短縄文
	1・7-12	Ⅱ4	口縁	1	東鋤路Ⅲ	72	
14	1・6-40	Ⅱ4	胴部	1	東鋤路Ⅲ	154	貼付

図番	グリッド	層位	部位	点数	分類	遺物No.	備考
15	1・7-76	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	259	短縄文
	1・7-85	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ		
	2・7-47	Ⅱ4	胴部	2	東銅路Ⅲ		
	2・7-48	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ		
16	1・4-05	Ⅱ4	胴部	5	東銅路Ⅲ	260	絡糸体圧痕
17	1・7-37	Ⅱ3	胴部	1	東銅路Ⅲ	17	絡糸体圧痕
18	2・9-29	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	28	縄端圧痕
19	1・10-50	Ⅱ3	胴部	1	東銅路Ⅲ	20	縄端圧痕
20	1・9-35	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	35	紐紐圧痕文
21	1・5-61	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	207	斜行縄文
22	1・5-61	Ⅱ4	胴部	11	東銅路Ⅲ	261	斜行縄文
	1・5-62	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	262	
23	1・5-61	Ⅱ4	胴部	7	東銅路Ⅲ	263	11点接合 短縄文
	1・5-62	Ⅱ4	胴部	4	東銅路Ⅲ	264	
	1・5-72	Ⅱ4	胴部	3	東銅路Ⅲ	265	
	1・5-73	Ⅱ4	胴部	6	東銅路Ⅲ	266	
24	1・6-18	Ⅱ4	底部	1	東銅路Ⅲ	138	短縄文
25	2・8-96	Ⅱ4	底部	1	東銅路Ⅲ	51	短縄文
26	1・6-49	Ⅱ3	底部	1	東銅路Ⅲ	25	短縄文
27	1・6-65	Ⅱ4	底部	1	東銅路Ⅲ	159	短縄文
28	1・7-42	Ⅱ4	底部	1	東銅路Ⅲ	63	短縄文
	2・5-96	Ⅱ4	底部	1	東銅路Ⅲ	188	
29	1・6-03	Ⅱ4	底部	1	東銅路Ⅲ	226	短縄文
	1・6-03	Ⅱ4	底部	1	東銅路Ⅲ	227	
30	1・5-61	Ⅱ4	底部	1	東銅路Ⅲ	213	短縄文
31	2・5-36	Ⅱ4	口縁	1	コッタロ	164	縄の刻み
32	1・4-05	Ⅱ4	口縁	1	コッタロ	242	絡糸体圧痕
33	1・4-04	Ⅱ4	口縁	1	コッタロ	241	絡糸体圧痕
34	1・6-29	Ⅱ3	口縁	1	コッタロ	1	絡糸体圧痕 内面短縄文
	1・7-10	Ⅱ4	口縁	1	コッタロ	88	
35	1・6-29	Ⅱ4	口縁	2	コッタロ	267	絡糸体圧痕
36	1・4-53	Ⅱ4	胴部	6	コッタロ	268	結束羽状
37	2・6-96	Ⅱ4	底部	1	コッタロ	165	縄文
38	3・5-90	Ⅱ4	一括	3	中茶路	249	綾絡文
39	1・8-54	Ⅱ4	口縁	1	中茶路	87	斜行縄文
	1・8-54	Ⅱ4	口縁	1	中茶路		
40	1・8-31	Ⅱ4	口縁	1	中茶路	50	斜行縄文
41	2・6-56	Ⅱ4	口縁	1	中茶路	149	縦に貼付
42	1・8-31	Ⅱ4	口縁	1	中茶路	49	波状に貼付
43	3・6-01	Ⅱ4	口縁	1	中茶路	144	斜行縄文?
44	3・6-54	Ⅱ4	口縁	7	中茶路	269	4点接合 絡糸体圧痕
	3・6-65	Ⅱ4	胴部	9	中茶路	270	
45	3・7-31	Ⅱ4	口縁	1	中茶路	102	6点接合 短縄文
	3・6-28	Ⅱ4	胴部	2	中茶路	271	
	3・6-39	Ⅱ3	胴部	4	中茶路	272	

図番	グリッド	層位	部位	点数	分類	遺物No.	備考
	3・6-48	Ⅱ4	胴部	1	中茶路		
	3・6-59	Ⅱ4	胴部	1	中茶路	273	
46	2・6-80	Ⅱ4	胴部	1	中茶路	274	短縄文
	3・6-11	Ⅱ4	胴部	6	中茶路	275	
47	1・8-31	Ⅱ3	胴部	1	中茶路	42	縦、横、 波状に貼付
	1・8-31	Ⅱ3	胴部	2	中茶路	43	
	1・7-19	Ⅱ3	胴部	1	中茶路	276	
	1・8-30	Ⅱ3	胴部	2	中茶路	277	
48	1・8-02	Ⅱ3	胴部	2	中茶路	37	縦、横 に貼付
	1・8-02	Ⅱ3	胴部	1	中茶路	38	
	1・8-02	Ⅱ3	胴部	3	中茶路	278	
	1・8-03	Ⅱ3	胴部	4	中茶路	279	
	1・10-34	Ⅱ3	胴部	1	中茶路	280	
49	3・7-21	Ⅱ4	底部	1	中茶路	101	短縄文
50	1・3-34	Ⅱ4	底部	1	中茶路	234	短縄文
51	1・3-84	Ⅱ4	口縁	2	縄文	281	RL
52	4・6-06	Ⅱ4	口縁	1	縄文	145	口唇角形
53	1・3-84	Ⅱ4	胴部	5	縄文	282	RL
54	1・3-55	Ⅱ4	口縁	1	縄文	283	口唇角形
	1・3-64	Ⅱ4	口縁	1	縄文	284	
55	1・3-56	Ⅱ4	口縁	1	縄文	214	口唇角形
56	1・2-97	Ⅱ4	口縁	14	中野	251	11点接合
57	1・4-84	Ⅱ4	口縁	1	大麻V	244	縄線文
58	1・3-74	Ⅱ3	口縁	1	大麻V	285	縄線文
59	2・5-70	Ⅱ4	胴部	111	前期	205	14点接合
60	1・1-29	Ⅱ3	口縁	1	円筒上層	204	貼付に 縷糸圧痕
	1・1-07	Ⅱ3	口縁	2	円筒上層	295	
61	1・3-16	Ⅱ4	胴部	1	荻ヶ岡2	81	半藪竹管
	1・3-16	Ⅱ4	胴部	2	荻ヶ岡2	296	
62	1・3-55	Ⅱ3	胴部	12	中期	297	13点接合 LR
	1・3-56	Ⅱ3	胴部	1	中期		
	1・3-66	Ⅱ3	胴部	1	中期		
	1・3-76	Ⅱ3	胴部	1	中期		
63	1・5-21	Ⅱ4	口縁	1	手稲	209	沈線
64	2・3-—	砂礫層	口縁	2	手稲	298	沈線
65	2・3-—	砂礫層	口縁	2	手稲	299	波状口縁

表Ⅳ-4-3 土製円盤一覧

図番	グリッド	層位	部位	点数	分類	遺物No.	備考
66	1・3-89	Ⅱ3	胴部	1	東銅路Ⅲ	253	短縄文
67	1・3-59	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	254	紐紐圧痕文
68	1・7-31	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	255	絡糸体圧痕
69	1・7-05	Ⅱ4	胴部	2	東銅路Ⅲ	256	短縄文
70	1・8-10	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	257	紐紐圧痕文
71	3・7-95	Ⅱ4	胴部	1	東銅路Ⅲ	258	剥離



## 2) 石器

A 地区では各種の石器が出土しているが、遺構や土器と同様に9ライン以北と3ライン以南では非常に少なく、調査区中央部のおもに西側一帯に多く分布する傾向があった。とくに調査区西端部では濃く分布する地点がある。また、器種による分布の差異も多少みられる。

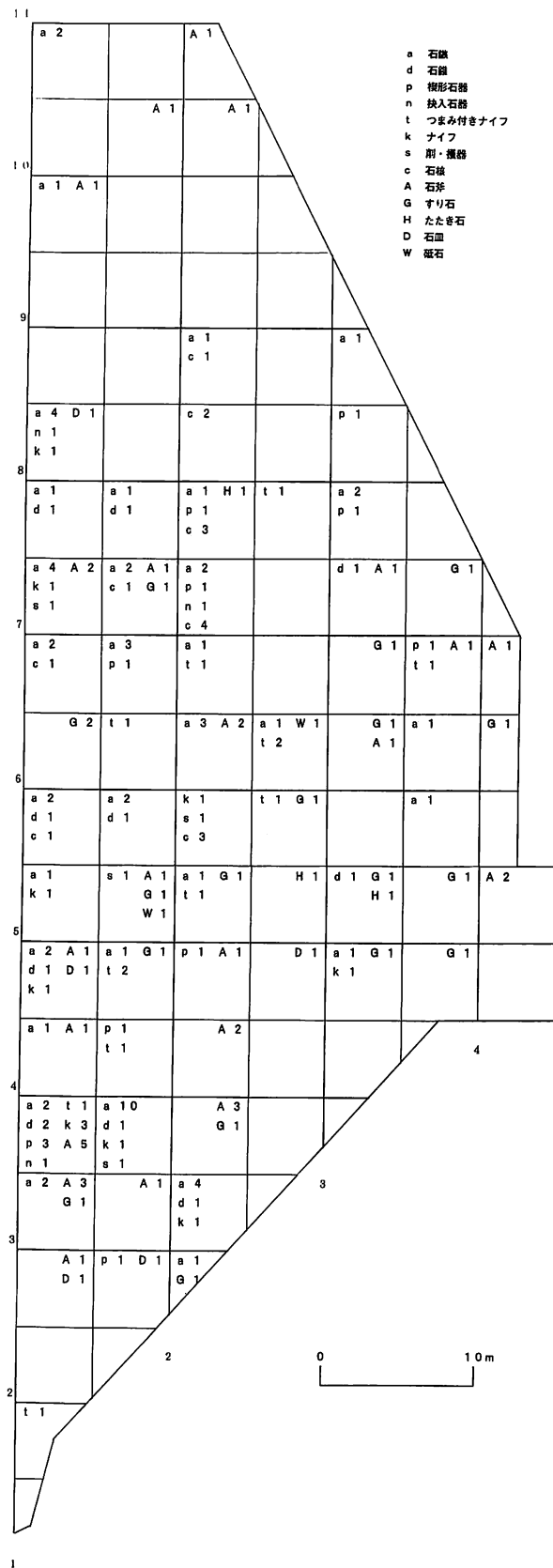
比較的、点数が多い石鏃や石斧の出土地点はほぼ上記の範囲全体に広がっているが、1・3区と1・7区付近がとくに多くなっている。

つまみ付きナイフ、楔形石器、およびすり石の点数は多くはないが、旧トイソ川岸に平行するように帯状に分布している。石核は調査区中央付近の西寄りの狭い範囲で出土している。16点のうち半数が2・7区にあり、ここからは剥片類も比較的多く出土した。石器製作に関連するものかも知れない。

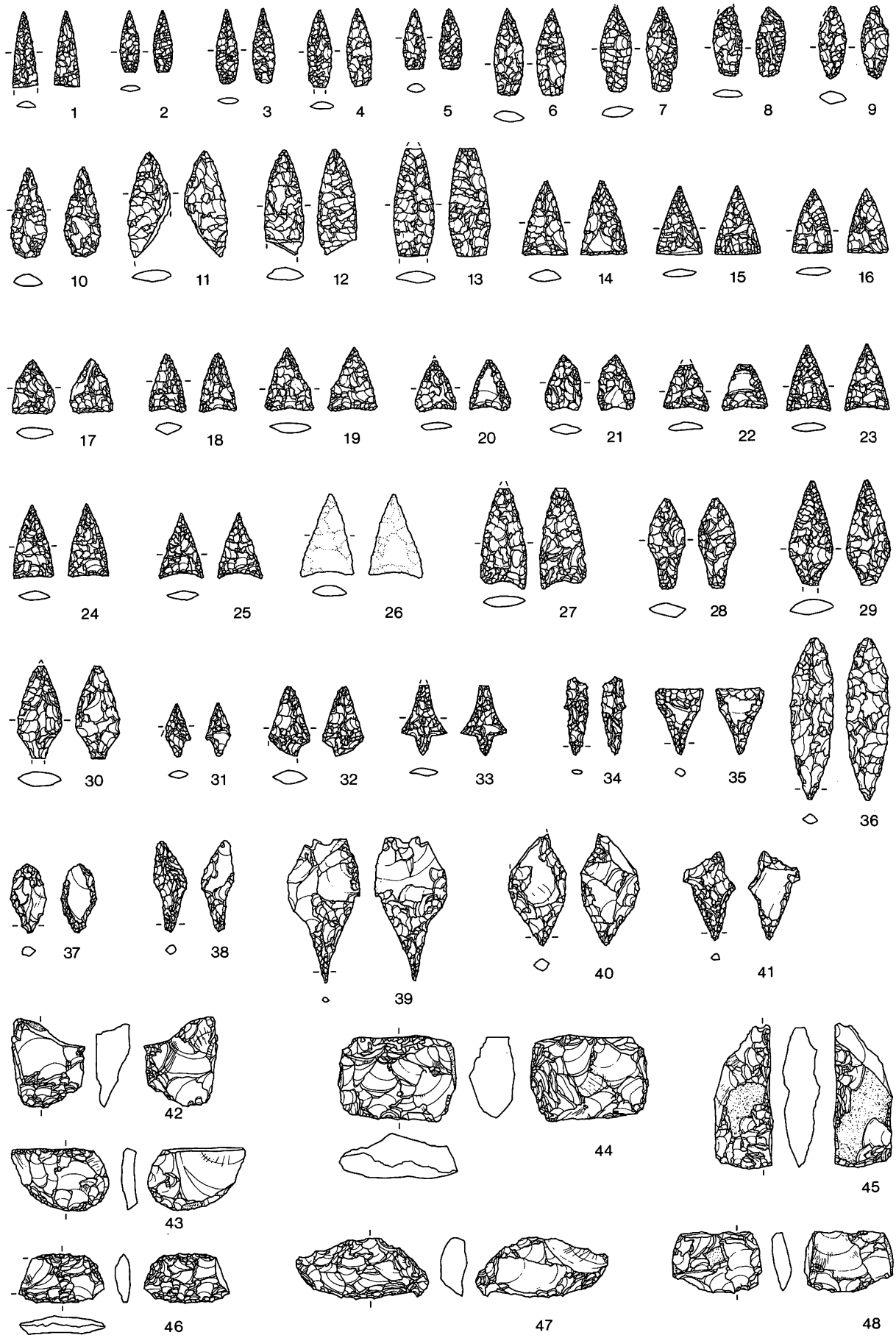
このほかの器種も出土点数は少ないが、おおむね調査区中央部西寄りに分布する傾向にある。

剥片石器の石材は黒曜石が大部分を占めており、赤井川産とみられるものがかなり多い。

剥片類は明示しなかったが、黒曜石を主として3,513点が出土している。また、安山岩や凝灰岩の礫が362点出土した。これらは地山の石とは異なり、周辺から持ち込まれたものと思われる。



図IV-5-1 石器分布図



图IV-5-2 石器(1)

石鏃（図Ⅳ-5-1 1~33）計63点出土した。調査区内での分布状況は、西半部のとくに中央部と南部に多く、ここから離れるにつれて少なくなる。

形態別の内訳は縄文時代早・前期のものとみられる柳葉形のもの13点、無柄平基69点、無柄凹基8点、中期以降のものとみられる有柄のものが6点、石材は頁岩製のものが1点あるが、ほかはすべて黒曜石である。

図版の1~13は柳葉形のものである。1は基部を欠損しているが、長身の柳葉形の鏃とみられる。11、12、13はいずれも一部欠けているが、3~10に比べて大型のものである。10は焼けており光沢がなくなっている。14~17は無柄平基。18~27は無柄凹基のもの。20と21は片面に主剥離面が残る。26は全体が焼けており、表面はわずかに発泡して細かい凹凸ができています。28~33は有柄のもの。このうち28~30は菱形にちかい。石鏃は図示したもの以外に30点出土しているが、

表Ⅳ-5-1 石鏃一覧(1)

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	遺物No.	形態	備考
1	1・3-16	19.5	13.2	3.9	0.8	黒曜石	18	76	無柄凹基	
2	26	28.7	9.8	2.0	0.5	黒曜石		79		未成品
3	31	31.5	12.2	5.8	2.0	黒曜石		246	有柄凸基	先端部欠損
4	34	21.0	15.4	2.9	0.6	黒曜石		248	無柄凹基	
5	55	15.1	16.6	3.0	0.6	黒曜石		83	無柄凹基?	基部欠損、両面に主剥離面を残す
6	56	22.3	17.1	3.6	0.9	黒曜石	19	217	無柄凹基	
7	66	19.7	13.4	3.5	0.7	黒曜石	21	215	無柄凹基	未成品?
8	66	16.2	15.5	2.7	0.6	黒曜石	22	219	無柄凹基	先端部欠損
9	75	14.8	10.0	2.7	0.4	黒曜石		206	無柄凹基?	基部欠損
10	75	29.3	19.3	3.9	1.7	黒曜石	26	214	無柄凹基	全面焼けており、ザラついている
11	76	19.1	15.5	4.2	1.1	黒曜石	17	216	無柄平基	
12	78	23.6	15.8	3.0	0.8	黒曜石	23	218	無柄凹基	
13	80	20.7	16.0	3.6	1.0	黒曜石		259	有柄凸基	先端部欠損
14	94	23.1	8.0	3.2	0.6	黒曜石		262	柳葉形	
15	1・4-07	31.6	10.4	3.3	1.0	黒曜石		238	柳葉形	
16	11	26.6	12.0	4.6	1.1	黒曜石		253	柳葉形	未成品
17	98	14.8	9.8	2.0	0.2	黒曜石		183	柳葉形?	基部欠損 先端部のみ
18	1・5-00	37.9	14.1	4.8	2.0	黒曜石	11	220	柳葉形?	下半部欠損
19	08	12.5	10.0	2.2	0.2	黒曜石		27	?	先端部のみ
20	28	18.0	13.5	2.4	0.5	黒曜石	20	201	無柄凹基	片面に主剥離面を残す
21	66	26.2	10.4	4.5	1.0	黒曜石	9	212	柳葉形	先端部欠損
22	79	32.8	13.4	4.7	1.6	黒曜石	28	222	有柄凸基	
23	1・6-08	27.3	9.8	2.4	0.6	黒曜石		16	柳葉形	
24	09	14.2	10.4	3.6	0.4	黒曜石		86	?	先端部のみ 焼けている
25	58	28.0	7.8	2.2	0.4	黒曜石	3	19	柳葉形	
26	68	20.4	10.2	4.3	0.9	黒曜石		159	柳葉形	焼けている
27	89	27.9	8.6	3.0	0.7	黒曜石	4	157	柳葉形	
28	1・7-11	16.6	10.4	2.9	0.5	黒曜石		65	柳葉形	基部のみ
29	21	35.4	14.3	4.9	2.3	黒曜石	12	87	柳葉形	
30	27	21.8	8.1	3.0	0.5	黒曜石	5	9	柳葉形	
31	32	24.8	10.4	2.3	0.6	黒曜石	8	48	柳葉形	先端部欠損
32	38	19.8	8.8	3.1	0.4	黒曜石		8	柳葉形	基部欠損
33	50	18.9	9.4	2.8	0.5	黒曜石		66	柳葉形	基部のみ
34	59	19.8	9.8	3.2	0.6	黒曜石		99	柳葉形	基部のみ
35	90	33.2	16.0	5.2	2.6	黒曜石	30	113	有柄	
36	1・8-20	13.8	15.2	3.7	0.6	黒曜石		33	無柄凹基?	基部欠損
37	20	31.4	10.8	3.5	0.9	頁岩	6	32	柳葉形	
38	21	23.2	19.0	4.3	1.8	黒曜石		31	木葉形?	基部のみ
39	22	30.4	11.2	3.5	1.0	黒曜石	7	34	柳葉形	先端部欠損

表Ⅳ-5-2 石鏃一覽(2)

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	遺物No.	形態	備考
40	1・9-28	21.7	16.0	3.1	0.8	黒曜石	25	26	無柄凹基	
41	1・10-06	38.5	14.6	3.7	2.1	黒曜石	13	14	柳葉形	先端、および基部欠損
42	39	26.2	16.4	4.1	1.3	黒曜石	14	4	無柄平基	
43	2・2-18	18.0	16.1	3.9	1.1	黒曜石		267	無柄凹基	先端部欠損
44	2・3-03	24.4	14.9	4.2	1.2	黒曜石		269	無柄平基	
45	04	16.7	16.1	3.6	1.1	黒曜石		270	五角形?	基部欠損
46	11	24.4	10.4	3.5	0.8	黒曜石		264	有柄平基	
47	23	16.5	9.0	2.0	0.3	黒曜石		271	有柄	基部欠損
48	2・5-22	37.9	15.8	4.7	2.1	黒曜石	29	199	菱形	
49	2・6-23	9.6	10.2	3.1	0.2	黒曜石		276	?	先端部のみ
50	30	14.7	8.8	2.5	0.4	黒曜石		129	柳葉形	先端、基部欠損
51	38	22.2	6.6	1.9	0.2	黒曜石	2	20	柳葉形	
52	42	25.7	14.2	3.2	0.9	黒曜石	24	128	無柄凹基	
53	83	31.9	13.0	4.2	1.3	黒曜石	10	151	柳葉形	
54	2・7-06	19.1	9.1	2.6	0.3	黒曜石	31	11	有柄凹基	
55	21	27.4	8.9	2.5	0.5	黒曜石	1	69	柳葉形	基部欠損
56	36	18.5	9.7	2.4	0.3	黒曜石		50	柳葉形	先端部のみ
57	2・8-46	24.4	16.4	2.2	0.7	黒曜石	15	37	無柄凹基	
58	3・4-07	31.5	12.4	5.1	1.8	黒曜石		243		未成品
59	3・5-56	25.0	14.2	4.9	1.3	黒曜石	32	178	有柄	先端、基部欠損
60	3・6-62	22.8	14.2	2.6	0.6	黒曜石	16	133	無柄平基	
61	3・7-07	24.6	10.8	3.2	0.9	黒曜石		102	柳葉形	
62	26	33.6	16.4	3.6	2.0	黒曜石	27	36	無柄凹基	先端部欠損
63	3・8-08	24.9	16.0	2.8	0.6	黒曜石	33	107	有柄凹基	先端部欠損

破片や未成品が多い。

**石鏃** (34~41) 調査区中央部から南部にかけて散点的に出土した。出土数は計11点である。黒曜石製が7点、頁岩製が4点である。形態別にみると棒状のものと、つまみ部をもつものに分かれる。棒状のものは図示した1以外に3点ある。36は頁岩製で肉厚のものである。39は先端部が鋭く尖がっているが、ほかは潰れている。

**楔形石器** (42~49) 12点出土した。旧トイソ川に平行するように散点的に分布している。すべて黒曜石製である。1面あるいは2面に原石面を残すものが多い。44、48はほぼ四角形、ほかは楔形である。

**抉入石器** (50・51) 2点出土。両方とも1面に原石面を残しており、側縁に1ヵ所の抉りがある。51は焼けて光沢がなくなっている。

**つまみ付ナイフ** (52~63) 調査区の西部で13点が出土。このうち、53、54と遺物No. 255の3点が黒曜石、ほかの10点は頁岩製である。形態は縦長のものと斜めのものがある。いずれも縄文時代早・前期のものと思われる。53、54、57は周辺加工、55、56、58、60~63は片面加工のものである。

**削器・搔器** (64~68) 調査区中央西側で4点出土した。64~66は楕円あるいは方形にちかいもの。67はバチ形の片面加工のものである。

**石槍またはナイフ** (69~71) 調査区西寄りで11点出土した。頁岩製のもの2点、ほかの9点は黒曜石製である。図示したもののほかに、7点出土している。

**R・F** (72・73) 図示したものは調査区中央付近で出土した2点である。このほかにも11点出土している。

表Ⅳ-5-3 石錐一覽

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	随物No.	形態	備考
1	1・3-16	43.0	13.4	7.3	4.1	黒曜石		225	棒状	
2	47	48.2	9.2	7.2	3.2	黒曜石		231	棒状	
3	75	23.0	17.1	3.6	1.1	黒曜石	35	207	有柄	
4	1・4-29	58.6	15.4	8.6	7.5	頁岩	36	3	柳葉形	
5	1・5-18	24.8	13.2	5.0	1.5	黒曜石	37	28	有柄	
6	68	32.4	11.7	6.1	1.9	頁岩	38	221	有柄	
7	1・7-27	39.9	21.2	9.0	6.2	頁岩	40	84	有柄	
8	68	51.4	26.5	13.0	10.6	黒曜石	39	135	有柄	
9	2・3-14	27.5	7.4	4.4	1.0	黒曜石		266	棒状	
10	3・5-21	27.8	9.0	3.8	0.7	黒曜石	34	177	棒状	
11	3・7-04	31.7	19.0	4.4	1.9	頁岩	41	67	有柄	

表Ⅳ-5-4 楔形石器一覽

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	随物No.	形態	備考
1	1・2-59	32.2	26.2	13.8	9.5	黒曜石	42	5	楔形	
2	1・3-39	23.0	32.7	6.6	5.4	黒曜石	43	72	楔形	
3	47	31.2	42.8	16.2	21.3	黒曜石	44	74	四角形	
4	48	20.1	52.1	13.1	14.0	黒曜石	45	73		両面に原石面を残す
5	1・4-61	18.2	28.4	6.0	3.2	黒曜石	46	187	楔形	
6	1・6-56	20.8	35.3	6.2	4.6	黒曜石		117		
7	2・4-36	27.7	26.7	7.4	5.0	黒曜石		105		
8	2・7-28	22.4	48.4	9.0	9.1	黒曜石	47	118		
9	31	22.0	32.3	10.0	6.6	黒曜石	48	95	四角形	
10	3・6-58	33.4	19.4	9.8	6.7	黒曜石	49	127		
11	3・7-08	15.8	36.6	12.3	6.8	黒曜石		101		
12	3・8-12	38.7	29.2	11.2	11.8	黒曜石		279		

表Ⅳ-5-5 抉入石器一覽

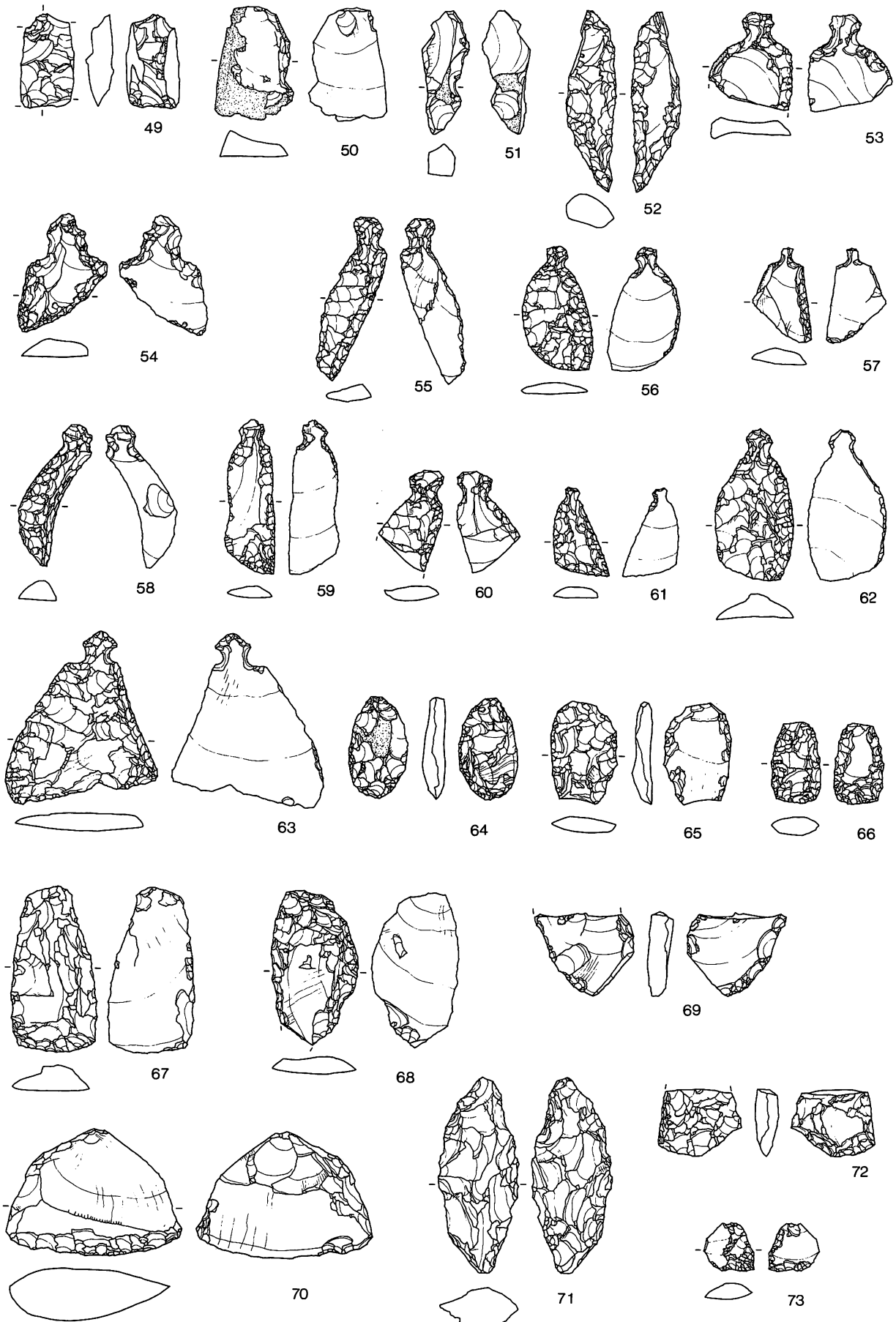
No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	随物No.	形態	備考
1	1・3-26	40.5	27.7	9.3	9.7	黒曜石	50	77		抉り1ヵ所 2面に原石面を残す
2	2・7-31	45.3	16.4	11.9	6.2	黒曜石	51	92		抉り2ヵ所 掘けている

表Ⅳ-5-6 つまみ付ナイフ一覽

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	随物No.	形態	備考
1	1・1-15	65.7	18.2	10.9	13.5	頁岩	52	194	縦長	つまみ部欠損
2	1・3-26	32.5	31.0	7.0	5.4	黒曜石	53	78	縦長	下半部欠損
3	1・4-58	30.0	39.4	6.8	7.5	黒曜石	54	184	斜め	
4	65	60.4	15.6	5.4	5.6	頁岩	55	192	斜め	
5	1・4-74	55.5	37.5	7.0	12.6	黒曜石		255	縦長	下半部欠損、断面を含み全体が焼けている
6	1・6-70	43.0	24.1	4.3	4.6	頁岩	56	172	縦長	
7	2・5-24	32.0	20.5	6.9	3.2	頁岩	57	147	縦長	
8	89	56.3	18.4	4.6	4.2	頁岩	59	186	縦長	
9	2・6-46	36.1	20.9	5.3	4.0	頁岩	60	22	斜め	下半部欠損
10	63	52.0	15.6	8.2	5.7	頁岩	58	134	斜め	
11	91	30.0	20.3	3.6	2.1	頁岩	61	152	縦長	
12	2・7-77	58.0	54.0	6.3	20.1	頁岩	63	62	横長	
13	3・6-55	54.3	27.7	8.3	9.6	頁岩	62	126	縦長	

表Ⅳ-5-7 削・搔器一覽

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	随物No.	形態	備考
1	1・3-56	36.5	21.3	7.5	5.6	黒曜石	64	210	縦長	片面に原石面を残す
2	1・5-61	34.8	23.2	6.4	5.8	頁岩	65	197	縦長	片面加工
3	1・7-22	29.0	18.1	6.8	4.4	頁岩	66	88	縦長	周辺加工
4	2・5-47	60.2	31.4	12.2	20.7	頁岩	67	145	縦長	片面加工



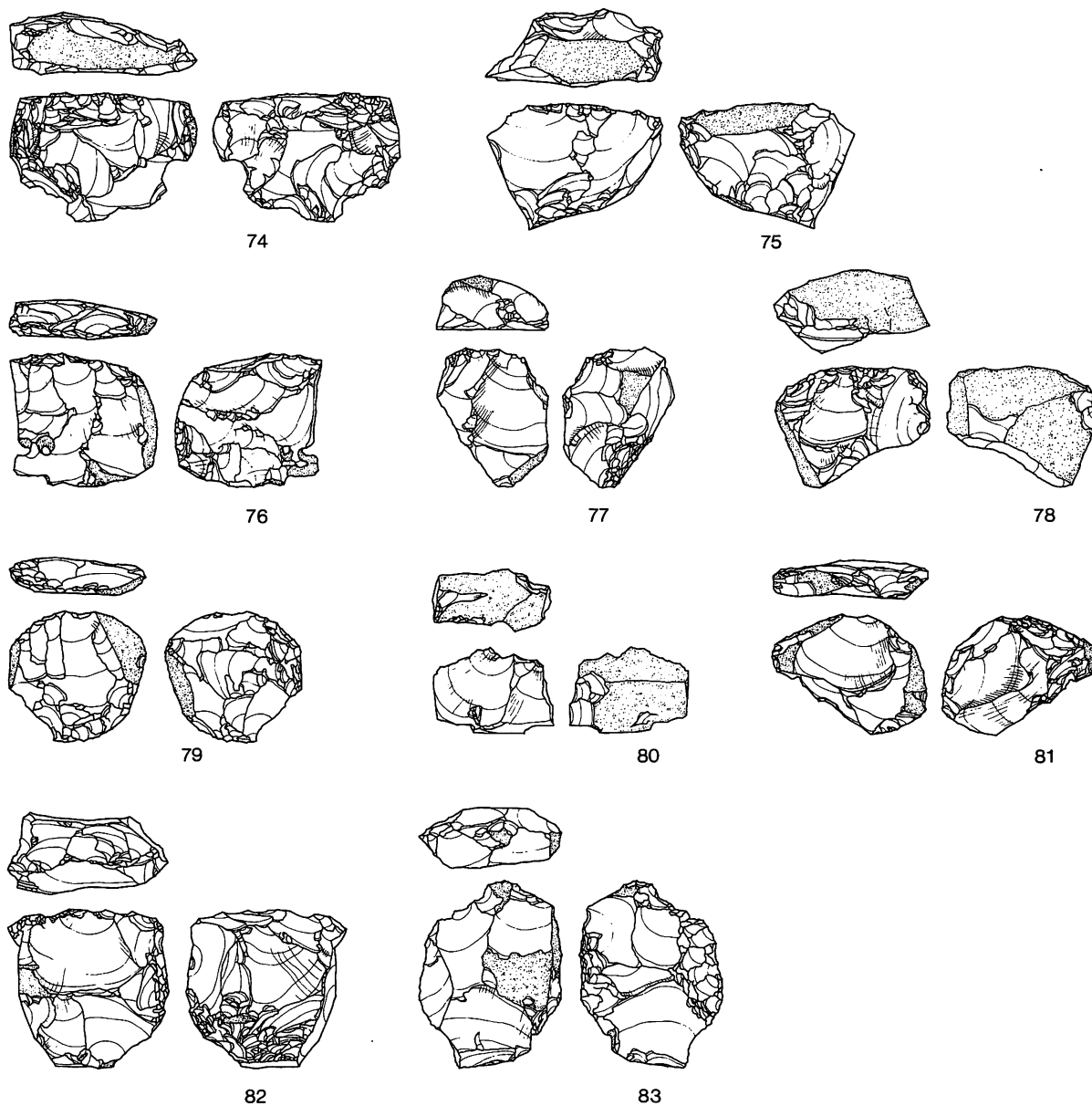
图IV-5-3 石器(2)

表V-5-8 石槍・ナイフ一覽

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	遺物No.	形態	備考
1	1・3-35	56.2	31.9	8.8	13.5	黒曜石	68	81		片面周辺加工
2	37	36.4	25.5	7.9	6.7	黒曜石		273		基部欠損
3	48	47.2	25.3	9.0	10.2	黒曜石		240	有柄?	
4	55	36.5	31.7	6.9	8.8	黒曜石	69	209		周辺加工
5	1・4-26	45.0	30.2	6.0	8.8	黒曜石		257		周辺加工
6	1・5-44	63.6	41.3	17.9	48.8	頁岩	70	213		周辺加工 肉厚
7	1・7-13	33.4	28.0	10.2	11.1	黒曜石		49		木部片
8	1・8-20	71.7	29.1	15.2	24.8	頁岩	71	132	木葉形	ポイント
9	2・3-21	39.0	21.5	8.4	5.4	黒曜石		265	有柄	
10	2・5-37	43.4	32.4	11.7	13.8	黒曜石		24		基部欠損
11	3・4-16	54.4	21.4	8.8	10.5	黒曜石		245		片面加工 基部欠損

表V-5-9 R・F一覽

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	遺物No.	備考
1	2・5-45	29.4	24.5	7.0	4.9	頁岩	72	205	一侧縁腹面加工
2	3・6-49	20.0	17.6	5.4	1.6	黒曜石	73	2	両側背腹面加工



図V-5-4 石器(3)

**石核** (74~83) 調査区中央部の2・7区を中心に16点が出土した。すべて黒曜石である。このうち75、79は焼けており、光沢がなくなっている。76、78、80、83は白い脈が入っており、赤井川産の同一母岩の可能性ある。75、79は焼けて光沢がなくなっている。76には二つの穴があいているが、自然のものである。79は両面とも焼けており、光沢がない。

表IV-5-10 石核一覧

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	植物No.	備考
1	1・5-09	28.6	41.8	16.0	22.0	縞頁岩		200	一面に原石面を残す
2	1・6-08	37.1	54.7	18.2	34.4	黒曜石	74	17	一面に原石面を残す
3	1・7-70	35.2	34.6	19.2	23.7	黒曜石		98	一面に原石面を残す
4	2・5-47	32.4	31.9	14.8	14.4	黒曜石		143	一面に原石面を残す
5	47	19.1	28.1	11.7	5.6	黒曜石		144	一面に原石面を残す
6	48	36.0	51.8	17.3	32.2	黒曜石	75	23	焼けている 一面に原石面を残す
7	2・7-28	49.1	40.6	10.3	19.6	黒曜石	76	52	不純物が抜けた穴が2つある
8	29	40.0	31.9	14.8	16.7	黒曜石	77	59	二面に原石面を残す
9	29	30.7	44.2	20.4	27.3	黒曜石	78	56	三面に原石面を残す
10	30	38.4	41.1	9.8	15.6	黒曜石	79	68	焼けている 一面に原石面を残す
11	30	19.8	34.2	18.2	11.8	黒曜石	80	108-1	二面に原石面を残す
12	31	34.4	47.5	9.5	13.9	黒曜石	81	91	二面に原石面を残す
13	31	28.2	31.5	8.8	7.2	黒曜石		93	全面焼けており、表面がはじけている
14	2・8-01	51.0	43.3	17.4	36.0	黒曜石	83	39	焼けている 二面に原石面を残す
15	11	24.3	29.4	14.0	10.2	黒曜石		112	三面に原石面を残す
16	39	47.1	45.0	24.1	51.2	黒曜石	82	111	一面に原石面を残す

**石斧** (84~95) 調査区の全体から出土しているが、とくに南西部のトイソ川湾入部の低湿地やその付近に多い。計29点あるが図示した11点以外は破片である。石材は蛇紋岩あるいは泥岩が使用されている。すり切り痕を残すものが多い。84は低湿地から出土した完形品である。85は蛇紋岩製、1側縁の両面に擦り切り痕が残り、その間は調整されていない。刃部も作出されていないことから未成品とみられる。86は泥岩製、刃部が反っている。88は擦り切り磨製のものだが、刃部がなく未成品とみられる。90は片岩製の局部磨製石斧とみられるが刃部は残っていない。91は蛇紋岩の大型のもの。片面に斜めに浅い擦り切り痕がある。92~95は刃部または基部を欠損したものである。

**すり石** (96~102) 調査区中央部から南西部にかけて、18点が出土した。このうち10点が断面三角形のものですべて1点を除くほかは安山岩製である。また、北海道式石冠の破片が2点出土している。

**たたき石** (103~105) たたき石とみられるものは、図に示した3点のみである。いずれも調査区中央部で出土した。いずれも安山岩製である。107は両端に敲打痕をもつ、いわゆるトチむき石状のものである。478は三面に敲打痕がある。

**石皿** 写真図版24右下は調査区南東部の旧トイソ川縁で出土した、大型の石皿の破片である。このほかにも小片が3点出土している。

**砥石** 図示していないが、破片が2点出土している。

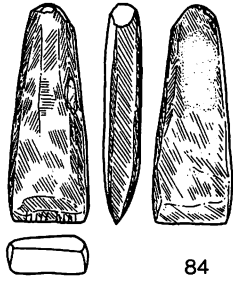


表Ⅳ-5-11 石斧一覽

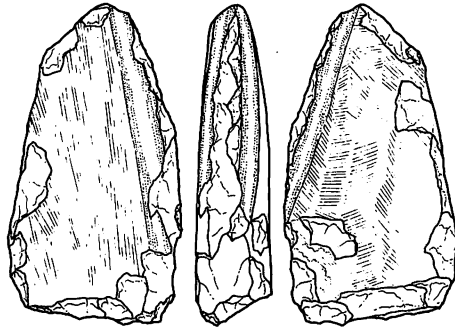
No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	随物No.	備考
1	1・2-19	99.2	40.0	11.5	48.8	片岩		798	未成品
2	1・3-06	128.6	69.0	30.0	405.0	蛇紋岩	85	95	両面に擦りきり痕を残す、未成品
3	15	22.4	27.7	8.8	4.6	片岩		96	
4	15	31.5	23.8	5.7	5.1	泥岩		588	破片
5	37	76.2	46.2	22.0	130.3	泥岩		596	基部欠損
6	38	97.4	41.4	11.1	72.9	泥岩	86	92	刃部が反っている
7	53	105.0	48.8	13.2	92.0	片岩		709	未成品
8	1・4-07	59.0	22.5	25.0	36.1	泥岩		672	破片
9	1・5-50	99.6	31.5	13.3	71.4	泥岩	88	5	擦りきり後、刃部が作出されていない 未成品
10	1・7-00	97.3	52.0	24.2	163.5	蛇紋岩	87	76	刃部欠損
11	04	36.4	52.1	14.8	34.5	蛇紋岩		121	刃部のみ
12	1・9-27	33.4	33.7	14.6	17.0	凝灰岩		18	破片
13	1・10-91	115.9	55.3	22.2	210.8	蛇紋岩	89	17	刃部欠損
14	2・3-	30.0	68.1	17.4	44.6	蛇紋岩		-	基部、刃部欠損
15	"	52.2	37.7	13.0	49.9	蛇紋岩		-	刃部のみ
16	"	73.8	42.4	27.0	112.2	凝灰岩		-	刃部のみ
17	2・4-30	86.4	31.7	14.0	74.4	泥岩	84	-	完形品
18	32	101.8	40.6	18.1	136.6	片岩	90	119	刃部欠損
19	48	48.2	34.0	10.0	30.2	泥岩	93	433	基部欠損
20	2・6-22	59.4	35.7	8.5	36.0	泥岩	95	143	基部欠損
21	44	39.4	27.9	7.8	13.1	泥岩	92	133	刃部欠損
22	2・10-09	21.2	54.8	12.1	14.9	蛇紋岩		11	刃部のみ
23	31	43.0	43.3	8.3	25.2	片岩	94	310	基部欠損
24	3・6-20	93.3	59.9	22.2	207.2	蛇紋岩	91	207	基部欠損 片面に斜めに浅い擦りきり痕が残る
25	3・6-56	74.9	39.2	10.5	40.6	泥岩		129	破片
26	3・7-22	24.2	44.8	13.4	14.5	泥岩		111	刃部のみ
27	4・5-02	59.0	38.4	24.6	82.4	泥岩		670	基部のみ
28	33	99.2	40.6	15.2	97.6	泥岩		668	
29	4・6-18	65.0	24.0	11.5	20.5	泥岩		786	破片

表Ⅳ-5-12 すり石一覽

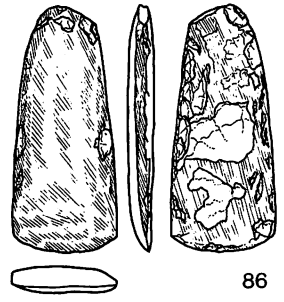
No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	随物No.	備考
1	1・2-06	160.0	53.6	82.7	800	安山岩		805	断面三角形
2	1・3-34	123.2	53.3	81.0	805.0	安山岩		654	断面三角形
3	1・4-85	66.3	53.3	56.8	216.8	安山岩	97	332	断面三角形 側縁部片
4	1・5-74	44.3	46.2	51.6	119.1	安山岩	96	507	断面三角形 側縁部片
5	1・6-23	50.4	50.5	50.8	145.0	凝灰岩		153	北海道式石冠 破片
6	-42	50.5	65.8	79.4	263.0	凝灰岩		147	北海道式石冠 約3分の1
7	1・7-73	84.0	59.2	34.3	216.3	凝灰岩		101	2点接合
8	2・2-09	161.0	72.2	67.6	985.0	安山岩	99	16	断面三角形
9	2・3-	95.5	70.2	66.2	583.7	安山岩		-	断面三角形
10	2・5-11	110.6	40.3	80.4	455.8	安山岩	100	273	断面三角形 一端欠損
11	96	47.8	35.8	70.3	115.2	砂岩		344	長円形の側縁にすり面
12	3・4-69	140.8	42.4	89.7	800.0	砂岩		440	長円形の側縁にすり面
13	3・5-40	58.8	58.0	69.4	214.8	安山岩	101	477	
14	64	123.2	63.6	40.4	371.2	凝灰岩		768	
15	3・6-31	68.5	44.4	56.8	250.7	安山岩	98	185	断面三角形 一端欠損
16	47	47.6	59.0	53.0	139.9	凝灰岩		70	断面三角形
17	3・7-62	136.9	33.8	61.6	136.9	凝灰岩		113	長円形の側縁にすり面
18	4・6-20	96.1	39.6	53.7	253.8	安山岩	102	206	断面三角形 側縁部片



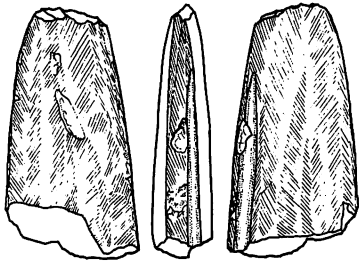
84



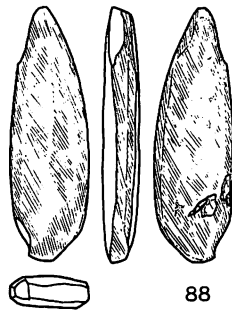
85



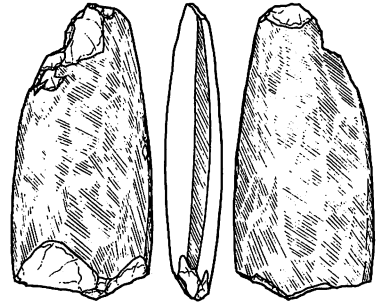
86



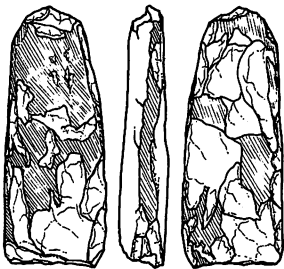
87



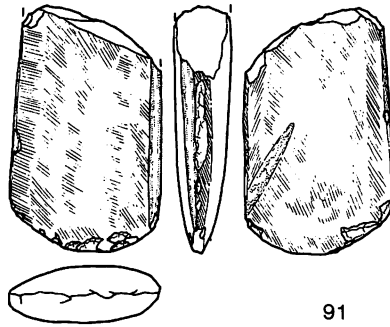
88



89



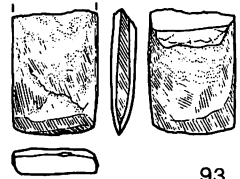
90



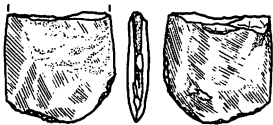
91



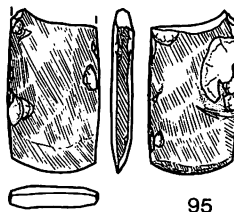
92



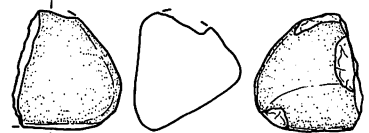
93



94



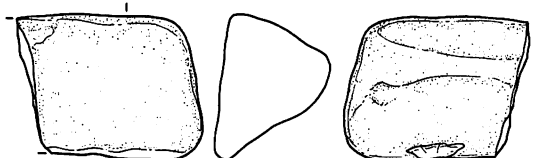
95



96



97



98

图IV-5-5 石器(4)

表Ⅳ-5-13 たたき石一覽

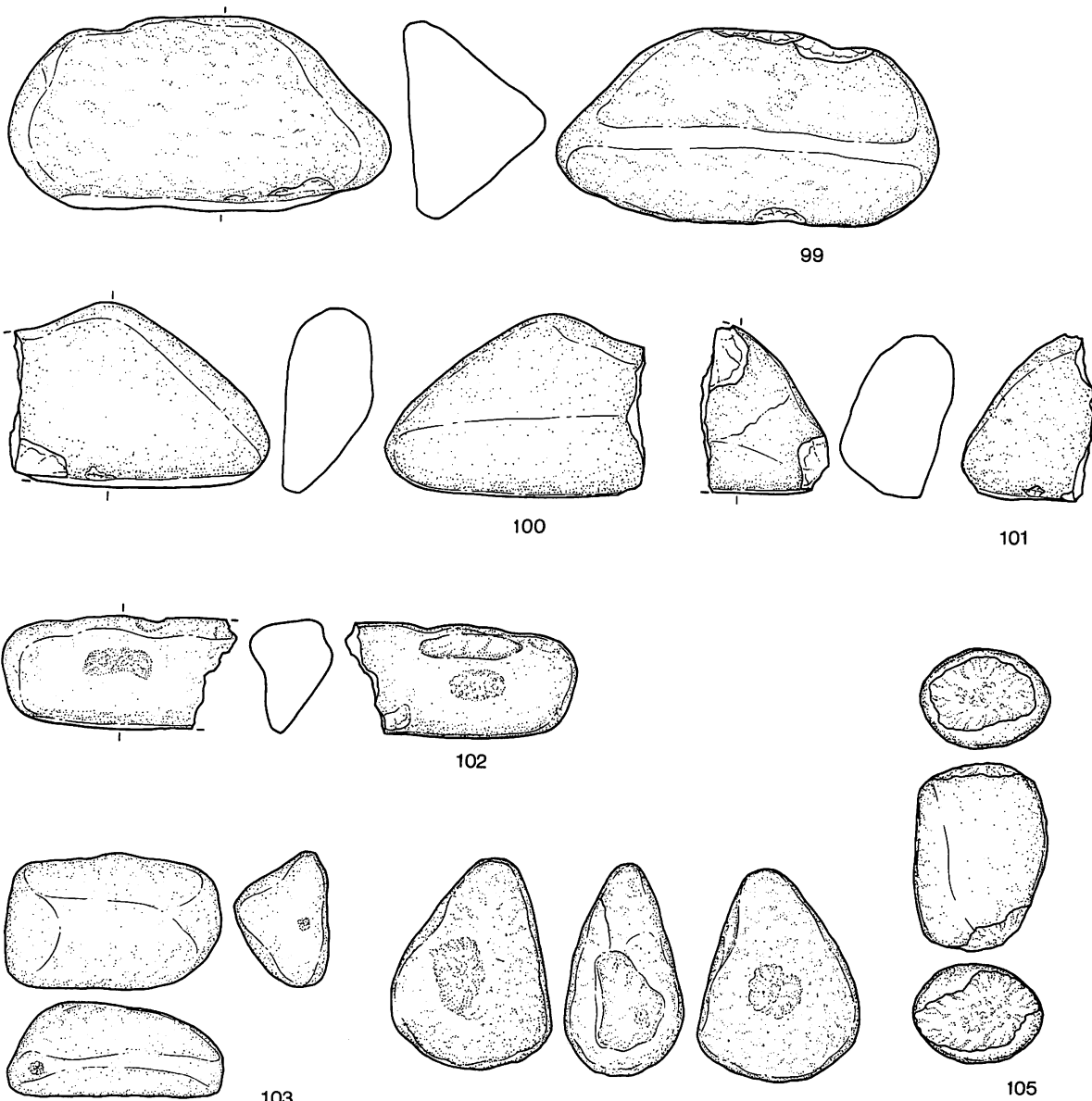
No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	遺物No.	備考
1	1・5-72	59.4	51.4	13.1	47.8	砂岩		452	破片
2	2・6-63	59.5	45.2	11.5	35.1	砂岩		212	破片

表Ⅳ-5-14 石皿一覽

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	遺物No.	備考
1	2・5-70	80.0	58.0	43.3	310.4	安山岩	105	434	両端に敲打痕
2	2・7-48	91.8	58.8	42.2	303.6	安山岩	103	81	一端、一側縁に敲打痕
3	3・5-21	92.9	73.3	53.6	352.4	安山岩	104	478	両端に敲打痕

表Ⅳ-5-15 砥石一覽

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図版	遺物No.	備考
1	1・2-69	70.2	59.4	65.0	1115.0	砂岩		12	2点接合
2	1・4-28	108.0	81.2	86.7	471.1	凝灰岩		586	2点接合
3	1・8-31	32.1	55.0	40.1	74.8	砂岩		69	破片
4	2・4-95	35.2	34.8	45.9	67.9	砂岩		436	破片



図Ⅳ-5-6 石器(5)

## 5 まとめ

1) 遺構と遺物 A地区の遺物包含層下位(Ⅱ-3・4層)では縄文時代早期から後期の遺物が出土した。6,000点あまりの土器のうちコッタロ式、中茶路式、東釧路Ⅲ式など早期に属するものが約8割を占めており、出土点数は前、中、後期の順に少なくなる。石器は約200点。石鏃、つまみ付きナイフ、すり石などの剥片石器をみると早期や前期の形態的特徴をもつものが多い。剥片石器の多くは黒曜石が用いられているが、赤井川産とみられる白い脈が入ったものが多数ある。

遺物は調査区全域に分布しているが、土器、石器とも中央部から南西部で多く出土した。また、土器形式や石器の器種による分布状態のちがいもみられる。調査区南端の旧トイソ川湾入部は遺物包含層が地表下1mちかくにまで達しており、今も伏流水が流れているが、ここからも縄文時代前期および後期の土器、断面三角形のすり石や蛇紋岩製の石斧などが出土している。蛇紋岩で作られた石斧は昨年度調査したユカンボシE4遺跡や本遺跡B地区で出土していない。

Ⅱ-3・4層で検出された遺構のうち、土壌P-1と集石X-3、焼土FP-8からも、わずかではあるが早期の土器片が出土している。検出層位や形態が類似することからみて、Tピットを除くこのほかの遺構(集石X-1・2・4、焼土あるいは炭化物集中地点FP-1~5・9・11・12・15)も同時代のものと考えられる。焼土や炭化物の集中地点には、自然に形成されたとみられるものも含まれているが、これを除く各遺構は、いずれも調査区南部に湾入する旧トイソ川岸に近いところに位置している。このような遺構と遺物のあり方は、河川に依存した人間の活動を反映しているものと推定される。今回の調査では竪穴住居跡など、集落跡の存在を直接示す遺構は発掘されていないが、このようなことから調査区の近くに縄文時代の集落跡が埋もれている可能性が強いものと考えられる。

調査区内の南西端部は旧トイソ川に入る小流を境に、西側がおよそ1mほど北東側より高くなっている。この段丘面は本遺跡B地区へ続いており、南西端部を除くA地区の大部分はこれより一段低い面にあたる。B地区ではA地区の遺構と時期は異なるが、竪穴住居跡が発掘されていること、A地区の北部では遺構、遺物が稀薄であること、A地区の大半を占める低い段丘面では、川の氾濫により水が付く可能性が大きいことなどからも、調査区西側のより高い段丘面が居住に適していたものと考えられる。近くに住む人たちの話によると、調査区西側の保安林では、かつて排水溝の掘削などで多くの土器や石器がみつかったという。

4ヵ所の集石は検出された石の数にかなり差異があるが、いずれも炭化物が薄く付着したものや焼けた痕跡をもつ安山岩や凝灰岩の礫を含んでいる。また、ほとんどの石が割れているが、強い火熱を受けたことによるものが多いと推定される。これらの集石が形成あるいは構築された理由については、想像の域を出ないが、旧トイソ川での漁獲物を調理した跡ともみられる。調査区西側にある土壌P-1は規模や形態から墓の可能性が考えられる。

縄文時代前期以降の遺物は出土量が少ないが、とくに前期および後期の土器は湾入部の肩や縁、さらに伏流水が流れる旧トイソ川内の土層からも出土している。前期の中野式や後期の手稲式土器の大半はこの部分でみつまっている。手稲式土器は本遺跡より1kmほど上流にあるユカンボシE3遺跡で恵庭市教育委員会の調査により、多くの遺構とともに出土しているが、本遺跡周辺にも同時期の集落跡が残されている可能性があるだろう。Tピットは二つの段丘面のそれぞれに1基ずつが位置しており、規模や形態が異なっている。それぞれ調査区西側の保安林中に続くTピット列のひとつと推定される。

調査区南東部で発掘された鉄鍋は、重機により表土および樽前a火山灰の大部分を除去した後、火山灰の直下でみつかったものである。さらに、その下には小土壌SP-1があり、鉄鍋はこれに蓋をしたような状態になっていた。ほかに同時期のものとみられる遺構、遺物は皆無であったこと、今回、

類例をみつけることができなかつたことなどから、鉄鍋の製作時期については今のところ明確にはできない。樽前 a 火山灰直下で出土したことから判断すると、鉄鍋はこの火山灰が降下した1739年以前のもと考えられるが、SP-1が樽前 a 火山灰の上部から掘りこまれた遺構である可能性も否定できないことから、近代の遺物という見方も残されている。

**2) 地質・層序** 地質・層序に関する所見のうちでは、旧表土(Ⅱ層)中に6枚にわたって観察された間層の存在が注目されよう。これらのうち e 層および f 層は、花岡正光の予察的な検討によればそれぞれ Ta-c<sub>2</sub> 層(曾屋・佐藤1980)および植苗層(同前書)に対比しうる可能性があるという。Ta-c 火山灰降下の痕跡は以前から恵庭市内の遺跡で確認されていたが(遠藤ほか1987など)、Ta-c と Ta-d の間に位置する植苗層は苫小牧市域外の発掘調査で確認された例がほとんどない。恵庭市域あるいはそれ以北でも今後これらの火山灰層の認識によって、縄文時代遺跡の分層的調査が可能になる例が増加するものと期待される。

また b・c 層については当初、かなり鮮やかな橙色の色調と範囲の広さから降下火山灰ではないかと考えたが、花岡によれば火山ガラスに富むものの、炭化植物片を含み保水性もよいなど、一次的な火山灰層としては不自然であるという。最近、函館市の中野 A・B 遺跡付近に広く分布する銭亀沢層(佐々木ほか 1970)あるいは P・D・3 層(函館市教育委員会 1977)が従来考えられていたような火山灰ではなく、焼土であるとの意見(花岡 1992・1993、近藤 1993)が提出されている。本遺跡でも比較的規模の大きい焼土(FP-8)が確認されており、b・c 層についても一種の焼土である可能性を考慮すべきであるかも知れない。しかし仮に焼土であるとしても、その性格が不明であることに変わりはなく、今後の問題を残している。

## V B地区

### 1. 調査の方法

#### 1) 発掘区の設定

発掘区は、A地区同様に道路建設予定地の用地境界杭を基準として設定した(図V-1-1)。測量基点としたのはR62杭で、この点を $X=0$ 、 $Y=8$ とし、L62杭方向(東)をX軸の正方向、R61杭方向(北)をY軸の正方向とする座標を設定した。

なお、Y軸の方位は $N-5^{\circ}40'W$ である。

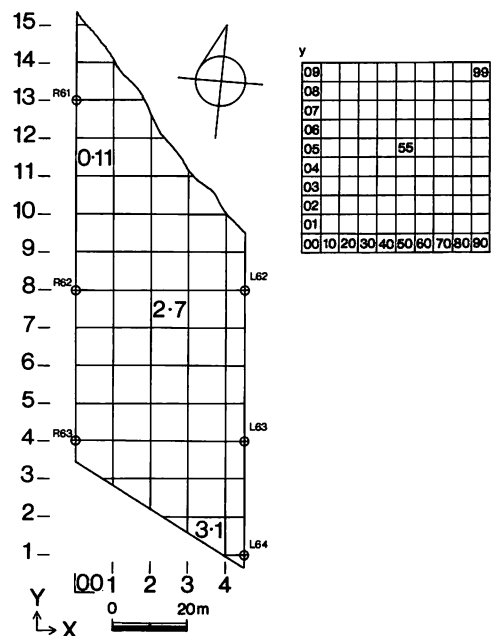
グリッドは(XY)で表示する $10m \times 10m$ の大グリッドを基本とし、各々の大グリッドを $1m \times 1m$ の小グリッド(xy)100個に分割した。各グリッドの表示は、大グリッドの場合、3・1区、2・7区、0・11区などとし、小グリッドを差す場合には、3・1-00区、2・7-55区などとした。なお、図中では省略して31-00などとしている。

各基準杭の座標は以下の通りである。

R62杭： $X=-124,745.787$ 、 $Y=-52,150.399$

R61杭： $X=-124,696.018$ 、 $Y=-52,155.193$

L62杭： $X=-124,741.473$ 、 $Y=-52,105.606$



図V-1-1 発掘区の表示

#### 2) 層序

調査区の土層は東側壁面でとった(図V-1-2・3)。基本層序は昨年度調査したユカンボシE4遺跡と同様で、以下の通りである。

**I層**：表土(耕作土)。

**a層**：白色火山灰。樽前a降下軽石層(Ta-a、1739年降灰)。平坦面では耕作土中に混在するが、沢への傾斜部分では $10\sim 20cm$ の厚さで残されている。

**II層**：黒色ないし黒褐色土。上部が擦文時代及び続縄文時代、半ばが縄文時代中・後期、下部が縄文時代早・前期の遺物包含層。なお、上面に耕作機械による溝状の攪乱(Ta-a層が入っている)がほぼ東西方向に走る。

**III層**：暗褐色ないし黄褐色土(漸移層)。上面が縄文時代早期の遺物包含層。

**IV層**：黄褐色土。

**V層**：V a層(黄褐色大粒軽石、粒径 $1\cdot 2cm$ から $20cm$ に達するものもある。いずれも角がとれて丸い)とV b層(灰白色砂)が互層をなしている。土層断面図には現われないが、Tピットの下部など深い部分ではV c層(青灰色細粒砂)、V d層(灰黄褐色砂質粘土)もみられる。

なお、IV・V層については、いずれも水成堆積物(IV層についてはユカンボシ川の氾濫原堆積物、V層については漁川の扇状地堆積物)と考えている。詳細については、昨年度当センターが刊行したユカンボシE4遺跡の報告書(第III章3)を参照されたい。



图V-1-2 土层断面 (1)

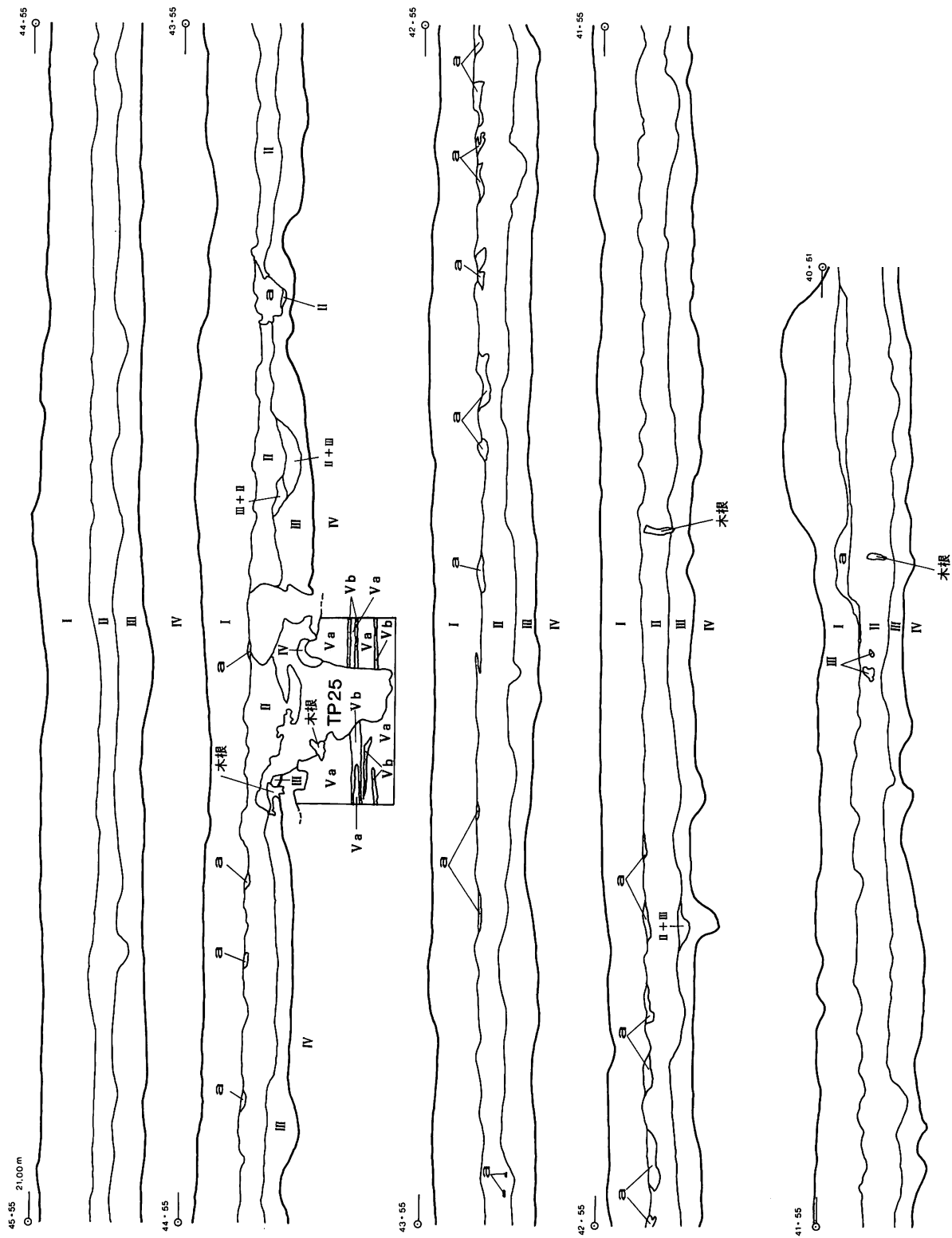


图 V-1-3 土层断面 (2)



## 2. 遺構と遺物

確認した遺構は、竪穴住居跡3軒、土壇11基、集石1ヵ所、Tピット33基（うち1基は排土のみ）、焼土75ヵ所、土壇墓1基である（右図）。なお、剥片・碎片集中地点（F・C集中）及び石斧・石斧片集中地点については、石器の項でそれぞれ述べる。

竪穴住居跡は、1（3・7、4・7区）が縄文時代前期（大麻V式）に、小型の2（3・4、4・4区）と大型の3（1・3、1・4区）が中期（萩ヶ岡2式）に属するものである。平面形は前者が隅丸長方形、後者は楕円形を呈している。

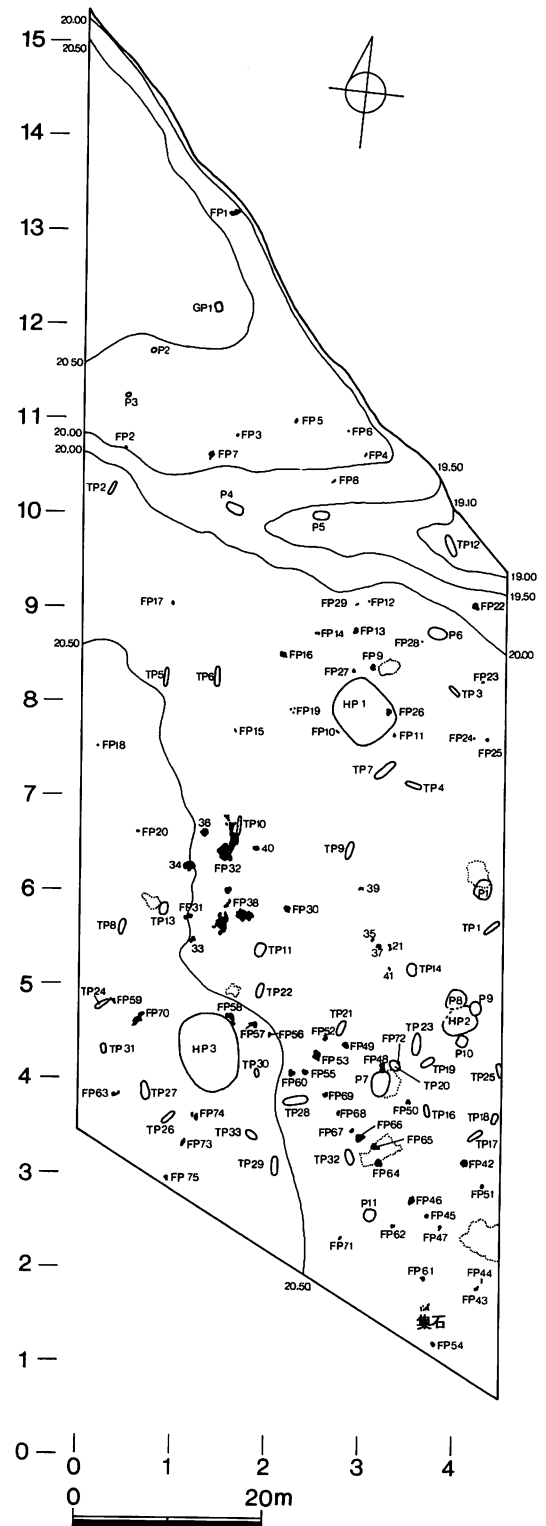
土壇のうち、Y=9ラインの沢跡より北に位置するものは、小型で浅い2・3（0・11区）のみである。沢跡周辺に分布する4～6は、良く似た形態と規模をもつもので、江別市高砂遺跡の報告（1987）において、中期の墳墓の可能性が強いとされている「長円形土壇」と同種の遺構と考えられる。他の土壇は全て沢跡の南側に位置し、そのうち比較的大型で台形に近い平面形を有す1（45-29、46-20区）は縄文時代前期（大麻V式）、他は中期の遺構である。

集石（3・1-75区）は、周辺の遺物などから中期の遺構と思われる。

Tピットは、幅広で壙底に杭穴をもつもの（11・13・14・18・20・30）と杭穴をもたず細長いタイプに大別できる。また、特徴的なものとして壙底に段差をもつ21～23がある。分布をみると、5と6、11と13・14、21～23のように2ないし3基で1セットをなしているようである。

焼土は、東釧路Ⅲ式土器を伴う62以外は中期の所産と思われる。分布をみると、沢跡の北側縁に並ぶもの（2～8）と、1・4、1・6区に集中するもの（30～34・36・38・40）、1・4区（58）から41区（43、44）にかけてほぼ一列の並ぶものが目立つ。なお詳細は後述するが、26周辺及び32・38周辺からは、多量の焼けた石器・方割礫、剥片類が出土しており、また32はTP10が埋没後に残された焼土である。焼土の在り方やTピットの時期的な問題も含めて興味深い。

土壇墓は、沢跡北側の小舌状部（1・12-41区）に単独で確認された北大期のもので、平面形は隅丸長方形で、壙底隅に口縁打欠の土器を収めた袋状掘込をもつ。



図V-2-1 発掘区の地形と遺構の位置

### 1) 竪穴住居跡

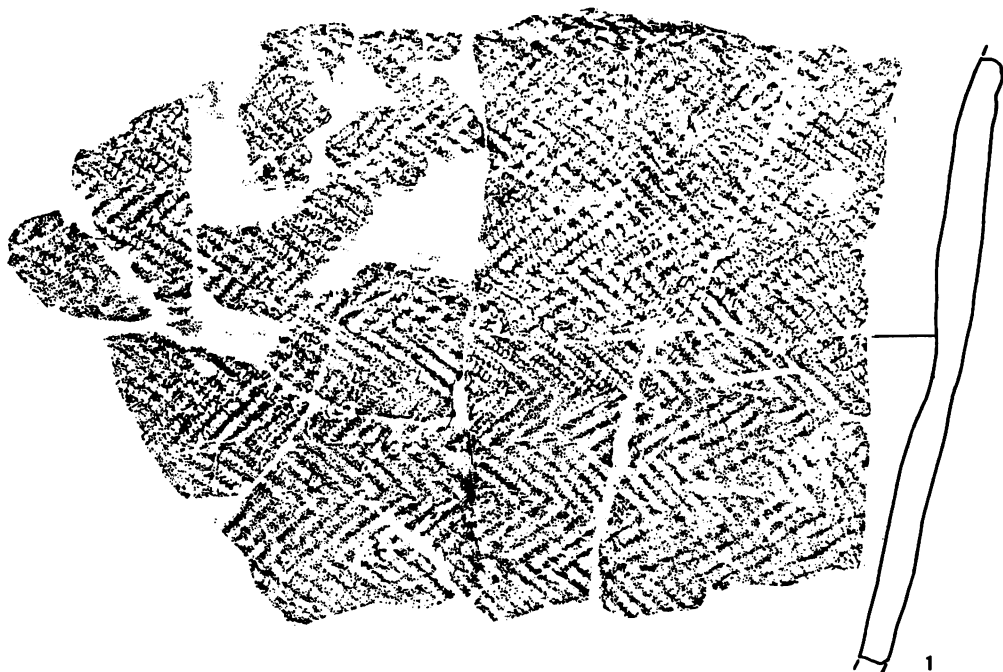
HP 1 長さ580cm 幅572cm 深さ32cm

3・8-00区を中心とする範囲で確認した。平面形は隅丸方形に近く、立上りは明瞭である。中心に1本、四隅に各1本と竪穴の周囲に柱穴をもつ。南隅の柱穴と周囲のいくつかの柱穴は検出しえなかった。地床炉はほぼ中央に位置する。覆土は4層からなり、接合関係および土器形式から覆土1・2層を覆土上層、覆土3・4層を覆土下層とした。15点出土した床面の土器片と覆土下層の70点のうち60点の土器片は大麻V式である。他の床面の遺物として、たたき石1点、石斧片4点、剝片3点がある。出土遺物から大麻V式期の住居跡と思われる。

土器は203点あり、床面および覆土下層は大麻V式、覆土上層は縄文中期の土器が主体である。1は床面と覆土下層の土器で、住居址中央部と壁際に四散して出土したものが接合した。2は覆土下層のもの。口唇は外傾し、口唇と口縁に縄線文が認められる。3は2の胴部。床面・覆土下層・覆土上層のものが接合した。いずれも大麻V式で胎土に繊維を含み器面に羽状縄文が施されている。4～14・16は覆土上層のもの。4は台形の小さな突起をもち、口縁にめぐらせた粘土紐に爪による刻みがみられる。突起頂部は平らに調整されている。5は胴部にめぐらせた貼付帯が爪により刻まれている。いずれも萩ヶ岡1式。6は突起部分を欠いている。口唇が外傾し半截竹管状工具により刻まれ、口縁には竹管による太い沈線が引かれている。大木8a式相当のものと思われる。8～13は天神山式。7・9・12・13には半截竹管状工具による沈線が認められる。8は口縁肥厚帯に竹管文、棒状突起とブリッジ状の垂下帯は半截竹管状工具により施文されている。垂

表V-2-1 層位・分類別出土土器一覧

層位	東御路Ⅲ	中茶路	大麻V	円筒上層	萩ヶ岡1	萩ヶ岡2	大木8a	天神山	柚木川	合計
覆土上層	2	4	8	3	35	6	1	47	12	118
覆土下層		3	60	2	1	3		1		70
床直			15							15
合計	2	7	83	5	36	9	1	48	12	203



図V-2-2 HP1出土の土器 (1)

表V-2-2 HP-1床直・覆土掲載土器一覧  
(大麻V式)

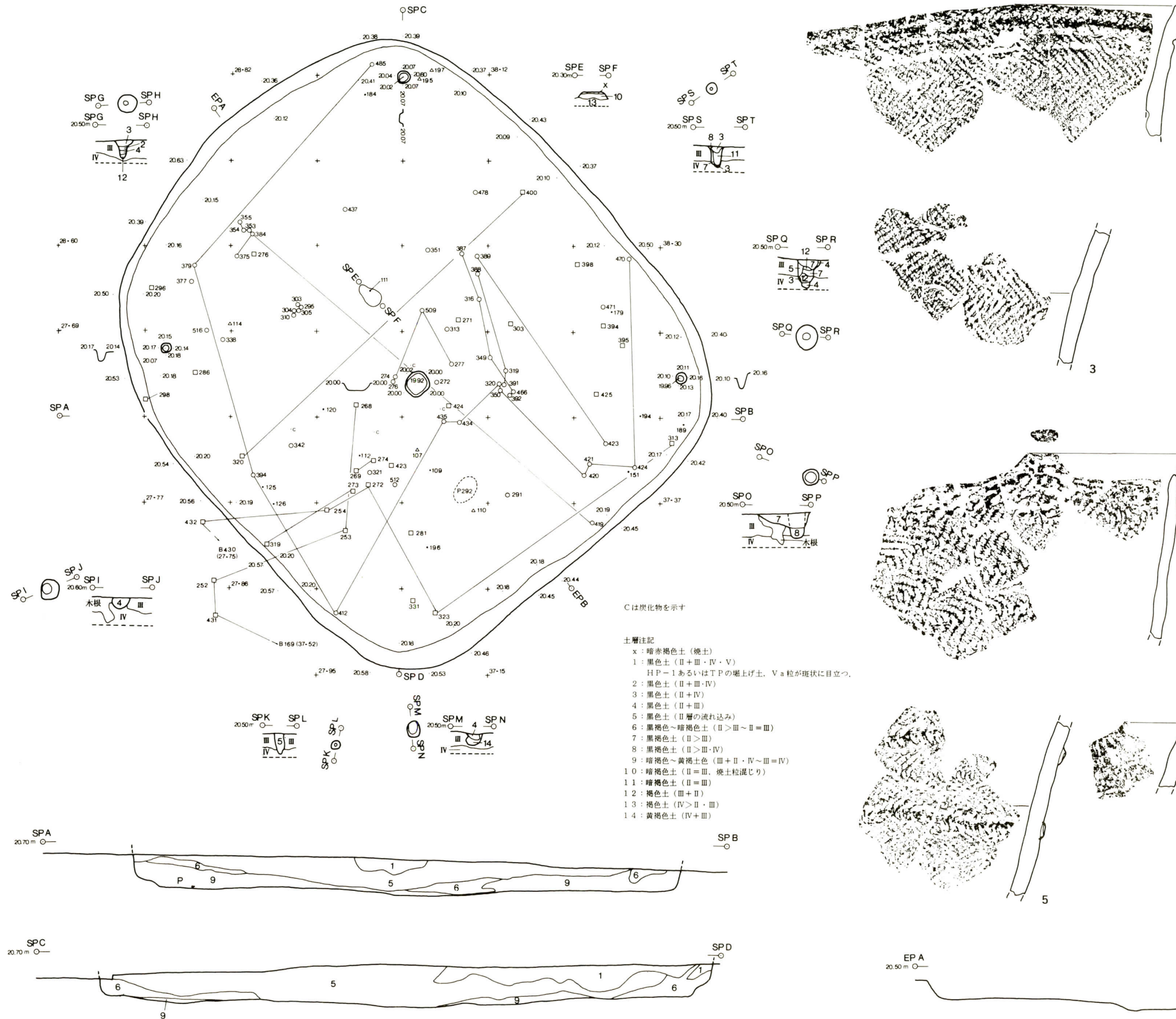
図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考	
1	床直	2・7-79	胴部	1	379	縄線文, 羽状縄文	
	床直	2・7-87	胴部	1	394		
	床直	3・7-18	胴部	1	350		
	床直	3・7-27	胴部	1	420		
	床直	3・7-29	胴部	1	470		
	下層	2・7-95	一括	18	412		
	下層	2・8-92	口縁	1	485		
	下層	3・7-07	胴部	1	435		
	下層	3・7-07	胴部	1	434		
	下層	3・7-18	胴部	1	320		
2	下層	3・7-09	口縁	1	389	口唇外縁, 縄線文, 羽状縄文	
	下層	3・7-27	口縁	4	423		
	3	床直	3・7-09	胴部	2	387	2の胴部, 羽状縄文
		下層	3・7-18	胴部	1	466	
上層		3・7-09	胴部	1	316		
3	上層	3・7-19	胴部	1	349		

図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考
-	床直	3・7-09	胴部	1	388	羽状縄文
	床直	3・7-18	胴部	1	391	
	下層	3・7-18	胴部	1	319	
-	床直	3・7-18	胴部	3	392	LR
-	床直	3・7-29	胴部	3	471	接合, LR
-	下層	2・7-79	胴部	1	516	
-	下層	2・7-79	胴部	1	377	LR
-	下層	2・7-97	口縁	4	321	口唇外縁,
-	下層	3・7-09	口縁	1	313	縄線文, 羽状縄文

\*388から313までは2, 3と同一個体

表V-2-3 HP-1覆土掲載土器一覧  
(萩ヶ岡1式、大木8a式相当)

図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考
4	上層	2・7-98	胴部	2	276	台形の小突起, 口縁にめぐらせた 貼付に爪の刻み, 結束羽状縄文
	上層	2・7-98	口縁	1	274	
	上層	3・7-08	口縁	6	277	
	上層	3・7-09	胴部	1	509	
5	上層	2・8-80	胴部	1	355	貼付帯に爪の刻み 羽状縄文 内面平滑
	上層	2・8-80	胴部	1	354	
	上層	2・8-80	胴部	5	353	
6	上層	2・7-97	口縁	1	512	刻み, 太い沈線



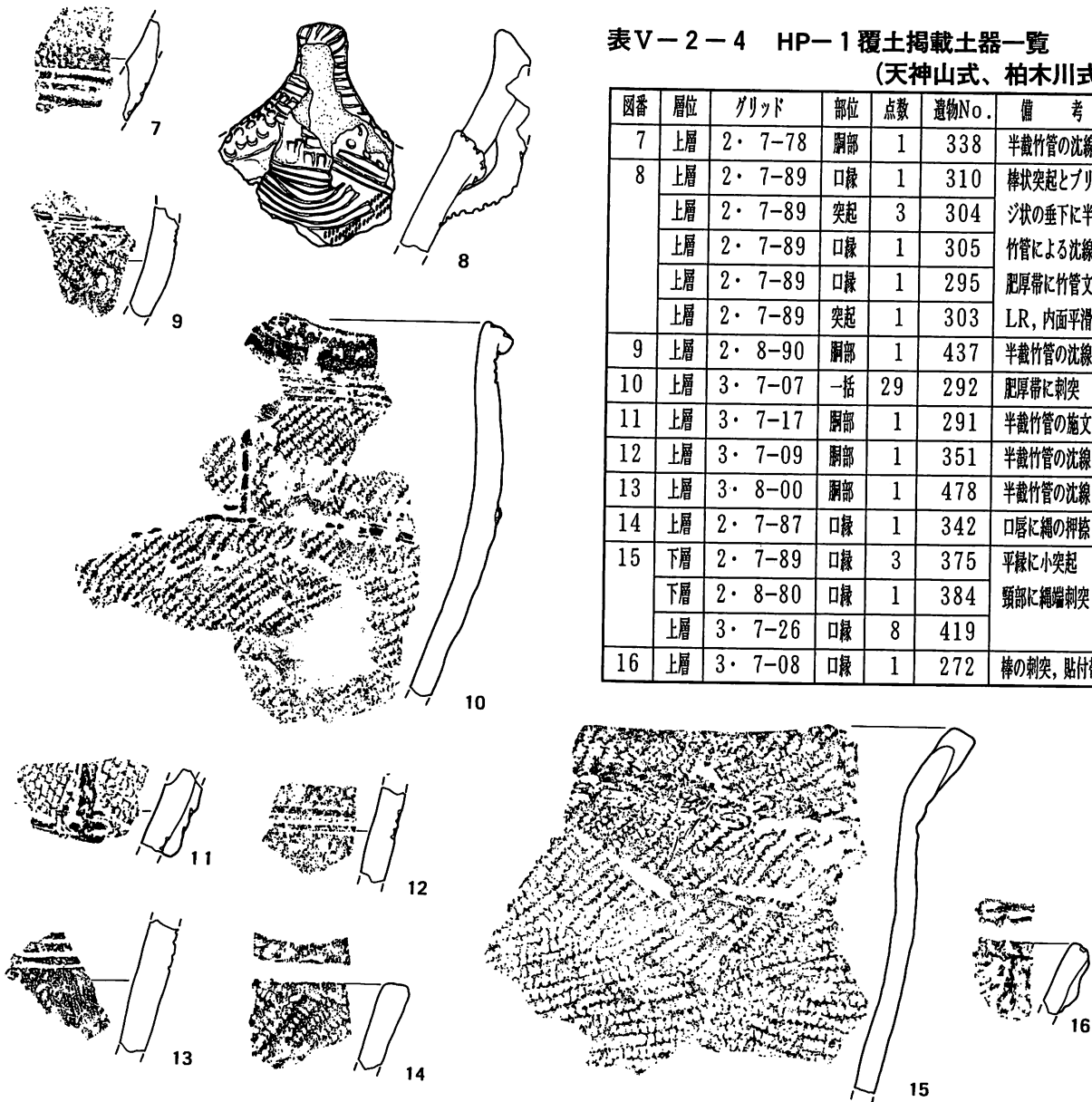
図V-2-3 HP1平面及び断面・出土の土器 (2)

下帯の右側の肥厚帯とその下には沈線が引かれている。10は口縁肥厚帯に半截竹管状工具による刺突が施されている。同様の工具により、口縁には沈線、横環・垂下する貼付帯には押し引きが施されている。11は垂下帯と胴部の三角状突起に半截竹管状工具による押し引きが施されている。また三角状突起から横環する沈線が認められる。14~16は柏木川式に相当する。14は口縁に縄の押捺が認められる。15は覆土下層と上層のものが接合した土器。外反する口縁は平縁で小突起がある。頸部には縄端刺突がめぐらされている。16は口唇・口縁貼付帯・垂下帯に棒状工具による刺突が認められる。

石器類にはたたき石、石斧片、方割礫などがある。図番1は覆土上層出土の搔器で、縞頁岩を素材とし先端に波形刃を作出している。2は床面西側出土の半分と、東側の覆土2層出土の半分が接合した珪質岩素材のたたき石である。3は覆土下層を中心とした石斧片の接合資料で、素材は黒緑色珪質岩である。石斧片は、他に黒緑色泥岩、白緑色泥岩、緑色泥岩、黒緑色片岩の剝片類がある。出土地点は、比較的土器片の出土量が少ない住居跡南側四半分に片寄っており、住居外の包含層との接合関係もみられる。

表V-2-4 HP-1 覆土掲載土器一覧  
(天神山式、柏木川式)

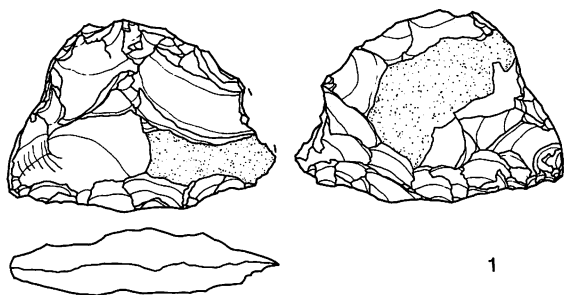
図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考
7	上層	2・7-78	胴部	1	338	半截竹管の沈線
8	上層	2・7-89	口縁	1	310	棒状突起とブリッ
	上層	2・7-89	突起	3	304	ジ状の垂下に半截
	上層	2・7-89	口縁	1	305	竹管による沈線、
	上層	2・7-89	口縁	1	295	肥厚帯に竹管文、
	上層	2・7-89	突起	1	303	LR、内面平滑
9	上層	2・8-90	胴部	1	437	半截竹管の沈線
10	上層	3・7-07	一括	29	292	肥厚帯に刺突
11	上層	3・7-17	胴部	1	291	半截竹管の施文
12	上層	3・7-09	胴部	1	351	半截竹管の沈線
13	上層	3・8-00	胴部	1	478	半截竹管の沈線
14	上層	2・7-87	口縁	1	342	口唇に縄の押捺
15	下層	2・7-89	口縁	3	375	平縁に小突起
	下層	2・8-80	口縁	1	384	頸部に縄端刺突
	上層	3・7-26	口縁	8	419	
16	上層	3・7-08	口縁	1	272	棒の刺突、貼付帯



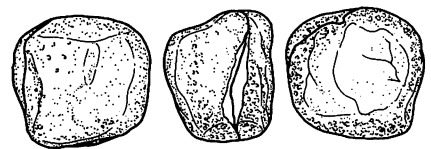
図V-2-4 HP1出土の土器 (3)

表V-2-5 HP-1出土石器等一覧

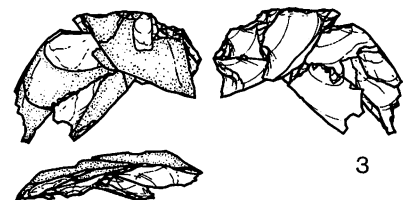
No.	グリッド	層位	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石質	分類	図番	遺物No	備考
1	2・7-78	覆土下層	21.0	13.0	3.0	0.9	黒色泥岩	石斧		286	背面部、耐痕あり
	79	覆土下層	38.2	13.3	3.4	1.8	黒色泥岩	石斧		296	背面部、耐痕あり
	3・7-29	床直	6.1	3.4	2.1	+	黒色泥岩	石斧		398	刃部片
2	2・7-78	覆土下層	137.8	90.9	77.4	1,110	凝灰岩	方割礫D		298	
3	2・7-79	覆土上層	70.7	50.0	15.6	48.8	縞頁岩	搔器	1	114	先端に細い加工で波形刃作出
4	2・7-86	覆土上層	33.6	19.3	6.3	4.2	白色泥岩	石斧		319	背面部、273(27-97、覆土下層)と接合
	3・7-09	覆土上層	24.0	11.5	2.0	0.6	白色泥岩	石斧		271	中央部片
5	2・7-86	覆土下層	—	—	—	0.4	黒曜石	剥片		126	
6	2・7-87	覆土下層	—	—	—	0.4	黒曜石	剥片		125	
7	2・7-87	床直	54.0	52.0	44.0	209.1	珪質岩	たたき石	2	320	400(38-10、覆土2)と接合
8	2・7-89	覆土上層	93.2	54.8	56.0	279.3	黒色泥岩	方割礫B		276	
9	2・7-97	覆土下層	75.3	43.4	15.6	35.3	黒色珪質岩	石斧	3	272	背面部、430・432・254(27-75・76・96、I層)、323(37-05、覆土下層)、313(37-37、II層)と接合
	97	覆土上層	32.7	29.0	6.2	4.8	黒色珪質岩	石斧		269	背面部、274(27-97、覆土下層)と接合
	98	覆土下層	54.2	33.0	7.7	10.1	黒色珪質岩	石斧		268	背面部、431・252・253・169(27-75・76・86、37-52、I層)と接合
	3・7-05	床直	39.3	15.0	4.8	2.2	黒色珪質岩	石斧		331	背面部
	08	覆土上層	23.5	15.3	3.6	1.6	黒色珪質岩	石斧		424	背面部
	29	覆土上層	32.4	18.0	3.8	2.4	黒色珪質岩	石斧		394	背面部
	2・7-97	覆土下層	—	—	—	+	黒曜石	剥片		112	2点あり
	2・7-97	覆土上層	91.0	42.7	36.0	190.8	安山岩	楕円礫		423	
	2・7-98	覆土下層	—	—	—	+	黒曜石	剥片		120	
2・7-99	覆土下層	—	—	—	+	黒曜石	剥片		111		
2・8-91	覆土下層	—	—	—	0.4	黒曜石	剥片		184		
3・7-06	覆土下層	11.4	8.6	1.9	0.2	黒曜石	R・F		110	背面加工の端部片	
3・7-06	床直	—	—	—	0.5	黒曜石	剥片		196		
3・7-06	覆土下層	58.0	65.4	41.0	151.4	安山岩	方割礫D		281		
3・7-07	覆土上層	26.3	23.0	4.0	2.2	黒曜石	R・F		107	一側縁背面加工、先端欠損	
3・7-07	覆土上層	—	—	—	0.2	黒曜石	剥片		109	2点あり	
3・7-19	床直	37.0	21.2	5.8	4.0	緑色泥岩	石斧		303	背面部	
3・7-27	床直	—	—	—	0.1	黒曜石	剥片		151		
3・7-28	床直	24.6	19.0	5.8	2.0	黒色片岩	石斧		395	中央部片	
3・7-28	覆土上層	52.8	41.0	17.0	29.4	凝灰岩	方割礫B		425		
3・7-28	覆土上層	—	—	—	+	黒曜石	剥片		194		
3・7-29	覆土下層	—	—	—	0.1	黒曜石	剥片		179		
3・7-37	床直	—	—	—	0.3	黒曜石	剥片		189		
3・8-01	覆土上層	18.8	11.6	2.4	0.8	黒曜石	R・F		195	背面加工の側縁部片、磨けてから割れている	
3・8-02	覆土上層	17.1	9.2	3.5	0.6	黒曜石	石鏃		197	有柄凸基、先端欠損	
29	竪穴排土	—	35.5	12.3	8.0	5.1	頁岩	つまみ付きナイフ		149	縦長、両側縁背面加工、先端欠損



1



2



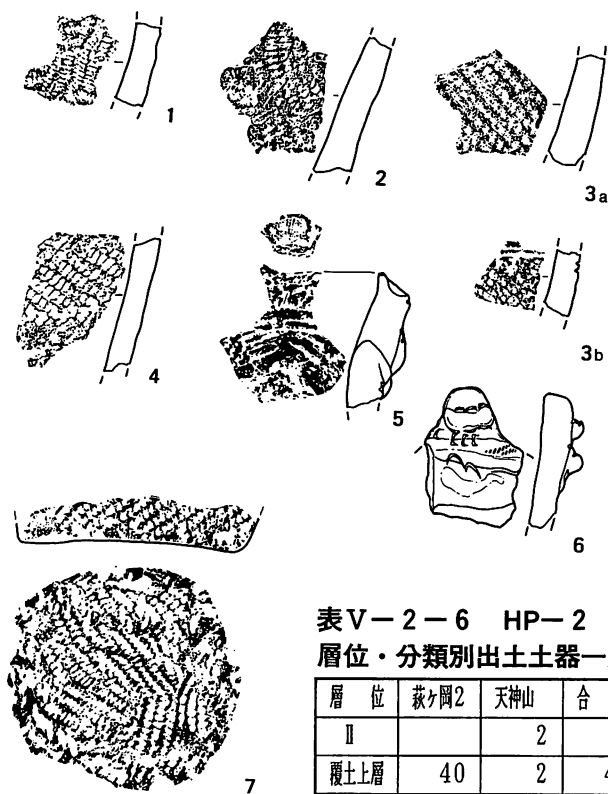
3

図V-2-5 HP-1出土の石器

HP 2 長さ392cm 幅332cm 深さ30cm

4・4-05区を中心とする範囲で確認した。西側を試掘穴により失っているが、平面形は楕円形に近く、立上りは明瞭である。柱穴や炉跡はなく、床面のほぼ中央に石皿が残されていた。他の床面出土遺物には、石斧片8点と黒曜色の剥片1点があるのみで、土器は出土していない。従って時期の確定はできないが、覆土や本遺構を切っているP8の出土遺物などから萩ヶ岡2式期の遺構と思われる。なお東側にあるP9は本遺構に切られているが、伴う遺物はなく時期は不明である。またP10は、土層断面から同時期に存在したものと考えられ、本遺構に属する土層と思われる。遺物は横立ちの状態出土した台石の他に、多量の黒曜石剥片(7,625点)や破損した石器類(11点)がみられ、周囲にも313点の剥片類が散っていた。この他、4・4-27区のP9東側からは剥片類127点、石斧片73点が比較的まとまって出土しており、こうした点から本遺構は石器制作に関わるもので、P10や4・4-27区の遺物は一括廃棄された剥片類と考えられる。

覆土出土の土器のほとんどは萩ヶ岡2式である。1～3bは覆土下層、4・5は上層、6・7はⅡ層出土の土器である。1は器面にLRとRLの縄文が認められる。地文は羽状縄文と思われる。内面は平滑で、胎土に砂粒を含む。2は底部に近い胴部破片。地文はRLで強く焼き締まる。3aは摩耗しておりRLの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。3bには細い竹管状工具による沈線が引かれている。4はRLの縄文の上にLRの縄文が認められる内面は平滑である。5は棒状突起、口縁肥厚帯とその下の三角状突起に竹管状工具により沈線が施されている。突起頂部には指頭による圧痕と爪跡がある。6は摩耗しているが、突起に貼付した粘土紐に竹管状工具による刺突が施されている。口縁肥厚帯には刺突とLRの縄文がみられる。7はやや上げ底気味の底部で、器面と底面にLRの縄文が施されている。強く焼き締まる。



表V-2-6 HP-2 層位・分類別出土土器一覧

層位	萩ヶ岡2	天神山	合計
Ⅱ		2	2
覆土上層	40	2	42
覆土下層	13	1	14
合計	53	5	58

図V-2-6 HP-2出土の土器

表V-2-7 HP-2覆土下層出土土器一覧

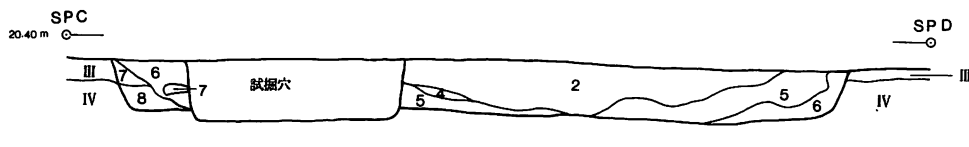
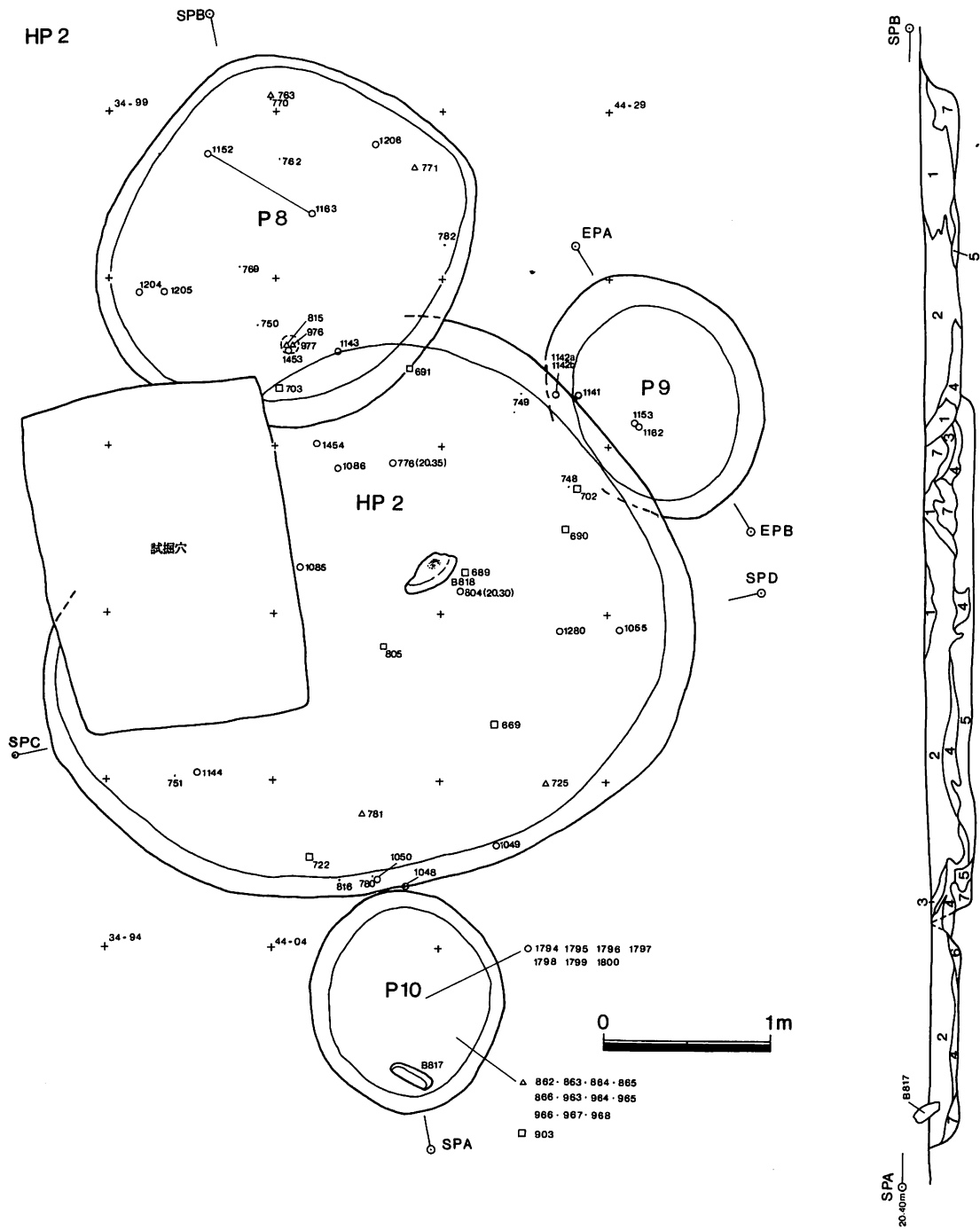
図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・4-06	胴部	1	萩ヶ岡2	1086	胎土に砂
1	4・4-07	胴部	1	萩ヶ岡2	1143	羽状縄文
2	4・4-14	胴部	1	天神山	1049	RL
3a, b	4・4-17	胴部	11	萩ヶ岡2	1142	RL・沈線

表V-2-8 HP-2覆土上層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
4	3・4-95	胴部	1	萩ヶ岡2	1144	羽状縄文
5	4・4-04	突起	1	天神山	1048	半截竹管の沈線
—	4・4-04	胴部	1	萩ヶ岡2	1050	細片, 胎土に砂
—	4・4-06	胴部	1	萩ヶ岡2	1085	RLとLR
—	4・4-07	一括	34	萩ヶ岡2	1453	LRとRL, 細片
—	4・4-07	胴部	1	天神山	1454	半截竹管の沈線
—	4・4-15	胴部	2	萩ヶ岡2	1280	接合, 胎土に砂
—	4・4-25	底部	1	萩ヶ岡2	1055	剥離, 底面平滑

表V-2-9 HP-2上Ⅱ層出土掲載土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
6	4・4-06	突起	1	天神山	804	半截竹管の刺突
7	4・4-06	底部	1	天神山?	776	底面にもRL



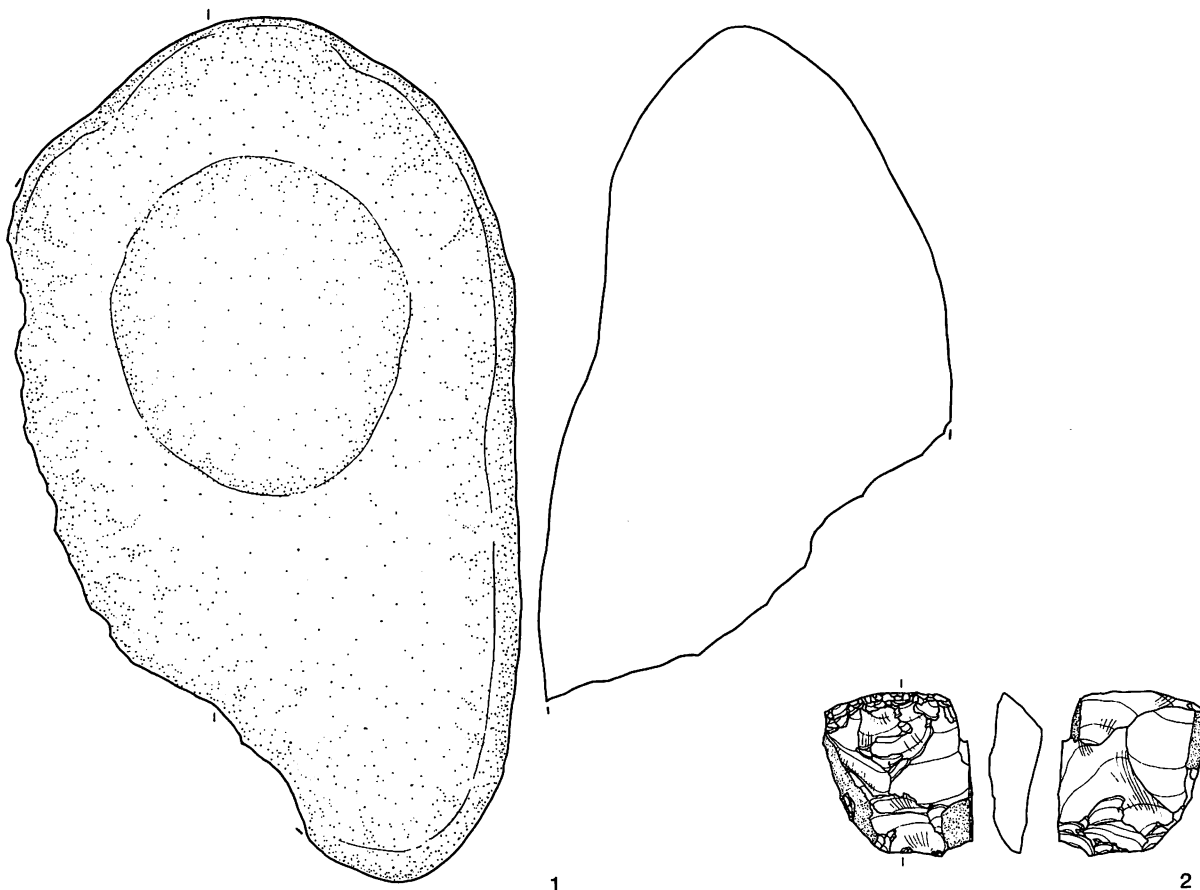
- 土層注記
- 1 : 褐色土 (Ⅱ')
  - 2 : 黒色土 (Ⅱ、若干のⅤa粒を含む)
  - 3 : 暗黄褐色土 (Ⅱ=Ⅲ=Ⅳ+Ⅴa)
  - 4 : 黒褐色土 (Ⅱ>Ⅲ・Ⅳ+Ⅴa)
  - 5 : 暗黄褐色土 (Ⅳ>Ⅱ・Ⅲ+Ⅴa)
  - 6 : 暗褐色土 (Ⅱ=Ⅲ+Ⅳ)
  - 7 : 暗黄褐色土 (Ⅲ+Ⅱ・Ⅳ)
  - 8 : 黄褐色土 (Ⅲ>Ⅳ)

図V-2-7 HP2・P8~10平面及び断面

表V-2-10 HP-2出土石器等一覧

No.	グリッド	層位	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	分類	図番	遺物No	備考
1	3・4-95	床直	—	—	—	+	黒曜石	剥片		751	2点あり
2	4・4-04	覆土層	26.7	29.2	21.6	14.2	黒曜石	石核		781	三面に原石面を残す
3	4・4-04	床直	27.0	13.5	5.5	1.5	白砂岩	石斧		722	刃部片、両刃
4	4・4-04	覆土層	—	—	—	0.6	黒曜石	剥片		780	2点あり
5	4・4-04	覆土層	—	—	—	6.0	頁岩	剥片		816	磨した燧石片
6	4・4-05	覆土層	96.9	93.6	82.3	1,020	安山岩	方割礫C		805	石皿片か
7	4・4-06	床直	340.0	193.0	170.0	11900	安山岩	石皿	1	818	両面すりくぼみ一辺欠損
8	4・4-07	床直	21.9	37.4	4.6	2.5	黒砂岩	石斧		703	背部片
9	4・4-07	覆土層	78.8	61.1	40.6	162.9	安山岩	方割礫B		691	
10	4・4-14	覆土層	44.8	38.3	12.7	24.7	黒曜石	石核	2	725	三面に原石面を残す
11	4・4-15	床直	34.0	23.4	5.7	3.7	砂岩	石斧		669	背部片
12	4・4-16	床直	20.8	20.7	3.7	1.4	緑色泥岩	石斧		689	背部片
13	4・4-16	床直	26.4	20.6	4.2	2.4	緑色泥岩	石斧		690	背部片
14	4・4-16	床直	27.3	25.5	5.3	4.0	白砂岩	石斧		702	背部片
15	4・4-16	床直	—	—	—	0.1	黒曜石	剥片		748	
16	4・4-17	床直	—	—	—	0.2	黒曜石	剥片		749	

石器類の出土量は、付属するP10に比較すると極端に少ない。図番1の石皿は安山岩の大型楕円礫を素材としたもので、両面に明瞭なすりくぼみ部分がみられ、裏側の使用部分が半分失われていることから、欠損後に図示した面を用いたものかと思われる。前述したように床面出土の遺物はこの石皿を除くと、石斧片と黒曜石の剥片のみである。2は覆土上層出土の黒曜石石核である。覆土上層出土の遺物は、他に石核・方割礫各1点と剥片3点があるが、これらは一度P10内に廃棄されたものが流れ出したものの可能性が高い。



図V-2-8 HP2出土の石器



### HP 3 長さ834cm 幅630cm 深さ28cm

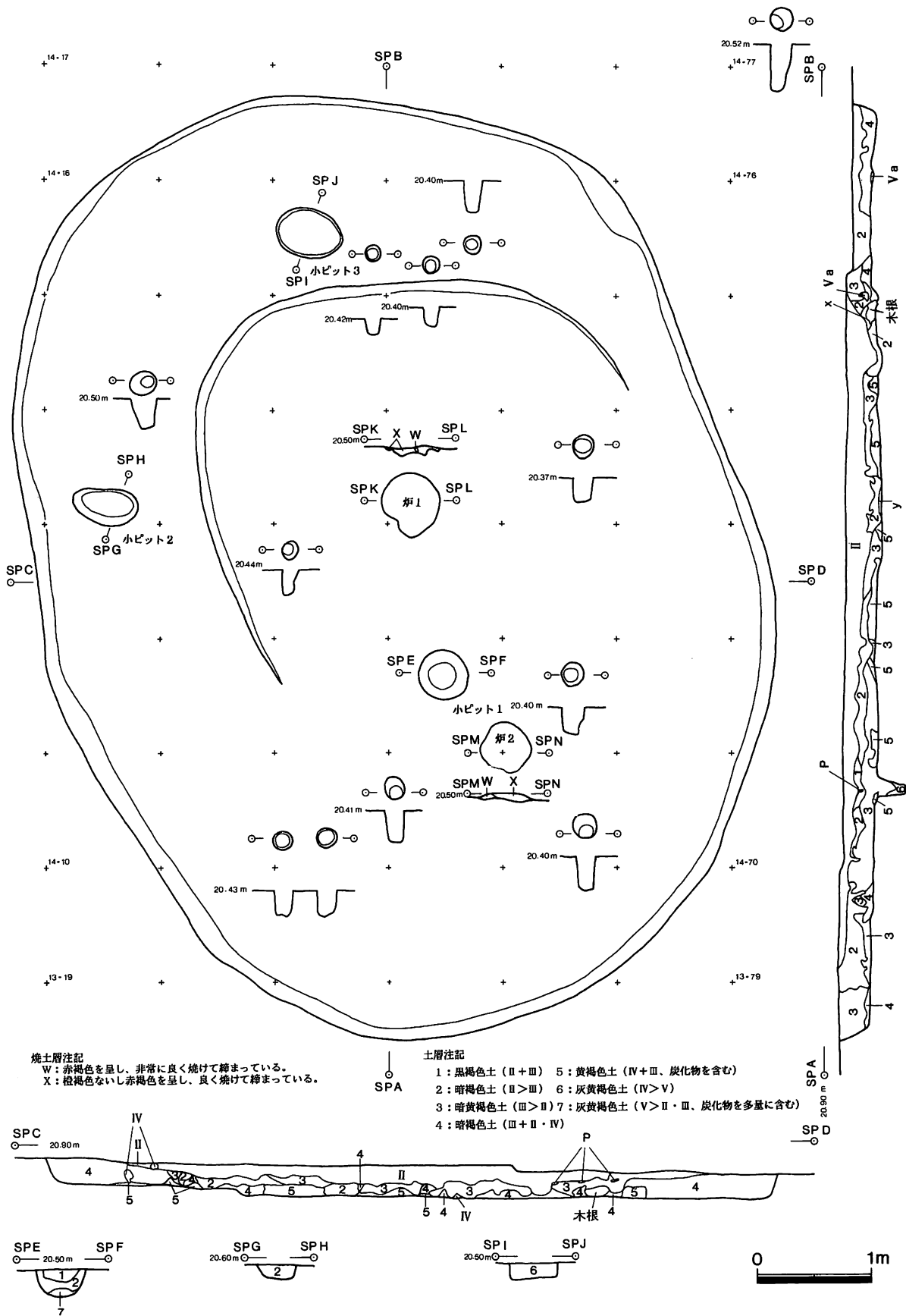
2・4-42区周辺で確認した。出土土器から萩ヶ岡2式期の住居跡と思われる。墳底に、北東側から西側に廻る段が確認され、ベンチをもつ住居の可能性が考えられたが、土層断面及び炉の位置、床面の状況などから、当初は、炉1を中心とする4～5m前後の規模をもつ住居であったものが、その後大幅に拡張され上記の規模をもつ長円形の大型住居になったことが判明した。最終的な床面は、北西側から北東側にわずかに傾斜しており、そのため北寄りに当初の床面が残っているが、拡張時にこの部分を埋めた形跡はない。柱穴と考えられるものは住居内に11ヵ所と住居外に1ヵ所確認されているが、配列ははっきりしない。柱根部の太さは12～15cm、深さは20～40cmである。2ヵ所の炉はいずれも良く焼けて締まっている。炉1は当初から使用され、拡張後も引き続き使用されたものと思われる。炉2の焼土中には炭化物が認められた。両方共焼土をフローテーションしたが、植物及び動物遺体は検出できなかった。小ピット1は床面中央南側にあり、円形で25cmほどの深さをもつ。墳底は丸みを帯び、炭化物を多量に含む層がみられる。遺物はその上面から萩ヶ岡2式土器片5点と石鏃基部片と思われる焼けたR・F1点、剥片9点が出土している。西側に設けられた小ピット2は、長円形を呈し墳底は平坦で、深さは12cmである。ピット内の出土遺物は、萩ヶ岡2式土器の細片3点と黒曜石剥片2点である。北側の小ピット3は、楕円を呈し、墳底は凹凸が激しく遺物は出土していない。

遺物の分布をみると、床面覆土とも当初範囲の内側は希薄で、東西の壁近くに集中しているのが認められる。床面出土土器では、小ピット2及びその南側が最も多く、復元個体のうち2個体はこの部分からの出土である。次いで東側、南側の順に多く、これらの間には接合関係がある。床面出土の石器類も、土器同様東西の壁近くに集中するが、石斧片やR・F、破損品が主体である。石斧片は東西間及び住居外との接合関係がある。なお、黒曜石の剥片・碎片類の集中出土地点が6ヵ所確認されている。このうち最も集中していたのは東壁中央付近(No.57、遺物No.886)で、6,967点の剥片・碎片が出土した。また、そのやや北側にはそれぞれ1,889点と504点の集中も認められている。この他、北壁側で2ヵ所(52点と19点)、西側の段差部分に1ヵ所(17点)の小さな集中がある。

土器片は総点数761点が出土している。柱穴・小ピット・炉出土の12点中11点、床面出土の204点中199点が萩ヶ岡2式に相当するものである。

復元できた土器は4個体で、いずれも図示した部分以外は欠けている。図番1は西側床面出土の土器で、推定口径28cm、同器高22cm。2は西側床面と覆土上層出土の破片が接合したもので、口径24.0cm、推定器高34cm。3は覆土上層出土で、口径20.0cm、器高33.2cm。底径9.0cm。4は覆土上層とⅡ層出土のものが接合しており、推定口径23.5cm、同器高35.5cm、同底径12cmを計る。1・2・4は台形の突起をもち、口縁に粘土紐を貼り付けた下に垂下帯を付し、半截竹管状工具による沈線を施文している。3は緩い突起をもち、口縁には細い粘土紐を貼り付け、やはり垂下帯をもつ。地文は1・2はLR+RL、3はRL+LR、4はLR+RLとRL+LRの結束羽状縄文である。5は柱穴内、6～7は小ピット1内出土の萩ヶ岡2式で、いずれも胎土に砂粒を含む。5はLR+RLの縄文をもち内面は平滑である。6はRL+LRの結束羽状縄文と思われる。7は貼付け部分から沈線が引かれている。8は炉1出土の円筒上層で、外傾した口唇に縄の押捺が認められ、その下に太めの沈線が引かれている。内面は平滑で胎土に砂粒を含む。9～21は床面出土のものである。9は覆土上層出土の破片と接合した東釧路Ⅲ式の底部で、縄端圧痕がみられる。10・11は萩ヶ岡1式に相当する。10は垂下帯に縄の押捺が認められる。11は内面が平滑で、

HP3

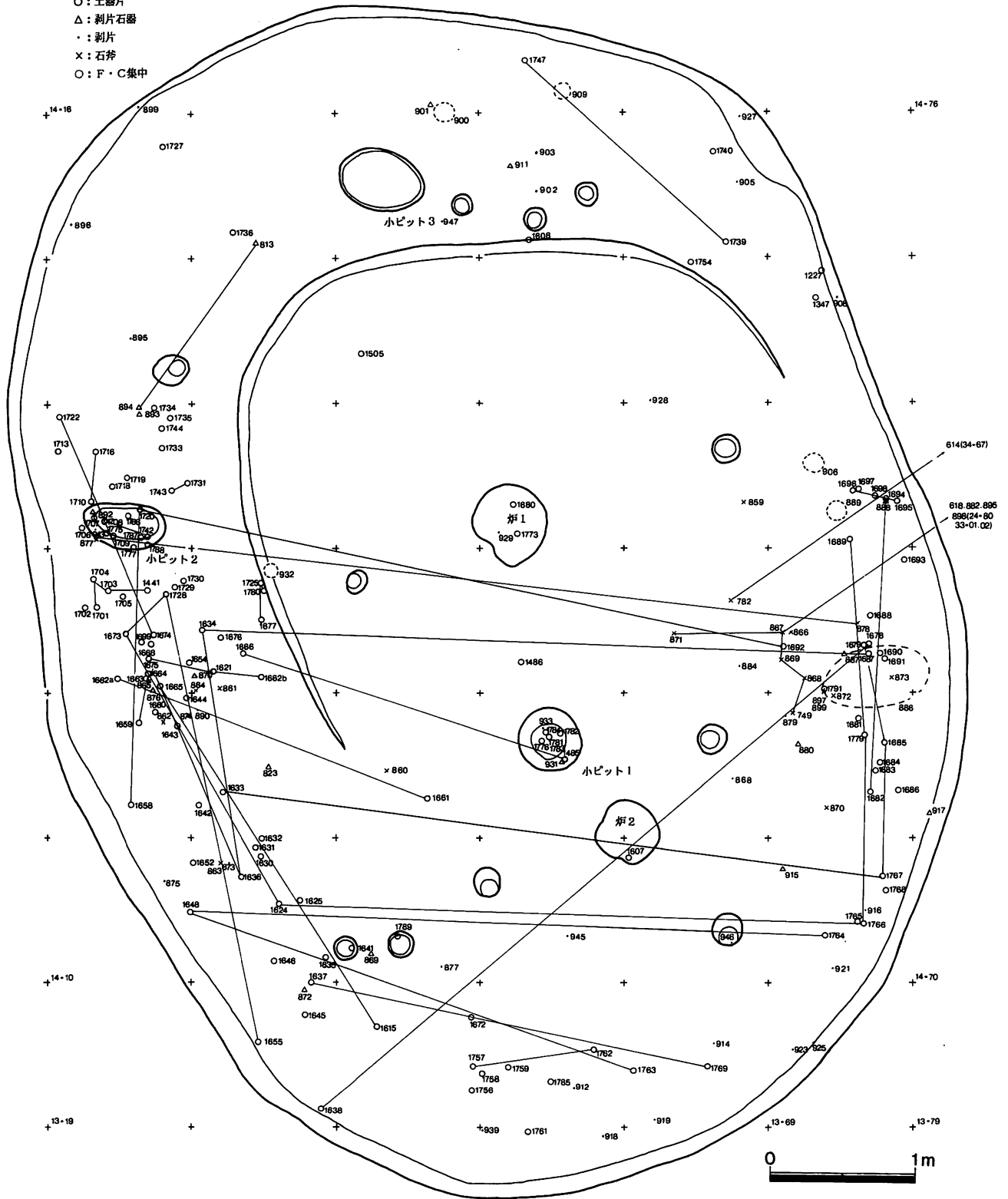


図V-2-9 HP3平面及び断面

HP3

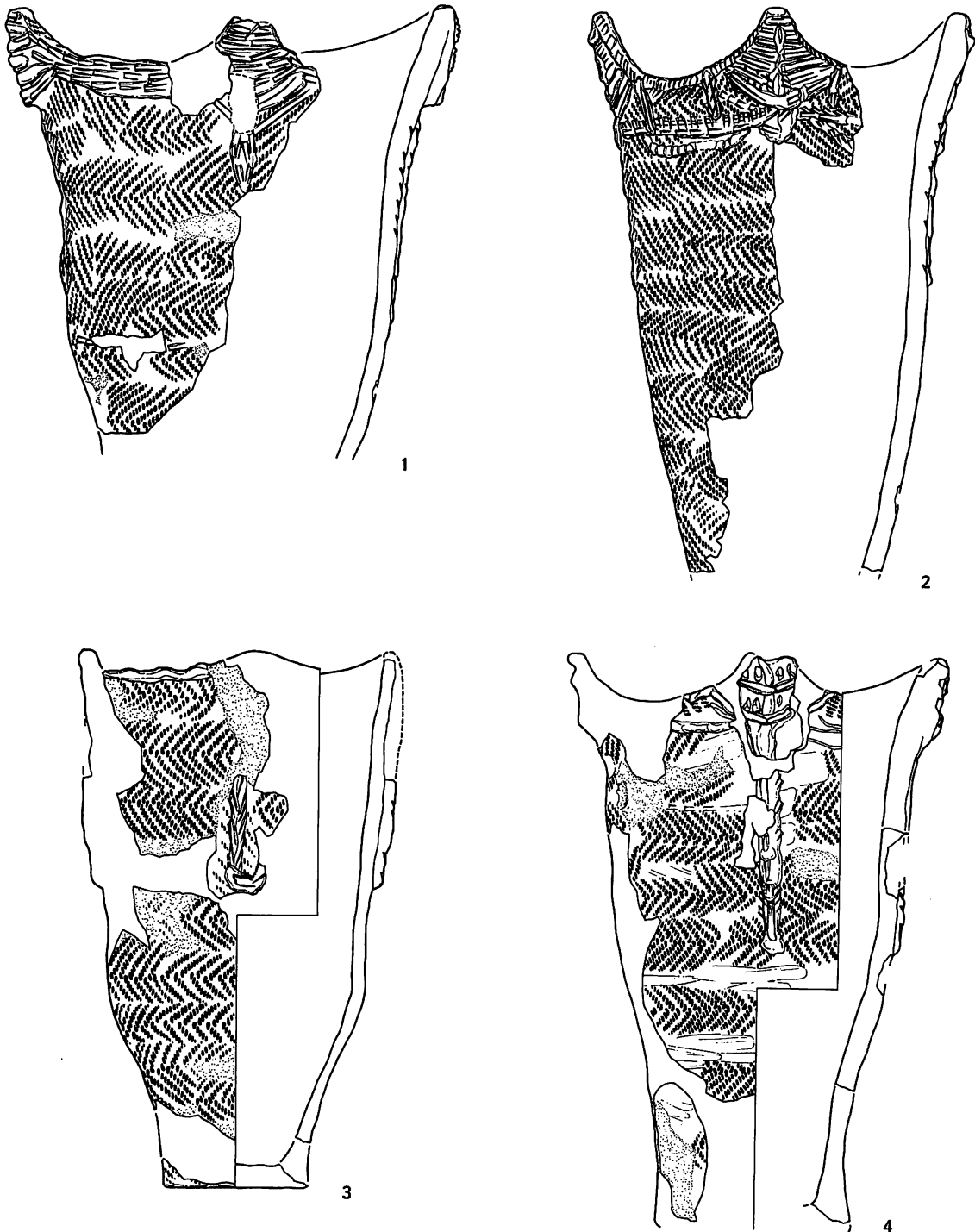
+14-17 + + + + +14-67 +14-77

- 凡例  
 ○：土器片  
 △：剥片石器  
 ・：剥片  
 ×：石斧  
 ○：F・C集中



図V-2-10 HP3遺物分布

口縁に貼付帯があり、口唇には爪によると思われる刻みがある。12~21は萩ヶ岡2式と思われる。12は底面にも縄文が施文されている。13・14は内面が平滑で胎土に砂粒を含む、13は器面にLR + RLの結束羽状縄文が認められる。14は口縁に粘土紐が貼付され、その上に半截竹管状工具による沈線が引かれている。15はLR + RL、16はRL + LRの結束羽状縄文が施されている。17は砂っぽい胎土で堅く焼き締まり、結節のある縄文が施されている。18はLRとRLの縄文が認められる。19は内面が平滑で貼付帯と垂下帯に半截竹管状工具による沈線が施されている。20は胎土が良く、器内外とも平滑で茶褐色を呈す。LR縄文を地文とし、貼付帯には横・縦、その下位には縦・斜めの沈線が半截竹管状工具によって施文されている。22~26は覆土下層出土の萩ヶ



図V-2-11 HP3出土の土器 (1)

岡 2 式である。22は内面が平滑で、二条の粘土紐上を半截竹管状工具によって矢羽状に刻んでいる。23は内面が平滑で胎土に砂粒を含む。垂下帯に細い半截竹管状工具による押し引きが、器面には同様工具による沈線がみられる。24はやや張出し気味の底部でLR 縄文がみられる。25・26は垂下帯に竹管状工具による太い沈線が引かれている。25は胎土に小礫がみられる。27～30は覆土上層出土で、27・28は天神山式、29・30は萩ヶ岡 2 式で胎土に砂粒を含む。27は複節縄文を地文とし半截竹管状工具による沈線が加えられている。28は口唇にも縄文が施され、肥厚帯の下が調整されている。包含層で棒状突起をもつ同様の土器が出土しているが、いずれも胎土が粉っぽく、堅く焼き締まる。29は口縁に貼付した粘土紐と垂下帯に、半截竹管状工具による沈線と押し引きが認められる。30は器面が摩擦しているが、口縁貼付帯に半截竹管状工具による沈線と爪による刻みがある。

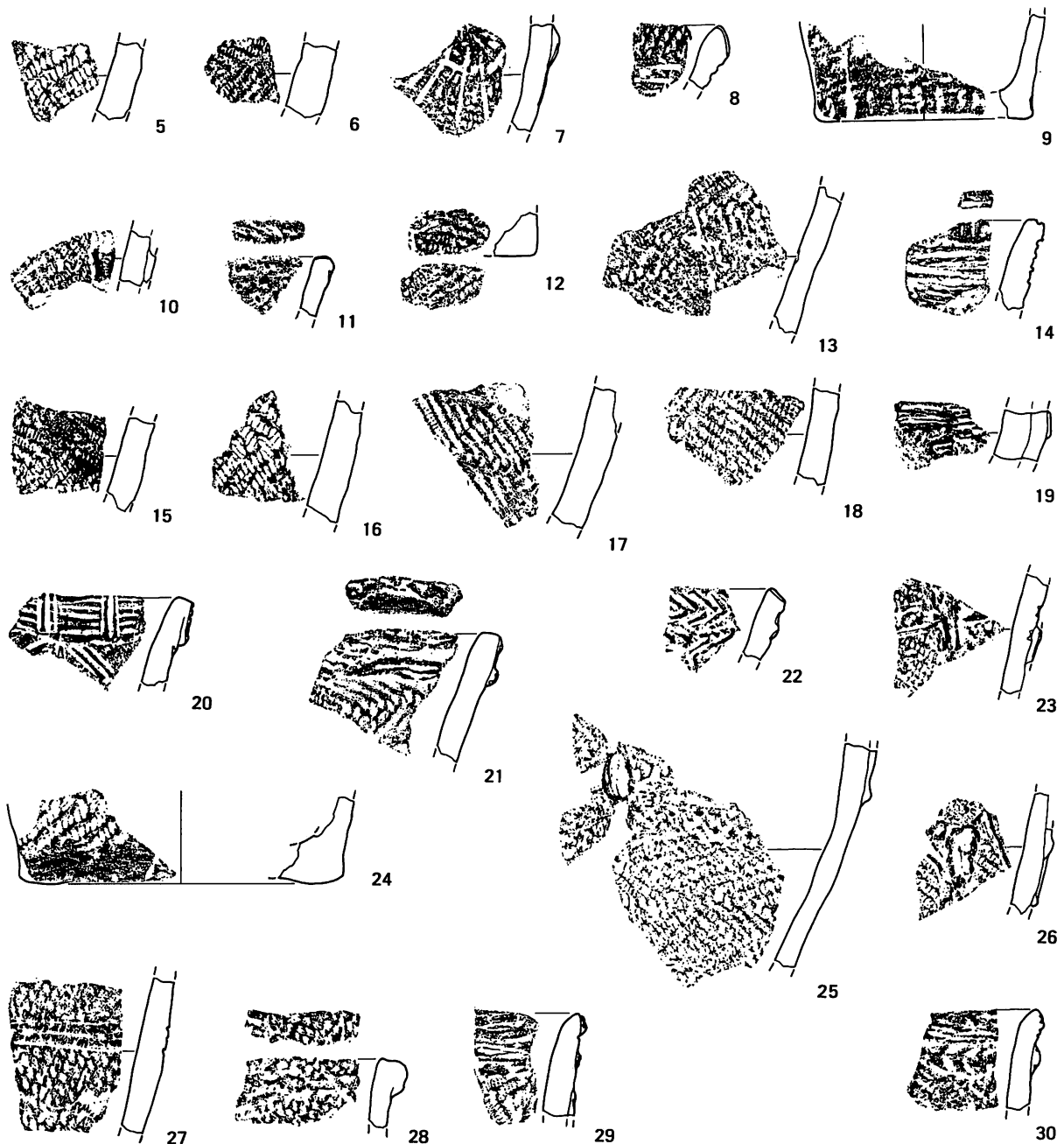


図 V-2-12 HP3 出土の土器 (2)

表V-2-11 HP-3層位・分類別出土土器一覧

層位	東御路Ⅲ	円筒上層	萩ヶ岡1	萩ヶ岡2	天神山	不明	合計
Ⅱ				59			59
覆土上層	1		26	95	28	220	370
覆土下層			8	79	19	10	116
床直	1		4	199			204
地床炉1		1		1			2
地床炉2				1			1
SP1				5			5
SP2				3			3
柱穴内				1			1
合計	2	1	38	443	47	230	761

表V-2-12 HP-3実測土器一覧(萩ヶ岡2)

図番	層位	グリッド	部位	点数	遺物No.	備考
1	床直	1・4-22	一括	36	1677	半截竹管
	床直	1・4-22	胴部	1	1725	結束羽状, 砂
	床直	1・4-22	胴部	2	1780	
2	床直	1・4-22	一括	42	1666	半截竹管の沈線
	上層	1・4-41	胴部	1	1485	結束羽状
3	上層	1・4-34	一括	37	1505	垂下に沈線
4	上層	1・4-12	胴部	1	1701	垂下に沈線
	上層	1・4-12	胴部	5	1704	
	上層	1・4-12	胴部	3	1703	
	Ⅱ	1・4-12	一括	59	1441	

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
13	1・3-39	胴部	1	萩ヶ岡2	1757	結束羽状, 胎土砂
	1・3-49	胴部	1	萩ヶ岡2	1762	
14	1・3-49	口縁	1	萩ヶ岡2	1758	半截竹管の沈線
15	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1663	結束羽状縄文
16	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1668	結束羽状, 胎土砂
17	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1733	RL, 結節
18	1・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	1631	羽状縄文, 胎土砂
19	1・4-22	胴部	1	萩ヶ岡2?	1676	貼付に沈線
20	1・4-61	口縁	1	萩ヶ岡2?	1686	半截竹管の沈線
21	1・4-63	口縁	2	萩ヶ岡2	1698	貼付に沈線

表V-2-13 HP-3柱穴出土掲載土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
5	1・4-30	胴部	1	萩ヶ岡2	1789	羽状縄文

表V-2-14 HP-3小ピット1出土掲載土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
6	1・4-41	胴部	1	萩ヶ岡2	1776	羽状縄文
7	1・4-41	胴部	1	萩ヶ岡2	1784	竹の沈線

表V-2-17 HP-3覆土下層出土掲載土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
22	1・4-11	口縁	1	萩ヶ岡2	1660	矢羽根状の刻み
23	1・4-15	胴部	1	萩ヶ岡2	1727	半截竹管の沈線
24	1・4-20	底部	1	萩ヶ岡2	1652	胎土に砂
25	1・4-46	胴部	3	萩ヶ岡2	1747	垂下に竹の施文
	1・4-55	胴部	1	萩ヶ岡2	1739	結束羽状縄文
26	1・4-55	胴部	1	萩ヶ岡2	1740	垂下に竹の施文

表V-2-15 HP-3地床炉1出土掲載土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
8	1・4-43	口縁	1	円筒上層	1773	沈線, 口縁に縄

表V-2-18 HP-3覆土上層出土掲載土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
27	1・4-42	胴部	1	天神山	1486	複節の斜縄文
28	1・4-45	口縁	1	天神山	1608	口縁肥厚帯に縄文
29	1・4-64	口縁	1	萩ヶ岡2	1347	貼付に沈線
30	1・4-64	口縁	1	萩ヶ岡2	1227	貼付に爪と沈線

表V-2-16 HP-3床直出土掲載土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
9	1・4-12	底部	1	東御路Ⅲ	1674	縄端刺突, 張出す
	1・4-13	底部	1	東御路Ⅲ	1722	覆土上層
10	1・3-39	胴部	1	萩ヶ岡1	1756	貼付に縄文
11	1・4-60	口縁	1	萩ヶ岡1	1768	口唇に爪の刻み
12	1・3-39	底部	2	萩ヶ岡2	1672	底面にも縄文

表V-2-19 HP-3小ピット1出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-41	胴部	1	萩ヶ岡2	1781	細片, 摩耗
—	1・4-41	胴部	1	萩ヶ岡2	1783	細片, 剥離
—	1・4-41	胴部	1	萩ヶ岡2	1782	細片, 摩耗

表V-2-20 HP-3小ピット2出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1786	摩耗, 細片
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1787	細片, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1788	細片, 胎土に砂

表V-2-21 HP-3地床炉1出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-43	胴部	1	萩ヶ岡2	1680	細片, LR

表V-2-22 HP-3地床炉2出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-50	胴部	1	萩ヶ岡2	1607	細片, 摩耗

表V-2-23 HP-3床直出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1655	胎土に砂
	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1728	結束羽状縄文?
	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1673	摩耗, 細片
	1・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	1624	結束羽状縄文?
	1・4-60	胴部	1	萩ヶ岡2	1766	結束羽状縄文?
	1・4-61	胴部	1	萩ヶ岡2	1779	摩耗, 細片
	1・4-63	胴部	1	萩ヶ岡2	1689	摩耗, 細片
—	1・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2?	1645	摩耗, 細片
—	1・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1638	摩耗, 細片
	1・4-62	胴部	1	萩ヶ岡2	1678	
—	1・3-39	胴部	1	萩ヶ岡2	1615	胎土に砂
	1・4-12	胴部	2	萩ヶ岡2	1665	半截竹管の沈線
	1・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	1636	半截竹管の沈線
	1・4-22	胴部	1	萩ヶ岡2	1634	半截竹管の沈線
	1・4-62	胴部	2	萩ヶ岡2	1687	結束羽状縄文
	1・4-63	胴部	1	萩ヶ岡2	1696	半截竹管の沈線
	1・4-63	胴部	2	萩ヶ岡2	1695	半截竹管の沈線
—	1・3-48	胴部	1	萩ヶ岡2?	1761	細片, 剥離
—	1・3-49	胴部	1	萩ヶ岡2	1759	細片, 胎土に砂
—	1・3-49	胴部	1	萩ヶ岡2	1785	細片, 剥離
—	1・3-59	胴部	1	萩ヶ岡2	1763	細片, 胎土に砂
	1・4-10	胴部	1	萩ヶ岡2	1648	細片, 胎土に砂
	1・4-60	胴部	1	萩ヶ岡2	1764	細片, 胎土に砂

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-59	胴部	1	萩ヶ岡2	1769	半截竹管の沈線
	1・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	1637	結束羽状縄文
—	1・4-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1658	細片, LR
	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1720	細片, LR
	1・4-62	胴部	1	萩ヶ岡2	1692	LR, 胎土に砂
—	1・4-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1659	摩耗, 胎土に砂
	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1664	摩耗, 胎土に砂
—	1・4-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1643	LR
	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1675	LR, 胎土に砂
	1・4-12	胴部	2	萩ヶ岡2	1654	結束羽状縄文
	1・4-22	胴部	1	萩ヶ岡2	1621	RL, 胎土に砂
	1・4-22	胴部	1	萩ヶ岡2	1662b	LRとRL
—	1・4-11	胴部	1	萩ヶ岡2?	1644	LR, 胎土に砂
—	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1662a	RL
	1・4-31	胴部	1	萩ヶ岡2	1661	
—	1・4-12	底部	1	萩ヶ岡2	1705	摩耗, 張り出す
—	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1699	LR, 内面平滑
—	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1665	摩耗, 胎土に砂
	1・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	1636	摩耗, 胎土に砂
	1・4-22	胴部	1	萩ヶ岡2	1634	摩耗, 胎土に砂
	1・4-62	胴部	1	萩ヶ岡2	1687	摩耗, 胎土に砂
	1・4-63	胴部	1	萩ヶ岡2	1696	摩耗, 胎土に砂
	1・4-63	胴部	1	萩ヶ岡2	1695	摩耗, 胎土に砂
	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1729	摩耗, 胎土に砂
—	1・4-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1730	貼付に沈線
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1713	摩耗, 細片
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1706	細片
—	1・4-13	胴部	2	萩ヶ岡2	1710	細片, 胎土に砂
	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1716	細片, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2?	1707	摩耗, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1708	結束羽状縄文
	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1742	
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1775	LR, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2?	1709	細片, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1718	細片, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1719	半截竹管の沈線
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2?	1777	細片, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2?	1734	剥離, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1744	摩耗, 胎土に砂
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1735	羽状縄文縄文
—	1・4-13	胴部	2	萩ヶ岡2	1743	剥離, LR,
—	1・4-13	胴部	1	萩ヶ岡2	1731	胎土に砂
—	1・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2?	1630	細片, 胎土に砂

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2?	1646	剥離, 胎土に砂
—	1・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	1625	結束羽状縄文
—	1・4-20	胴部	4	萩ヶ岡2	1635	LR, 胎土に砂
—	1・4-21	胴部	2	萩ヶ岡2?	1642	細片, 胎土に砂
—	1・4-21	胴部	1	萩ヶ岡2	1633	胎土に砂
	1・4-60	胴部	1	萩ヶ岡2	1767	LR, 胎土に砂
	1・4-61	胴部	1	萩ヶ岡2	1685	補修孔, LR
	1・4-62	胴部	1	萩ヶ岡2	1679	LR, 胎土に砂
—	1・4-21	胴部	1	萩ヶ岡2	1632	結束羽状縄文
—	1・4-22	胴部	1	萩ヶ岡2	1725	結束羽状縄文
	1・4-22	胴部	2	萩ヶ岡2	1780	
—	1・4-25	胴部	1	萩ヶ岡2	1736	結束羽状縄文?
—	1・4-30	胴部	1	萩ヶ岡2	1641	半截竹管の沈線

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-54	胴部	1	萩ヶ岡2?	1754	摩耗, LR
—	1・4-60	胴部	1	萩ヶ岡2	1765	摩耗, 胎土に砂
—	1・4-61	胴部	1	萩ヶ岡2	1681	貼付に縄の押捺
—	1・4-61	胴部	1	萩ヶ岡2	1682	摩耗, 胎土に砂
	1・4-63	胴部	1	萩ヶ岡2	1694	摩耗, 胎土に砂
—	1・4-61	胴部	1	萩ヶ岡1	1683	貼付?に縄文
—	1・4-61	胴部	1	萩ヶ岡2	1684	半截竹管の沈線
—	1・4-62	胴部	2	萩ヶ岡2	1791	細片, 胎土に砂
—	1・4-62	胴部	2	萩ヶ岡2	1688	結束羽状縄文
—	1・4-62	胴部	1	萩ヶ岡2	1690	結束羽状縄文
—	1・4-62	胴部	2	萩ヶ岡2	1691	摩耗, 胎土に砂
—	1・4-62	胴部	1	萩ヶ岡2	1693	細片
—	1・4-63	胴部	1	萩ヶ岡2?	1697	剥離, 胎土に砂

石器類は総計9,563点が出土している。このうち9,506点が黒曜石の剥片（うち1点が焼け）で、頁岩の剥片はわずか1点である。剥片石器類は22点あり、内訳は半数の11点がR・F（うち4点が焼け）で、他に石鏃3点（1点は焼け、他の2点は基部片）、石槍未製破損品・石錐・楔形石器・つまみ付きナイフが各1点、破損した削器とU・F各2点となっている。礫石器類は、石斧片34点のみで他の器種は全く出土しておらず、この点が極めて特徴的である。

出土分布は、先に記したように東西の壁近くに集中し、中央部は稀薄である。また、F・C集中の在り方、破損品が多い点などから、壁際に一括廃棄されたものの可能性が想定される。

図番1の石錐と7のつまみ付きナイフは、南側の覆土下層出土である。1は珪質頁岩製で刃部側縁はつぶれており、先端を欠く。7は頁岩製で、素材剥片の打点側を先端とし刃部の厚みを確保して、先端及び図の右側縁に直角刃を作出している。2は頁岩製のR・Fで、西側の床面直上出土である。原石面を残す肉厚の横長剥片を素材とし、先端側に刃部加工を施し、一端を切り出し状にしている。3は小ピット2上面の床から出土した黒曜石製楔形石器で、四辺がつぶれている。図の上下辺は使用によって弾けた部分に、更に敲打痕が残されている。4は西側の覆土下層出土の右半分と覆土Ⅱ層出土の半分が接合したR・Fで、黒曜石の横長礫皮片を素材としている。5も西側覆土下層出土である。肉厚の黒曜石剥片を素材とした切り出し状削器の先端部で、つまみ付きナイフの可能性もある。刃部はつぶれ、腹面に使用による擦痕がみられる。6は西側床面出土の石槍未製破損品である。素材は黒曜石で、図の右側縁基部側に礫皮部分があり、そこが肉厚のまま残って折れている。また、その部分と反対側縁に楔形石器状のつぶれと剥離がみられ、楔形石器に転用されていることが分かる。8は東側覆土上層出土の礫皮片（図上下端に接合している2点）と、3・4-67区出土の破片が接合したもので、図右側縁全体に敲打痕がみられる。素材は緑色泥岩である。9は東側床面出土の細片（図中央右側に接合している3点）と、東側覆土下層出土の破片（図上）、包含層出土の破片が接合したもので、素材は青色泥岩（2・4-80区Ⅱ層出土の図左下細片のみ茶色化）である。腹面の一側縁に敲打剥離がみられ、この後に背面中央部が加撃され二つに折られている。床面出土の剥片はこの際に剥がれたものである。なお3・3-01区出土の下半分は、破断面の腹側に敲打剥離がみられるが、単独で使用された使用痕かどうかは判然としない。10は覆土上層出土の石鏃で焼けている。なおNo. 63～68は調査のミスにより正確な出土地点を把握できなかった。

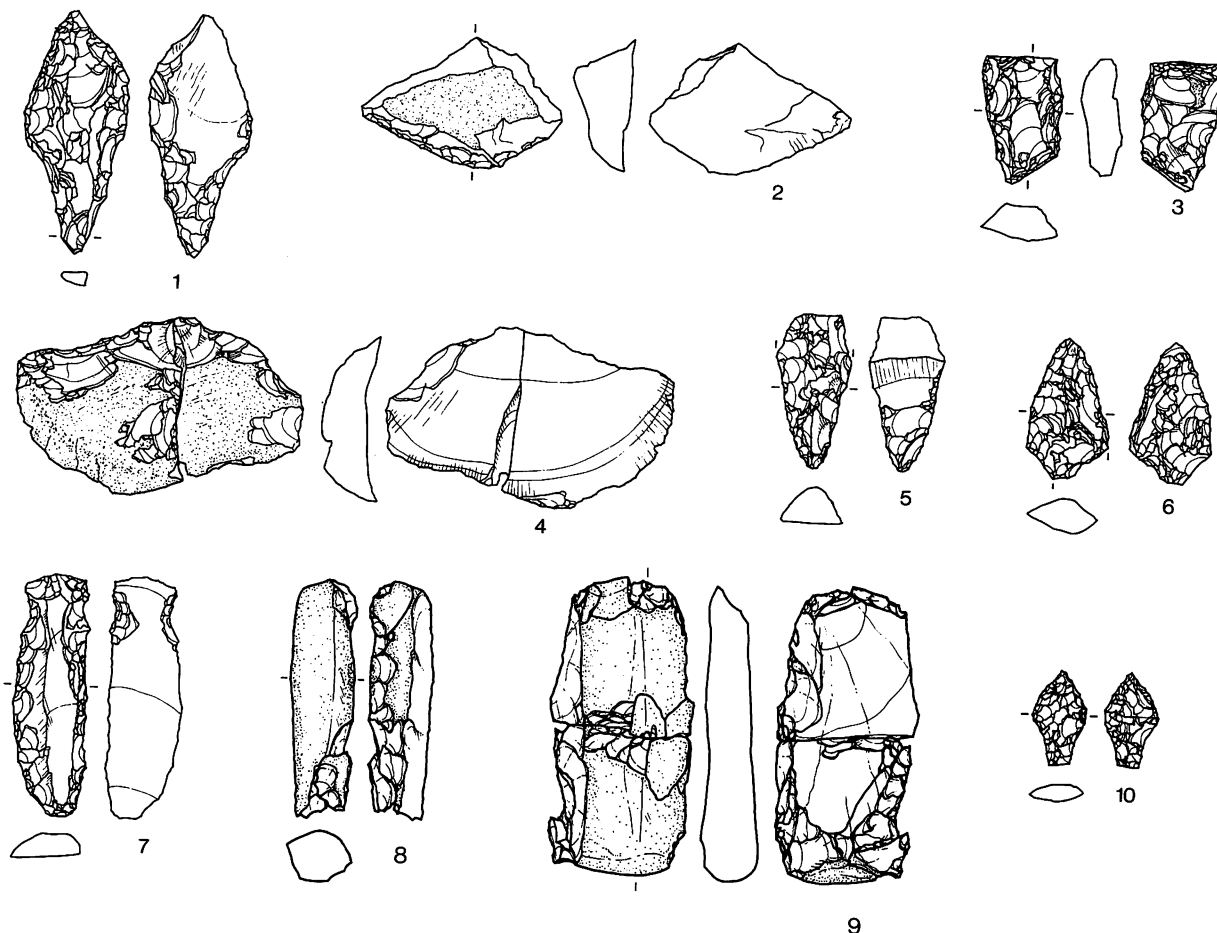


表V-2-24 HP-3出土石器等一覧 (1)

No.	グリッド	層位	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	石質	分類	面番	遺物No	備考
1	1・3-29	覆土層	64.2	27.6	10.4	14.1	珪質頁岩	石錐	1	872	有根、先端がかに欠損、刃部つぶれ、反っている
2	1・3-48	床直	-	-	-	+	黒曜石	剥片		918	
3	1・3-48	床直	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片		939	
4	1・3-49	床直	-	-	-	0.6	黒曜石	剥片		912	913・938を含む、4点あり
5	1・3-59	覆土層	-	-	-	1.6	黒曜石	剥片		914	920を含む、3点あり
6	1・3-59	床直	-	-	-	2.2	黒曜石	剥片		919	922を含む、3点あり
7	1・3-69	覆土層	-	-	-	0.3	黒曜石	剥片		923	924を含む、2点あり
8	1・3-69	床直	-	-	-	0.3	黒曜石	剥片		925	
9	1・4-10	床直	-	-	-	0.3	黒曜石	剥片		875	
10	1・4-11	覆土層	29.8	44.2	12.7	16.5	緑色泥岩	石斧		862	側面部片
	12	床直	-	-	-	25.4	緑色泥岩	石斧		865	876を含む、3点あり、P1663の下から出土
	13	床直	38.0	25.0	9.4	12.1	緑色泥岩	石斧		877	側面部片、鋭利痕あり、878(14-62)と接合
	20	床直	10.0	12.9	2.3	0.3	緑色泥岩	石斧		863	背面部片
	22	床直	18.4	7.9	2.1	0.3	緑色泥岩	石斧		864	背面部片
	31	覆土層	20.9	31.7	6.8	4.1	緑色泥岩	石斧		860	背面部片
	53	覆土層	16.7	8.0	3.0	0.5	緑色泥岩	石斧		859	背面部片
	61	床直	17.9	11.4	3.8	0.9	緑色泥岩	石斧		872	端部片
	62	床直	-	-	-	0.7	緑色泥岩	石斧		897	2点あり、F・C集中(Y886)内出土
	-	覆土層	-	-	-	31.2	緑色泥岩	石斧		-	14点あり
11	1・4-11	床直	-	-	-	0.7	黒曜石	剥片		874	891を含む、2点あり
12	1・4-12	床直	53.6	34.0	16.6	21.4	頁岩	R・F	2	876	先端背面加工、一端切り出し状、基部から側面に原石面
13	1・4-13	床直	33.8	21.1	10.2	7.2	黒曜石	楔形石器	3	892	四辺つぶれ、上下刃は使用による弾け後更に使用
14	1・4-13	覆土層	11.8	14.5	2.8	0.5	黒曜石	R・F		893	背面加工の基部片
15	1・4-13	覆土層	76.3	43.8	15.8	42.2	黒曜石	R・F	4	894	破片使用、813(14-25、Ⅱ層)と接合
16	1・4-13	SP2内	-	-	-	0.5	黒曜石	剥片		943	944を含む、2点あり
17	1・4-14	覆土層	-	-	-	12.7	黒曜石	剥片		895	破片
18	1・4-15	覆土層	-	-	-	1.4	黒曜石	剥片		896	898を含む、2点あり
19	1・4-16	床直	-	-	-	0.2	メノウ	剥片		899	
20	1・4-20	床直	-	-	-	+	黒曜石	剥片		873	
21	1・4-21	覆土層	40.8	19.9	10.0	6.1	黒曜石	削器	5	823	切り出し状、両側縁背面加工、基部欠損、つまみ付きか
22	1・4-21	床直	-	-	-	0.6	黒曜石	剥片		890	942・948・949を含む、4点あり
23	1・4-22	床直	16.3	21.2	3.4	1.2	黒曜石	石斧		861	背面部片
24	1・4-22	床直	36.9	22.1	12.1	5.6	黒曜石	石槍	6	870	未製破損品、凸状部あり、楔形石器に転用
25	1・4-22	床直	-	-	-	3.3	黒曜石	F・C軸		932	871・878・882・883・897・940・941を含む、17点あり
26	1・4-30	覆土層	64.3	19.5	7.1	12.1	頁岩	つまみ付きナイフ	7	869	両側縁背面加工、反っている
27	1・4-30	床直	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片		877	
28	1・4-35	床直	-	-	-	1.1	黒曜石	剥片		947	
29	1・4-36	床直	-	-	-	2.3	黒曜石	F・C軸		900	910・930を含む、52点あり
30	1・4-36	覆土層	13.3	12.5	2.8	0.3	黒曜石	R・F		901	両面加工の端部片、石錐基部か
31	1・4-37	床直	-	-	-	+	黒曜石	剥片		926	
32	1・4-40	床直	-	-	-	+	黒曜石	剥片		945	
33	1・4-41	SP1内	10.6	6.9	3.3	0.2	黒曜石	R・F		931	両面加工の端部片、削けている、石錐基部か
34	1・4-41	SP1内	-	-	-	1.0	黒曜石	剥片		933	934・936・937を含む、9点あり
35	1・4-43	炉灶土	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片		929	935を含む、2点あり
36	1・4-45	床直	22.9	9.8	6.3	1.0	黒曜石	R・F		911	両面加工の側面部片、削けている
37	1・4-45	覆土層	-	-	-	+	黒曜石	B・F		903	
38	1・4-45	覆土層	-	-	-	0.2	黒曜石	剥片		902	904を含む、2点あり
39	1・4-46	床直	-	-	-	0.8	黒曜石	F・C軸		909	19点あり
40	1・4-50	枘内	-	-	-	0.6	黒曜石	剥片		946	
41	1・4-51	覆土層	-	-	-	0.1	頁岩	剥片		868	
42	1・4-51	覆土層	-	-	-	+	黒曜石	剥片		868	
43	1・4-52	覆土層	94.2	21.4	21.1	71.2	緑色泥岩	石斧	8	782	側面に鋭利痕、614(34-67)と接合
44	1・4-52	覆土層	118.9	54.4	22.6	164.2	青色泥岩	石斧	9	871	749(14-61、Ⅱ層)、867~869(14-62、床直)、618・882・898(33-01・02、24-80、Ⅱ層)、895(24-80、Ⅰ層)と接合、898のみ茶色化

表V-2-25 HP-3出土石器等一覧 (2)

No.	グリッド	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	分類	国番	遺物No	備考
45	1・4-52	床直	-	-	-	0.1	黒曜石	剥片		884	
46	1・4-54	床直	-	-	-	+	黒曜石	剥片		928	
47	1・4-55	覆土層	-	-	-	3.1	黒曜石	剥片		905	907を含む、2点あり
48	1・4-55	床直	-	-	-	+	黒曜石	剥片		927	
49	1・4-60	床直	17.7	12.6	3.4	0.7	黒曜石	石鏃		915	基部片
50	1・4-60	覆土層	-	-	-	1.6	黒曜石	剥片		921	
51	1・4-60	床直	-	-	-	0.3	黒曜石	剥片		916	
52	1・4-61	床直	14.5	27.6	3.3	1.6	白砂岩	石斧		870	基部片
	62	床直	14.5	18.9	2.7	0.4	白砂岩	石斧		866	基部片
	62	床直	26.0	15.0	3.3	1.2	白砂岩	石斧		873	基部片
53	1・4-61	床直	18.5	25.2	3.2	1.1	黒曜石	R・F		880	両面加工の先端部片、原石面を残す
54	1・4-61	床直	-	-	-	0.6	黒曜石	剥片		879	
55	1・4-62	床直	-	-	-	0.8	黒色片岩	石斧		899	2点あり、F・C集中(Y886)内から出土
56	1・4-62	床直	20.2	10.9	3.4	0.6	黒曜石	R・F		887	先端背面加工、焼けている
57	1・4-62	床直	-	-	-	120.0	黒曜石	F・C集中		886	881・885を含む、6,967点あり
58	1・4-63	床直	26.4	20.2	4.8	2.4	黒曜石	R・F		888	背面加工の側縁部片、焼けている
59	1・4-63	覆土層	-	-	-	11.2	黒曜石	F・C集中		906	504点あり
60	1・4-63	床直	-	-	-	28.7	黒曜石	F・C集中		889	1,889点あり
61	1・4-64	覆土層	-	-	-	0.4	黒曜石	剥片		908	
62	1・4-71	覆土層	17.2	34.4	2.5	1.3	黒曜石	U・F		917	一側縁刃こぼれ状
63	-	覆土層	39.1	28.2	5.6	3.6	黒曜石	U・F		950	一側縁刃こぼれ状、焼けている
64	-	覆土層	25.0	14.4	4.3	1.3	黒曜石	石鏃	10	953	有柄凸基、焼けている
65	-	覆土層	11.1	10.1	3.2	0.3	黒曜石	石鏃		956	基部片
66	-	覆土層	55.8	38.3	12.3	18.5	頁岩	削器		974	両側縁背面加工、先端・基部欠損
67	-	覆土層	21.1	21.0	4.5	1.8	黒曜石	R・F		954	両面加工の端部片、一面に原石面を残す
68	-	覆土層	15.7	12.4	2.5	0.6	黒曜石	R・F		955	背面加工の端部片



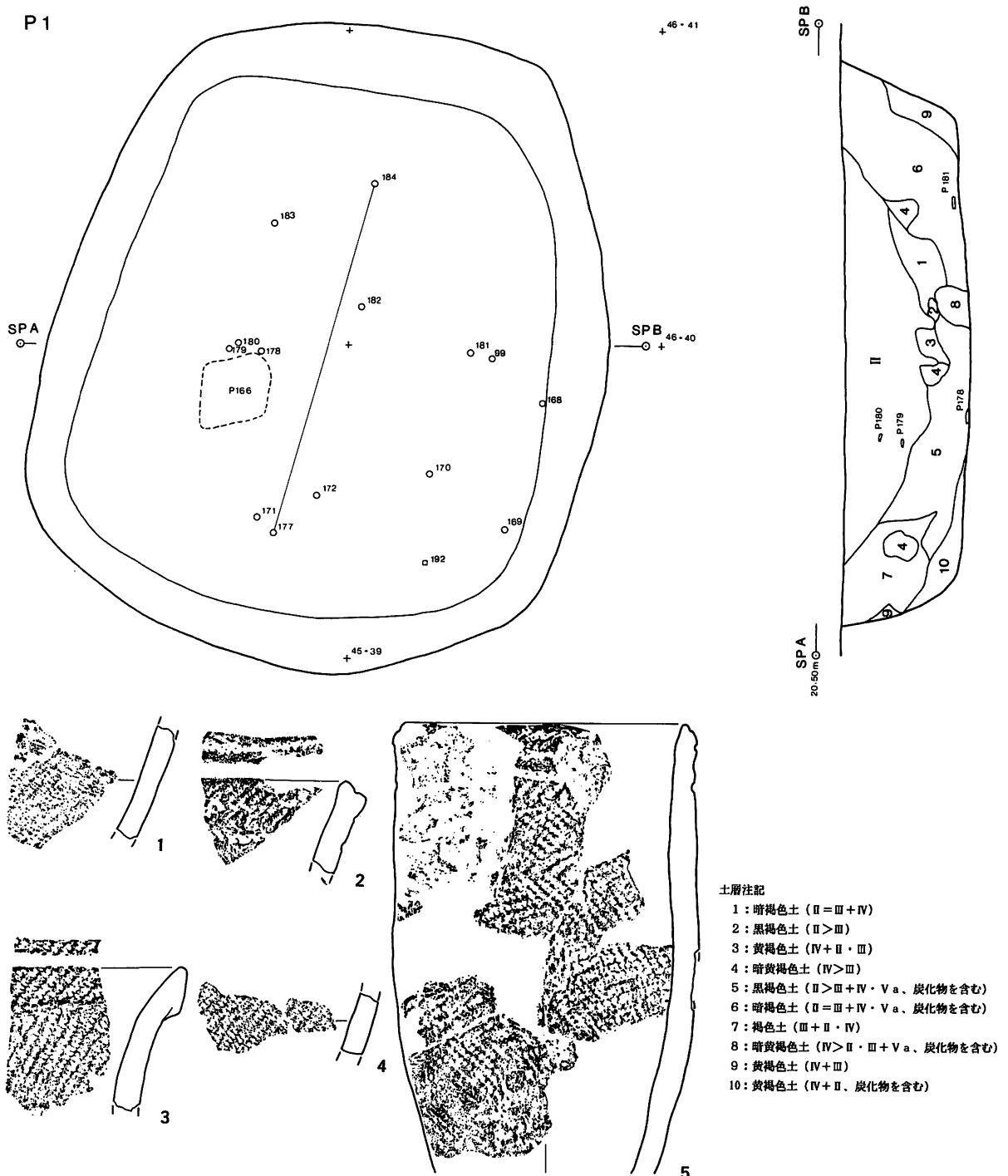
図V-2-13 HP3出土の石器

## 2) 土壌

**P 1** 長さ208cm 幅175cm 深さ40cm

4・5-29、4・6-30区で確認した縄文時代前期の土壌で、台形に近い平面形を呈す。墳底はV a層まで掘り込まれており、ほぼ平坦で、立上りは明瞭である。覆土は炭化物を含む層が主体で、中央部にブロック状の堆積が多くみられることから埋め戻しの可能性が考えられる。本土壌に伴う遺物としては、覆土上層に流れ込んでいるII層土直下から、比較的まとまって出土した大麻V式土器(166、下図5)と、墳底及び覆土下層出土の同時期の土器片(図1~4)がある。

なお、99・192はそれぞれ覆土II層中出土の萩ヶ岡2式土器片と石斧片である。



図V-2-14 P1平面及び断面・出土の土器

**P 2** 長さ66cm 幅54cm 深さ11cm

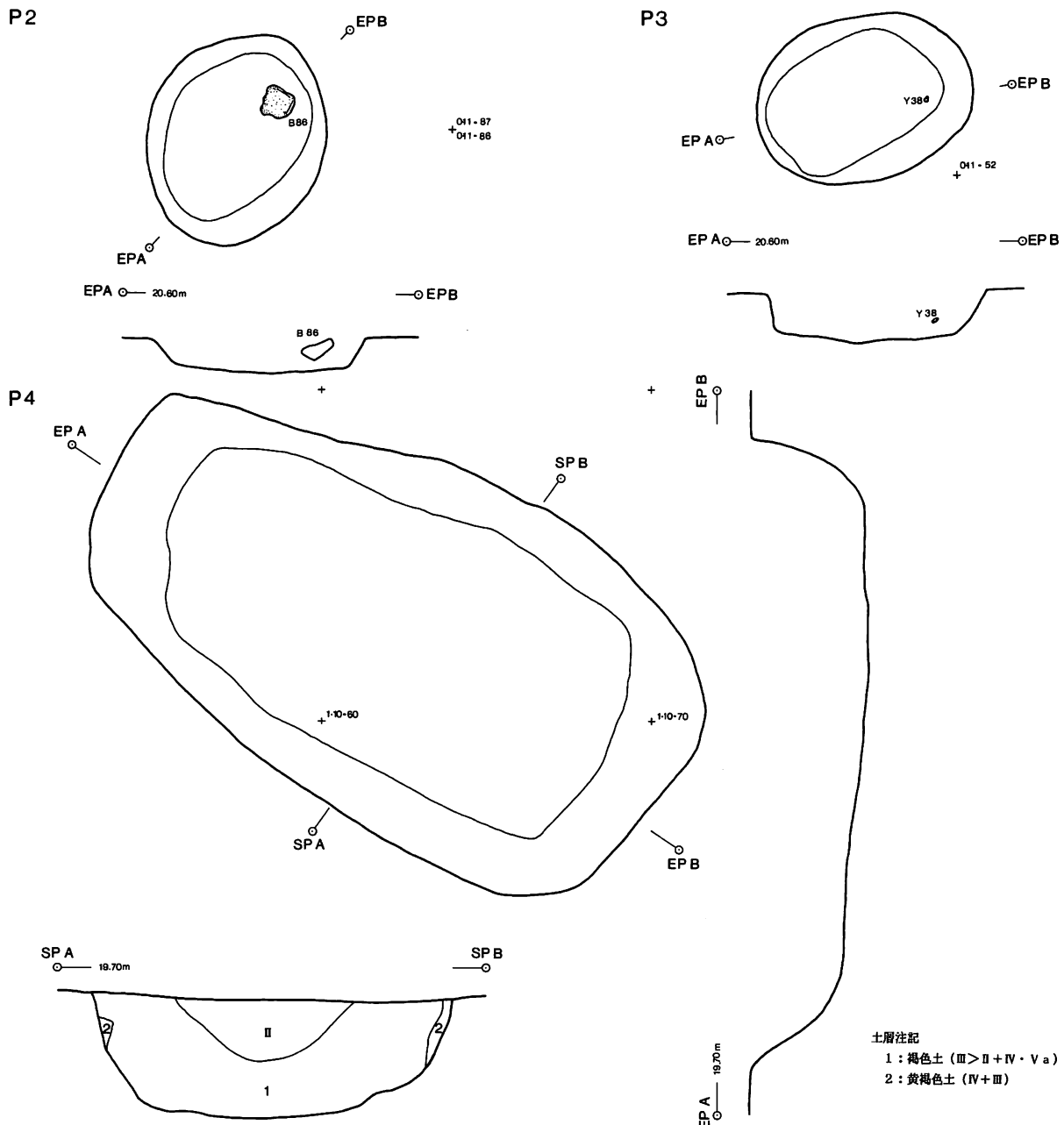
0・11-76区、0・11-77区で確認した。楕円形を呈す。壙底はⅢ層中にありほぼ平坦である。覆土は全体に均一でⅡ層が主体である。覆土中より砥石が出土している。

**P 3** 長さ66cm 幅50cm 深さ15cm

0・11-42区で確認した。楕円形を呈す。壙底はⅢ層中にあり隅丸長方形を呈す。ほぼ平坦である。覆土は全体に均一でⅡ層が主体である。覆土中より黒曜石のB・Fが出土している。

**P 4** 長さ194cm 幅109cm 深さ36cm

1・10-60区で確認した。隅丸長方形に近い輪郭を呈す。縄文時代前期には既に涸れていたと思われる沢跡の中に位置している。壙底はV a層のブロックや砂利を含むⅣ層土の二次堆積層にある。覆土は全体にほぼ均一で、Ⅲ層土にⅡ・Ⅳ・V a層土が混在する。遺物は出土していないが、位置・形態・覆土の状況から、P 5と同様の遺構と考えられる。



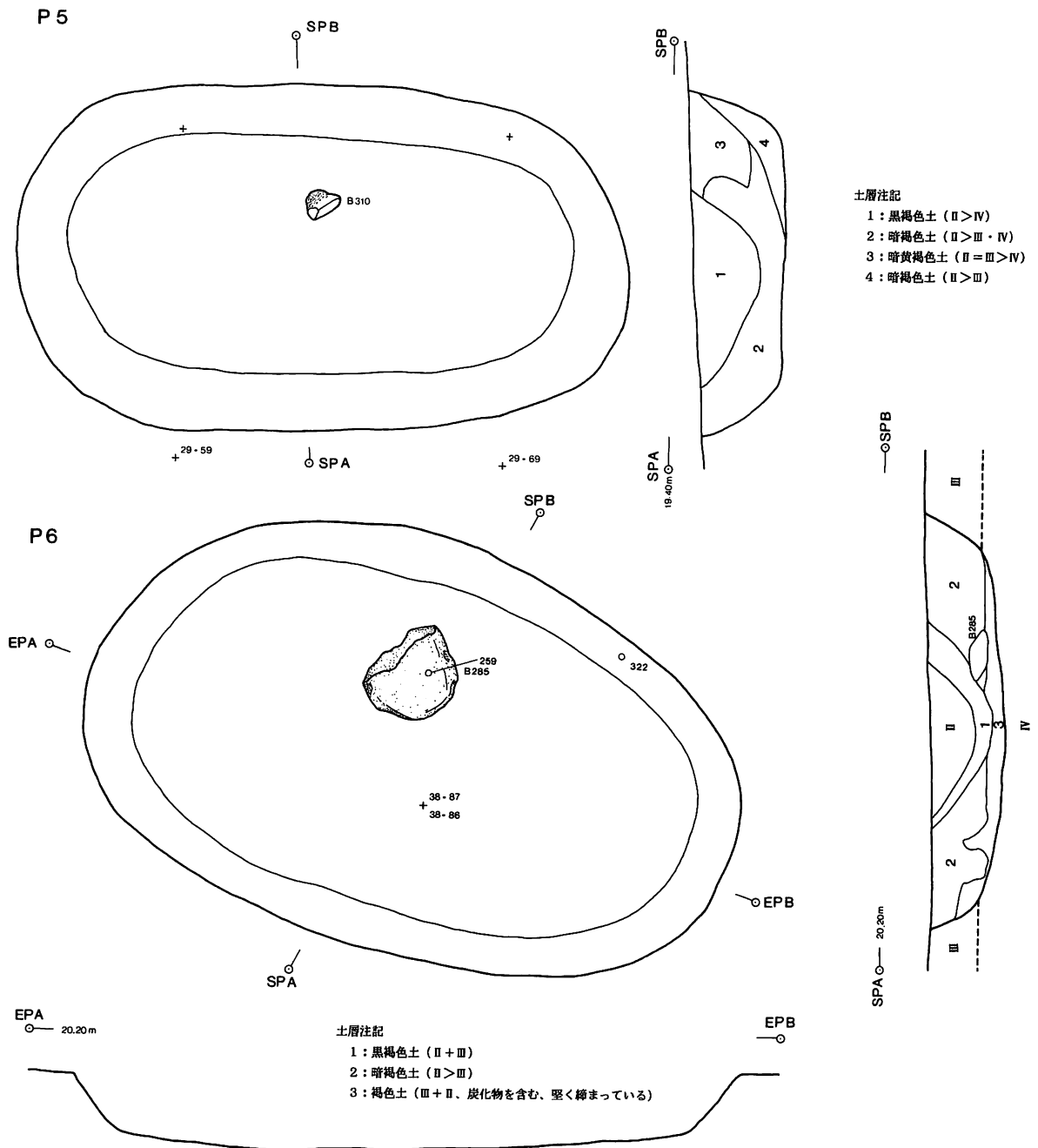
図V-2-15 P2~4平面及び断面

**P 5** 長さ187cm 幅106cm 深さ29cm

2・5-59区で確認した。P 4 同様沢跡内に位置し、長楕円形を呈す。墳底はV a層にあり、ほぼ平坦である。覆土はⅡ層土が主体であるが、墳底面に見られる大粒（径5～10cm）の軽石が目立ち、殊に覆土1層と2層の境目部分に多く認められた。遺物は墳底中央北寄りの位置から、石冠1点が横倒しの状態で出土している。こうした形態と堆積を示す土壌は、前述したように江別市高砂遺跡のP 173などがあり、本土墳も縄文時代中期の墓の可能性はある。

**P 6** 長さ203cm 幅127cm 深さ23cm

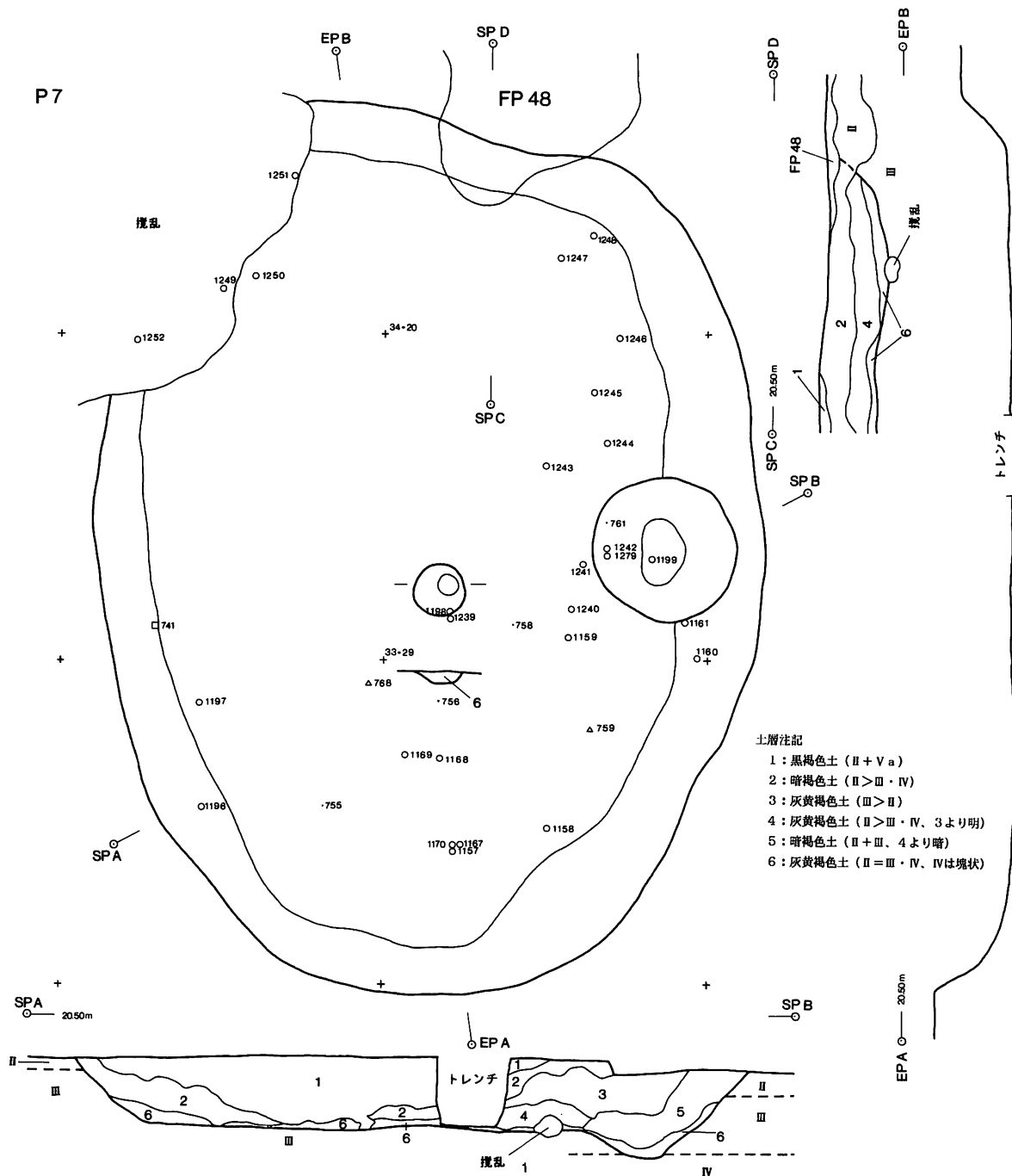
3・8-76区から3・8-87区にかけて位置する。長楕円形を呈す。確認面で中央部にⅡ層の落ち込みが認められた。墳底はⅣ層中にありほぼ平坦である。覆土1・2層はⅡ層、覆土3層はⅢ層が主体である。遺物は、覆土から土器片2点（覆土2層より中茶路式、覆土1層より天神山式）、覆土2層中央北寄りで石皿が出土している。



図V-2-16 P5・6平面及び断面

P 7 長さ277cm 幅206cm 深さ24cm

3・3-18区から3・4-30区にかけて位置し、TP 16排土の土層観察のために設けたトレンチで確認した。北西隅に攪乱を受けているが楕円形に近い輪郭をもつものと思われ、長軸は北西—南東方向にある。浅く、壁の立上がりも緩やかだが、底面はほぼ平坦でほぼ水平。壙底の中央と東壁ぎわに浅い円形の落ち込みが見られる。壙底は汚れたⅢ・Ⅳ層が薄く覆い（6層）、さらに腐植がちの覆土（2・4・5層）が堆積する。土壙の東寄りでは2層と4層の間に遺構排土かと思われるやや明色の土層（3層）が観察された。覆土の上位にはⅡ層が流れ込み（1層）、さらにTP 16排土が覆う。出土遺物は土器片33点（萩ヶ岡1・2式、天神山式）、黒曜石製遺物9点、方割礫1点と少なく、底面直上の6層では萩ヶ岡1式1点、同2式2点、天神山式1点と黒曜石



図V-2-17 P7平面及び断面

の剥片6点が出土している。層的に TP 16排土および FP 48より古いものと考えられる。出土した土器からみて縄文時代中期の遺構である可能性が高い。性格は不明で、小規模な住居跡かとも考えたが炉跡・柱穴等は確認できなかった。

**P 8** 長さ220cm 幅204cm、深さ22cm ( P 8～10の図は HP 2の項参照)

3・4-97、4・4-07区で確認した。HP 2を切っている。円形に近い形態で、壙底はIV層上面と浅く、緩い凹凸が目立つ。覆土は大半がII層土の流れ込みである。壙底から出土した遺物は、萩ヶ岡2式土器片とメノウの剥片各1点のみである。覆土の遺物には萩ヶ岡2式土器片のほかに、黒曜石製の焼けた搔器片とU・F各1点、R・F 2点、剥片類がある。性格は不明であるが、HP 2同様の石器制作に関する作業小屋の用途が想定される。

**P 9** 長さ150cm 幅(128)cm 深さ40cm

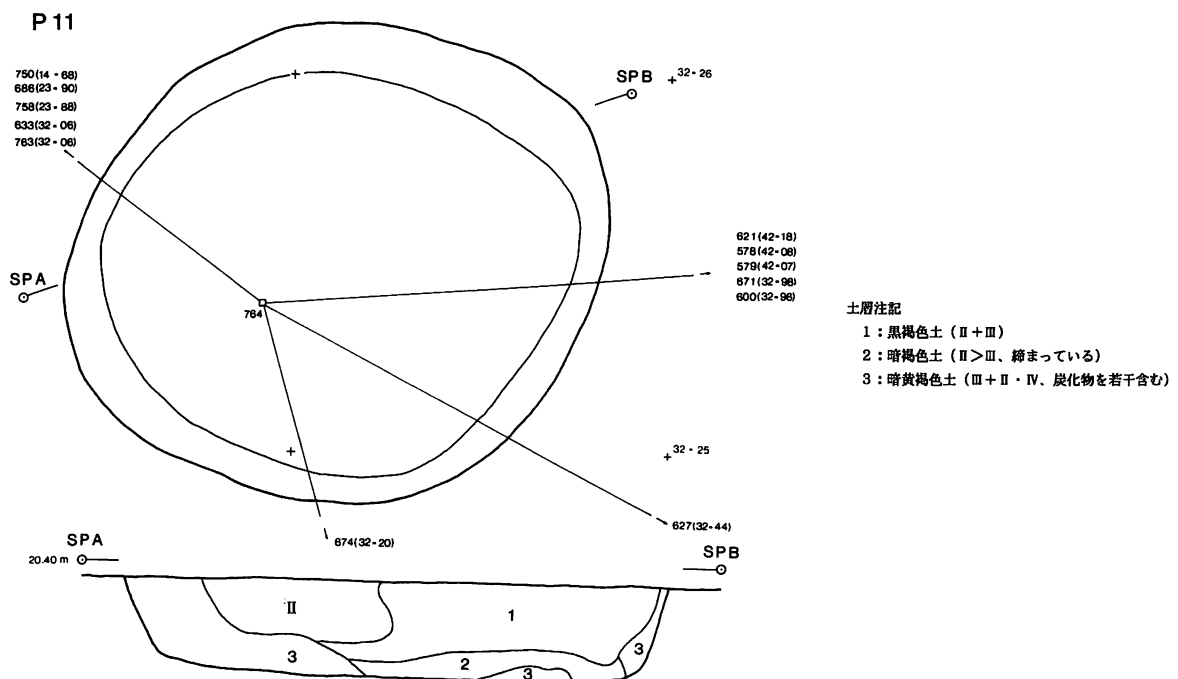
4・4-26・27区で確認した。HP 2に切られているが、ほぼ楕円形を呈する。立上りは明瞭で壙底はIV層下位に達し平坦である。遺物は、覆土最上部から天神山式土器片4点(うち2点接合)が出土しているのみで、時期・性格は不明である。

**P 10** 長さ133cm 幅117cm 深さ18cm

4・4-03・13区で確認した。平面形は楕円で、壙底はIV層上面と浅く、凹凸の多い雑な面になっている。HP 2の項で述べたように、横立ち状態で出土した安山岩の台石の他、多量の剥片・破片(7,625点を一括して遺物No. 866で取り上げている)と破損した石器類、土器片が壙底から覆土上面までほとんど隙間なく混在し、一部は土壌の周辺にも散っていることから、HP 2に付属し剥片類を一括廃棄するための土壌と思われる。

**P 11** 長さ147cm 幅128cm 深さ25cm

3・2-15区で確認した。平面形はほぼ楕円で、壙底はIV層中にある。壙底付近と壁際に炭化物を含む層が見られ、上層はII層土が主体である。遺物は覆土上部から砂岩の方割礫D 1点が出土している。この破片は遺物No. 750(1・4-68区)と接合し、その他四方に散っている破片を併せて楕円礫となる。なお、この楕円礫は割れた後に焼けている。時期・性格は不明である。



図V-2-18 P11平面及び断面

表V-2-26 P-1 床直出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・5-29	胴部	2	大麻V	171	細片, 剥離
—	4・5-29	胴部	2	大麻V	178	接合, LR
1	4・5-29	胴部	1	大麻V	177	LR
	4・6-30	胴部	1	大麻V	184	
2	4・5-29	口縁	1	大麻V	172	縄線文, LR
—	4・5-39	胴部	2	大麻V	170	接合, RL
3	4・5-39	胴部	1	大麻V	181	LR
4	4・5-39	口縁	1	円筒上層	169	口縁肥厚, LR
—	4・5-39	胴部	1	大麻V	168	LR斜行縄文

表V-2-27 P-1 覆土下層出土土器一覽

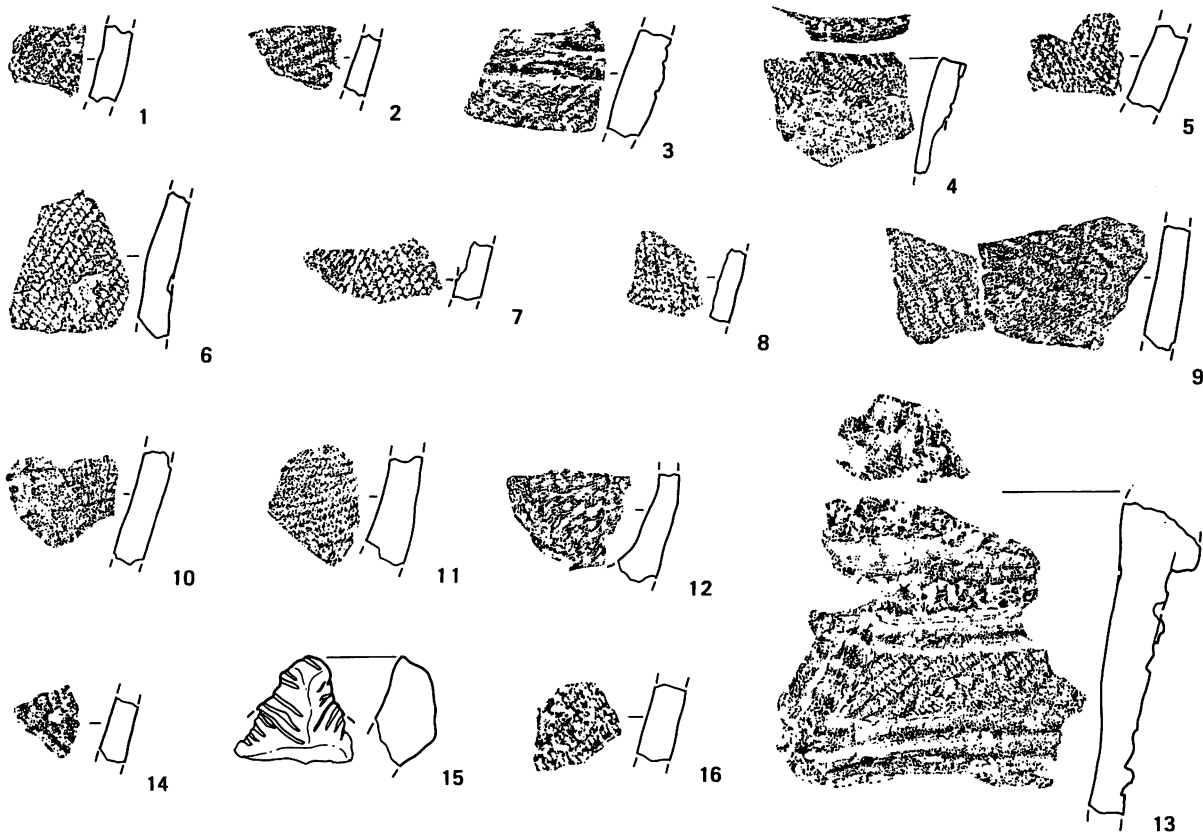
図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・6-20	胴部	1	大麻V?	183	摩耗, RL

表V-2-28 P-1 覆土上層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
5	4・5-29	一括	80	大麻V	166	16点接合
—	4・5-39	口縁	1	荻ヶ岡2	99	半截竹管の沈線
—	4・6-30	胴部	2	大麻V	182	細片, 剥離

### 土壌出土の土器

図V-2-14の1~5はP1出土の土器である。1・2・4・5は大麻V式、3は円筒上層式に相当する。2・5は口唇が外傾し口唇と口縁に縄線文が施されている。地文は1・2・4はLR、5はLRとRLの縄文を羽状縄文風につけている。いずれも胎土に繊維を含む。3は口縁が肥厚し、内面は平滑である。地文はLRである。図V-2-19の1~8はP7出土の土器である。1・2・6は器面にLRの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。3には半截竹管状工具により沈線が施されている。4は口縁貼付帯が縄により刻まれている。5・7・8には複節の縄文が認められる。9~12はP8出土の土器である。9は墳底と覆土2層の土器が接合したもの。9・12にはRL、10・11にはLRの縄文が認められる。13はP9出土の土器である。厚手で口縁肥厚帯・貼付帯・器面に竹管状工具による施文がある。14~16はP10出土の土器である。14は摩耗しているが地文は羽状縄文。15は突



図V-2-19 P7~10出土の土器



表V-2-29 P-6覆土2層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・8-87	胴部	3	中茶路	322	接合, 細片

表V-2-30 P-6覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・8-87	胴部	1	天神山	259	摩耗

表V-2-31 P-7覆土6層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-28	胴部	1	萩ヶ岡2	1169	細片, 摩耗
—	3・3-28	胴部	1	萩ヶ岡1	1168	摩耗
—	3・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1243	細片, LR
—	3・4-10	胴部	1	天神山	1249	細片, LR

表V-2-32 P-7覆土5層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-29	胴部	2	萩ヶ岡2	1279	摩耗, 細片
1	3・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1244	LR, 胎土に砂

表V-2-33 P-7覆土4層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-19	胴部	1	萩ヶ岡2	1252	摩耗, LR
2	3・4-10	胴部	1	萩ヶ岡2	1250	摩耗, LR

表V-2-34 P-7覆土3層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1240	細片, LR
3	3・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1245	半截竹管の沈線
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1242	内面平滑
4	3・4-10	胴部	1	萩ヶ岡1	1251	貼付に繩の刻み

表V-2-35 P-7覆土2層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-18	胴部	1	萩ヶ岡2	1197	摩耗
—	3・3-18	胴部	1	萩ヶ岡2	1196	剥離
—	3・3-28	胴部	2	天神山	1157	RLR
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1239	半截竹管の刺突
—	3・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1159	LR, 胎土に砂
5	3・3-29	胴部	1	天神山	1246	RLR
6	3・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1199	LR
—	3・4-20	胴部	1	天神山	1247	LR
—	3・4-20	胴部	1	天神山	1248	LRL

表V-2-36 P-7覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-28	胴部	1	萩ヶ岡2	1170	摩耗, 胎土に砂
7	3・3-28	胴部	3	天神山	1167	接合, RLR
8	3・3-28	胴部	2	天神山	1158	摩耗, 複節
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1198	堅く焼き締まる
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1241	細片, LR
—	3・3-29	胴部	1	天神山?	1161	摩耗
—	3・3-29	胴部	1	天神山	1160	細片, LR

表V-2-37 P-8墳底出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
9	3・4-98	胴部	1	萩ヶ岡2	1152	摩耗, RL
	4・4-08	胴部	1	萩ヶ岡2	1163	覆土2

表V-2-38 P-8覆土2層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
10	3・4-97	胴部	1	萩ヶ岡2	1204	細目のLR
11	3・4-97	胴部	2	萩ヶ岡2	1205	細目のLR
12	4・4-08	胴部	1	萩ヶ岡2	1206	RL, 胎土に砂

表V-2-39 P-9覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・4-17	胴部	2	天神山	1141	半截竹管の沈線
13	4・4-27	胴部	1	天神山	1153	口縁肥厚帯に
	4・4-27	胴部	1	天神山	1162	半截竹管の施文

表V-2-40 P-10覆土2層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
14	4・4-03	一括	73	萩ヶ岡2	1794	羽状縄文
15	4・4-03	口縁	2	萩ヶ岡2	1795	半截竹管の沈線
—	4・5-03	胴部	1	萩ヶ岡2	1799	摩耗
—	4・5-03	一括	12	萩ヶ岡2	1800	半截竹管の沈線

表V-2-41 P-10覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・4-03	胴部	1	萩ヶ岡2	1796	細片
16	4・4-04	胴部	1	萩ヶ岡2	1797	胎土に砂, LR
—	4・4-14	一括	31	萩ヶ岡2	1798	半截竹管の沈線

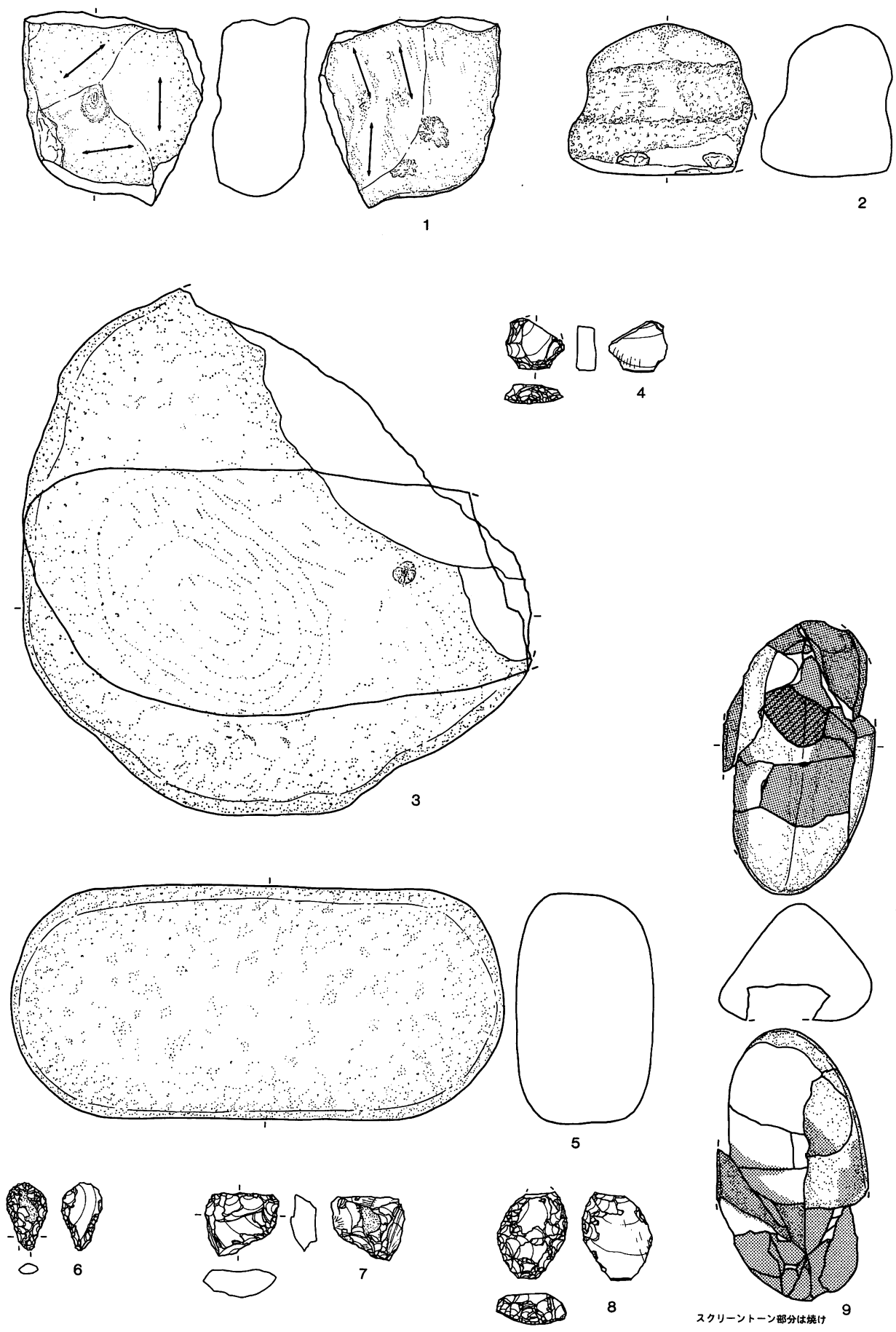
起に半截竹管状工具による沈線が施されている。16の器面にはLRの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。1～3・6・9～12・14～16は萩ヶ岡2式、4は萩ヶ岡1式、5・7・8・13は天神山式に相当する。

表V-2-42 土壌出土石器等一覧

No.	グリッド	層位	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	分類	種別No	備考
1	4・5-39	覆土2	29.6	13.3	4.0	1.6	青色片岩	石斧	192	破片
2	0・11-77	覆土中	93.5	101.7	47.8	585.0	凝灰岩	砥石	1	86 破片、両面に使用痕
3	0・11-42	覆土中	22.0	16.3	3.4	1.6	黒曜石	B・F	38	
5	2・9-59	墳底	100.9	60.5	81.7	805.0	安山岩	石冠	2	310 一端欠損
6	3・8-77	覆土2	270	282	154	13300	安山岩	石皿	3	285 両面すりくぼみ、一面割痕、一端欠損
7	3・3-18	覆土1	18.0	31.2	13.1	4.3	黒曜石	R・F	768	腹面加工の先端部片、焼けてから割れている
	18	覆土6	—	—	—	+	黒曜石	剥片	755	
	19	覆土1	38.3	22.3	9.0	6.3	安山岩	方割礫B	741	
	28	覆土3	12.9	30.8	8.4	2.5	黒曜石	R・F	759	背面加工の基部片、焼けてから割れている
	28	覆土6	—	—	—	0.3	黒曜石	剥片	756	757・760を含む、3点あり
	29	覆土4	—	—	—	0.8	黒曜石	剥片	758	779を含む、2点あり
	29	覆土6	—	—	—	0.1	黒曜石	剥片	761	775を含む、2点あり
	8	3・4-97	覆土2	—	—	—	6.6	黒曜石	剥片	750
98	覆土2	—	—	—	1.8	黒曜石	剥片	769		
99	覆土1	34.2	15.1	4.7	2.6	黒曜石	U・F	763	一側縁刃こぼれ状、一側縁面石面を残す	
99	覆土1	—	—	—	0.6	黒曜石	剥片	770		
4・4-07	覆土2	26.3	12.3	3.7	1.2	黒曜石	R・F	815	腹面加工の基部部片	
07	覆土2	20.0	16.4	9.1	2.6	黒曜石	R・F	976	搔器もしくは楔形石器片、焼けている	
07	覆土2	—	—	—	0.8	黒曜石	F・C軸	977	16点あり	
4・4-08	覆土2	16.8	21.4	6.9	2.8	黒曜石	搔器	4	771 背面加工の先端部片、刃部つぶれ、焼けている	
08	覆土2	—	—	—	1.9	黒曜石	剥片	762		
18	墳底	—	—	—	6.2	メノウ	剥片	782		
10	4・4-03	覆土中	275.0	130.0	72.0	4,700	安山岩	台石	5	817 一面みがき
	03	覆土中	24.9	14.7	4.5	1.4	黒曜石	石錐	6	862 有柄、刃部つぶれ、先端欠損
	03	覆土中	25.2	16.1	5.3	1.8	黒曜石	R・F	863	背面・一部背面加工の先端部片、両端つぶれ、焼けている
	03	覆土中	10.0	8.0	3.5	0.2	黒曜石	石鏃	864	基部片
	03	覆土中	9.6	5.8	3.0	0.2	黒曜石	石鏃	865	基部片
	03	覆土中	—	—	—	123.6	黒曜石	F・C軸	866	7,625点あり
	13	覆土中	17.6	9.5	4.3	0.5	黒曜石	R・F	964	背面加工の端部片
	13	覆土中	18.4	11.0	2.6	0.4	黒曜石	石鏃	965	未製破損品
	13	覆土中	13.4	13.3	2.8	0.4	黒曜石	R・F	966	背面加工の端部片
	4・4-14	覆土中	—	—	—	0.2	緑色泥岩	石斧	903	破片
	14	覆土中	19.2	16.6	3.9	1.2	黒曜石	R・F	963	一側縁面・一側縁背面加工、摩耗
	14	覆土中	26.7	9.0	23.0	5.6	黒曜石	楔形石器	7	967 一端・一側縁つぶれ、一端・一側縁破損
	14	覆土中	34.6	24.2	9.6	9.0	黒曜石	搔器	8	968 ラウンド・スクレイパー、刃部つぶれ、基部欠損
	11	3・2-05	覆土1	139.7	71.5	68.5	685.0	砂岩	方割礫D	9
15		覆土1	—	—	—	0.3	メノウ	剥片	784	

土壌出土の石器

1はP2出土の砥石で、両面に各々3ヵ所ずつの使用痕を残す。破損後たたき石としても使用されており両面に敲打痕がみられる。2はP5出土の石冠で一端を欠く。使用面は弧状に減っており、面側縁の下部にも使用面がある。3はP6出土のほぼ半分に分れた石皿で、一面には比較的明瞭なすりくぼみ痕と敲打痕がみられ、他面はわずかにすりくぼんでいる。4はP8出土の焼けたラウンドスクレイパーで、刃部がつぶれている。5～8はP10の石器類である。5は横立ち状態で出土した台石で、一面がみががかれて平滑になっている。6は横長の礫皮片を素材とした石錐で、刃部先端を欠き、焼けている。7は四方を使用している楔形石器で、図の左側縁と下縁を使用により欠いている。8は刃部全体につぶれが顕著にみられるラウンドスクレイパーで、若干の摩耗がみられる。なお、7・8は焼けている可能性もあるが伴然としない。9はP11出土の方割礫(図の斜線部分)と、各区出土の方割礫が接合したもので、割れた後幾つかが焼けている。



図V-2-20 土壌出土の石器

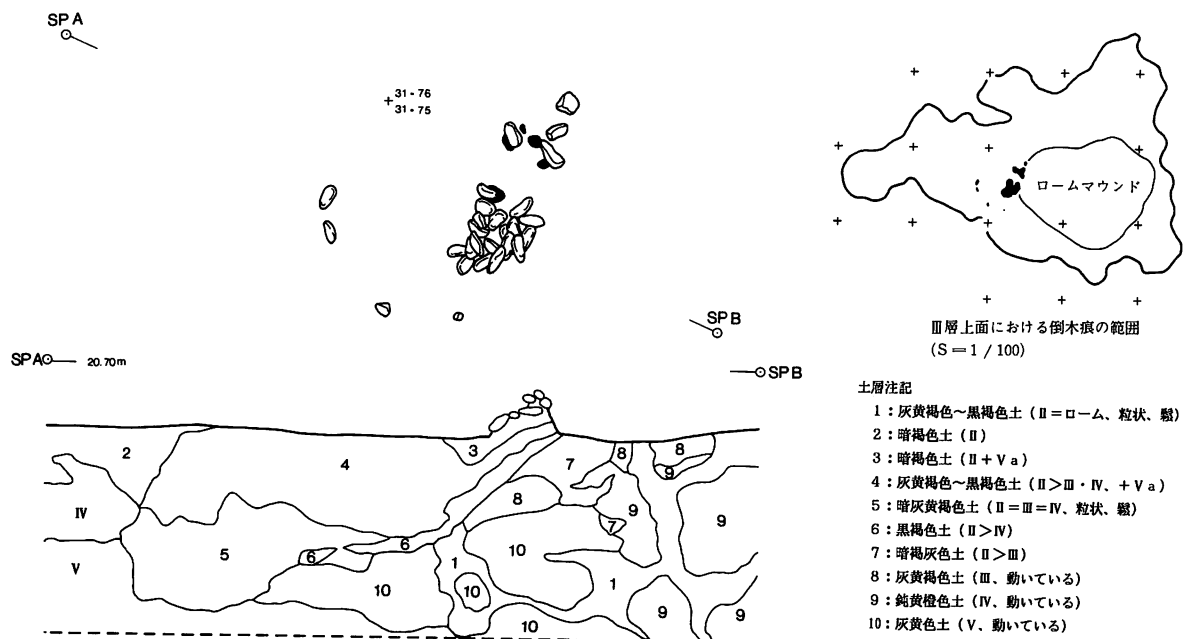
### 3) 集石

集石 礫の平面分布の長径76cm 短径51cm 垂直分布の範囲31cm

3・1-75区のⅡ層中で確認。集石の上面が南東から北西へ顕著に傾いていたので、下位に土壌などがあることを予想し、傾斜方向に立ち割りを設けて層位を検討した。その結果集石は倒木痕にともなう黒色土の落ち込みの中に位置していることを確認した。おそらく本来は平坦に形成されていた集石が風倒木のために傾斜したものと推定される。集石の中心からやや西側に離れて出土した3点の礫は、このとき黒色土と共に深い位置へずり落ちた可能性が高い。なお集石周辺の黒色土にV a層の軽石が少量混じっているのが注意され(3層)、人為的な覆土をもつ遺構が集石に伴っていた可能性は残る。32点出土した礫のうち19点は長さ6~8cm、幅3~4cm、重さ50~100g程度の長手の円礫(下表)で、特に集石の中央にはこの種の礫が集まっている。北東側部分に混在する拇指頭大以上の軽石円礫(火山弾)は偶然3層に含まれていたものの可能性がある。礫に隣接して天神山式土器1点が出土している。

表V-2-43 集石出土礫一覧

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	遺物No	備 考
1	3・1-75	69.4	40.5	26.2	90.3	安山岩	620-1	楕円礫
2	3・1-75	67.4	30.7	22.2	53.9	安山岩	620-2	長楕円礫
3	3・1-75	40.1	30.9	21.4	25.1	凝灰岩	620-4	五角礫
4	3・1-75	29.8	26.2	17.2	19.4	泥岩	620-5	五角礫
5	3・1-75	80.0	29.8	21.0	67.5	泥岩	620-6	長楕円礫
6	3・1-75	61.5	34.6	19.1	59.0	安山岩	620-7	楕円礫
7	3・1-75	75.8	35.7	15.2	54.1	安山岩	620-8	偏平長楕円礫
8	3・1-75	85.8	30.7	25.4	91.2	安山岩	620-9	長楕円礫
9	3・1-75	61.1	32.5	27.9	69.0	珪質岩	620-10	楕円礫
10	3・1-75	61.6	36.5	23.1	68.6	凝灰岩	620-11	楕円礫
11	3・1-75	60.1	35.1	48.3	71.2	凝灰岩	620-12	方角礫B
12	3・1-75	61.4	36.1	28.6	74.8	凝灰岩	620-13	楕円礫、癒けている
13	3・1-75	74.9	31.7	22.2	72.2	安山岩	620-14	方角礫B
14	3・1-75	68.5	34.3	26.9	73.6	安山岩	620-15	方角礫B
15	3・1-75	58.1	30.4	25.8	57.0	安山岩	620-16	楕円礫
16	3・1-75	69.1	32.3	26.4	64.4	凝灰岩	620-17	長楕円礫
17	3・1-75	63.9	30.8	22.7	52.0	安山岩	620-18	楕円礫
18	3・1-75	69.8	25.1	23.9	56.9	安山岩	620-19	方角礫B
19	3・1-75	65.2	38.3	17.2	61.2	安山岩	620-20	偏平楕円礫
20	3・1-75	62.3	39.9	19.9	46.7	凝灰岩	620-21	偏平楕円礫
21	3・1-75	54.4	24.6	24.9	47.8	安山岩	620-22	楕円礫
22	3・1-75	68.3	42.2	20.5	63.5	凝灰岩	620-23	偏平楕円礫
23	3・1-75	64.9	32.3	19.3	59.1	安山岩	620-24	長楕円礫
24	3・1-75	64.9	44.3	24.6	35.2	火山弾	620-25	楕円礫
25	3・1-75	73.0	35.9	30.7	96.3	凝灰岩	620-26	方角礫B、620-27と接合後楕円礫
26	3・1-75	51.6	33.8	29.4	59.6	凝灰岩	620-28	方角礫B
27	3・1-75	51.5	45.3	27.2	65.0	凝灰岩	620-29	方角礫B
28	3・1-75	33.7	22.6	17.8	4.2	火山弾	620-30	楕円礫
29	3・1-75	35.7	26.0	24.5	9.8	火山弾	620-31	楕円礫
30	3・1-75	64.6	38.2	30.7	99.5	凝灰岩	620-32	楕円礫
31	3・1-75	36.1	27.7	16.9	6.1	火山弾	620-33	五角礫
32	3・1-75	58.2	32.3	23.3	69.8	安山岩	620-34	楕円礫

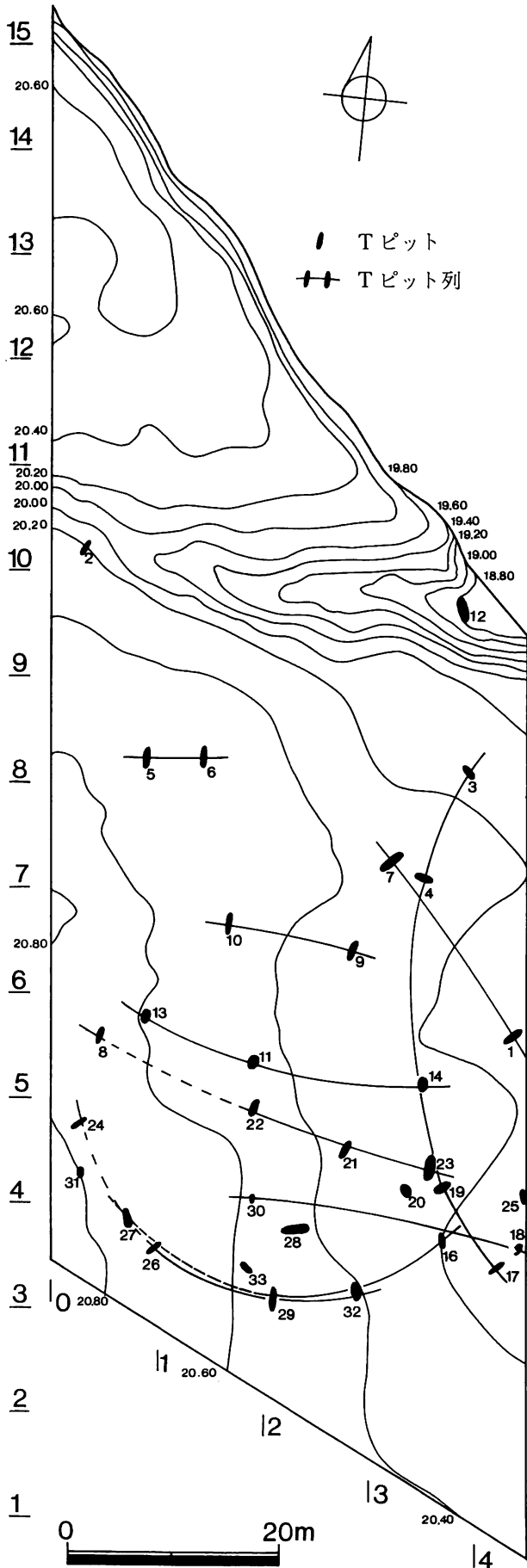


図V-2-21 集石平面及び断面

#### 4) Tピット

32基 (15は排土のみで除外) を確認した。分布をみると沢跡の中に1基、南側に31基で、北側に位置するものはない。形態的には杭穴をもつものが6基あり、そのうち20のみが2本、他の5基は1本である。壙底の長幅比は全て3未満で、深さは30が56cmと最も浅く、11が136cmと深い。杭穴をもたないものは26基あり、その長幅比は31の2.4から24の17.1までばらつきがある。深さは31が59cmと極端に浅く、9が152cmと深い。これらを「苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ」における大泉の分類 (1987) にあてはめると、A<sub>2</sub>型 (長幅比9.0以上、長さ2m未満、杭穴なし) が15基、B<sub>1</sub>型 (長幅比4.1～8.9、杭穴なし) 10基、C<sub>1</sub>型 (長幅比4.0以下、長さ2m未満、杭穴なし) 1基、C<sub>2</sub>型 (長幅比4.0以下、長さ2m未満、杭穴あり) 6基となる。更にこれらの底面形や位置・深さを考慮して細分すると、次頁の図に示したように2ないし3基で1セットの列をなすようで、その列方向は概ねコンターに直交する。

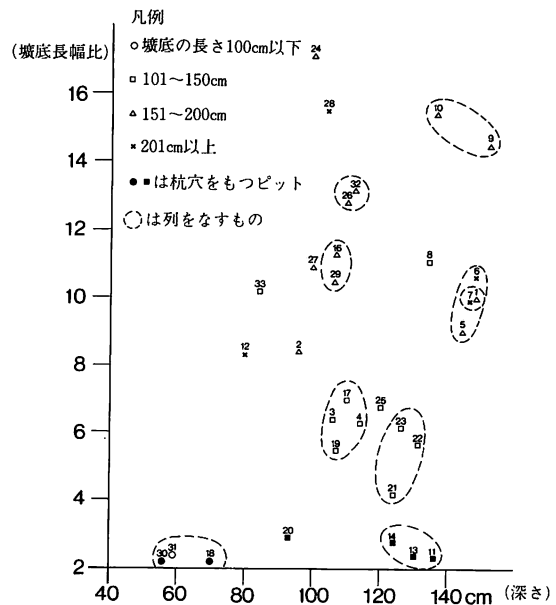
極めて特徴的な形態をもつものに、11・13・14のグループと21～23のグループがある。前者は壙底の平面形が西洋の棺桶のような六角形を呈するもので、中段より上は楕円形を呈す。中央に杭穴を1本もち深さは130cm前後である。後者は壙底北側が一段高く、壙底全体も南側に極端な傾斜をみせるもので、杭穴はない。最大の深さはほぼ134cm前後であるが、段の上位まではほぼ100cmである。



図V-2-22 Tピットの分布

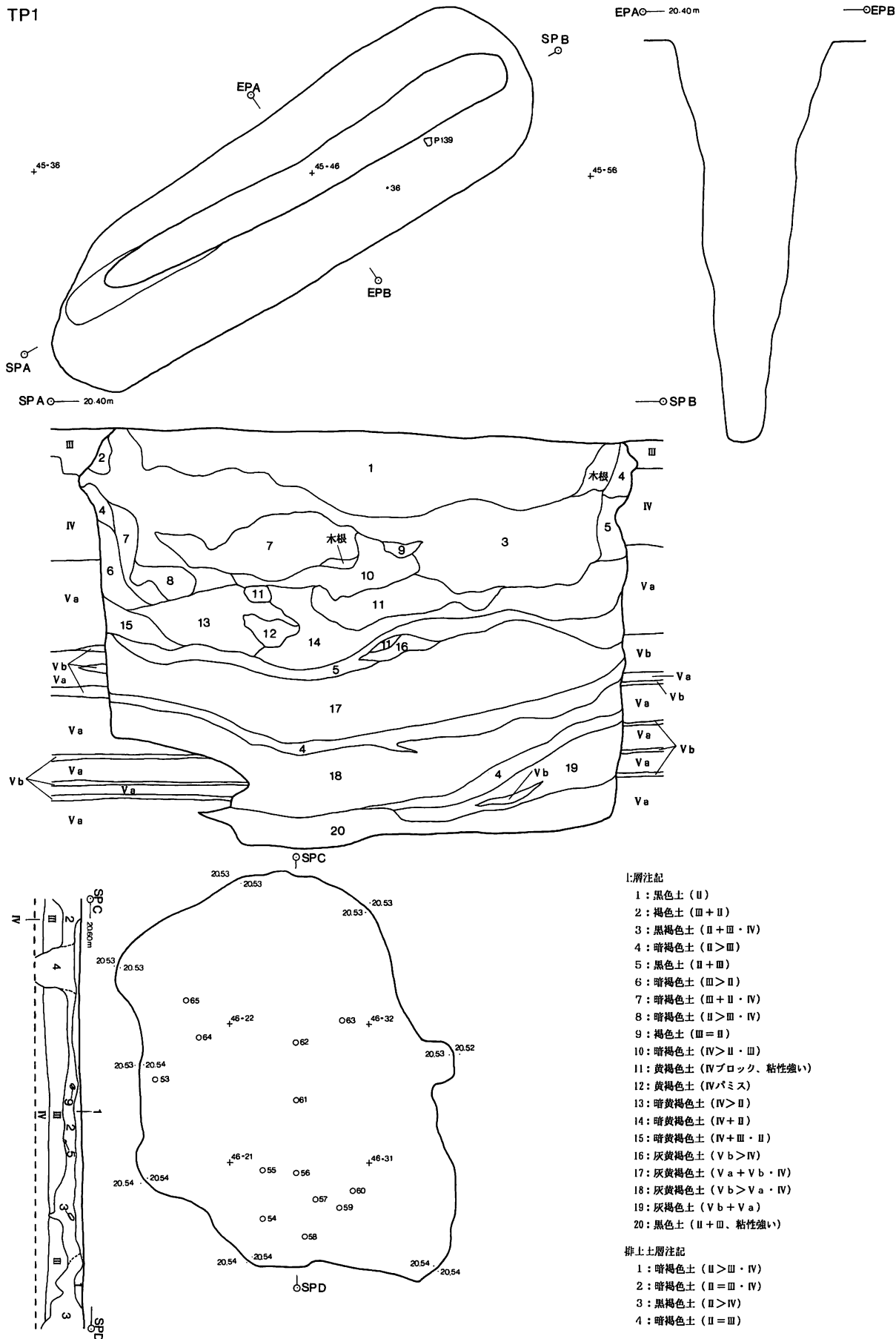
表V-2-44 Tピット計測値一覧

No	グリッド	深さ (m)	墳底面		長幅比	欝	備考
			長さ	幅			
1	4・5	148	180	18	10.0		7と列をなす、北側のP1上面に排土あり
2	0・10	96	159	19	8.4		
3	3・8	106	102	16	6.4		4と列をなす、北西側に排土、墳底角張る
4	3・7	114	126	20	6.3		3と列をなす、墳底角張る
5	0・8	144	189	21	9.0		6と列をなす
6	1・8	148	211	20	10.6		5と列をなす
7	3・7	146	238	24	9.9		1と列をなす
8	0・5	134	144	13	11.1		北側に排土あり、墳底が南側に傾斜
9	2・6	152	188	13	14.5		10と列をなす
10	1・6	136	200	13	15.4		9と列をなす、FP32が積っている
11	1・5	136	102	44	2.3	1	13・14と列をなす、墳底が六角形
12	3・9	80	216	26	8.3		下部は伏流水で一部流失
13	0・5	130	106	44	2.4	1	11・14と列をなす、墳底が六角形
14	3・5	124	102	36	2.8	1	11・13と列をなす、墳底が六角形
15	4・2	-	-	-	-	-	排土のみ確認
16	3・3	107	158	14	11.3		29と列をなす、南西側に排土あり
17	4・3	110	140	20	7.0		19と列をなす、墳底角張る
18	4・3	70	80	36	2.2	1	30と列をなす、墳底角張る
19	3・4	107	121	22	5.5		17と列をなす、南西に排土、墳底角張る
20	3・4	93	117	40	2.9	2	FP72が切っている
21	2・4	124	117	28	4.2		22・23と列をなす、墳底に段と傾斜
22	1・4	131	119	21	5.7		21・23と列をなす、墳底南側に傾斜
23	3・4	126	148	24	6.2		21・22と列をなす、墳底南側に傾斜
24	0・4	100	154	9	17.1		26・32と列をなすか
25	4・4	120	122	18	6.8		墳底は長方形に近い形
26	0・3	110	154	12	12.8		32と列をなす、壁下部に横穴あり
27	0・3	100	152	14	10.9		16・29と列をなすか
28	3・3	104	202	13	15.5		
29	2・3	106	168	16	10.5		16と列をなす
30	1・4	56	74	34	2.2	1	18と列をなす
31	0・4	59	76	32	2.4		
32	2・3	112	159	12	13.2		26と列をなす
33	1・3	84	133	13	10.2		



図V-2-23 Tピット計測値の分布

TP1



図V-2-24 TP1平面及び断面

**TP 1** 長さ199cm 幅62cm 深さ180cm

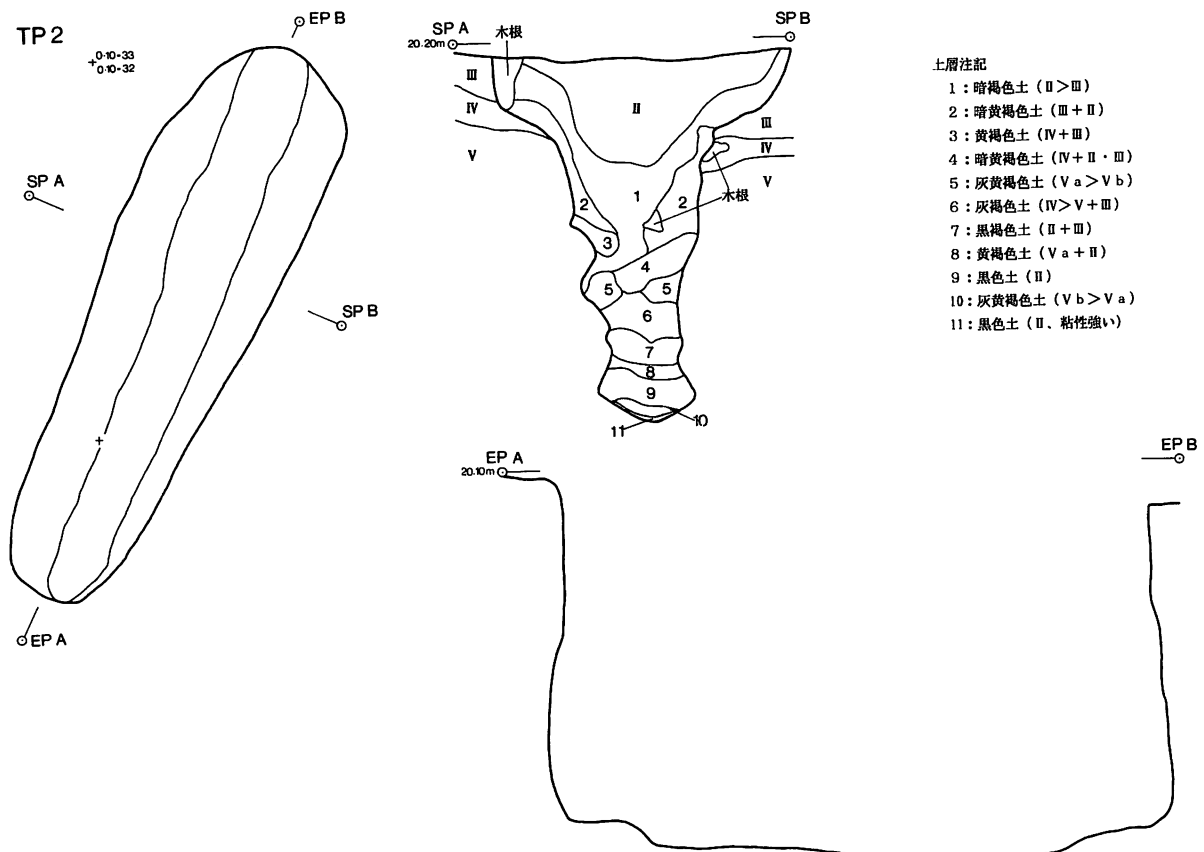
4・5-35区で確認した。杭穴はなく壙底は角をもたない。掘り直されたとみられるピットで、壙底は西南部分で2段になる。下の段の壙底は中央部南西寄りにくぼみ、上段の壙底はこのくぼみに傾斜する。壙底直上には厚くⅡ層土主体の土が見られ、その上にⅤ層土主体の土を挟み3枚のⅡ層土主体の土が帯状に堆積して、上のⅣ層主体の層と一線を画している。位置的にみて7と対になるものと思われる。遺物は、覆土3層中から東釧路Ⅲ式土器片、覆土1層中から剥片が出土している。北側の4・6-21・22区で排土を確認した。規模は長径314cm×短径238cm。南側にあるP1の一部を覆っている。排土2・3層から萩ヶ岡2式・天神山式土器片13点が得られた。

**TP 2** 長さ158cm 幅64cm 深さ96cm

0・10-32区で確認した。壙底は角をもたない。杭穴はない。長軸方向の壁面は、北東側、南西側共に底部付近でオーバーハングしている。セクション面での壁面は壙底から約40cmまでの部分は残っているが、それより上方は崩落している。壙底部に漆黒色土の堆積が見られ、覆土10の堆積後、再び黒色土が堆積している。壙底部付近の張出しは、その2回目の黒色土の堆積時に生じたものとする。遺物は出土していない。

**TP 3** 長さ148cm 幅44cm 深さ106cm

3・8-90・91区で確認。長軸は概ねコンターに並行する。杭穴はない。壙底は南西側に傾斜し角をもつ。壙底直上にはⅡ層土が先ずみられ、その上にⅡ層土主体の土、Ⅴ層土主体の土が厚く堆積している。壁面の崩落は南西側でやや目立つ程度で、全体には些程ではない。位置、形態などから4と対をなす。南側の17・19とも一連の列をなすものと思われる。フローテーションにより覆土12層からイネ科の種子1粒、マタタビ属の種子2粒、キハダ属片1点、不明種子2粒が



図V-2-25 TP2平面及び断面



得られた。西側の3・8-23・33区に長径119cm×短径78cmの規模で排土を確認した。

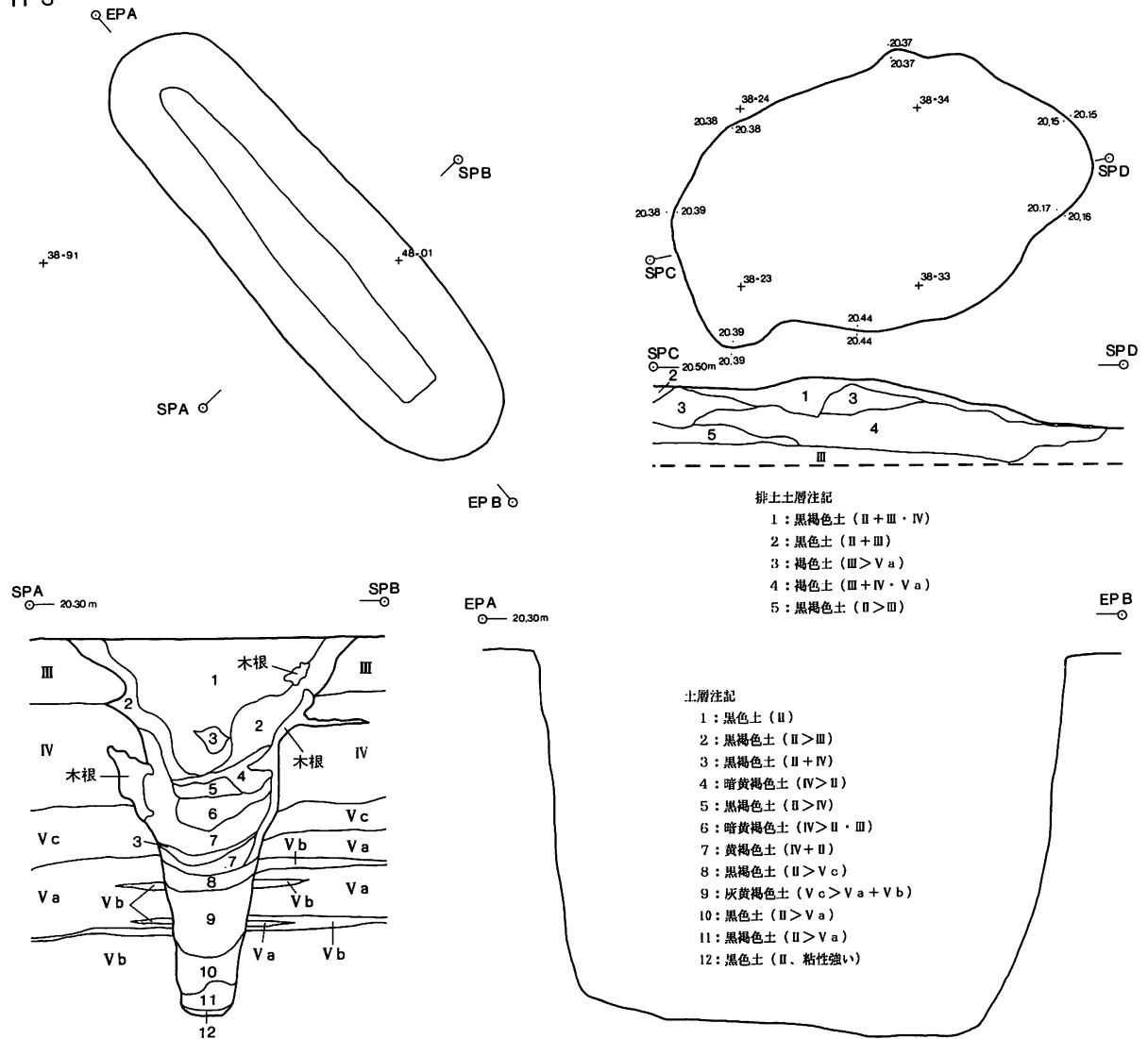
**TP 4** 長さ150cm 幅44cm 深さ114cm

3・7-50区で確認した。長軸はコンターにはほぼ直交する。杭穴はない。壙底は平坦で、両端が斜めに角張り平行四辺形のような形態を呈す。覆土の堆積は、壙底直上にはV層土を若干含むII層土が比較的厚く見られ、その上にV層土を中心とした崩落土が入り混じっており、流れ込み堆積と思われる5層より上の部分と一線を画している。壁面は、東端で掘開当初の立ち上がりが一部残っているものの、西端部では大きくオーバーハングし壙底面まで袋状に崩落している。位置、形態などから3と対をなすもので、南側の17・19とも列をなすものと思われる。

**TP 5** 長さ198cm 幅76cm 深さ144cm

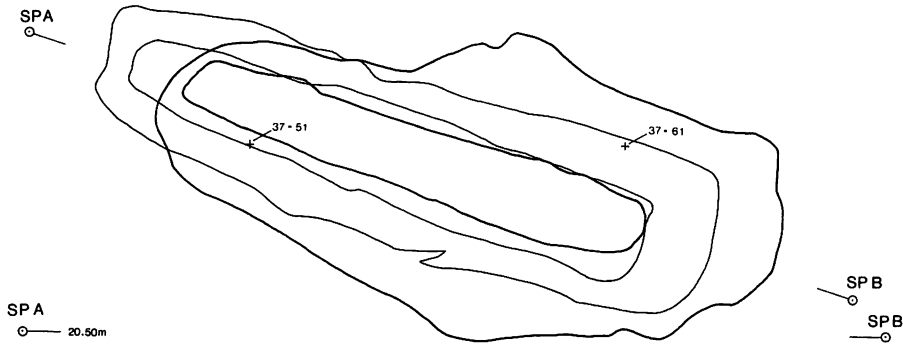
0・8-91区で確認した。長軸は溜れ沢にはほぼ直交する。杭穴はない。壙底は平坦で、ほぼ一直線を呈し、角はもたない。壙底直上にはV層土主体の土が先が見られ、その上にII層土主体の土が厚く堆積している。壁面の崩落は南端の一部で袋状に見られるが、全体に些程ではなく、壙底から確認面までほぼ垂直な立ち上りを維持している。規模・形態から6と対をなすものと思われる。遺物は、覆土7層中から石斧の刃部側片（刃部の過半が欠損している）が出土しており、2・5-66区出土の基部側片と接合した。

**TP 3**



図V-2-26 TP3平面及び断面

TP4

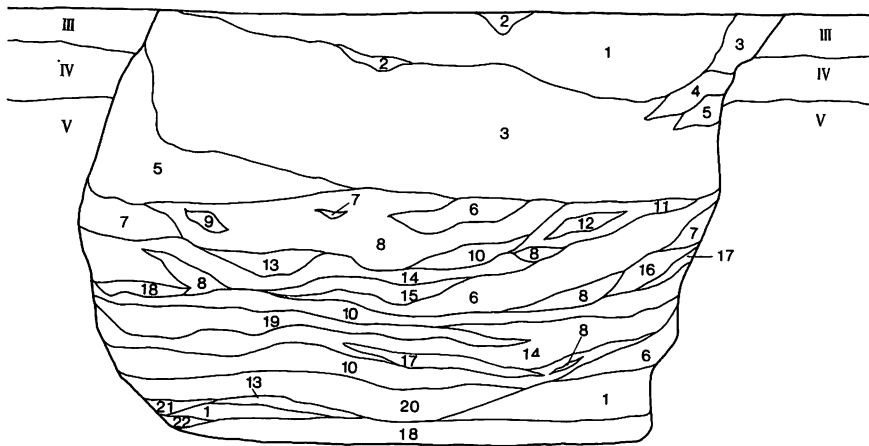


土層注記

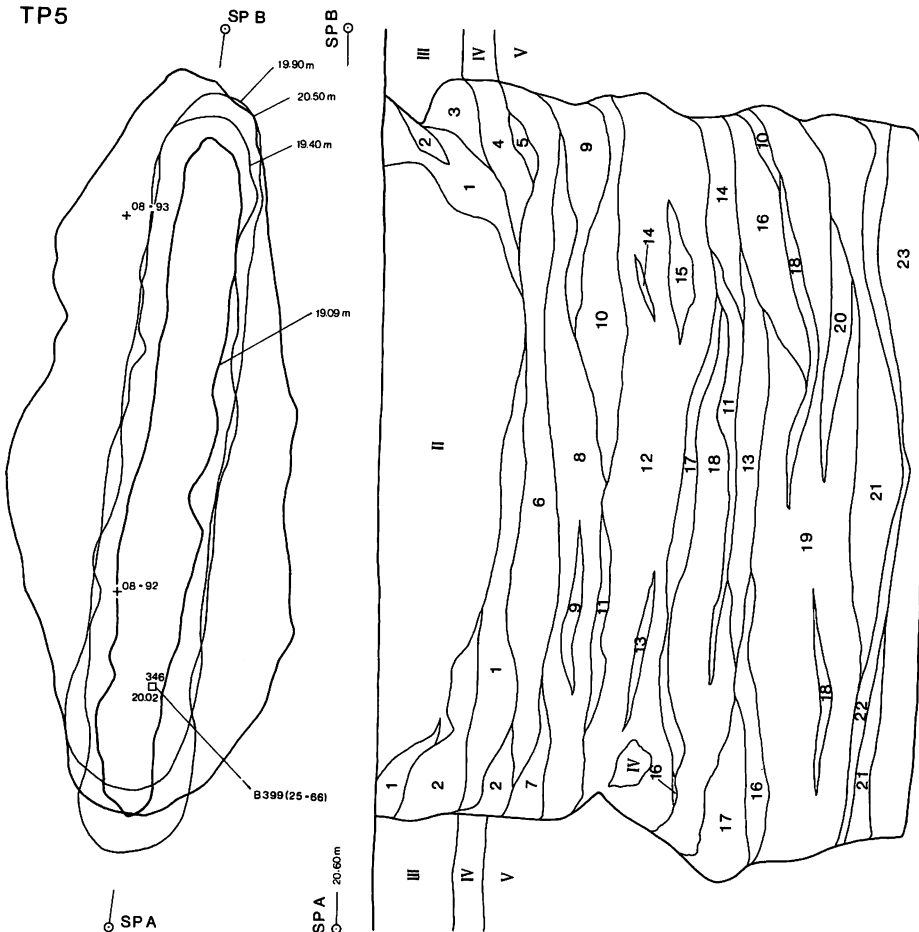
- 1: 黒色土 (II+III)
- 2: 暗褐色土 (III>II)
- 3: 黒褐色土 (II>III)
- 4: 暗黄褐色土 (II=IV)
- 5: 暗黄褐色土 (III+II·IV)
- 6: 黒褐色土 (II+IV·V)
- 7: 暗黄褐色土 (II=IV=V)
- 8: 黄褐色土 (IV)
- 9: 灰黄褐色土 (V+III·IV)
- 10: 灰黄褐色土 (Va=Vb)
- 11: 黄褐色土 (IV+III)
- 12: 灰黄褐色土 (V+IV)
- 13: 暗黄褐色土 (II>V)
- 14: 灰黄褐色土 (Vb>Va+IV)
- 15: 暗黄褐色土 (IV+II·V)
- 16: 灰黄褐色土 (IV=V)
- 17: 灰白色砂 (Vb)
- 18: 黒灰色土 (II+V)
- 19: 灰黄褐色土 (IV+V)
- 20: 暗灰色土 (V+II)
- 21: 黒褐色土 (II>III+V)
- 22: 黒灰色土 (II=Vb+Va)

SPA  
20.50m

SPB  
SPB



TP5



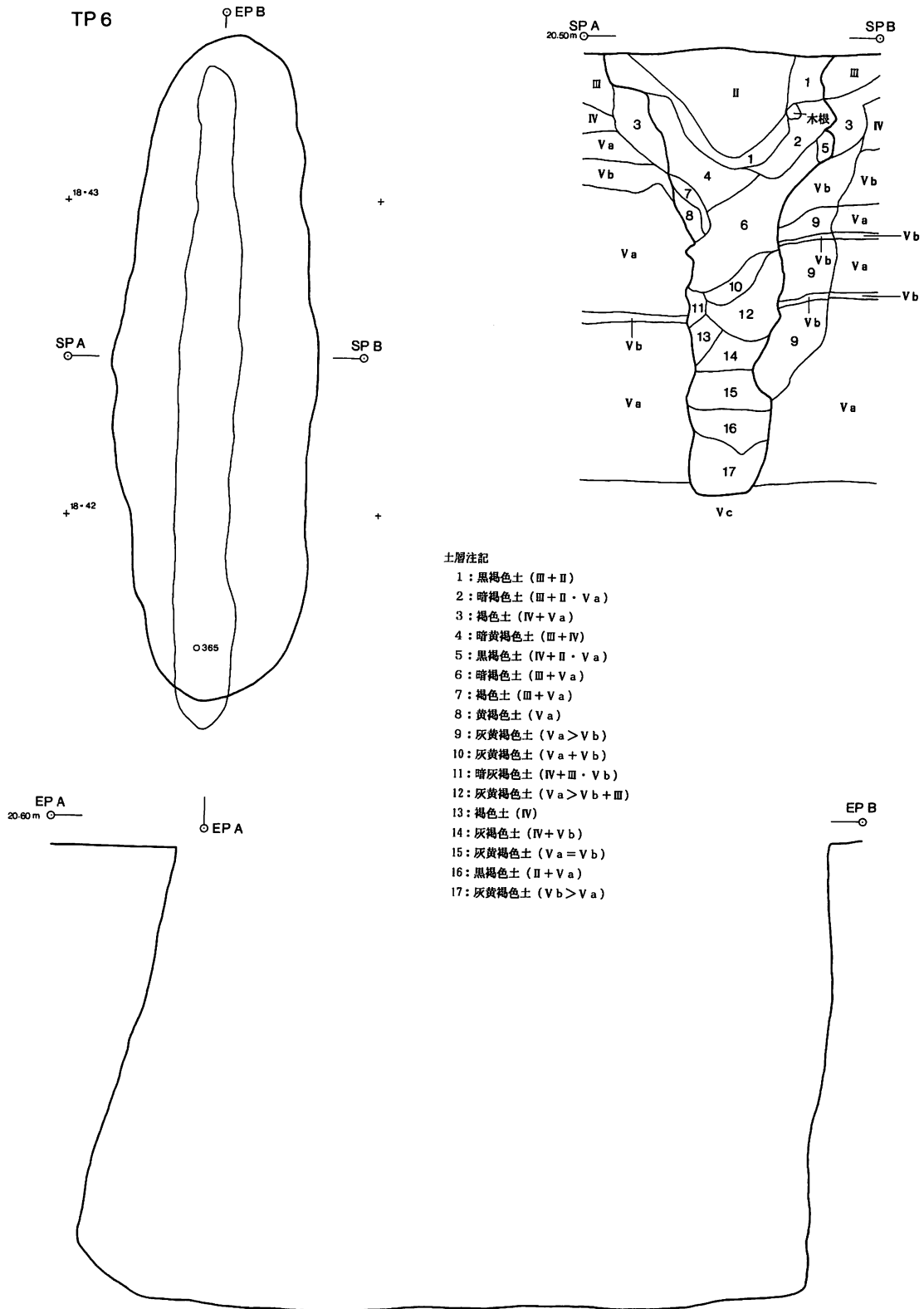
土層注記

- 1: 黒褐色土 (II>III)
- 2: 暗褐色土 (III>II)
- 3: 暗褐色土 (III+II·IV)
- 4: 暗黄褐色土 (IV>III)
- 5: 黄褐色土 (III>IV+II)
- 6: 黒褐色土 (II>IV+V, 炭化物を含む)
- 7: 暗褐色土 (II=III+IV·Va)
- 8: 暗黄褐色土 (II=IV·V)
- 9: 黄褐色土 (IV+II·Va)
- 10: 黄褐色土 (IV+V)
- 11: 灰黄褐色土 (Vb+IV)
- 12: 灰黄褐色土 (V>IV)
- 13: 黄褐色土 (III=IV+Va)
- 14: 黒灰色土 (II+Vb)
- 15: 灰黄褐色土 (V>IV+II)
- 16: 灰黄褐色土 (Vb>Va)
- 17: 灰黄褐色土 (IV>V)
- 18: 灰黄褐色土 (V+IV)
- 19: 灰黄褐色土 (Va=Vb)
- 20: 暗褐色土 (V>II)
- 21: 黒褐色土 (II+V)
- 22: 黒褐色土 (II>V)
- 23: 灰黄褐色土 (V+II)

図V-2-27 TP4・5平面及び断面

**TP 6** 長さ211cm 幅66cm 深さ148cm

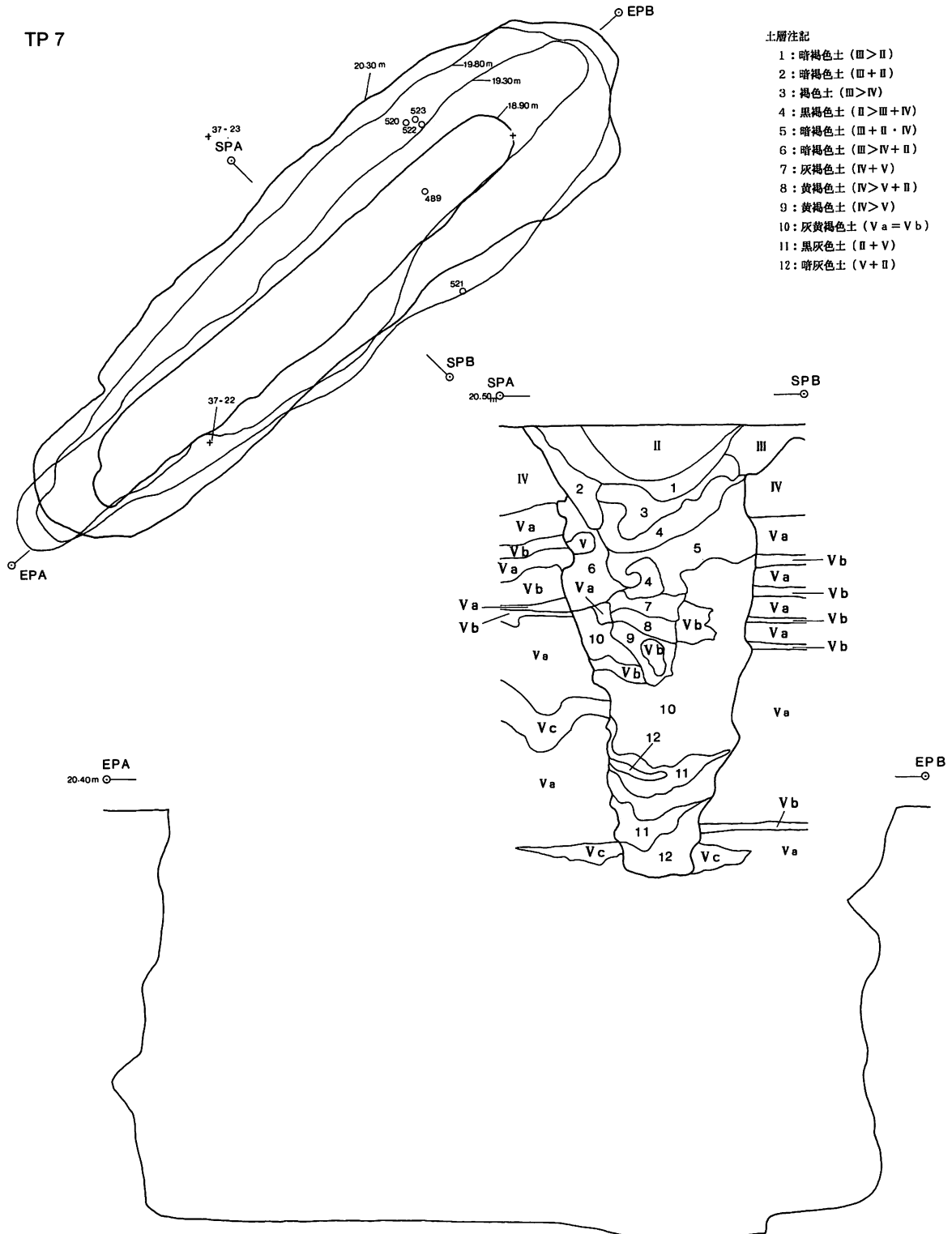
1・8-42区で確認した。壙底は角をもたない。杭穴はない。長軸方向の南側壙底付近で壁面がオーバーハングしている。短軸方向の壁面は、壙底から約25cmまでの部分は残っているが、それより上方は崩落している。遺物は出土していない。



図V-2-28 TP6平面及び断面

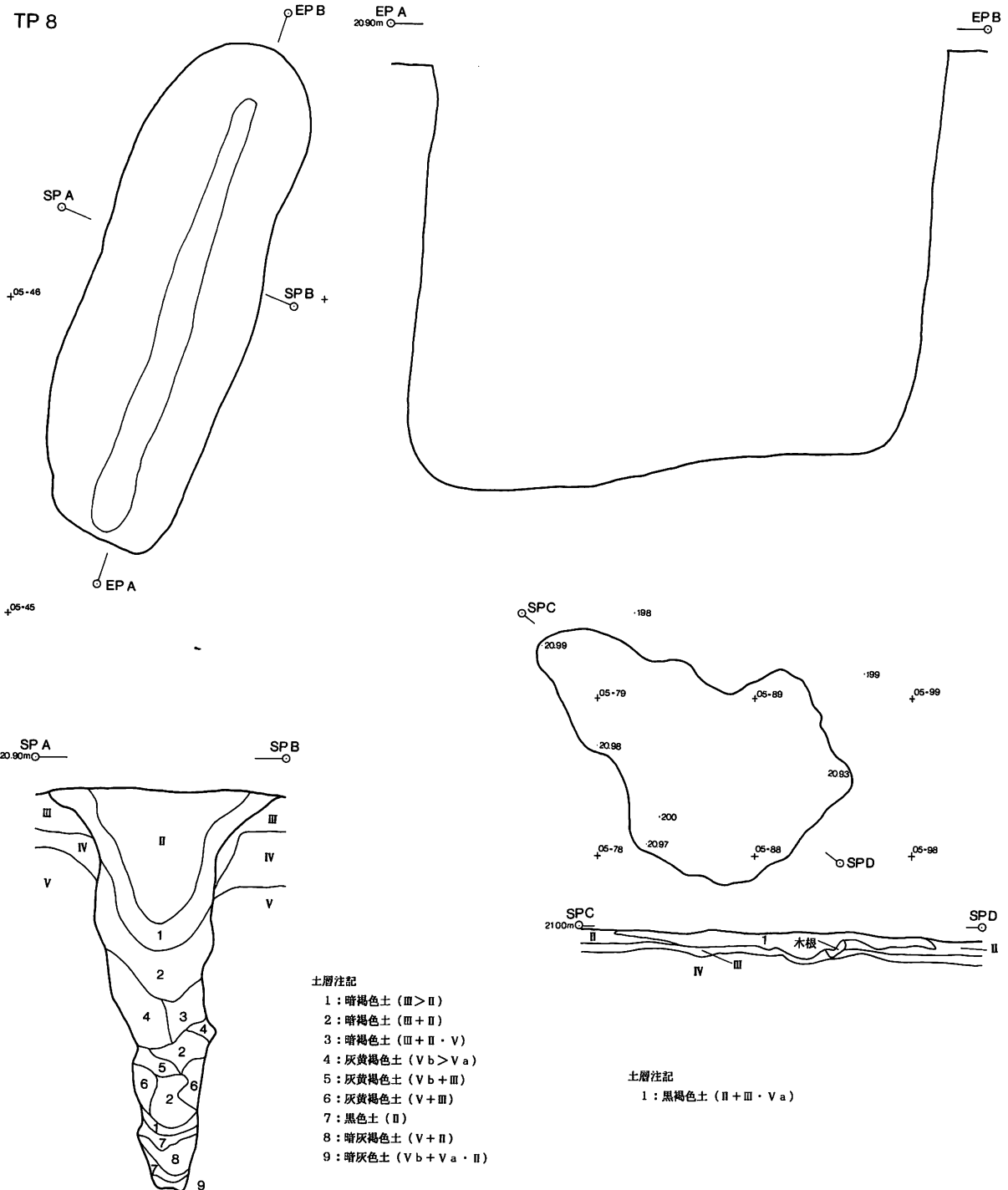
TP 7 長さ238cm 幅66cm 深さ146cm

3・7-11区で確認した。杭穴はない。墳底はほぼ一直線で角をもたない。墳底直上にはV層土主体の土が先が見られ、その上にII層土主体の土が堆積している。壁面両端の崩落は些程大きくない。覆土1・3層中より萩ヶ岡2式土器片が出土している。位置的にみて1と対になるものと思われる。



**TP 8** 長さ164cm 幅54cm 深さ134cm

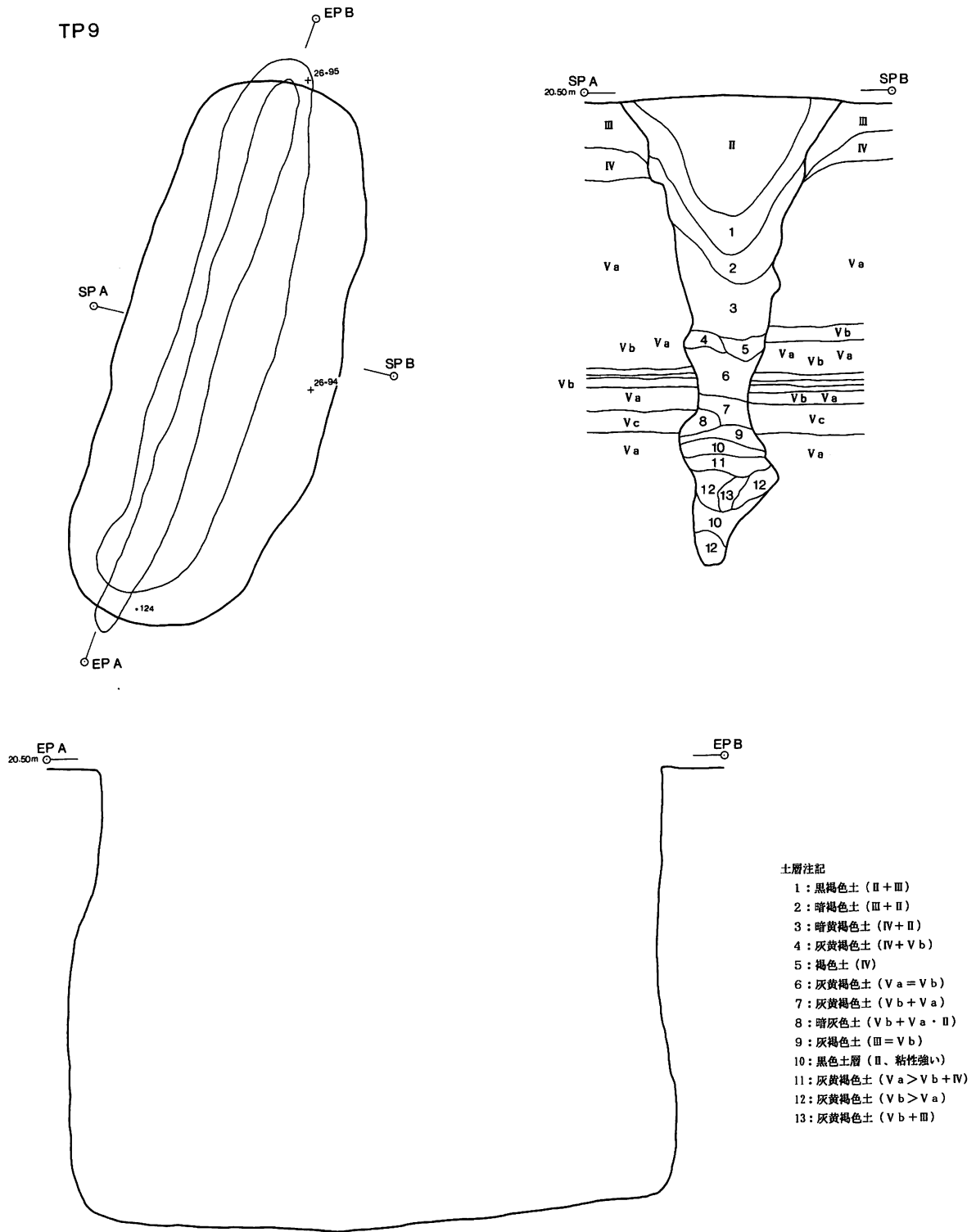
0・5-45区で確認した。杭穴はない。壙底は左右に若干うねっており細い。角はもたず、南側に傾斜している。こうした傾斜をもつものには21~23のグループがあり、本Tピットもその列の延長線上に位置している。長さや深さもほぼ同規模であるが、本Tピットのみ壙底の幅が極端に細い点が異なる。覆土の堆積は、壙底直上にV b層主体の土がみられ、その上にII層土が流れ込んでいる。壁面の崩落は些程顕著ではない。なお、北東側に排土の広がりが見られ、その中から黒曜石の剥片3点（うち1点は焼けている）が得られた。



図V-2-30 TP 8 平面及び断面

TP 9 長さ181cm 幅72cm 深さ152cm

2・6-83区で確認した。壙底は角をもたない。杭穴はない。壙底面の幅が極めて狭く、左右に波打っている。壙底直上にはV層の崩落土がみられ、その上に粘性の強い黒色土が堆積している。長軸方向両端はオーバーハングしている。短軸方向の壁面は、崩落が顕著で、壙底から10cm位までしか残っていない。遺物は縞頁岩の剥片1点が覆土II層から出土している。位置・形態などから10と対をなすものと思われる。

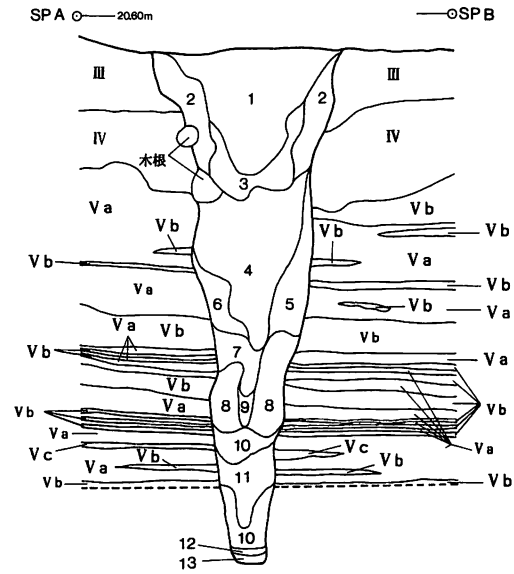
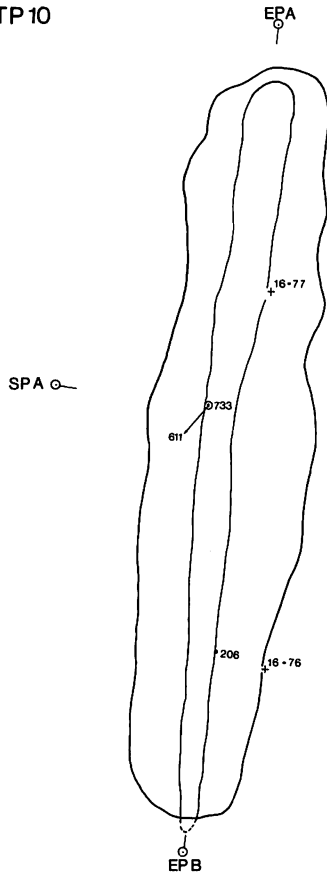


図V-2-31 TP9平面及び断面

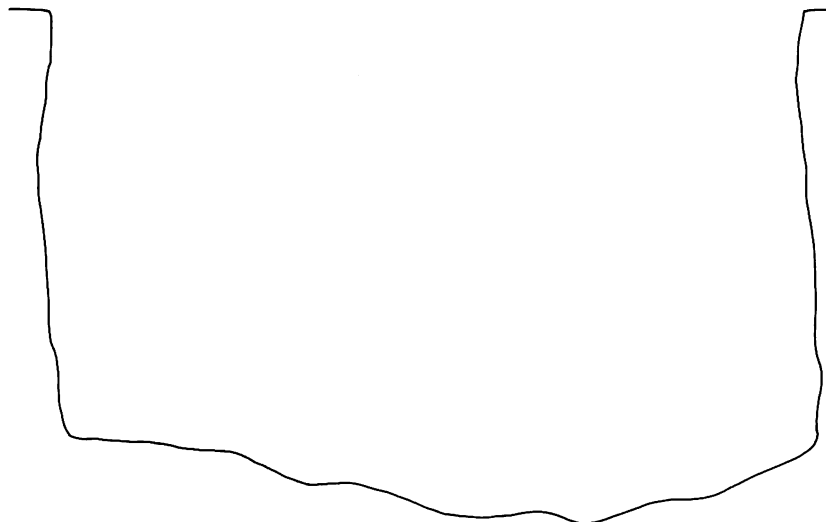
**TP 10** 長さ200cm 幅45cm 深さ136cm

1・6-66・67区で確認した。杭穴はない。墳底は左右に若干うねっており細長い。角はもたず中央部に傾斜し凹凸がある。北側が膨らみ南側が細くわずかにオーバーハングする。覆土は、最下層にⅡ層土、その上にⅤ層土主体の土が堆積する。遺物は覆土1より土器片2点（東釧路Ⅲ式・円筒上層式）と剥片19点（1点は焼けている）が出土した。TP 9と列をなす。本ピット上には萩ヶ岡2式土器を伴うFP 32が確認されている。

TP 10



EPA 〇 — 20.60m



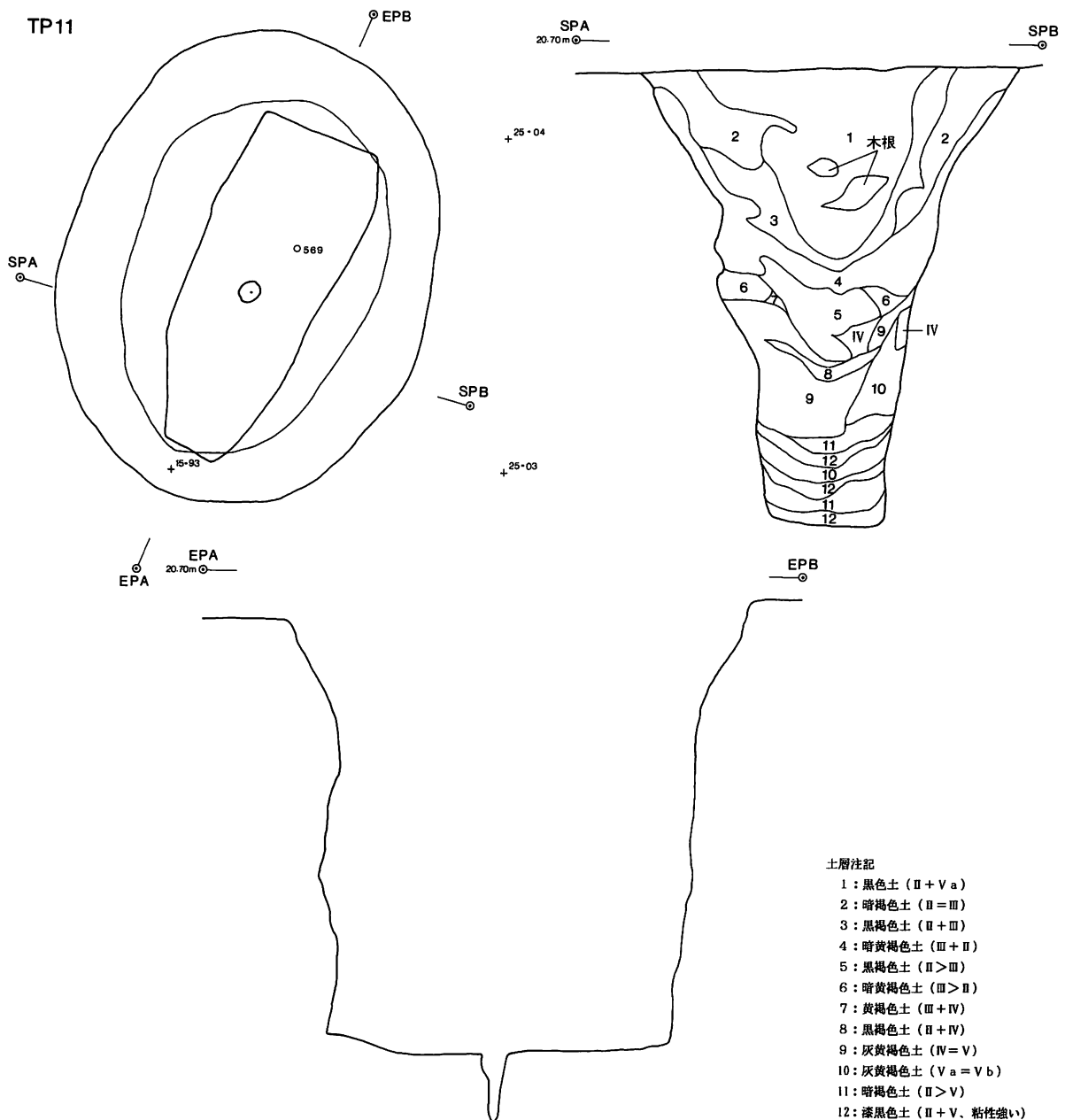
土層注記

- 1: 黒色土 (Ⅱ)
- 2: 暗褐色土 (Ⅲ+Ⅱ)
- 3: 黒色土 (Ⅱ+Ⅲ)
- 4: 暗黄褐色土 (Ⅳ+Ⅱ・Ⅴa)
- 5: 灰黄褐色土 (Ⅳ+Ⅴa・Ⅴb)
- 6: 暗黄褐色土 (Ⅳ+Ⅱ)
- 7: 暗黄褐色土 (Ⅳ+Ⅱ・Ⅲ)
- 8: 灰黄褐色土 (Ⅴa+Ⅴb、粒径大)
- 9: 暗灰黄褐色土 (Ⅴa=Ⅴb+Ⅲ)
- 10: 黒色土 (Ⅱ、粘性あり)
- 11: 灰黄褐色土 (Ⅴa+Ⅴb、粒径小)
- 12: 灰褐色土 (Ⅴc+Ⅴa)
- 13: 黒色土 (Ⅱ、粘性強い)

図V-2-32 TP10平面及び断面

TP11 長さ142cm 幅110cm 深さ136cm

1・5-93区で確認した。壙底中央に杭穴1本が見られる。この杭穴は先細りで尖っており、上部が若干太くなっているものの根固めの跡は見られず、杭の打ち込みによるものと思われる。壙底はほぼ平坦で六角形に近い形態を示しているが、壁面中位より上は楕円形を呈す。壁面の形状及び覆土中にV層土が極端に少ない点から、本ピットは構築当初からこうした形態をもっていたものと思われる。なお、同様の形態をもつものに13・14があり、緩い弧状の列をなしている。覆土には、粘性の強い漆黒色土(12層)が壙底直上を含め3枚見られる。9層より上位は、若干の壁面の崩落と流れ込みによる堆積と思われるが、その中でII層土を主体とし帯状の堆積を示す黒褐色土(8層)が、確認面からほぼ90cm下位に見られることは、13・14との整合性からも注意が必要であろう。遺物には崩落土の覆土10層中から出土した天神山式土器片2点と、流れ込みの覆土1層から出土した萩ヶ岡式土器片1点がある。

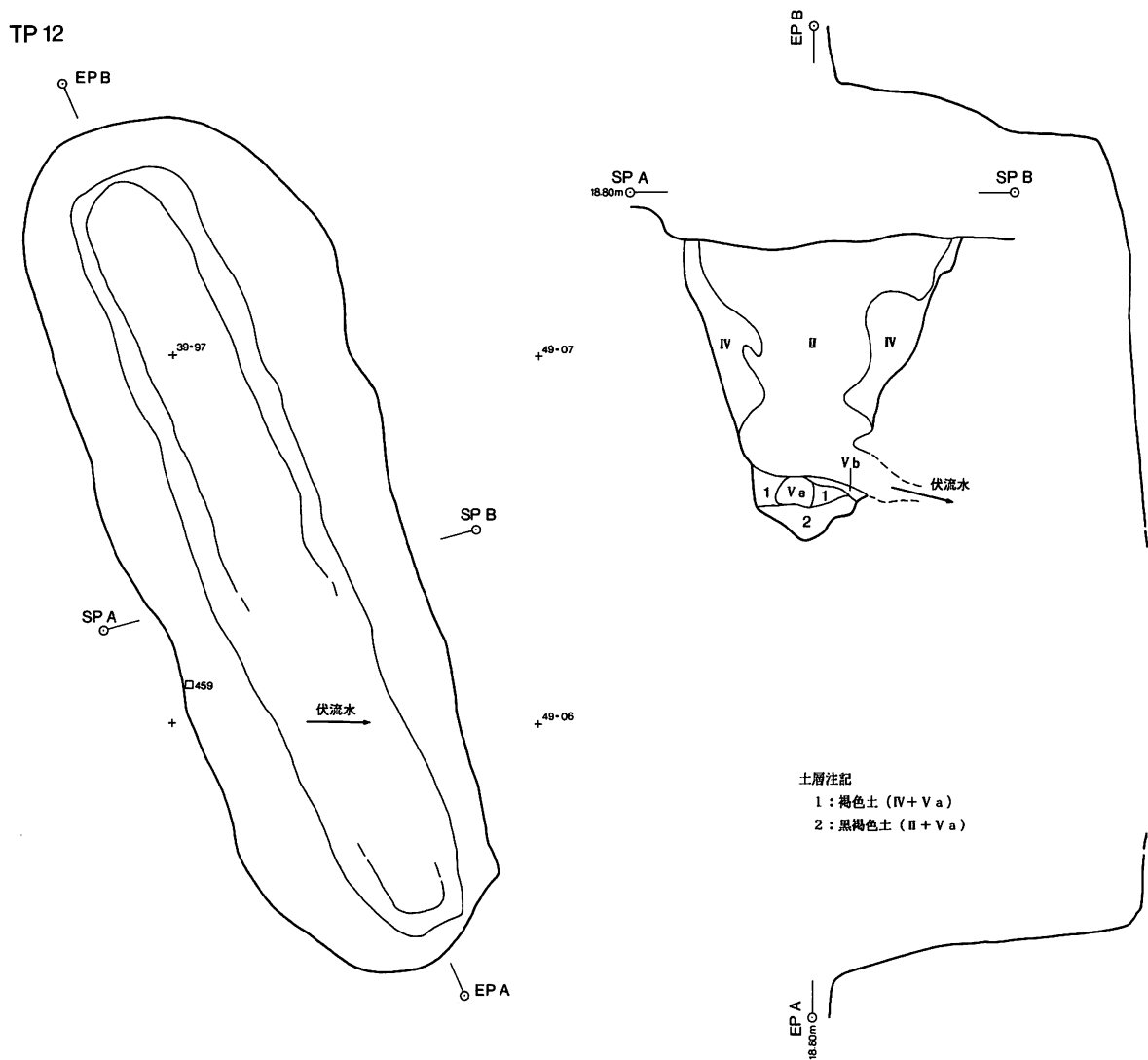


図V-2-33 TP11平面及び断面



**TP 12** 長さ244cm 幅82cm 深さ80cm

1・5-93区の、縄文時代前期には既に溜れていたと思われる沢跡内に位置しており、確認段階ではP 4～6のような楕円形土坑と考えていた。調査を進めるにつれTピットであることが判明し、同時に湧水が激しくなり、坑底付近のレベルで沢跡に沿ってその地下を流れる伏流水が確認された。本ピットも壁面の一部がこの伏流水のために破壊されており、それに惑わされて坑底の一部を誤って掘り抜いてしまった。床面はほぼ平坦で一直線をなし、角はもたないものと思われる。覆土は、坑底直上にⅡ層土主体の土が堆積し、その上にⅣ・Ⅴ層の崩落土が見られる。しかし多くは伏流水のために流失したものと思われ、水流より上位は流れ込みのⅡ層土が主体である。壁面をみると側壁の崩落は顕著であるが、両端部の残りは比較的良好である。遺物は、覆土Ⅱ層中から焼けた方割礫Cが1点出土している。

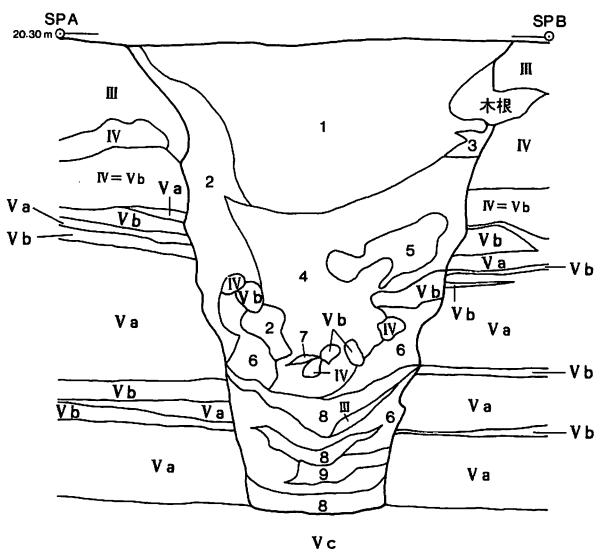
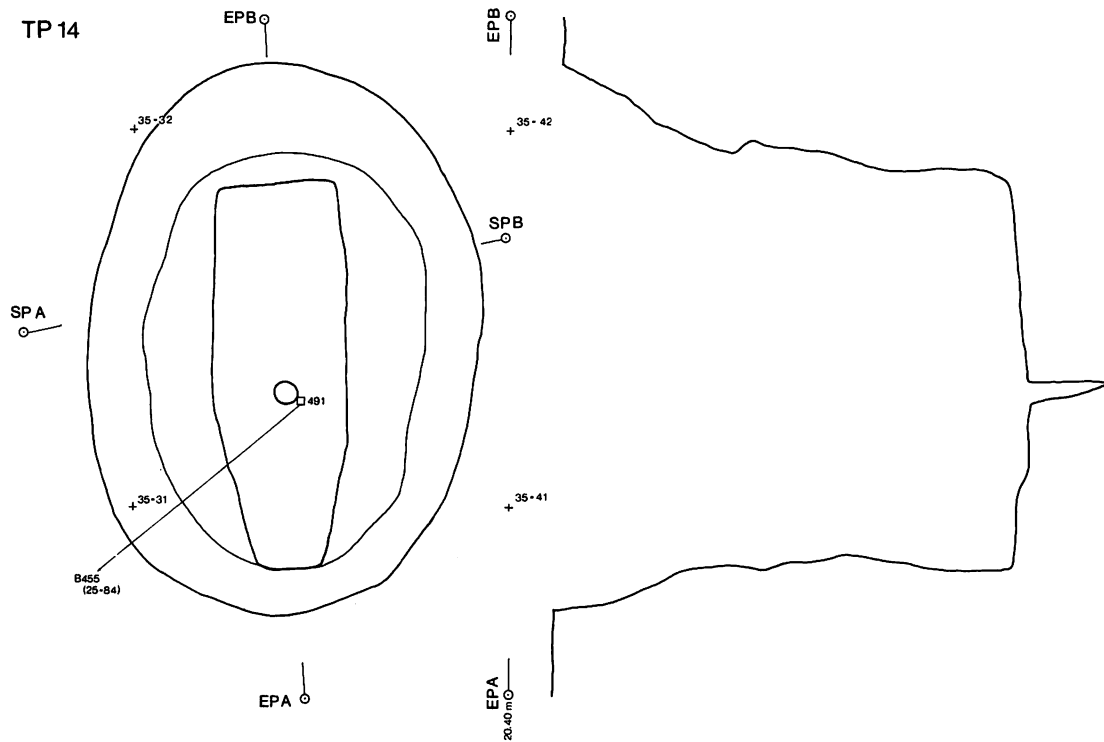


図V-2-34 TP12平面及び断面



TP 14 長さ146cm 幅104cm 深さ124cm

3・5-31区で確認した。形態・規模・杭穴とも11と同様である。墳底はVc層上面でほぼ平坦である。黒色土の帯状堆積は3枚で、その上位の層はやはり確認面から90cmのレベルに見られる。なお11・13と異なり、この黒色土より上位にもV層の崩落土が相当量みられる。遺物は、覆土II層中から出土した方割礫B 1点がある。これは2・5-84区出土の方割礫Bと接合して偏平楕円礫となった。



土層注記

- 1: 黒色土 (II + Va)
- 2: 暗褐色土 (III + II + Va)
- 3: 暗黄褐色土 (II = IV + III)
- 4: 黒褐色土 (II + III + Va)
- 5: 黄褐色土 (IV + III)
- 6: 灰黄褐色土 (Va > Vb)
- 7: 漆黒色土 (II)
- 8: 黒色土 (II + V)
- 9: 暗褐色土 (V + II)

図V-2-36 TP14平面及び断面

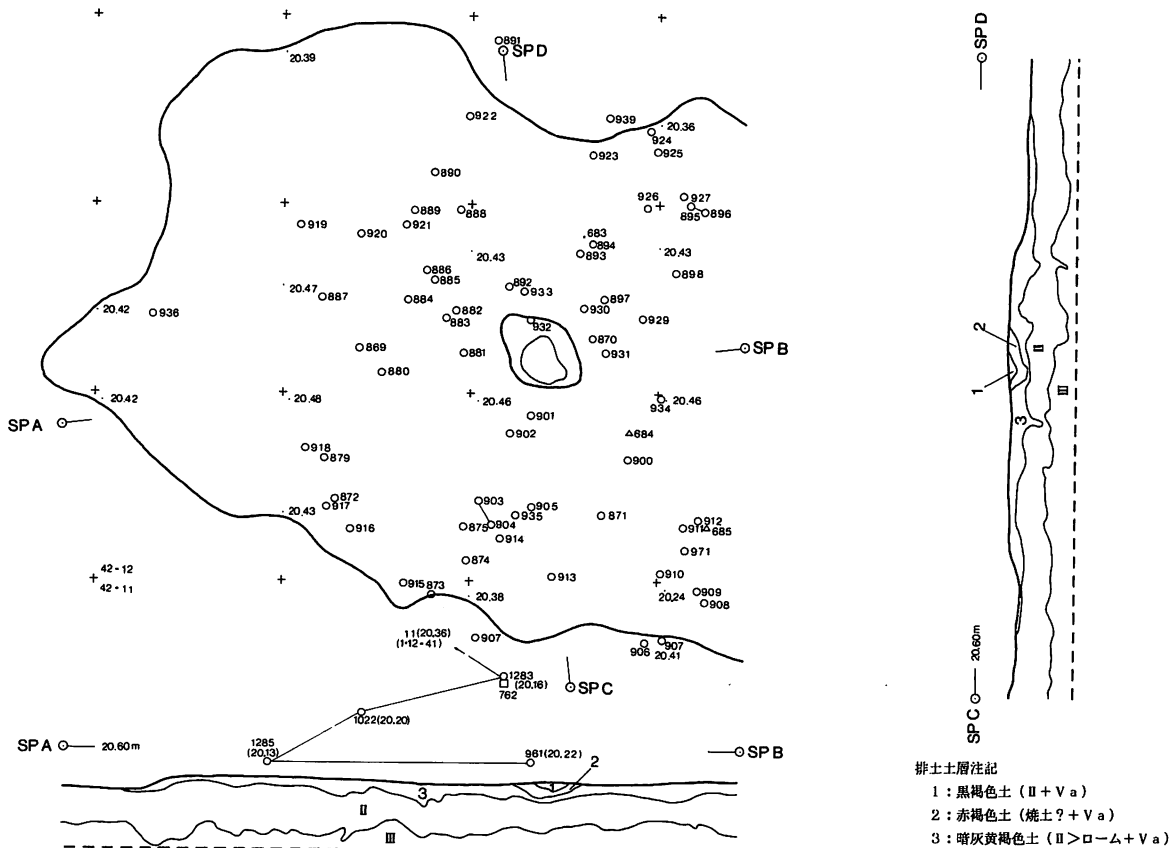
**TP 15排土** 長さ354cm 幅315cm 深さ9cm (いずれも調査区内で確認できる範囲)

4・2区中央付近で、耕作土直下のⅡ層中にⅤa層の軽石が分布しているのを確認し、Tピットの排土とみなして精査した。平面形は北西-南東方向に長い不整形を呈すものと思われ、東端は調査区外に延びている。上面は耕作のために削平されたらしく、また下面は木の根などによる落ち込みで凹凸が激しい。軽石の散布は分布の外縁でまばらになり、排土の形成後に雨などで拡散したことを示すようだが、本来の排土と再堆積との境界を認めることは困難。なお、排土の中央付近に小さな黒色の落ち込みがあり(1層)、その周囲52×36cmほどの範囲で排土がやや赤みを帯びているのが観察された(2層)。焼土の可能性もある。遺物は、排土上中下及び周辺から萩ヶ岡2式や天神山式の土器片が多数出土し、黒曜石製遺物4点もある。また、南側のやや低いレベルから天神山式土器がまとまって出土し(図V-2-54)、その下からは楕円礫1点も出土している。

**TP 16** 長さ146cm 幅66cm 深さ107cm

3・3-66区と、隣接のグリッドに位置する。細長い溝状の形態で長軸は概ねコンターに平行する。杭穴はなく中央が両端より少し深い。底面の長さが確認面のそれを上回り、長軸断面は両裾の少し開いた袋状となる。底面から20cm程度は垂直に近い側壁が残っているが、それ以上は次第に崩れが大きくなる。壙底と覆土上部の黒色土の他に、覆土のやや下部にも腐植がちの層がある(7層)。これらの間を壁面の崩落による堆積が埋めており、Ⅲ・Ⅳ層の崩落が大きいらしい。遺物は覆土の上部から萩ヶ岡2式土器片2点と天神山式土器片1点、中部から黒曜石剝片1点が出土している。なお、エレベーションの図には検出面、底面の輪郭、壙底の傾斜が変換する線なども併せて投影した。

**TP 15 排土**



図V-2-37 TP15排土平面及び断面

**TP 16排土** 長さ455cm 幅273cm 厚さ7cm

3・3区の南寄りではV a層軽石の分布を認め、II層上面から約5cm掘り下げた面で範囲を記録した。最も近接するTピットは32である。FP 64・65を覆って形成され、一部は抜根跡とみられる攪乱で壊されている。平面形は不整、長軸は北東-南西方向にあってコンターに直交、上面は概ね平坦で南西から北東へ緩やかに傾斜。下面はII層中において大きな落ち込みはないが凹凸が激しい。遺物は排土中及び下面で萩ヶ岡2式土器が多く出土し、黒曜石とメノウの剥片も各1点得られている。

**TP 17** 長さ180cm 幅44cm 深さ110cm

4・3-11区で確認した。杭穴はない。壙底はほぼ一直線で北東端に角をもち、そちら側へ若干傾斜している。覆土はII層土主体の層が壙底直上にみられ、その中に薄い帯状の漆黒色土が入っている。その上層はV層の崩落土が厚く堆積しているが、その中にもII層土の薄い帯がみられる。遺物は、覆土II層中から萩ヶ岡2式と大木8a式土器及び黒曜石製のサイド・スクレイパー1点が出土している。位置・形態などから19と対をなすものと思われ、その弧の延長線上には3・4の列が位置する。

**TP 18** 長さ112cm 幅54cm 深さ70cm

4・3-45区で確認した。小型のもので、深さも70cmと浅い。壙底中央部に打ち込みによる杭穴1本をもつ。壙底は北側に角をもつようであるが、11などのような六角形にはならない。また底面は平坦でなく中央部分が低くなっている。覆土は壙底直上にII層がちの黒褐色土が堆積し、その上に漆黒色土が比較的厚く堆積している。V層の崩落はほとんどなく、IV層中位まではほぼ原形を保っている。同一の形態を呈すものに30があり、これと列をなすものと思われる。

**TP 19** 長さ164cm 幅75cm 深さ107cm

3・4-61区、71区で確認した。やや幅の広い溝状のTピットで、長軸は概ねコンターに平行し、杭穴はない。底面は平坦かつ水平で、東端が角張る特徴はTP 17に同じ。北側壁面はかなり上位まで垂直に近い立上りを見せるが、南側は大きく崩れている。底部に比較的厚く腐植質土が堆積した後(12~14層)、南側を主とする壁の崩壊で一気に埋没が進んだものとみられ(7~11層)、地山土壌の大きな塊が落ち込んでいる(10層)。遺物は覆土上部で萩ヶ岡2式土器片3点と中茶路式土器片1点が出土している。

**TP 19排土** 長さ325cm 幅274cm 深さ8cm

3・3区から3・4区にかけて耕作土直下のII層中にV a層由来の軽石がまばらに散布しているのを認め、若干掘り下げて軽石の密度が濃くなった範囲を確認した。長軸のはっきりしない不整な平面形をもち、P 7・FP 48の上位に重複して分布する。隣接するTP 20の覆土上部(1・2層)にはV a層軽石を含み、それが排土と一連のものであるなら排土はTP 20より新しいことになるが、この排土自体がTP 20に由来する可能性も考えられる。確認面では中央部がわずかに高まり、下面も中央寄りで幾分深い。下面はやはり木の根などとみられる凹凸が激しい。遺物は排土中で萩ヶ岡2式土器片2点、黒曜石製搔器1点が出土し、下面でも萩ヶ岡2式土器片と黒曜石製の石鏃や方割礫、楕円礫が出土している。

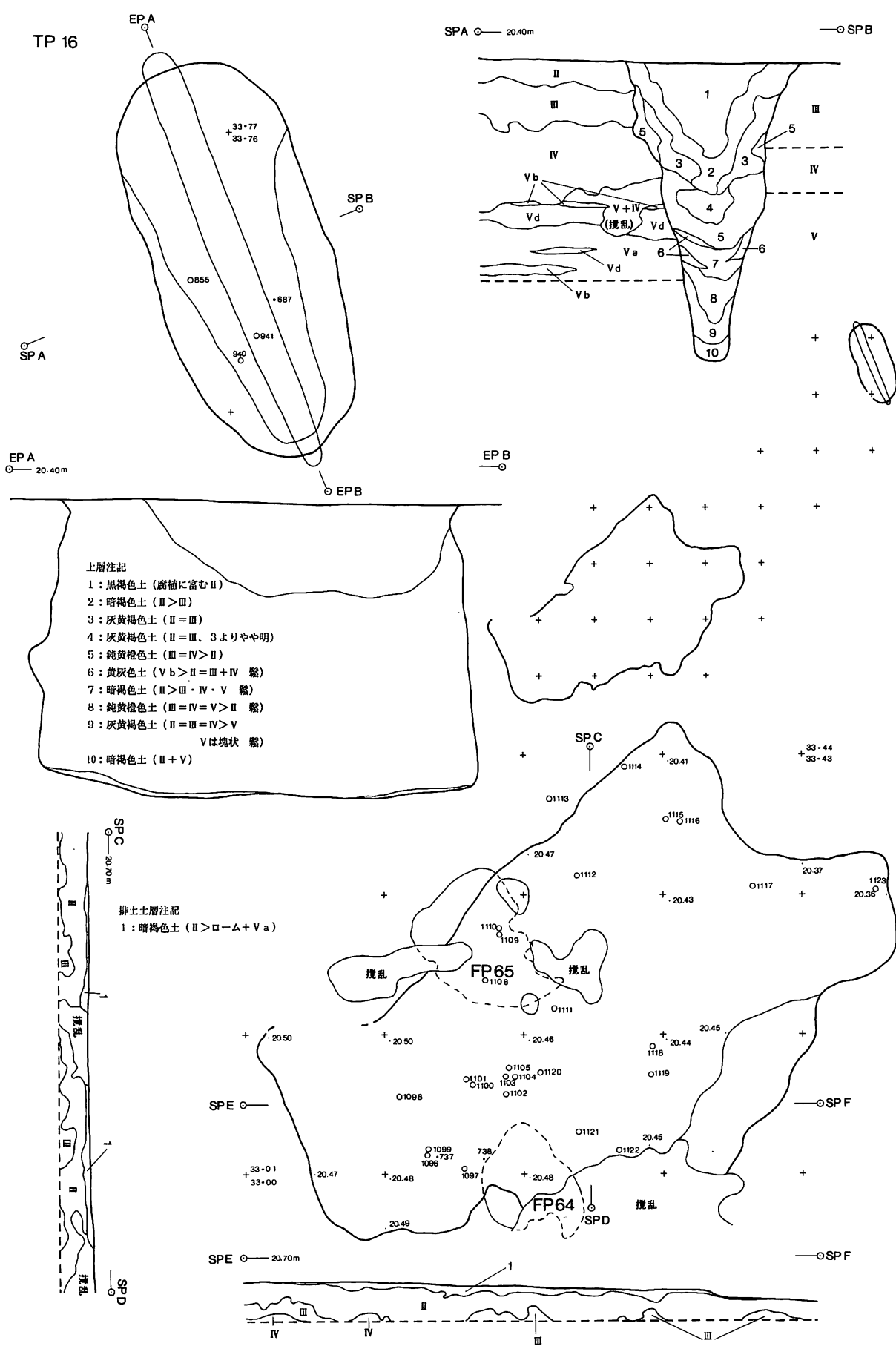
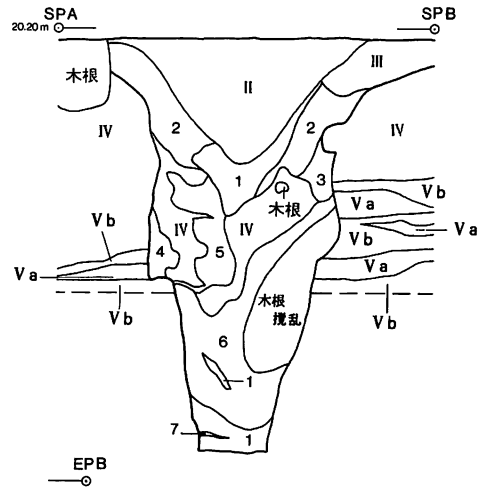
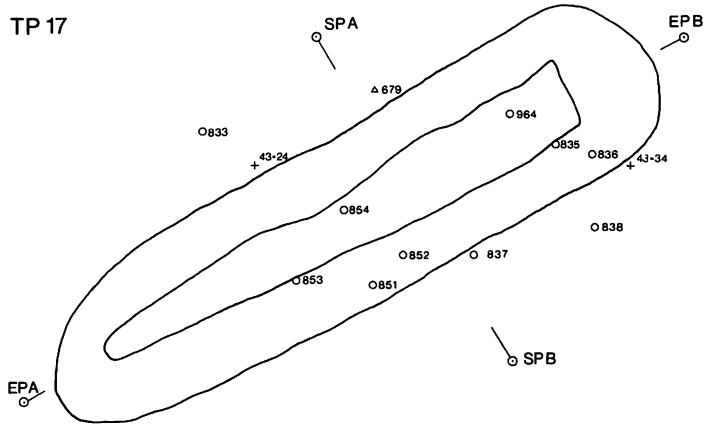
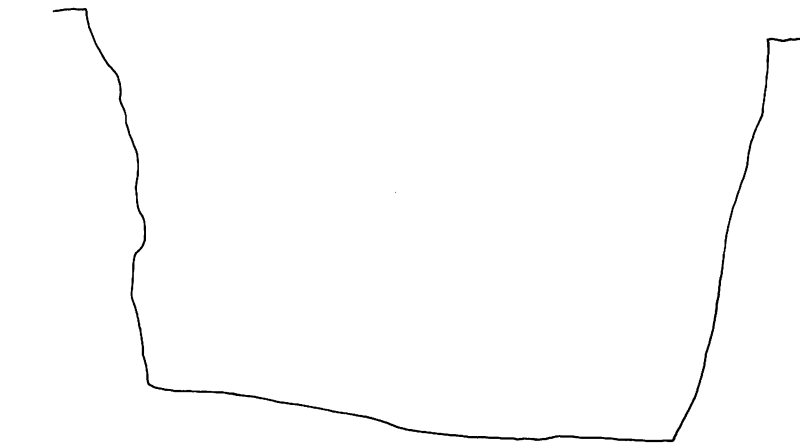


図 V-2-38 TP16・TP16排土平面及び断面

TP 17



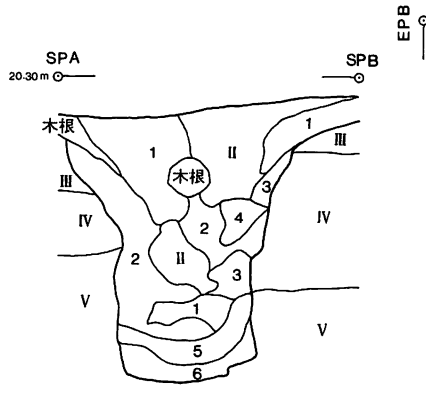
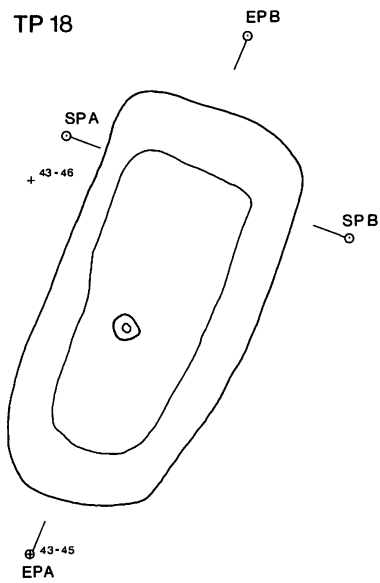
EPA  
20.30m



土層注記

- 1 : 黒褐色土 (II + III)
- 2 : 暗褐色土 (III = II)
- 3 : 暗黄褐色土 (IV + II · III)
- 4 : 暗黄褐色土 (IV + II · III、締まり無し)
- 5 : 暗褐色土 (II = III + IV)
- 6 : 灰黄褐色土 (V<sub>a</sub> = V<sub>b</sub> + IV)
- 7 : 漆黒色土 (II)

TP 18



土層注記

- 1 : 黒褐色土 (II + III)
- 2 : 暗褐色土 (II > III)
- 3 : 黄褐色土 (III + II · IV)
- 4 : 暗黄褐色土 (III > II)
- 5 : 漆黒色土 (II)
- 6 : 黒褐色土 (II > V + IV)

EPB  
EPA  
20.30m

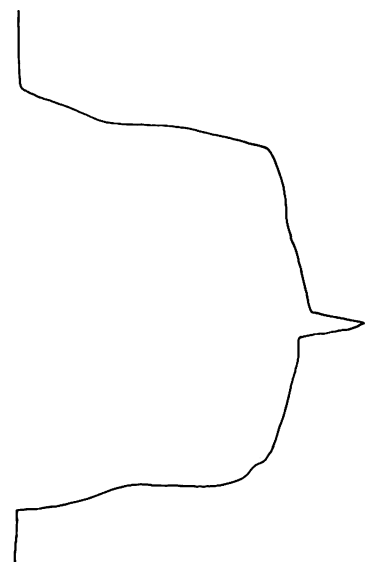


図 V - 2 - 39 TP17・18平面及び断面

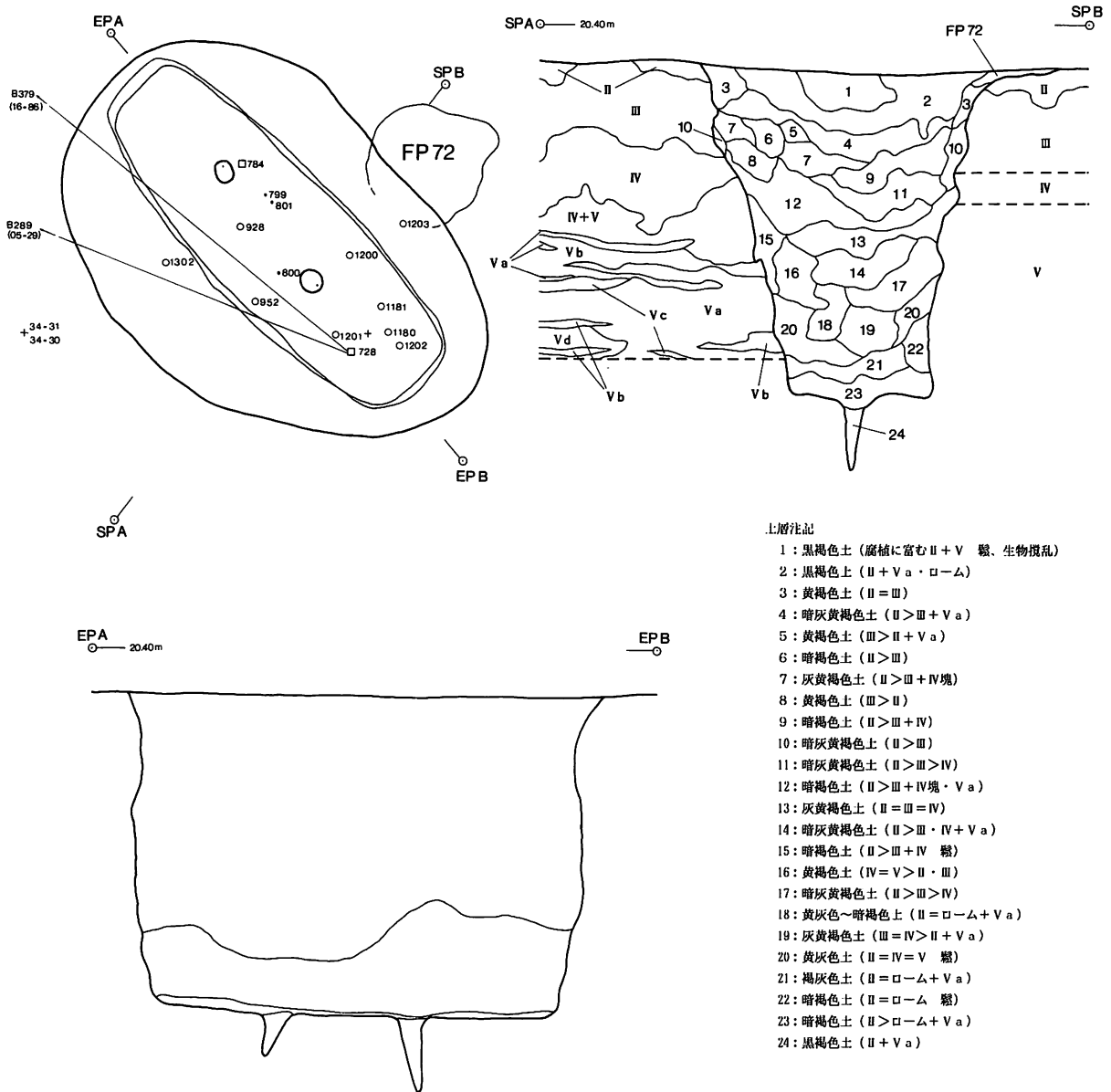




**TP 20** 長さ137cm 幅92cm 深さ93cm

3・4-30・31・40・41区で確認。杭穴を2つ備えるTピットで長軸は概ねコンターに直交する。底面は長方形に近く、中ほどやや幅広くなる。誤って実測の際に断ち割ってしまったが壙底はほぼ平坦でほぼ水平、遺構下部の壁面はほぼ垂直。杭穴は先細りで打ち込み杭の跡と思われ、遺構の中央方向へ少し傾く。杭穴の壁面に沿って材の痕跡と思われる褐色の薄い粘土層が観察される。底部の腐食質土(23層)の上には急速な埋没を思わせるブロック状の堆積(14~21層)があるが、側壁の崩壊のみでこれだけの土量が生じるかどうかやや疑問。上部の腐食質土にはV a由来の軽石が含まれ、遺構排土の流入を示す。なお北東側に重複する焼土FP 72はTピットに先行するものと考えられる。遺物は覆土上・中部で土器7点(萩ヶ岡2式・天神山式)・三角土製品1点と、黒曜石製遺物4点・たたき石1・垂角礫1点が出土している。

**TP 20**



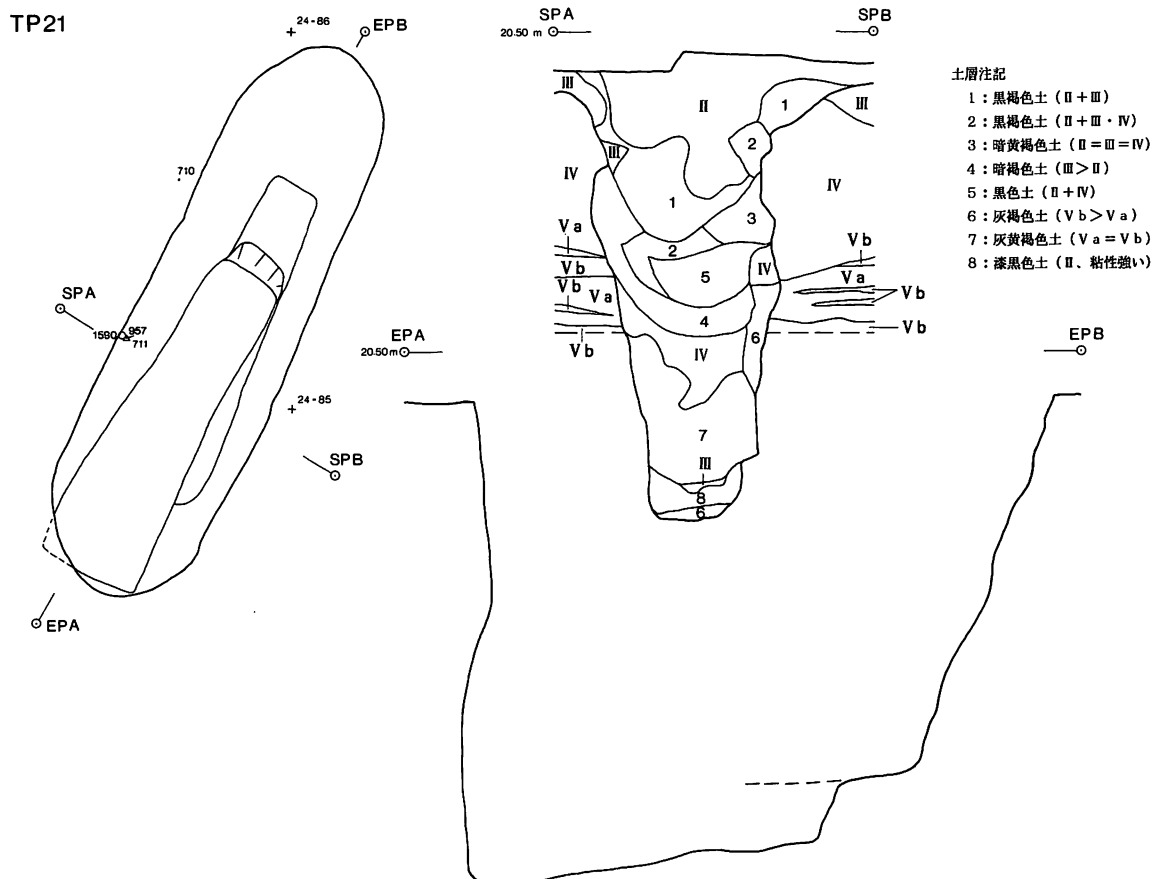
図V-2-41 TP20平面及び断面

**TP 21** 長さ156cm 幅46cm 深さ124cm

2・4-75区で確認した。杭穴はない。墳底に明瞭な段がみられ、浅い面と深い面では長軸方向にずれがみられる。深い部分の墳底は、長方形に近い形状を呈し南側に若干傾斜している。浅い部分の墳底は北側に角をもち南側は丸い。覆土は、最下位にV層の崩落土が若干みられ、その上に粘性の強い漆黒色土が堆積し浅い部分の墳底を形作っている。遺物は、覆土1層中から黒曜石素材の石核とR・F各1点が、覆土II層中から萩ヶ岡2式土器1片と剥片81点（うち3点が焼けている）が得られている。墳底の段と長軸のずれは掘り直しによるものと考えているが、列をなす22・23では、墳底が極端に南側に傾斜しているものの、明瞭な段や長軸方向へのずれは認められていない。

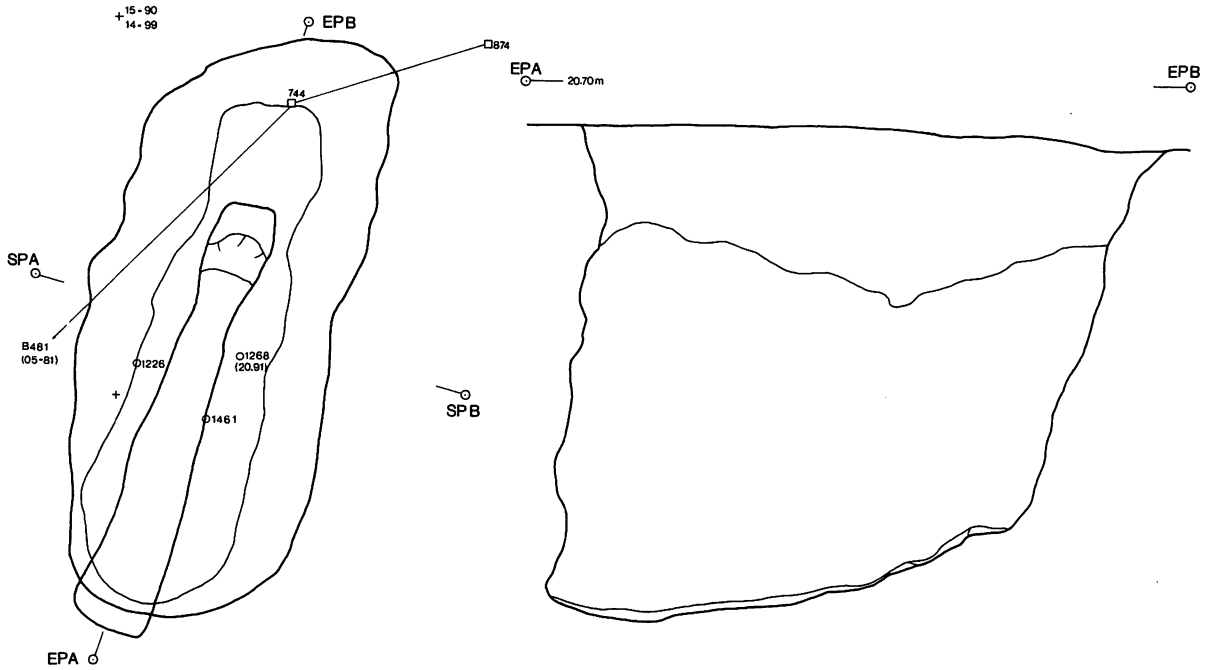
**TP 22** 長さ158cm 幅67cm 深さ131cm

1・4-98・99区で確認。やや幅の広い溝状Tピットで長軸はほぼコンターに平行。両端が角張って南西側が少し広がった撥形の底面をもち、また墳底は南西側へ向かって深くなる。いずれもTP 21・23に共通する特徴で、特にTP 21とは規模・長軸方向もほとんど一致する。またTP 21ほど明確ではないが墳底の北西寄りに段差がある。しかし底部の覆土はこの段差に関係なく連続しており、掘り直しの確証はない。側壁は底面から20cmほど垂直な立ち上がりがあり、南西端の壁はTP 21・23と同様に弱くオーバーハングする。底面には掘り返されたV層（20層）の上に炭化した植物遺体（主に草木かと思われ、脆い）を含む腐食質土（19層）が見られ、さらに急速な埋没を思わせるブロック状の堆積（8～17層）が厚く覆っている。遺物は覆土1層から2層にかけて土器2点（萩ヶ岡2式・天神山式）と石皿片1点が出土した。

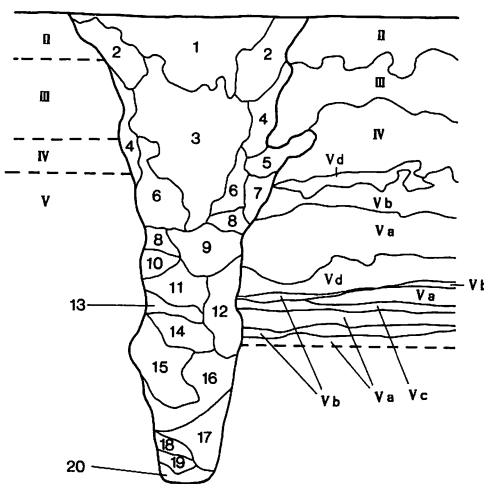


図V-2-42 TP21平面及び断面

TP 22



SPA 20.70m SPB



七層注記

- 1: 黒褐色土 (腐植に富む II + IV · Va)
- 2: 暗褐色土 (II + III · IV IVは塊状)
- 3: 暗褐色土 (II > III + IV)
- 4: 灰黄褐色土 (III > II)
- 5: 灰黄褐色土 (II = III + IV · 生物攪乱か)
- 6: 暗灰黄褐色土 (II > III + IV)
- 7: 灰黄褐色土 (IV塊 = V > II)
- 8: 灰黄褐色土 (III > II + IV · V)
- 9: 暗灰黄褐色土 (II > III + IV · Va 鬆)
- 10: 暗褐色土 (II > III + Va)
- 11: 鈍黄褐色土 (III > II · Va)
- 12: 灰黄褐色土 (V > II · III · IV 鬆)
- 13: 黄灰色土 (V > III)
- 14: 鈍黄褐色土 (III塊 + II · V)
- 15: 褐灰色土 (V > II · III Vb目立つ 鬆)
- 16: 黄灰色土 (V 鬆)
- 17: 褐灰色土 (II > V Vb目立つ 鬆)
- 18: 黄灰色土 (V > II 鬆)
- 19: 黒褐色土 (腐植に富む II + V · 炭化物 鬆)
- 20: 灰色土 (V + II 鬆)

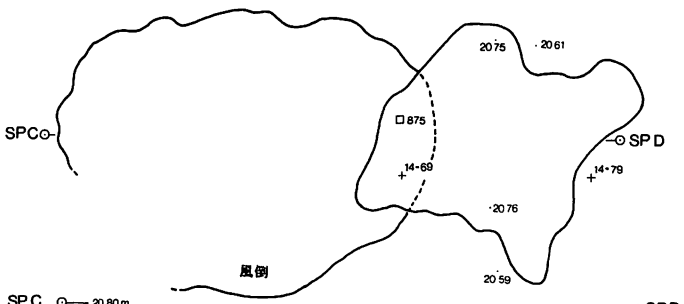


図 V-2-43 TP22 · TP22排土平面及び断面

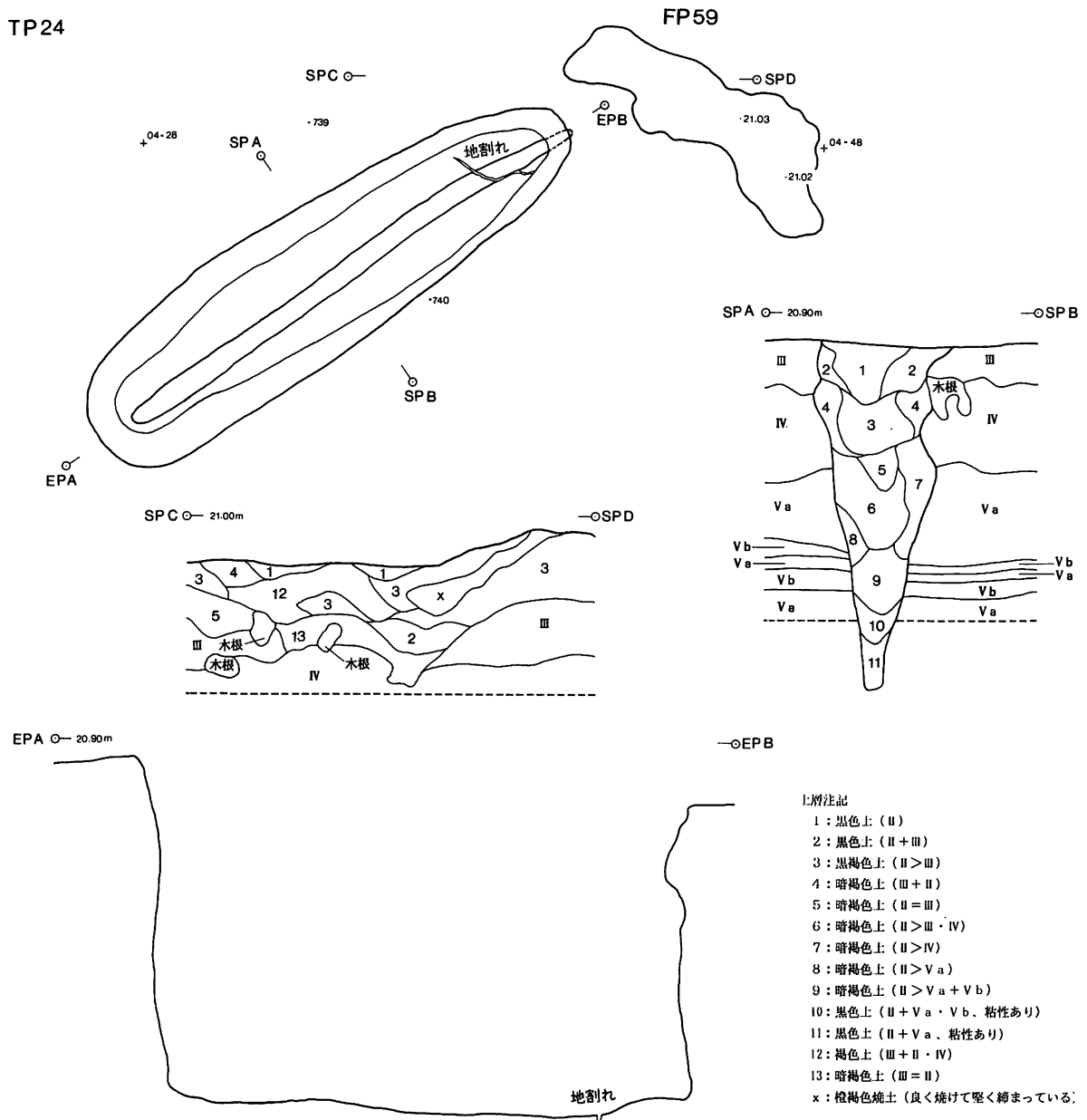


**TP 24** 長さ163cm 幅44cm 深さ100cm

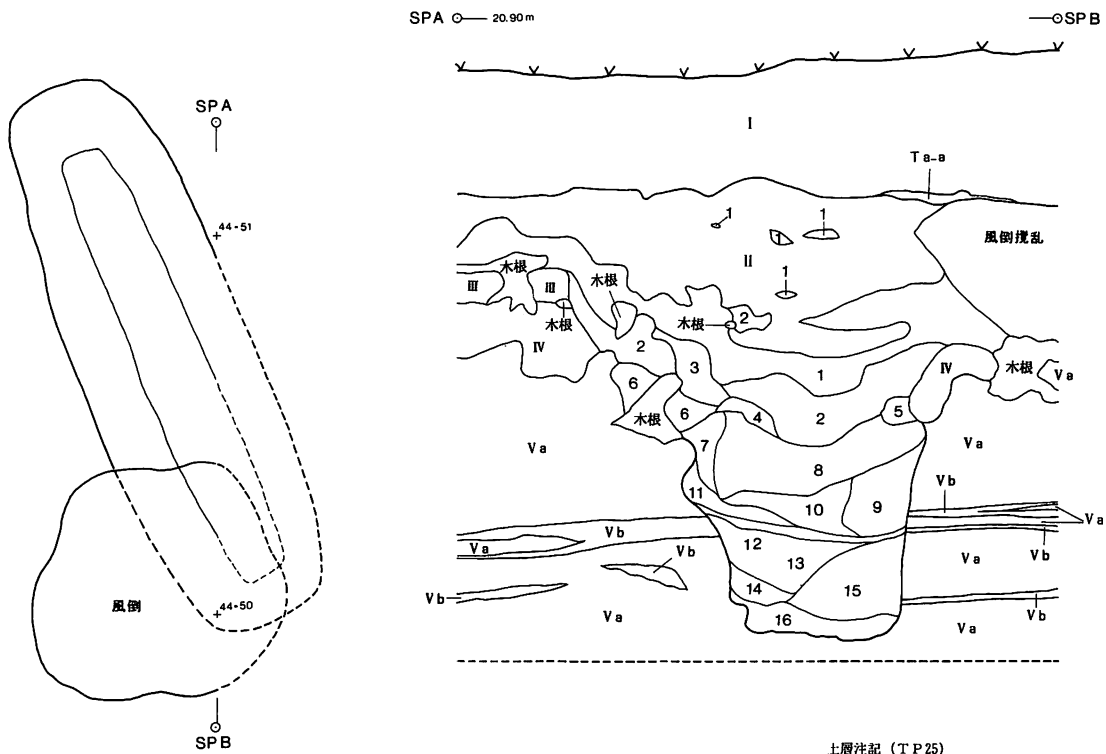
0・4-27区で確認した。杭穴はない。墳底は細長く角をもたない。わずかに起伏がある。北東部分で東に振れ、オーバーハングしている。北東部分の崩落が大きく、壁面・墳底には地割れが入っており、壁面のⅣ層まで達している。覆土は全体にⅡ層土が目立ち、壁面の崩落は些程なかったものと思われる。遺物は覆土1層より時期不明の土器片が1点出土している。フローテーションにより覆土11層からイネ科の種子が3点出土している。ピットの北東にはFP 59が確認されている。TP 24が埋没したくぼみを利用したものと思われる。焼土は橙褐色を呈し、良く焼けて堅く締まる。焼土横から萩ヶ岡2式の土器片が2点出土している。

**TP 25** 長さ152cm 幅47cm 深さ120cm

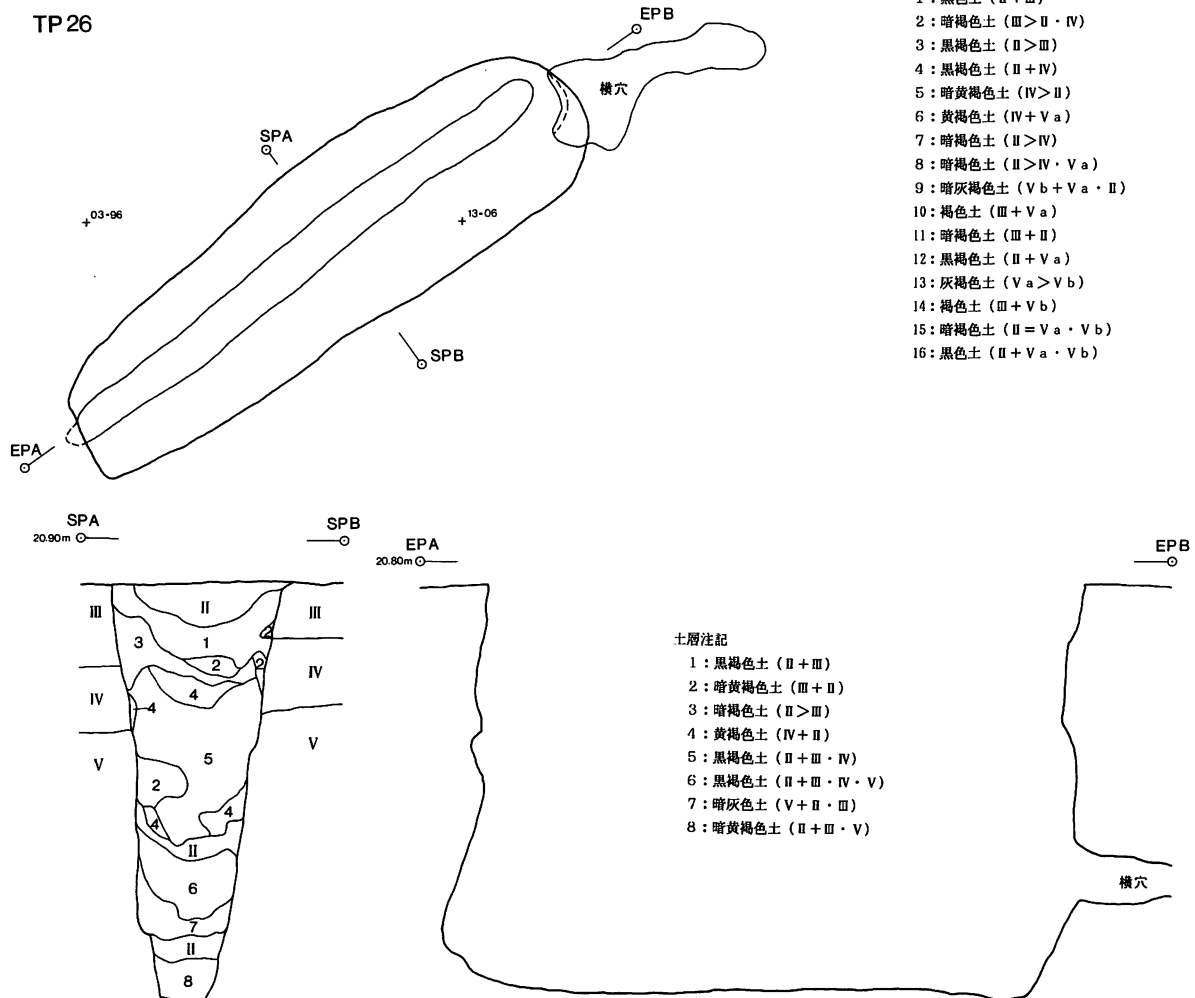
4・4-40・41・50区で確認した。杭穴はない。南側を風倒により壊され、南東部分は発掘区外にある。墳底は平坦で長方形に近い形を呈す。東側の壁が大きく崩落している。墳底直上にⅡ層土主体の土が堆積しその上にⅡ層土・Ⅴ層土、Ⅲ層土、Ⅴ層土主体の土が堆積する。その上にはⅡ層土主体の帯状堆積がみられる。



TP25



TP26



土層注記 (TP25)

- 1: 黒色土 (II+III)
- 2: 暗褐色土 (III>II・IV)
- 3: 黒褐色土 (II>III)
- 4: 黒褐色土 (II+IV)
- 5: 暗褐色土 (IV>II)
- 6: 黄褐色土 (IV+Va)
- 7: 暗褐色土 (II>IV)
- 8: 暗褐色土 (II>IV・Va)
- 9: 暗灰褐色土 (Vb+Va・II)
- 10: 褐色土 (III+Va)
- 11: 暗褐色土 (III+II)
- 12: 黒褐色土 (II+Va)
- 13: 灰褐色土 (Va>Vb)
- 14: 褐色土 (III+Vb)
- 15: 暗褐色土 (II=Va・Vb)
- 16: 黒色土 (II+Va・Vb)

土層注記

- 1: 黒褐色土 (II+III)
- 2: 暗黄褐色土 (III+II)
- 3: 暗褐色土 (II>III)
- 4: 黄褐色土 (IV+II)
- 5: 黒褐色土 (II+III・IV)
- 6: 黒褐色土 (II+III・IV・V)
- 7: 暗灰色土 (V+II・III)
- 8: 暗黄褐色土 (II+III・V)

図V-2-46 TP25・TP26平面及び断面

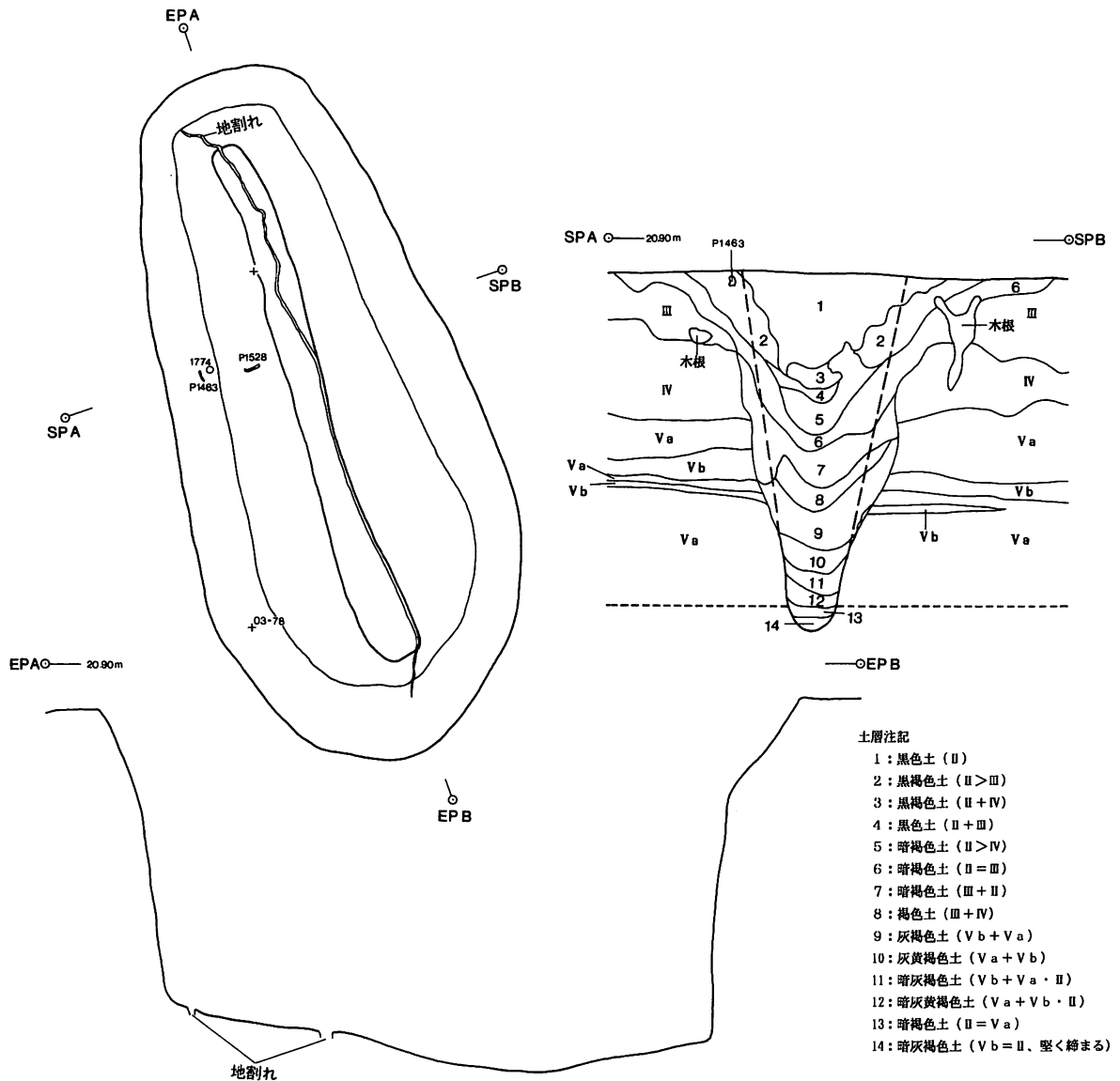
**TP-26** 長さ158cm 幅46cm 深さ110cm

0・3-95区で確認した。杭穴はない。墳底はほぼ平坦であるが、わずかに左右に振れており角はもたない。覆土は全体にⅡ層土が目立ち、壁面の崩落は些程なかったと思われる。なお、北東側端部の壁面に横穴がみられた。横穴内の土は覆土6層と同じであるが、全体に締まりがなく一部空洞の部分もみられた。その位置や方向からしても人為的なものとは考えられず、動物による攪乱と判断した。規模や位置関係から32と列をなすものと思われる。

**TP 27** 長さ200cm 幅92cm 深さ100cm

0・3-78区で確認した。長軸はコンターに並行する。杭穴はない。墳底は角をもたず、左右に若干うねっている。墳底中央のくぼみにゆるく傾斜する。墳底に地割れが走っており、長軸の壁面のⅣ層にまで達している。セクション面の覆土9層と壁面の間地割れがみられることから、地割れはピット埋没後に入ったものと思われる。覆土2層から萩ヶ岡2式の土器片、覆土1層から萩ヶ岡1式と萩ヶ岡2式の土器片各1点が出土している。

TP 27

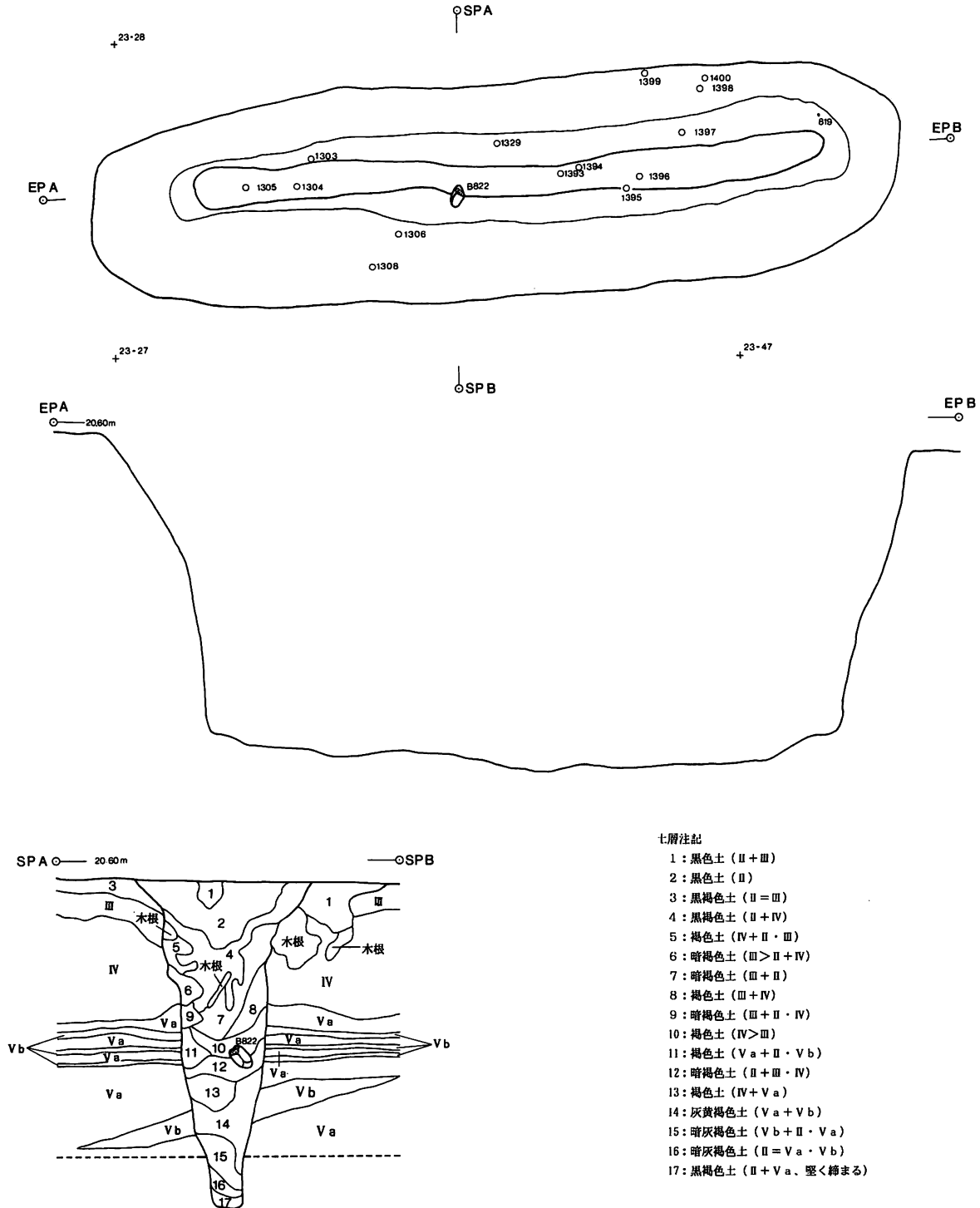


図V-2-47 TP27平面及び断面

**TP 28** 長さ259cm 幅69cm 深さ104cm

2・3-27・37・47区で確認した。長軸はコンターに直交する。杭穴はない。墳底は角をもたず、左右に若干うねっており、凹凸がある。側壁は墳底より20cmほど垂直な立上りが残る。覆土は墳底直上にⅡ層土主体の土が堆積し、堅く締まっている。その上に暗灰褐色土が乗り、V層土主体の14・15層が厚く堆積する。遺物は覆土12層から安山岩の石皿が出土しているほか、覆土2層から萩ヶ岡2式の土器片5点と天神山式の土器片2点、黒曜石の剝片1点、覆土1層から萩ヶ岡2式の土器片が10点出土している。

**TP 28**



図V-2-48 TP28平面及び断面



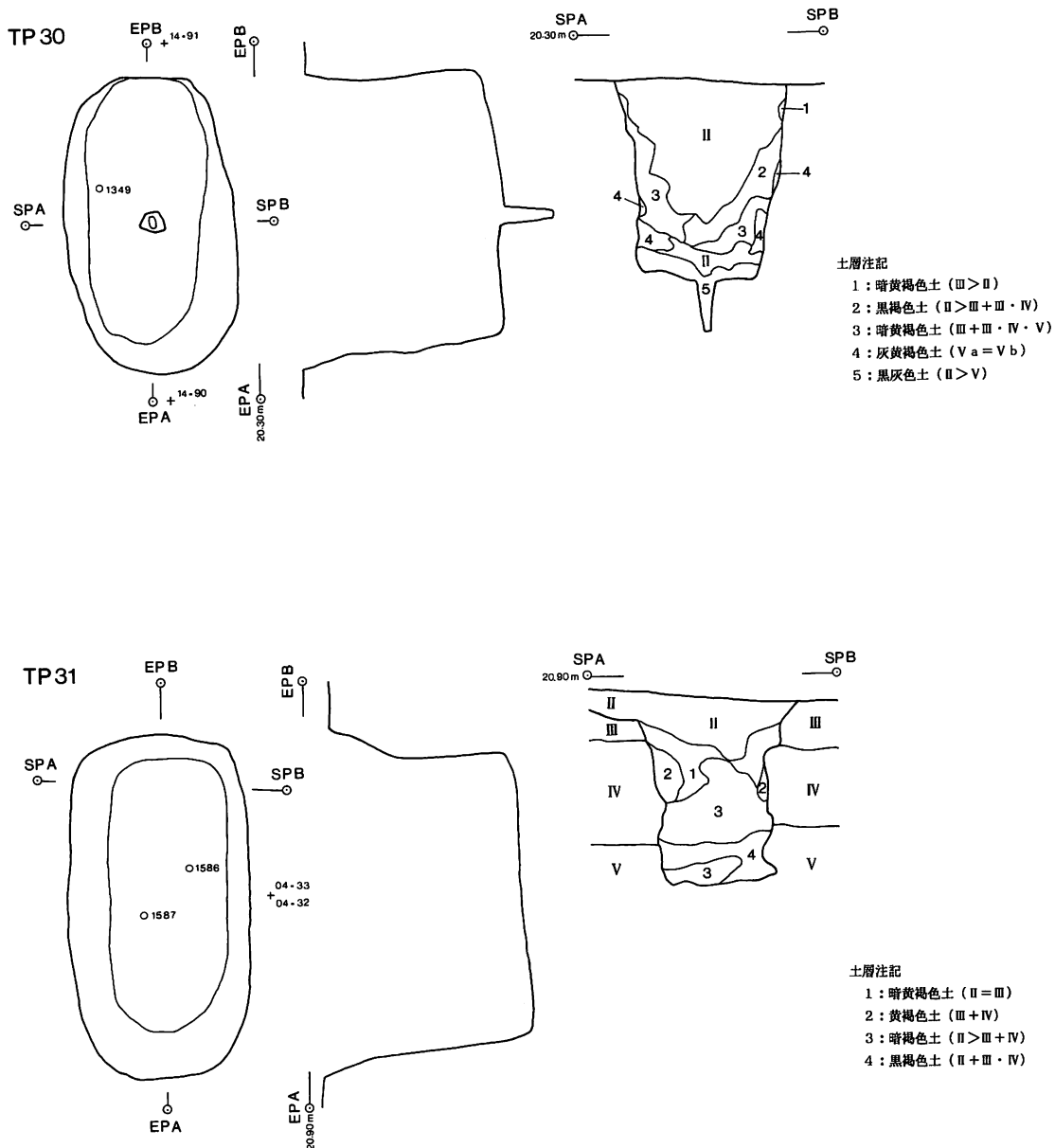


**TP 30** 長さ82cm 幅48cm 深さ56cm

1・4-90区で確認した。最も小さいものである。壙底中央に打ち込みによる杭穴1本があるが、他のTピットと異なりその先端は尖っていない。壙底は楕円に近い形態で、わずかに南側に傾斜するがほぼ平坦である。覆土は、壙底直上にⅡ層がちの黒灰色土が堆積しその上にⅡ層土が乗るが、このⅡ層土中にも杭の痕跡が認められた。壁面の崩落はほとんどなく、ほぼ原型を保っている。遺物は覆土Ⅱ層中から萩ヶ岡2式土器片1点が得られている。同一の形態を呈すものに18があり、これと列をなすものと思われる。

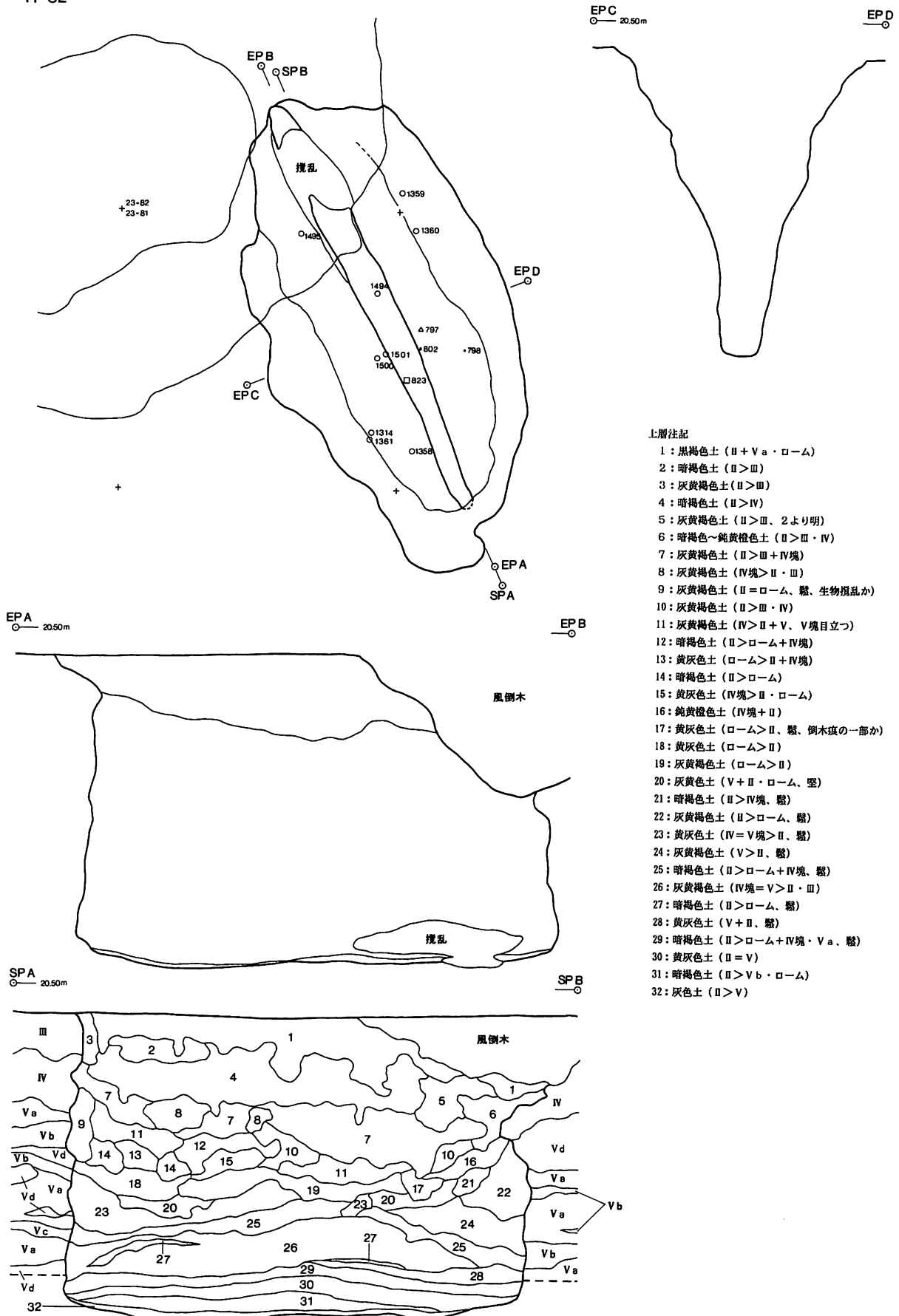
**TP 31** 長さ96cm 幅50cm 深さ59cm

0・4-22区で確認した。形態と規模は18・30に近く、位置的に列をなすものと考えられるが、杭穴をもたない。壙底は南側に傾斜している。覆土は全体にⅡ層土が目立つが、帯状の堆積はみられない。遺物は、覆土Ⅱ層中から萩ヶ岡2式土器片2点が得られている。



図V-2-50 TP30・31平面及び断面

TP32



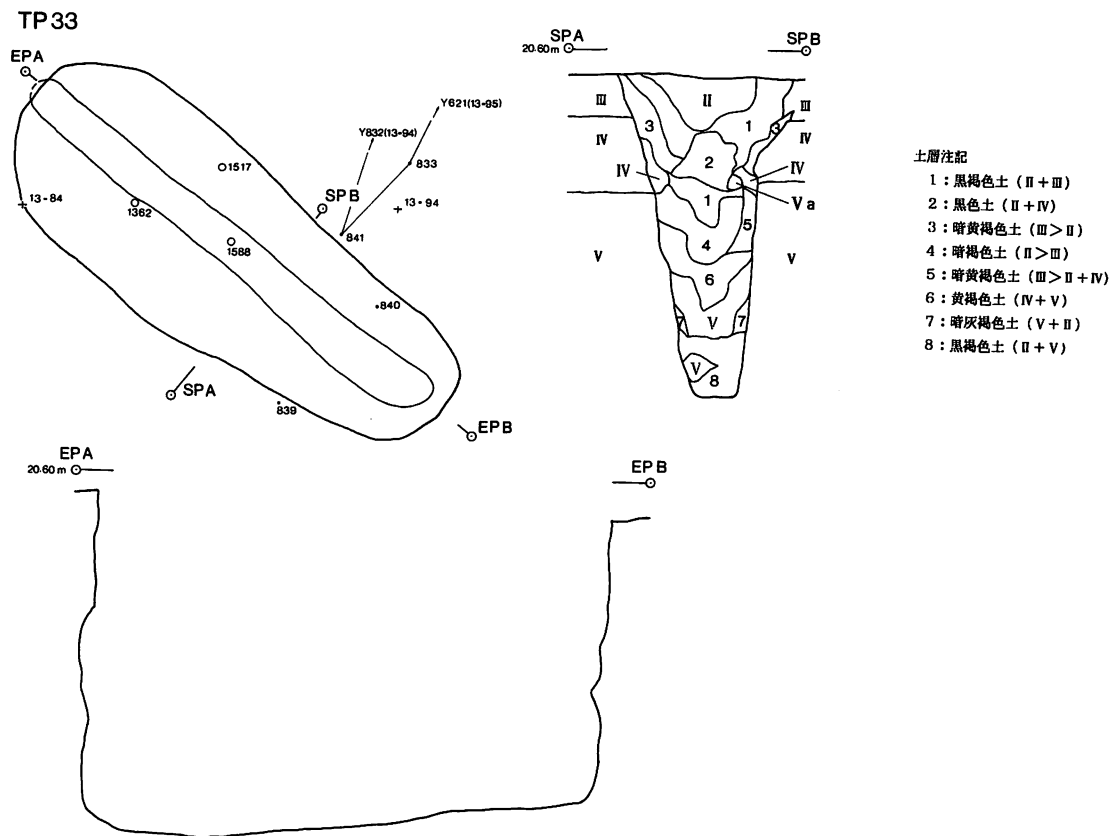
図V-2-51 TP32平面及び断面

**TP 32** 長さ180cm 幅93cm 深さ112cm

2・3-81区、91区で確認した。北西端は倒木痕に切られる。細長い溝状のピットで、長軸はコンターにほぼ平行する。底面は少し弓なりに曲がり、端部が角張る特徴はない。壙底は概ね平坦だが両端でやや浅くなる。側壁では底から30cm余りの垂直な立上りが残り、また端部の壁面は多少オーバーハングする。底部には腐植質土とローム層の互層が水平に堆積し（27～32層）、その後中央で高くなる弧状の覆土（25・26層）はあまり発達しないままブロック状の急速な堆積（6～24層）へ移行する。両端付近にはオーバーハングした壁面の崩壊を示唆する崖錐状の覆土（西脇1991：205）が認められる（22～25層）。覆土上部にもV a層由来の軽石を含み、遺構排土の流入を示す。遺物は覆土上部で萩ヶ岡1式土器片8点（1式1点、2式7点）、黒曜色のU・Fと剥片各1点、砥石片1点が出土したほか、壙底に近い29層で萩ヶ岡2式土器片1点を認めた。

**TP 33** 長さ136cm 幅50cm 深さ84cm

1・3-83区で確認した。杭穴はない。壙底は狭長で角はもたず、わずかにうねって北西側に傾斜している。覆土は、壙底直上にII層土主体の黒褐色土が厚く堆積し、その上にV層の崩落土がみられる。側壁に比して端部の崩落はわずかである。遺物は、覆土1層中から萩ヶ岡2式土器片6点、頁岩のR・Fと剥片各1点（剥片は1・3-94、95区と接合）、黒曜石の剥片2点が出土している。



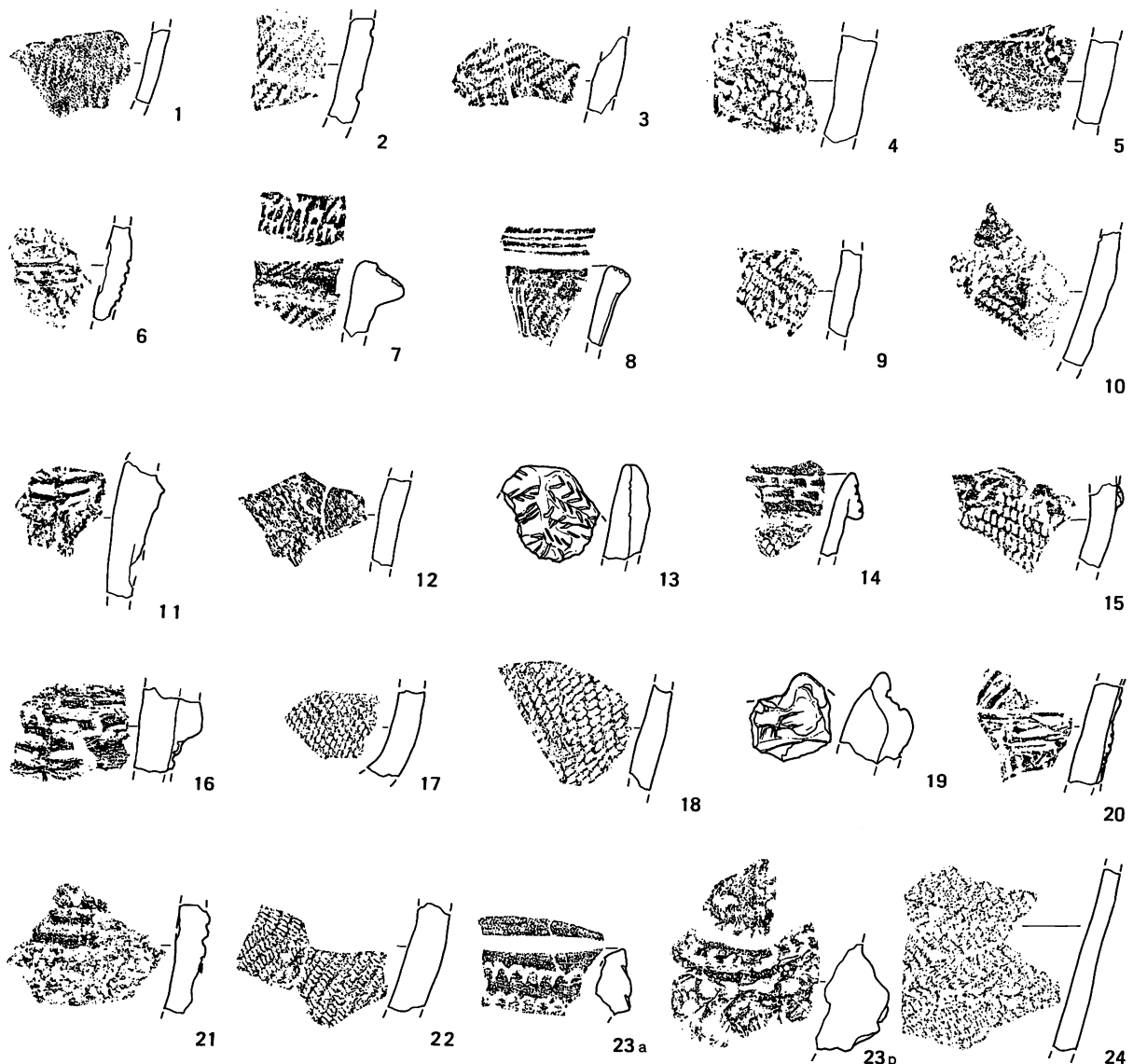
図V-2-52 TP33平面及び断面

**Tピット出土の土器 (図V-2-53~55)**

33基のTピットのうち20基から90点、7ヵ所のTピット排土のうち4ヵ所から172点の土器が出土した。そのほとんどは縄文中期の土器で、萩ヶ岡2式相当のものが大半を占める。

1はTP1の覆土1層出土の東釧路Ⅲ式土器片である。撚糸による斜行縄文もしくは羽状縄文と思われる。2~8はTP1排土2層出土のものである。2はLRの縄文に竹管による沈線がみられる。胎土に砂粒を含む。3は摩耗しており胎土が粉っぽい。4は貼付に竹による施文が認められる。5~8は半截竹管状工具により施文されている。5・6は沈線が施されている。7は口縁肥厚帯に刺突が施されている。8は口唇に沈線が引かれ、垂下する沈線がみられる。9・10はRLの縄文で10の器面は剥落している。9はTP6覆土1層、10はTP7覆土3層出土。11はTP7覆土1層出土で、口縁下の三角状突起に半截竹管状工具で沈線が施されている。12はTP11覆土1層出土。地文は複節である。13はTP13の横、確認面より10cm上から出土した。台形の突起に粘土紐を貼り付け、半截竹管状工具で刻んでいる。

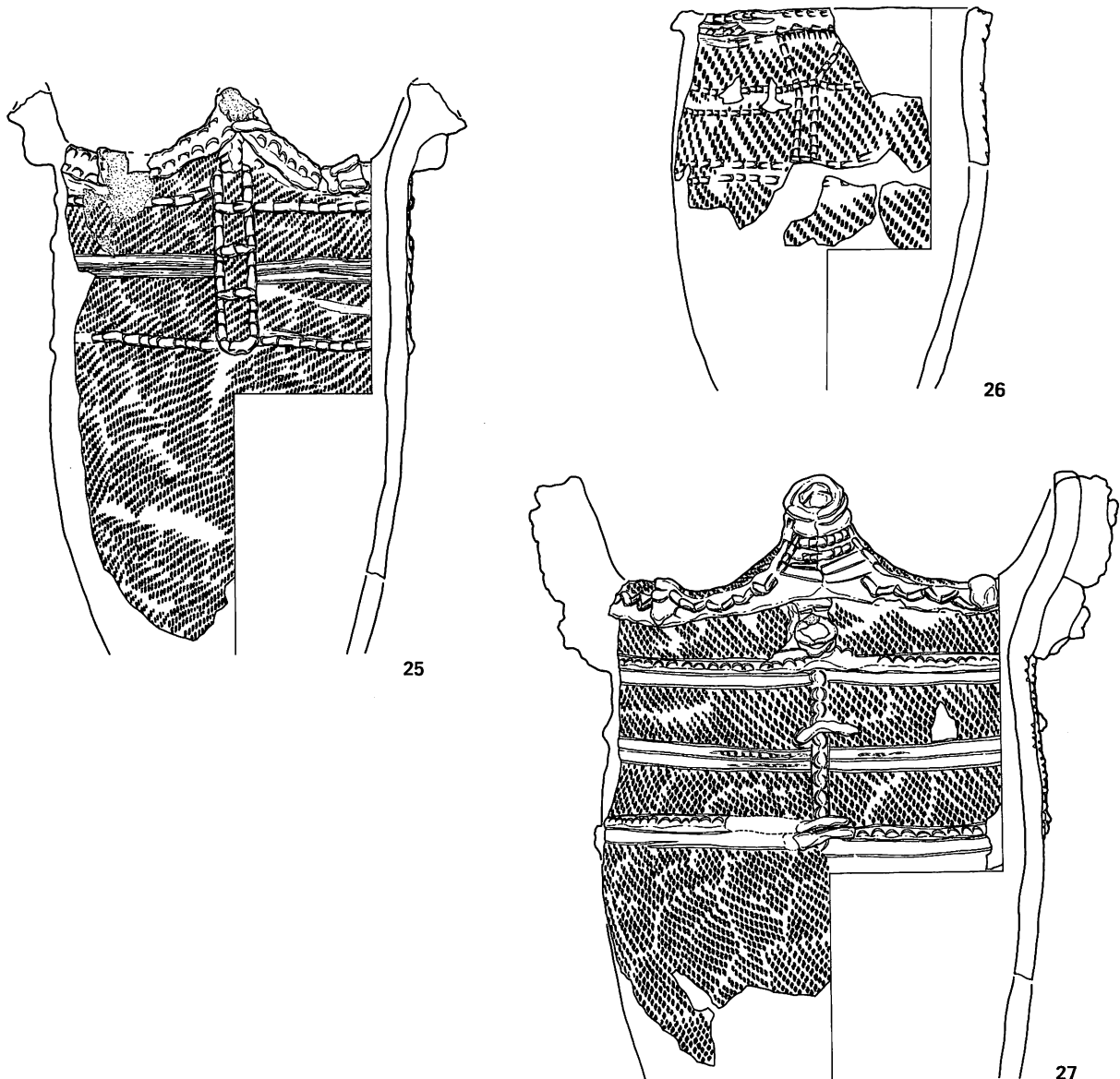
14~24はTP15排土出土のものである。14~16、19~23aは半截竹管状工具により施文されている。14~19は排土直下から出土した。14は口縁肥厚帯に押し引きがみられる。15は貼付と垂下に押し引き



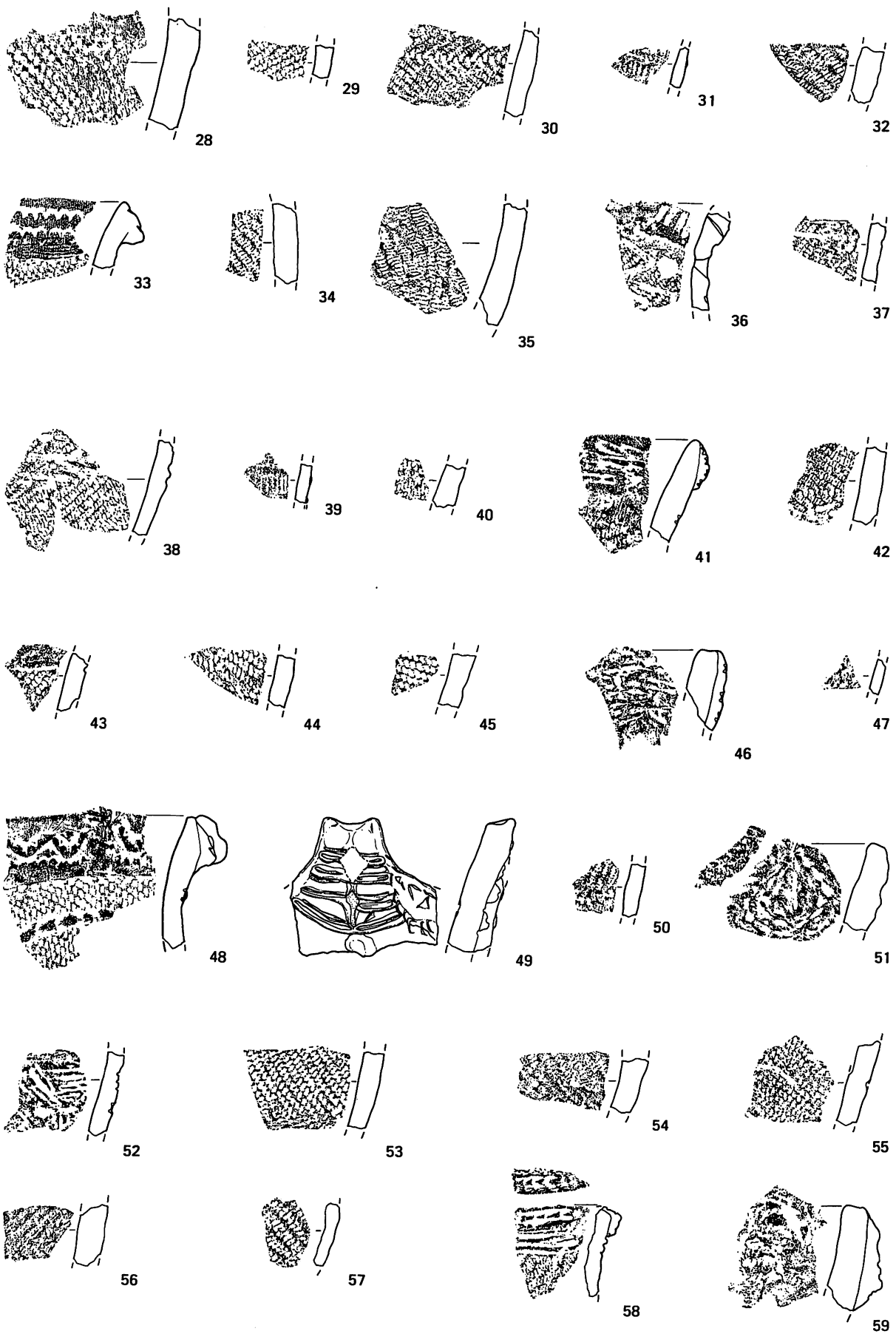
図V-2-53 Tピット出土の土器 (1)

と刺突がある。16は三角状突起に沈線が施され、突起下に押し引きがされている。17・18の地文はRLで胎土に砂粒を含む。19は口縁肥厚帯とその上の小突起に刺突と沈線がみられる。20～24はTP 15排土中出土のものである。20には縦、横、斜めの貼付に沈線が施されている。内面は平滑である。21は沈線が施されている。器面は剝落している。22は堅く焼き締まる。LRの縄文が認められる。23aは口縁肥厚帯に刺突がみられる。23bは口縁突起の下につけられる胴部突起である。頂部は菱形を呈す。24はLR + RLの結束羽状縄文が施されている。胎土に砂粒を含み、小砂利もみられる。

25～27はTP 15排土の南側から出土した天神山式土器である。この周辺ではIV層に達するレベルにII層が堆積しており、何らかのくぼみがあったものと推定される。TP 15の排土はこのくぼみに投棄されたものと思われる。これらの土器は検出しえなかった遺構に伴う可能性もある。25・27は波状の口縁に肥厚帯あり、突起をもつ。口縁貼付帯・肥厚帯下の突起・垂下帯・貼付帯などには半截竹管状工具による刺突・押し引き・沈線が組み合わせて施文されている。27の突起は角柱状である。肥厚帯には地文もみられる。26は口縁は平縁で、肥厚帯には半截竹管状工具による刺突が施されている。突起を欠いている。胴部上半には、垂下帯を模した押し引きと横環する押し引きが施されている。地文は25がLR、26・27はRLの斜行縄文である。いずれも底部を欠いている。



図V-2-54 Tピット出土の土器 (2)



図V-2-55 Tピット出土の土器 (3)

28・29はTP 16覆土1層のもの。28は厚手で複節の縄文が施されている。29は胎土が良く、内面は平滑である。LRの縄文が認められる。

30～32はTP 16排土直下から出土。30は器面にLR + RLの結束羽状縄文が施されている。胎土に砂粒を含む。31は中茶路式の土器片である。扁平な貼付帯の上下が擦り消され、短縄文が施されている。32にはRLの縄文が認められる。

33～35はTP 16排土中出土。33は口縁肥厚帯に半截竹管状工具により刺突が施されている。肥厚帯の下面は平らに調整されている。地文は複節。34・35は胎土に砂粒を含む。

36～38はTP 17覆土1層出土の大木8 a式相当の土器片である。36は口縁肥厚帯と器面に竹管によりための沈線が引かれており、補修孔が穿たれている。37・38にも同様の沈線がみられる。いずれも器面にLRの縄文が認められる。

39・40はTP 19覆土1層出土のもの。39には扁平な貼付帯が付けられ、器面に短縄文が施されている。40は器面にLRの縄文が認められる。41～44はTP 19排土直下から出土したもの。41・43に竹管状工具による施文がみられる。41は口縁貼付帯に押し引きが施され、器面にLRの縄文が認められる。胎土に砂粒を多く含み脆い感じを受ける。42・44はRL、43には沈線とLRの縄文が施されている。

45はTP 20覆土中出土の三角土製品である。縄文時代中期のものと思われる。便宜上、萩ヶ岡2式として集計した。46・47はTP 20覆土上出土。46にはRLの縄文が認められる。堅く焼き締まる。46は台形の突起で粘土紐を貼付し、半截竹管状工具による沈線が施文されている。胎土に砂粒を含む。48はTP 22覆土1層のもの。口縁は外反し、口縁肥厚帯に波状に粘土紐を貼付して小突起と繋ぎ、半截竹管状工具による刺突が施されている。肥厚帯の縁にも同様の刺突がめぐらされている。肥厚帯の下の貼付には押し引きが施されている。地文は複節の縄文である。堅く焼き締まる。49はTP 22の上から出土した。台形の突起に粘土紐が貼付されている。粘土紐には半截竹管状工具による沈線が施されている。突起から口縁にめぐらされた貼付には、同様の工具による刺突がみられる。突起頂部は指頭により潰され内傾する。50はTP 23覆土3層出土でLR + RLの結束羽状縄文が認められる。51は

表V-2-45 TピットおよびTピット排土出土土器一覧

TP番号	東御路Ⅲ	中茶路	円筒上層	萩ヶ岡1	萩ヶ岡2	大木8a	天神山	不明	合計
1	1								1
1排土					9		4		13
6					1				1
7					4		1		5
10	1		1						2
11							2		2
15排土					67		36	3	106
16					2		1		3
16排土		3			22		2		27
17					2	14			16
19		1			3				4
19排土					26				26
20					7		1		8
21					1				1
22					1		1		2
23					3			2	5
24								1	1
27				1	2				3
28					15		2		17
29					2				2
30					1				1
31					2				2
32				1	8				9
33					5				5
合計	2	4	1	2	183	14	50	6	262



表V-2-46 TP-1 覆土3層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
1	4・5-46	胴部	1	東銅路Ⅲ	139	燃糸文

表V-2-47 TP-1 排土3層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・6-20	胴部	1	萩ヶ岡2	58	細片, 胎土に砂

表V-2-48 TP-1 排土2層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
2	4・6-11	胴部	1	萩ヶ岡2	53	半截竹管の沈線
3	4・6-11	胴部	1	天神山	64	摩耗, LR
—	4・6-12	胴部	1	萩ヶ岡2	65	細片, 胎土に砂
4	4・6-20	胴部	1	萩ヶ岡2	54	貼付に竹で施文
—	4・6-20	胴部	1	天神山	55	摩耗
5	4・6-20	胴部	1	萩ヶ岡2	56	半截竹管の沈線
—	4・6-20	胴部	1	萩ヶ岡2	57	細片, 胎土に砂
6	4・6-20	胴部	1	天神山	59	半截竹管の沈線
—	4・6-20	胴部	1	萩ヶ岡2	60	細片, 胎土に砂
—	4・6-21	胴部	1	萩ヶ岡2	61	細片, 胎土に砂
7	4・6-21	口縁	1	天神山	62	肥厚帯に刺突
8	4・6-22	口縁	1	萩ヶ岡2?	63	半截竹管の沈線

表V-2-49 TP-6 覆土1層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
9	1・8-41	胴部	1	萩ヶ岡2?	365	胎土に砂

表V-2-50 TP-7 覆土3層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
10	3・7-22	胴部	1	萩ヶ岡2?	489	RL, 胎土に砂

表V-2-51 TP-7 覆土1層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・7-22	胴部	1	萩ヶ岡2	521	細片, 胎土に砂
11	3・7-23	胴部	1	天神山	520	三角突起に沈線
—	3・7-23	胴部	1	萩ヶ岡2?	523	摩耗, 胎土に砂
—	3・7-23	胴部	1	萩ヶ岡2?	522	摩耗, 胎土に砂

表V-2-52 TP-10 覆土1層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-66	胴部	1	円筒上層	733	胎土きめ細か
—	1・6-66	胴部	1	東銅路Ⅲ	738	細片, 燃糸文

表V-2-53 TP-11 覆土1層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
12	1・5-93	胴部	2	天神山	569	接合, 複節

表V-2-54 TP-13 関連I層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
13	0・5-98	突起	1	萩ヶ岡2	410	横, 10cm上

表V-2-55 TP-15 排土下出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
14	4・2-13	口縁	1	萩ヶ岡2	936	半截竹管の押引
—	4・2-21	胴部	3	萩ヶ岡2	915	細片, 摩耗
—	4・2-22	胴部	2	不明	918	細片, 摩耗
—	4・2-22	胴部	1	萩ヶ岡2	917	細片, 胎土に砂
—	4・2-22	胴部	1	萩ヶ岡2	916	細片, 胎土に砂
—	4・2-23	胴部	1	萩ヶ岡2	919	半截竹管の沈線
—	4・2-23	胴部	1	萩ヶ岡2	920	細片, 胎土に砂
—	4・2-23	胴部	2	萩ヶ岡2	921	接合, 胎土に砂
—	4・2-24	胴部	2	萩ヶ岡2	922	半截竹管の沈線
—	4・2-31	胴部	1	萩ヶ岡2	907	細片, 胎土に砂
—	4・2-31	胴部	1	萩ヶ岡2	906	細片, 摩耗
—	4・2-32	胴部	1	萩ヶ岡2	935	細片, 摩耗
—	4・2-32	胴部	1	萩ヶ岡2	914	細片, 胎土に砂
15	4・2-32	胴部	1	天神山	913	半截竹管の押引
—	4・2-33	胴部	1	萩ヶ岡2	933	細片, 胎土に砂
—	4・2-33	胴部	1	萩ヶ岡2	932	細片, 胎土に砂
—	4・2-33	胴部	1	不明	930	細片, 剥離
—	4・2-33	胴部	1	萩ヶ岡2	931	細片, 胎土に砂
—	4・2-33	胴部	1	萩ヶ岡2	929	LR, 内面平滑
—	4・2-33	胴部	2	萩ヶ岡2	926	半截竹管の沈線
—	4・2-34	胴部	2	萩ヶ岡2	923	RL, 胎土に砂
—	4・2-34	胴部	1	萩ヶ岡2	939	摩耗, 胎土に砂
—	4・2-34	胴部	1	萩ヶ岡2	924	細片, 胎土に砂
—	4・2-34	胴部	4	萩ヶ岡2	925	細片, 胎土に砂
16	4・2-41	胴部	1	天神山	907	三角突起に沈線
—	4・2-41	胴部	1	萩ヶ岡2	909	RL, 胎土に砂
17	4・2-41	胴部	2	萩ヶ岡2	908	RL
18	4・2-42	胴部	3	萩ヶ岡2	910	RL, 胎土に砂
—	4・2-42	胴部	3	萩ヶ岡2	934	細片, 胎土に砂
19	4・2-42	突起	1	天神山	971	肥厚帯に小突起
—	4・2-42	胴部	1	萩ヶ岡2	911	RL, 胎土に砂
—	4・2-42	胴部	2	萩ヶ岡2	912	細片, 胎土に砂
—	4・2-44	胴部	1	萩ヶ岡2	927	結束羽状縄文

表V-2-56 TP-15 排土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・2-21	胴部	1	天神山	873	半截竹管の沈線
—	4・2-22	胴部	1	萩ヶ岡2	879	細片, 胎土に砂
—	4・2-22	胴部	1	萩ヶ岡2	875	細片, 胎土に砂
—	4・2-22	胴部	1	萩ヶ岡2	874	細片, 胎土に砂
—	4・2-23	胴部	1	天神山	887	細片, 剥離

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・2-23	胴部	1	萩ヶ岡2	880	細片, 胎土に砂
—	4・2-23	胴部	1	萩ヶ岡2	884	細片, 胎土に砂
—	4・2-23	胴部	2	萩ヶ岡2	889	半截竹管の沈線
20	4・2-23	胴部	1	萩ヶ岡2	886	貼付に沈線
—	4・2-23	胴部	1	萩ヶ岡2	885	細片, 胎土に砂
—	4・2-23	胴部	1	萩ヶ岡2	883	細片, LR
21	4・2-23	胴部	1	天神山	882	半截竹管の沈線
—	4・2-23	胴部	1	天神山	888	堅く焼き締まる
—	4・2-23	胴部	1	天神山	881	細片, 摩耗
—	4・2-24	胴部	1	天神山	890	三角突起に刺突
22	4・2-32	胴部	1	天神山	903	堅く焼き締まる
	4・2-32	胴部	1	天神山	904	LR
—	4・2-32	胴部	3	萩ヶ岡2	902	竹管の刺突
—	4・2-32	胴部	1	天神山	901	複節
23ab	4・2-32	口縁	4	天神山	905	口縁と胴部突起
—	4・2-32	胴部	5	天神山	900	堅く焼き締まる
—	4・2-33	胴部	1	天神山	892	半截竹管の沈線
—	4・2-33	胴部	1	天神山	893	堅く焼き締まる
—	4・2-33	胴部	1	天神山	894	堅く焼き締まる
—	4・2-33	胴部	4	天神山	897	堅く焼き締まる
—	4・2-43	胴部	2	萩ヶ岡2	898	細片, 胎土に砂
24	4・2-43	胴部	2	萩ヶ岡2	896	結束羽状縄文
	4・2-44	胴部	3	萩ヶ岡2	895	

表V-2-57 TP-15排土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・2-22	胴部	1	萩ヶ岡2	872	細片, 胎土に砂
—	4・2-23	胴部	1	萩ヶ岡2	869	剥離, 胎土に砂
—	4・2-32	胴部	8	天神山	871	堅く焼き締まる
—	4・2-33	胴部	1	萩ヶ岡2	870	細片, 胎土に砂
—	4・2-34	胴部	1	萩ヶ岡2	891	半截竹管の沈線

表V-2-58 TP-15排土関連Ⅱ層出土土器一覽  
(排土下より下のⅡ層)

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
25	4・2-11	一括	33	天神山	1285	小突起
26	1・12-41	口縁	1	天神山	11	口縁肥厚帯に
	3・2-70	胴部	1	天神山		半截竹管の刺突
	4・2-11	胴部	1	天神山	1285	
	4・2-20	胴部	5	天神山		
	4・2-21	一括	11	天神山	1022	
27	4・2-31	一括	13	天神山	961	口縁肥厚帯に
	4・2-31	一括	18	天神山		貼付と小突起,
	4・2-31	一括	27	天神山	1283	半截竹管の施文
	4・2-41	胴部	1	天神山		

表V-2-59 TP-16覆土2層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-76	胴部	1	萩ヶ岡2	940	半截竹管の沈線

表V-2-60 TP-16覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
28	3・3-66	胴部	1	天神山	855	RLR斜行縄文
29	3・3-76	胴部	1	萩ヶ岡2	941	LR, 胎土良

表V-2-61 TP-16排土下面出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1101	半截竹管の刺突
—	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1100	半截竹管の沈線
30	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1102	結束羽状縄文
—	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1105	細片, LR
—	3・3-11	口縁	1	萩ヶ岡2	1104	半截竹管の沈線
—	3・3-12	胴部	1	中茶路	1108	貼付帯, 短縄文
—	3・3-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1109	剥離, 胎土に砂
—	3・3-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1110	細片, RL
—	3・3-21	胴部	1	萩ヶ岡2	1119	摩耗, 胎土に砂
—	3・3-22	胴部	1	萩ヶ岡2	1111	細片, 胎土に砂
—	3・3-23	胴部	1	中茶路	1113	貼付帯, 短縄文
—	3・3-23	胴部	1	萩ヶ岡2	1112	剥離, 胎土に砂
—	3・3-23	口縁	1	萩ヶ岡2	1114	RL, 口唇内側
31	3・3-33	胴部	1	中茶路	1115	貼付帯, 短縄文
—	3・3-33	胴部	1	萩ヶ岡2	1116	細片, 胎土に砂
—	3・3-33	胴部	1	萩ヶ岡2	1117	細片
32	3・3-43	胴部	2	萩ヶ岡2	1123	RL, 胎土に砂

表V-2-62 TP-16排土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1098	細片, 胎土に砂
—	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1096	細片, 胎土に砂
—	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1099	細片, 胎土に砂
33	3・3-11	口縁	1	天神山	1097	肥厚帯に刺突
34	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1103	RL
35	3・3-21	胴部	1	萩ヶ岡2	1120	RL, 胎土に砂
—	3・3-21	胴部	1	萩ヶ岡2	1121	剥離, 胎土に砂
—	3・3-21	口縁	1	天神山	1122	半截竹管の刺突
—	3・3-21	胴部	1	萩ヶ岡2	1118	細片, 胎土に砂

表V-2-63 TP-16排土トレンチ出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-02	胴部	1	萩ヶ岡2	1806	細片, 胎土に砂

表V-2-64 TP-17覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
36	4・3-14	口縁	1	大木8a	833	太い沈線
—	4・3-23	胴部	1	大木8a	853	LR, 内面平滑
—	4・3-23	胴部	1	萩ヶ岡2	854	摩耗, 胎土に砂
—	4・3-23	胴部	1	大木8a	852	太い沈線, LR
—	4・3-24	胴部	3	大木8a	834	LR, 内面平滑
—	4・3-24	胴部	1	萩ヶ岡2	837	剥離, 胎土に砂
37	4・3-24	胴部	1	大木8a	964	太い沈線, LR
38	4・3-24	胴部	3	大木8a	835	太い沈線, LR
	4・3-24	胴部	2	大木8a	836	
	4・3-24	胴部	2	大木8a	838	

表V-2-65 TP-19覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
39	3・4-61	胴部	1	中茶路	953	貼付帯, 短縄文
—	3・4-71	胴部	1	萩ヶ岡2	1003	剥離, 胎土に砂
—	3・4-71	胴部	1	萩ヶ岡2	954	摩耗, 胎土に砂
40	3・4-71	胴部	1	萩ヶ岡2	1140	LR, 内面平滑

表V-2-66 TP-19排土下出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-18	胴部	1	萩ヶ岡2	1033	細片, 剥離
—	3・3-29	胴部	1	萩ヶ岡2	1032	細片, LR
41	3・3-29	口縁	1	萩ヶ岡2	1089	半截竹管の押引
42	3・3-37	胴部	1	萩ヶ岡2	1046	RL
—	3・3-38	胴部	1	萩ヶ岡2	1047	細片
—	3・3-38	胴部	1	萩ヶ岡2	1044	細片, 摩耗
—	3・3-38	胴部	2	萩ヶ岡2	1043	細片, 摩耗
—	3・3-38	胴部	1	萩ヶ岡2	1042	細片, 摩耗
—	3・3-38	胴部	1	萩ヶ岡2	1045	細片, 剥離
—	3・3-38	胴部	1	萩ヶ岡2	1041	摩耗
—	3・3-39	胴部	1	萩ヶ岡2	1088	LR, 内面平滑
—	3・3-39	胴部	1	萩ヶ岡2	1039	細片, 剥離
—	3・3-39	胴部	1	萩ヶ岡2	1087	細片, LR
43	3・3-39	胴部	1	萩ヶ岡2	1040	半截竹管の沈線
—	3・3-49	胴部	1	萩ヶ岡2	1037	細片, 摩耗
—	3・3-49	胴部	1	萩ヶ岡2	1038	細片, 摩耗
—	3・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	1031	細片, 剥離
44	3・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	866	RL
—	3・4-30	胴部	1	萩ヶ岡2	865	摩耗
—	3・4-30	胴部	1	萩ヶ岡2	864	摩耗
—	3・4-30	胴部	1	萩ヶ岡2	1035	細片, 剥離
—	3・4-30	胴部	1	萩ヶ岡2	1036	摩耗

表V-2-67 TP-19排土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・4-20	胴部	2	萩ヶ岡2	1030	細片
—	3・4-30	胴部	1	萩ヶ岡2	1034	剥離, 貼付?

表V-2-68 TP-20覆土中出土土製品一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
45	3・4-40	胴部	1	中期	1202	三角土製品

表V-2-69 TP-20覆土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・4-30	胴部	1	萩ヶ岡2	1201	細片, 摩耗
—	3・4-31	胴部	1	萩ヶ岡2	1302	剥離, 胎土に砂
—	3・4-31	胴部	1	萩ヶ岡2	928	LR, 胎土に砂
46	3・4-31	胴部	1	天神山	952	RL
—	3・4-31	胴部	1	萩ヶ岡2	1200	剥離, 胎土に砂
—	3・4-41	胴部	1	萩ヶ岡2	1181	摩耗, 胎土に砂
47	3・4-41	突起	1	萩ヶ岡2	1180	半截竹管の沈線
—	3・4-41	胴部	1	萩ヶ岡2	1203	半截竹管の沈線

表V-2-70 TP-21覆土出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・4-75	胴部	1	萩ヶ岡2	1590	細片, 剥離

表V-2-71 TP-22覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・4-98	胴部	1	萩ヶ岡2	1461	剥離, 胎土に砂
48	1・4-99	口縁	1	天神山	1226	肥厚帯に刺突

表V-2-72 TP-22関連II層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
49	1・4-99	突起	1	萩ヶ岡2	1268	22cm上

表V-2-73 TP-23覆土3層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
50	3・4-52	胴部	1	萩ヶ岡2	1516	結束羽状縄文

表V-2-74 TP-23覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・4-53	胴部	2	萩ヶ岡2	1591	細片, RL
—	3・4-54	底部	2	不明	1592	接合, 細片

表V-2-75 TP-24覆土11層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・4-28	胴部	1	不明	1793	細片, 剥離

表V-2-76 TP-27覆土2層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・3-68	胴部	1	萩ヶ岡2	1774	剥離, 胎土に砂

表V-2-77 TP-27覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・3-68	胴部	1	萩ヶ岡2	1463	細片, 沈線
51	0・3-78	突起	1	萩ヶ岡1	1528	爪による刺突

表V-2-78 TP-28覆土2層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-37	口縁	1	萩ヶ岡2	1392	摩耗, 胎土に砂
52	2・3-37	胴部	1	萩ヶ岡2	1393	半截竹管の沈線
53	2・3-37	胴部	1	天神山	1394	RL
54	2・3-37	胴部	1	萩ヶ岡2	1395	RL
—	2・3-37	胴部	1	萩ヶ岡2	1397	細片, 摩耗
55	2・3-37	胴部	1	天神山	1398	RLR
—	2・3-37	胴部	1	萩ヶ岡2	1400	細片, 剥離

表V-2-79 TP-28覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-27	胴部	1	萩ヶ岡2	1305	細片, 剥離
—	2・3-27	胴部	1	萩ヶ岡2	1304	細片, 剥離
—	2・3-27	胴部	4	萩ヶ岡2	1303	細片, 剥離
—	2・3-27	胴部	1	萩ヶ岡2	1308	細片, 剥離
—	2・3-27	胴部	1	萩ヶ岡2	1306	細片, 剥離
—	2・3-37	胴部	1	萩ヶ岡2	1396	細片, 剥離
—	2・3-37	胴部	1	萩ヶ岡2	1399	細片, 剥離

表V-2-80 TP-29覆土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-01	胴部	1	萩ヶ岡2	1327	摩耗, 胎土に砂
56	2・3-10	胴部	1	萩ヶ岡2	1328	羽状縄文, 摩耗

表V-2-81 TP-30覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
57	1・4-80	胴部	1	萩ヶ岡2	1349	剥離, RL

表V-2-82 TP-31覆土3層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・4-22	底部	1	萩ヶ岡2	1587	内面平滑
—	0・4-23	胴部	1	萩ヶ岡2	1586	細片, 剥離

表V-2-83 TP-32覆土29層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-81	胴部	1	萩ヶ岡2	1501	細片, 剥離

表V-2-84 TP-32覆土7層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-81	胴部	1	萩ヶ岡2	1500	細片, 摩耗

表V-2-85 TP-32覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-81	胴部	1	萩ヶ岡2	1495	細片, 剥離
58	2・3-81	口縁	1	萩ヶ岡2	1314	半截竹管の押し
—	2・3-81	口縁	1	萩ヶ岡2	1494	細片, 摩耗
—	2・3-91	胴部	1	萩ヶ岡2	1358	細片, 剥離

表V-2-86 TP-32覆土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-81	胴部	1	萩ヶ岡2	1361	細片, 剥離
—	2・3-91	胴部	1	萩ヶ岡2	1360	細片, 剥離
59	2・3-92	口縁	1	萩ヶ岡1	1359	貼付に縄の押捺

表V-2-87 TP-33覆土1層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-83	胴部	2	萩ヶ岡2	1588	細片, 摩耗
—	1・3-84	胴部	2	萩ヶ岡2	1362	細片, 摩耗
—	1・3-84	胴部	1	萩ヶ岡2	1517	細片, 摩耗

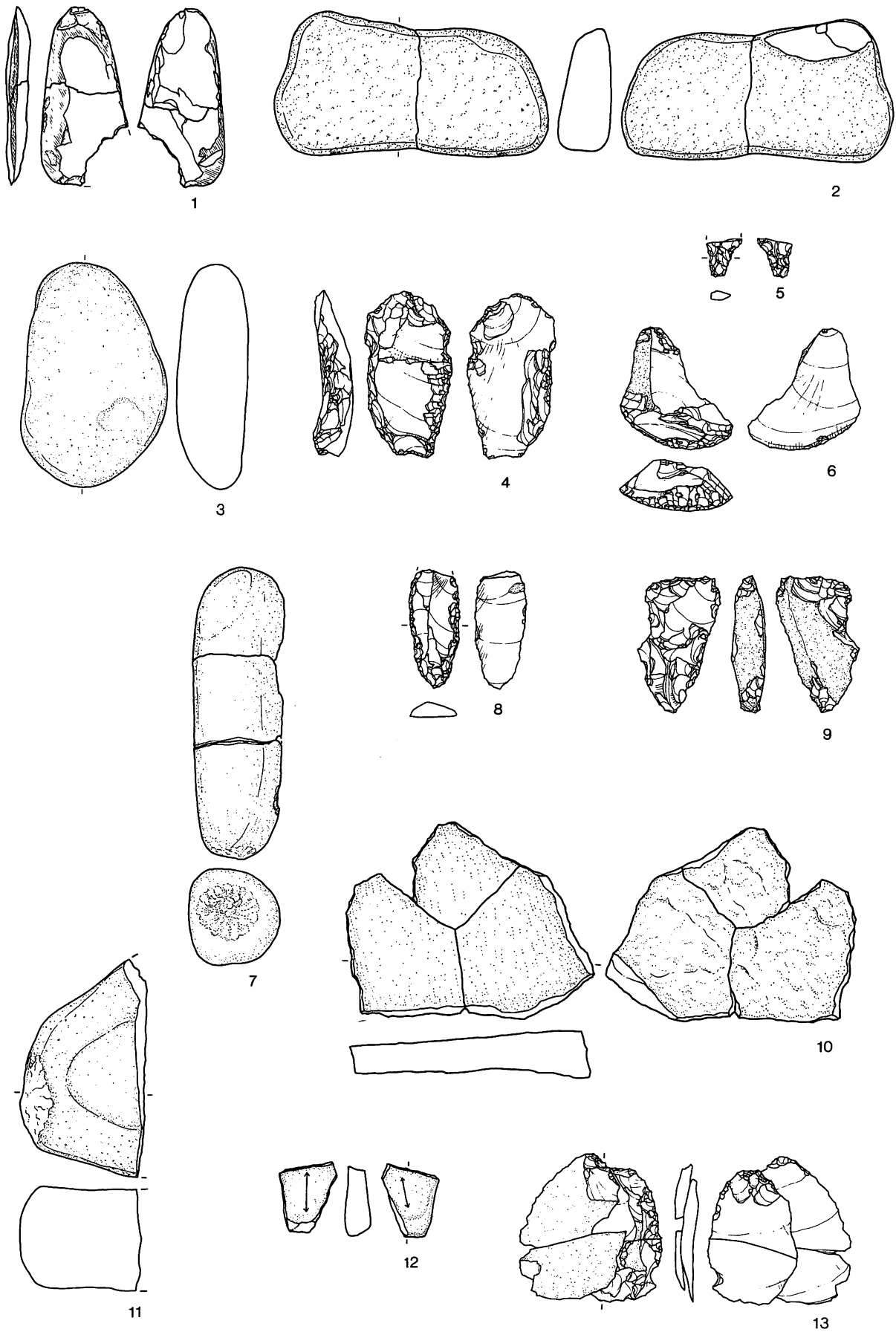
TP 27覆土1層出土の萩ヶ岡1式土器の突起である。突起の中央に指でつまんだくぼみがある。その周囲には爪による刺突が施されている。突起の左側縁には縄文が押捺されている。胎土に砂粒を含み、脆い感じを受ける。

52~55はTP 28覆土2層出土のもの。52・58には半截竹管状工具による施文がみられる。52は横と斜めの沈線が引かれている。内面は平滑。53には整ったRLの縄文が施されている。堅く焼き締まる。54は摩耗しているがRLの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。55の地文は複節である。56はTP 29覆土1層から出土したもの。摩耗しておりLRとRLの縄文が認められる。胎土に砂粒を含む。57はTP 30覆土1層のもの。RLの縄文が認められる。胎土に小砂利を含み脆い。内面は剥落。58はTP 32覆土1層から出土した。口唇と口縁貼付帯に押し引き、貼付帯の下には沈線が施されている。乱れたLRの縄文が認められる。胎土は良く、器面は茶褐色を呈する。内面は剥落。59はTP 32覆土

上出土の萩ヶ岡1式土器片である。器面は大部分剥落している。垂下帯が縄で刻まれている。胎土に砂粒を含む。

#### Tピット出土の石器 (図V-2-56)

1は両刃の磨製石斧で、基部側はTP 5の覆土7層(南端に近い部分でⅡ層上の崩落した部分)中にあり、刃部は2・5-66区のⅡ層中から出土し接合したものである。刃部は過半を欠いており、基部両面にも敲打による剥離痕がみられる。2はTP 14の覆土1層から出土した半分(図左側)と、2・5-84区のⅡ層中から出土した半分が接合した偏平楕円礫である。図の下面左右2カ所にわずかに敲打痕らしき跡がみられるが判然としない。3はTP 15排土の南側、天神山式土器(No. 1283)がまとまってみられた地点の直下から出土した偏平楕円礫で、使用痕はみられない。4はTP 17に流れ込んでⅡ層中から出土した搔器で、湾曲とねじれのみられる若干摩耗した剝片を素材としている。楔形石器としても用いられており、両側縁特に図の左側に顕著なつぶれと階段状の剥離がみられる。5・6は、共にTP 19の排土直下(P 7覆土最上層)から出土したもので、5は有柄凸基の石鏃基部片、6は板状原石の礫皮片を素材としたエンド・スクレイパーである。7・8はTP 20から出土したものである。7は覆土2層中から出土した端部片(図の上)と、0・5-29区のⅡ層から出土した中央部片、1・6-86区のⅡ層から出土した端部片が接合したもので、一端と一側縁に敲打痕がみられる。8は摩耗が顕著で湾曲した剝片を素材とし、先端を切り出し状に作出した削器である。基部を欠いているがつまみ付きナイフの可能性もある。9はTP 21の覆土1層から出土した石核で、素材は板状原石である。剥離状況や四辺にみられるつぶれから、両極打法が用いられていたと思われる。なお、TP 21の覆土1層上面から覆土Ⅱ層にかけては、この他にR・F(背面加工の端部片)1点と剝片92点(うち3点は焼けている)がまとまって出土しており、Tピットのくぼみ内に一括廃棄された遺物の可能性もある。10は板状礫を素材とした石皿片で、TP 22の覆土1層から出土した破片(図の右)と、覆土Ⅱ層から出土した破片(図の左)が、0・5-81区のⅡ層から出土した破片と接合した。11は、TP 28の覆土12層から出土した両面にすりくぼみがみられる石皿の端部片であるが、端部に顕著な敲打痕がみられ、この状態でたたき石として用いられている。12はTP 32の覆土1層から出土した砥石片で、両面に使用痕がみられる。13はTP 33の覆土1層から出土した礫皮片(図の左下)が、周辺のⅡ層から出土したR・F、礫皮片と接合したものである。



図V-2-56 Tピット出土の石器

表V-2-88 Tピット出土石器等一覧

No.	グリッド	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	分類	種別No	備考
1	4・5-45	覆土1	—	—	—	0.2	黒曜石	剥片	36	
5	0・8-91	覆土7	94.6	45.7	10.7	58.6	緑色泥岩	石斧	1 346	両刃、刃部過半欠損、399(25-66、II層)と接合
8	0・5-78	掘土中	—	—	—	0.1	黒曜石	剥片	200	
		79 掘土中	—	—	—	0.6	黒曜石	剥片	198	
		89 掘土中	—	—	—	0.8	黒曜石	B・F	199	
9	2・6-83	覆土II層	—	—	—	5.2	縞頁岩	剥片	124	
10	1・6-66	覆土II層	—	—	—	1.4	黒曜石	剥片	611	612・613・619・623~627・629~635を含む、16点あり
		66 覆土II層	—	—	—	0.1	黒曜石	B・F	628	
		66 覆土1	—	—	—	0.4	黒曜石	剥片	206	207を含む、2点あり
12	3・9-96	覆土II層	56.2	47.1	21.1	66.1	安山岩	方割礫C	459	磨けている
14	3・5-31	覆土1	144.8	75.7	27.8	507.4	安山岩	方割礫B	2 491	455(25-84)と接合後偏平槽凹礫、たたき石か
15	4・2-31	掘土横	119.2	78.3	37.5	510.0	安山岩	偏平槽凹礫	3 762	P1283の下から出土
		32 掘土中	20.0	23.6	19.2	8.6	黒曜石	石核	684	
		32 掘土中	—	—	—	1.6	黒曜石	剥片	684	
		33 掘土中	—	—	—	0.2	黒曜石	剥片	683	
		42 掘土中	18.8	30.8	15.0	5.8	黒曜石	R・F	685	背面加工の端部片、搔器片か
16	3・3-11	掘土中	—	—	—	0.2	メノウ	剥片	737	
		11 掘土中	—	—	—	1.9	黒曜石	剥片	738	
		76 覆土中部	—	—	—	2.0	黒曜石	剥片	687	
17	4・3-24	覆土II層	57.7	30.2	9.9	18.8	黒曜石	搔器	4 679	先端・両側縁背面加工、両側縁つぶれ
19	3・3-19	掘土下	13.0	12.7	3.5	0.4	黒曜石	石鏃	5 733	有柄凸基、基部片
		19 掘土下	56.1	55.4	31.8	72.7	凝灰岩	楕円礫	667	
		29 掘土中	39.0	40.8	13.9	14.0	黒曜石	搔器	6 722	エンド・スクレイパー、先端背面加工、両側縁に原石面
		38 掘土下	27.8	15.3	12.5	4.9	玄武岩	方割礫B	668	
20	3・4-30	覆土2	154.3	51.7	48.6	619.7	安山岩	たたき石	7 728	一面・一端に澱積、289・379(05-29、16-86、II層)と接合
		31 覆土2	48.0	40.1	25.8	36.1	凝灰岩	垂角礫	784	
		31 覆土2	—	—	—	0.2	黒曜石	剥片	801	
		31 覆土2	—	—	—	7.2	黒曜石	剥片	799	
		31 覆土7	—	—	—	0.2	黒曜石	剥片	800	
		32 覆土上部	42.4	18.0	5.4	4.2	黒曜石	削器	8 952	切出し状、両側縁背面加工、基部欠損、摩耗した剥片使用
21	2・4-75	覆土1	50.0	26.2	12.0	14.9	黒曜石	石核	9 951	2面に原石面を残す
		75 覆土1	24.2	11.1	6.5	1.3	黒曜石	R・F	957	背面加工の端部片
		75 覆土II層	—	—	—	0.3	黒曜石	B・F	711	3点あり
		75 覆土II層	—	—	—	29.2	黒曜石	剥片	710	711を含む、78点あり
22	1・4-59	掘土中	31.3	18.7	2.8	1.9	黒曜石	石斧	875	背面片
		99 覆土1	128.1	103.0	25.5	360.2	安山岩	石皿	10 744	破片、481・874(05-81,14-99)と接合
28	2・3-37	覆土12	68.1	117.7	56.8	700.0	安山岩	石皿	11 822	端部片、両面すりくぼみ、端部に澱積
		47 覆土2	—	—	—	0.4	黒曜石	剥片	819	
32	2・3-91	覆土上部	23.4	23.4	4.1	1.9	黒曜石	U・F	797	
		91 覆土上部	—	—	—	7.5	黒曜石	剥片	798	802を含む、2点あり
		91 覆土1	30.2	35.4	14.2	17.8	砂岩	砥石	12 823	破片、両面に使用痕
33	1・3-83	覆土1	38.6	22.8	8.6	7.6	頁岩	R・F	962	背面加工の端部片
		83 覆土1	53.2	51.8	7.9	17.6	頁岩	接合資料	13 841	832(13-94)+621(13-95)のR・F(一側縁背面加工)と833(13-94)の礫皮片と接合
		83 覆土1	—	—	—	5.0	黒曜石	剥片	839	840を含む、2点あり

### 5) 焼土

75ヵ所を確認した。分布から7つのグループに分けられる。

- A. 発掘区北側の段丘縁にあるもの (FP 1)
- B. 沢跡北側に分布するもの (2~8)
- C. 沢跡南側に分布するもの (10~19・22~29)
- D. 1・5、1・6区に集中するもの (20・30~34・36・38・40)
- E. 3・5区に集中するもの (21・35・37・39・41)
- F. 0・4区~4・1区にかけてほぼ一列に並ぶもの (42~53・55~60・64~70)
- G. Fより南側に分布し、発掘区の南に連なると思われるもの。(54・61~63・71・73~75)

FP 1と62を除き縄文時代中期の所産と思われる。Dは多量の遺物が出土しており、焼土出土の遺物と周囲の遺物との関わり、TP 10との関係などについて「まとめ」で詳述する。なお、FP 59は106ページのTP 24に記載した。

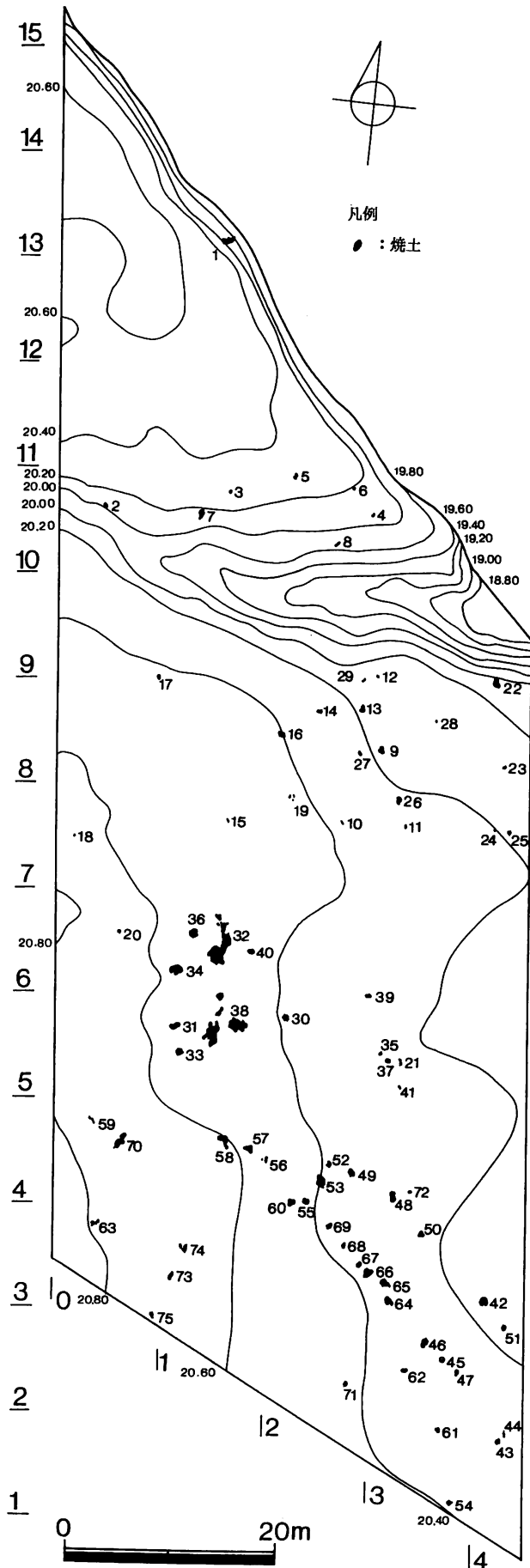
**FP 1** 1・13区の段丘縁で確認した。確認面はⅡ層上面で、続縄文時代以降のものと思われる。上下2枚の焼土が認められた。いずれも良く焼けて締まっており、bは炭化物を含む。フローテーションでaからはクルミの殻が、bからは不明種子粒1点が得られている。

**FP 2** 2~8は、沢跡北側に分布する焼土である。いずれもフローテーションを実施したが、植物種子は検出されていない。2はⅡ層中位で確認した。小規模で、焼けも弱く締まっていない。

**FP 3** Ⅱ層中位で確認した。2同様小規模で焼けも弱く締まっていない。

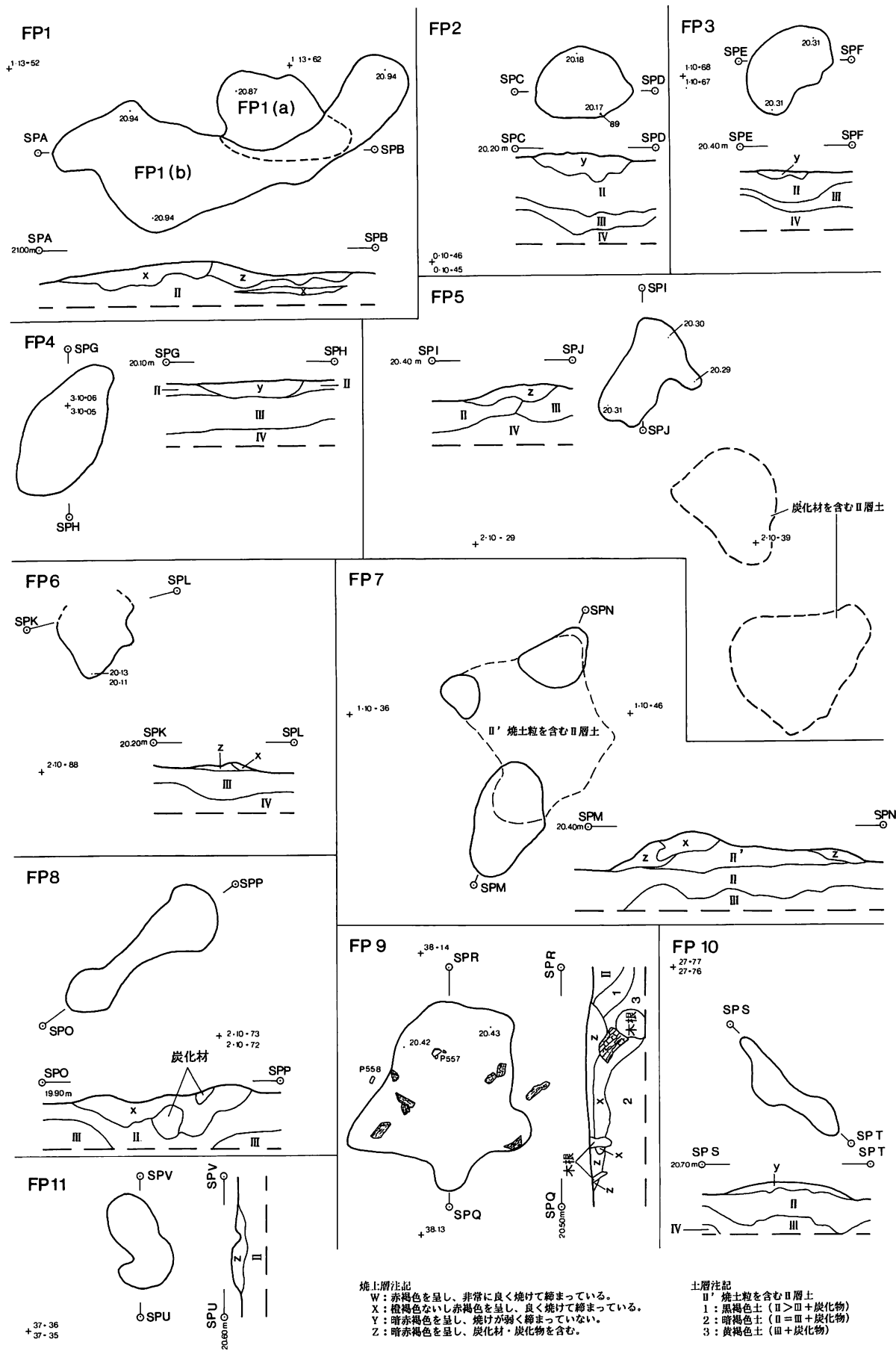
**FP 4** Ⅱ層下位で確認した。焼けが弱く締まっていない。

**FP 5** Ⅱ層中位で確認した。焼土とⅡ層とが入り混じった様子で、暗赤褐色を呈し全体に炭化材を含む。すぐ南側に、本焼土に伴う2ヵ所の炭化材集中範囲がある。



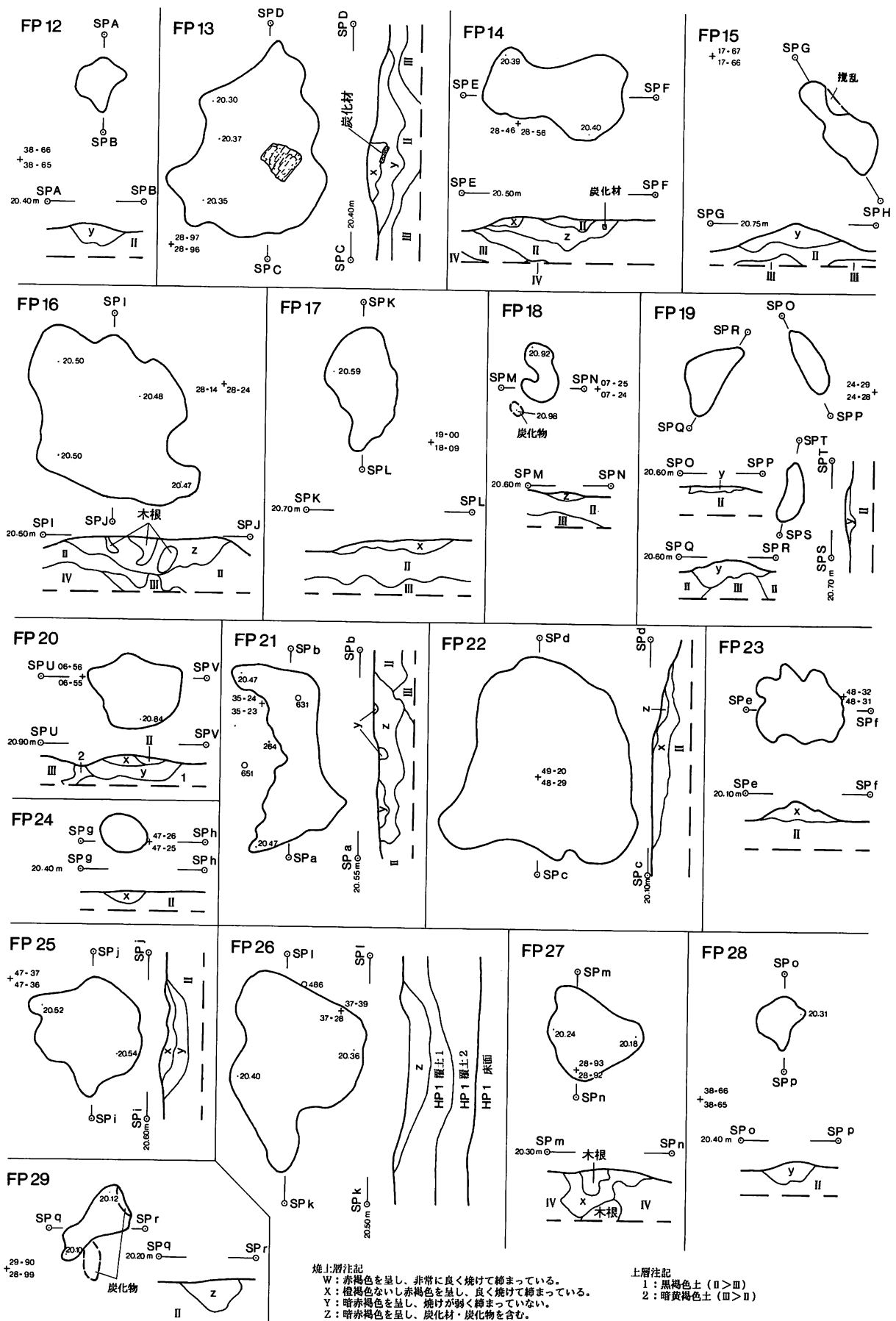
図V-2-57 焼土の分布





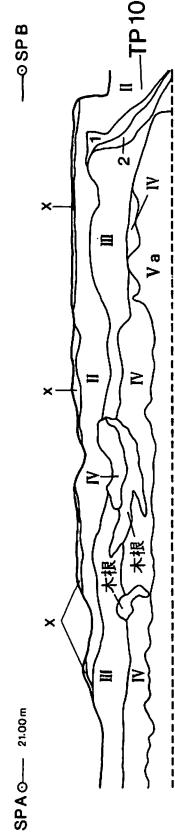
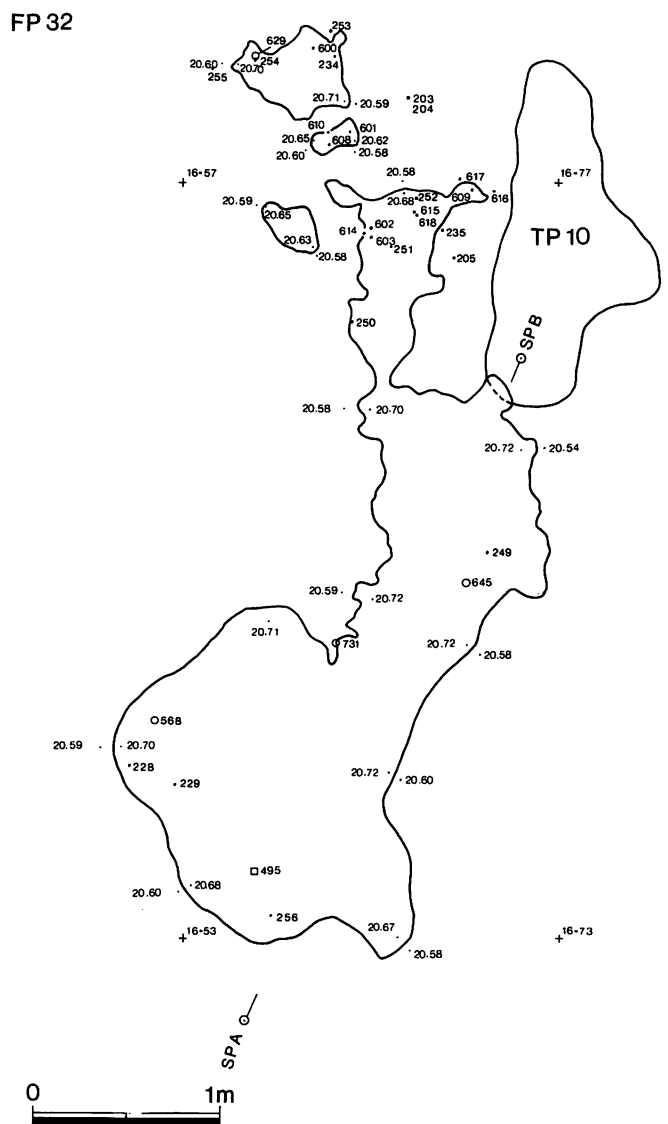
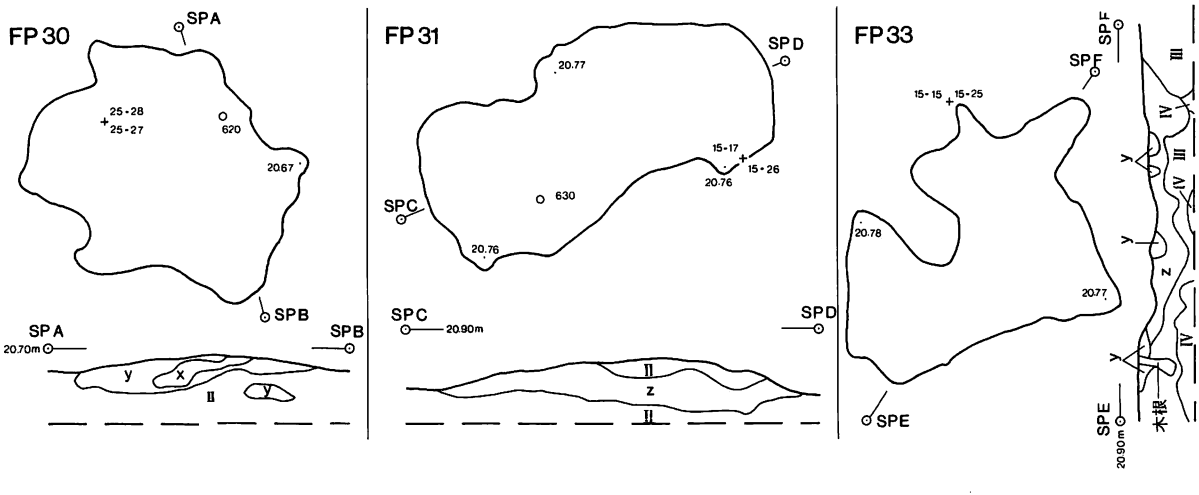
図V-2-58 焼土平面及び断面 (1)

- FP 6** 北側を調査ミスで失った。沢跡北側では、唯一Ⅲ層上面で確認した焼土である。部分的に良く焼けて橙褐色を呈し、その他の部分には炭化物を含む。
- FP 7** Ⅱ層中位で確認した。炭化物混じりの焼土3ヵ所があり、その間に焼土粒混じりの層が広がっている。
- FP 8** Ⅱ層中位で確認した。炭化材を含み、良く焼けて締まっている。
- FP 9** Ⅱ層中位で確認した。多量の炭化材を含み、良く焼けて締まっている。焼土中及び西縁から萩ヶ岡2式土器片が出土している。
- FP 10** Ⅱ層上位で確認した。焼けが弱く締まっていない。
- FP 11** Ⅱ層上位で確認した。炭化物を含む。
- FP 12** 沢跡南縁のⅡ層中位で確認した。小規模で、焼けが弱く締まっていない。
- FP 13** Ⅱ層中位で確認した。中央部分は炭化物を含み、良く焼けて締まっている。フローテーションでマタタビ属の種子1点が検出されている。
- FP 14** Ⅱ層中位で確認した。炭化材を含み、良く焼けている。
- FP 15** Ⅱ層上位で確認した。焼けが弱く締まっていない。
- FP 16** Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含み比較的厚く焼けているが、焼けは弱く締まっていない。フローテーションで不明種子粒1点が検出されている。
- FP 17** Ⅱ層中位で確認した。薄い良く焼けている。
- FP 18** Ⅱ層中位で確認した。小規模で炭化物を含む。南側にも小範囲に炭化物がみられる。
- FP 19** Ⅱ層中位で3ヵ所の小規模な焼土を確認した。いずれも焼けは弱く締まっていない。
- FP 20** Ⅱ層中位で確認した。上部は良く焼けて締まっている。
- FP 21** Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含み比較的厚く焼けているが、焼けは弱く締まっていない。焼土中から萩ヶ岡2式土器片と黒曜石の焼けた剥片各1点が出土している。
- FP 22** 沢跡南縁のⅡ層中位で確認した。比較的規模が大きく、炭化物を含み良く焼けている。
- FP 23** Ⅱ層中位で確認した。良く焼けて締まっている。
- FP 24** Ⅱ層中位で確認した。小規模だが良く焼けて締まっている。
- FP 25** Ⅱ層中位で確認した。上部は良く焼けて締まっている。焼土上から萩ヶ岡2式土器片1点が出土している。
- FP 26** HP 1の覆土上面に位置する。炭化物を含み締まりはない。
- FP 27** Ⅳ層上面で確認した。木根による攪乱で動かされているが、良く焼けており締まっている。
- FP 28** Ⅱ層中位で確認した。小規模で焼けも弱く締まっていない。
- FP 29** 沢跡南縁のⅡ層中位で確認した。小規模で、炭化物を多く含む。フローテーションでクルミの殻が検出されている。
- FP 30** Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含み良く焼けている部分(x)と流れて広がった範囲(y)に分かれる。焼土中から萩ヶ岡2式土器の底部片が出土している。またフローテーションで、不明種子粒2点が得られている。
- FP 31** Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含み良く焼けている。焼土中から萩ヶ岡2式土器細片が出土している。
- FP 32** Ⅱ層中位で確認した。大規模で焼けが弱く締まっていない。TP 10が埋没したのちに形成されている。焼土上面より萩ヶ岡2式土器片5点、石鏃、R・F各1点、焼土中より天神山式土器片1点、亜円礫1点が出土した。また、黒曜石の焼けた剥片が大量に出土している。



図V-2-59 焼土平面及び断面 (2)

- FP 33** Ⅲ層上面で確認した。炭化物を多く含むが、焼けは弱く締まりもない。
- FP 34** Ⅲ層上面で確認した。比較的大規模で、炭化物を多く含む。焼土上面及び周辺から石斧片が出土している。またフローテーションでクルミの殻が検出されている。
- FP 35** Ⅱ層中位で確認した。炭化物を含むが、焼けは弱く締まりもない。
- FP 36** Ⅱ層中位で確認した。比較的大規模で、良く焼けて締まっている部分を中心に線を引いた範囲以上に焼土混じりのⅡ層が広がっている。焼土上面から石斧、石斧片、焼けた礫、搔器、焼けた R・F、U・F、黒曜石の剥片が出土し、これらは周辺から出土した遺物と密接な接合関係がある。また、萩ヶ岡 2 式土器片も 1 点出土している。
- FP 37** Ⅱ層中位で確認した。橙褐色を呈し良く焼けて締まっている部分と、焼けの弱い部分がある。
- FP 38** Ⅱ層中位で確認した。大規模で焼けが弱く締まっていない。a～g を中心に、一帯に焼土混じりのⅡ層が広がっている。削器、搔器、石斧、R・F、黒曜石の剥片、方割礫が出土しており、石器のほとんどは焼け弾けている。これらは周辺から出土した遺物と密接な接合関係がある。土器片は円筒上層式 3 点、萩ヶ岡 1 式 1 点、萩ヶ岡 2 式 11 点が出土しており、周辺からも萩ヶ岡 2 式を中心とした同時期の土器片、試し焼き粘土と思われるものが出土している。
- FP 39** Ⅱ層中位で確認した。焼けが弱く締まっていない。焼土上面からメノウ剥片 2 点、黒曜石の焼けた剥片 1 点、焼土中より萩ヶ岡 2 式土器片が 1 点出土している。
- FP 40** Ⅱ層中位で確認した。焼けが弱く締まっていない。
- FP 41** Ⅱ層中位で確認した。焼けは弱く締まりもない。
- FP 42** Ⅱ層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土上面から天神山式土器片 1 点、焼土中から萩ヶ岡 2 式土器片 2 点が出土した。
- FP 43** Ⅱ層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と炭化物を含む部分、流れて広がった部分に分かれる。フローテーションにより萩ヶ岡 2 式土器片 1 点が得られた。
- FP 44** Ⅱ層中位で 2 ヶ所の小規模な焼土を確認した。炭化物を含み良く焼けて締まっている。
- FP 45** Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土上面と焼土中から萩ヶ岡 2 式土器片が 1 点ずつ出土した。
- FP 46** Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。萩ヶ岡 2 式、天神山式土器片、黒曜石の焼けた礫皮片が出土している。
- FP 47** Ⅱ層下位で確認した。良く焼けて締まっている。
- FP 48** Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土下面から石斧片が 1 点出土している。
- FP 49** Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から萩ヶ岡 2 式土器片が 1 点出土している。
- FP 50** Ⅱ層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から萩ヶ岡 2 式土器片が 3 点出土している。
- FP 51** Ⅱ層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土上面から萩ヶ岡 2 式土器片が 2 点出土している。
- FP 52** Ⅱ層中位で確認。良く焼けて締まる。焼土の下から萩ヶ岡 2 式土器片が出土している。
- FP 53** Ⅱ層下位で確認した。比較的大規模で、良く焼けて締まっている部分と流れて広がった部分がある。焼土上面から石鏃 1 点、縞頁岩の R・F 1 点、黒曜石の剥片 2 点が出土している。いずれも焼けている。



焼土層注記  
 W: 赤褐色を呈し、非常に良く焼けて締まっている。  
 X: 橙褐色ないし赤褐色を呈し、良く焼けて締まっている。  
 Y: 暗赤褐色を呈し、焼けが弱く締まっていない。  
 Z: 暗赤褐色を呈し、炭化材・炭化物を含む。

図V-2-60 焼土平面及び断面 (3)

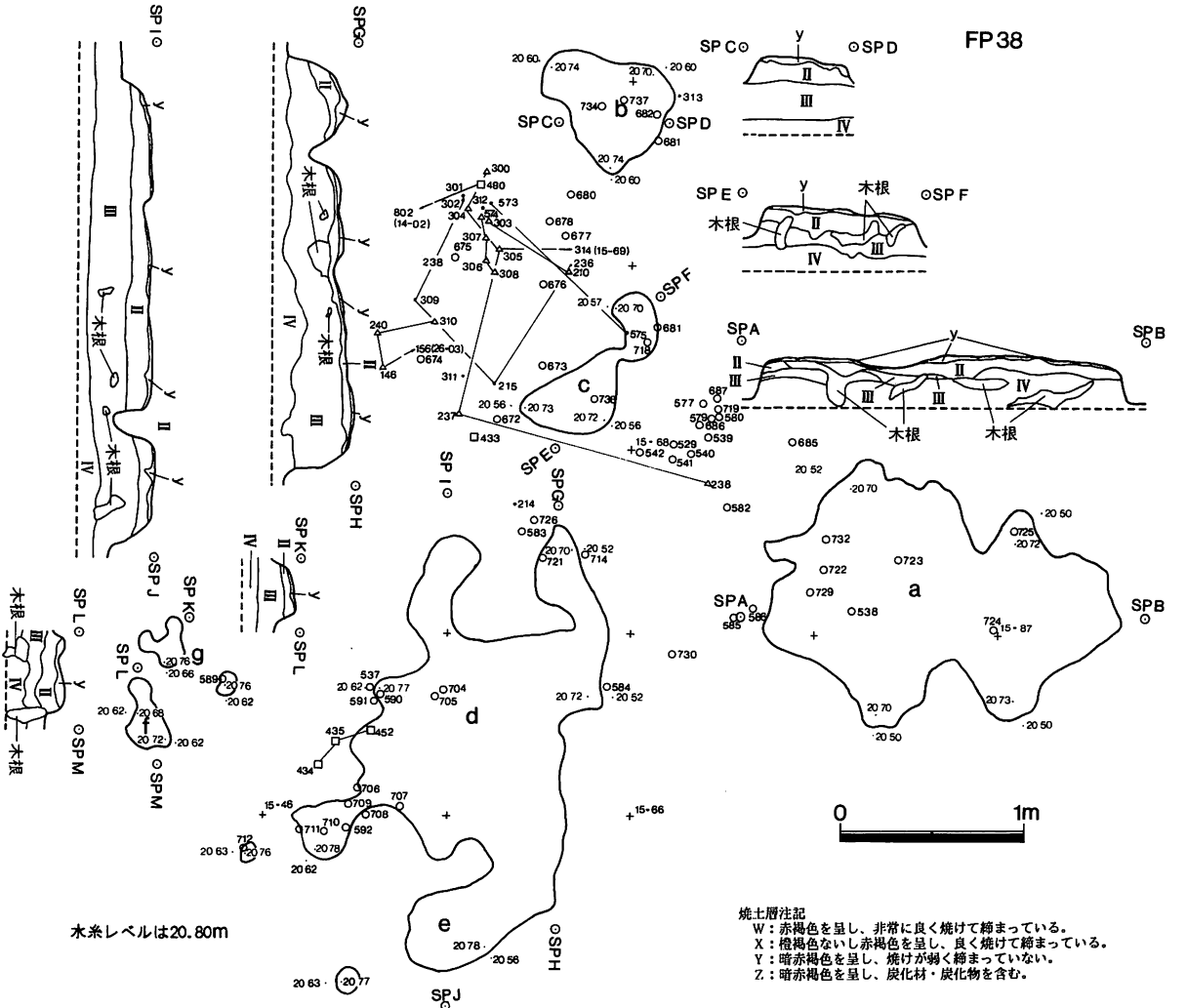
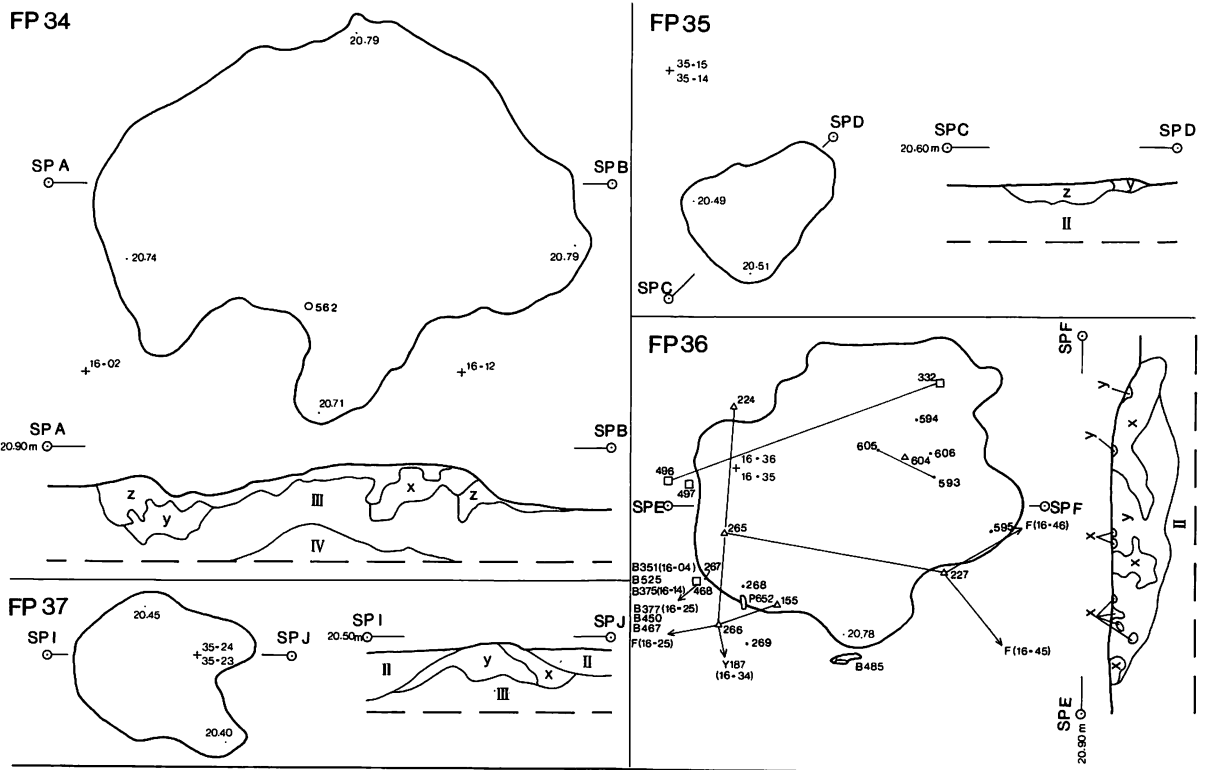
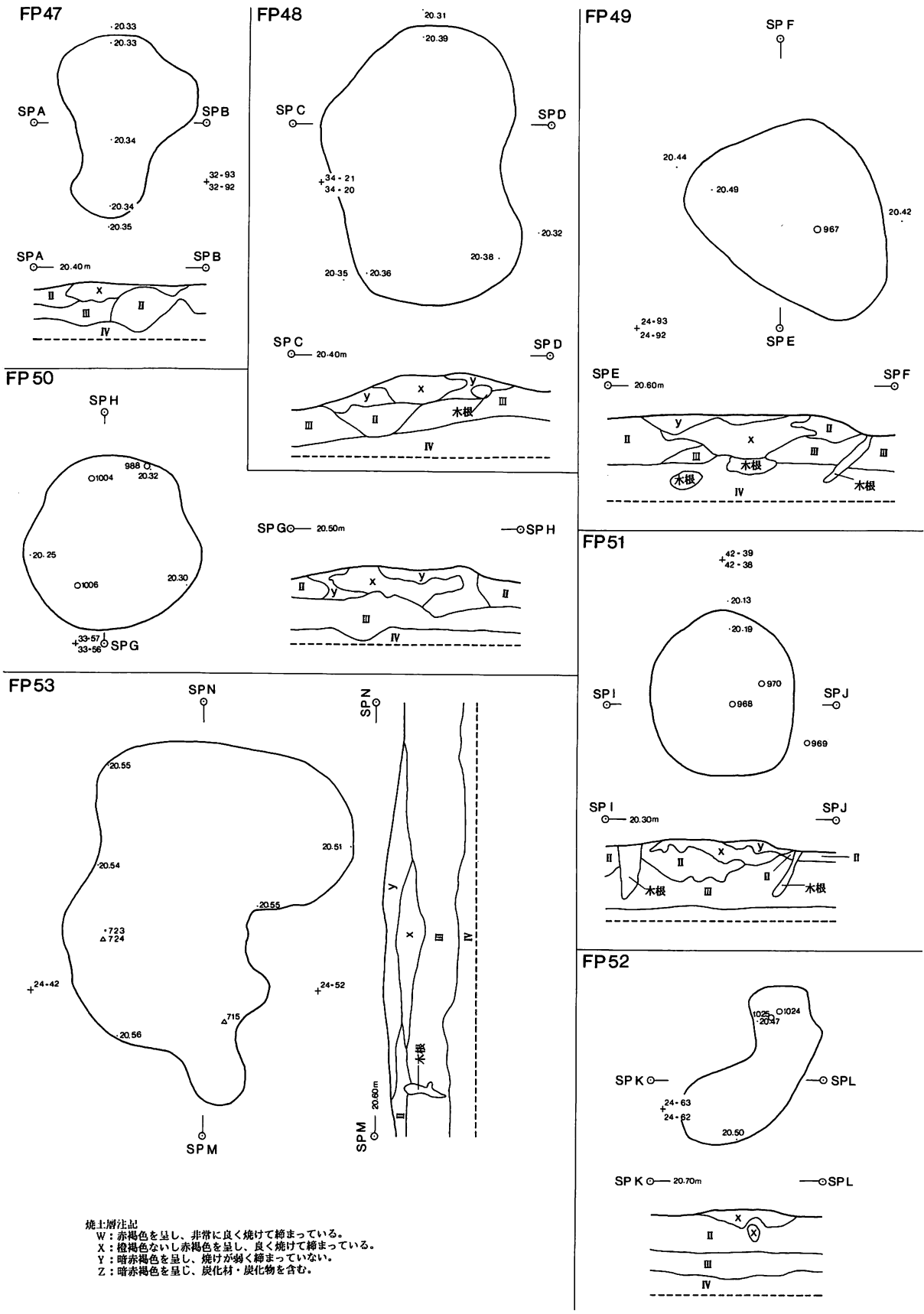


図 V-2-61 焼土平面及び断面 (4)



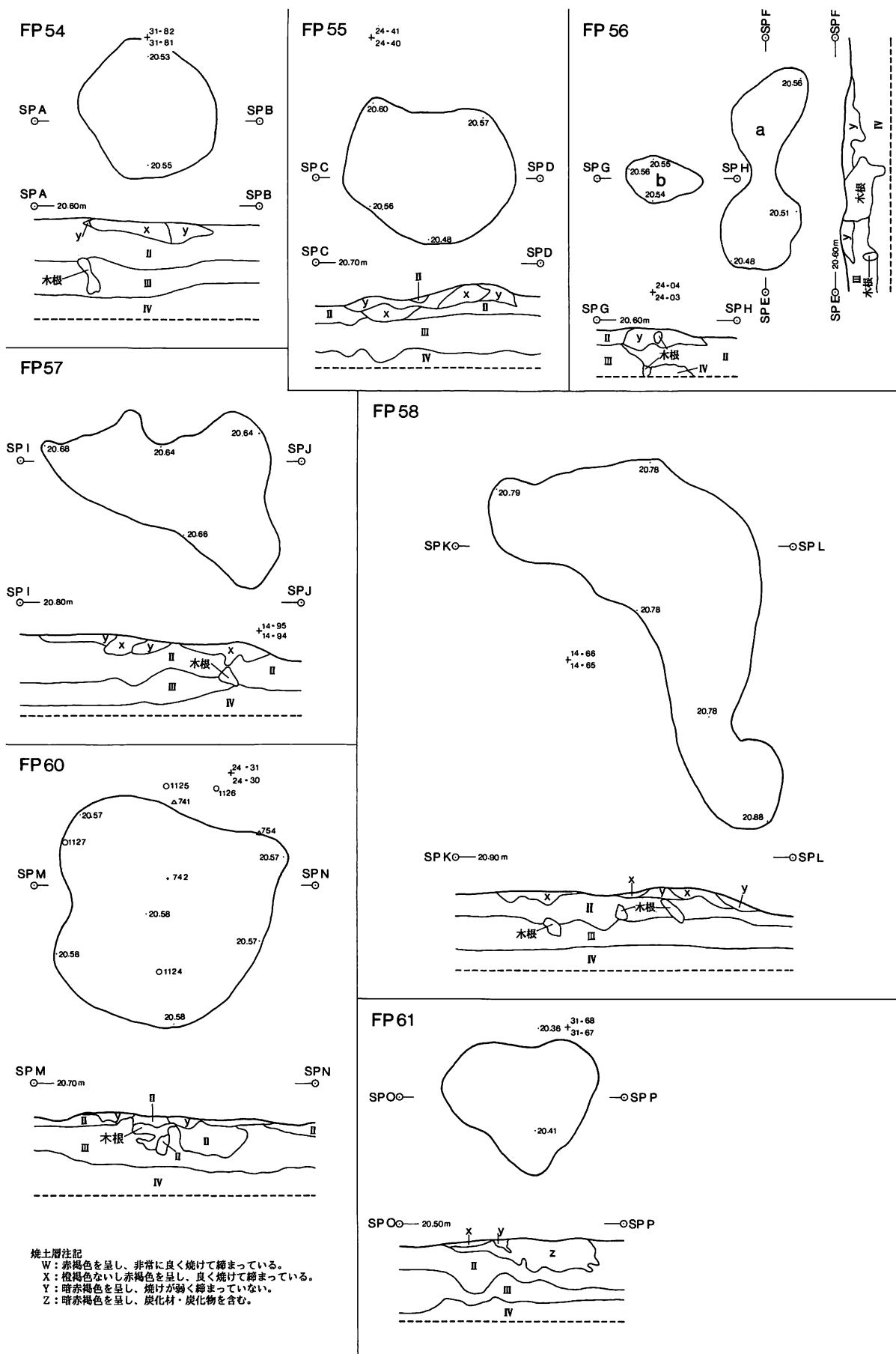
- FP 54** II層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP 55** II層下位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP 56** II層下位で確認した。木根の攪乱により動かされている。a、bのあいだにも焼土混じりのII層が広がっている。焼けが弱く締まっていない。
- FP 57** II層中位で確認。良く焼けて締まっている部分と、焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP 58** II層中位で確認。比較的大規模で、良く焼けて締まる部分と流れて広がった部分がある。
- FP 60** II層下位で確認した。焼けが弱く締まっていない。焼土上面から萩ヶ岡2式、天神山式土器片が各3点、楔形石器、R・F、焼けた剥片が各1点出土している。
- FP 61** II層中位で確認。良く焼けて締まっている部分、焼けが弱く締まっていない部分、炭化物を含む部分がある。
- FP 62** II層中位で確認した。焼けが弱く締まっていない。焼土上面からU・Fが1点、焼土横に東釧路Ⅲ式土器片が4点出土している。
- FP 63** II層中位で確認。多量の炭化物を含み、良く焼けて締まっている。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が4点出土している。
- FP 64** TP 16排土下II層中位で確認した。非常に良く焼けて締まる部分、良く焼けて締まっている部分、焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP 65** TP 16排土下II層中位で確認。良く焼けて締まる部分と焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土上面から萩ヶ岡2式土器片が3点とR・F、黒曜石の焼けた剥片各1点が出土した。
- FP 66** II層中位で確認した。非常に良く焼けて締まる部分、良く焼けて締まっている部分、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が1点出土している。
- FP 67** II層中位で確認した。良く焼けて締まっている部分、焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が2点出土している。
- FP 68** II層中位で確認した。良く焼けて締まっている。焼土中から萩ヶ岡2式土器片が1点、焼土上面から萩ヶ岡2式土器片5点が出土している。
- FP 69** II層中位で確認した。焼けが弱く締まっていない。萩ヶ岡2式土器片が焼土中から4点、焼土上面から7点出土している。
- FP 70** II層中位で確認した。風倒のくぼみを利用したものと思われる。比較的規模が大きく、良く焼けて締まっている部分と焼けが弱く締まっていない部分がある。
- FP 71** II層中位で確認した。小規模で焼けが弱く締まっていない。多量の炭化物を含む。
- FP 72** II層下部で確認、TP-20の北東側に重複しこれに切られる。規模は小さいが下位の土壌は比較的深くまで焼け締まりを見せる(x層)。遺物は出土していない。
- FP 73** II層中位で確認した。良く焼けて締まっている部分と焼けが弱く締まっていない部分がある。焼土中から天神山式土器片1点が出土している。
- FP 74** II層中位で確認した。木根の攪乱により動かされている。線を引いた部分を中心に焼土混じりのII層が広がっている。焼土上から萩ヶ岡2式土器片が3点出土している。
- FP 75** II層中位で確認した。炭化物を含み焼けが弱く締まっていない。



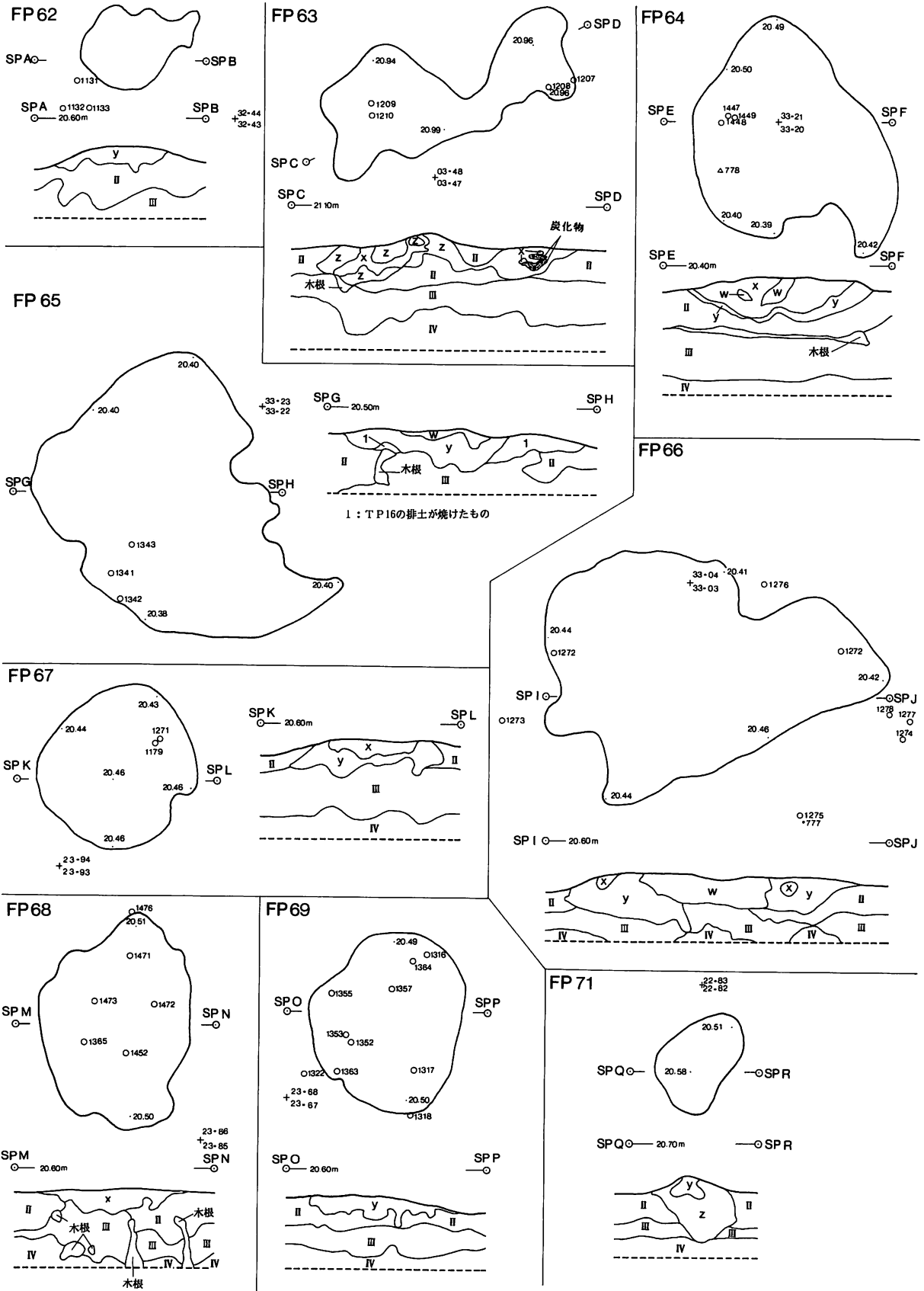


焼土層注記  
 W: 赤褐色を呈し、非常に良く焼けて締まっている。  
 X: 橙褐色ないし赤褐色を呈し、良く焼けて締まっている。  
 Y: 暗赤褐色を呈し、焼けが弱く締まっていない。  
 Z: 暗赤褐色を呈し、炭化材・炭化物を含む。

図V-2-63 焼土平面及び断面 (6)



図V-2-64 焼土平面及び断面 (7)

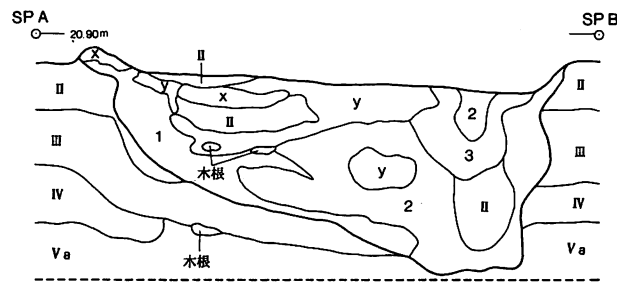
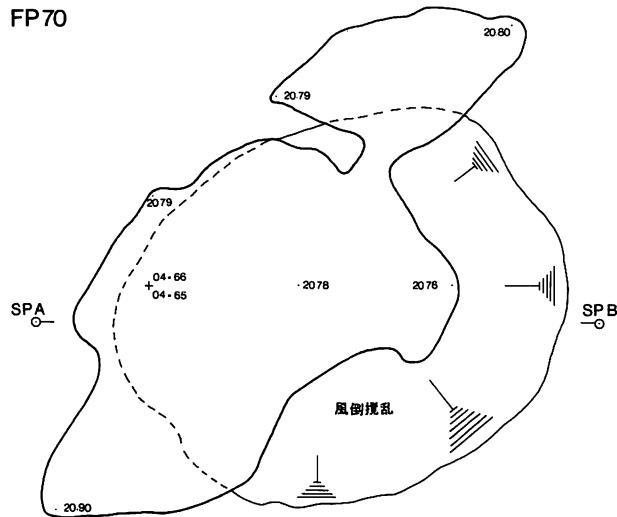


**焼土層注記**  
 W: 赤褐色を呈し、非常に良く焼けて締まっている。  
 X: 橙褐色ないし赤褐色を呈し、良く焼けて締まっている。  
 Y: 暗赤褐色を呈し、焼けが弱く締まっていない。  
 Z: 暗赤褐色を呈し、炭化材・炭化物を含む。

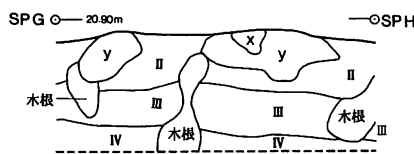
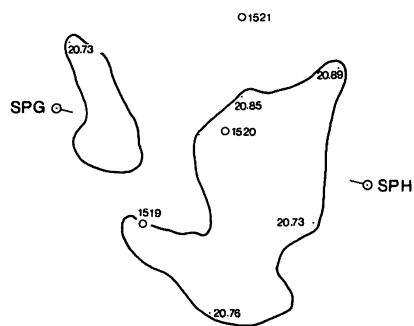
**土層注記**  
 II' 焼土粒を含むII層土  
 1: 黒褐色土 (II>III+炭化物)  
 2: 暗褐色土 (II=III+炭化物)  
 3: 黄褐色土 (III+炭化物)

図V-2-65 焼土平面及び断面 (8)

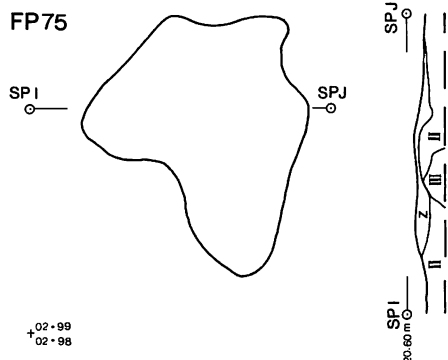
FP70



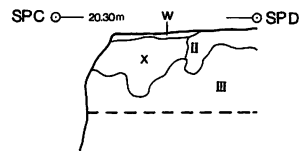
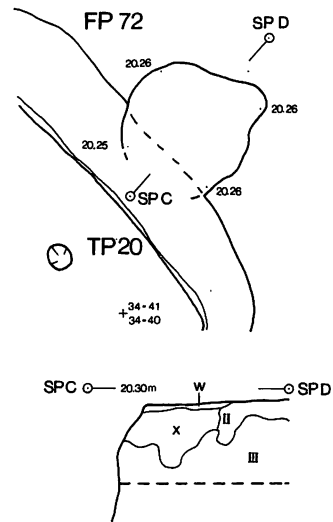
FP74



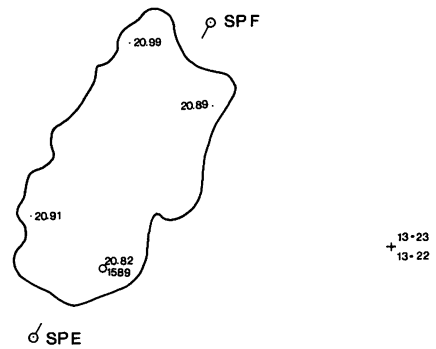
FP75



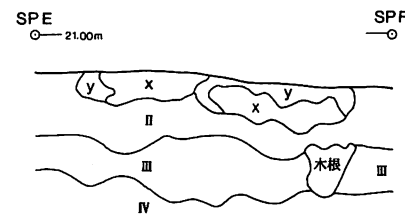
20.99  
20.98



FP73



13-23  
13-22



焼土層注記  
W: 赤褐色を呈し、非常に良く焼けて締まっている。  
X: 橙褐色ないし赤褐色を呈し、良く焼けて締まっている。  
Y: 暗赤褐色を呈し、焼けが弱く締まっていない。  
Z: 暗赤褐色を呈し、炭化材・炭化物を含む。

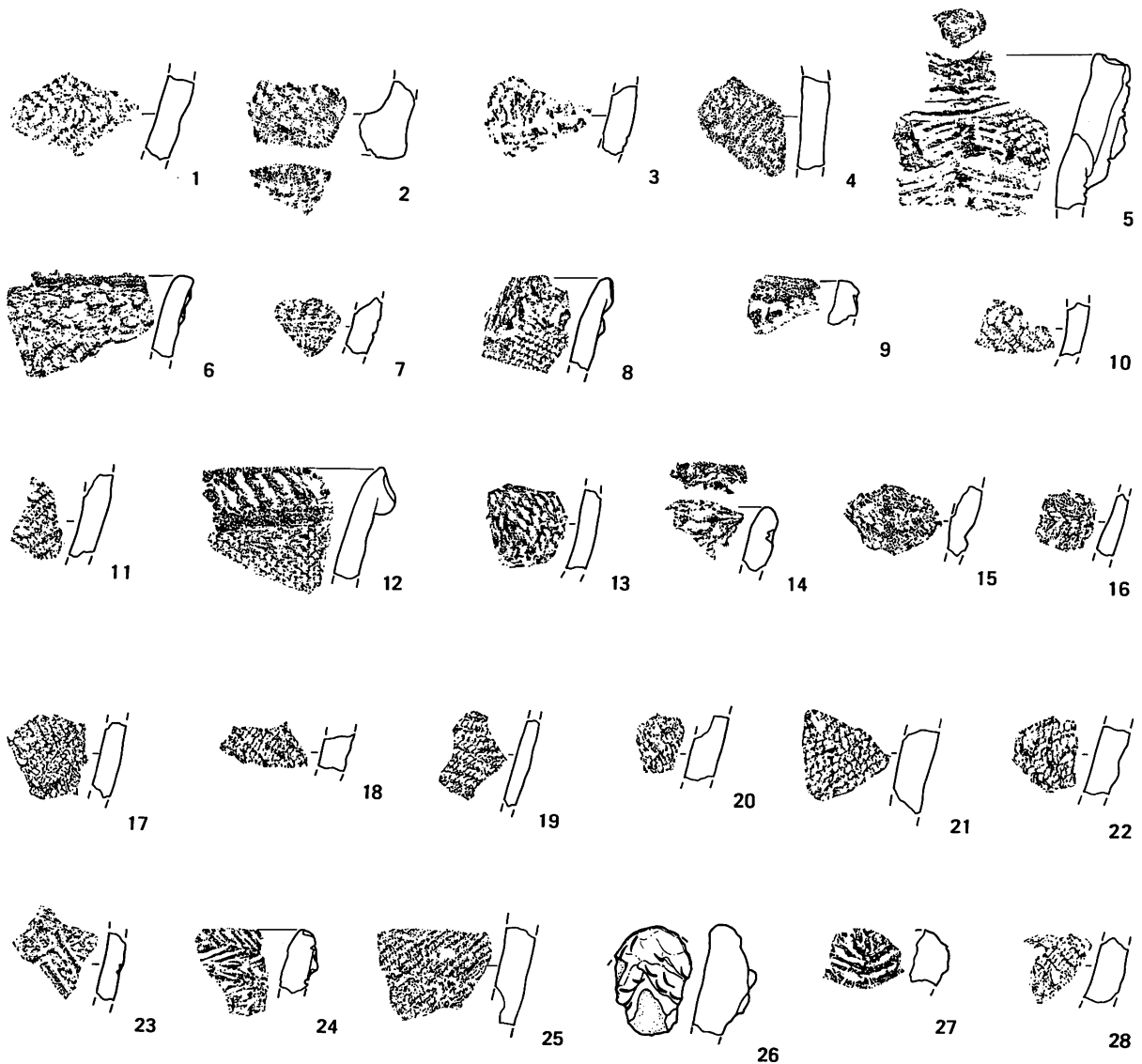
土層注記  
1: 黒色土 (II+III)  
2: 黒褐色土 (II>IV)  
3: 暗褐色土 (III>IV)

図V-2-66 焼土平面及び断面 (9)

焼土出土の土器 (図V-2-67)

24ヵ所から94点の縄文中期の土器片が出土している。出土点数はFP 38が最も多く、a～dとgから焼土関連Ⅱ層を含め62点出土している。dからは試し焼き粘土と思われる細片が5点出土している。

図番3・5・7～9・12・14・23・24には半截竹管状工具による施文が施されている。1・4は胎土に砂粒を含む。2は底面に縄文が認められる。3・7は摩耗しているが沈線が認められる。5は突起と口縁肥厚帯、口縁下の三角突起に沈線が施されている。突起頂部は指頭を押捺により凹んでいる。三角突起より垂下する貼付が認められる。6はFP 42関連Ⅱ層のもので、口縁の粘土紐が爪により刻まれている。8は口縁の貼付に施文が認められる。9は口縁肥厚帯に刺突が施されている。10は胎土が良く内面は平滑である。12は口縁肥厚帯に刻みが施されている。地文は複節である。14は口縁に刺突がある。15・16はFP 62関連Ⅱ層のものである。縄端圧痕がみられる。21の地文は複節。22～24・28の内面は平滑である。23には交差する沈線、24には矢羽状の刻みがみられる。26はFP 70関連Ⅱ層のもので、貼付された粘土紐が爪で刻まれている。27は胴部の三角状突起で沈線が施されている。



図V-2-67 焼土出土の土器

表V-2-89 FP出土土器一覧

焼土番号	円筒上層	萩ヶ岡1	萩ヶ岡2	天神山	合計
21			1		1
30			1		1
31			1		1
32			5	2	7
34			3		3
36			2		2
38a			6		6
38b		1	1		2
38d	3		4		7
39			1		1
42			2	1	3
43			1		1
45			2		2
46			11	3	14
49			1		1
50			3		3
51			2		2
60			6		6
63			4		4
65			3		3
66			1		1
67			2		2
68			6		6
69			11		11
73				1	1
74			3		3
合計	3	1	83	7	94

表V-2-90 FP-9関連II層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・8-03	胴部	3	萩ヶ岡2	558	横, 5cm下
—	3・8-13	胴部	6	萩ヶ岡2	557	5cm下, 細片

表V-2-91 FP-21焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
1	3・5-34	胴部	1	萩ヶ岡2	631	結束羽状

表V-2-92 FP-26関連II層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・7-29	胴部	2	萩ヶ岡2	486	横, 9cm上

表V-2-93 FP-21関連II層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・5-23	胴部	1	萩ヶ岡2	651	横, 3cm下

表V-2-94 FP-30焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
2	2・5-28	底部	1	萩ヶ岡2	620	底に縄文, 摩耗

表V-2-95 FP-31焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-16	胴部	1	萩ヶ岡2	630	細片, 胎土に砂

表V-2-96 FP-32焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
3	1・6-64	胴部	2	天神山	645	半截竹管の沈線

表V-2-97 FP-32焼土上出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-57	胴部	3	萩ヶ岡2	629	細片, 胎土に砂
—	1・6-44	胴部	1	萩ヶ岡2	568	細片, 胎土に砂
—	1・6-46	胴部	1	萩ヶ岡2	1802	FC集中の土中

表V-2-98 FP-32関連II層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-54	胴部	1	天神山	731	横, 同高

表V-2-99 FP-34焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-02	胴部	3	萩ヶ岡2	1801	FC集中の土中

表V-2-100 FP-34関連II層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-02	底部	1	萩ヶ岡2	562	5cm下, 底水平

表V-2-101 FP-36焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-35	胴部	1	萩ヶ岡2	652	摩耗, 胎土に砂

表V-2-102 FP-36焼土上出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・6-36	胴部	1	萩ヶ岡2	1803	FC集中の土中

表V-2-103 FP-38a焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-67	胴部	1	萩ヶ岡2?	729	細片, 剥離
—	1・5-77	胴部	1	萩ヶ岡2?	732	細片, 剥離
—	1・5-77	胴部	1	萩ヶ岡2?	722	細片, 胎土に砂
—	1・5-77	胴部	2	萩ヶ岡2?	724	剥離, 胎土に砂
—	1・5-87	胴部	1	萩ヶ岡2?	725	細片, 剥離

表V-2-104 FP-38a関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-67	胴部	1	萩ヶ岡2	582	横, 同高, 結束
—	1・5-67	胴部	1	天神山	585	横, 1cm上
—	1・5-67	胴部	1	萩ヶ岡1	586	横, 同高, 縄
—	1・5-68	胴部	2	萩ヶ岡2?	581	横, 2cm上
—	1・5-77	胴部	1	萩ヶ岡2	538	横, 同高, 摩耗
—	1・5-77	胴部	1	萩ヶ岡2?	723	1cm下, 細片
—	1・5-78	胴部	1	萩ヶ岡2?	727	横, 同高, 剥離

表V-2-105 FP-36b焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-59	胴部	1	萩ヶ岡2?	734	細片, 剥離
—	1・5-69	胴部	1	萩ヶ岡1?	682	RL, 胎土に砂

表V-2-106 FP-36b関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-59	胴部	1	萩ヶ岡2?	678	横, 同高
—	1・5-59	胴部	1	中茶路	677	横, 2cm上
—	1・5-59	胴部	1	萩ヶ岡2?	680	横, 1cm上
—	1・5-59	胴部	1	萩ヶ岡2	737	1cm下, 細片
—	1・5-69	胴部	1	萩ヶ岡2?	681	横, 同高, 剥離

表V-2-107 FP-38c関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-58	同部	1	中茶路	672	横, 同高
—	1・5-58	同部	1	萩ヶ岡2?	676	横, 同高, 細片
—	1・5-58	同部	1	萩ヶ岡2?	673	横, 同高, 細片
—	1・5-58	同部	1	中茶路	736	1cm下, 細片
—	1・5-59	突起	1	萩ヶ岡2	675	横, 同高
—	1・5-67	同部	1	中茶路	542	横, 10cm下
—	1・5-67	同部	1	萩ヶ岡2	541	横, 同高, LR
—	1・5-67	同部	1	萩ヶ岡2	540	横, 同高, 摩耗
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2?	718	2cm下, 摩耗
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2?	529	横, 2cm上

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2?	686	横, 同高, 細片
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2	577	横, 同高, 剥離
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2	539	横, 同高, 剥離
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2?	579	横, 同高, 剥離
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2?	719	横, 同高, 剥離
—	1・5-68	同部	1	天神山	580	横, 同高, 複節
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2?	687	横, 同高, 摩耗
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2	684	横, 同高, 貼付
—	1・5-68	同部	1	萩ヶ岡2?	685	横, 3cm下

表V-2-108 FP-38d焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-45	胴部	1	萩ヶ岡2?	592	細片, 剥離
—	1・5-46	胴部	3	円筒上層?	590	剥離, 内面平滑
—	1・5-46	胴部	1	萩ヶ岡2?	707	細片, 剥離
—	1・5-46	胴部	1	萩ヶ岡2?	705	細片, 剥離
—	1・5-46	胴部	1	萩ヶ岡2?	704	細片, 剥離

表V-2-109 FP-38d関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-35	胴部	1	萩ヶ岡2?	712	2cm下, 細片
—	1・5-45	胴部	1	萩ヶ岡2?	711	2cm下, 細片
—	1・5-45	胴部	1	萩ヶ岡2?	710	2cm下, 細片
—	1・5-46	胴部	1	萩ヶ岡2	709	3cm下, 細片
—	1・5-46	胴部	1	萩ヶ岡2	706	2cm下, 結束
—	1・5-46	胴部	1	萩ヶ岡2	708	2cm横, 同高
—	1・5-46	胴部	1	天神山	537	2cm下, 複節
—	1・5-46	胴部	1	萩ヶ岡2	591	横, 同高
—	1・5-48	胴部	1	萩ヶ岡2	674	横, 同高
—	1・5-56	胴部	1	東鋤路Ⅲ	584	横, 同高
—	1・5-57	口縁	1	萩ヶ岡1	583	横, 同高
—	1・5-57	胴部	1	中茶路	726	横, 6cm下
—	1・5-57	胴部	5	試験粘土?	714	横, 10cm下
—	1・5-66	胴部	1	萩ヶ岡2	730	横, 3cm下

表V-2-110 FP-38g関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・5-36	胴部	1	天神山	589	2cm下, 複節

表V-2-111 FP-39焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・6-00	胴部	1	萩ヶ岡2	744	細片, 胎土に砂

表V-2-112 FP-42焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
4	4・3-00	胴部	1	萩ヶ岡2	768	結束羽状, 摩耗
—	4・3-10	胴部	1	萩ヶ岡2	767	細片, 剥離

表V-2-113 FP-42焼土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
5	4・3-11	突起	1	天神山	769	半截竹管の施文

表V-2-114 FP-42関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
6	4・3-11	口縁	1	萩ヶ岡1	754	6cm上
—	4・3-11	口縁	1	柏木川	753	7cm上

表V-2-115 FP-43焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・1-27	胴部	2	萩ヶ岡2	1792	フロテ

表V-2-116 FP-45焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
7	3・2-75	胴部	1	萩ヶ岡2	821	半截竹管の沈線

表V-2-117 FP-45焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・2-75	胴部	1	萩ヶ岡2	938	摩耗, 胎土に砂

表V-2-118 FP-46焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
8	3・2-56	胴部	1	萩ヶ岡2	823	半截竹管の施文

表V-2-119 FP-46焼土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・2-56	胴部	1	萩ヶ岡2	830	剥離, 細片
—	3・2-56	胴部	1	萩ヶ岡2	826	剥離, 細片
—	3・2-56	胴部	1	天神山	825	細片, 摩耗
—	3・2-56	胴部	1	天神山	824	細片, 摩耗
9	3・2-57	口縁	1	天神山	831	半截竹管の刺突
10	3・2-57	胴部	1	萩ヶ岡2	829	結束羽状
—	3・2-57	胴部	4	萩ヶ岡2	828	細片, 胎土に砂
—	3・2-57	胴部	2	萩ヶ岡2	827	RL, 剥離
—	3・2-57	胴部	1	萩ヶ岡2	822	摩耗, 細片

表V-2-120 FP-49焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・4-93	胴部	1	萩ヶ岡2	967	摩耗, 細片

表V-2-121 FP-50焼土中出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
11	3・3-57	胴部	1	萩ヶ岡2	1006	胎土に砂, LR
—	3・3-57	胴部	1	萩ヶ岡2	1004	摩耗, 胎土に砂
—	3・3-57	胴部	1	萩ヶ岡2	988	細片, 胎土に砂

表V-2-122 FP-51焼土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・2-38	胴部	1	萩ヶ岡2	968	剥離, 細片
—	4・2-38	胴部	1	萩ヶ岡2	970	剥離, 細片

表V-2-123 FP-51関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	4・2-38	胴部	1	萩ヶ岡2	969	横, 同高, 細片

表V-2-124 FP-52関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・4-63	胴部	1	萩ヶ岡2	1025	6cm下, RL
—	2・4-63	胴部	3	萩ヶ岡2	1024	5cm下, LR

表V-2-125 FP-59関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	0・4-28	胴部	1	萩ヶ岡2	1106	細片, 剥離
—	0・4-28	胴部	1	萩ヶ岡2	1107	細片, 剥離

表V-2-126 FP-60焼土上出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・4-20	胴部	3	萩ヶ岡2	1127	剥離, 細片
12	2・4-20	口縁	3	天神山	1124	口縁肥厚に刻み

表V-2-127 FP-60関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
13	2・4-20	胴部	1	萩ヶ岡2	1125	横, 同高, 摩耗
14	2・4-20	口縁	1	萩ヶ岡2	1126	横, 同高, 竹

表V-2-128 FP-62関連Ⅱ層出土土器一覽

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
15	3・2-34	胴部	1	東郷路Ⅲ	1132	横, 同高
—	3・2-34	底部	1	東郷路Ⅲ	1164	横, 同高
16	3・2-34	胴部	1	東郷路Ⅲ	1131	横, 同高
—	3・2-34	胴部	1	東郷路Ⅲ	1133	横, 同高, 摩耗



表V-2-129 FP-63焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
17	0・3-38	胴部	1	萩ヶ岡2	1210	結束羽状縄文
—	0・3-38	胴部	1	萩ヶ岡2	1209	摩耗, LR?
18	0・3-48	胴部	1	萩ヶ岡2	1208	細片, RL
—	0・3-48	胴部	1	萩ヶ岡2	1207	細片, 剥離

表V-2-130 FP-64関連Ⅱ層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1448	横, 7cm上
19	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1447	横, 6cm上
—	3・3-11	胴部	1	萩ヶ岡2	1449	横, 6cm上

表V-2-131 FP-65焼土上出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
20	3・3-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1341	細片, LR
—	3・3-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1342	細片, RL
—	3・3-12	胴部	1	萩ヶ岡2	1343	細片, 摩耗

表V-2-132 FP-66焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-93	胴部	1	萩ヶ岡2	1272	細片, 剥離

表V-2-133 FP-66関連Ⅱ層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
21	2・3-93	胴部	1	天神山	1273	横, 同高, 複節
—	3・3-03	胴部	3	天神山	1276	横, 同高, 接合
—	3・3-03	胴部	1	萩ヶ岡2	1275	横, 同高, LR
—	3・3-03	口縁	1	天神山	1278	横, 同高, 複節
—	3・3-03	胴部	1	萩ヶ岡2	1274	横, 同高, LR
—	3・3-03	胴部	1	萩ヶ岡2	1277	横, 同高, 剥離

表V-2-134 FP-67焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-94	胴部	1	萩ヶ岡2	1179	細片, LR
22	2・3-94	胴部	1	萩ヶ岡2	1271	結束羽状, 砂

表V-2-135 FP-68焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-76	胴部	1	萩ヶ岡2	1452	細片, 剥離

表V-2-136 FP-68焼土上出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-76	胴部	1	萩ヶ岡2	1365	細片, 剥離
—	2・3-76	胴部	2	萩ヶ岡2	1473	細片, 剥離
—	2・3-76	胴部	1	萩ヶ岡2	1471	細片, 剥離
—	2・3-76	胴部	1	萩ヶ岡2	1472	細片, 剥離

表V-2-137 FP-68関連Ⅱ層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-76	胴部	1	手稲	1476	横, 同高

表V-2-138 FP-69焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
23	2・3-68	胴部	1	萩ヶ岡2	1355	半截竹管の沈線
—	2・3-68	胴部	1	萩ヶ岡2	1363	細片, 剥離
—	2・3-68	胴部	1	萩ヶ岡2	1353	剥離, 内面平滑
—	2・3-68	口縁	1	萩ヶ岡2	1357	細片, 剥離

表V-2-139 FP-69焼土上出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	2・3-67	胴部	1	萩ヶ岡2	1318	横, 1cm上
—	2・3-68	口縁	1	萩ヶ岡2	1322	横, 同高, 竹
—	2・3-68	胴部	2	萩ヶ岡2	1352	細片, 剥離
—	2・3-68	胴部	1	萩ヶ岡2	1364	細片, 剥離
24	2・3-68	口縁	1	萩ヶ岡2	1317	矢羽根の刻み
25	2・3-68	胴部	1	萩ヶ岡2	1316	摩耗, 胎土に砂

表V-2-140 FP-70関連Ⅱ層出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
26	0・4-66	突起	1	萩ヶ岡1	556	横, 5cm上

表V-2-141 FP-73焼土中出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
27	1・3-12	突起	1	天神山	1589	横, 同高

表V-2-142 FP-74焼土上出土土器一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
—	1・3-25	胴部	1	萩ヶ岡2	1519	細片, LR
28	1・3-25	胴部	1	萩ヶ岡2	1520	RL, 内面平滑
—	1・3-26	胴部	1	萩ヶ岡2	1521	RL, 内面平滑

表V-2-143 焼土出土石器等一覧 (1)

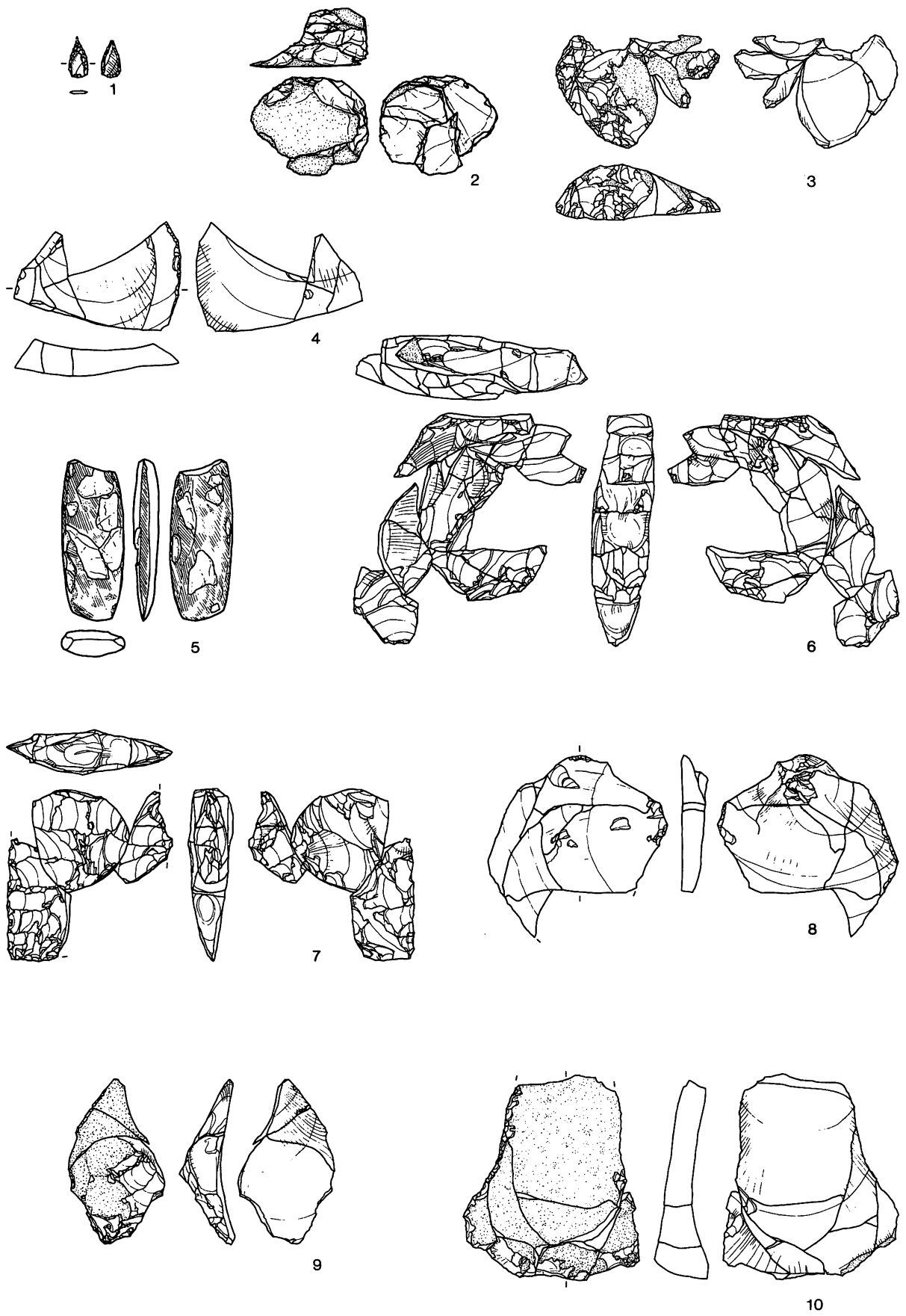
No.	グリッド	層位	長(㎜)	幅(㎜)	厚(㎜)	重(g)	石質	分類	隣No	備考
2	0-10-46	焼土上面	-	-	-	2.9	黒曜石	B・F	89	
21	3-5-33	焼土中	-	-	-	1.5	黒曜石	B・F	264	
32	1-6-37	焼土上面	-	-	-	1.9	黒曜石	B・F	643	22点あり
	43	焼土上面	-	-	-	0.3	黒曜石	B・F	228	229を含む、2点あり
	45	焼土上面	-	-	-	3.7	黒曜石	B・F	643	15点あり
	46	焼土上面	-	-	-	69.1	黒曜石	B・F	643	724点あり
	47	焼土上面	12.3	6.3	0.7	0.1	黒曜石	石鏃	1 979	周囲に両側から浅い剥離、習作か
	47	焼土上面	15.2	14.6	2.6	0.8	黒曜石	R・F	980	背面加工の基部片、焼けている
	47	焼土上面	-	-	-	20.4	黒曜石	B・F	643	312点あり
	48	焼土上面	-	-	-	0.3	黒曜石	B・F	643	5点あり
	53	焼土中	46.4	37.0	33.9	60.0	凝灰岩	垂円礫	495	
	53	焼土上面	-	-	-	0.4	黒曜石	B・F	256	
	56	焼土上面	-	-	-	0.2	黒曜石	B・F	250	3点あり
	56	焼土下面	-	-	-	0.3	黒曜石	B・F	614	
	57	焼土上面	-	-	-	1.8	黒曜石	B・F	234	253~255・600・601・608・610を含む、15点あり
	65	焼土上面	-	-	-	+	黒曜石	B・F	249	
	66	焼土上面	-	-	-	4.8	黒曜石	B・F	205	235・251・252・602・603・609 615・616・618を含む、30点あり
67	焼土上面	-	-	-	0.3	黒曜石	B・F	203	204・617を含む、3点あり	
34	1-6-03	焼土上面	24.2	19.4	3.6	1.3	黒緑色泥岩	石斧	418	破片
	03	焼土上面	26.7	22.7	3.2	2.0	黒緑色泥岩	石斧	419	破片
	13	焼土上面	37.6	27.2	3.0	3.2	黒緑色泥岩	石斧	341	破片
	14	焼土上面	27.6	20.4	3.2	2.3	黒緑色泥岩	石斧	350	破片
	15	焼土上面	13.8	9.0	0.7	0.2	黒緑色泥岩	石斧	427	破片
	23	焼土上面	22.0	18.6	2.4	1.4	黒緑色泥岩	石斧	333	背面片
	32	焼土上面	37.4	30.4	4.6	5.4	黒緑色泥岩	石斧	348	背面片、349・335(16-32・34)と接合
36	1-6-25	焼土上面	52.1	62.4	30.5	54.4	緑色珪質岩	石斧	2 376	破片、336・347・339(17-35・60・62 II層)と接合
	25	焼土上面	71.8	41.3	4.9	13.3	青黒色泥岩	石斧	467	破片、468・377・450(16-25、焼土)、 351・375(16-04・14、II層)、525(16-04、III層)と接合

焼土出土の石器 (図V-2-68・69)

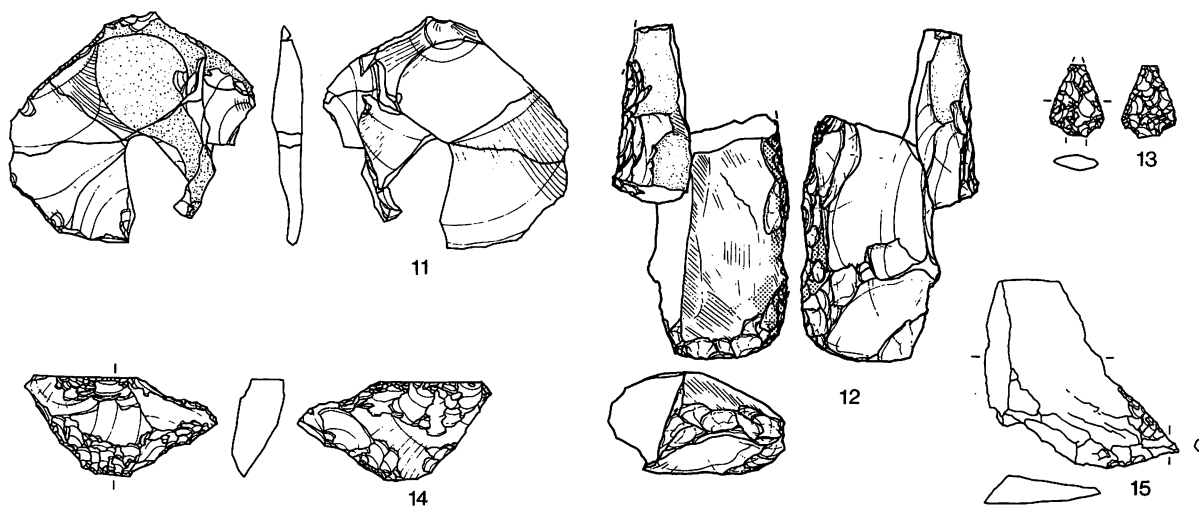
石器類の出土した焼土は14ヵ所ある。その大半は当然ながら焼けた剥片(B・F)類で、殊にFP 32周辺が際立って多く、その数は1,134点に上る。この他FP 32からは石鏃、R・F、垂円礫が各1点出土している。図番1は薄い剥片の周囲に浅い剥離を加えたもので、極めて小さく習作的な石鏃である。FP 34からは、全て同一母岩(黒緑色泥岩)の石斧片ばかりが出土しており、周辺との接合関係もみられる。FP 36からは図番2~5に示した石器類をはじめ、石斧片、焼けたR・F、B・Fなどが出土している。2は緑色珪質岩の礫皮片接合資料で、全て同一方向からの加撃で剥離されており、焼土北側の包含層との密接な接合関係がある。3は加熱により弾けた(以下「焼け弾け」)破片類の接合資料で、元は礫皮片を素材としたラウンド・スクレイパーであったことが判る。4は一側縁に刃部をもつU・Fで、やはり焼け弾けによって割れている。5は両刃の磨製石斧で基部を欠く、裏面右側が赤化しているが、焼けたものか否かは判然としない。6~12はFP 38から出土した石器類である。6~11はいずれも焼け弾けの接合資料で、6は大型の剥片、7は両面加工の大型削器、8は剥片、9~11はそれぞれ礫皮片を素材とした搔器、R・F、U・Fである。12は打製石斧で、やはり焼け弾けの可能性が強い。なお、付着している黒色有機物(図のスクリーン・トーン部分)をみると、後から加えられた打撃により剥落している個所がある。13はFP 53出土の石鏃で、先端と基部を欠く。裏面の基部側が焼けて膨れている。14はFP 60出土の楔形石器で焼けている。15はFP 65出土の縞頁岩の礫皮片を素材としたR・Fである。先端が切り出し状に調整されており石錐の可能性もある。

表V-2-144 FP出土石器等一覧 (2)

No.	グリッド	層位	長(㎜)	幅(㎜)	厚(㎜)	重(g)	石質	分類	種No	備考	
36	1・6-25	焼土面	59.4	27.2	5.9	6.4	靑色泥岩	石斧	378	破片、411(16-25、焼土)、363・334(16-06・33、Ⅱ層)と接合	
		25 焼土面	17.9	11.7	2.3	0.5	靑色泥岩	石斧	410	破片	
		25 焼土面	15.0	25.0	2.0	1.2	靑色泥岩	石斧	416	背割片	
		25 焼土面	38.5	26.7	7.3	9.3	靑色泥岩	石斧	496	刃部一面欠損、332(16-36、Ⅱ層)と接合	
		25 焼土面	10.6	10.5	2.9	0.4	安山岩	礫	497	破片、焼けている	
		25 焼土面	43.4	57.6	18.1	28.8	黒曜石	搔器	3 266	ラウンド・スライパー、焼け剥け、224(16-26焼土)、187・155(16-34・35、Ⅱ層)と接合	
		25 焼土面	—	—	—	0.1	黒曜石	B・F	267		
		35 焼土面	61.3	36.7	9.8	16.9	黒曜石	U・F	4 227	焼け剥け、265(16-25、焼土)と接合 —(16-45・46、Ⅱ層)と接合	
		35 焼土面	84.8	32.3	13.4	55.6	靑色泥岩	石斧	5 485	両刃、基部欠損	
		35 焼土面	30.5	20.6	3.7	1.8	黒曜石	B・F	593	605(16-36、焼土下)と接合	
		35 焼土面	—	—	—	+	黒曜石	B・F	595		
		35 焼土下面	—	—	—	0.1	黒曜石	B・F	268	269を含む、2点あり	
		36 焼土面	—	—	—	+	黒曜石	B・F	594		
		36 焼土面	26.0	13.1	4.0	1.0	頁岩	R・F	604	背面加工の側割片、焼けている	
36 焼土下面	—	—	—	+	黒曜石	B・F	606				
38	1・5-38	焼土面	99.1	66.2	19.7	79.8	黒曜石	B・F	6 213	焼け剥け、211・212・214(15-48・57、焼土)、233・—(07-25、15-46・47・48、16-20、23-01、Ⅱ層)と接合	
		46 焼土面	30.2	25.8	11.1	5.8	安山岩	方割礫	434	焼け剥け、435・452(15-46、焼土上)と接合	
		48 焼土面	78.6	50.9	12.8	36.2	黒曜石	削器	7 146	焼け剥け、両面加工の先端部片、240・310(15-48、焼土)、156(26-03、Ⅱ層)と接合	
		48 焼土面	66.8	65.5	8.9	22.6	黒曜石	B・F	8 239	焼け剥け、309・215・236・301・302(15-48・58・59、焼土)と接合	
		58 焼土面	31.0	11.0	3.0	0.8	黒色泥岩	石斧	433	背割片	
		58 焼土面	58.6	33.1	14.0	19.6	黒曜石	搔器	9 210	破片、焼け剥け、303(15-59、焼土上)と接合	
		58 焼土面	73.4	64.5	12.1	55.9	黒曜石	R・F	10 237	破片、焼け剥け、300・304・305・238・314(15-59・67・69、焼土)と接合	
		58 焼土面	61.4	59.9	10.5	23.2	黒曜石	U・F	11 308	破片、焼け剥け、500・574・306・307・—(15-58・59・69、焼土)と接合	
		58 焼土面	35.5	33.4	11.4	14.8	黒曜石	B・F	575	573(15-59、焼土)と接合	
		58 焼土面	—	—	—	+	黒曜石	B・F	311		
		59 焼土面	133.5	67.2	27.6	331.5	靑色泥岩	石斧	12 490	黒色有機物附着、802(14-02、Ⅱ層)と接合	
		59 焼土面	—	—	—	0.3	黒曜石	B・F	312		
		68 焼土面	—	—	—	0.9	黒曜石	B・F	576		
		69 焼土面	—	—	—	0.1	黒曜石	B・F	313		
		89 焼土面	—	—	—	0.5	黒曜石	B・F	242	243を含む、2点あり	
		99 焼土面	—	—	—	0.1	黒曜石	B・F	241		
39	3・5-09	焼土面	—	—	—	0.2	メノウ	剥片	638		
		3・6-00	焼土面	—	—	—	0.1	黒曜石	B・F	636	
		00	焼土面	—	—	—	1.5	メノウ	剥片	637	
46	3・2-56	焼土面	—	—	—	2.1	黒曜石	B・F	678	破片	
47	3・2-83	焼土下面	33.7	27.0	10.1	8.9	靑色泥岩	石斧	892	背割片	
53	2・4-40	焼土面	—	—	—	0.4	黒曜石	B・F	716		
		41 焼土面	26.9	17.2	6.7	2.4	縞頁岩	R・F	715	背面加工の端部片、焼けている	
		42 焼土面	19.3	14.4	3.6	0.8	黒曜石	石鏃	13 724	有柄付基、先端・基部欠損、焼けている	
		42 焼土面	—	—	—	3.8	黒曜石	B・F	723		
59	0・4-27	焼土面	—	—	—	0.2	黒曜石	B・F	740		
		28 焼土面	—	—	—	1.9	メノウ	B・F	739		
60	2・4-20	焼土面	52.0	27.3	11.6	12.9	黒曜石	楔形石器	14 741	楔形、両端つぶれ、焼けている	
		20 焼土面	—	—	—	1.5	黒曜石	B・F	742	743~746・752・753・796を含む、10点	
		30 焼土面	17.4	41.8	4.6	3.8	黒曜石	R・F	754	背面加工の基部片、破片を残す	
62	3・2-33	焼土面	28.6	20.2	3.8	2.3	黒曜石	U・F	764	一側縁刃こぼれ状、破片使用、焼けている	
65	3・3-03	焼土面	—	—	—	0.3	黒曜石	B・F	777		
		10 焼土面	47.2	48.8	10.0	19.0	縞頁岩	R・F	15 778	切り出し状、両側縁背面加工、破片を残す、石鏃か	



図V-2-68 焼土出土の石器 (1)



図V-2-69 焼土出土の石器 (2)

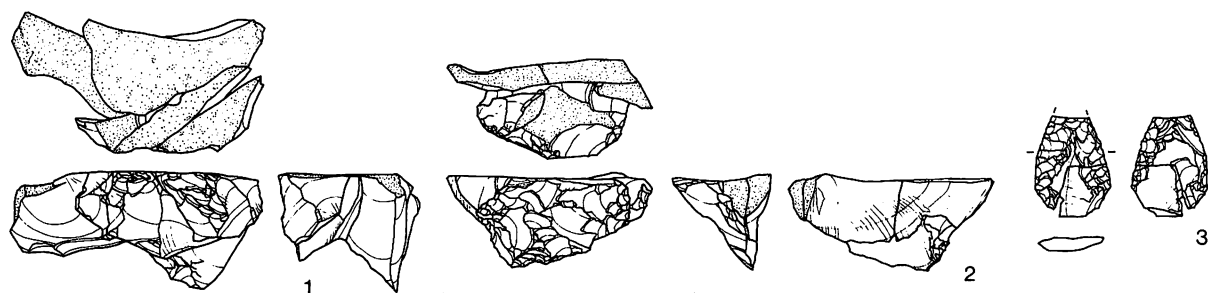
6) F・C集中 (図V-2-70)

TP 5の東側、0・8-93区と1・8-03区を中心に剥片・碎片の集中がみられた。出土遺物は黒曜石の剥片・碎片類1,629点、頁岩の剥片2点、石鏃2点があり、全て焼けている。礫石器類や土器片はその範囲内からは出土していない。1・2は焼け弾けた剥片類、3は石鏃未製破損品の接合資料である。

これらは、他の地点で焼かれ本地点に一括廃棄されたものと考えられ、FP 32周辺との関連が想定される。なお、調査時には掘り込みのある遺構は確認できなかったが、II層最下位にまで遺物がみられることから、浅い皿状の遺構があった可能性もある。

表V-2-145 F・C集中出土石器等一覧

No.	グリッド	層位	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	分類	隣接No	備考
1	0・8-83	II層	-	-	-	0.7	黒曜石	B・F	95	2点あり
	92	II層	-	-	-	0.2	黒曜石	B・F	95	2点あり
	93	II層	66.6	32.8	29.3	45.2	黒曜石	B・F	1	93 95(08-93,18-02)と接合
	93	II層	55.0	24.2	22.1	18.4	黒曜石	B・F	2	94 95(08-93)と接合、焼け弾けた
	93	II層	14.7	17.8	2.5	0.8	黒曜石	石鏃	122	基部、焼け弾けた
	93	II層	-	-	-	227.3	黒曜石	B・F	95	642点あり
	93	II層	-	-	-	0.2	頁岩	B・F	95	
	94	II層	-	-	-	4.1	黒曜石	B・F	95	8点あり
	1・8-02	II層	-	-	-	50.9	黒曜石	B・F	95	67点あり
	03	II層	25.0	20.5	3.4	1.2	黒曜石	石鏃	3	123 未製破損品、焼け弾けた、-(18-02)と接合
	03	II層	-	-	-	95.1	黒曜石	B・F	121	829点あり
	03	II層	-	-	-	1.1	頁岩	B・F	121	14点あり
	04	II層	-	-	-	2.4	黒曜石	B・F	95	16点あり
	04	II層	-	-	-	0.4	頁岩	B・F	95	
12	II層	-	-	-	0.8	黒曜石	B・F	95		
13	II層	-	-	-	11.8	黒曜石	B・F	95	36点あり	
14	II層	-	-	-	+	黒曜石	B・F	95		



図V-2-70 F・C集中出土の石器

## 7) 土墳墓 (図V-2-71・72)

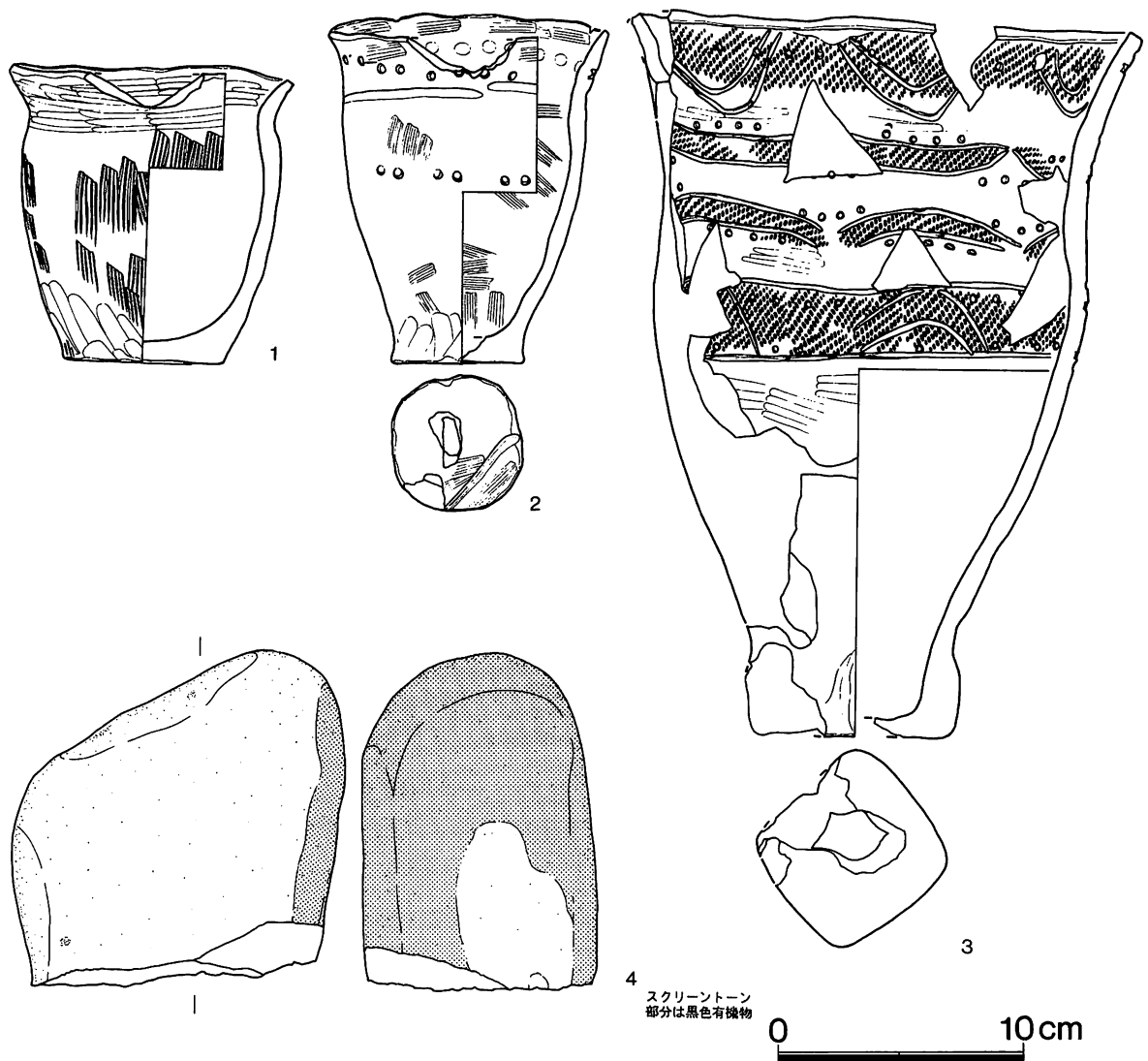
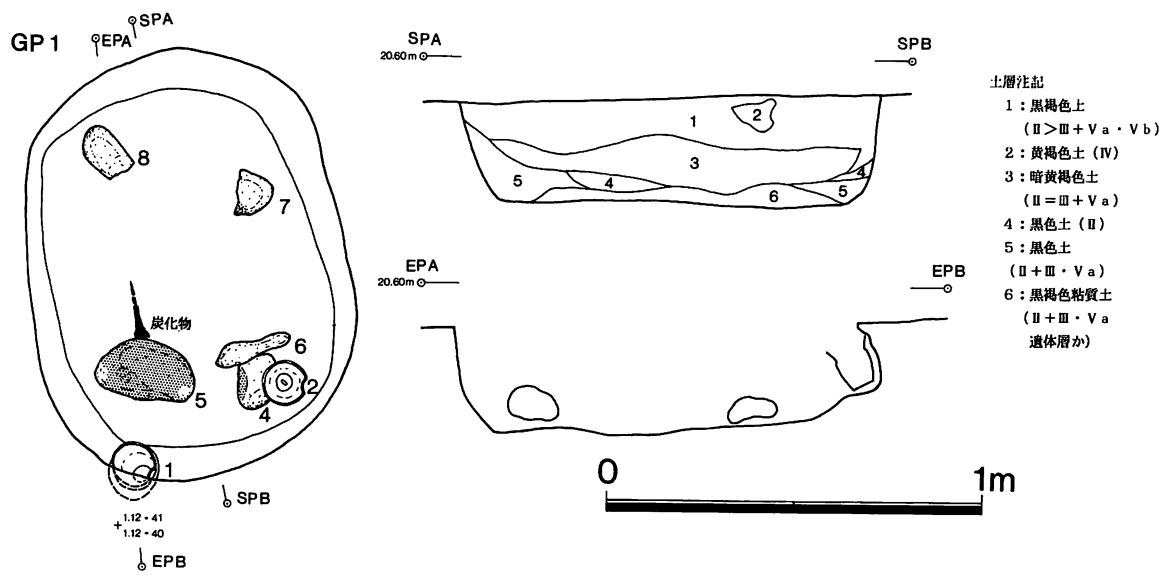
### GP 1 長さ110cm 幅85cm 深さ30cm

北大C式土器(田才 1983)を伴う土墳墓で、沢跡北側の小舌状部(1・12区)に位置している。北大期の遺構・遺物は、ユカンボシE 4・5遺跡の調査を通じ唯一の例である。

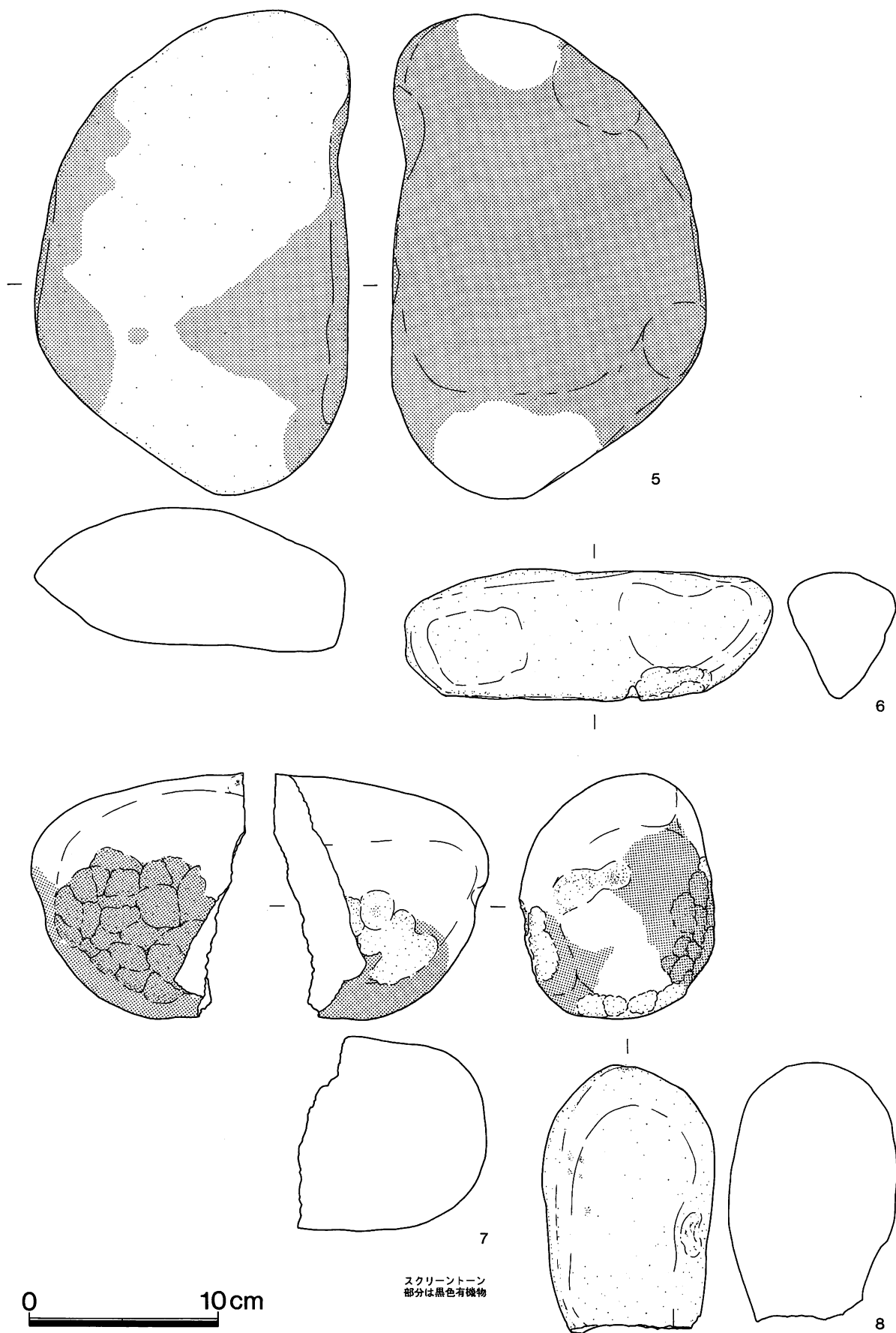
形態は隅丸長方形に近く、一隅に袋状の掘り込み(以下「袋状掘り込み」)を持つ。遺体は確認できなかったが、墳底に遺体層と思われる粘性の強い黒褐色土層がみられた。

副葬遺物のうち礫は、四隅(南東隅のみ2点)に配され、このうち3点(4・5・7)には、黒色の有機物が付着している。土器1は「袋状掘り込み」内に置かれていた小型深鉢である。幅2cm程の粘土紐を輪積みして作られており、口縁が打ち欠かされている。底部は張り出さず平底で、クマザサと思われる葉脈の圧痕がみられる。内外面、殊に内面に厚く黒色有機物が付着しており、打ち欠き部にもみられる。土器2は礫4の上に置かれていた小型深鉢で、1同様2cm程の粘土紐による輪積みで作られている。やはり内外面に黒色有機物が付着し、口縁の打ち欠き部にも及んでいる。底部は平底で、中央に細長い穿孔がある。また四囲を削り、底面を方形にみせている。文様は、口縁に円形突瘤文が一行廻らされるほか、胴部の一部に円形刺突文や爪形文がみられる。また、頸部に浅い沈線が施されている部分もある。土器3は、調査前に土地所有者によって採取されていた土器で、採取地点から本土墳墓の上部副葬品と考えられる。2同様に口縁打ち欠と底部穿孔があり、底部はほぼ正方形を呈す。文様はLRの縄文を地文とし、2本一組の浅い沈線でV字あるいは山形のモチーフを描き込んでいる。また円形刺突文が、口縁に一行廻らされるのを始め、頸部に4つ単位で4段、胴部に2段見られる。1・2と異なり、黒色有機物の付着はみられない。なお礫5の下に約20cm程の長さで先細りの炭化物が確認されているが、事故により取り上げが出来ず詳細は不明である。

さて、「袋状掘り込み」をもつ土墳墓は、千歳市ウサクマイA遺跡の調査で注目され(菊地ほか 1975)、その年代については7世紀末ないし8世紀、また副葬されている土器については「土師器と江別式末期の土器とが型式のうえで文字どおり接触融合し、第三の擦文式のプロトタイプを生み出しつつあった、ある一時期の土器群(中略)いわばあわただしい擦文式土器文化成立前夜であった」とされている。その後「袋状掘り込み」をもつ土墳墓の類例は増加し、その時期は後北A式期から擦文時代早期に、範囲は秋田県寒川Ⅱ遺跡から音別町ノトロ岬堅穴群遺跡に及ぶ(田才 1993)。これらをまとめると、土墳墓は23基(後北期9、北大C式2、天内山式11、擦文早期1)で、平面形は概ね隅丸長方形ないし楕円形を呈す。埋葬頭位の判るものは14例あり、後北期では北東が2、東寄りが3例、天内山式期では北東が1、東寄りが3、南東が4例、擦文早期では南寄り1例がある。なおウサクマイA遺跡では左下向きの横臥屈葬が多かったと報告されている。本遺跡例は、遺構の規模、礫の配置、「袋状掘り込み」の位置から南南東頭位の屈葬と考えられる。「袋状掘り込み」は、遺体頭側の壁面を掘り窪めるものが一般的であるが、墳底を掘り下げるものや壁の半ばに設けるものもある。「袋状掘り込み」内に土器が副葬されている例は15(後北期6、北大C式期2、天内山式期6、擦文早期1)で、そのうち口縁部に打ち欠きがみられるものは、本遺跡例の他に後北期で1例、天内山式期に5例、擦文早期1例である。墳底に礫を配するものは10例で、本遺跡例を除くと天内山式期が8例、擦文早期が1例で後北期にはない。礫の配置は、四隅に1つずつあるいは頭の両脇に1つずつとなっており、本遺跡例のみが5つである。なお、ウサクマイA遺跡では墳底四隅に柱穴をもつ例が報告されているが、「袋状掘り込み」と四隅に柱穴とをもつ例は今のところ他の遺跡では確認されていない。



図V-2-71 土墳墓平面及び断面・出土遺物 (1)



図V-2-72 土壌墓出土遺物 (2)



### 3. 包含層の遺物

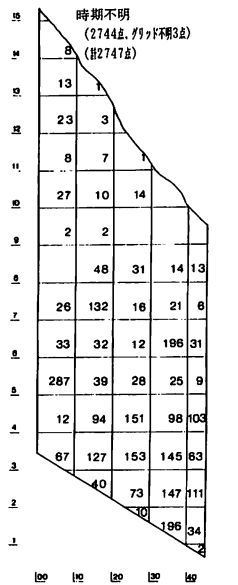
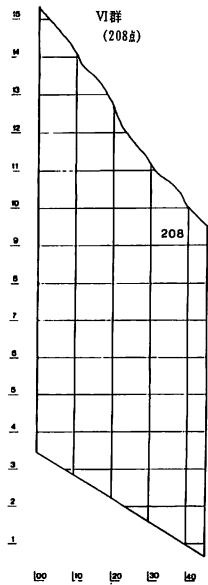
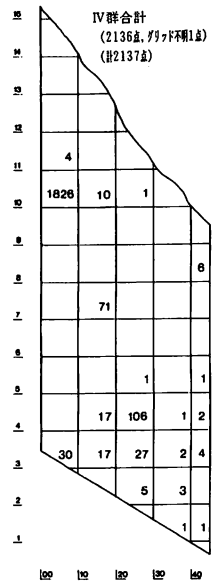
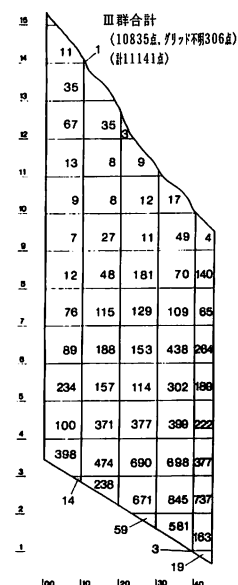
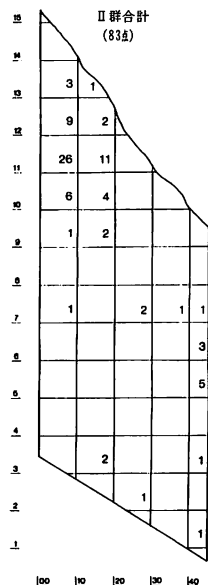
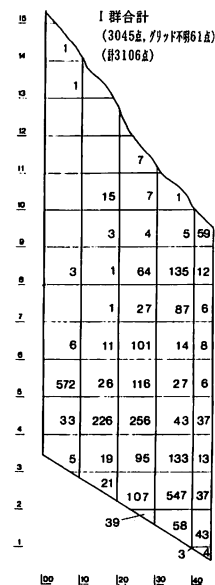
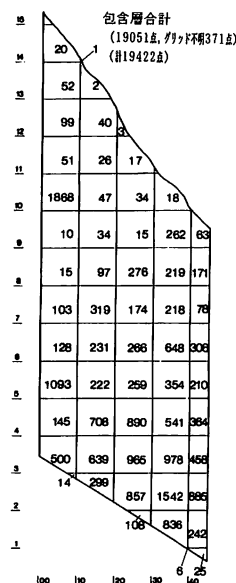
#### 1 土器・土製品

包含層からは19,422点の土器片が出土している。全体的に発掘区南側に多く出土している。点数は縄文時代中期が11,141点と最も多く、次いで早期が3,106点である。このほか前期83点、後期2,137点、続縄文時代208点である。

表V-3-1 包含層出土土器集計表

分類	グリッド出土	グリッド不明	合計
<b>I群 縄文時代早期</b>			
b1類 東銅路Ⅲ式	1643	8	1651
b2類 コツコロ式	59	1	60
b3類 中茶路式	882	22	904
早期形式不明	461	30	491
小計	3045	61	3106
<b>II群 縄文時代前期</b>			
a1類 縄文式	73		73
a2類 中野式	7		7
b類 大麻V式	3		3
小計	83		83
<b>III群 縄文時代中期</b>			
a類 円筒上層式	774	5	779
a類 萩ヶ岡1式	284	2	286
a類 萩ヶ岡2式	1574	8	1582
a類 萩ヶ岡lor2式	1274	23	1297
a類 大木8a式相当	66	3	69
b1類 天神山式	1606	26	1632
b2類 柏木川式	610	1	611
中期形式不明	4647	238	4885
小計	10835	306	11141
<b>IV群 縄文時代後期</b>			
a類 余市式	2100	1	2101
b類 手稲式	36		36
小計	2136	1	2137
<b>縄文時代時期不明</b>			
時期不明の細片等	2744	3	2747
<b>続縄文時代</b>			
c類 後北C2式	208		208
包含層出土土器合計	19051	371	19422

早期・中期の土器は発掘区の東南側に濃密に分布する。前期の土器は北西側に若干の分布をみるほかは散発的出土である。後期の土器は北西側の一部に集中するほかは南西側に分布する。続縄文時代のもは沢跡内で集中して出土したのみである。土製品は発掘区西側で出土している。



図V-3-1 包含層出土の土器分布 (1)

縄文時代早期の土器

I群 b 1 類 (1~25)

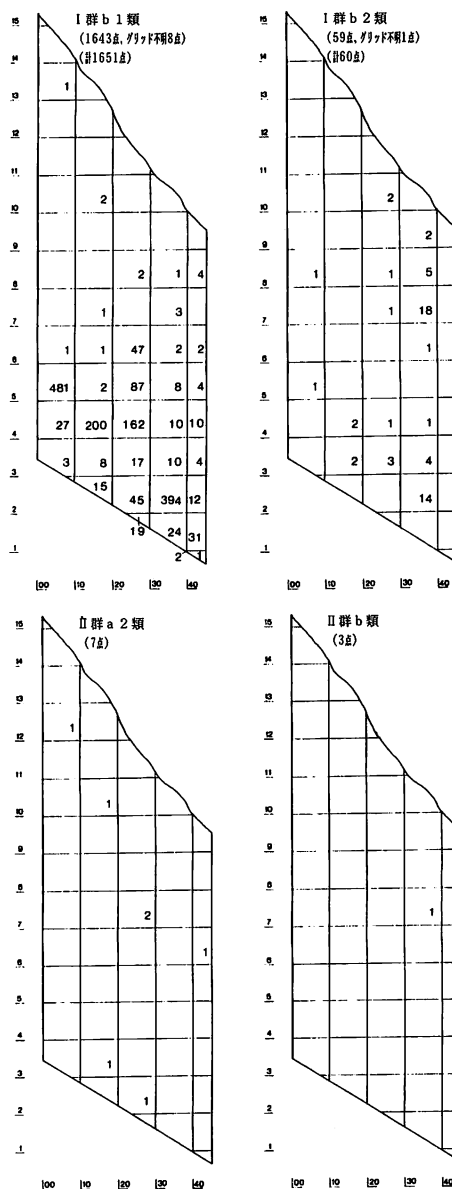
出土点数は1,651点と早期の土器では最も多く出土している。発掘区の南側を中心に出土しており、0・5区、1・4区、2・6区、3・2区に集中がみられる。底部が張出し、器面に凹凸がある。口唇は外側に張り出すものが多く、器面には短縄文・斜行縄文・縄線文・組紐圧痕文・縄端圧痕・絡条体圧痕文などが組み合わせて施文される。底部のくびれには短縄文・縄端圧痕や縄端刺突などが施されている。底面に縄文の施されたもの(22)もある。

1は上面観楕円形の深鉢形土器である。口縁と底部のくびれに短縄文が施されている。器面にはLRの縄文が入り乱れて施されているが、施文は重なり合わない。底部は楕円形を呈し、底面の縁に縄文がみられる。口径17cm、器高21.6cm、底径9.2cmをはかる。東釧路Ⅱ式あるいは東釧路Ⅲ式の古手のものである。

2~6は口縁部で口唇が平らで外側に張り出すもの(2~5・7)と丸みを帯びたもの(6)がある。前者には縄端圧痕および組紐圧痕文、後者には縄線文が施されている。8~19は胴部破片である。斜行縄文のみみられるもの(10)、組紐圧痕文のみみられるもの(11)、斜行縄文と組紐圧痕文の組み合わせ(12・13・19)、縄線文のみみられるもの(14~16)、縄線文と縄文の組み合わせ(17・18)がある。20~25は底部破片。くびれに縄端圧痕のみみられるもの(20・23)、短縄文のみみられるもの(21・22)、縄端刺突のみみられるもの(24)がある。

I群 b 2 類 (26~29)

沢跡の周辺と発掘区の南西部に散発的に60点出土する。3・2区と3・7区にわずかに集中がみられる。いずれも細片で器形のわかるものはない。26は薄手で口唇が尖る。26・27には微隆起状の貼付帯がみられる。26~29はいずれも器面に軸の角張った絡条体圧痕文が施されている。



図V-3-2 包含層出土の土器分布 (2)

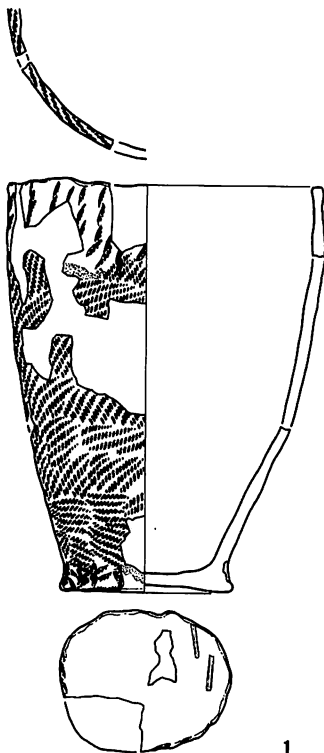
**I 群 b 3 類 (30~48)**

沢跡周辺と遺跡の南東側に904点出土している。分布範囲は概ね I 群 b 1 類と重複する。底部は張り出さず丸みを帯びる。口唇は薄みで尖りぎみ。器面に細い貼付帯を横環し、その間に撚糸文・短縄文・斜行縄文・羽状縄文・絡条体圧痕文などが施される。

30~34・37は口縁である。貼付帯の横環するもの(30・32~34)と波状の貼付のみられるもの(31・37)がある。いずれも貼付帯に施文がみられる。撚糸文のみられるもの(30)、短縄文のみられるもの(31・32・37)、羽状縄文のみられるもの(33)、間隔のあいた列点状の縄文のみられるもの(34)などがある。35・36・38~40は胴部破片である。35・36には波状の貼付帯もみられる。撚糸文のみられるもの(35)、短縄文のみられるもの(36・38・39)、短縄文と羽状縄文のみられるもの(40)がある。41~48は底部破片である。底部が丸みを帯びるもの(42・46)と、やや角ばるもの(41・43~45・47・48)がある。45・47・48は上げ底気味である。撚糸文の施されたもの(41・46)、短縄文の施されたもの(45)、短縄文と羽状縄文の施されたもの(42~44・47)、羽状縄文の施されたもの(48)がある。42・43・47は底部付近に羽状縄文、47は短縄文が施されている。

**縄文時代前期の土器**

いずれも胎土に繊維を含む。II 群 a 1 類(49~54)は発掘区の北西側を中心に73点出土している。0・11区に若干の集中がみられる。横走気味の太い縄文が施されている。II 群 a 2 類(55・56)は散発的に7点出土している。RLの太い縄文が施されている。口唇は丸みを帯びる。II 群 b 類(57・58・59)は発掘区の東側、HP 1 および P 1 の周辺から3点のみの出土である。口唇が外傾し、口唇と口縁に縄線文が施されている。胎土に砂粒を含む。

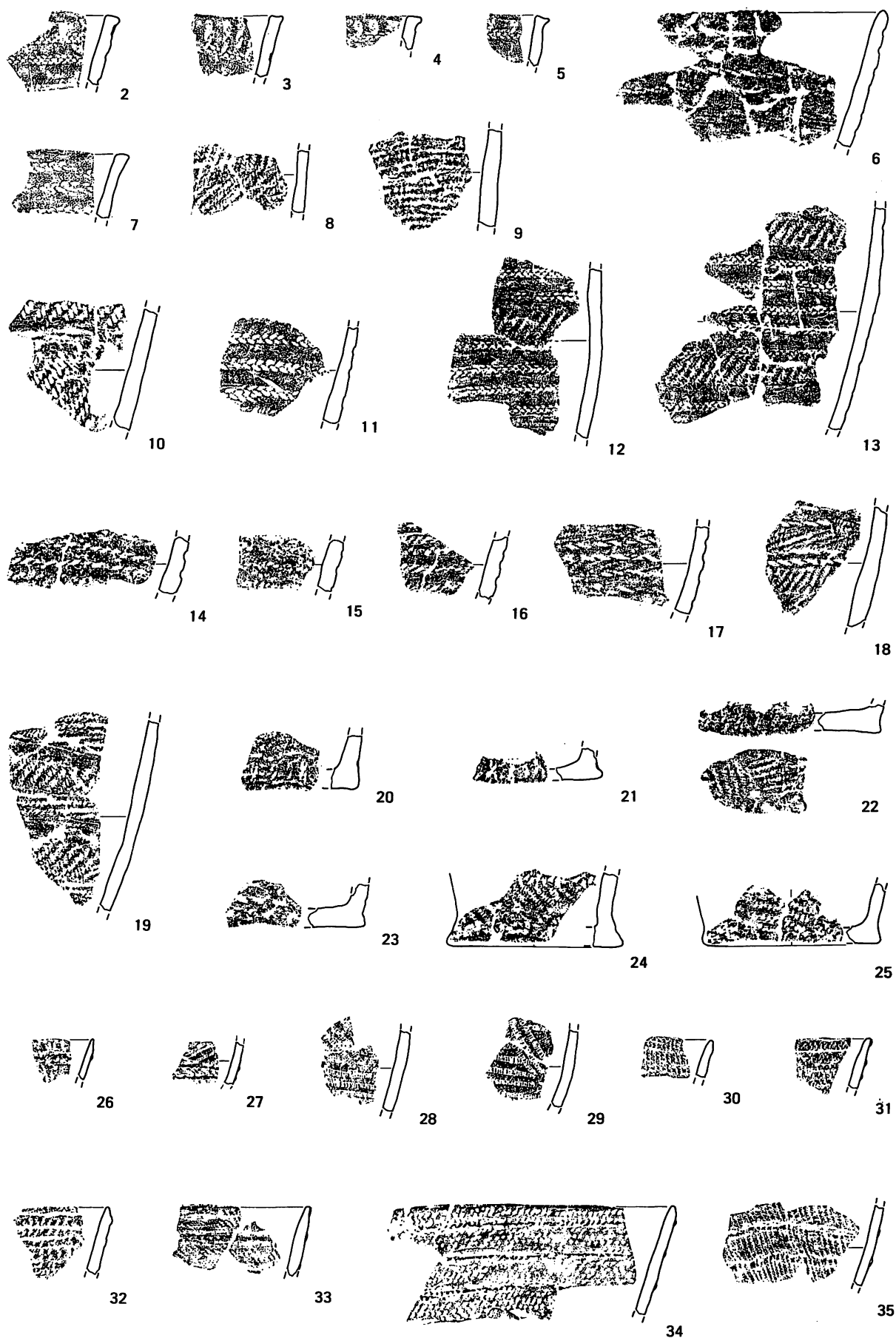


図V-3-3 包含層出土の土器 (1)

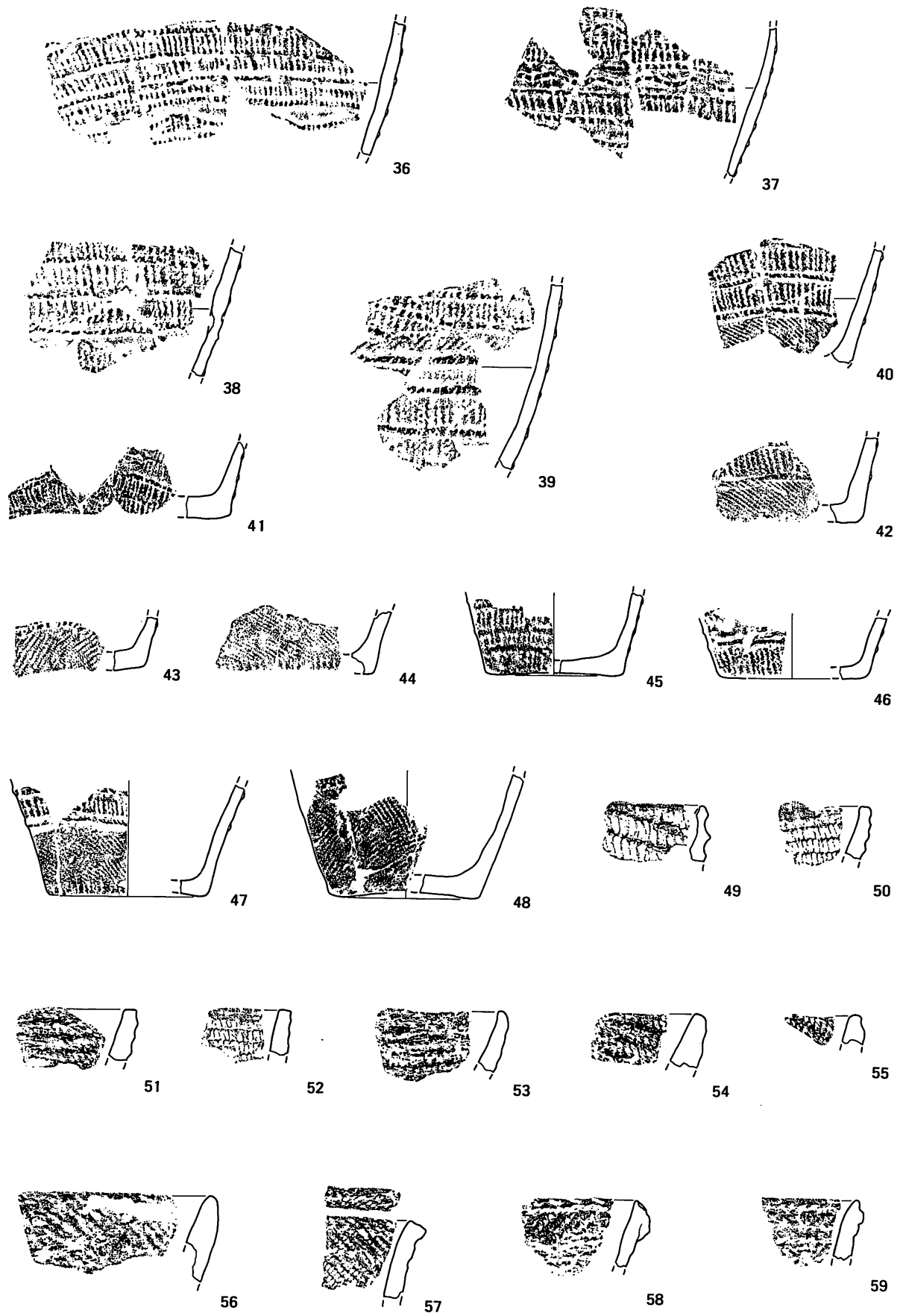
表V-3-2 包含層掲載土器一覧  
(縄文時代早期の復原土器)

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
1	0・5-83	一括	72	東銅路Ⅲ	654	東銅路Ⅲの古手 or 東銅路Ⅱ  口縁・底部の くびれに短縄文 器面に入り乱れ た縄文
	0・5-72	胴部	1	東銅路Ⅲ	1902	
	0・5-73	底部	1	東銅路Ⅲ	639	
	0・5-73	胴部	9	東銅路Ⅲ	1903	
	0・5-81	胴部	1	東銅路Ⅲ	656	
	0・5-82	胴部	2	東銅路Ⅲ	1904	
	0・5-83	口縁	1	東銅路Ⅲ	653	
	0・5-83	底部	1	東銅路Ⅲ	663	
	0・5-83	底部	1	東銅路Ⅲ	641	
	0・5-83	胴部	6	東銅路Ⅲ	1905	
	0・5-84	底部	2	東銅路Ⅲ	642	
	0・5-84	口縁	1	東銅路Ⅲ	655	
	0・5-84	口縁	1	東銅路Ⅲ	692	
	0・5-84	胴部	1	東銅路Ⅲ	1906	
	0・5-93	口縁	1	東銅路Ⅲ	695	
	0・5-93	胴部	1	東銅路Ⅲ	1907	

\*654残10点, 655残1点



図V-3-4 包含層出土の土器 (2)



図V-3-5 包含層出土の土器 (3)

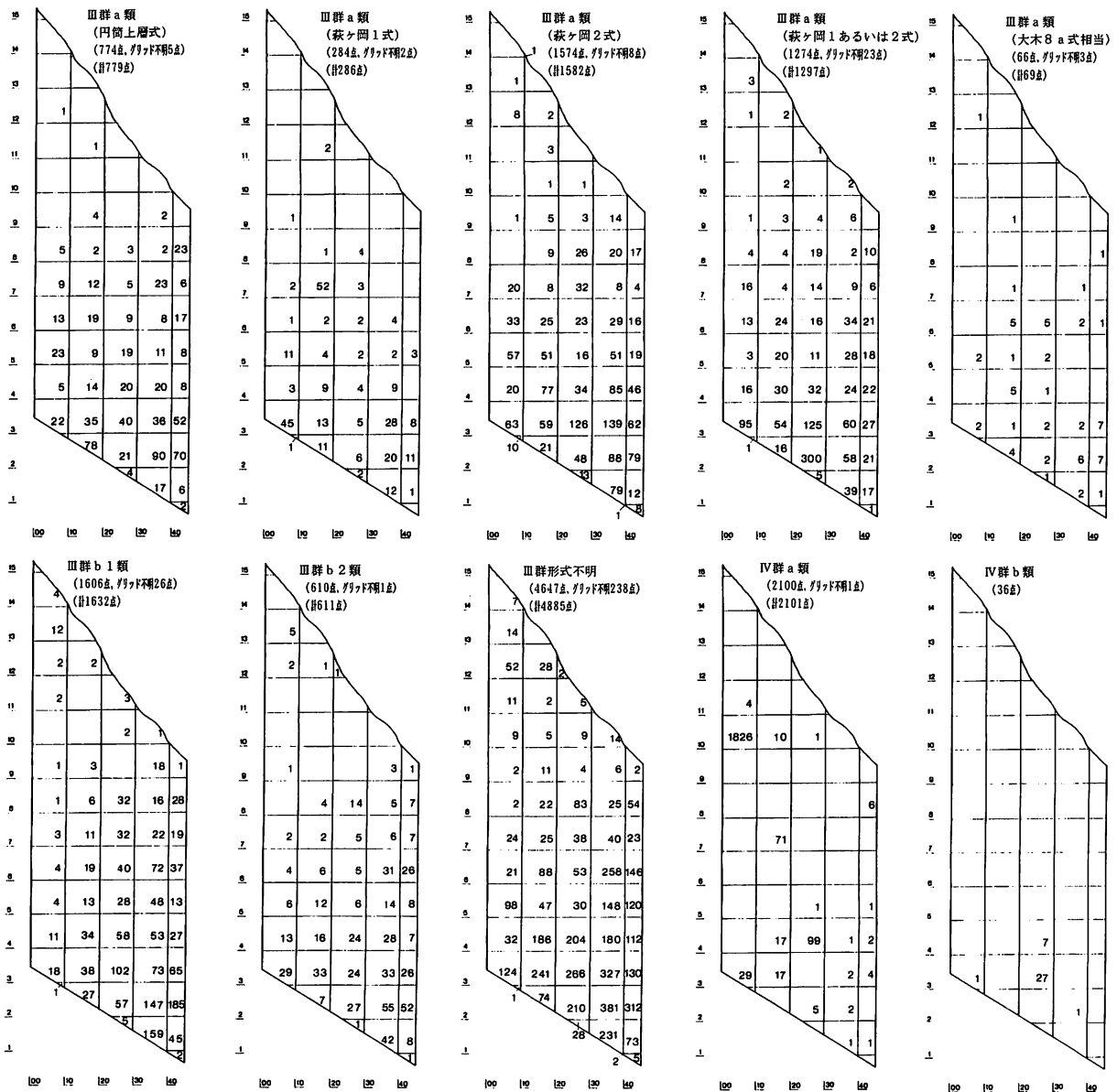
表V-3-3 包含層掲載土器一覧(縄文時代早・前期)

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
2	2・3-10	口縁	1	東銅路Ⅲ	1329	縄端圧痕
3	1・3-86	口縁	1	東銅路Ⅲ	1834	縄端圧痕
4	3・4-43	口縁	1	東銅路Ⅲ	1839	縄端圧痕
5	2・4-53	口縁	1	東銅路Ⅲ	1843	縄端圧痕
6	2・6-40	口縁	11	東銅路Ⅲ	1833	縄線文
7	1・4-17	口縁	1	東銅路Ⅲ	1426	組紐圧痕文
8	0・5-83	胴部	1	東銅路Ⅲ	654	羽状縄文
	0・5-73	胴部	3	東銅路Ⅲ	1908	
9	1・4-18	胴部	3	東銅路Ⅲ	1842	斜行縄文
	1・4-17	胴部	1	東銅路Ⅲ	1909	
10	2・4-61	胴部	4	東銅路Ⅲ	1845	羽状縄文
11	1・4-18	胴部	2	東銅路Ⅲ	1841	組紐圧痕文
12	0・4-29	胴部	2	東銅路Ⅲ	1846	組紐圧痕文
	3・2-07	胴部	1	東銅路Ⅲ	1910	
13	0・5-81	胴部	9	東銅路Ⅲ	656	組紐圧痕文
14	3・2-24	胴部	4	東銅路Ⅲ	1838	縄線文
15	3・2-34	胴部	1	東銅路Ⅲ	1837	縄線文
16	3・2-42	胴部	2	東銅路Ⅲ	1844	縄線文
17	2・3-90	胴部	1	東銅路Ⅲ	1351	縄線文
18	3・1-07	胴部	1	東銅路Ⅲ	1840	縄線文
19	2・5-00	胴部	8	東銅路Ⅲ	1847	縄線文
20	2・5-67	底部	1	東銅路Ⅲ	462	縄端圧痕
21	2・2-27	底部	1	東銅路Ⅲ	1338	縄端圧痕
22	0・5-66	底部	1	東銅路Ⅲ	405	縄端圧痕
23	3・5-01	底部	1	東銅路Ⅲ	608	縄端圧痕
24	1・2-48	底部	1	東銅路Ⅲ	1385	縄端圧痕
	1・2-48	底部	1	東銅路Ⅲ	1384	
25	3・2-33	底部	1	東銅路Ⅲ	1287	縄端圧痕
	3・2-43	底部	1	東銅路Ⅲ	1289	
	3・2-43	底部	1	東銅路Ⅲ	1292	
26	3・7-92	口縁	1	コッタロ	157	絡糸体圧痕文
27	3・2-49	胴部	1	コッタロ	1812	絡糸体圧痕文
28	2・10-68	胴部	2	コッタロ	1813	絡糸体圧痕文
29	3・7-39	胴部	2	コッタロ	1814	絡糸体圧痕文
30	3・3-23	口縁	1	中茶路	1313	短縄文
31	3・7-22	口縁	1	中茶路	286	短縄文
32	3・8-74	口縁	1	中茶路	211	短縄文
33	3・8-73	口縁	1	中茶路	486	斜行縄文
	3・8-74	口縁	1	中茶路	1911	
34	1・10-61	口縁	2	中茶路	107	縄文
	1・10-71	口縁	2	中茶路	96	
	1・10-71	口縁	1	中茶路	92	
35	3・1-49	胴部	1	中茶路	1826	短縄文
	3・1-57	胴部	1	中茶路	1827	
36	3・3-23	胴部	1	中茶路	1816	短縄文

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
	3・3-33	胴部	1	中茶路	1817	
	3・3-34	胴部	5	中茶路	1818	
37	1・5-57	口縁	1	中茶路	713	短縄文
	1・5-57	胴部	1	中茶路	715	
	1・5-57	胴部	1	中茶路	716	
	1・5-57	胴部	1	中茶路	717	
	1・5-57	胴部	1	中茶路	721	
	1・5-47	胴部	2	中茶路	783	
38	4・9-23	胴部	6	中茶路	112	短縄文
39	3・7-49	胴部	2	中茶路	1821	短縄文
	3・7-59	胴部	1	中茶路	1822	
	3・8-40	胴部	6	中茶路	1819	
	3・8-82	胴部	1	中茶路	1820	
40	3・8-74	胴部	1	中茶路	1823	縄文と短縄文
	3・8-79	胴部	1	中茶路	1824	
	3・8-96	胴部	2	中茶路	1825	
41	2・6-45	底部	1	中茶路	1912	短縄文
	2・6-46	底部	2	中茶路	472	
42	3・8-89	底部	1	中茶路	220	縄文と短縄文
43	3・8-72	底部	1	中茶路	203	縄文
44	3・3-33	底部	2	中茶路	958	縄文と短縄文
45	0・5-31	底部	1	中茶路	604	短縄文
	1・5-11	底部	1	中茶路	548	
	1・5-23	底部	1	中茶路	559	
46	2・4-81	底部	3	中茶路	1211	短縄文
	2・4-92	底部	1	中茶路	1913	
47	3・3-23	胴部	1	中茶路	1914	縄文と短縄文
	3・3-26	底部	3	中茶路	1915	
	3・3-33	底部	5	中茶路	958	
	3・3-33	底部	1	中茶路	1535	
	3・3-33	胴部	1	中茶路	1916	
48	3・2-73	底部	5	中茶路	937	縄文
	3・2-73	底部	3	中茶路	1917	
49	0・11-73	口縁	1	縄文	15	RL
50	1・10-79	口縁	1	縄文	93	RL
51	0・10-47	口縁	1	縄文	24	RL
52	0・12-19	口縁	1	縄文	8	RL
53	0・11-12	口縁	1	縄文	34	RL
54	0・12-94	口縁	1	縄文	12	RL
55	0・12-94	口縁	1	中野	13	RL
56	2・7-18	口縁	1	中野	260	RL
57	3・7-59	口縁	1	大麻V	167	縄線文
58	4・3-25	口縁	1	大麻V	752	縄線文
59	4・5-37	口縁	1	大麻V	117	縄線文

### 縄文時代中期の土器

全般的に沢跡の南側、特に発掘区の南部に多く分布する。Ⅲ群 a 類は4,013点、Ⅲ群 b 類は2,243点出土している。出土点数は天神山式が1,632点と最も多く、発掘区のほぼ全域に分布する。特に2・3区、3・1区、3・2区、4・2区に集中がみられる。次いで萩ヶ岡2式が1,582点。沢跡の北側にも若干の出土がある。0・3区、0・5区、2・3区、3・1～3・4区、4・2区、4・3区に集中がある。地文の結束羽状縄文のみで施文の確認できないものが1,297点あり、萩ヶ岡1あるいは2式として分類した。また、縄文のみで施文の確認できないもの4,885点を形式不明とした。器面の剝離したものや摩耗したもの、細片など2747点を時期不明とした。胎土・分布などから、これらのうちの大部分は萩ヶ岡2式と推定される。円筒上層式は779点出土しており、1・2区、3・2区、4・2区に若干の集中がみられる。柏木川式は611点出土しており、概ね萩ヶ岡2式、天神山式と同様の分布傾向を示す。3・2区、4・2区に集中がみられる。萩ヶ岡1式は286点出土しており、0・3区、1・7区に集中がみられる。大木8a式相当の土器は散発的にみられる程度である。69点出土している。



図V-3-6 包含層出土の土器分布 (3)

### Ⅲ群 a類

#### ① 円筒上層式 (113~128)

貼付文のみられるもの (113~125) と地文の縄文のみのも (126~128) がある。幅 5 mm 程の貼付文が、肥厚した口縁には波状 (113・115) ・刻み状 (114・116) に、文様帯には孤状 (117~122) ・縦横 (123~125) に貼付される。貼付文には撚糸の圧痕 (115~122・124・125) や半截竹管状工具による施文 (123) が施される。器面には、竹管あるいは棒状工具による刺突 (117~121)、撚糸の圧痕 (119・121・124・125) が施されている。126~128は肥厚した口縁をもつ。126は LR の縄文、127・128は LR + RL の結束羽状縄文が見られる。内面は平滑である。

#### ② 萩ヶ岡 1 式 (60~62、129~144)

口縁に山形 (60・61) ・台形 (62) の突起をもち、突起には粘土紐が貼付される。口縁に数本の粘土紐をめぐらせて突起とつなぎ、突起から垂下する粘土紐や器面を横環する粘土紐が貼付られる。貼付帯に縄による施文のみられるもの (129・135) と爪による施文のみられるもの (130~133・136~144) がある。129・135は口縁貼付帯が RL の縄文により刻まれている。130~133・136は口縁貼付帯に、137~144には垂下する貼付帯に爪による刺突が施されている。134は口唇が竹管もしくは棒状工具により斜めに刻まれている。129・135の縄を工具に置き換えたものと思われる。地文は結束羽状縄文が多く、粘土紐を貼付する前に施される。胎土に砂粒を含むものが多く、焼成温度が低く脆い感じのものが多い。

#### ③ 萩ヶ岡 2 式 (63~74、145~179)

萩ヶ岡 1 式と同様の土器で、貼付帯に半截竹管状工具あるいは棒状工具による施文のあるものものである。胎土に砂粒を含み、焼成温度が低く脆い感じのものが一般的である。円筒上層式のように胎土が良く内面が平滑なものも少なくない。突起は台形 (63~74) のものが多く、貼付した粘土紐に半截竹管状工具による沈線や刻みが施される。粘土紐の貼付により突起は次第に肉厚になり、突起の水平断面が三角形のもの (63・66~73) が多い。突起頂部は刺突のあるもの (64)、突起頂部が内傾するもの (66~68・70・72) がみられる。また、頂部を正面に対し縦に V 字状に調整したもの (67・68) もみられる。口縁・器面の貼付帯には、押し引き風の刺突 (145~147・149~153・157~160・176・177・179)、沈線 (148・161~166)、刻み (168~175・178) のみられるもの、これらが組み合わされて施文されているもの (156) がある。貼付帯のないもの (154・155・167) もみられる。145~147・149・151~153・157は弧状・鎖状に貼付した粘土紐に、篋状に近い半截竹管状工具による押し引き風の刺突が施されている。いずれも胎土が良く、内面は平滑である。円筒上層式に近いものと思われる。146・147には爪による刺突も施されている。146・149・152の口唇には地文の縄文が施されている。158~160・176・177・179は貼付帯に低い角度からの押し引きに近い刺突が施される。148・161~166は口縁貼付帯に沈線が施されている。148は器面にも沈線がみられ、口唇は刻まれている。胎土が良く、内面は平滑である。163・164は斜めに貼付された粘土紐にも沈線がみられる。168~175・178は粘土紐や口縁が刻まれているものである。169・174・178は棒状工具、他は半截竹管状工具による。169~173は口唇・口縁が矢羽状に刻まれている。172・173は同一個体で、刻んだ貼付帯の間に押し引きが施されている。174は貼付帯を縦に刻んでいる。175・178は胴部破片で、垂下帯や横環する貼付帯に刻みが施されている。175は貼付帯を斜めに刻んだあと縦に沈線を引き、さらに器面に横の沈線を引いている。156は貼付帯が矢羽状に刻まれ、そこから垂下する粘土紐に押し引き風の刺突が施されている。口縁貼付帯には太い沈線と刻みが施されている。器面には沈線がみられる。天神山式に近いものである。154・155は口唇・口縁に刺突が施され、その下に沈線が引かれている。154は突起を欠い



ており、垂下する粘土紐にも刺突が認められる。167は口縁に横に沈線を引き、斜めの沈線で区切られている。胎土が良く、内面は平滑である。円筒上層式に近いものである。

#### ④ 大木8 a式相当 (180~187)

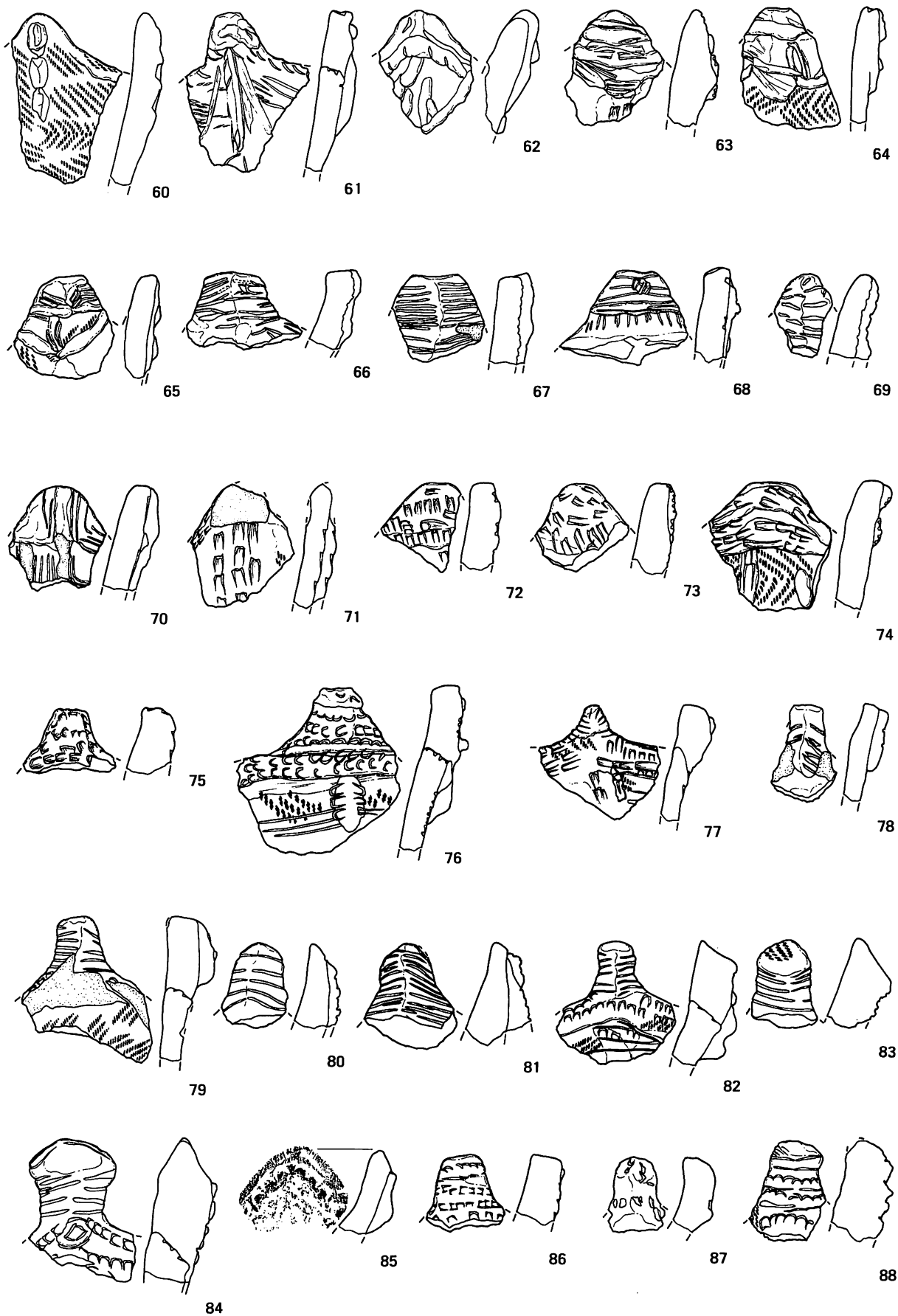
太い沈線のみられるもの(180~184)と口縁肥厚帯に波状の貼付のみられるもの(185~187)がある。180・181は小さな山形突起に縦の貼付がある。181の口縁は縄により刻まれている。183~187は口縁肥厚帯が発達している。183は肥厚帯に横に沈線が引かれている。突起を欠く。184は肥厚帯に太い沈線による刻みが施されている。185~187は天神山式に近いものである。肥厚帯上の溝に波状の貼付が施されている。

#### Ⅲ群 b 1類 (75~122、188~225)

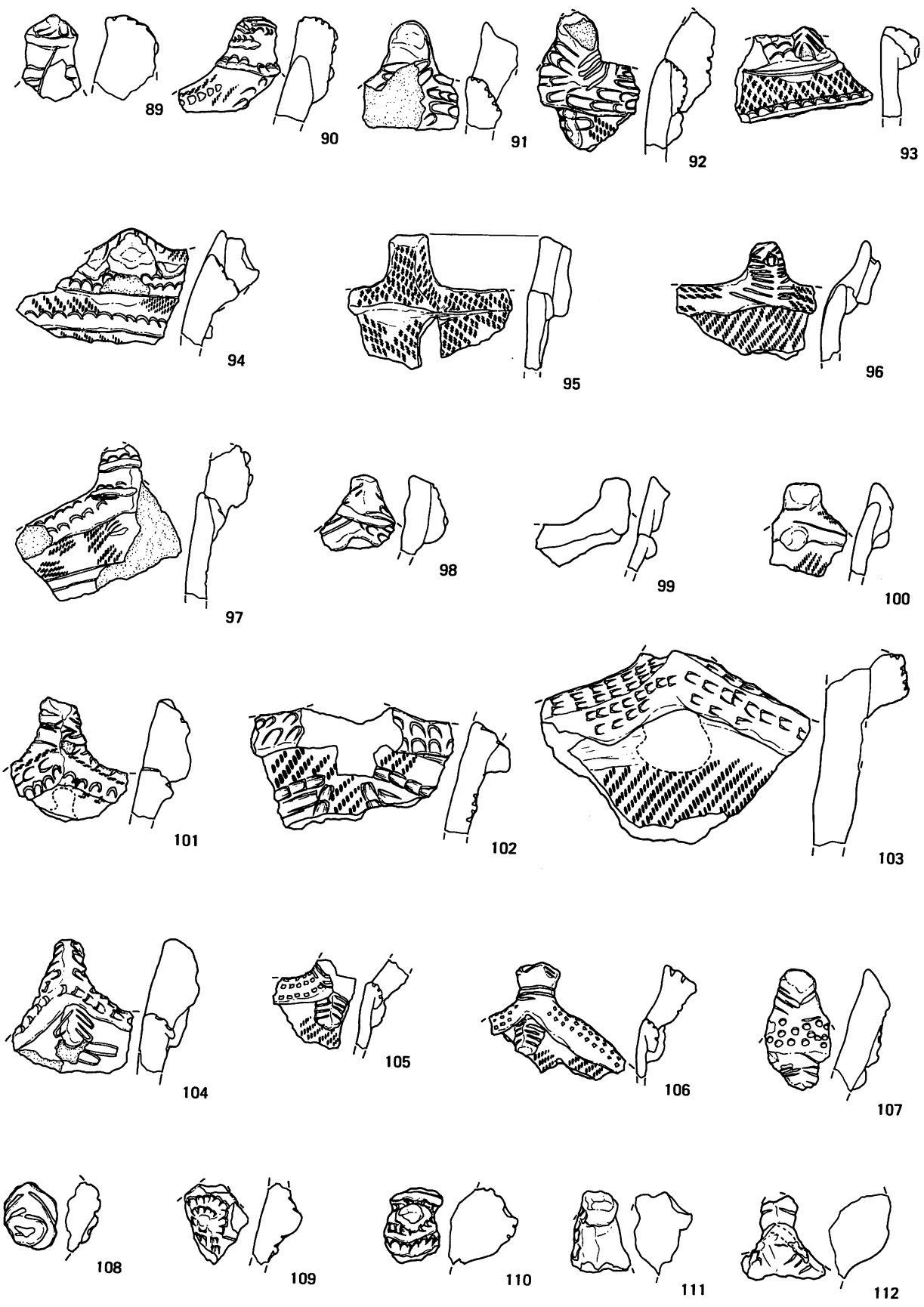
突起が萩ヶ岡2式に比し、さらに肉厚になるとともに柱状・棒状(75~107)になり、口縁上に直立する。上半が極端に肥大化したもの(84・85)もある。施文は、半截竹管状工具による刺突(76・85・87)をはじめとして、押し引き風の刺突(75・104)、沈線(77~84・89・101・105~107)、押し引き(91・92)や、それらが組み合わされたもの(86・88・90・97・98)がある。また、地文の複節の縄文(95)の施されたもの、無文のもの(99・100)もみられる。突起頂部が外傾し、正面に対し横に∩字状に調整したもの(83・84)もみられる。突起の柱状化に伴い、それを支える口縁も肥厚化する。肥厚帯が大きく張出し(102)、さらには張り出しすぎて途中で段のついたもの(103)もみられる。口縁肥厚帯にさらに小突起を付したもの(93・94・195・196)もみられる。突起が棒状のものは肥厚帯が発達せず、貼付帯に近いものになる。口縁肥厚帯上には、半截竹管状工具による刺突(188~203)、押し引き(204~206・210)、沈線(208)や、竹管による刺突(207・209・211)の施されるものがある。半截竹管の刺突とともに波状の貼付(188・189)・縄線文(190)・押し引き(191・197)の施されるもの、粘土紐を貼付し押し引きを施すもの(194)もみられる。棒状工具による刺突(105~107)の施されたものもみられる。188・189は前項の185~187に近いものである。突起下に粘土塊を貼り竹管状工具で施文して、水平断面が三角形の胴部突起のみられるもの(104~107)が一般的だが、ボタン状のもの(100・108・109・213)や角張り大型化したもの(110・111)、ブリッジ状のもの(112・212)もみられる。胴部には、突起から垂下する粘土紐や横環する粘土紐に半截竹管状工具による刺突(214~219・221・222)・沈線・押し引き(220・223)を施す。また、器面に沈線(214・218~220・222・224~226)や押し引きをめぐらすものも多い。概して萩ヶ岡2式の工具に比し太い工具を用い、沈線も貼付的效果をもつもの(226)がみられる。地文は斜行縄文が多く、複節の縄文が多用される。焼きが良く、堅く焼き締まるものが多い。

#### Ⅲ群 b 2類 (227~257)

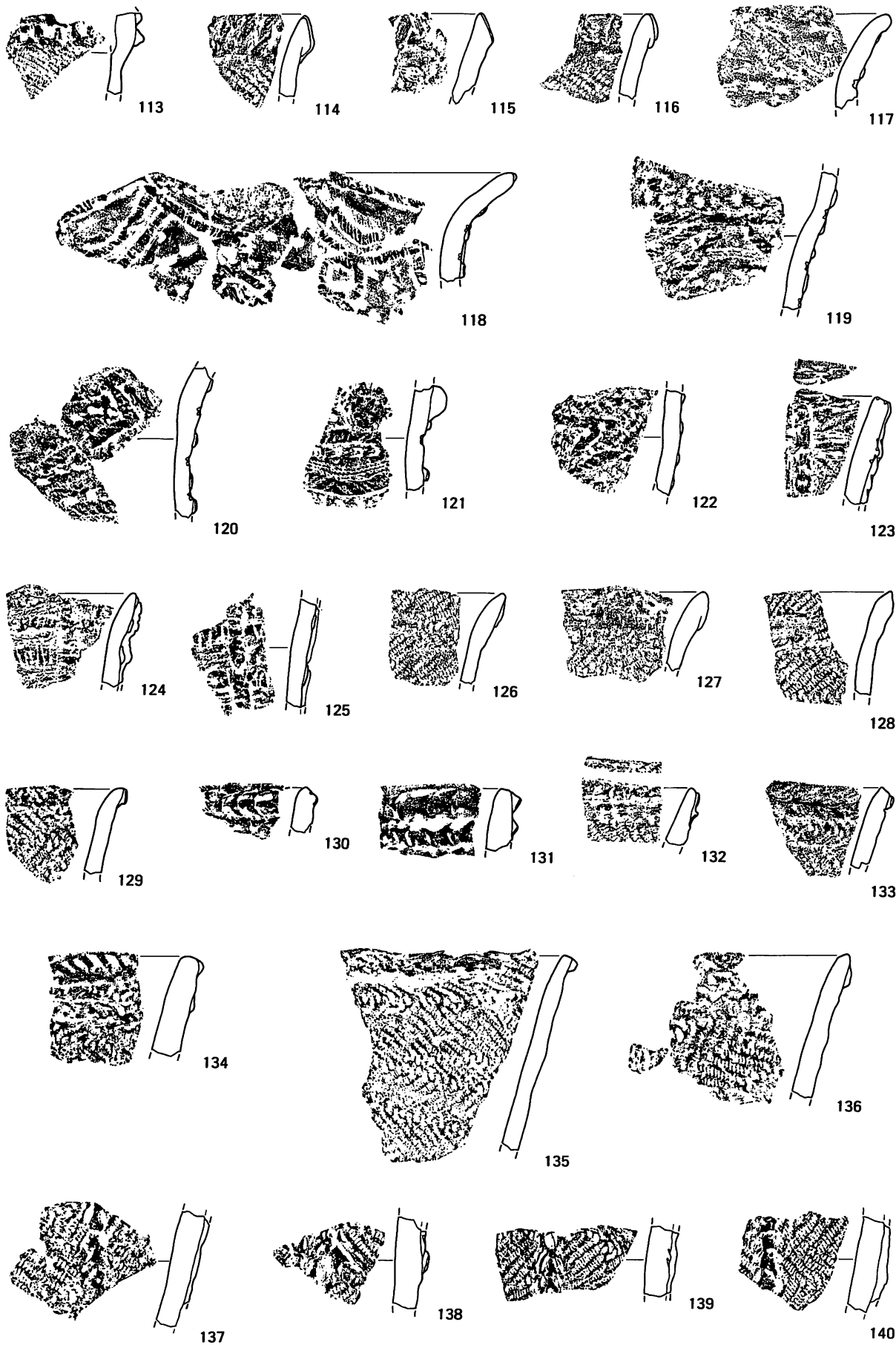
突起は天神山式に比べ小さくなる。227は山形の突起で内面に調整痕がみられる。228・227は突起基部のみ残る。227と同様の突起をもつと思われる。230は口縁をはさんで粘土紐を小突起状に貼付したもの。口唇・口縁と貼付に半截竹管状工具による沈線が施されている。口縁に肥厚帯・貼付帯のみられるもの(231~245)と肥厚帯・貼付帯のないもの(246~257)がある。肥厚帯には竹管状工具による刺突(231~234)、半截竹管状工具による押し引き(235・236・238)や沈線・刻み(237)、縄による刻み(240)、縄文(245)が施される。これらは天神山式に近いものである。貼付帯には縄文(239・244)、縄文による刻み(241~243)が施されている。口縁に肥厚帯・貼付帯のないものには、口唇・口縁に施文のみられるもの(246~250)と地文の縄文のみものもの(251~257)がある。246~248は半截竹管状工具、249・250は縄による施文が施されている。250は口縁が外反し内面にも縄文が施されている。地文の縄文のみものものは、いずれも焼成が良い。



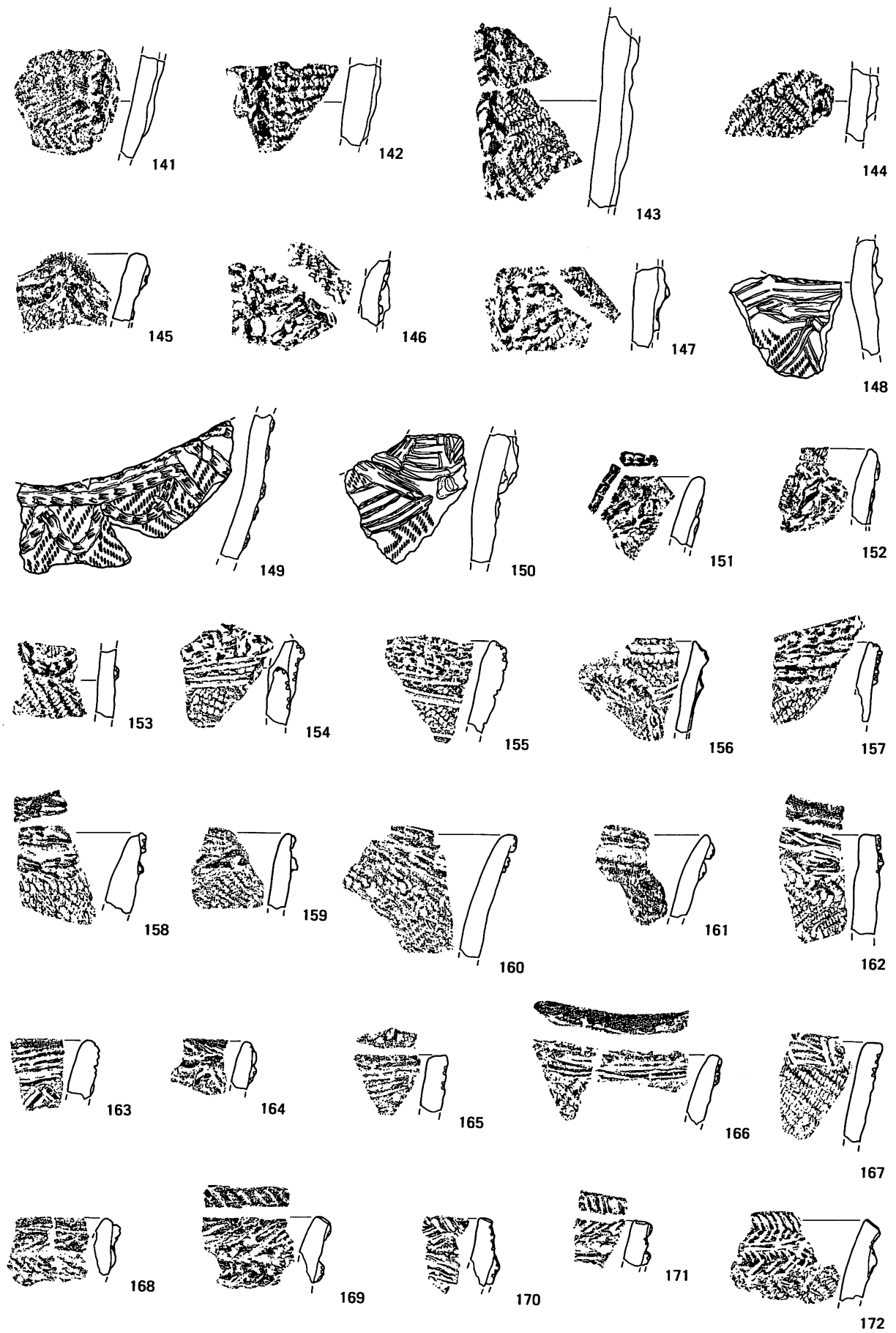
図V-3-7 包含層出土の土器 (4)



図V-3-8 包含層出土の土器 (5)



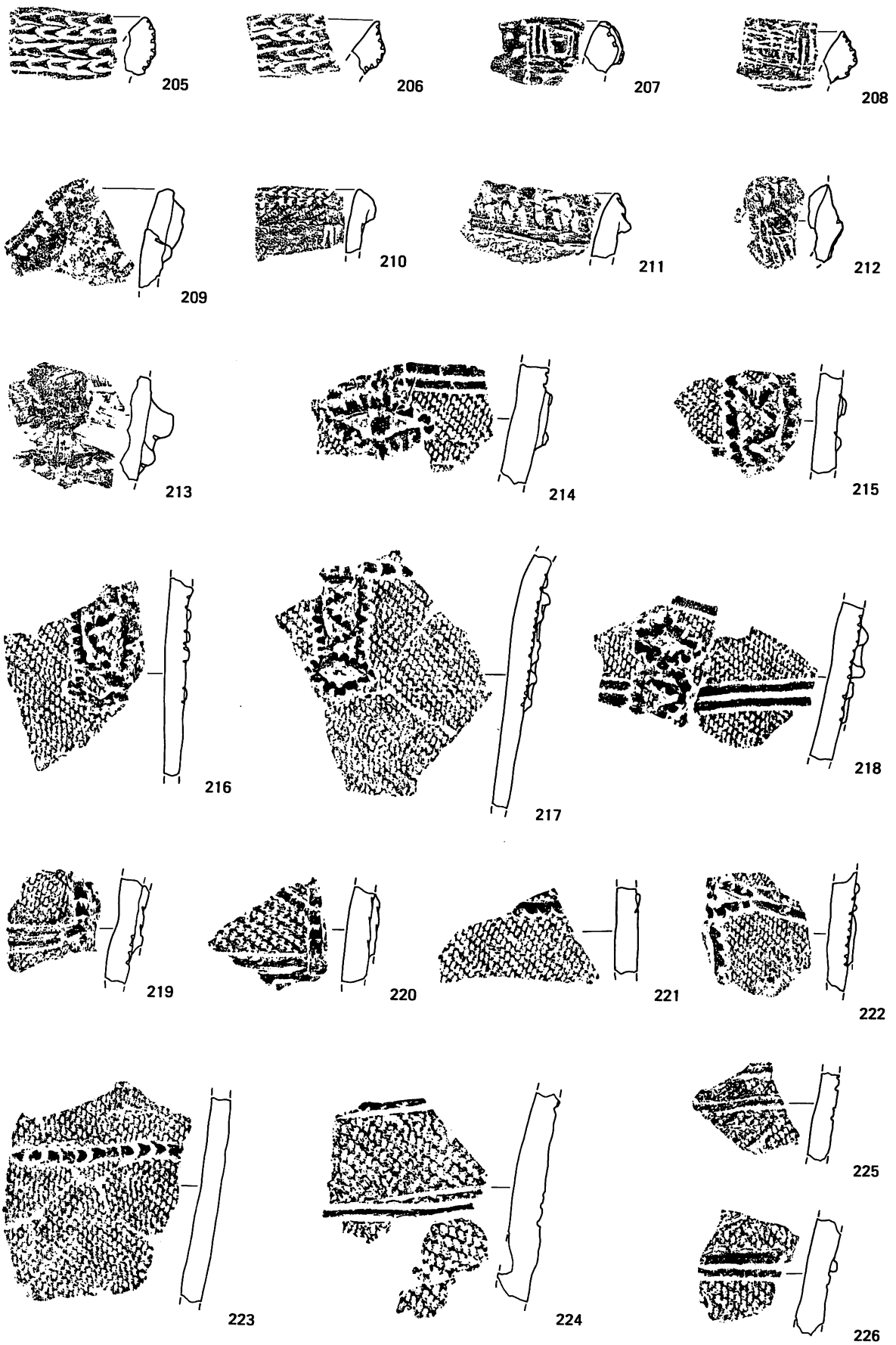
図V-3-9 包含層出土の土器 (6)



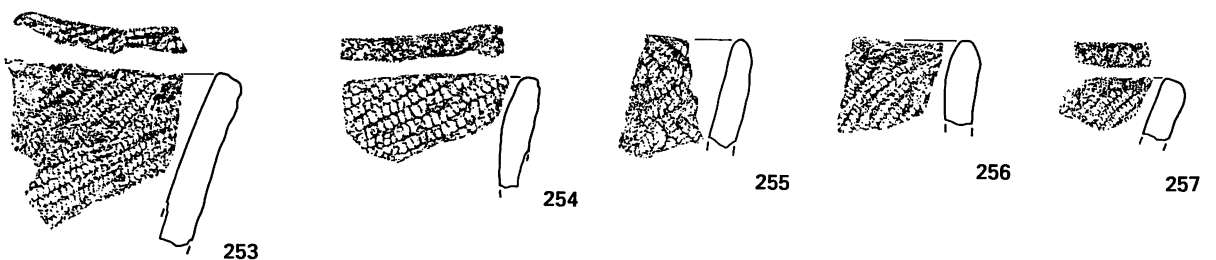
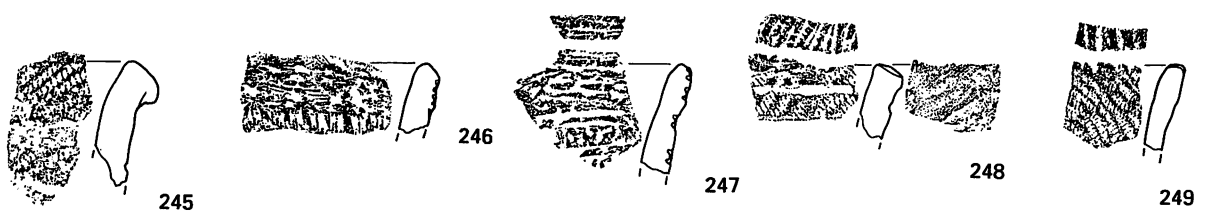
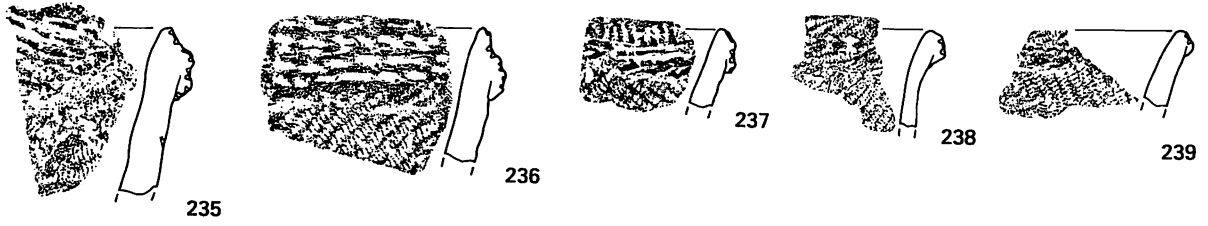
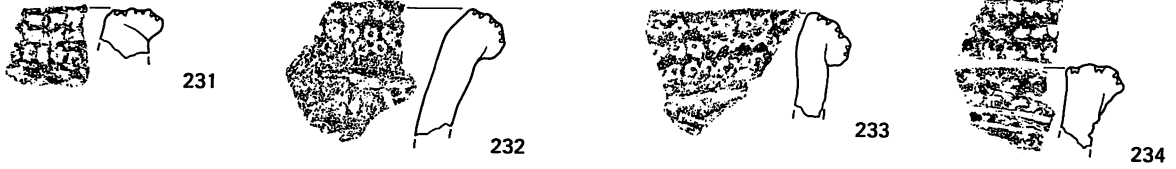
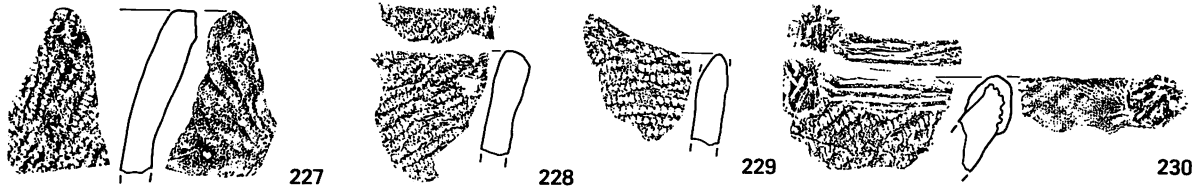
図V-3-10 包含層出土の土器 (7)



図V-3-11 包含層出土の土器 (8)

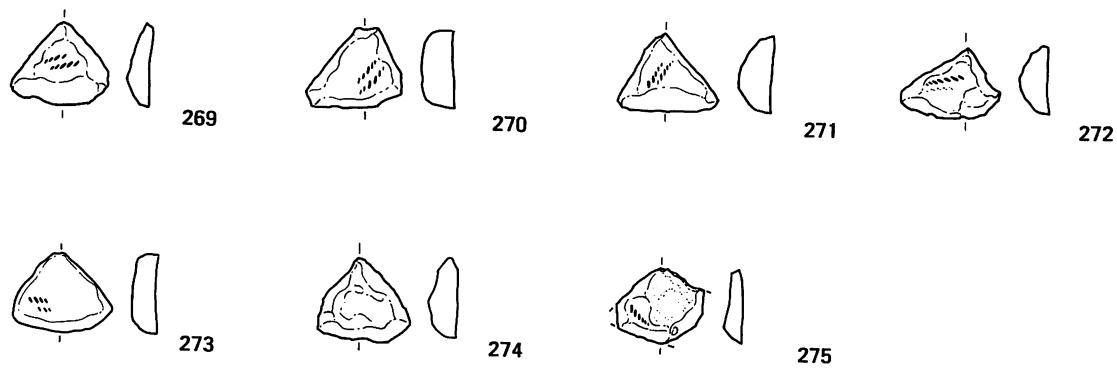
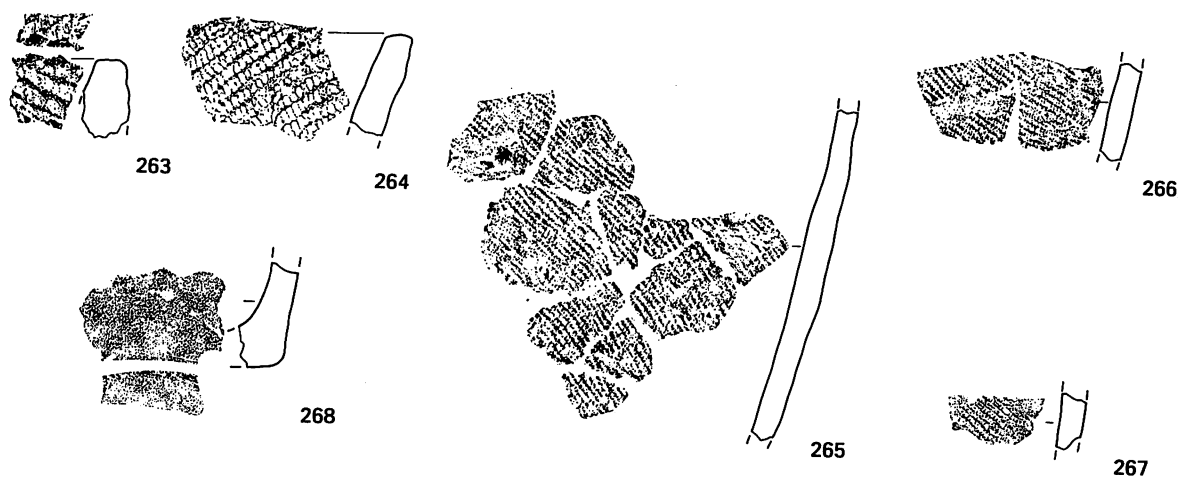
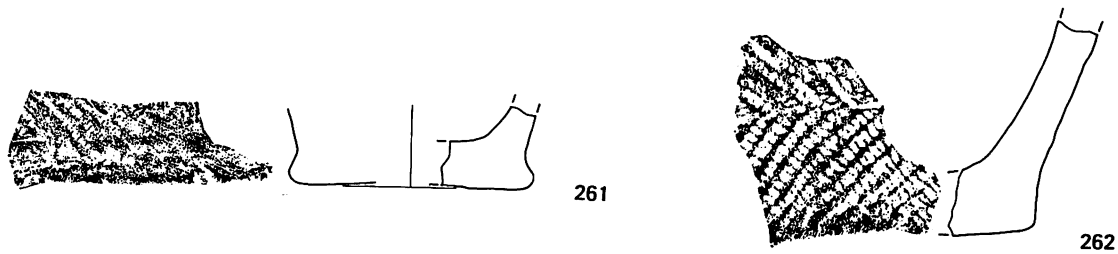


図V-3-12 包含層出土の土器 (9)



図V-3-13 包含層出土の土器 (10)





図V-3-14 包含層出土の土器 (11)

表V-3-4 包含層掲載土器一覧（縄文時代中期の土器の突起など）

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
60	0・3-53	突起	1	萩ヶ岡1	1407	爪、貼付に縄
61	1・7-97	突起	1	萩ヶ岡1	422	貼付に爪、沈線
62	0・3-18	突起	1	萩ヶ岡1	1417	貼付に爪、摩擦
63	0・3-08	突起	1	萩ヶ岡2	1470	貼付に
64	2・3-56	突起	1	萩ヶ岡2	1257	貼付に沈線
65	3・1-70	突起	1	萩ヶ岡2	1541	貼付に沈線
66	2・5-64	突起	1	萩ヶ岡2	572	貼付に沈線
67	2・8-22	突起	1	萩ヶ岡2	206	貼付に沈線
68	0・7-07	突起	1	萩ヶ岡2	159	貼付に沈線
69	1・4-10	突起	1	萩ヶ岡2	1435	貼付に沈線
70	0・7-09	突起	1	萩ヶ岡2	176	貼付に沈線
71	0・7-08	突起	1	萩ヶ岡2	175	貼付に押し引き
72	1・6-82	突起	1	萩ヶ岡2	461	貼付に刻み
73	3・6-36	突起	1	萩ヶ岡2	431	貼付に沈線
74	1・3-04	突起	1	萩ヶ岡2	1498	貼付に沈線
75	3・2-97	突起	1	天神山	784	刺突
76	0・13-56	突起	1	天神山	16	刺突
77	2・3-63	突起	1	天神山	1081	沈線
78	2・11-80	突起	1	天神山	38	沈線
79	3・7-82	突起	1	天神山	201	沈線
80	4・2-15	突起	1	天神山	779	沈線
81	3・2-71	突起	1	天神山	793	沈線
82	4・6-14	突起	1	天神山	66	沈線
83	4・8-31	突起	1	天神山	85	沈線、縄文
84	2・2-74	突起	1	天神山	1368	沈線
85	4・1-06	突起	1	天神山	991	刺突
86	4・1-41	突起	1	天神山	1230	沈線、押し引き
87	3・3-35	突起	1	天神山	981	刺突
88	0・11-55	突起	1	天神山	33	刺突、沈線
89	4・1-22	突起	1	天神山	771	沈線
90	3・2-04	突起	1	天神山	1064	刺突、沈線
91	2・7-31	突起	1	天神山	326	押し引き
92	3・8-50	突起	1	天神山	195	押し引き
93	0・13-04	小突起	1	天神山	4	沈線
94	3・2-32	小突起	1	天神山	1134	菱形
95	1・3-39	突起	4	天神山	1480	復節の縄文
96	3・6-69	突起	3	天神山	137	沈線
	3・2-94	口縁	1	天神山	795	
97	0・13-22	突起	1	天神山	2	刺突、沈線
98	4・7-17	突起	1	天神山	69	刺突、沈線
99	4・3-33	突起	1	天神山	843	無文
100	2・2-97	突起	1	天神山	1319	無文
101	4・2-49	突起	1	天神山	1193	沈線
102	2・7-73	口縁	1	天神山	506	刺突、押し引き
103	0・9-22	口縁	1	天神山	128	押し引き風刺突

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
104	4・7-03	突起	1	天神山	67	押し引き風の刺突
105	3・4-36	突起	1	天神山	868	沈線、
	4・2-28	口縁	1	天神山	813	棒の刺突
	4・5-15	口縁	1	天神山	18	LR
106	4・3-20	突起	1	天神山	840	沈線、
	3・5-89	口縁	1	天神山	125	棒の刺突
107	3・6-32	突起	1	天神山	464	沈線、棒の刺突
108	3・3-58	胴部突起	1	天神山	1807	沈線
109	1・3-66	胴部突起	1	天神山	1510	刺突、沈線
110	3・2-79	胴部突起	1	天神山	778	刺突、沈線
111	3・6-74	胴部突起	1	天神山	135	刺突
112	1・2-97	胴部突起	1	天神山	1375	沈線

表V-3-5 包含層掲載土器一覧（縄文時代中・後期）

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
113	2・4-10	口縁	2	円筒上層	1860	波状貼付
114	2・2-63	口縁	1	円筒上層	1372	刻み状貼付
115	3・4-21	口縁	1	円筒上層	1861	波状貼付
116	2・2-95	口縁	1	円筒上層	1178	刻み状貼付
117	1・2-37	口縁	1	円筒上層	1391	弧状貼付、捻糸
118	0・3-56	胴部	2	円筒上層	1868	弧状貼付、捻糸
	0・3-74	口縁	1	円筒上層	1403	刺突
	0・3-82	胴部	1	円筒上層	1867	
	1・3-23	口縁	1	円筒上層	1504	
119	2・5-94	胴部	2	円筒上層	1866	弧状貼付、捻糸
120	3・2-50	胴部	2	円筒上層	1869	弧状貼付、捻糸
	1・2-96	胴部	1	円筒上層	1923	
121	2・5-93	胴部	1	円筒上層	1870	弧状貼付、捻糸
122	1・3-42	胴部	1	円筒上層	1871	弧状貼付、捻糸
123	0・3-27	口縁	1	円筒上層	1409	縦横貼付、竹
124	3・4-46	口縁	1	円筒上層	949	縦横貼付、捻糸
125	4・3-12	胴部	2	円筒上層	1865	縦横貼付、捻糸
126	1・3-02	口縁	1	円筒上層	1497	口縁肥厚、LR
127	4・2-01	口縁	1	円筒上層	1057	口縁肥厚、結束
128	0・4-25	口縁	2	円筒上層	1862	口縁肥厚、結束
129	2・3-78	口縁	1	萩ヶ岡1	1254	口縁貼付に縄
130	1・2-96	口縁	1	萩ヶ岡1	1376	貼付に爪
131	1・4-70	口縁	1	萩ヶ岡1	1348	貼付に爪
132	0・3-36	口縁	1	萩ヶ岡1	1459	貼付に爪
133	3・4-21	口縁	1	萩ヶ岡1	860	貼付に爪
134	4・2-44	口縁	1	萩ヶ岡1	1195	貼付に竹・棒
135	0・3-18	口縁	1	萩ヶ岡1	1462	貼付に縄
136	0・3-09	口縁	3	萩ヶ岡1	1464	貼付に爪
137	0・3-43	胴部	1	萩ヶ岡1	1875	貼付に爪
138	0・3-53	胴部	1	萩ヶ岡1	1879	貼付に爪

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
139	0・4-99	胴部	1	萩ヶ岡1	1873	貼付に爪
140	0・3-42	胴部	1	萩ヶ岡1	1874	貼付に爪
141	1・4-68	胴部	2	萩ヶ岡1	1876	貼付に爪
142	0・3-53	胴部	1	萩ヶ岡1	1877	貼付に爪
143	0・3-54	胴部	1	萩ヶ岡1	1872	貼付に爪
	0・3-34	胴部	1	萩ヶ岡1	1924	
144	3・6-02	胴部	1	萩ヶ岡1	1878	貼付に爪
145	0・13-17	口縁	1	萩ヶ岡2	3	貼付に押し引き
146	0・5-74	口縁	1	萩ヶ岡2	1863	貼付に押し引き
147	0・3-08	口縁	2	萩ヶ岡2	1864	貼付に押し引き
148	3・5-75	口縁	1	萩ヶ岡2	122	貼付に沈線
149	2・10-23	口縁	1	萩ヶ岡2	48	貼付に押し引き 内面平滑
	0・4-26	口縁	1	萩ヶ岡2	1925	
150	0・6-19	口縁	1	萩ヶ岡2	189	貼付に沈線
151	4・3-02	口縁	1	萩ヶ岡2	849	貼付に押し引き
152	3・1-73	口縁	1	萩ヶ岡2	1001	貼付に押し引き
153	2・6-92	胴部	1	萩ヶ岡2	1882	貼付に押し引き
154	3・4-37	口縁	1	萩ヶ岡2	945	刺突、沈線
155	2・4-55	口縁	1	萩ヶ岡2	1027	刺突、沈線
156	2・4-85	口縁	1	萩ヶ岡2	992	貼付に刻み
157	0・6-10	口縁	1	萩ヶ岡2	261	貼付に押し引き
158	2・5-50	口縁	1	萩ヶ岡2	594	貼付に沈線、押し
159	0・5-04	口縁	1	萩ヶ岡2	618	貼付に沈線
160	0・3-85	口縁	1	萩ヶ岡2	1401	貼付に沈線
161	2・3-79	口縁	1	萩ヶ岡2	1256	貼付に沈線
162	3・5-21	口縁	1	萩ヶ岡2	621	貼付に沈線
163	2・3-35	口縁	1	萩ヶ岡2	1261	貼付に沈線
164	3・3-85	口縁	1	萩ヶ岡2	781	貼付に沈線
165	0・6-28	口縁	1	萩ヶ岡2	214	貼付に沈線
166	2・8-22	口縁	2	萩ヶ岡2	207	貼付に沈線
167	0・6-28	口縁	1	萩ヶ岡2	190	貼付に沈線
168	1・9-60	口縁	2	萩ヶ岡2	119	貼付に刻み
169	3・1-81	口縁	1	萩ヶ岡2	998	貼付に刻み
170	3・2-34	口縁	1	萩ヶ岡2	877	貼付に刻み
171	3・4-41	口縁	1	萩ヶ岡2	948	貼付に刻み
172	0・4-95	口縁	1	萩ヶ岡2	1267	貼付に刻み
173	0・4-95	口縁	1	萩ヶ岡2	1881	貼付に刻み
174	0・3-74	口縁	1	萩ヶ岡2	1404	貼付に刻み
175	4・4-20	胴部	2	萩ヶ岡2	1886	貼付に刻み
176	0・3-62	胴部	1	萩ヶ岡2	1884	貼付に沈線
177	3・4-66	胴部	1	萩ヶ岡2	1885	貼付に押し引き
178	0・3-53	胴部	1	萩ヶ岡2	1888	貼付に刻み
179	1・5-64	胴部	1	萩ヶ岡2	1887	貼付に押し引き
180	1・6-72	口縁	1	大木8a	501	太い沈線
181	1・3-06	口縁	1	大木8a	1499	太い沈線

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
182	1・5-70	口縁	1	大木8a	499	太い沈線
183	2・6-17	口縁	1	大木8a	450	口縁肥厚帯, 太い沈線
	2・6-71	口縁	1	大木8a	289	
184	3・7-61	口縁	1	大木8a	155	太い沈線
185	3・6-95	口縁	1	大木8a	134	波状の貼付
186	3・1-44	口縁	1	大木8a	1019	波状の貼付
187	2・5-62	口縁	2	大木8a	573	波状の貼付
188	4・3-30	口縁	1	天神山	844	半截竹管の刺突
189	2・6-43	口縁	1	天神山	447	半截竹管の刺突
190	3・2-53	口縁	1	天神山	809	半截竹管の刺突
191	4・8-34	口縁	1	天神山	80	半截竹管の刺突
192	4・2-28	口縁	1	天神山	748	半截竹管の刺突
193	0・14-54	口縁	1	天神山	7	半截竹管の刺突
194	4・3-22	口縁	1	天神山	842	半截竹管の刺突
195	3・6-93	口縁	1	天神山	35	半截竹管の刺突
196	3・2-17	口縁	1	天神山	980	半截竹管の刺突
197	3・1-44	口縁	1	天神山	1236	半截竹管の刺突
198	2・4-64	口縁	1	天神山	993	半截竹管の刺突
199	4・2-30	口縁	2	天神山	1284	半截竹管の刺突
200	3・1-92	口縁	1	天神山	994	半截竹管の刺突
201	4・3-12	口縁	1	天神山	755	半截竹管の刺突
202	3・7-82	口縁	1	天神山	202	半截竹管の刺突
203	3・1-53	口縁	1	天神山	1149	半截竹管の刺突
204	3・1-93	口縁	1	天神山	996	半截竹管の押し
205	3・8-80	口縁	1	天神山	113	半截竹管の押し
206	3・7-77	口縁	1	天神山	163	半截竹管の押し
207	3・4-70	口縁	2	天神山	797	竹管の刺突
208	2・3-47	口縁	1	天神山	1310	半截竹管の沈線
209	3・2-79	口縁	1	天神山	772	竹管の刺突
210	2・3-16	口縁	1	天神山	1335	半截竹管の押し
211	3・3-70	口縁	1	天神山	820	竹管の刺突
212	0・4-94	胴部突起	1	天神山	1265	ブリッジ状
213	4・3-40	胴部突起	1	天神山	846	ボタン状
214	4・3-44	胴部	2	天神山	1891	半截竹管の刺突 沈線
	4・2-28	胴部	1	天神山	1928	
215	4・3-13	胴部	1	天神山	1893	半截竹管の刺突
216	1・3-91	胴部	2	天神山	1892	半截竹管の刺突
217	2・2-62	胴部	1	天神山	1889	半截竹管の刺突
	2・5-25	胴部	1	天神山	1926	
	3・2-14	胴部	1	天神山	1927	
218	1・2-39	胴部	1	天神山	1890	半截竹管の刺突
	3・1-34	胴部	1	天神山	1929	
219	4・8-47	胴部	1	天神山	1883	半截竹管の刺突
220	3・2-86	胴部	1	天神山	1894	沈線・押し引き
221	4・4-26	胴部	1	天神山	1895	半截竹管の刺突

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
222	3・2-74	胴部	1	天神山	1896	半截竹管の刺突
223	4・1-00	胴部	4	天神山	1899	沈線・押し引き
224	3・3-58	胴部	2	天神山	1930	半截竹管の沈線
	3・3-68	胴部	1	天神山	1900	
225	4・8-48	胴部	1	天神山	1897	半截竹管の沈線
226	4・3-22	胴部	1	天神山	1898	半截竹管の沈線
227	1・6-86	突起	1	柏木川	409	山形, 内面調整
228	3・2-44	突起	1	柏木川	1138	突起基部のみ
229	0・6-39	突起	1	柏木川	213	突起基部のみ
230	1・3-43	口縁	1	柏木川	1513	小突起, 沈線
231	3・4-36	口縁	1	柏木川	550	肥厚帯に竹管文
232	4・2-00	口縁	1	柏木川	1809	肥厚帯に竹管文
233	3・3-50	口縁	1	柏木川	792	肥厚帯に竹管文
234	3・4-94	口縁	1	柏木川	802	肥厚帯に竹管文
235	3・2-86	口縁	1	柏木川	819	肥厚帯に押引
236	4・3-42	口縁	1	柏木川	1187	肥厚帯に押引
237	1・7-56	口縁	1	柏木川	428	貼付帯に刻み
238	3・4-24	口縁	1	柏木川	862	肥厚帯に押引
239	3・3-14	口縁	1	柏木川	1091	貼付帯に縄文
240	0・3-36	口縁	1	柏木川	1458	貼付帯に縄刻み
241	0・3-18	口縁	1	柏木川	1419	貼付帯に縄刻み
242	0・3-47	口縁	1	柏木川	1415	貼付帯に縄刻み
243	0・3-52	口縁	1	柏木川	1456	貼付帯に縄刻み
244	4・2-06	口縁	1	柏木川	783	貼付帯に縄文
245	3・4-76	口縁	1	柏木川	799	肥厚帯に縄文
246	1・6-03	口縁	1	柏木川	600	半截竹管の施文
247	1・6-25	口縁	1	柏木川	519	押し引き, 沈線
248	2・4-23	口縁	1	柏木川	1810	半截竹管の刻み
249	0・5-35	口縁	1	柏木川	357	口唇に縄刻み
250	3・2-85	口縁	1	柏木川	1828	縄線文, 縄文

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
251	2・8-13	口縁	1	柏木川	204	口縁外反
	2・8-13	口縁	1	柏木川	205	地文のみ
252	1・2-78	口縁	1	柏木川	1379	地文のみ
253	4・8-44	口縁	1	柏木川	44	地文のみ
254	3・7-21	口縁	1	柏木川	362	地文のみ
255	2・3-11	口縁	1	柏木川	1155	地文のみ
256	2・8-21	口縁	1	柏木川	193	地文のみ
257	4・2-39	口縁	1	柏木川	1811	地文のみ
258	0・3-05	底部	1	中期	1420	直立
	2・2-17	底部	1	中期	1171	結束羽状縄文
259	2・2-72	底部	1	中期	1857	直立, 底面RL
260	1・3-52	底部	2	中期	1858	直立, 結束羽状
261	0・3-18	底部	1	中期	1418	張り出す, RL
262	0・3-90	底部	1	中期	1457	直立, LR

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
263	2・10-12	口縁	1	余市	95	RL
264	2・4-33	口縁	1	余市	1808	LR
265	0・3-45	胴部	1	手稲	1830	RL
	2・3-97	胴部	1	手稲	1831	
	2・3-99	胴部	8	手稲	1832	
266	2・3-76	胴部	2	手稲	1829	RL
267	2・3-76	胴部	1	手稲	1476	RL
268	3・2-60	底部	1	手稲	1293	無文

表V-3-6 包含層出土三角土製品一覧

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
269	3・6-99	胴部	1	中期	191	風倒内
270	4・6-04	胴部	1	中期	74	
271	4・6-04	胴部	1	中期	75	
272	4・6-04	胴部	1	中期	105	
273	4・6-07	胴部	1	中期	373	
274	4・7-37	胴部	1	中期	97	
275	4・8-45	胴部	1	中期	86	

### 中期の土器の底部

底部が直立するもの(258~260・262)と張り出すもの(261)がみられる。258・260の底面は、やや上げ底気味である。器面にはRL + LRの結束羽状縄文が認められる。底部付近は調整され無文帯になっている。259は器面にRLの縄文が整然と施されている。上げ底気味の底面にも同様の施文がみられる。261には器面にRLの縄文が認められる。くびれ部分と内面は調整されており、胎土に小砂利がみられる。262は底部が垂直に立上り、そこから外に開く。胴部は摩耗しており、RLの縄文が認められる。底部にはLRの縄文が施されている。

### 縄文時代後期の土器

IV群 a類 (263・264) は2,101点出土している。発掘区の南部と、沢跡の周辺に分布している。破片数こそ多いが剥離した細片がほとんどである。0・10区、1・7区、2・4区に集中がみられる。復原個体が1個体あるが、器面がすべて剥落しているため写真のみ掲載した。口唇に RL の縄文が認められる。口径25.5cm、現存器高30.5cmをはかる。1・10区と1・7区から出土した。263は口縁に RL、口唇に LR の縄文が施されている。264は口唇がやや内傾する。口縁に LR の縄文が施されている。いずれも胎土に小砂利を含む。IV群 b類 (265~268) は2・3区に若干の集中がみられる程度で、発掘区の南部に散発的に36点出土している。265~267はいずれも RL の細い縄文が施されている。268は底部の無文帯である。いずれも胎土に砂粒を含み、堅く焼き締まる。内面は平滑である。

### 続縄文時代の土器

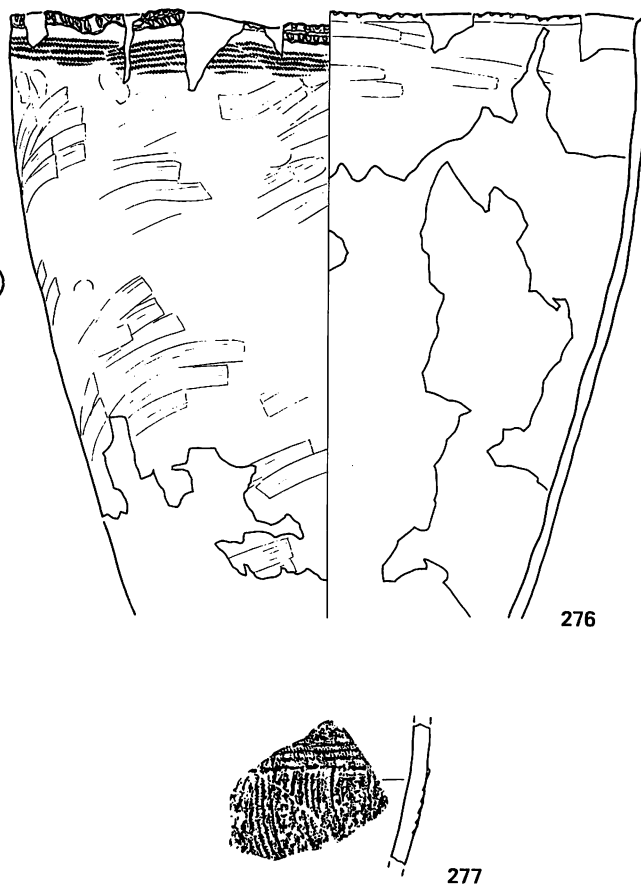
VI群 c類は沢跡内の3・9区に集中して208点出土した。図示した2個体のみである。276はゆるく波打つ口縁に細い貼付帯がめぐらされており、口唇と貼付帯は縄文の圧痕により刻まれている。口縁部には横走する縄文が施されている。底部を欠いており、口径33.8cm、現存器高32cmをはかる。277は器面に微隆起を弧状にめぐらせ、そのあいだに横走する縄文と三角列点を交互に施している。このタイプは1点だけ出土している。

### 縄文時代の三角土製品

土器片の縁を削り、三角形にしたものである。いずれも摩耗している。大きいものでも長辺が3cm程で、いずれも摩耗している。剥離し割れているものもある。分布および胎土から、縄文時代中期のものと思われる。包含層からは図示した7点が出土している。

表V-3-7 包含層掲載土器一覧 (続縄文時代)

図番	グリッド	部位	点数	分類	遺物No.	備考
276	3・9-18	口縁	3	後北C2	140	ゆるい波状口縁 口唇に刻み、 口縁に横走する 縄文
	3・9-18	口縁	2	後北C2	141	
	3・9-18	口縁	2	後北C2	142	
	3・9-18	口縁	1	後北C2	144	
	3・9-18	口縁	1	後北C2	143	
	3・9-18	胴部	40	後北C2	1931	
	3・9-28	口縁	2	後北C2	145	
	3・9-28	口縁	1	後北C2	147	
	3・9-28	口縁	2	後北C2	148	
	3・9-28	一括	138	後北C2	1932	
	3・9-28	胴部	10	後北C2	1933	
	3・9-38	口縁	2	後北C2	150	
	3・9-38	胴部	2	後北C2	1934	
	3・9-48	胴部	1	後北C2	1935	
277	3・9-56	胴部	1	後北C2	1859	刺突、微隆起線



図V-3-15 包含層出土の土器 (12)

2 石器類 (表V-3-8~45、図V-3-16~31、写真図版87~95)

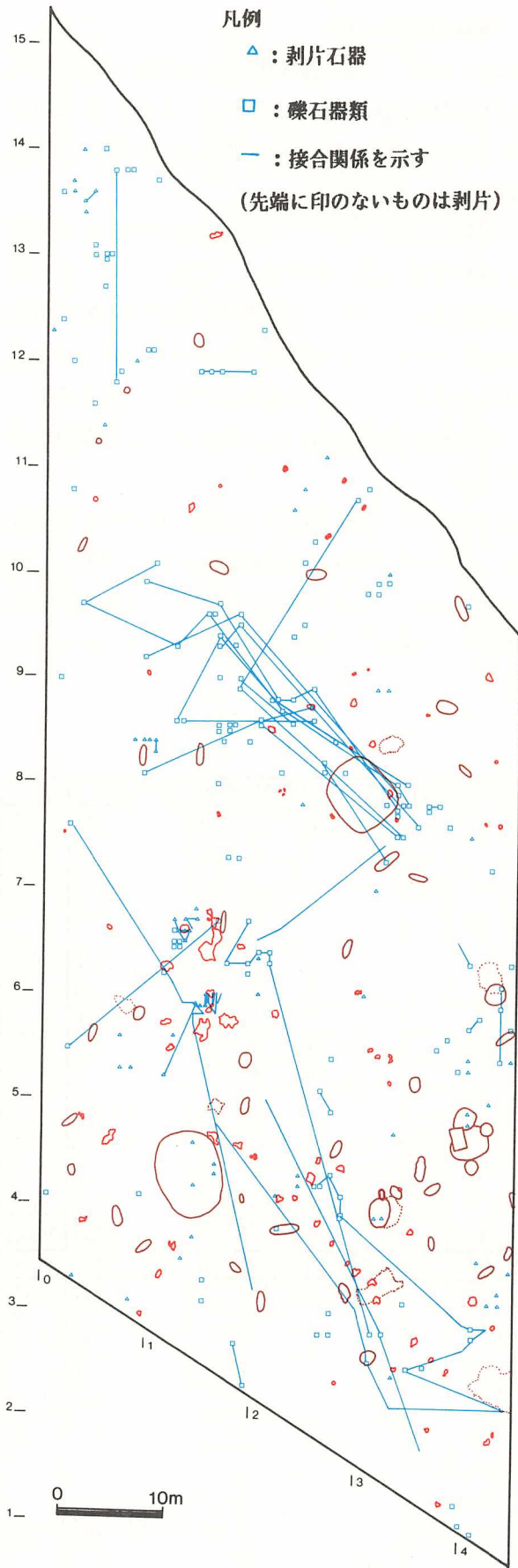
今回の調査で出土した石器類を下表に示した。総数29,141点のうち、包含層出土の点数は8,826点で、内訳は剥片石器304点、剥片7,811点、礫石器358点、方割礫239点、礫114点である。器種・出土地点に極端な偏りはみられないが、次頁の図に示したようにHP 1周辺にみられる焼けた方割礫の集中と、3・1区の石斧片集中が特徴的である。以下、器種毎に主な点を記す。

**石鏃** 85点が出土し、9点が焼けている。素材は全て黒曜石で花十勝が3点ある。形態別には石刃鏃1点、柳葉形10点、五角形1点、無柄凹基15点、無柄平基10点、菱形2点、木葉形1点、有柄凸基28点、不明17点である。図番1は一稜の石刃を素材としたもので、先端部と基部の両面に調整剥離が加えられている。幅に比して長さが短いため、一般的な石刃鏃のイメージとはいささか異なっている。2~10は早期、11~28は前期、34・40は後期にそれぞれ属すると思われるもので、他は中期に帰属するものであろう。31は肉厚で、両側縁に楔形石器にみられるような加撃痕がある。54は焼けて白濁化し、剥離が不明瞭になっている。

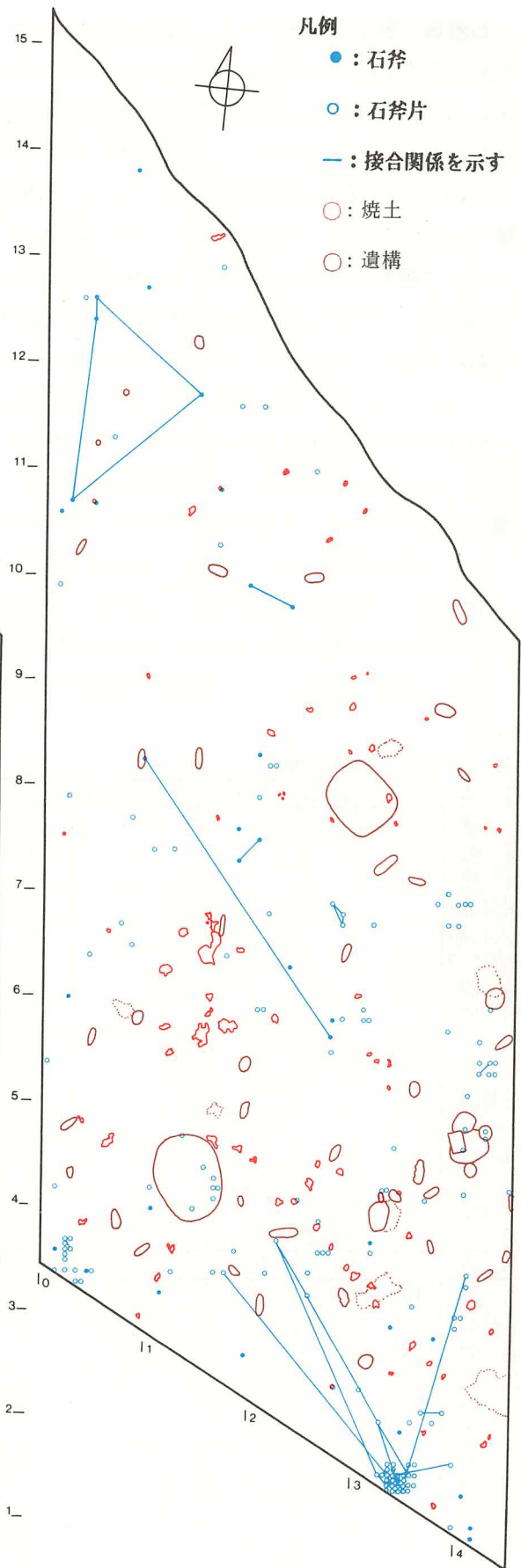
**石槍** 14点が出土し、3点が焼けている。素材は2点が頁岩で、他は黒曜石である。形態は有柄平基1点、有柄凸器7点、木葉形と不明各3点である。56は焼け弾けた側縁部片が1・5-49区 (FP 38北側)に残され、本体は1・5-01区から出土し接合した。60は頁岩を素材とし、基部の図右側に極端な凸状部を残すもので、刃部の調整剥離も浅く、両面に主剥離面を残している。61も頁岩製で、柄部が幅広で厚く、削器の可能性もある。

表V-3-8 石器一覧

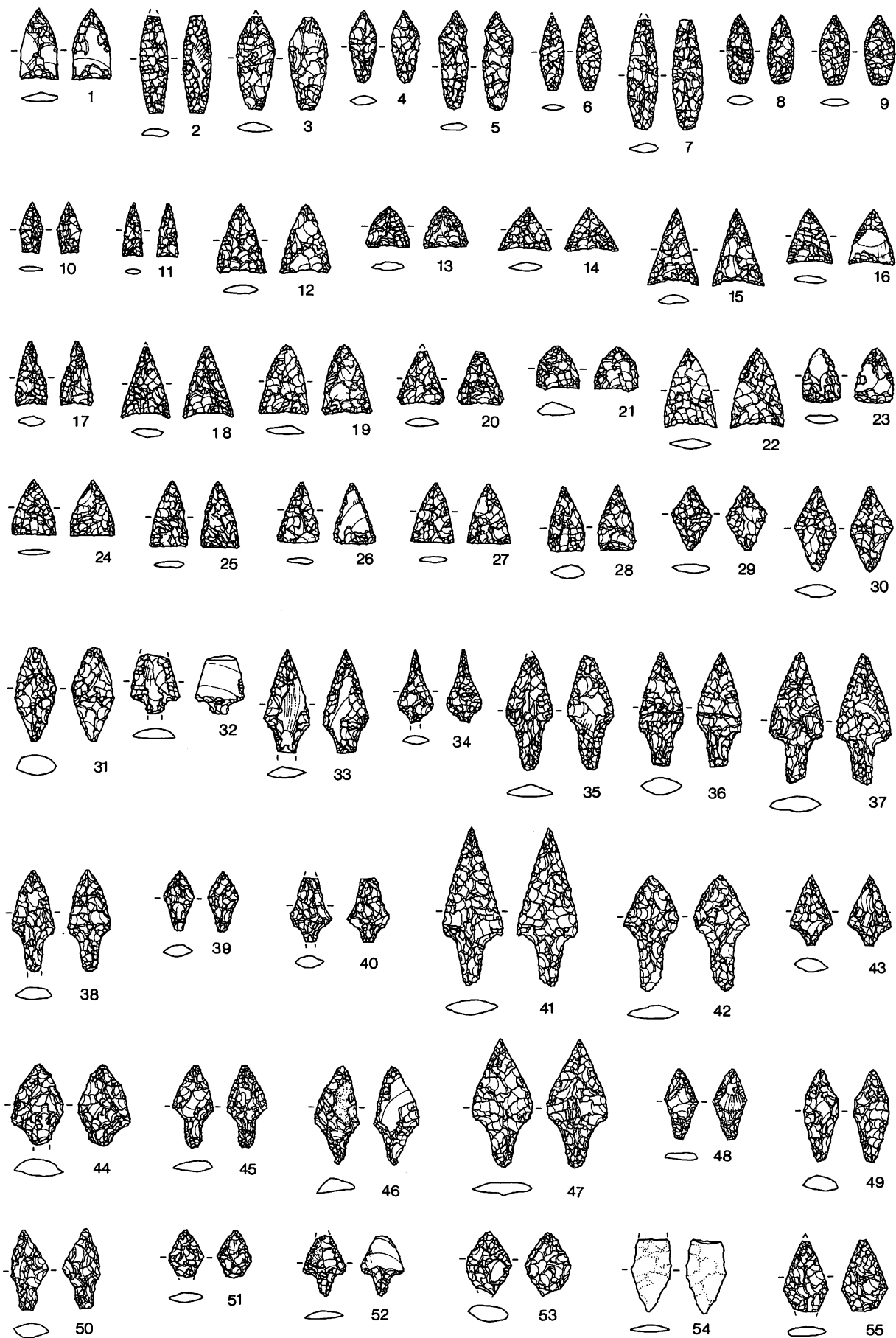
器種	HP1	HP2	HP 3	P 1	P 2	P 3	P 5	P 6	P 7	P 8	P 10	P11	穀納	TP	FP	FC	GP	包含層	計
石 鏃	1		3								3			1	2	2		85	97
石 槍			1															14	15
石 鏃			1								1							9	11
楔形石器			1								1				2			8	12
抉入石器																		1	1
つまみきり	1		1															22	24
搔 器	1									1	1			2	2			13	20
削 器			2											1	1			26	30
R・F	3		11						2	2	4			3	4			97	126
U・F			2							1				1	2			14	20
石製品																		1	1
ニードル																		2	2
ブレード																		2	2
石 核		2												2				10	14
剥片(焼)			1			1							1	5	1172	1629		227	3036
剥 片	14	7	9506						8	21	7625			114	2			7584	24881
小 計	20	9	9529	0	0	1	0	0	10	25	7635	1	0	129	1187	1631	0	8115	28292
石 斧	13	6	34	1							1			2	16			272	345
すり石																		25	25
砥 石					1									1				22	24
石 冠							1											6	7
たたき石	1													1				18	20
石 皿		1							1					2				6	10
台 石											1							3	4
板状礫																		5	5
石製品																		1	1
方割礫	4	2							1			1	6	3	1		3	239	260
礫	1												26	3	2		2	114	148
小 計	19	9	34	1	1	0	1	1	1	0	2	1	32	12	19	0	5	711	849
総 計	39	18	9563	1	1	1	1	1	11	25	7637	2	32	141	1206	1631	5	8826	29141



図V-3-16 焼けた石器類の分布



図V-3-17 石斧・石斧片の分布



図V-3-18 包含層出土の石器 (1)



表V-3-9 石鏃一覧 (1)

No.	グリッド	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	1・5-02	24.3	13.6	3.0	1.0	黒曜石	1	222	石刃鏃	一接の石刃を使用、両面に主刺面を残す、両側縁基部未調整
2	0・6-10	33.8	10.2	3.0	0.9	黒曜石	2	105	柳葉形	先端欠損、腹面に主刺面を残す
3	1・3-18	33.0	13.6	3.0	1.3	黒曜石	3	809	柳葉形	先端欠損
4	1・3-33	25.7	10.0	3.2	0.6	黒曜石	4	830	柳葉形	
5	1・3-36	34.8	10.2	3.4	1.0	黒曜石	5	822	柳葉形	一側縁欠損
6	1・3-46	18.8	9.8	2.5	0.5	黒曜石		971	柳葉形	基部削片、焼け
7	2・10-26	26.0	8.3	2.0	0.4	黒曜石	6	63	柳葉形	
8	2・10-45	21.0	8.5	1.9	0.4	黒曜石		53	柳葉形	先端・両側縁から基部欠損
9	2・11-19	38.3	10.7	3.7	1.4	黒曜石	7	43	柳葉形	先端わずかに欠損
10	3・3-06	24.3	9.6	3.1	0.7	黒曜石	8	705	柳葉形	一側縁わずかに欠損
11	4・1-24	24.8	10.8	2.7	0.7	黒曜石	9	707	柳葉形	腹面に主刺面を残す
12	2・2-96	18.0	8.6	1.4	0.2	黒曜石	10	792	五角形	
13	0・5-18	18.6	6.5	1.5	0.2	黒曜石	11	116	無柄凹基	
14	0・6-39	24.0	17.0	2.5	0.9	花十勝	12	99	無柄凹基	
15	0・8-83	14.2	14.8	2.0	0.5	黒曜石	13	100	無柄凹基	腹面に主刺面を残す
16	0・9-97	15.5	16.8	2.5	0.6	黒曜石	14	74	無柄凹基	
17	0・11-82	15.7	14.8	3.8	0.8	黒曜石		32	無柄凹基	先端欠損
18	0・13-33	13.6	13.2	1.8	0.4	黒曜石		7	無柄凹基	先端欠損、腹面に主刺面を残す、焼け
19	1・4-60	25.7	18.0	2.9	0.8	黒曜石	15	773	無柄凹基	腹面に主刺面を残す
20	2・6-97	19.2	15.5	2.0	0.6	黒曜石	16	185	無柄凹基	腹面に主刺面を残す、一側縁わずかに欠損
21	2・11-90	22.3	10.8	2.6	0.6	黒曜石	17	46	無柄凹基	一側縁欠損
22	3・2-86	23.6	18.8	3.0	0.8	黒曜石	18	675	無柄凹基	先端わずかに欠損
23	3・3-10	23.9	17.8	3.1	1.1	黒曜石	19	691	無柄凹基	先端から一側縁わずかに欠損
24	3・4-43	18.6	16.9	2.7	0.6	黒曜石	20	688	無柄凹基	先端わずかに欠損
25	3・5-19	14.4	14.8	3.6	0.7	花十勝	21	169	無柄凹基	凸状部あり
26	3・9-39	15.5	15.4	2.9	0.8	黒曜石		84	無柄凹基	先端・一側縁欠損
27	4・3-20	26.6	18.7	3.6	1.4	黒曜石	22	790	無柄凹基	焼け
28	0・10-15	13.2	13.5	1.6	0.5	黒曜石		59	無柄凹基	基部削片、腹面に主刺面を残す
29	0・10-35	17.0	16.5	3.4	1.2	黒曜石		52	無柄凹基	基部削片
30	0・12-47	14.5	14.6	1.8	0.4	黒曜石		18	無柄凹基	基部削片、腹面に主刺面を残す
31	0・13-24	18.2	12.8	2.5	0.8	花十勝	23	8	無柄凹基	凸状部あり、両面に主刺面を残す
32	0・13-26	24.8	14.0	2.4	0.9	黒曜石		11	無柄凹基	基部から一側縁欠損、焼け
33	1・5-20	19.2	15.0	1.7	0.6	黒曜石	24	225	無柄凹基	腹面に主刺面を残す
34	1・6-70	22.6	12.5	1.8	0.6	黒曜石	25	202	無柄凹基	腹面に主刺面を残す
35	1・10-69	20.9	14.0	2.0	0.6	黒曜石	26	64	無柄凹基	腹面に主刺面を残す
36	2・9-39	20.7	14.6	2.0	0.6	黒曜石	27	67	無柄凹基	腹面に主刺面を残す
37	3・6-88	22.5	12.3	4.3	1.2	黒曜石	28	78	無柄凹基	肉厚
38	0・6-94	22.0	14.3	3.0	0.7	黒曜石	29	133	菱形	
39	3・5-08	29.7	15.1	4.7	1.4	黒曜石	30	170	菱形	
40	3・6-63	33.9	15.3	7.0	2.9	黒曜石	31	639	木葉形	肉厚、側縁に楔形石器状の加撃痕あり
41	0・3-23	21.3	17.6	3.5	1.2	黒曜石	32	812	有柄凹基	先端欠損、両面に主刺面を残す
42	0・4-11	37.3	16.8	3.5	1.7	黒曜石	33	794	有柄凹基	両面に主刺面を残す
43	0・4-15	26.1	12.6	2.8	0.6	黒曜石	34	795	有柄凹基	側縁内湾
44	0・5-73	40.5	16.2	4.2	2.2	黒曜石	35	220	有柄凹基	先端わずかに欠損、腹面に主刺面を残す
45	0・5-95	22.0	15.4	5.4	1.4	黒曜石	36	134	有柄凹基	No.141(05-95)と接合
46	0・5-97	47.0	19.5	5.2	3.2	黒曜石	37	642	有柄凹基	先端わずかに欠損、腹面に主刺面を残す
47	0・6-26	35.4	15.0	4.8	2.0	黒曜石	38	91	有柄凹基	側縁つぶれ顯著
48	0・6-70	36.8	19.3	4.0	2.3	黒曜石		132	有柄凹基	先端欠損、腹面に主刺面を残す、凸状部あり
49	0・9-97	21.0	10.7	4.2	0.7	黒曜石	39	75	有柄凹基	肉厚
50	0・11-96	22.6	14.6	3.6	1.0	黒曜石	40	40	有柄凹基	先端・一側縁欠損、側縁内湾
51	1・5-05	56.7	21.7	5.7	4.5	黒曜石	41	147	有柄凹基	
52	1・6-97	40.8	19.4	5.3	2.2	黒曜石	42	201	有柄凹基	一側縁欠損
53	1・10-23	12.5	13.9	3.2	1.0	黒曜石		66	有柄凹基	先端・基部欠損、腹面に主刺面を残す
54	1・12-91	24.4	14.5	5.0	1.2	黒曜石	43	24	有柄凹基	両面に主刺面を残す、凸状部あり
55	2・3-95	23.1	16.7	4.6	1.6	黒曜石		730	有柄凹基	先端・基部欠損

上 表V-2-10 石鏃一覧 (2)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備 考
56	2・7-08	21.5	10.1	3.6	0.9	黒曜石		262	有柄凸基	基部・側縁欠損
57	2・9-98	17.4	12.4	2.7	0.5	黒曜石		86	有柄凸基	基部・側縁欠損
58	3・2-10	29.5	18.9	6.0	2.6	黒曜石	44	728	有柄凸基	肉厚・側縁欠損、腹面に主剥離面を残す
59	3・2-80	29.8	14.2	3.8	1.0	黒曜石	45	671	有柄凸基	先端わずかに欠損、腹面に主剥離面を残す
60	3・5-81	35.0	16.0	6.0	1.8	黒曜石	46	260	有柄凸基	背面に原石面・腹面に主剥離面を残す、凸状部あり
61	3・7-60	46.2	21.8	4.8	3.0	黒曜石	47	80	有柄凸基	
62	4・3-39	25.7	12.2	2.6	0.7	黒曜石	48	667	有柄凸基	両面に主剥離面を残す
63	4・4-01	33.1	12.5	4.8	1.7	黒曜石	49	674	有柄凸基	背面に主剥離面を残す
64	4・4-08	28.8	13.9	5.1	1.5	黒曜石	50	660	有柄凸基	背面に主剥離面を残す
65	4・5-03	13.1	13.1	2.3	0.4	黒曜石		263	有柄凸基	先端・基部欠損、側縁内溝
66	4・5-28	16.2	11.2	2.8	0.6	黒曜石	51	37	有柄凸基	基部欠損、腹面に主剥離面を残す
67	4・6-06	21.0	14.6	2.6	0.6	黒曜石	52	65	有柄凸基	先端欠損、背面に原石面・両面に主剥離面を残す
68	4・7-48	16.8	10.6	3.2	0.6	黒曜石		54	有柄凸基	先端・基部欠損、両面に主剥離面を残す、反っている
69	4・6-07	22.0	15.8	5.6	1.8	黒曜石	53	90	—	肉厚・基部欠損、反っている
70	0・5-75	25.6	14.0	2.4	0.8	黒曜石	54	139	—	先端欠損、焼け
71	3・3-80	25.6	16.0	3.3	1.0	黒曜石	55	693	—	基部欠損、先端わずかに欠損、凸状部あり
72	4・5-43	25.3	11.5	3.5	0.6	黒曜石		261	—	先端から側縁部片、焼け
73	0・3-43	18.5	10.3	4.3	0.8	黒曜石		817	—	基部片
74	0・5-72	14.5	10.4	3.7	0.4	黒曜石		272	—	基部片、焼け
75	0・5-76	15.0	10.5	2.9	0.4	黒曜石		138	—	基部片
76	0・13-39	13.8	12.0	2.2	0.4	黒曜石		14	—	先端部片？、焼け
77	1・3-31	21.7	13.0	2.6	0.7	黒曜石		831	—	基部片
78	1・3-35	15.0	10.0	2.5	0.3	黒曜石		972	—	基部片
79	1・3-56	18.2	12.8	3.0	0.6	黒曜石		970	—	基部片
80	1・3-75	19.6	11.1	2.0	0.4	黒曜石		827	—	基部片
81	1・3-84	18.6	15.2	5.8	1.3	黒曜石		824	—	先端部片
82	1・3-86	10.3	10.8	2.3	0.2	黒曜石		821	—	基部片
83	1・6-21	9.8	7.4	2.8	0.2	黒曜石		607	—	基部片
84	2・4-92	24.3	11.0	3.3	0.9	黒曜石		774	—	中央部片
85	3・4-36	30.1	15.2	6.6	2.0	黒曜石		682	—	未製破損品、焼け

下 表V-2-11 石槍一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備 考
1	0・5-95	24.2	21.6	6.0	2.5	黒曜石		140	有柄平基	先端欠損
2	1・5-49	80.4	35.5	10.2	20.2	黒曜石	56	209	有柄凸基	焼け弾け、腹面に主剥離面を残す、No221(15-01)と接合
3	1・7-94	76.0	39.4	8.0	13.9	黒曜石	57	259	有柄凸基	腹面に主剥離面を残す
4	1・8-11	55.0	30.7	10.7	15.0	黒曜石		82	有柄凸基	基部欠損
5	1・12-77	45.5	30.4	10.0	11.7	黒曜石	58	23	有柄凸基	基部欠損
6	2・7-47	65.0	28.8	9.3	10.1	黒曜石	59	104	有柄凸基	腹面に主剥離面を残す、側縁欠損、焼け
7	2・9-96	60.0	31.0	12.0	15.4	頁岩	60	85	有柄凸基	両面に主剥離面を残す、基部に凸状部あり
8	4・2-10	52.4	21.2	8.3	9.7	頁岩	61	726	有柄凸基	先端わずかに欠損
9	1・12-12	52.2	20.6	6.2	6.1	黒曜石	62	20	木葉形	腹面に主剥離面を残す、反っている
10	0・5-08	33.6	21.2	7.8	5.0	黒曜石	63	119	木葉形	腹面に主剥離面を残す、側縁部つぶれ顕著
11	3・4-95	33.8	17.5	7.4	4.3	黒曜石	64	672	木葉形	先端欠損
12	1・5-25	26.8	24.3	9.5	4.9	黒曜石		148	—	基部片、焼け
13	4・2-47	55.4	22.0	11.8	10.6	黒曜石		767	—	基部片？、側縁に楔形石器的な加磨痕あり
14	4・6-16	24.0	20.3	6.5	2.6	黒曜石		47	—	基部片

石鏃 9点が出土し、1点が焼けている。素材は頁岩とメノウが各1点で、他は黒曜石である。形態は棒状と有柄が各4点、不明1点である。65～67は両頭のもので、いずれも側縁全体につぶれがみられ、67の先端は摩滅し光沢がある。なお、67は素材にねじれがあるため、裏面の剥離で矯正している。68も側縁全体につぶれがみられるが、図上端には使用痕は残されていない。72はメノウを素材とした刃部片で、使用痕はみられない。

表V-3-12 石錐一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0-12-02	31.6	9.9	5.3	1.2	黒曜石	65	29	棒状	焼け、刃部つぶれ
2	0-12-86	45.5	8.4	5.8	2.1	黒曜石	66	28	棒状	刃部つぶれ顯著、反っている
3	3-10-22	40.6	8.7	5.1	1.6	頁岩	67	70	棒状	両側縁面加工、刃部わずかにつぶれ
4	0-13-91	39.3	16.4	7.8	5.3	黒曜石	68	1	棒状	両端わずかに欠損、刃部つぶれ
5	0-3-18	28.2	14.2	4.3	1.2	黒曜石	69	810	有柄	先端わずかに欠損、刃部つぶれ
6	0-8-70	13.6	7.2	2.0	0.2	黒曜石	70	96	有柄	先端わずかに欠損、刃部つぶれ
7	2-10-78	27.2	15.8	4.9	2.0	黒曜石	71	142	有柄	刃部つぶれ顯著
8	3-2-50	44.6	22.1	5.5	3.8	黒曜石		786	有柄	一側縁刃部作出、一側縁刃こぼれ状、反っている、若干摩耗
9	3-4-89	27.9	15.4	5.3	1.8	メノウ	72	673	—	

表V-3-13 楔形石器一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0-12-90	20.5	19.5	6.5	2.6	黒曜石	73	25	凸状	両端つぶれ、基部に原石面を残す
2	1-3-45	34.8	57.0	19.3	34.8	黒曜石	74	829	楔形	三方つぶれ、基部に原石面を残す、基部に剥片痕、石核の転用か
3	1-4-38	26.0	46.3	8.2	10.6	黒曜石	75	216	楔形	両端つぶれ
4	1-12-04	19.0	36.7	6.6	4.6	黒曜石	76	31	楔形	両端つぶれ
5	3-6-07	53.2	35.8	10.4	20.0	黒曜石	77	172	凸状	三方つぶれ、一辺欠損、背面に原石面を残す、削器の転用か
6	0-13-44	20.7	19.9	7.8	3.2	黒曜石	78	5	凸状	縦長、側面に原石面を残す
7	1-12-68	27.0	15.3	6.0	2.9	黒曜石	79	183	凸状	縦長、一側縁欠損
8	表採	32.6	27.6	8.8	7.1	花十勝		960	凸状	縦長、一側縁欠損

表V-3-14 抉入石器

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	抉り部	備考
1	3-2-50	29.3	22.3	11.6	6.3	黒曜石		785	1	破片使用、抉り部若干摩耗

表V-3-15 つまみ付きナイフ一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0-13-34	73.0	24.8	12.2	19.4	花十勝	80	9	縦長	両側縁面加工、刃部つぶれ顯著、先端磨滅、反っている、ねじれあり
2	0-13-36	40.0	25.3	3.3	3.1	花十勝		13	縦長	先端鋭半欠損
3	0-13-52	61.0	21.0	7.2	10.0	花十勝	81	4	縦長	両側縁背面加工
4	1-2-37	22.8	18.9	4.1	1.9	黒曜石		814	縦長	先端鋭半欠損
5	1-8-06	79.0	24.2	7.3	15.1	頁岩		83	縦長	両側縁背面加工
6	2-6-50	46.6	18.0	7.8	3.7	黒曜石	82	152	縦長	一側縁背面加工、反っている
7	3-1-91	59.9	24.6	10.0	11.0	黒曜石	83	694	縦長	両側縁背面加工、刃部つぶれ
8	3-2-55	60.5	20.0	8.3	9.4	頁岩	84	662	縦長	磨耗した剥片使用、一側縁背面加工
9	3-2-75	60.2	21.3	6.0	8.2	黒曜石	85	676	縦長	両側縁背面加工、反っている
10	3-3-77	82.4	42.1	18.4	44.1	黒曜石	86	670	縦長	一側縁背面加工、一側縁背面加工、刃部つぶれ、一側縁つまみ部欠損、再生
11	3-6-58	52.8	12.5	26.3	15.1	頁岩	87	77	縦長	両側縁背面加工、先端切り出し状
12	4-4-46	64.3	29.0	10.5	17.8	頁岩	88	658	縦長	両側縁背面加工、一側縁先端背面加工、先端切り出し状、側面に原石面
13	4-5-39	36.8	25.7	6.8	7.2	黒曜石		34	縦長	先端欠損、磨滅顯著
14	2-6-62	28.0	18.8	3.4	1.4	頁岩	89	150	縦長	両側縁背面加工、先端切り出し状
15	2-11-15	28.4	21.0	5.0	2.9	黒曜石		45	鉤め?	一側縁背面加工、一側縁欠損、先端一側縁つぶれ、若干摩耗
16	3-8-31	37.0	17.0	4.8	2.6	チャート	90	106	縦長	一側縁背面加工、一側縁背面加工、先端欠損
17	4-4-29	32.5	20.9	4.1	2.1	頁岩	91	665	縦長	つまみ部のみ作出、一側縁刃こぼれ状
18	1-2-55	32.1	19.6	7.6	5.8	頁岩	92	807	縦長	両側縁背面加工、先端欠損
19	3-1-79	48.8	19.2	6.6	7.0	頁岩	93	661	縦長	両側縁背面加工、先端未調整
20	2-2-42	56.6	32.0	8.2	12.7	頁岩	94	793	横長	基部側一側縁背面加工、先端一側縁背面加工
21	0-9-72	26.2	18.2	5.7	2.1	黒曜石		88	—	つまみ部のみ
22	4-2-27	17.2	21.1	6.3	2.2	黒曜石		697	—	つまみ部のみ

楔形石器 黒曜石製の8点(1点は花十勝)が出土している。形態は楔形3点、凸状5点で、原石面を残すものが4点ある。74は石核を、77は削器を使用したと思われるもので、いずれも三辺がつぶれている。74は図上面に敲打痕がみられ、77は一辺(図左)を欠く。79も一辺(図左)を欠くが、その破断面には上下両方からのリングがみられ、使用時の破損であることを示している。

表V-3-16 掘器一覽

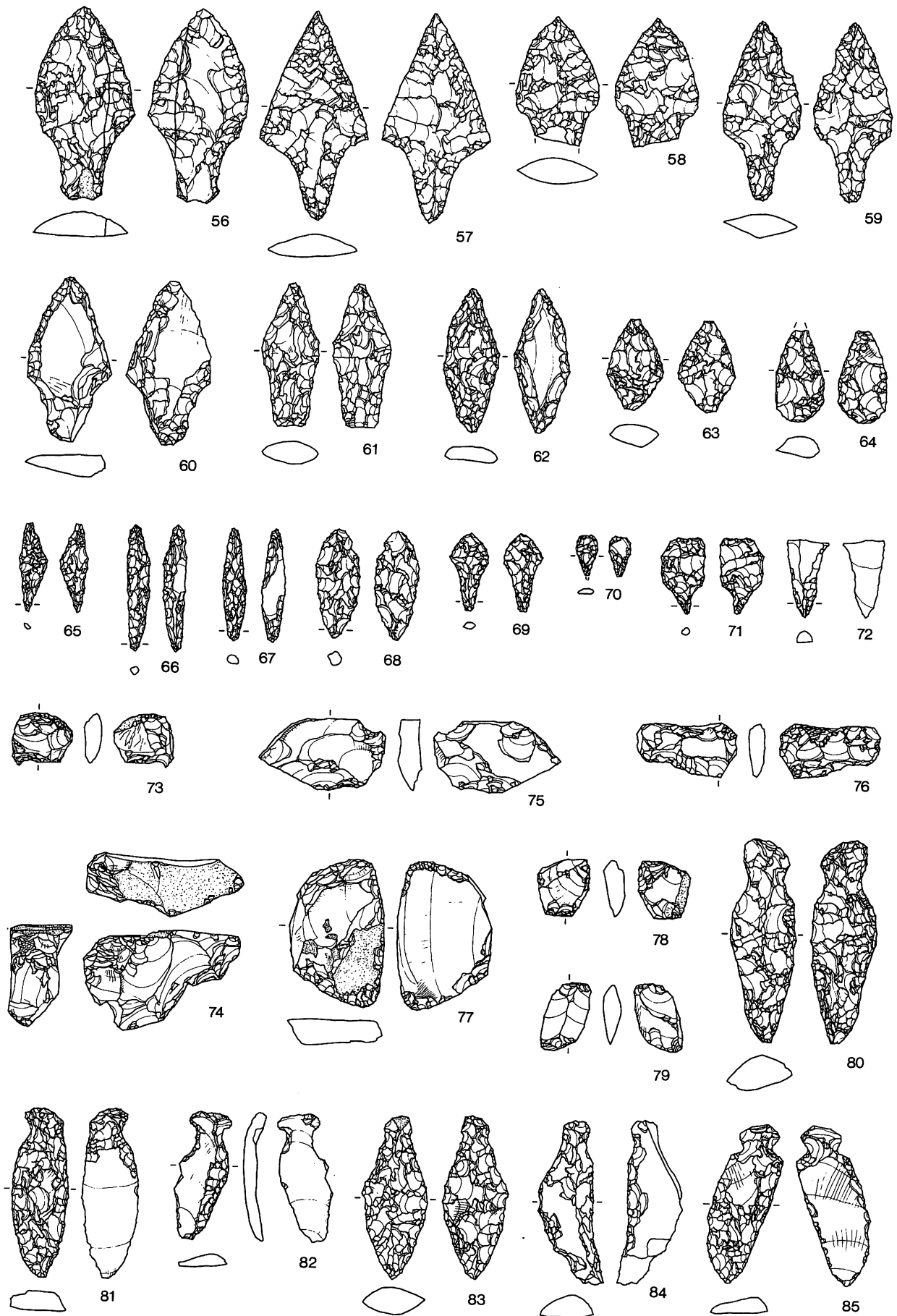
No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0・5-89	68.0	40.8	18.3	62.6	縞頁岩		978	波形刃	礫皮片使用、両端・一側縁に粗い加工
2	0・7-65	69.8	37.2	20.2	46.4	黒曜石	95	115	斜角刃	礫皮片使用、一側縁から両端背面加工、楔形石器的加摩痕あり、焼け
3	1・3-78	80.1	38.9	14.0	41.2	頁岩	96	837	波形刃	礫皮片使用、両側縁に粗い加工、先端切り出し状
4	2・3-75	61.0	39.4	15.4	36.3	黒曜石	97	244	直角刃	横長剥片使用、基部・先端背面加工、一端切り出し状
5	2・3-76	56.2	70.1	28.7	69.8	頁岩	98	776	波形刃	先端に粗い加工、38-11、24-07と接合
6	2・5-91	56.0	52.2	15.0	51.2	流紋岩	99	230	波形刃	先端に粗い加工、一側縁に原石を残す
7	3・1-95	35.8	18.2	10.0	7.2	頁岩	100	712	斜角刃	一側縁背面加工、先端・一側縁背面加工、つまみ付きナイフ再生品か
8	3・4-45	50.7	81.4	24.0	106.1	頁岩	101	689	波形刃	横長の礫皮片使用、先端・基部に粗い加工
9	3・5-05	36.2	27.0	7.4	8.8	黒曜石	102	181	直角刃	礫皮片使用、先端背面加工、摩耗
10	3・6-02	51.8	36.2	13.6	22.1	頁岩	103	160	波形刃	礫皮片使用、両側縁背面加工
11	3・6-06	37.0	21.6	9.5	8.8	黒曜石	104	154	直角刃	礫皮片使用、先端から両側縁背面加工
12	3・6-44	28.0	25.0	10.2	5.7	黒曜石	105	159	直角刃	礫皮片使用、先端背面加工
13	3・6-96	46.8	39.7	13.6	28.0	縞頁岩		641	波形刃	先端・両側縁に粗い加工、基部に原石を残す

表V-3-17 削器一覽

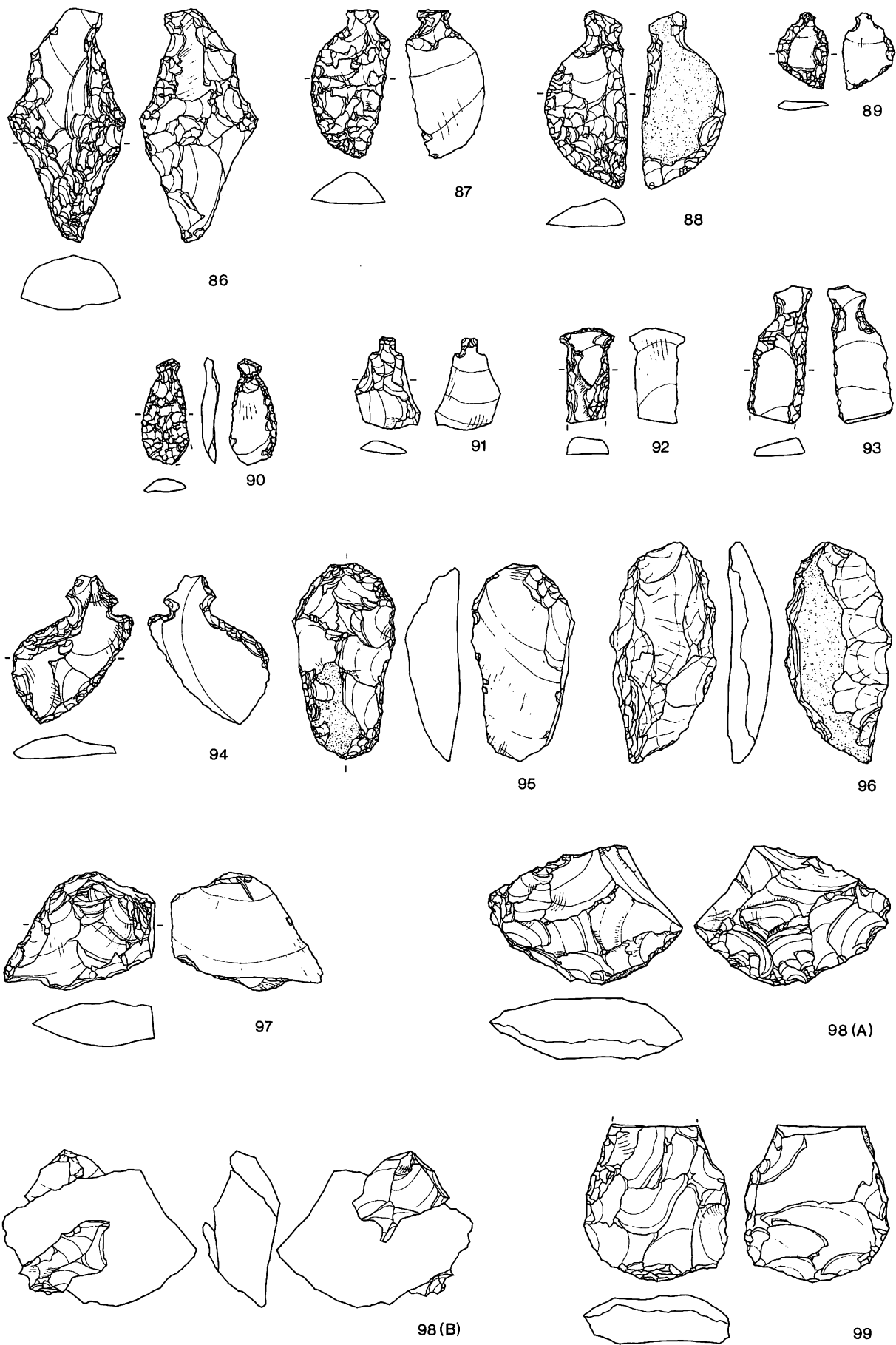
No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0・5-42	51.4	35.0	9.9	18.4	黒曜石	106	232	切出状	両側縁背面加工、基部欠損、一側縁に楔形石器的加摩痕、一側縁掛け
2	0・6-71	88.4	27.3	13.3	25.4	黒曜石	107	130	切出状	一側縁背面・一側縁後面加工、一部背面加工、基部欠損、先端わずかに欠損
3	0・6-81	47.9	27.7	8.6	9.9	花十勝		69	縦長	一側縁から先端背面加工、一側縁欠損
4	0・10-37	23.4	24.2	6.0	3.0	黒曜石		51	—	背面加工の基部片
5	0・12-79	51.0	27.0	13.8	17.0	黒曜石	108	17	縦長	両側縁背面加工、先端刃こぼれ状、基部欠損、反っている
6	0・13-35	45.2	20.2	5.4	4.1	黒曜石	109	12	切出状	一側縁背面・一側縁後面加工、刃部再生、若干摩耗、背面に原石を残す
7	1・3-36	23.2	33.0	7.5	5.4	黒曜石		217	—	背面加工の基部片
8	1・6-36	27.6	15.1	3.4	1.4	頁岩		223	切出状	一側縁背面加工、つまみ付きナイフ？、焼け、16-46と接合
9	2・5-72	36.0	29.7	6.7	6.9	黒曜石		245	切出状?	一側縁背面・一側縁背面加工の先端部片
10	3・2-24	35.8	40.6	8.0	15.8	頁岩	110	704	爪形	先端・一側縁背面加工、一側縁後面加工、基部欠損、一側縁に原石
11	3・2-79	26.3	29.6	7.8	5.8	頁岩		677	—	背面加工の先端部片、一側縁に原石を残す
12	3・3-10	53.5	23.1	6.7	6.8	黒曜石	111	692	切出状	両側縁背面加工、つまみ付きナイフか、焼け、摩耗、一側縁に原石
13	3・3-52	56.0	21.3	9.5	14.2	黒曜石		663	—	礫皮片使用、一側縁背面加工、先端欠損、つまみ付きナイフか
14	3・3-57	98.6	32.8	14.5	38.1	黒曜石	112	664	切出状	両側縁背面加工、基部に原石を残す、刃部つぶれ、先端わずかに欠損
15	3・5-14	57.9	11.8	5.2	5.0	黒曜石	113	246	縦長	礫皮片を使用、先端から一側縁背面加工、焼け
16	3・5-25	49.2	27.6	9.0	10.8	黒曜石	114	180	切出状	両側縁背面加工、つまみ付きナイフか、刃部つぶれ、摩耗
17	3・6-75	27.0	27.7	3.6	2.7	黒曜石		92	—	一側縁背面・一側縁背面加工の先端部片
18	3・7-63	28.2	19.5	5.8	3.7	頁岩	115	81	爪形	先端から一側縁背面加工、一側縁先端側面加工、一側縁に原石を残す
19	4・1-08	34.6	48.2	7.7	10.1	黒曜石		651	横長	両側縁背面加工、先端欠損
20	4・1-13	18.6	21.6	9.2	3.0	頁岩		652	—	一側縁背面加工の中央部片
21	4・2-31	65.3	39.1	15.7	35.4	頁岩		695	縦長	先端から一側縁背面加工、42-20と接合
22	4・3-10	46.0	25.5	7.1	9.7	黒曜石	116	680	縦長	一側縁背面加工、基部欠損、彫刻状刺突あり、先端部極度に摩滅
23	4・3-12	91.3	26.2	10.9	25.1	頁岩	117	655	木葉形	両側縁背面加工
24	4・4-12	23.2	25.0	5.9	2.9	黒曜石		657	—	両側縁背面加工の基部片
25	4・4-48	29.2	25.3	5.7	4.4	黒曜石		666	—	先端から両側縁背面加工
26	4・7-49	79.8	41.0	7.0	24.1	頁岩	118	60	木葉形	礫皮片使用、両側縁背面加工

抉入石器 黒曜石製の1点が出土している。抉入部は些程摩滅していない。

つまみ付きナイフ 22点が出土している。素材は黒曜石12点（うち花十勝3点）、頁岩9点、チャート1点である。形態は2点を除き縦長である。80は肉厚の花十勝を素材としたもので、刃部のつぶれが顕著にみられ、先端は摩滅している。またねじれと反りがきつい。主として石錐的に用いられたものと思われる。83は石槍の可能性もある。84は頁岩の摩耗した剥片を素材としたもので、極めて粗雑な作りである。86はつまみ部の欠損した一側縁を再度裏面から調整している。刃部の角度はほぼ90°で、つぶれが顕著にみられる。腹背面の稜が摩耗しているが、使用時のものかどうかは判然としない。91は頁岩の薄手の剥片につまみ部を作出したもので、刃部加工はなく一側縁（図右）に刃こぼれ状の剥離がみられる。94は唯一横長の剥片を素材としたものである。



図V-3-19 包含層出土の石器 (2)



図V-3-20 包含層出土の石器 (3)

表V-3-18 R・F一覧 (1)

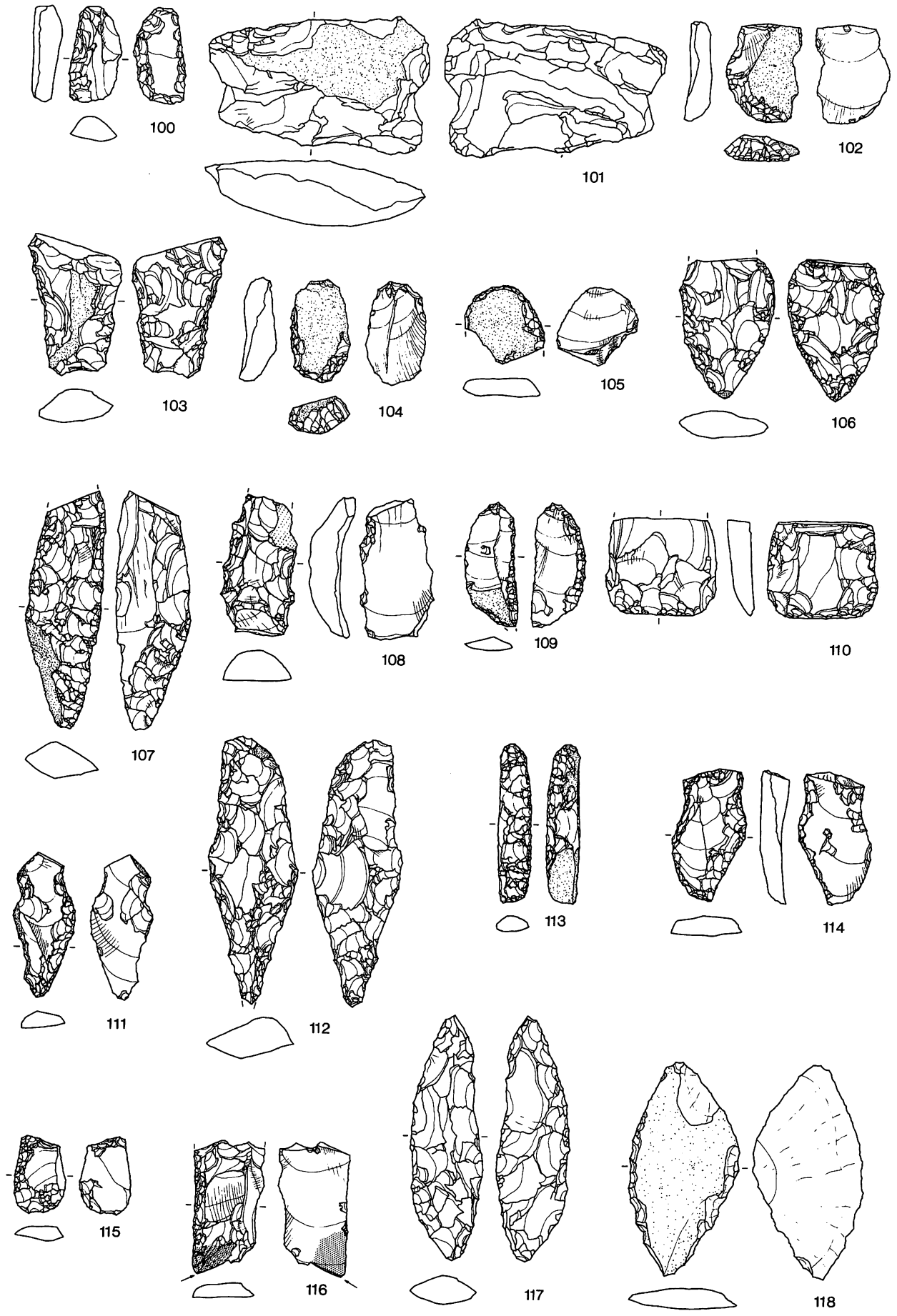
No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	図番	観No	形態	備考
1	0・3-15	18.0	2.7	7.6	2.0	黒曜石		811		背面加工の側縁部片、刃部つぶれ
2	0・3-35	26.5	18.6	5.4	2.1	黒曜石		818	切出状	両側縁面加工、基部欠損、石織木製品か
3	0・3-43	19.4	16.1	5.1	1.1	黒曜石		969		一側縁面加工の基部片
4	0・3-80	37.0	28.5	8.2	8.7	黒曜石		219		一側縁背面加工の中央部片、一側縁に原石面を残す、焼け
5	0・5-17	48.0	39.0	11.2	22.3	メノウ	119	117		両側縁背面加工、礫皮片使用
6	0・5-82	28.1	9.6	4.3	1.0	黒曜石		480		両面加工の側縁部片、焼け
7	0・6-56	54.3	30.3	13.3	23.4	黒曜石		128		一側縁面加工、一側縁刃こぼれ状、基部欠損
8	0・6-61	29.2	17.7	3.6	1.5	黒曜石		131		一側縁面加工、一側縁刃こぼれ状、両端欠損
9	0・6-81	47.9	27.7	8.6	9.9	花十勝		69		一側縁背面加工、先端刃こぼれ状、一側縁に原石面を残す
10	0・10-76	11.5	11.3	2.8	0.6	黒曜石		68		背面加工の側縁部片
11	0・11-53	27.0	33.4	5.6	5.4	黒曜石		41		背面加工の先端部片、焼けてから割れ
12	0・11-81	34.2	14.2	7.2	3.6	黒曜石		39		背面加工の基部片
13	0・11-89	39.5	24.2	8.6	5.9	黒曜石		22	切出状	一側縁背面加工、摩耗した礫皮片使用
14	0・12-34	27.5	17.6	8.3	3.8	黒曜石		19		両面加工の中央部片、石織基部か
15	0・12-43	22.3	20.0	3.0	1.4	黒曜石		30		背面(基部側面)加工の基部片、石織木製品か
16	0・12-60	60.3	49.6	4.6	12.5	泥岩		58		背面加工の基部片、1・11-90と接合
17	0・12-67	25.7	13.4	5.2	1.8	黒曜石		182	切出状	両面加工の先端部片、礫皮片使用、腹面摩耗、刃部つぶれ
18	0・12-72	16.7	17.6	3.6	1.1	黒曜石		645		両面加工の基部片
19	0・12-80	34.2	32.2	6.6	6.4	黒曜石		26		先端背面加工、両側縁に原石面を残す、0・12-81と接合
20	0・12-81	33.6	22.4	10.5	7.2	頁岩		49		両側縁背面加工の基部片
21	0・12-90	28.6	42.0	8.8	8.0	黒曜石		27		背面加工の先端部片、折れ面に腹面加工で刃部再生
22	0・13-16	25.0	21.0	3.6	1.4	黒曜石		15		背面加工の先端部片
23	0・13-25	26.2	25.7	5.2	2.8	黒曜石		10		一側縁背面加工の基部片
24	0・13-45	38.4	28.3	9.4	9.9	黒曜石		6		一側縁背面加工、礫皮片使用、焼け、0・13-34と接合
25	0・14-30	15.0	11.4	2.0	0.4	黒曜石		16		一側縁背面・一側縁腹面加工の先端部片
26	0・14-70	19.4	12.8	2.8	0.8	黒曜石		3		背面加工の先端部片
27	0・14-80	14.2	8.8	1.0	0.2	花十勝		2		腹面加工の先端部片
28	1・2-83	41.3	48.2	16.4	32.9	メノウ		806		先端背面加工、肉厚の礫皮片使用
29	1・3-34	18.1	18.1	4.1	1.2	黒曜石		842		両面加工の先端部片、焼け
30	1・3-34	31.0	18.8	6.6	3.3	頁岩		973		背面加工の側縁部片
31	1・3-63	35.3	31.7	7.5	5.7	黒曜石		828		一側縁背面加工、先端欠損、一側縁に原石面を残す
32	1・3-73	45.2	25.3	5.5	5.6	頁岩		834		一側縁背面加工、基部欠損
33	1・3-83	45.7	20.6	4.4	4.0	黒曜石		838		一側縁背面加工、先端・一側縁欠損、礫皮片使用
34	1・3-95	30.4	15.7	2.5	1.2	黒曜石		825		一側縁背面・一側縁一部背面加工
35	1・3-95	22.2	14.7	2.4	0.9	黒曜石		826		一側縁背面加工の基部片
36	1・5-05	35.1	14.6	3.7	1.8	黒曜石		649		一側縁背面加工
37	1・6-15	16.6	9.5	3.0	0.4	黒曜石		190		一側縁背面加工
38	1・6-56	38.3	15.0	7.0	3.0	黒曜石		168		背面加工の側縁部片
39	1・6-63	18.8	13.0	9.0	2.0	黒曜石		191		両面加工の側縁部片
40	1・11-12	25.0	22.8	4.6	2.2	黒曜石		48	切出状	背面加工の先端部片
41	1・11-64	53.0	34.6	10.0	17.7	頁岩		50		背面加工の側縁部片
42	2・2-92	26.0	41.6	17.6	7.6	黒曜石	120	804		一側縁背面・一側縁腹面加工、上下端に楔形石器状の加摩痕
43	2・2-93	38.9	23.1	9.2	11.2	黒曜石	121	803		先端から一側縁背面加工、肉厚の礫皮片を使用
44	2・3-56	26.8	33.0	6.0	3.8	黒曜石		732		背面加工の基部片
45	2・3-65	14.3	43.2	10.0	6.1	黒曜石		731		両側縁面加工の中央部片、一側縁に挟入石器状の挟りあり
46	2・5-09	18.0	13.7	7.4	1.8	黒曜石		192		両面加工の中央部片、焼け
47	2・5-62	34.6	15.0	10.8	5.6	花十勝		231		一側縁背面加工の基部片
48	2・6-14	34.0	22.5	15.8	10.6	黒曜石		175		先端つぶれ、一側縁腹面加工、肉厚の礫皮片を使用、基部欠損
49	2・6-29	74.5	28.8	9.4	20.2	珪岩		161	切出状	両側縁背面加工
50	2・6-60	78.7	61.8	16.0	52.6	黒曜石	122	153	切出状	両側縁背面加工、肉厚の礫皮片を使用
51	2・6-76	20.0	14.0	5.0	1.0	黒曜石		640		一側縁背面加工、一側縁刃こぼれ状
52	2・8-91	46.0	26.3	11.6	18.7	メノウ		101		一側縁背面加工、原石使用
53	2・10-35	31.8	12.3	7.4	2.4	黒曜石		55		一側縁背面加工、一側縁に原石面を残す
54	2・10-47	33.9	18.6	6.3	3.4	黒曜石		56		一側縁背面加工、焼け
55	2・11-60	54.3	28.7	9.0	13.0	黒曜石		44		先端背面加工、基部欠損、焼け、若干摩耗、礫皮片使用

表V-3-19 R・F一覧 (2)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
56	3・1-33	65.2	40.8	15.5	33.4	頁岩		867		先端両面加工、一側縁に原石面を残す、41-10と接合
57	3・1-44	60.0	25.0	4.9	7.7	頁岩		747	切出状	一側縁背面加工
58	3・1-53	19.2	24.4	4.6	2.1	黒曜石		713		基部から一側縁背面加工、一側縁欠損
59	3・2-80	19.3	11.2	3.2	0.6	黒曜石		703		腹面加工の側縁部片、基部に原石面を残す
60	3・3-25	46.4	43.6	16.8	23.1	黒曜石		734		先端から一側縁背面加工、摩擦、基部に原石面を残す
61	3・3-25	45.0	58.3	22.4	46.1	黒曜石		791		先端・両側縁背面加工、基部欠損、摩擦、礫皮片を使用
62	3・3-38	24.3	23.9	9.8	6.9	黒曜石		681		先端つぶみ、一側縁両面加工、基部欠損、礫皮片を使用
63	3・3-59	40.1	37.1	7.8	8.6	黒曜石	123	669		両側縁背面加工、礫皮片を使用
64	3・6-00	23.0	18.5	3.8	1.1	花十勝		174		両側縁背面加工、先端欠損
65	3・6-07	70.0	40.6	13.6	48.8	縞頁岩	124	171		一側縁両面・一側縁背面加工、基部欠損
66	3・6-11	53.2	42.0	10.5	18.4	黒曜石		176		礫皮片使用、先端・両側縁背面加工
67	3・6-15	18.4	12.4	2.6	0.7	黒曜石		178		両側縁背面加工、先端刃こぼれ状
68	3・6-17	17.4	21.8	10.0	3.2	黒曜石		186		両面加工の側縁部片、背面に原石面を残す
69	3・6-18	30.7	28.0	10.3	8.8	黒曜石		157		基部両面・一側縁背面加工、先端欠損、摩擦
70	3・6-19	49.6	42.0	7.7	16.7	メノウ		163		一側縁背面加工、先端欠損、焼け
71	3・6-95	33.5	31.6	5.8	6.2	黒曜石		79		両側縁背面加工、先端欠損
72	3・7-53	26.8	30.0	5.5	5.0	黒曜石		87		先端背面加工、摩擦、一側縁に原石面を残す
73	3・10-04	47.5	37.3	9.0	17.6	頁岩		71	切出状	一側縁両面・一側縁腹面加工、礫皮片を使用
74	3・10-10	36.7	18.7	6.7	2.8	黒曜石		73		背面加工の先端部片
75	3・10-11	41.6	26.2	9.7	10.6	黒曜石		72		一側縁背面加工、基部欠損、礫皮片を使用
76	4・0-19	26.3	18.0	4.3	1.8	黒曜石		659		両側縁腹面加工、先端欠損
77	4・1-22	28.3	58.5	14.2	14.7	黒曜石		706		背面加工の先端部片、背面に原石面を残す
78	4・1-29	43.6	29.8	12.3	14.7	頁岩		702	切出状	先端から一側縁背面加工、焼け
79	4・1-33	38.5	21.4	4.9	3.1	黒曜石		708		一側縁背面加工、礫皮片を使用、焼け
80	4・2-10	38.9	19.6	10.3	6.9	黒曜石		696		両側縁背面加工、礫皮片を使用
81	4・2-10	24.7	39.0	11.6	11.3	黒曜石		727		一側縁背面加工の基部片、礫皮片を使用、極端か
82	4・2-12	15.6	22.3	5.6	1.5	黒曜石		653		背面加工の先端部片、焼け
83	4・2-21	18.2	20.2	4.2	2.0	黒曜石		699		一側縁背面加工、礫皮片を使用
84	4・2-23	20.0	10.1	6.2	1.1	黒曜石		698		両面加工の先端部片、刃部つぶみ
85	4・2-30	26.2	13.4	7.8	2.6	黒曜石		720		背面加工の側縁部片、刃部つぶみ
86	4・2-31	41.5	29.4	8.7	8.0	黒曜石		701		両面加工先端部片、礫皮片使用、焼け、700(42-33)と接合
87	4・3-14	23.8	29.2	5.2	3.3	黒曜石		656		両側縁背面加工の中央部片、焼け
88	4・3-31	33.4	41.2	10.6	9.0	黒曜石		654		先端腹面加工、礫皮片を使用、焼け
89	4・3-43	31.5	28.7	6.5	5.3	黒曜石		766		一側縁腹面加工、礫皮片を使用、焼け
90	4・4-26	21.1	18.0	3.9	1.0	黒曜石		844		両面加工の先端部片、石核基部か
91	4・4-29	49.3	25.6	6.7	6.3	黒曜石		218		一側縁背面加工、焼けた礫皮片を使用
92	4・5-39	52.8	17.0	8.8	6.8	黒曜石	125	35		両面加工の側縁部片、細石刃痕もしくはデュアリンの可能性あり
93	4・5-49	29.1	29.4	9.8	7.9	黒曜石		143	切出状	背面加工の先端部片
94	4・6-07	20.4	14.0	6.2	1.6	黒曜石		42		背面加工の先端部片
95	4・7-04	16.9	21.5	3.8	1.4	黒曜石		650		両側縁背面加工の基部片、焼け
96	4・7-07	34.8	26.7	10.0	7.9	メノウ		61		一側縁背面加工の基部片
97	表採	15.0	15.2	3.6	0.9	黒曜石		961		両面加工の中央部片、焼け、石核か

**搔器** 13点が出土している。素材は黒曜石・頁岩各5点、縞頁岩2点、流紋岩1点である。刃部形態では、主剥離面とほぼ直角をなすもの（直角刃）が4点、直角に近い角度をもつもの（斜角刃）2点、腹背面からの比較的粗い加工によって波形をなすもの（波形刃）7点である。95は焼けた斜角刃で、刃部全体がつぶれており、図右側縁と上部に楔形石器状の加撃痕がある。96は頁岩の礫皮片を素材とし、両側縁に波形刃を作出している。98 A は頁岩を素材とした波形刃で、剥片2点が接合した（98 B）。99は流紋岩を素材としたもので先端が波形刃である。100はつまみ部の折れたナイフを再生し、先端に斜角刃を作出したものであろう。101・103は頁岩製の波形刃で、いずれも相対する二辺に刃部をもつ。102・104・105は黒曜石の礫皮片を使用した直角刃で、105はラウンド・スクレイパーの破損品の可能性がある。





図V-3-21 包含層出土の石器 (4)

**削器** 26点が出土し、素材は黒曜石18点（うち花十勝1点）、頁岩8点である。106・107は共に先端が切り出し状に作出されている。いずれも基部を欠き、つまみ付きナイフの可能性もある。106は図左側縁に楔形石器状の加撃痕があり、それに対応する右側縁に弾けがみられる。108は先端側が極端に湾曲し、刃こぼれ状の使用痕がみられる。109は礫皮の残る縦長剥片を素材とし、原形は一侧縁は背面から、他側縁は腹面からの加工で切り出し状に作出したものと思われる。先端を欠いた後、背面からの加工で刃部を再生し、更に先端を欠損している。110は頁岩を素材とするもので、基部側を欠く。先端に両面からの刃部加工があり、両側縁は先端とほぼ直角になるように調整されている。111は、つまみ付きナイフあるいはその未製品の可能性がある。摩耗し、焼けている。112は先端をわずかに欠くが、切り出し状の刃部をもつ。先端側両側縁のつぶれは顕著である。113は礫皮片を素材としたもので、丁寧な刃部加工がなされており、焼けている。114はつまみ付きナイフの可能性もある。刃部はつぶれ、全体に摩耗している。116は先端に彫器状の剥離がみられる。また、先端及びその腹背面が極度に摩滅しており（図のスクリーン・トーン部分、彫器面に沿った長い使用痕と、先端から基部側に向かう短い使用痕が鮮明にみられる（写真図版96）。一方側縁部の刃部加工は、摩耗以前のものとの以後のものがあり、刃部のつぶれも彫器面のものよりは新しい。

**R・F** 97点出土し、16点が焼けている。石材は大半は花十勝を含む黒曜石であるが、その他にメノウ5点、頁岩8点と縞頁岩・泥岩・珪岩各1点がある。No. 15は、石斧制作過程で得られたと思われる暗緑色泥岩の礫皮片を素材とし、その縁辺に刃部加工を施したものの基部片である。石斧制作に関わる泥岩の剥片は3・1区を中心に多数出土しているが、それを利用した石器はこれ1点のみである。図番120は楔形石器状の加撃痕が上下端にみられる。121は肉厚の礫皮片を素材としたもので、先端は斜角刃の搔器的な刃部加工が施されている。No. 44は抉入石器状の抉りがある破片で、抉り部は些程摩滅していない。125は両面加工の側縁部片で刃部はつぶれている。なお、図の左側から彫器状の剥離がなされているが、明瞭な使用痕はみられない。また図右側面には上下からの剥離痕がある。こうした点から彫器あるいは細石核の可能性もあると考えられる。

**U・F** 14点出土し6点が焼けている。石材は全て黒曜石（1点は花十勝）である。126は一侧縁に刃こぼれ状の使用痕がある。先端部は焼けているが、3・6-00区出土の基部側は焼けていない。

**石製品** 黒曜石製の焼けたもの1点（127）が出土している。図の上下方向を欠いているが、下端部は更に広がる形で続くようである。側縁は両方共につぶれがみられる。

**ニードル** 黒曜石製の2点がある。128は先端を欠くが、摩耗した棒状原石の一端を細く加工している。No. 2は三角形に剥がれた礫皮片をそのまま使用したもので、先端が摩滅し、主剥離面も若干の摩耗がみられる。

**ブレード** 黒曜石製の2点がある。129は焼け弾けによって割れたもので、3ヵ所から出土した破片が接合した。基部側を欠き、側縁部と先端の一部も見つかっていない。また稜は摩耗している。両側縁に刃こぼれ状の使用痕があり、この部分は摩耗していない。130も稜と側縁部に摩耗がみられるが、図の側縁上部には摩耗していない刃こぼれ状の剥離がみられる。なお、先端部に彫器状の剥離があり、この打点部には若干のつぶれがみられるが、図番116のように明瞭な使用痕は認められない。

**石核** 10点出土している。石質は黒曜石7点、メノウ・頁岩各2点である。131は各面から剥片を剥いだ後、焼け弾けによって割られている。132は全体に摩耗しているが、上下端に楔形石器状の加撃痕がみられる。

表V-3-20 U-F一覽 (1)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0・5-18	37.0	43.8	7.0	5.5	黒曜石		118		先端・一側縁刃こぼれ状、一側縁欠損、焼け
2	0・13-24	21.2	12.5	2.7	0.8	黒曜石		647		側縁部片
3	0・13-59	38.0	26.2	5.6	4.0	黒曜石		648		先端・両側縁刃こぼれ状
4	0・13-74	38.2	22.7	4.9	4.1	黒曜石		145		一側縁刃こぼれ状、0・12-81と接合、一側縁に原石面を残す
5	1・6-14	29.0	22.0	5.5	2.9	黒曜石		193		一側縁刃こぼれ状、背面に原石面を残す
6	1・6-27	43.8	20.7	4.7	2.5	黒曜石		226		一側縁刃こぼれ状、一側縁欠損、焼け
7	2・6-10	56.1	35.1	14.9	24.7	黒曜石		167		一側縁刃こぼれ状、先端欠損、26-10と接合、焼け
8	2・6-11	27.7	28.0	14.0	8.3	黒曜石		166		側縁部片、先端に原石面を残す
9	2・6-12	49.6	47.3	15.3	27.6	黒曜石	126	165		一側縁刃こぼれ状、先端欠損、焼け、164(36-00)と接合
10	2・10-01	30.5	21.2	2.5	1.7	黒曜石		62		両側縁刃こぼれ状、先端欠損
11	3・1-33	18.6	20.0	7.2	2.2	黒曜石		714		先端部片、先端つぶれ、一側縁刃こぼれ状、背面に原石面を残す
12	3・5-09	17.0	16.7	2.0	0.5	黒曜石		162		基部片、一側縁刃こぼれ状、焼け
13	3・6-94	25.4	43.3	9.3	7.5	黒曜石		76		先端・一側縁刃こぼれ状、一側縁欠損、石鏃か
14	3・9-09	39.0	31.7	10.0	8.7	花十勝		103		基部片、一側縁刃こぼれ状、基部・一側縁に原石面を残す

表V-3-21 石製品

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	2・6-00	29.0	13.1	4.4	1.6	黒曜石	127	173		両端欠損、焼け

表V-3-22 ニードル一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	2・4-45	57.6	13.3	8.7	7.6	黒曜石	128	717	棒状黒石	先端欠損
2	2・4-45	61.2	12.3	8.4	5.2	黒曜石		718	鏡状片	前面三角形、二面に原石面を残す、先端磨滅、主軸面若干摩耗

表V-3-23 ブレード一覽

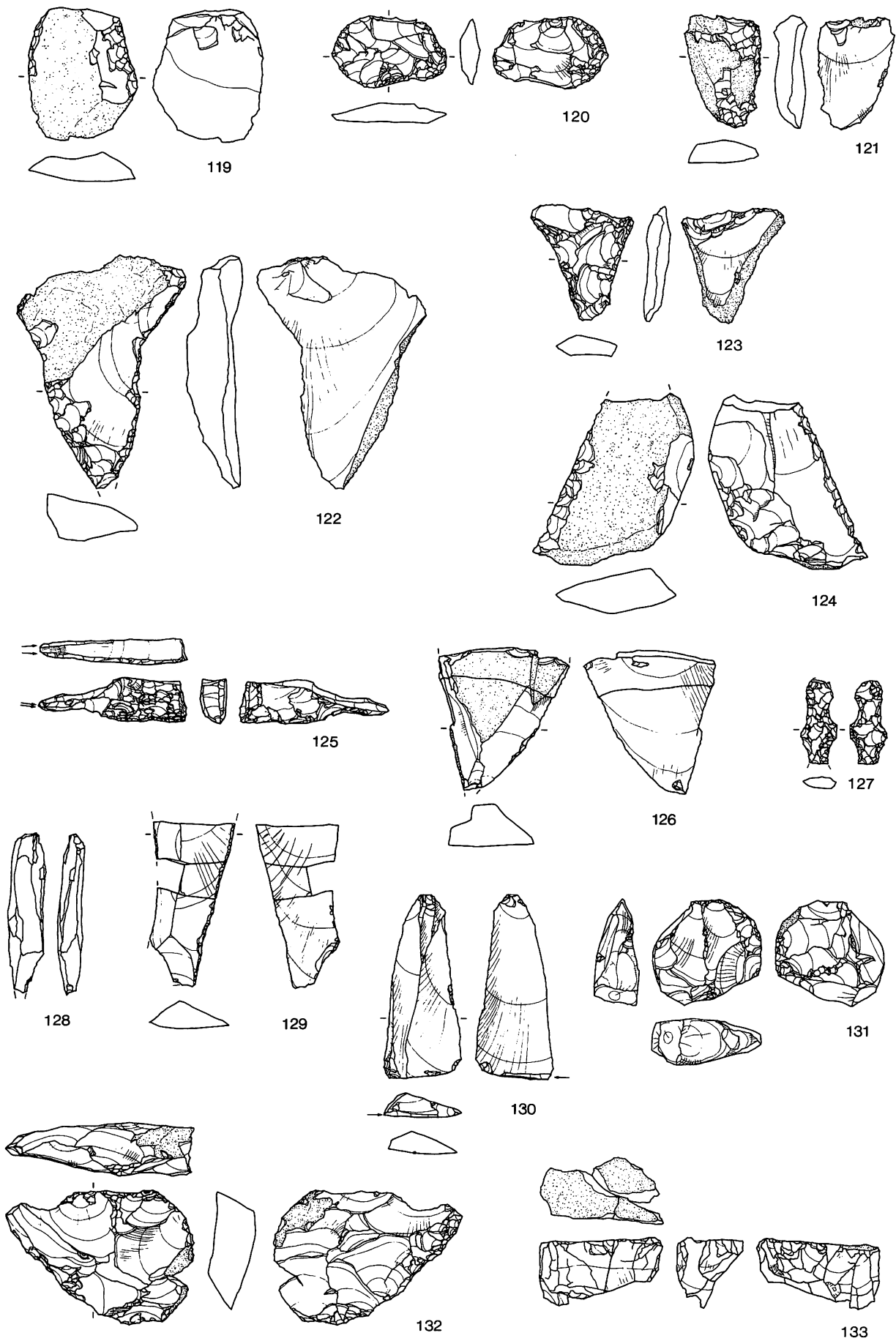
No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0・6-71	60.2	28.8	9.8	10.8	黒曜石	129	137	一稜	基部欠損、先端・一側縁一部欠損、両側縁刃こぼれ状、焼け焼け、磨耗した石刃使用、06-81、17-54と接合
2	3・2-44	67.3	27.9	8.4	13.1	黒曜石	130	783	一稜	細石刃鏃か、磨耗した石刃使用

表V-3-24 石核一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0・3-22	37.9	38.8	17.2	23.5	黒曜石	131	860		焼き焼け、一面に原石面を残す
2	1・4-95	50.8	21.0	23.8	37.1	メノウ		772		五面に原石面を残す
3	2・4-45	36.0	29.2	24.1	24.2	黒曜石		719		一面に原石面を残す
4	2・6-02	32.0	24.6	9.8	6.8	頁岩		158		二面に原石面を残す
5	3・3-25	46.4	69.0	18.7	53.6	黒曜石	132	735		二面に原石面を残す、上下端に楔形石器状の加摩痕、磨耗
6	3・9-29	39.0	25.0	18.6	19.3	頁岩		98		三面に原石面を残す、焼け
7	4・1-43	25.5	55.8	12.7	16.9	黒曜石		709		三面に原石面を残す
8	4・2-37	45.8	40.6	16.7	32.0	黒曜石		721		三面に原石面を残す
9	4・3-26	30.5	33.9	15.2	15.5	黒曜石		668		一面に原石面を残す
10	4・4-12	23.4	48.4	16.0	8.6	黒曜石		690		一面に原石面を残す、焼け

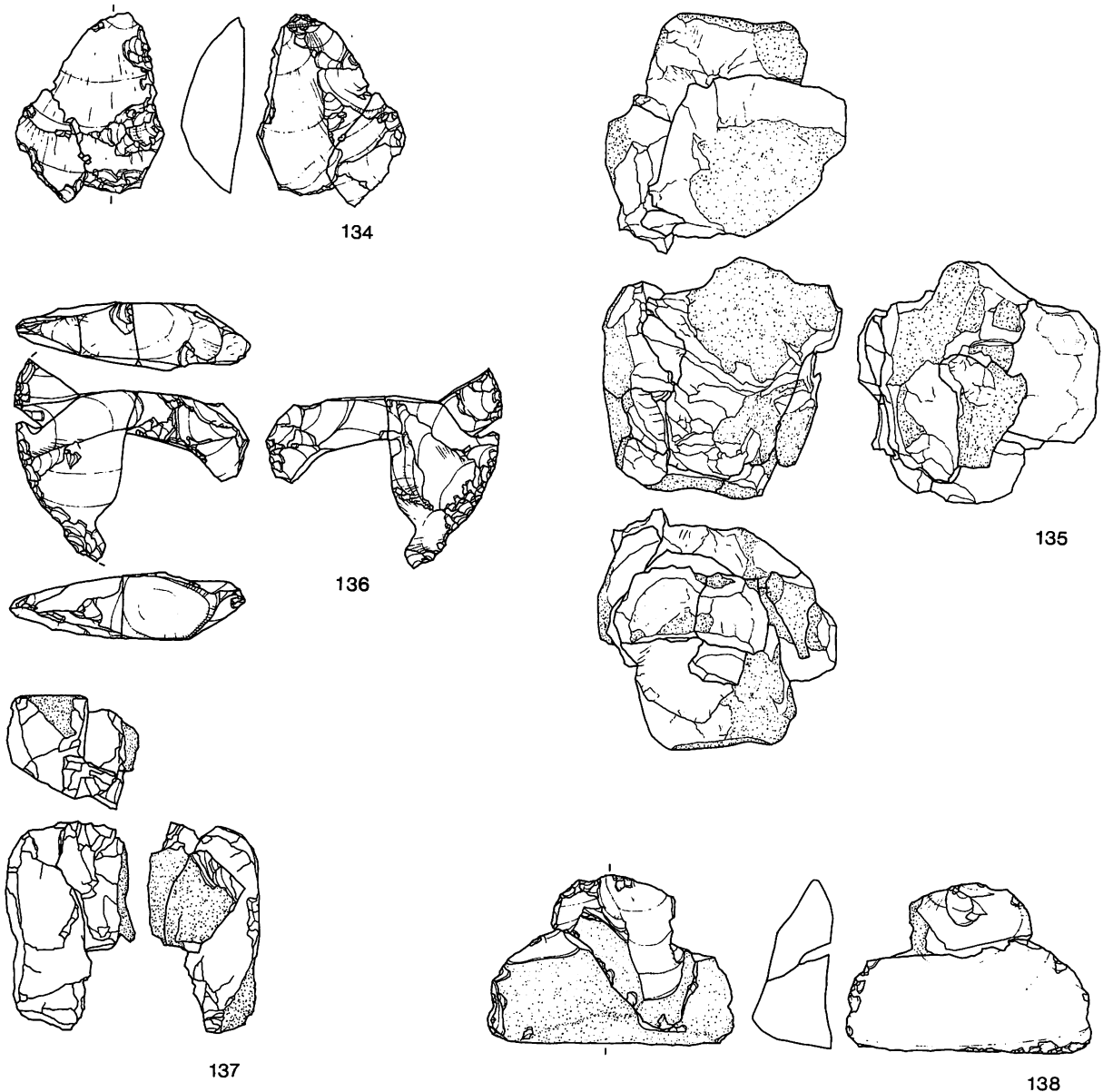
表V-3-25 接合資料一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	形態	備考
1	0・4-37	22.6	24.8	21.1	8.0	メノウ		622		焼き焼け、05-83と接合
2	0・5-75	45.9	24.0	22.2	21.4	メノウ	133	127		焼き焼け、05-75と接合
3	0・6-54	57.2	43.8	19.8	34.6	黒曜石	134	144		焼き焼け、先端に刃部加工、47-44と接合
4	2・2-20	70.9	69.5	65.1	289.2	メノウ	135	805		焼き焼け、31-68、32-21、32-27、32-39、32-45と接合、32-27出土利片は二度焼けか
5	2・6-04	59.7	67.9	18.4	37.0	黒曜石	136	177		焼け焼け、一側縁に刃部加工、FP38出土の図番6と同一原石か 108(37-23)、26-25と接合
6	3・2-58	63.2	33.6	31.4	64.5	縞頁岩	137	975		焼け焼け、33-54、35-27と接合
7	3・3-25	71.6	47.8	24.7	64.7	黒曜石	138	736		ほぼ全周に刃こぼれ状とつぶれ、腹面磨滅・横方向の磨痕 33-25と接合



図V-3-22 包含層出土の石器 (5)

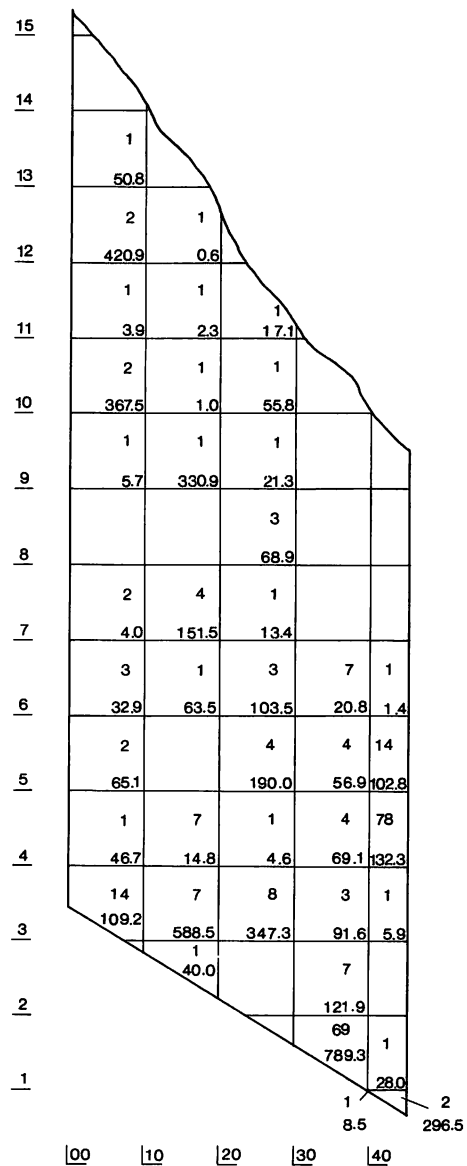
**接合資料** 小さな剥片が同一区で接合した例を含めると、かなりの量の接合資料があるが、主なもの7個体を表にした。このうち6例が焼け弾けである。No. 1・図番133はメノウの焼け弾けで、モザイク状のヒビが入り、リングやフィッシャーは判然としない部分が多い。No. 1では0・5-83区出土の焼けた剥片1点が接合した。134は黒曜石の焼け弾け資料である。接合した破片はほぼ40m離れた4・7-44区からの出土である。どちらにも先端に背面からの刃部加工がみられ、焼け弾け後にそれぞれが石器として用いられていたものと思われる。135はメノウ原石の焼け弾け資料である。正面図左側に接合した剥片（3・2-27区出土の7点が接合し礫皮片となっている）は、他の部分に比して焼け方が著しく、この部分のみが再び火熱を受けたものと思われる。136は側縁部に刃部加工がみられる黒曜石の焼け弾け資料である。上面図・下面図にみられる、剥離中央のリングが集約するバルブ(?)が、焼け弾けた剥片類の最大特徴である。FP 38出土の図番6と同一原石と思われるもので、これに関連する遺物と思われる。137は縞頁岩の焼け弾け資料である。138は黒曜石の肉厚な礫皮片の接合資料である。ほぼ全周に刃こぼれ状の剥離とつぶれがみられ、腹面に横方向の擦痕と摩滅がある。



図V-3-23 接合資料

**石斧** 破片を含め272点が出土している。内訳はほぼ完形のもの5点、刃部を欠くもの9点、基部を欠くもの7点、未製品2点、原石片・すり切り残片各1点と剥片類である。石材は泥岩が中心で、他に片岩が多く、砂岩製が1点（No. 22・図番146）と珪岩の破片1点（No. 24）が出土している。

全体の出土分布を図V-3-17・24に示した。製品類は、点数の少ないこともあって極端な偏りはみられないが、剥片類は3・1区を中心とする接合関係が目立ち、0・3区と4・4区にもまとまった出土傾向がある。表V-3-26~29は、接合関係を中心に、同一母岩と思われる破片類を一括してNo. を与えたものである。図番141は緑色泥岩の偏平長楕円礫を素材とし、その一面と端部をすって蛤刃に近い刃部を作出している。No. 14は砂質の緑色泥岩が素材で、刃部を欠いている。基部・両側縁・破断面・一面にそれぞれ敲打痕がみられ、破損後たたき石的に用いられたことが窺われる。142は黒灰色泥岩製で、刃部を欠く破片が調査区北側の4地点から出土し接合した。143は大型の白緑色泥岩を素材としている。両側縁が敲打剥離で調整されているが、先端部は未調整で、敲打痕がみられる。144は青黒色片岩製で基部から腹面を欠く。145は全体に丁寧なみがきが施されたもので、刃部の作出状態をみると再生の可能性が高い。146は砂岩製で、全体が比較的丁寧にみがかれている。両側縁に平行する刻みが何条もみられるが、制作時のものか着装時のものかは判然としない。No. 25は敲打痕が両側縁に顕著にみられる原石片で、3・1区の集中出土地点内から得られた原石片と接合している。147はすり切り残片で、焼けて赤褐色を呈している。150は極端に片減りした刃部をもつもので、先細りになっており、基部側に刃を再生したものの可能性がある。151は剥片が3・1区集中出土地点から得られた原石片と接合したもので、敲打痕がみられる。152は両刃の刃部片と思われるものであるが、刃部は顕著な敲打痕によってつぶれている。153は非常に整った形の先端部で、刃部には使用による縦方向の擦痕が顕著で、片減りしている。154も153とほとんど同形の先端部である。刃部は片減りが顕著で片刃的であるが、これは再生を繰り返した結果かと思われる。使用痕は擦痕ではなく剥離痕で残されている。No. 61~65は3・1区の集中出土地点の資料である。No. 63（図番157）を除き全て緑色泥岩の破片で、中でも礫皮片の割合が高く、敲打痕がみられるものも多い。従って、これらは石斧の一次製作に関する破片類と考えられる。156は破片類の接合資料で、やはり礫皮部分に敲打痕がみられる。157は薄手の片岩製のもので刃部を欠くが、基部側が一面から薄く研ぎ出されており、この部分が刃部として使用されていたものと思われる。158は小型の石斧で、先細りの形態を呈す。石のみもしくは基部側に刃



図V-3-24 石斧の分布

表V-3-26 石斧一覽 (1)

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	図番	遺No	備考
1	0・3-13	47.4	17.0	4.4	4.1	青灰色片岩		799	剥片
2	0・3-15	84.6	33.4	9.1	47.2	青灰色片岩	139	796	磨蝕、両刃、基部欠損
3	0・3-23	37.8	43.5	12.5	24.8	緑色泥岩		798	側縁部片
4	0・3-24	18.5	25.2	4.6	1.7	緑色泥岩		807	基部片、鋭打痕あり
	0・3-25	28.8	21.6	3.4	2.2	緑色泥岩		808	背部片
	0・3-25	13.4	41.9	3.7	1.9	緑色泥岩		809	背部片
	0・3-25	31.0	14.0	1.3	1.4	緑色泥岩		810	背部片、797(03-26)と接合
	0・3-26	—	—	—	1.8	緑色泥岩		797	剥片、2点あり
	0・3-32	—	—	—	2.4	緑色泥岩		879	剥片、2点あり
	0・3-33	27.0	38.8	4.6	4.6	緑色泥岩		800	背部片
5	0・3-43	37.7	19.0	7.8	8.4	茶色泥岩	140	791	刃部欠損
6	0・3-43	24.8	30.3	9.0	8.7	緑色泥岩		806	側縁部片
7	0・4-11	94.8	34.3	12.4	46.7	緑色泥岩		778	中央部片、鋭打痕あり
8	0・5-03	28.3	24.8	3.4	3.1	白緑色泥岩		460	背部片
9	0・5-29	80.2	29.0	14.4	62.0	緑色泥岩	141	287	偏平長楕円盤の一端をすって刃部を作出
10	0・6-43	15.8	34.7	15.0	9.0	茶色泥岩		247	基部片
11	0・6-76	50.6	38.4	10.0	18.2	黒色泥岩		520	背部片
12	0・6-84	36.3	22.5	6.4	5.7	緑色泥岩		499	背部片
	0・7-28	29.6	21.4	2.0	1.8	緑色泥岩		196	背部片
	0・7-86	30.0	21.6	3.4	2.2	緑色泥岩		279	背部片
13	0・9-18	34.4	21.8	5.8	5.7	緑色泥岩		122	側縁部片
14	0・10-15	88.0	48.3	21.6	148.4	緑色泥岩		95	刃部欠損、基部・両側縁・一面・破損面に鋭打痕あり
15	0・11-62	29.6	29.6	3.2	3.9	黒色泥岩		544	背部片
16	0・10-26	90.8	52.9	30.7	219.1	黒灰色泥岩	142	101	刃部欠損、92・32・53(1・11-46、0・12-43,45)と接合
17	0・12-35	11.8	12.0	4.0	0.9	緑色泥岩		34	背部片
	1・12-68	18.8	12.5	4.0	0.6	緑色泥岩		35	背部片
18	0・12-96	147.4	67.3	25.4	420.0	白緑色泥岩	143	41	両側縁に鋭打痕、刃部未調整、先端鋭打痕
19	0・13-87	97.0	39.4	9.0	50.8	青黒色片岩	144	4	両刃、基部から腹面欠損
20	1・2-95	62.1	44.2	11.0	40.0	白緑色泥岩		785	刃部欠損
21	1・3-09	63.2	45.7	11.8	58.0	灰色片岩	145	815	基部に鋭打痕あり、刃部再生か
22	1・3-11	108.0	44.5	27.8	214.2	灰色砂岩	146	824	両端・両側縁に鋭打痕あり、両側縁に刻みあり
23	1・3-23	25.1	23.2	11.6	5.6	緑色泥岩		826	刃部片、両刃
	1・3-49	23.9	25.9	6.5	3.4	緑色泥岩		832	背部片
24	1・3-63	61.3	75.4	7.9	33.5	青灰色珪岩		636	背部片
25	1・3-73	106.4	65.3	23.4	225.1	白緑色泥岩		555	厚石片、鋭打痕あり、698(31-34)と接合
26	1・3-85	82.2	19.6	22.8	48.7	赤褐色泥岩	147	821	すり切り残片、焼け
27	1・4-01	24.6	15.5	2.3	1.0	緑色泥岩		801	背部片
28	1・4-36	38.4	43.0	5.0	7.3	緑色泥岩		437	背部片
29	1・4-53	7.8	15.8	2.3	0.2	黒灰色泥岩		883	背部片
30	1・4-60	15.4	9.5	3.3	0.6	緑色泥岩		881	背部片
31	1・4-61	—	—	—	5.4	黒緑色泥岩		749	背部片、2点あり
32	1・4-62	10.1	13.9	1.1	0.3	緑色泥岩		780	背部片
33	1・6-73	26.4	54.8	25.0	63.5	黒緑色泥岩		408	中央部片
34	1・7-03	25.5	10.1	3.5	1.0	緑色泥岩		391	剥片
	1・7-23	22.0	11.2	4.1	1.7	緑色泥岩		390	剥片
35	1・7-82	82.0	41.6	18.5	99.2	黒色泥岩	148	337	刃部欠損、270(27-04)と接合、基部に鋭打痕
36	1・7-85	58.2	50.2	11.8	49.6	黒色片岩	149	338	刃部片、両刃
37	1・9-98	113.6	59.0	32.5	330.9	黒灰色泥岩	150	162	基部欠損、両刃、片減り、基部に刃部再生か
38	1・10-62	22.7	20.0	2.0	1.0	緑色泥岩		51	背部片
39	1・11-85	36.5	12.4	4.6	2.3	黒灰色片岩		81	背部片
40	2・3-13	49.2	42.9	7.1	19.7	緑色泥岩		723	刃部片、片刃
41	2・3-26	98.0	75.8	42.7	160.2	緑色泥岩	151	724	厚石片、701・704・707・644(31-24,33,43,54)
	3・1-43	—	—	—	8.8	緑色泥岩		707	剥片、5点あり
42	2・3-51	25.7	17.4	6.1	2.6	緑色泥岩		776	背部片
43	2・3-53	45.5	67.0	16.7	71.3	青緑色片岩	152	838	刃部片、鋭打痕あり

表V-3-27 石斧一覧 (2)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	測No	備考
44	2・3-65	26.5	19.3	4.4	2.2	緑色泥岩		772	背割片
	2・3-65	20.8	25.8	6.1	2.7	緑色泥岩		773	側割片
	2・3-75	16.9	27.2	3.2	2.0	緑色泥岩		683	剥片
45	2・3-68	64.3	51.3	23.4	86.6	緑色泥岩		759	刃部片、両刃
46	2・4-40	41.2	17.9	5.0	4.6	緑色泥岩		733	背割片
47	2・5-08	25.3	41.4	4.2	4.4	灰色泥岩		404	剥片、405(25-08)と接合
48	2・5-74	57.3	43.5	19.2	72.2	黒緑色泥岩		451	基部片、装束あり
49	2・5-77	78.6	49.8	14.0	112.7	緑色泥岩	153	364	基部欠損、両刃、片減り、刃部に使用による縦方向の磨痕顕著
50	2・5-87	26.9	12.0	1.8	0.7	緑色泥岩		389	剥片
51	2・6-17	33.9	19.0	6.9	5.8	緑色泥岩		367	背割片
52	2・6-32	75.2	49.9	14.2	95.4	白緑色泥岩	154	373	基部欠損、片刃、片減り、刃部に使用による剥離あり、両側縁部打削あり
53	2・6-78	38.5	15.9	4.2	2.3	緑色泥岩		406	背割片、352・401(26-86,87)と接合
54	2・7-08	34.0	44.3	7.3	13.4	黒緑色泥岩		248	刃部片、両刃
55	2・8-02	76.8	36.2	12.2	61.8	白緑色泥岩	155	212	刃部欠損、両側縁部打削あり
56	2・8-11	43.2	23.8	5.7	5.9	白緑色泥岩		283	背割片
	2・8-11	22.6	16.3	3.5	1.2	白緑色泥岩		284	背割片
57	2・9-36	52.6	33.0	7.8	21.3	緑色泥岩		134	刃部欠損、両側縁部打削あり
58	2・10-59	60.5	43.6	18.5	55.8	白緑色泥岩		137	基部片
59	2・11-05	71.6	41.5	4.0	17.1	青色片岩		98	背割片
60	3・0-99	21.9	32.2	13.1	8.5	青色片岩		841	背割片
	3・2-02	32.7	13.0	5.9	3.4	青色片岩		443	剥片
61	3・1-24	31.0	21.8	5.7	4.4	緑色泥岩		661	剥片
	3・1-29	35.9	99.0	12.3	49.0	緑色泥岩		657	剥片、650(31-43)と接合
	3・1-33	87.2	40.0	44.5	84.9	緑色泥岩	156	705	剥片、耐打痕あり、844・847・699(31-33,34)と接合
	3・1-33	37.1	21.7	4.5	3.0	緑色泥岩		706	剥片
	3・1-33	60.4	36.0	12.5	18.5	緑色泥岩		754	剥片
	3・1-33	17.7	41.2	9.3	5.6	緑色泥岩		843	剥片
	3・1-33	29.3	34.6	7.6	6.5	緑色泥岩		845	剥片
	3・1-33	18.2	40.1	8.2	5.4	緑色泥岩		846	剥片
	3・1-34	37.1	18.2	8.3	5.0	緑色泥岩		658	剥片
	3・1-34	45.0	34.4	13.0	14.0	緑色泥岩		659	剥片
	3・1-34	52.6	112.3	16.1	91.1	緑色泥岩		694	背割片、680(31-35)と接合
	3・1-34	-	-	-	25.5	緑色泥岩		696	背割片、2点あり
	3・1-34	41.1	26.4	6.2	6.2	緑色泥岩		697	背割片
	3・1-34	-	-	-	2.7	緑色泥岩		885	背割片、3点あり
	3・1-35	-	-	-	8.0	緑色泥岩		681	背割片、剥片各1点あり
	3・1-43	20.3	37.0	7.4	7.4	緑色泥岩		649	剥片
	3・1-43	85.7	67.3	22.0	123.8	緑色泥岩		720	剥片、559(43-03)と接合
62	3・1-34	43.0	55.4	12.0	28.1	緑色泥岩		693	剥片、耐打痕あり、623(31-95)と接合
	3・1-35	15.6	36.9	6.6	4.3	緑色泥岩		766	剥片
	3・1-43	26.3	35.0	6.5	5.2	緑色泥岩		717	剥片、耐打痕あり
	3・1-43	19.3	16.4	7.5	2.4	緑色泥岩		718	剥片
	3・1-43	25.3	67.0	7.4	15.2	緑色泥岩		719	剥片、耐打痕あり、643(31-53)と接合
	3・1-43	-	-	-	7.6	緑色泥岩		720	剥片、6点あり
	3・1-43	33.4	56.3	14.4	18.4	緑色泥岩		721	剥片
	3・1-43	27.8	10.6	6.3	1.8	緑色泥岩		752	剥片
	3・1-43	-	-	-	2.5	緑色泥岩		753	剥片、4点あり
	3・1-44	39.7	48.4	11.8	18.7	緑色泥岩		652	背割片、耐打痕あり
	3・1-44	25.4	7.9	5.5	2.2	緑色泥岩		653	背割片
	3・1-44	26.5	14.0	5.0	1.6	緑色泥岩		654	剥片
	3・1-44	29.4	19.2	11.6	3.6	緑色泥岩		655	剥片
	3・1-44	-	-	-	4.9	緑色泥岩		709	剥片、5点あり
	3・1-44	26.2	30.9	7.1	3.8	緑色泥岩		710	剥片、耐打痕あり
	3・1-44	-	-	-	3.1	緑色泥岩		711	剥片、2点あり
	3・1-44	20.9	11.7	3.1	0.8	緑色泥岩		712	剥片



表V-3-28 石斧一覧 (3)

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	図番	測No	備考
62	3・1-44	23.6	19.2	5.3	1.9	緑色泥岩		713	剥片
	3・1-44	—	—	—	8.6	緑色泥岩		715	背部片、剥片各1点あり
	3・1-44	11.5	11.9	3.6	0.4	緑色泥岩		716	剥片
	3・1-44	42.9	22.6	4.9	6.0	緑色泥岩		751	剥片
	3・1-53	47.3	19.3	9.7	11.1	緑色泥岩		641	剥片、澱痕あり
	3・1-53	46.8	23.6	5.3	8.0	緑色泥岩		642	背部片
	3・1-54	32.5	19.8	2.8	1.7	緑色泥岩		651	剥片
	3・1-55	25.0	12.1	3.8	1.4	緑色泥岩		645	剥片、澱痕あり
	3・1-79	29.0	13.1	6.8	3.0	緑色泥岩		639	剥片
63	3・1-48	120.2	45.7	12.3	115.3	黒色片岩	157	648	刃部欠損、基部に刃部再生か
64	3・1-55	18.0	10.6	3.6	0.9	緑色泥岩		646	剥片
65	3・1-59	82.0	27.1	10.4	37.0	緑色泥岩		647	剥片、澱痕あり
66	3・2-38	63.8	20.9	11.0	25.8	緑色泥岩	158	628	基部欠損、両刃、石のみもしくは基部側に刃部再生
67	3・2-60	66.2	29.7	14.1	37.5	緑色泥岩		858	剥片、澱痕あり、624(32-80)と接合
68	3・2-77	69.9	37.5	9.8	49.9	白緑色泥岩	159	575	基部欠損、両刃
69	3・2-98	16.1	23.7	3.0	1.1	緑色泥岩		670	剥片
	3・2-99	—	—	—	4.2	緑色泥岩		893	剥片、2点あり
70	3・3-15	88.9	39.5	11.2	42.9	青緑色片岩		616	剥片
71	3・3-16	62.9	35.7	11.9	39.1	白緑色泥岩		635	刃部欠損、基部に刃部再生、澱痕あり
72	3・3-50	40.5	28.9	9.6	9.6	青灰色泥岩		602	剥片、欠けている
	4・5-12	45.4	22.0	5.3	3.5	青灰色泥岩		488	剥片、475(45-23)と接合
	4・5-22	70.5	34.2	9.5	62.6	青灰色泥岩		484	背部片、478・85(45-22・25)と接合
	4・5-22	—	—	—	6.9	青灰色泥岩		473	474・486・487を含む、4点あり
	4・5-23	—	—	—	7.0	青灰色泥岩		476	479を含む、2点あり
	4・5-32	24.3	16.2	7.5	1.8	青灰色泥岩		480	剥片
	4・5-33	19.1	17.2	4.2	1.4	青灰色泥岩		477	剥片
73	3・4-21	16.2	17.0	3.0	0.9	緑色泥岩		603	背部片
	3・4-21	28.5	20.1	4.3	2.6	緑色泥岩		608	背部片
74	3・4-35	54.4	28.0	25.0	42.2	黒緑色泥岩		609	背部片
75	3・4-60	51.6	58.0	6.2	23.4	緑色泥岩		613	背部片
76	3・5-07	28.0	17.6	4.7	2.6	緑色泥岩		383	剥片
77	3・5-07	20.2	9.6	2.5	0.4	緑色泥岩		397	剥片
78	3・5-08	26.9	9.7	3.1	1.0	緑色泥岩		381	剥片
79	3・5-86	59.2	34.2	17.7	52.9	黒緑色泥岩		159	基部片
80	3・6-16	15.4	7.7	3.4	0.5	緑色泥岩		392	剥片
81	3・6-78	21.3	18.0	4.5	2.0	緑色泥岩		167	剥片
82	3・6-86	38.8	45.4	4.0	5.6	緑色泥岩		161	背部片
83	3・6-89	26.7	21.7	6.2	2.8	緑色泥岩		203	背部片
84	3・6-96	37.3	24.0	6.2	6.5	緑色泥岩		168	背部片
85	3・6-98	29.8	22.2	3.7	2.0	緑色泥岩		201	背部片
	3・6-98	24.5	15.8	4.3	1.4	緑色泥岩		202	背部片
86	4・0-18	109.4	43.9	21.1	143.9	緑色泥岩		554	未製品、扁平長楕円使用、両端、一側縁に澱痕、両側縁に澱痕あり
87	4・0-19	117.9	52.6	21.6	152.6	白緑色泥岩		553	未製品、両側縁に澱痕あり、先端一部みがき
88	4・1-02	79.5	25.9	9.1	28.0	黒色泥岩	160	755	両刃、刃部欠損、基部に澱痕あり
89	4・3-02	42.4	15.0	5.1	5.9	緑色泥岩		770	背部片
90	4・4-02	7.4	21.2	2.3	0.4	緑色泥岩		592	背部片
91	4・4-06	14.9	6.2	1.7	0.1	白緑色泥岩		884	剥片
92	4・4-08	28.7	19.0	4.7	2.8	緑色泥岩		561	背部片
93	4・4-27	—	—	—	93.3	緑色泥岩		891	剥片、72点あり
94	4・4-27	77.8	37.2	8.1	23.5	緑色泥岩		891	背部片、734(44-49)と接合
95	4・4-28	28.9	24.1	6.2	3.9	緑色泥岩		574	背部片
96	4・4-41	30.4	30.0	10.0	8.3	緑色泥岩		735	剥片
97	4・5-00	17.1	14.9	2.6	0.9	緑色泥岩		501	剥片
98	4・5-13	15.5	13.7	1.8	0.5	黒緑色泥岩		472	背部片
99	4・5-15	49.2	24.3	9.3	17.2	灰緑色泥岩		84	背部片

表V-3-29 石斧一覧 (4)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	No.	備考
100	4・5-28	12.9	13.6	4.4	1.0	緑色泥岩		87	断片
101	4・6-08	11.0	24.4	4.8	1.4	緑色泥岩		97	断片
102	表採	72.5	26.5	12.0	43.0	緑色泥岩		498	断片
103	表採	22.5	28.1	3.4	2.5	緑色泥岩		—	断片
104	表採	—	—	—	7.5	青黒色片岩		—	断片、2.5mm

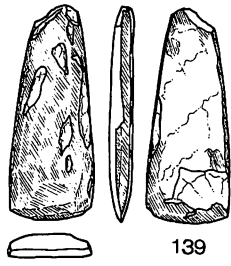
部を再生したものと思われる。No. 86は偏平長楕円礫を素材とした石斧未製品と思われるもので、一側縁先端側の敲打剥離が深く入り過ぎたために断念したものであろう。No. 87は礫皮片を素材とした未製品で、両側縁に敲打剥離による調整と、先端の一部に刃部を作出するためのみがきが見られるが、いずれも途中で放棄されている。160は小型の石斧で、基部に敲打痕がみられ、先端は使用によって弾けている。No. 90～96は4・4区の集中出土資料である。特に4・4-27区のP9北東部にはほぼ集中してみられ、一部はP9上面にも広がっていた。石材は3・1区の集中地点同様に緑色泥岩が中心で、やはり礫皮片が多く、石斧制作に関するものと思われる。

**すり石** 25点出土しているが、破損しているものが多く、焼けているものも3点ある。素材は玄武岩 (No. 9、図番164) と砂岩 (No. 12) が各1点ある他は全て安山岩である。断面三角形を呈するものが大半であるが、垂円礫・長楕円礫を素材とするもの各1点と偏平楕円礫3点がある。161は上下端が使用されているもので、図の裏面が焼けている。162は端部片であるが、通常みられる使用面に接した側面にも使用面が残されている。163は敲打剥離で調整された図の下辺が主たる使用面であるが、図上辺もわずかに使用されている。165は長楕円礫を素材としたもので、使用面の幅が広い。全体に火熱を受けて焼け弾けたものと思われ、かなり離れた地点から出土した破片が接合している。168は使用面が幅広で敲打痕がみられる。169は垂円礫を素材としたもので、握り部の調整はないが石冠状の形態を呈し、使用面も広い。170は三辺が使用されている。173は一辺が敲打剥離で調整されているが、使用痕は不明瞭である。

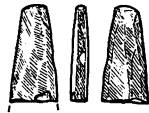
**砥石** 22点あり、いずれも良く使い込まれた破損品である。素材は全て砂岩であるが、その質はまちまちで、径1mm内外の大粒の砂を多く含むもの (粗粒砂岩) が7点、泥岩に近い細かさの砂が主体のもの (細粒砂岩) 2点とその中間のもの (中粒砂岩) 13点に分けられる。使用痕には面的なものと溝状のものがあり、粗粒砂岩を素材としたものには溝状の使用痕はみられないことから、砂粒の粗さによる使い分けが行われていた可能性がある。174は粗粒砂岩を、176は細粒砂岩を素材としているが、いずれも両面ともかなり使い込まれており、側縁の使用面には擦痕がみられる。177・179・184・186には溝状の使用痕が明瞭にみられる。178はNo. 371 (図左側) のみが焼けている。187は、図の下面に稜を残す凸状の使用面があり、いわゆる「トチむき石」(渡辺誠 1980) の先端部片の可能性はある。

**石冠** 安山岩製と砂岩製各3点がある。188は偏平垂円礫に若干敲打調整を施した小型のもので、使用面はすり石並の幅でしかない。189は砂岩製で、使用面が片減りしている。

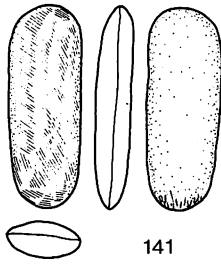
**たたき石** 18点がある。石材は安山岩13点、泥岩3点、珪質岩・砂岩各1点がある。凹状の使用痕を残すものが大半で、位置は端部・側縁部・面部とまちまちで、複合するものも多い。192と198は使用痕が面的に残っているが、「トチむき石」状の稜はみられない。193は、図の右側縁からの加撃によって二つに割られている。敲打痕のみられる上半分の破片 (図上、遺物No. 610) は焼けていないが、下側半分は焼け弾けている。出土地点はまちまちである。194は棒状の砂岩を用いたもので、両面の同じような地点に深い凹状の使用痕がみられる。199は折れた石斧の中央部片をたたき石に転用したものである。



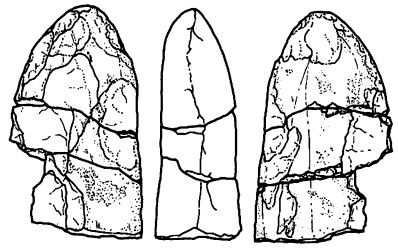
139



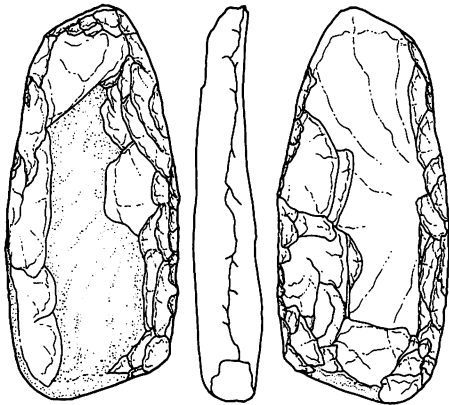
140



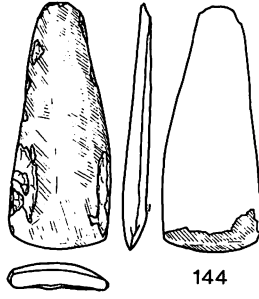
141



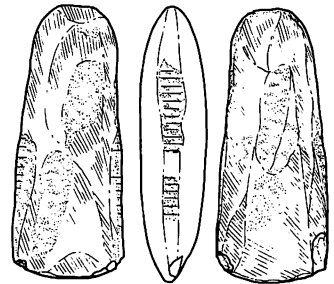
142



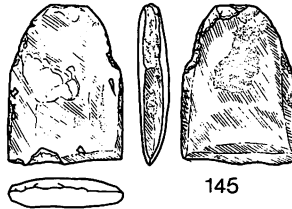
143



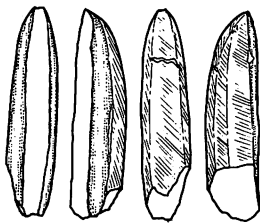
144



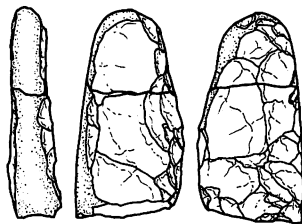
146



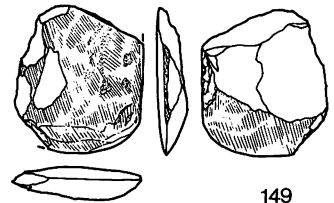
145



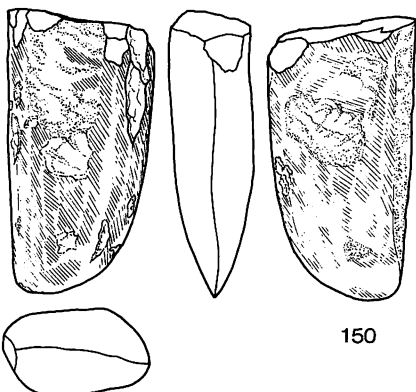
147



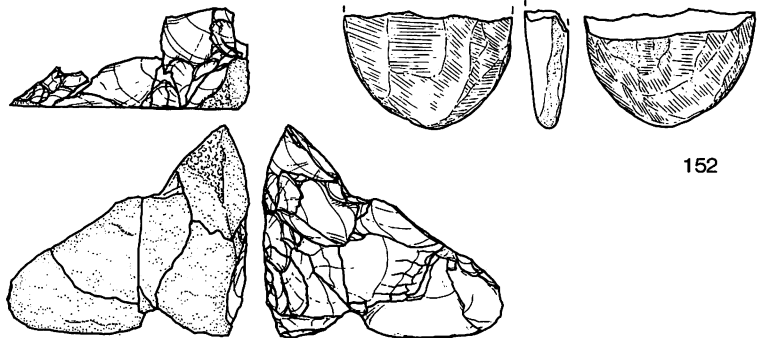
148



149



150

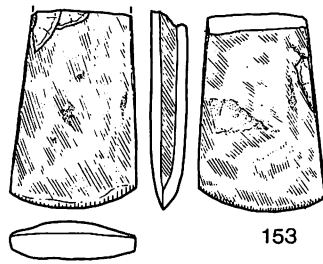


151

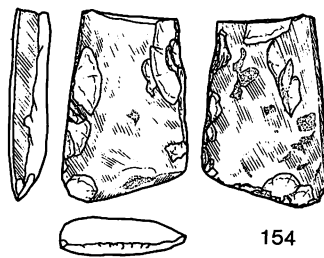


152

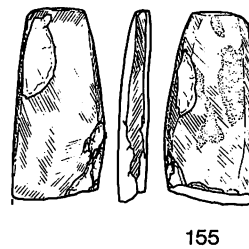
図V-3-25 包含層出土の石器 (6)



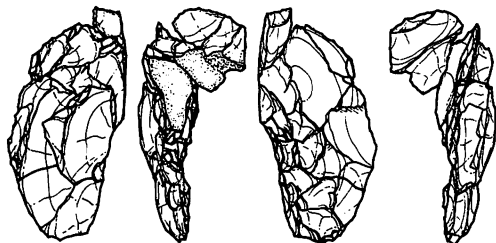
153



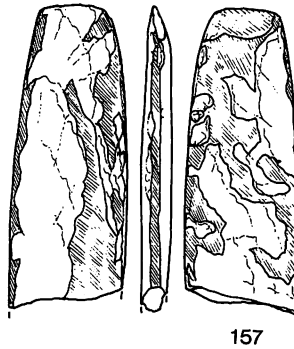
154



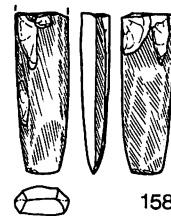
155



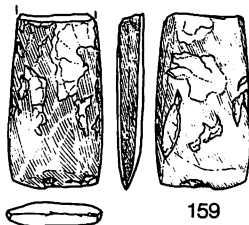
156



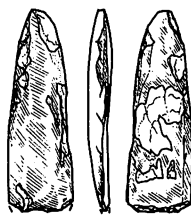
157



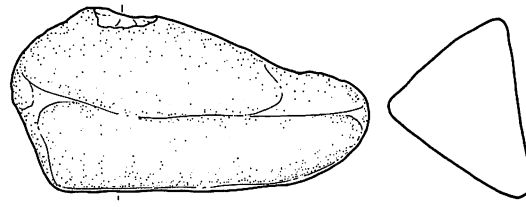
158



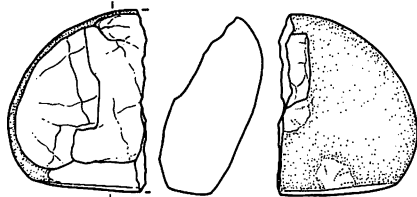
159



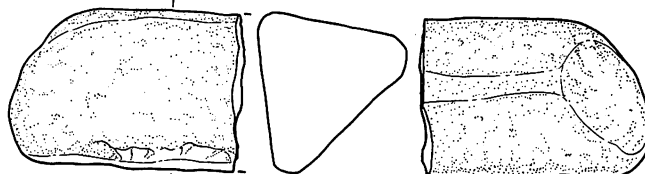
160



161



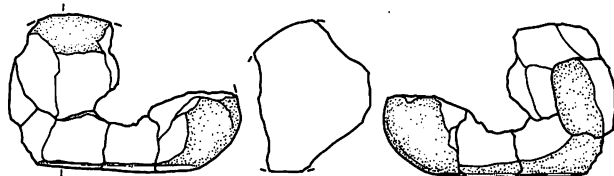
162



163



164

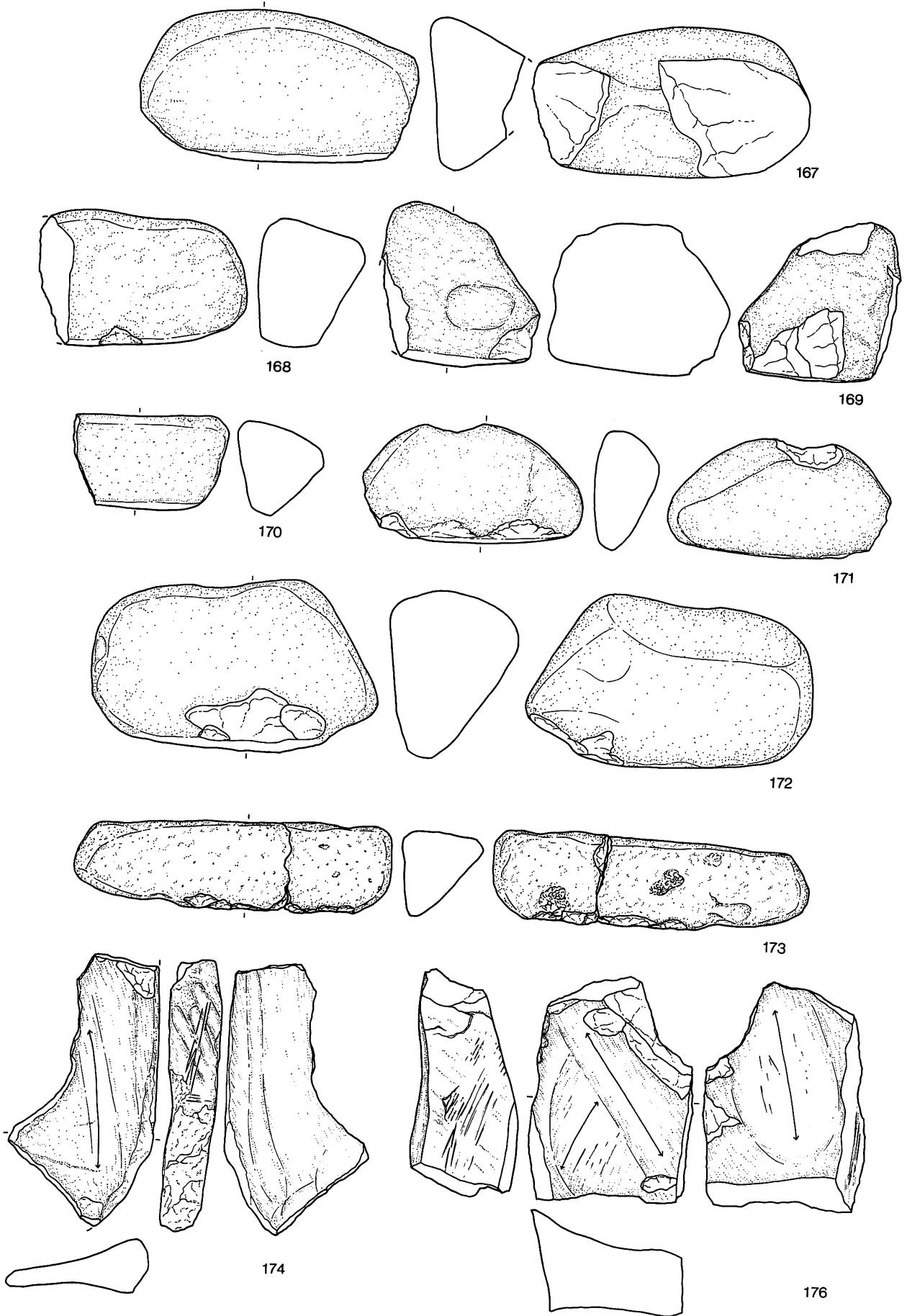


165

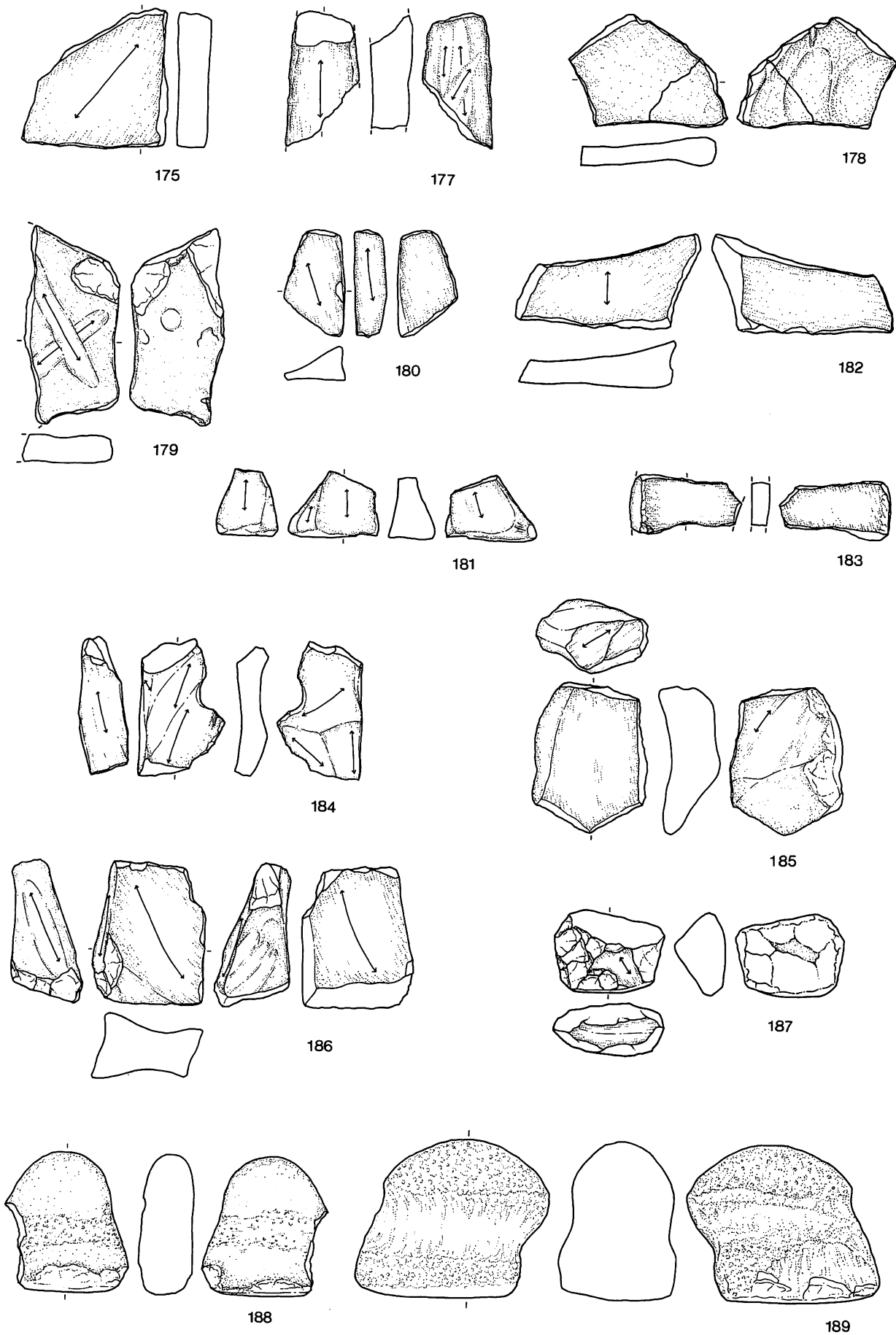


166

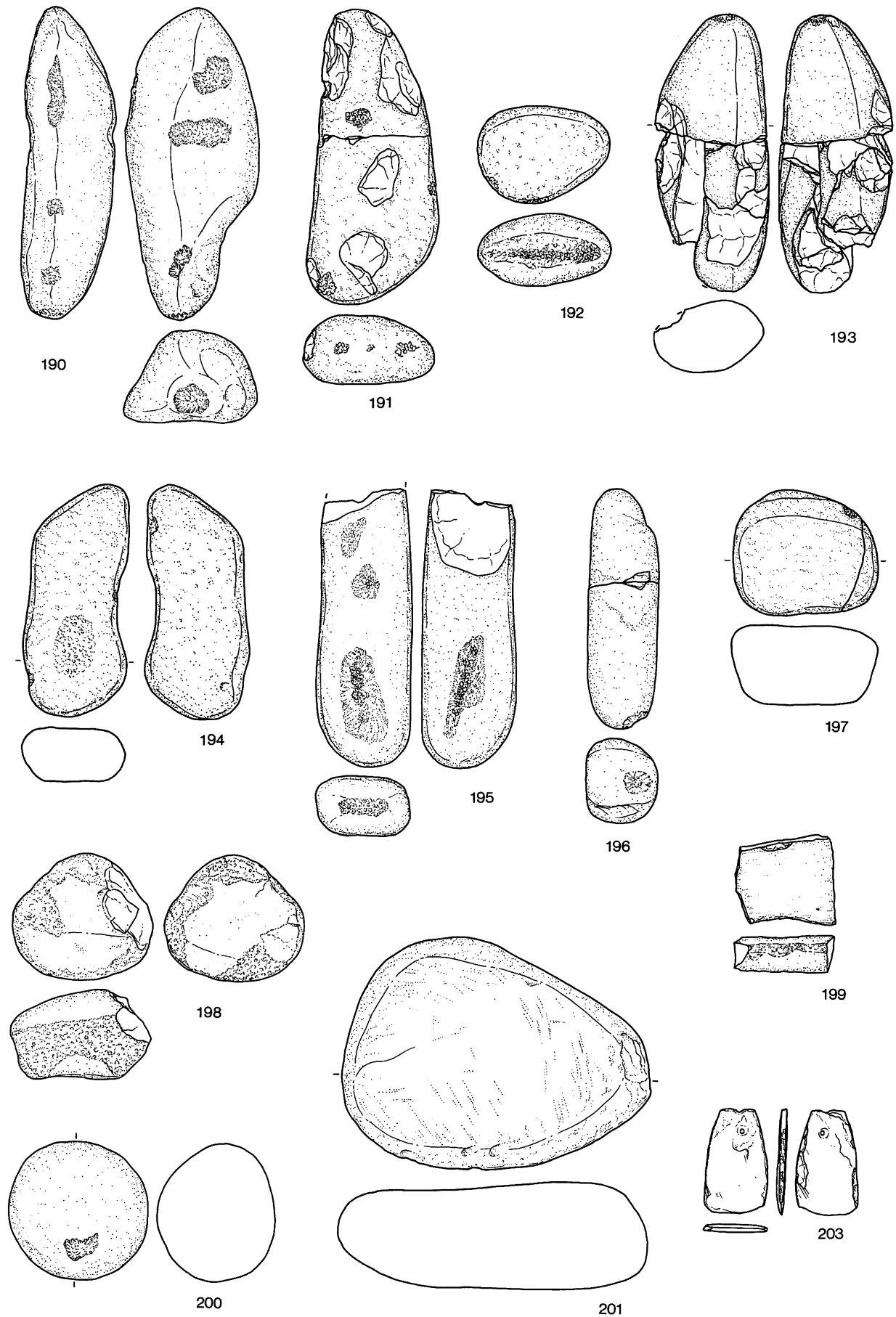
図V-3-26 包含層出土の石器 (7)



図V-3-27 包含層出土の石器 (8)



図V-3-28 包含層出土の石器 (9)



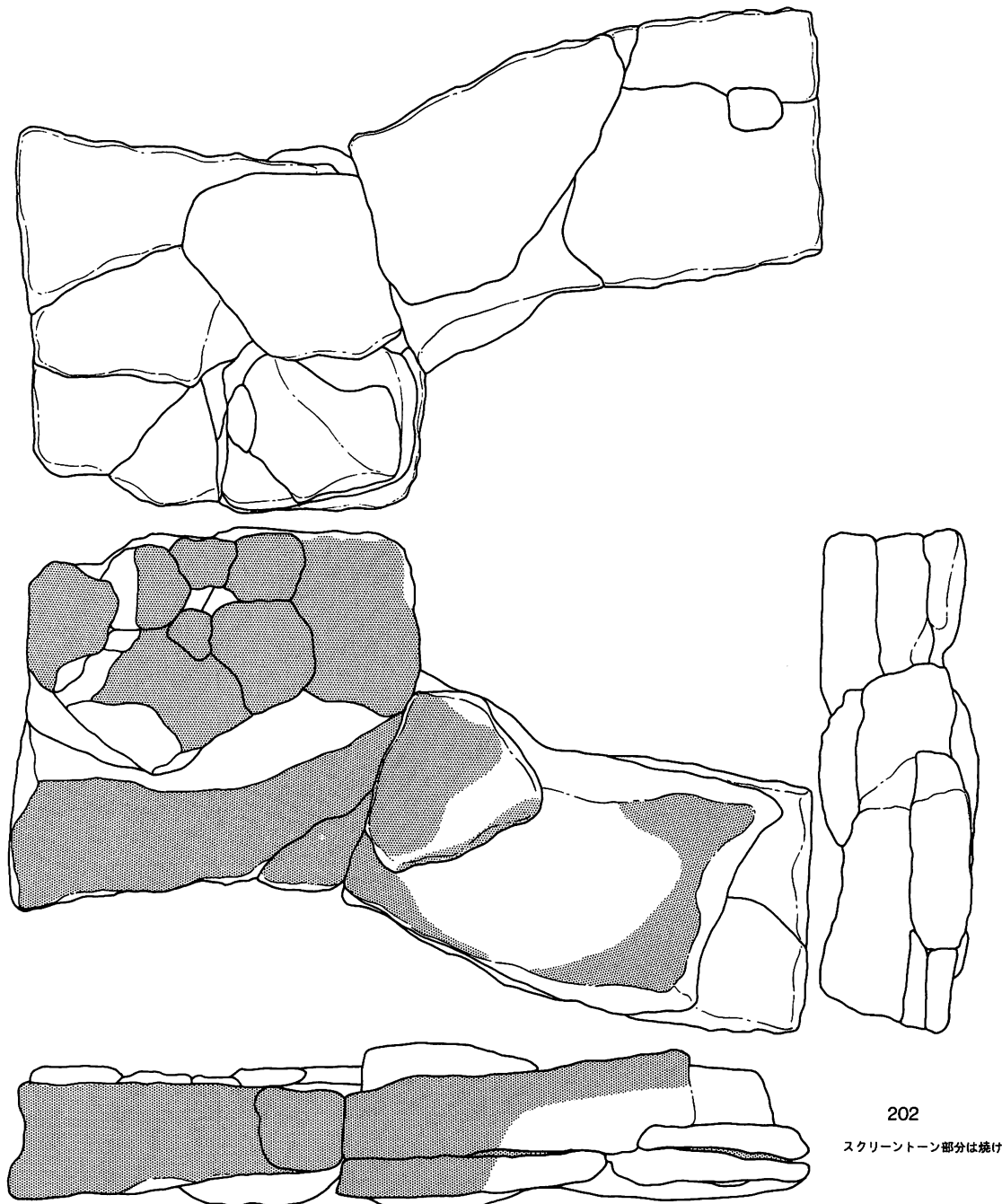
図V-3-29 包含層出土の石器 (10)

**石皿** 破片を含め6点ある。201は黒色を呈し、大きさの割に重く、小型の石皿に適した石材が選択されている。No. 2は安山岩の板状礫を主体としたもので、両面が使用されている。No. 3・4は同一個体の破片と思われる。No. 5・6は砂岩を素材としたものの破片である。

**台石** 3点がある。No. 3は201の石皿と同じ石材である。

**板状礫** 5点がある。No. 1・2は石斧の原材として採取されたものかもしれない。202は凝灰岩で、一面と一側縁が酷く焼けて赤化し脆くなっている。3・9-18区を中心に細かな破片が散っており、接合に務めたが300g余の細片が残った。

**石製品** 蛇紋岩製の垂飾(203)1点が出土している。出土地点は調査地点の南端で、単独の出土である。青灰色を呈し、全体に丁寧な研磨がなされ石斧状の形態を示す。穴は石錐で両面からあけられており、上端にみられるくぼみは、片側(図正面)穿孔の名残である。



図V-3-30 包含層出土の石器 (11)



表V-3-30 すり石一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遊No	備考
1	0・5-74	70.2	52.2	48.1	220.7	安山岩		470	断面三角形、端部片
2	0・9-25	59.0	47.0	28.4	77.2	安山岩		123	下端部片
3	0・10-03	56.2	48.0	22.8	75.0	安山岩		109	断面三角形、端部片、耐剥離、すり面未使用
4	0・10-62	61.4	31.6	47.0	112.8	安山岩		102	断面三角形、端部片
5	0・11-29	143.7	73.4	53.6	560.0	安山岩	161	65	断面三角形、上下端使用、一面焼け
6	0・12-01	54.3	71.7	31.2	175.0	安山岩	162	54	端部片、偏平楕円使用、一辺に二つの使用面あり
7	0・12-93	105.2	63.4	74.0	560.0	安山岩		45	断面三角形、一端欠損
8	1・4-90	91.6	63.7	57.2	462.7	安山岩	163	747	断面三角形、一端欠損
9	1・5-38	122.9	37.9	46.5	140.0	玄武岩	164	453	下端部片
10	1・6-05	81.0	51.0	46.6	211.7	安山岩		311	断面三角形、一端欠損
11	1・8-25	92.0	62.6	48.8	203.7	安山岩	165	165	長楕円使用、焼けてから削れている、140・157・504・255・262 (19-63・72, 28-26, 37-39・47)と接合
12	1・10-79	83.6	48.8	42.3	186.6	砂岩		118	下端部片
13	2・3-04	65.4	59.9	51.9	213.3	安山岩		777	断面三角形、端部片
14	2・3-59	93.6	35.2	68.7	246.5	安山岩		688	断面三角形、端部片
15	2・3-79	123.8	61.2	56.4	538.0	安山岩		684	一端欠損
16	2・4-33	53.8	52.9	36.8	109.7	安山岩	166	731	断面三角形、端部片
17	2・4-33	102.3	46.7	80.1	775.0	安山岩		732	偏平楕円使用
18	2・4-45	76.7	63.6	47.8	185.8	安山岩		663	断面三角形、端部片
19	2・7-83	153.4	84.0	72.0	870.0	安山岩	167	422	断面三角形、両端欠損
20	3・1-23	116.6	62.4	78.5	800.0	安山岩	168	849	断面三角形、一端欠損、使用面幅広で削り痕あり
21	3・1-44	101.0	99.8	88.5	1,089	安山岩	169	700	楕円使用、一端欠損、石冠か
22	3・2-38	85.8	50.0	52.0	327.1	安山岩	170	629	断面三角形、三辺使用、一端欠損
23	3・5-47	122.4	64.3	35.0	367.6	安山岩	171	387	偏平楕円使用、一端欠損
24	3・5-85	160.0	95.4	72.4	1,560	安山岩	172	150	断面三角形、焼けている
25	3・6-85	175.0	58.2	39.3	533.4	安山岩	173	166	断面三角形、耐剥離、290(45-49)と接合

表V-3-31 砥石一覧

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遊No	備考
1	0・3-07	66.9	51.7	21.2	74.4	中粒砂岩		812	破片、一面に使用痕
2	0・3-08	149.3	79.5	29.1	252.3	粗粒砂岩	174	811	破片、両面に使用痕
3	0・8-17	52.2	33.6	20.5	34.2	中粒砂岩		147	破片、使用痕不明瞭
4	1・3-35	77.4	74.3	17.5	146.0	中粒砂岩	175	833	破片、一面に使用痕
5	1・3-70	39.5	31.1	12.8	15.2	中粒砂岩		829	破片、使用痕不明瞭
6	1・4-10	122.9	88.9	60.8	640.0	細粒泥岩	176	804	両面に使用痕
7	1・4-90	73.9	36.8	21.8	75.9	中粒砂岩	177	748	破片、両面に使用痕
8	1・6-93	91.4	59.1	12.8	71.2	粗粒砂岩	178	414	一端欠損、両面に使用痕、371(26-33)と接合、371削け
9	2・3-30	107.4	49.3	16.3	116.6	中粒砂岩	179	725	破片、両面に使用痕
10	2・4-43	56.7	32.2	8.9	29.6	粗粒砂岩	180	760	破片、両面・一側面に使用痕
11	2・6-33	41.2	44.9	9.1	24.2	中粒砂岩		362	破片、一面に使用痕
	2・6-33	42.6	42.2	13.0	20.9	中粒砂岩		372	破片、使用痕不明瞭
12	2・9-16	55.6	45.6	14.5	37.6	粗粒砂岩		130	破片、一面に使用痕
13	2・10-72	46.7	41.0	33.4	48.1	中粒砂岩	181	152	破片、両面・一側面に使用痕
14	3・1-06	37.2	36.7	16.5	25.0	中粒砂岩		880	破片、両面に使用痕
15	3・1-23	86.8	58.2	22.4	102.0	中粒砂岩	182	850	破片、両面に使用痕
16	3・4-83	60.3	32.5	15.7	31.7	中粒砂岩	183	588	破片、両面に使用痕
17	3・6-38	73.8	48.2	26.0	65.4	細粒砂岩	184	329	破片、両面に使用痕
18	3・8-68	42.5	39.4	16.8	26.9	粗粒砂岩		217	破片、一面に使用痕
19	3・10-20	59.0	27.7	28.5	154.2	粗粒砂岩	185	151	破片、両面に使用痕
20	4・1-30	39.5	41.4	14.9	25.4	粗粒砂岩		673	破片、両面に使用痕
21	4・4-05	76.0	59.5	38.6	178.9	中粒砂岩	186	589	破片、両面・一側面に使用痕
22	4・4-46	59.8	46.0	29.0	88.6	中粒砂岩	187	737	破片、一面・一側面に使用痕

表V-3-32 石冠一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	備考
1	1・3-85	56.1	69.9	47.0	219.0	砂岩		819	破片
2	3・7-32	76.8	61.2	30.0	232.0	安山岩	188	265	偏平楕円盤使用、一端欠損
3	4・4-18	107.0	64.7	87.5	750.0	砂岩	189	573	一端欠損
4	4・5-47	79.0	38.0	62.4	234.0	砂岩		75	破片
5	4・7-43	42.0	39.0	43.0	77.0	安山岩		103	破片
6	4・8-38	89.5	63.6	38.6	238.6	安山岩		107	破片

表V-3-33 たたき石一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	備考
1	0・5-68	170.0	72.0	52.7	680.0	珪質岩	190	305	一端・一面・一側面に謝頂
2	0・12-49	150.7	69.4	37.4	602.0	安山岩	191	16	一端・一面・一側面に謝頂
3	1・2-68	73.7	56.1	43.6	210.0	安山岩		788	一端・一面に謝頂
4	1・3-46	72.6	52.0	38.8	204.2	安山岩	192	438	一端・一側面に謝頂
5	2・2-97	150.3	60.6	37.8	348.8	黒色泥岩	193	774	一端に謝頂、664・757・326・607・632・568・610 (24-45, 26-66, 32-05・06・55, 34-43)と接合、610以外は焼け
6	3・1-98	53.6	54.1	36.6	462.2	安山岩		565	両端に謝頂
7	3・2-22	126.6	56.1	29.5	356.3	安山岩	194	678	一面・両側面に謝頂
8	3・2-82	139.2	48.5	38.9	409.5	安山岩		567	一端・一面に謝頂
9	3・4-22	150.6	50.2	33.8	439.1	砂岩	195	605	一端・両面に謝頂、一端欠損
10	3・4-39	127.8	42.2	38.6	351.7	安山岩	196	611	一端に謝頂、407(35-35)に接合
11	3・5-27	78.9	68.4	45.1	384.0	安山岩	197	386	一側面に謝頂
12	3・6-96	76.7	69.5	46.8	387.1	緑色泥岩	198	199	一面・四周に謝頂
13	4・1-10	55.7	54.1	39.9	160.0	安山岩		562	一面に謝頂
14	4・1-34	55.0	48.2	19.2	92.6	緑色泥岩	199	444	一側面に謝頂、折れた石片の軸
15	4・2-47	107.3	79.2	64.4	610.0	安山岩		598	両端に謝頂
16	4・2-47	130.0	73.9	39.2	550.0	安山岩		739	一面・一側面に謝頂
17	4・3-02	98.2	59.3	39.2	343.9	安山岩		558	一端に謝頂
18	4・5-24	78.5	78.0	64.3	530.0	安山岩	200	482	一面に謝頂、焼け

表V-3-34 石皿一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	備考
1	0・3-50	166.0	126.2	58.0	1,860	安山岩?	201	855	一面すりくぼみ、一般の安山岩に比して重い
2	0・3-64	74.9	62.2	25.5	155.7	安山岩		790	破片、板状盤使用、一面すりくぼみ、一面みがき
3	1・11-36	84.4	66.1	25.7	145.7	安山岩		90	破片、板状盤使用、一面すりくぼみ
4	1・11-37	97.4	90.6	28.4	300.0	安山岩		91	破片、板状盤使用、一面すりくぼみ
5	3・5-80	79.3	34.2	54.6	221.3	砂岩		462	破片、一面すりくぼみ
6	4・5-12	89.0	60.6	30.5	307.5	砂岩		483	破片、一面みがき

表V-3-35 台石一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	備考
1	0・11-11	108.0	99.2	65.6	733.0	安山岩		88	破片、一面みがき
2	0・13-21	124.5	94.2	41.5	760.0	安山岩		8	偏平楕円盤使用、一面みがき
3	1・8-90	190.0	108.0	70.5	2,290	安山岩?		191	楕円盤使用、一般の安山岩に比して重い

表V-3-36 板状礫一覽

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	備考
1	0・11-68	64.2	41.6	8.3	34.6	泥岩		57	破片、64・55(0・13-58, 1・12-02)と接合
2	1・10-89	49.5	42.0	5.6	20.7	泥岩		110	破片
3	2・6-53	81.7	68.6	12.4	68.1	砂岩		327	破片
4	3・9-07	370.0	160.5	72.4	3,425	凝灰岩	202	428	磨けている、223・222・896・225~231・233~238 (39-17・18・28)と接合
5	表採	127.0	84.6	27.5	446.2	安山岩		888	

表V-3-37 石製品

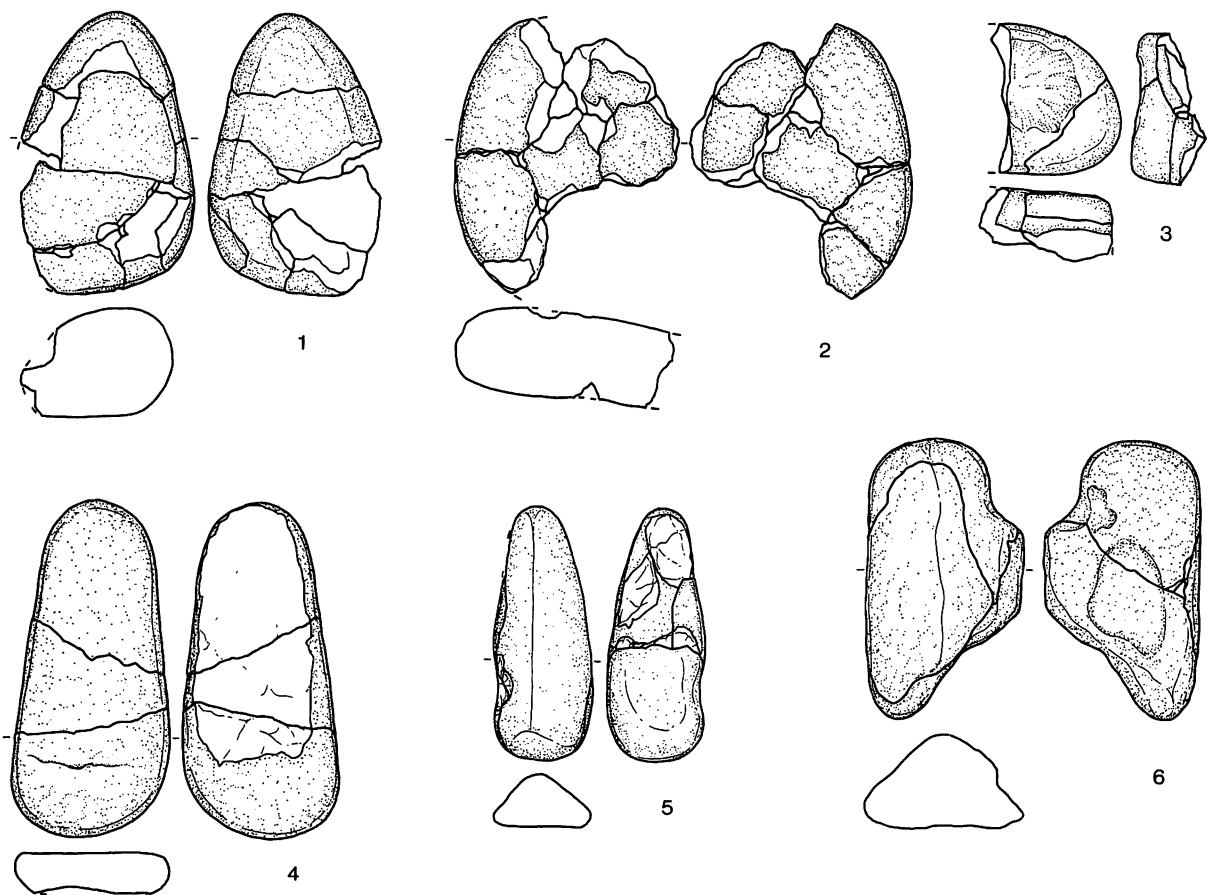
No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	遺物No	備考
1	3・0-99	58.0	34.1	5.3	16.8	蛇紋岩	203	842	珪

**方割礫** 接合後239個体になった。このうち焼けているものが75個体と約三分の一に上る。接合したものは58個体で、このうち33個体が焼けており、焼け弾けと思われるもの25個体が含まれる。石質は安山岩が最も多く、ほぼ半分の117個体を占め、焼けているものが50個体ある。次いで凝灰岩が29（焼け7）、泥岩28（焼け4）、砂岩23（焼け5）、珪質岩20（焼け4）、玄武岩15（焼け1）の順で、その他に石英閃緑岩3（焼け3）、輝緑凝灰岩3（焼け0）、シルト岩1個体（焼け1）がある。

接合部分を除く破片の割れ方は、破断面一面のB型が52個体（焼け5）、同二面のC型が44個体（焼け13）、三面のD型が35個体（焼け13）、四面のE型が48個体（焼け11）となっており、B型の焼けたものの比率が低いことがわかる。またNo.191のように、半分が焼けて残り半分が焼けていないものや、No.11・37・56・111などのように接合後B型になる焼けた接合資料も多い。これは図番193のように、あらかじめ割った半分だけを焼いて弾かせている例が多いことを示すものといえよう。

分布をみると、沢跡北側の0・12、0・13区と、沢跡南側の1・6～1・8、2・6～2・9、3・7区及び、3・1、3・2区と3・5、3・6、4・5区の四地点に比較的多くみられる。焼けているものの分布は0・13と1・8、2・8、3・7区に比較的に集中し、接合関係をみると、沢跡南側に沿って、HP 3を跨ぐような形のものが目立つ。

図示したものは焼け弾けの例で、1と2は、0・9～3・7区にかけて出土した焼け弾け破片の接合資料で、石質は安山岩である。3は2・6区出土、4は2・6、3・6、3・10区出土の破片が接合したもので、石質はともに砂岩である。5と6は、4・5区出土の破片を中心に接合したもので、5は珪質岩、6は安山岩である。



図V-3-31 方割礫接合資料

表V-3-38 方割礫一覧 (1)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	測No	備考
1	0・2-98	54.9	46.9	17.0	62.7	安山岩		852	B
2	0・2-99	54.5	31.9	14.2	19.1	凝灰岩		853	B、磨
3	0・3-03	56.2	33.4	26.4	48.6	玄武岩		856	D
4	0・3-04	76.4	40.9	19.9	99.9	玄武岩		795	B
5	0・3-04	36.4	23.0	19.3	23.6	珪質岩		857	D
6	0・3-43	88.9	78.9	43.9	495.4	安山岩		792	B
7	0・4-09	36.5	51.5	25.3	38.8	凝灰岩		779	D
8	0・4-90	18.0	22.5	6.4	2.1	珪質岩		513	E、磨けている
9	0・5-05	34.2	20.0	16.6	10.5	安山岩		280	E
10	0・5-06	47.2	30.7	11.6	14.4	砂岩		278	E、板石片か
11	0・5-24	71.3	60.8	47.6	119.3	凝灰岩		318	C+D+E、529(16-66)と接合後B、磨けている
12	0・5-44	101.0	67.2	10.0	107.4	安山岩		514	E
13	0・5-46	31.0	15.4	14.0	8.1	泥岩		515	B+B、接合後平礫
14	0・5-67	79.3	40.5	23.0	55.9	凝灰岩		306	B
15	0・5-75	74.9	47.3	26.4	86.2	凝灰岩		307	B
16	0・5-76	80.0	28.5	12.6	21.7	凝灰岩		517	E、磨
17	0・5-81	40.1	32.7	9.6	12.8	安山岩		494	E
18	0・5-84	65.3	34.4	13.6	33.7	安山岩		489	E
19	0・5-94	56.8	50.8	14.2	38.5	安山岩		518	E
20	0・6-15	153.8	44.0	35.6	371.9	安山岩		242	B+C、198(06-16)と接合後B
21	0・6-43	46.5	23.8	11.7	11.7	玄武岩		251	D
22	0・7-18	71.7	25.6	22.6	38.9	玄武岩		171	C
23	0・7-25	57.4	37.8	19.4	53.4	安山岩		172	E、磨けている
24	0・7-28	29.6	30.0	12.0	7.0	泥岩		519	C
25	0・7-69	68.8	21.0	11.8	20.1	玄武岩		277	B
26	0・8-19	54.0	44.0	36.0	124.6	安山岩		148	C、磨けている
27	0・8-90	76.5	54.0	57.8	221.5	安山岩		216	D+D、240・214(28-05・56)と接合後D、磨けず
28	0・8-97	41.2	24.4	12.8	13.2	玄武岩		521	B
29	0・9-36	109.8	69.6	45.5	321.9	安山岩	1	129	C+D+E+E+、132・155・312・209・243・256・257(19-22・55、1・10-00、28-17、37-49)と接合、接合後平礫、磨けず
30	0・9-91	38.7	81.3	29.8	85.0	安山岩		163	C+D+D、156(19-85)、258(37-38)と接合後C、磨けず
31	0・9-98	108.5	86.7	34.3	330.7	安山岩	2	182	D+D+E+E+、158・208・205・213・259・261(19-66、28-17・37・58、37-37)と接合、接合後平礫、磨けず
32	0・10-18	59.5	19.5	49.3	44.0	安山岩		112	D、石皿片か
33	0・10-27	37.8	57.5	31.0	91.4	安山岩		100	C、磨けている
34	0・10-82	114.6	54.4	46.0	332.6	安山岩		114	B、すり石未製礫品か
35	0・11-45	51.3	33.0	21.7	33.9	安山岩		542	D、磨けている
36	0・11-45	54.0	34.3	21.4	33.1	凝灰岩		543	B+B
37	0・11-67	69.1	75.6	54.5	290.6	安山岩		56	B+C、63(0・13-67)と接合後B、磨けず
38	0・11-68	57.2	70.1	53.2	315.0	安山岩		58	D、磨けている
39	0・11-69	70.9	85.7	47.5	373.4	安山岩		59	D
40	0・11-87	62.6	33.6	14.3	30.0	玄武岩		61	B
41	0・11-93	71.5	64.3	20.5	88.4	凝灰岩		62	B+C+C、接合後平礫
42	0・12-13	29.1	15.0	5.0	2.0	玄武岩		546	E、磨けている
43	0・12-25	55.9	38.6	25.3	75.5	安山岩		50	B
44	0・12-45	117.6	117.9	73.2	1,130	安山岩		33	B
45	0・12-59	72.4	25.4	15.8	46.0	泥岩		11	B+C、接合後B
46	0・12-59	63.0	38.0	15.4	33.3	凝灰岩		12	C+C+D+E、接合後平礫
47	0・12-61	78.2	51.0	31.9	179.6	安山岩		48	C
48	0・12-72	28.0	39.5	15.3	22.8	安山岩		49	C
49	0・12-81	41.6	34.4	27.6	33.2	安山岩		99	D
50	0・12-84	48.7	63.5	37.0	151.0	安山岩		178	B
51	0・12-90	50.0	55.7	28.3	56.9	安山岩		42	D
52	0・12-90	105.9	93.9	28.6	290.0	凝灰岩		43	B+B、44(0・12-90)と接合後平礫、磨けている
53	0・13-11	112.0	104.2	29.1	156.6	凝灰岩		19	C+E+E、接合後C

表V-3-39 方割礫一覧 (2)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	観測No	備考
54	0-13-12	41.1	20.7	38.0	44.1	安山岩		20	D
55	0-13-15	39.4	40.2	24.6	34.7	安山岩		22	C、磨けている
56	0-13-40	67.0	65.0	34.5	228.1	砂岩		1	C+C、接合後B、磨けている
57	0-13-56	53.8	19.0	12.8	16.1	泥岩		6	C
58	0-13-59	25.4	18.3	12.8	6.1	珪質岩		545	E、磨けている
59	0-13-76	87.6	49.5	26.0	175.7	安山岩		321	C
60	0-13-76	69.5	48.2	39.6	126.6	安山岩		322	D
61	0-13-77	42.3	37.0	33.0	74.4	安山岩		5	C、磨けている
62	0-13-77	28.2	23.8	21.7	11.8	安山岩		18	E、磨けている
63	0-14-09	101.3	60.6	41.6	172.6	凝灰岩		550	D
64	0-14-17	69.9	46.6	27.4	65.9	凝灰岩		548	E
65	1-2-37	70.1	39.7	18.2	48.9	砂岩		890	C+C、接合後C
66	1-2-84	94.2	86.2	51.4	474.9	安山岩		787	D
67	1-2-86	116.6	76.3	70.1	1,045	安山岩		786	B+E、851(12-92)と接合後精門礫、磨けている
68	1-3-50	43.2	32.8	18.7	19.8	凝灰岩		828	E+E+E、接合後
69	1-3-50	34.8	29.8	10.6	8.3	凝灰岩		894	E、磨けている
70	1-3-50	48.7	38.2	17.3	34.6	安山岩		900	E
71	1-3-52	40.7	40.9	21.4	34.8	安山岩		887	C、磨けている
72	1-3-54	32.2	20.0	9.0	6.2	玄武岩		834	B
73	1-4-18	50.4	45.2	10.2	35.2	凝灰岩		803	C
74	1-4-36	58.6	49.1	38.3	114.7	安山岩		783	B
75	1-4-47	47.0	48.2	37.9	106.2	安山岩		816	C
76	1-5-33	33.0	50.2	22.0	42.1	泥岩		436	E
77	1-5-50	170.0	116.0	60.6	1,468	安山岩		493	B+B、374(26-26)と接合後偏平精門礫
78	1-5-68	48.1	28.7	14.5	19.4	玄武岩		522	B+C+C、523(15-58)、492(15-68)と接合後精門礫
79	1-6-11	22.7	22.3	5.8	3.2	凝灰岩		526	E、磨けている
80	1-6-12	44.5	37.7	19.4	32.2	砂岩		412	B+C+C、417(16-12)、324(16-21)と接合後偏平精門礫
81	1-6-16	36.1	9.9	3.7	1.9	泥岩		420	E+E、403(16-26)と接合後E
82	1-6-24	—	—	—	2.1	泥岩		527	E、磨けている、4点あり
83	1-6-39	15.9	8.5	3.0	0.5	玄武岩		402	E
84	1-6-72	64.4	44.2	17.8	40.3	砂岩		530	E+E+E+、531・534・409・502・356・357・368・606(16-72・92・96、26-03・12・13、32-17)と接合後D、磨けずけ
85	1-6-91	27.5	20.7	16.0	12.4	凝灰岩		533	D、磨けている
86	1-6-95	40.6	27.3	16.6	16.8	泥岩		380	B+D、413(16-95)と接合後B
87	1-7-69	37.0	34.2	19.8	23.6	凝灰岩		297	D、磨けている
88	1-7-72	30.0	20.4	21.3	18.0	安山岩		343	C、磨けている
89	1-7-82	20.0	24.0	8.7	4.1	凝灰岩		537	E、磨けている
90	1-7-83	53.2	20.0	21.4	27.8	安山岩		304	B
91	1-8-25	75.3	46.2	39.6	153.8	安山岩		164	D+D、215(28-55)と接合後D、磨けずけ
92	1-8-63	58.5	48.4	27.5	75.7	安山岩		175	D+D+D、241(28-05)、264(37-34)と接合後D、磨けずけ
93	1-8-64	31.6	31.4	14.0	9.0	シルト岩		184	D+D、接合後D、磨けずけ
94	1-8-69	51.2	45.0	43.0	93.4	安山岩		174	D、磨けている
95	1-8-87	32.6	10.4	6.0	2.1	玄武岩		183	E
96	1-8-88	53.7	48.6	27.3	108.7	安山岩		176	D+D+D、144(2-10-96)、264(37-34)と接合D、磨けずけ
97	1-8-89	59.8	43.5	40.5	98.1	安山岩		177	D+D、204(28-35)と接合後D、磨けずけ
98	1-9-54	53.0	35.8	11.2	28.0	珪質岩		153	B+B、接合後偏平精門礫
99	1-9-55	46.4	43.0	24.4	45.9	安山岩		154	C、磨けている
100	1-9-62	41.5	69.5	62.6	220.8	安山岩		139	D+D+D、138(19-84)、195(37-55)と接合後C、磨けずけ
101	1-10-38	168.0	42.2	56.2	396.4	安山岩		128	C+C、133(2-10-23)と接合後B
102	1-10-84	93.0	32.4	17.0	58.6	砂岩		115	B
103	1-10-99	68.2	47.7	42.4	169.7	安山岩		111	C
104	1-11-48	128.6	89.0	31.5	193.1	安山岩		93	D+D+D+D、94・549・82・83(1-11-58・68・98)と接合後D、磨けずけ
105	1-12-37	48.3	41.9	20.3	39.2	安山岩		39	C
106	1-12-68	53.5	68.4	22.8	102.2	珪質岩		36	C

表V-3-40 方割礫一覧 (3)

No.	グリッド	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	石質	図番	灘No	備考
107	2・1-89	46.2	43.5	19.0	43.6	珪質岩		440	C
108	2・2-05	87.3	69.4	24.3	153.9	安山岩		726	D+D、676(32-00)と接合後D
109	2・2-67	95.6	79.7	19.0	117.6	砂岩		775	D+D、727(22-77)と接合後D、削り掛け
110	2・3-42	54.8	38.8	17.1	35.8	凝灰岩		769	B
111	2・3-88	160.0	87.8	87.2	1,410	安山岩		685	C+D+D+D、746・745・742(24-61・72・80)と接合後B、削り掛け
112	2・3-94	35.0	29.6	6.2	5.1	珪質岩		687	E
113	2・4-19	137.8	48.7	60.5	288.3	安山岩		665	D+D+D、640・631(31-66,32-27)と接合後D、631削り
114	2・4-44	31.7	33.1	35.3	24.4	凝灰岩		730	D
115	2・4-78	53.5	43.0	28.0	82.9	安山岩		756	B+B、454(25-60)と接合後橋門礫、削り掛け
116	2・5-73	123.7	86.4	37.8	268.6	凝灰岩		456	Cx4+Dx4、接合後橋門礫、削り掛け
117	2・5-82	43.8	36.5	5.8	10.3	泥岩		445	E
118	2・5-88	41.0	9.1	25.3	12.8	安山岩		538	E
119	2・6-00	43.2	25.4	19.5	23.0	玄武岩		539	D
120	2・6-03	48.0	60.0	29.0	90.8	砂岩	3	354	C+C+E+E+、355・369・370(26-03・13)と接合後C、削り掛け
121	2・6-04	32.8	27.8	7.2	5.2	砂岩		353	E
122	2・6-17	133.3	60.8	18.7	175.8	砂岩	4	366	C+C+C+、360・149(36-45,3・10-50)と接合後B、削り掛け
123	2・6-33	126.2	59.6	31.7	199.8	砂岩		361	D
124	2・6-77	23.2	22.4	8.4	7.2	安山岩		344	E
125	2・6-87	77.6	68.6	37.4	302.3	安山岩		340	D+C、557(43-20)と接合後C
126	2・7-36	106.4	43.8	19.0	110.2	安山岩		249	B
127	2・7-73	91.0	60.6	20.2	69.0	凝灰岩		503	C
128	2・7-83	55.3	29.7	11.3	12.8	凝灰岩		299	C
129	2・7-83	120.0	79.0	19.7	123.0	凝灰岩		300	B
130	2・7-83	58.0	53.0	13.4	26.9	凝灰岩		301	E
131	2・7-83	26.2	25.0	13.0	7.2	凝灰岩		315	E
132	2・8-20	75.8	60.8	31.7	223.6	安山岩		210	B、削りている
133	2・8-41	65.3	53.0	26.0	133.0	安山岩		211	E
134	2・8-60	57.7	43.0	27.5	61.5	安山岩		275	C、削りている
135	2・8-61	102.2	60.2	35.5	272.2	安山岩		244	C+C、194(37-22)と接合後B、削り掛け
136	2・8-73	50.0	48.2	34.4	54.1	安山岩		426	D、削りている
137	2・8-80	33.4	50.4	15.2	38.9	安山岩		245	B、削りている
138	2・9-12	90.8	31.0	22.8	64.9	泥岩		119	B+C、120(29-13)と接合後B
139	2・9-33	38.8	45.0	39.0	67.4	安山岩		131	D、削りている
140	2・9-44	56.0	46.0	35.3	91.3	安山岩		136	D、削りている
141	2・9-49	53.0	16.0	19.4	17.7	珪質岩		125	B
142	2・9-68	23.8	20.0	18.0	7.6	凝灰岩		187	D
143	2・9-71	15.4	41.0	25.2	12.0	珪質岩		507	C
144	2・9-81	57.6	33.6	15.6	20.9	凝灰岩		508	C
145	2・10-10	45.2	31.8	12.0	15.5	珪質岩		317	C
146	2・10-40	66.0	40.0	20.7	42.4	泥岩		108	C+C+C+C、接合後橋門礫、削りている
147	2・10-52	49.0	18.2	33.9	28.3	安山岩		146	B、削りている
148	2・10-54	47.5	34.6	19.7	28.3	安山岩		314	C
149	2・10-76	67.2	92.4	24.3	183.8	安山岩		145	B
150	2・12-02	135.6	68.4	46.8	720.5	泥岩		38	C、削りている
151	3・0-99	53.3	39.9	40.9	75.0	安山岩		830	C+C、接合後C、削りている
152	3・1-33	40.2	39.9	17.4	30.4	安山岩		660	D
153	3・1-33	40.1	60.2	16.7	48.2	安山岩		848	C
154	3・1-43	68.2	32.6	14.0	28.5	安山岩		708	E
155	3・1-44	40.6	31.4	10.2	11.8	安山岩		714	E
156	3・1-45	114.2	93.4	34.4	368.3	安山岩		656	B
157	3・1-57	139.8	55.0	27.9	169.6	砂岩		767	B
158	3・1-76	46.0	68.9	19.0	81.9	安山岩		442	B

表V-3-41 方割礫一覧 (4)

No.	グリッド	厚(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	図番	標No	備考
159	3-1-78	72.3	60.1	44.5	192.9	安山岩		638	C. 剥けている
160	3-1-91	60.8	37.4	10.3	20.8	安山岩		886	E. 剥けている
161	3-1--	32.1	17.2	8.4	3.1	玄武岩		889	E
162	3-2-18	41.1	22.7	12.1	11.2	玄武岩		765	B
163	3-2-30	54.0	26.9	13.6	19.3	砂岩		679	B
164	3-2-43	26.2	34.7	47.8	28.8	凝灰岩		692	C
165	3-2-51	40.2	34.0	11.0	22.2	泥岩		449	D
166	3-2-58	42.6	45.0	19.7	46.5	珪質岩		569	B
167	3-2-64	23.9	31.1	6.0	4.8	凝灰岩		626	E. 剥けている
168	3-2-70	52.2	22.6	20.2	31.6	泥岩		566	C+C+D+D. 594(32-70)と接合部
169	3-2-75	30.0	15.0	3.9	2.3	砂岩		625	B
170	3-3-01	47.0	96.2	15.2	79.7	安山岩		617	B
171	3-3-45	39.4	35.1	13.0	25.8	泥岩		634	C
172	3-3-69	52.1	37.2	9.7	16.2	珪質岩		581	E
173	3-3-75	58.5	31.1	17.9	37.7	安山岩		582	C
174	3-3-76	29.6	30.8	31.2	19.7	安山岩		580	D
175	3-4-22	82.2	33.7	25.9	114.7	泥岩		604	B
176	3-4-74	31.2	33.8	8.9	9.9	安山岩		586	E
177	3-4-86	59.5	66.2	48.8	193.3	安山岩		587	C
178	3-4-93	72.0	49.6	42.0	195.6	安山岩		441	B
179	3-5-12	36.4	41.0	22.4	26.8	珪質岩		465	B
180	3-5-17	40.8	16.4	4.7	2.8	砂岩		384	E
181	3-5-17	33.6	20.3	4.6	2.7	砂岩		385	E
122	3-5-18	28.0	17.2	3.7	2.0	砂岩		382	E
183	3-5-26	30.0	24.9	4.9	3.1	砂岩		396	E
184	3-5-74	43.2	58.4	19.3	55.0	安山岩		466	B. 剥けている
185	3-5-92	46.5	54.3	31.0	117.0	安山岩		464	B. 剥けている. すり石片か
186	3-5-94	88.2	47.5	14.4	67.8	砂岩		469	C
187	3-6-00	42.0	6.8	24.4	9.7	安山岩		393	E
188	3-6-27	37.8	27.8	16.4	19.5	安山岩		330	D
189	3-6-27	14.5	42.0	32.0	19.1	安山岩		342	B
190	3-6-49	32.0	29.4	7.4	7.6	泥岩		328	E
191	3-6-94	100.5	76.2	31.8	314.1	安山岩		160	B+B. 78(46-02)と接合後傾平層礫. 78は剥けている
192	3-7-11	25.0	37.6	6.0	6.2	泥岩		288	E
193	3-7-12	58.5	29.4	18.2	37.7	泥岩		267	B
194	3-7-27	69.0	67.7	40.2	322.2	安山岩		263	D. 剥けている
195	3-7-36	63.7	49.0	46.3	159.8	安山岩		429	C. 剥けている
196	3-7-37	38.8	26.6	16.0	14.9	安山岩		260	D. 剥けている
197	3-7-67	32.7	30.3	33.2	24.8	珪質岩		180	C+D. 179(37-77)と接合後C. 剥け
198	3-7-67	31.6	25.5	21.0	17.9	泥岩		181	C. 剥けている
199	3-7-85	50.4	49.4	19.4	46.6	安山岩		193	D. 剥けている
200	3-8-56	61.3	47.0	29.6	103.0	珪質岩		250	C
201	3-10-07	58.7	33.3	12.6	19.0	安山岩		141	D. 剥けている
202	3-10-07	35.7	66.3	21.4	38.4	泥岩		143	B
203	3-10-08	80.3	39.8	13.0	35.9	安山岩		142	B
204	4-0-08	67.3	59.2	22.5	115.2	安山岩		840	C. 剥けている
205	4-0-27	25.4	14.1	5.6	2.1	礫		839	E
206	4-1-00	47.0	39.1	30.1	66.2	安山岩		835	C
207	4-1-09	62.4	69.6	27.5	107.3	安山岩		551	B
208	4-1-12	63.9	24.0	15.1	24.6	泥岩		552	B
209	4-1-23	41.0	19.2	7.4	4.1	泥岩		564	C
210	4-2-15	52.9	45.6	24.4	46.1	安山岩		596	B
211	4-2-47	37.7	32.7	26.5	53.3	砂岩		447	D
212	4-2-47	42.5	27.0	26.2	33.5	砂岩		740	B
213	4-2-48	45.0	28.9	9.7	17.2	泥岩		622	B

表V-3-42 方割礫一覧 (5)

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	図番	測No	備考
214	4・3-09	4.8	23.3	20.5	3.2	珪質岩		904	C
215	4・3-28	71.7	47.0	23.5	123.0	安山岩		577	B+B、接合後偏平楕円礫
216	4・3-30	62.0	20.4	17.0	38.5	泥岩		446	B
217	4・3-30	49.2	61.2	10.3	43.0	安山岩		556	B
218	4・4-02	32.1	17.3	3.9	1.5	泥岩		593	E
219	4・4-24	7.4	39.2	32.0	11.4	泥岩		837	C
220	4・4-30	52.0	45.6	36.5	137.3	安山岩		448	B
221	4・4-41	99.4	48.9	39.5	205.2	安山岩		736	B
222	4・5-06	100.4	38.6	21.1	96.2	珪質岩	5	72	B+C+C、73・74(45-17)と接合後楕円礫、削り掛け
223	4・5-12	49.7	22.6	12.6	15.7	安山岩		511	E
224	4・5-33	112.1	62.3	38.7	270.7	安山岩	6	471	B+C+C、510・47(45-38,46-30)と接合後楕円礫、削り掛け
225	4・5-46	48.0	28.3	16.3	26.3	珪質岩		71	C
226	4・5-46	47.0	45.0	31.5	117.0	安山岩		291	D、削れている
227	4・5-49	56.2	36.2	22.3	53.6	砂岩		302	D
228	4・5-49	22.0	23.9	8.2	5.3	泥岩		512	D+D、接合後C
229	4・6-42	121.9	72.2	39.5	364.9	安山岩		77	C+C+D+D、接合後B、削り掛け
230	4・7-21	96.7	84.8	45.5	526.3	安山岩		105	C+C、106(47-21)と接合後B、削り掛け
231	4・7-40	60.0	39.0	23.8	89.2	安山岩		292	B
232	4・7-41	123.2	54.6	33.8	242.9	泥岩		116	C+D+D、293・295(47-41)と接合後C
233	4・8-02	80.5	38.7	29.6	109.8	安山岩		104	B+C、接合後B
234	4・8-42	60.0	33.6	21.2	61.2	安山岩		126	B+B、接合後楕円礫
235	表採	27.4	13.5	6.5	2.7	礫岩		540	E
236	表採	57.8	67.6	17.6	64.9	安山岩		541	C
237	表採	46.5	39.8	19.5	30.2	珪質岩		905	D
238	表採	44.4	25.7	38.0	50.2	凝灰岩		906	D
239	表採	32.4	31.5	7.7	7.0	砂岩		907	E

表V-3-43 礫一覧 (1)

No.	グリッド	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)	石質	図番	測No	備考
1	0・3-26	140.0	101.6	36.4	640	安山岩		793	偏平楕円礫
2	0・3-26	102.5	81.5	37.0	425.5	安山岩		794	偏平楕円礫
3	0・3-50	125.4	69.4	65.3	810	安山岩		854	楕円礫
4	0・4-00	34.1	39.9	26.3	33.4	凝灰岩		813	楕円礫、削れている
5	0・4-00	67.8	31.9	24.8	41.8	凝灰岩		814	長楕円礫
6	0・5-86	64.0	48.0	29.0	75.2	凝灰岩		516	楕円礫
7	0・8-69	79.0	37.3	22.0	82.2	泥岩		173	長楕円礫
8	0・9-32	103.7	43.0	32.2	195.2	安山岩		121	長楕円礫
9	0・10-24	109.0	33.2	21.6	108.1	玄武岩		96	長楕円礫
10	0・11-29	74.0	77.8	28.2	255.0	安山岩		89	偏平楕円礫
11	0・11-79	64.0	38.0	13.6	39.1	凝灰岩		60	偏平楕円礫
12	0・12-14	65.2	39.0	13.2	55.9	泥岩		52	偏平楕円礫
13	0・12-39	64.0	34.8	26.2	84.2	安山岩		17	楕円礫
14	0・12-39	52.0	33.6	19.0	31.6	凝灰岩		31	楕円礫
15	0・12-49	92.6	39.3	32.4	162.0	安山岩		2	長楕円礫、削れている
16	0・12-56	82.9	31.2	12.8	49.8	砂岩		28	偏平長楕円礫、削れている
17	0・12-59	54.0	29.7	21.9	45.8	凝灰岩		9	楕円礫、削れている
18	0・12-59	70.6	42.2	13.0	59.1	泥岩		10	偏平楕円礫
19	0・12-59	65.7	38.5	15.0	60.6	安山岩		13	偏平楕円礫、削れている
20	0・12-59	64.5	28.8	22.8	62.4	安山岩		14	楕円礫、削れている
21	0・12-59	72.5	32.7	22.8	68.4	凝灰岩		15	楕円礫
22	0・12-66	38.2	28.5	18.8	24.0	玄武岩		24	楕円礫
23	0・12-66	45.0	28.8	28.6	30.5	凝灰岩		25	楕円礫
24	0・12-66	101.6	42.3	21.0	123.5	泥岩		26	偏平長楕円礫
25	0・12-72	36.2	28.6	25.0	30.5	凝灰岩		29	楕円礫
26	0・12-73	55.0	39.3	25.5	82.4	珪質岩		27	楕円礫



表V-3-44 礫一覽 (2)

No.	グリッド	長(㎜)	幅(㎜)	厚(㎜)	重(g)	石質	図番	遊No	備 考
27	0・12-83	42.2	40.8	22.8	47.3	安山岩		30	楕円礫
28	0・12-95	43.6	31.0	30.0	40.1	泥岩		46	五角礫
29	0・13-13	83.2	25.5	21.2	51.3	泥岩		21	長楕円礫
30	0・13-21	77.0	42.0	21.5	90.0	泥岩		7	扁平楕円礫
31	0・13-41	48.4	41.4	22.0	66.5	砂岩		23	楕円礫
32	0・14-45	47.4	15.8	12.4	10.9	泥岩		547	長楕円礫
33	1・ 2-18	178.0	110.0	74.3	1,907	安山岩		789	楕円礫
34	1・ 2-47	45.6	46.7	41.4	87.0	砂岩		—	円礫
35	1・ 3-04	72.6	51.7	22.9	110.9	泥岩		825	扁平楕円礫
36	1・ 3-51	79.0	41.2	25.6	119.5	安山岩		831	楕円礫
37	1・ 3-76	74.6	56.6	14.2	100.4	砂岩		677	扁平楕円礫
38	1・ 3-85	110.7	41.9	35.9	239.3	安山岩		820	長楕円礫
39	1・ 4-62	73.3	50.3	41.9	127.7	凝灰岩		781	楕円礫
40	1・ 4-95	50.6	32.2	14.8	31.9	泥岩		743	扁平楕円礫
41	1・ 6-16	62.0	27.6	15.3	37.2	砂岩		528	五角礫
42	1・ 6-73	76.4	41.2	32.8	140.0	泥岩		388	楕円礫
43	1・ 6-80	57.5	31.4	18.3	41.2	安山岩		532	楕円礫
44	1・ 7-80	36.2	35.0	27.2	50.5	安山岩		536	五角礫
45	1・ 7-91	64.6	52.0	38.7	162.4	安山岩		308	楕円礫
46	1・ 8-65	68.8	29.4	29.5	81.6	安山岩		190	長楕円礫、癒けている
47	1・ 8-74	63.6	43.4	27.9	79.3	安山岩		185	楕円礫、癒けている
48	1・ 8-75	63.4	38.0	31.0	91.9	安山岩		188	楕円礫、癒けている
49	1・ 8-75	62.2	32.4	27.0	63.6	安山岩		189	楕円礫、癒けている
50	1・ 8-93	55.0	30.3	16.4	37.1	安山岩		186	楕円礫、癒けている
51	1・ 9-48	53.3	36.8	32.5	65.6	凝灰岩		316	楕円礫
52	1・13-06	44.4	40.8	12.0	28.2	泥岩		3	扁平円礫、癒けている
53	2・ 2-79	139.9	105.6	67.2	1,360	安山岩		682	楕円礫、癒けている
54	2・ 3-27	157.5	66.0	31.2	600	安山岩		768	扁平長楕円礫、癒けている
55	2・ 3-99	86.4	63.9	30.2	209.6	珪質岩		771	扁平楕円礫
56	2・ 4-09	88.5	67.3	46.6	394.9	安山岩		458	楕円礫
57	2・ 4-51	111.6	64.1	57.5	560	安山岩		729	楕円礫、癒けている
58	2・ 4-58	164.5	107.7	54.6	1,340	凝灰岩		662	楕円礫
59	2・ 5-96	72.3	63.0	50.7	309.9	安山岩		365	楕円礫
60	2・ 6-60	44.5	40.8	27.5	62.3	珪質岩		345	五角礫
61	2・ 6-67	118.0	91.7	46.0	720	安山岩		325	扁平楕円礫
62	2・ 7-54	66.0	40.0	12.0	50.2	泥岩		282	扁平楕円礫
63	2・ 8-03	62.0	47.5	37.0	141.6	凝灰岩		207	楕円礫
64	2・ 8-27	68.0	59.3	16.2	91.0	砂岩		239	扁平円礫
65	2・ 8-59	38.6	28.2	27.0	33.2	安山岩		505	五角礫
66	2・ 8-86	37.0	33.0	8.2	14.1	泥岩		506	扁平楕円礫
67	2・ 9-29	68.6	33.0	24.3	73.4	安山岩		127	楕円礫
68	2・ 9-34	190.0	94.0	56.0	1,410	安山岩		135	長楕円礫
69	2・ 9-39	70.0	34.8	17.9	68.0	安山岩		117	楕円礫
70	2・ 9-39	56.0	18.0	19.6	40.2	泥岩		124	五角礫
71	2・ 9-70	41.2	33.6	10.0	16.2	砂岩		170	扁平楕円礫
72	2・ 9-76	111.6	72.0	28.4	296.2	安山岩		197	扁平楕円礫
73	3・ 1-34	114.1	88.2	27.9	389.2	安山岩		695	扁平楕円礫
74	3・ 2-00	101.4	53.3	52.3	371.8	安山岩		675	楕円礫
75	3・ 2-25	102.9	84.1	22.9	296.2	安山岩		619	扁平楕円礫
76	3・ 2-27	103.8	50.3	32.0	184.8	珪質岩		630	長楕円礫
77	3・ 2-57	101.9	44.2	44.9	208.0	安山岩		601	長楕円礫
78	3・ 2-62	127.6	52.7	34.9	355.4	安山岩		595	長楕円礫
79	3・ 2-70	44.3	23.2	21.3	26.9	泥岩		585	楕円礫
80	3・ 2-80	47.4	24.4	17.8	29.2	泥岩		583	楕円礫
81	3・ 2-81	53.1	30.2	21.8	52.0	安山岩		584	楕円礫

表V-3-45 礫一覧 (3)

No.	グリッド	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	図番	遺物No	備考
82	3・2-99	73.3	28.2	19.8	64.0	安山岩		576	楕円礫
83	3・3-36	120.0	42.2	48.7	295.8	安山岩		615	長楕円礫
84	3・3-59	108.1	61.1	24.4	210.8	安山岩		571	扁平楕円礫
85	3・3-62	118.4	49.0	29.6	257.1	安山岩		570	長楕円礫
86	3・3-86	137.8	59.2	22.3	296.4	泥岩		572	扁平長楕円礫
87	3・4-99	98.8	62.0	35.3	321.8	安山岩		590	楕円礫
88	3・5-01	83.6	69.4	32.8	180.5	安山岩		457	楕円礫
89	3・5-37	73.4	39.2	16.8	60.2	凝灰岩		509	扁平楕円礫
90	3・5-71	90.0	34.7	17.6	84.2	泥岩		463	長楕円礫
91	3・6-13	55.1	46.9	31.8	97.3	安山岩		359	楕円礫
92	3・6-23	108.4	76.2	34.2	425.8	安山岩		358	扁平楕円礫
93	3・6-97	116.0	87.8	33.4	423.8	安山岩		200	扁平楕円礫
94	3・7-33	57.7	32.0	14.4	35.3	泥岩		266	扁平楕円礫
95	3・8-38	116.5	52.8	28.7	244.1	安山岩		246	長楕円礫
96	3・8-59	110.8	61.2	43.5	319.7	安山岩		206	楕円礫
97	3・9-08	81.6	73.0	23.2	248.3	泥岩		218	扁平亜角礫
98	3・9-19	95.4	84.6	26.0	380.0	安山岩		224	扁平亜角礫
99	4・1-00	62.6	48.7	43.3	156.2	安山岩		563	楕円礫
100	4・1-00	33.1	29.8	28.1	34.4	安山岩		836	円礫
101	4・1-23	49.8	42.4	11.5	33.6	珪質岩		637	扁平円礫
102	4・2-03	48.6	35.6	11.2	18.3	凝灰岩		672	扁平楕円礫
103	4・2-10	51.9	49.7	33.1	115.8	安山岩		597	楕円礫
104	4・2-30	161.5	84.3	56.2	1,145	安山岩		761	楕円礫
105	4・2-31	134.4	79.2	49.1	715.0	安山岩		666	楕円礫
106	4・2-48	118.9	46.7	32.8	266.2	安山岩		738	長楕円礫
107	4・2-49	102.5	59.9	29.4	217.8	安山岩		599	扁平楕円礫
108	4・3-02	120.0	57.4	29.8	258.9	安山岩		560	長楕円礫
109	4・4-11	136.9	61.6	41.6	473.7	安山岩		591	長楕円礫
110	4・5-39	90.8	52.8	45.2	293.8	安山岩		76	楕円礫
111	4・6-05	105.9	79.6	25.7	320.0	安山岩		79	扁平楕円礫
112	4・7-43	67.8	35.6	15.7	53.8	泥岩		294	扁平楕円礫
113	4・8-10	123.4	66.0	31.0	422.4	安山岩		113	扁平楕円礫
114	4・8-48	86.4	32.7	13.2	51.0	泥岩		309	扁平長楕円礫

礫 114点が出土し、このうち焼けているものは約1割の15点と方割礫に比して少ない。石質は安山岩が過半数の62点を含め、焼けているものは11点ある。次いで泥岩が23(焼け1)、凝灰岩15(焼け2)、砂岩7(焼け1)、珪質岩5(焼け0)、玄武岩2(焼け0)の順で、比率的には方割礫と大差はない。形態別には、最も多いものが楕円礫の47点であり、そのうち焼けているものは9点ある。次いで扁平楕円礫28(焼け1)、長楕円礫21(焼け2)、亜角礫5(焼け0)、扁平円礫4(焼け1)、扁平長楕円礫4(焼け2)、円礫2(焼け0)、扁平亜角礫2(焼け0)、亜角礫1(焼け0)となっており、楕円に近い形態のものが選択的に持ち込まれている。出土分布をみると、沢跡北側の0・12区が最も多く、焼けているもののうち5点がここから出土している。また、1・8区でも焼けたものが5点出土しており、焼けた礫については、方割礫の焼け弾け資料と密接な関連が窺われる。

#### 4 まとめ

焼土の項でDグループに分類したものについて、焼土群の時期、焼け弾けの石器など周辺遺物との関連及びTピットとの関係について述べる。なお、この焼土群については全てフローテーション法による微小遺物の検出作業を実施したが、得られた自然遺物は、FP 30で種不明種子粒2点、FP 34で炭化したクルミの殻があるのみである。

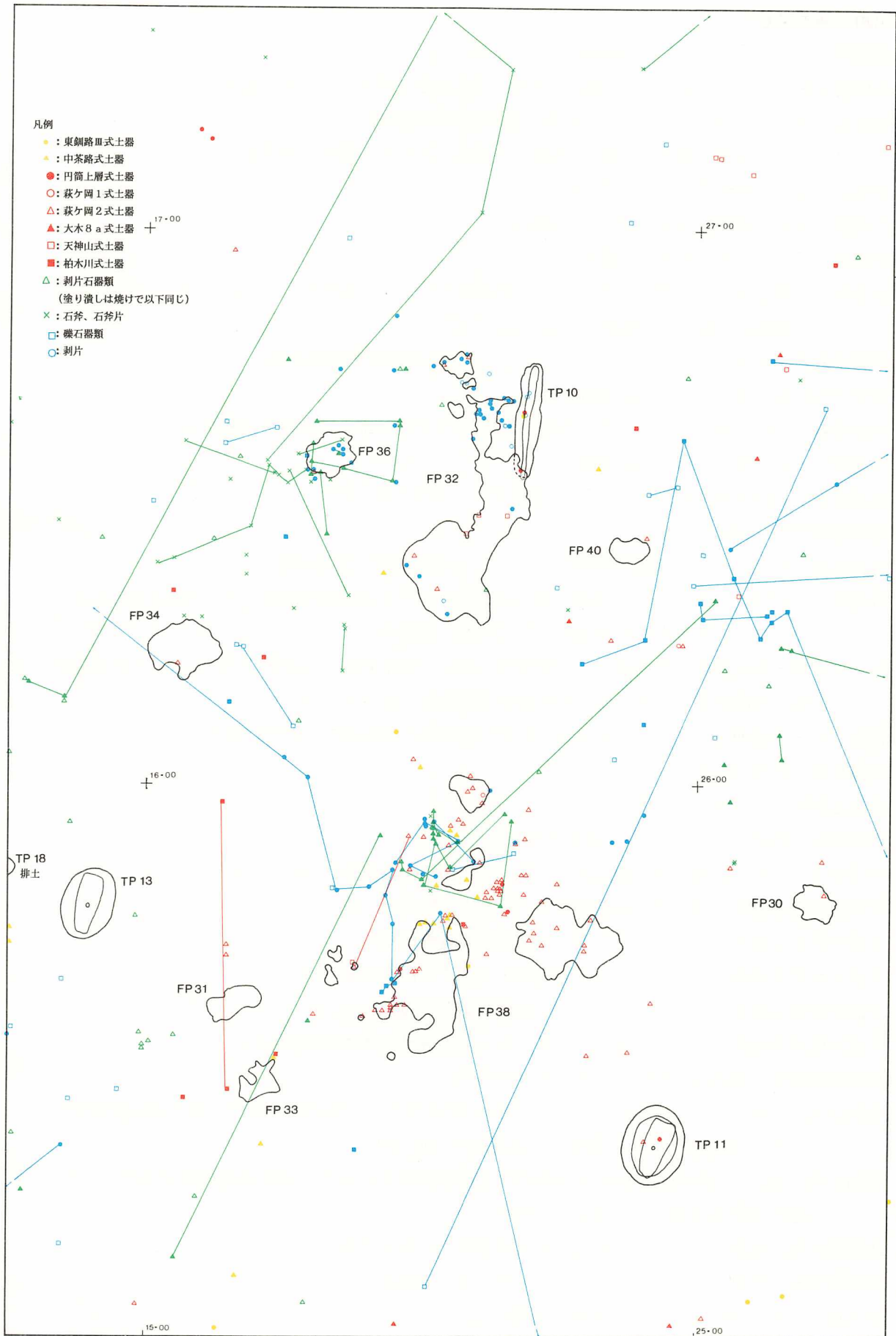
Dグループを形成する焼土のうちFP 30～32、36、38、40はⅡ層中位で確認されており、FP 33、34はⅢ層上面で確認されている。またFP 30～32、34、36、38の6ヵ所からは萩ケ岡2式土器片が出土している。従ってDグループは、ほぼ萩ケ岡2式期に形成されたものと考えられ、層位的に下位に位置するFP 33、34は時期が古い可能性もあるが、掘り込みを伴う焼土であった可能性もある。

Dグループ南側の中心に位置するFP 38は、a～gとした焼土の顕著な部分を始め、焼土を含むⅡ層が広範囲にみられる。関係する遺物も多く、焼土中・焼土直上及び周辺の同一レベルから出土した土器片には萩ケ岡2式33点のほか、円筒上層式1点、萩ケ岡1式18点、天神山式3点と、試し焼きの粘土と思われる細片5点がある。また石器類は、焼土上面から多数の焼け弾けの黒曜石剥片類が出土しているほか、同じく焼け弾けの方割礫、削器、搔器、R・F、U・Fが各1点、黒色有機物が付着した石斧、石斧片も出土している。FP 38東側にはFP 30が、またFP 38西側にはFP 31・33が位置するが、これらの焼土は遺物が少なく、わずかにFP 30・31から萩ケ岡2式土器片各1点が出土しているに過ぎない。

Dグループ北側の中心に位置するFP 32も、FP 38同様広範囲に広がりを見せる焼土である。遺物は萩ケ岡2式土器片5点と天神山式3点のほか、1,000点を越える焼けた黒曜石剥片類と焼けたR・F 1点、石鏃と垂円礫各1点が出土している。FP 38と異なる点は、焼けた剥片類は極めて細かな破片が主体で、明確に焼け弾けと確認できるものはなく、また接合資料にもなり得なかった。FP 32の東側にはFP 40が位置するが、この周辺は遺物が少なく、むしろその東側に集中している。これに対し西側に位置するFP 36周辺は遺物が豊富で、萩ケ岡2式土器片2点と、多数の石斧片（7個体の母岩がある）や焼けた黒曜石剥片、焼け弾けた搔器とU・F、焼けた礫片が出土している。なお、その南西側に位置するFP 34からは萩ケ岡2式土器片4点と、同一母岩の黒緑色泥岩製石斧片が7点出土している。

さて、これらの焼土と遺物の関係であるが、自然遺物が極めて少ない点や、焼け弾け遺物の異常な出土量からして、ユカンボシE 4遺跡の報告で述べたように、木村哲朗（1991）が指摘している「もの送り場」的な機能を想定せざるを得ない。

ところで、FP 32周辺のⅡ層を除去すると、Ⅲ層中に黒色土の広がりが確認され、その一部はFP 32の下に及んでいた。そこで、これらを通した土層断面を設定し調査を進めたところ、黒色土の広がりはTピット（TP 10）であることが判明し、これが完全に埋没してからFP 32が形成されている。なおTP 10の出土遺物は、覆土1層中から東釧路Ⅲ式と円筒上層式土器片各1点、黒曜石剥片2点があり、その上位のⅡ層中に黒曜石剥片16点がみられた。TP 10は杭穴をもたない細長いタイプで、同様の形態をもつTP 9と列をなすものと考えている。なお、FP 38の東西に同形態のTP 11とTP 13が穿たれているが、TP 11の崩落土中から天神山式土器片が出土し、流れ込みの覆土1層中からは萩ケ岡2式土器片1点が出土している。従ってこれらは、TP 10より新しい形態のTピットといえることができる。（鎌田望 田才雅彦）



図V-4-1 FP32周辺の遺構と遺物

## 引用・参考文献

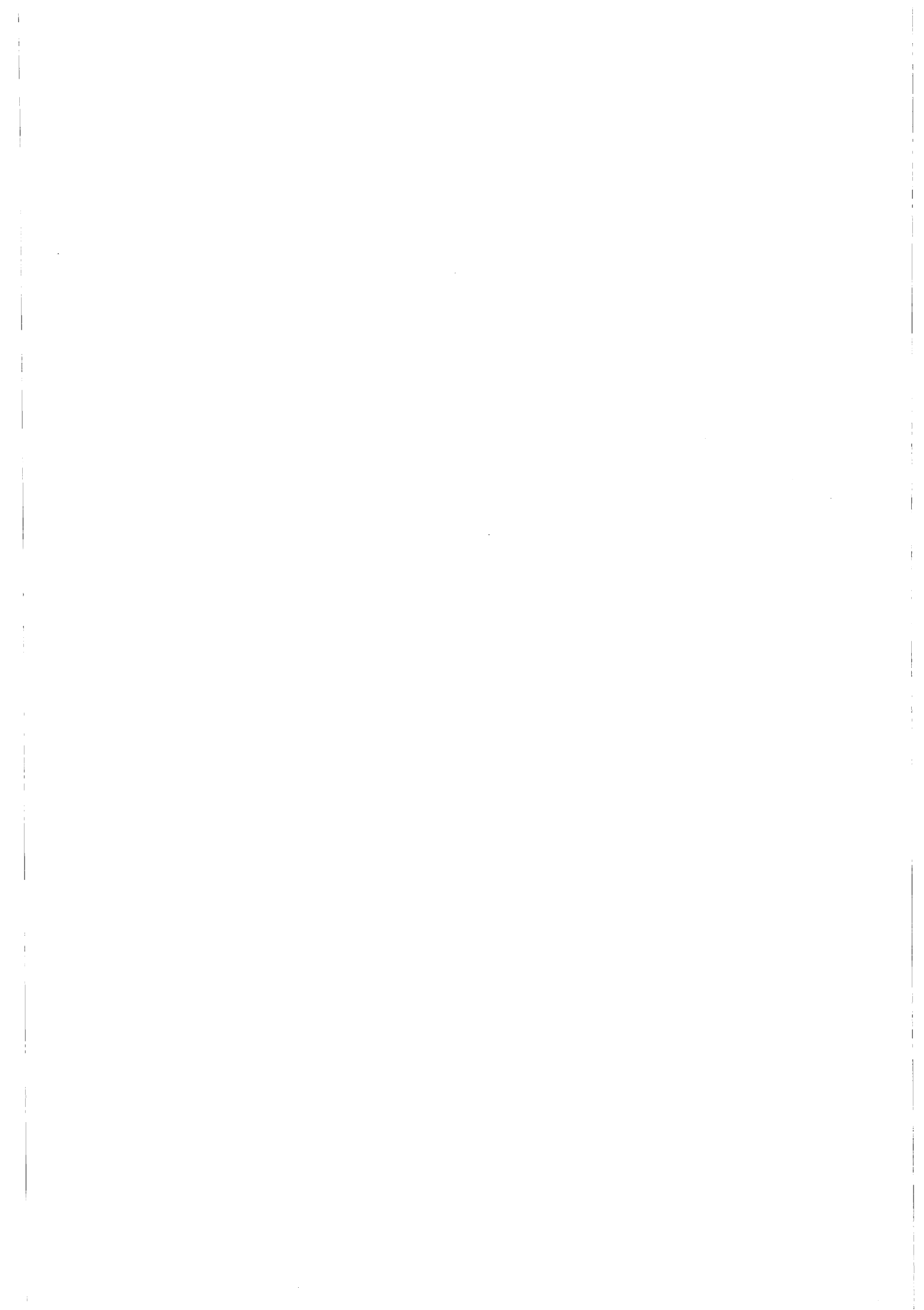
- 鮑津博史 1977「方割石」『Wakkaoi III 4. 4. 6』
- 石附喜三男 1984「擦文式土器の編年的研究」『北海道の研究 2 考古篇II』
- 石附喜三男ほか 1977『ウサクマイ遺跡 N地点発掘報告書』
- 上屋真一 1991「擦文時代の石器」『南島松1遺跡 南島松4遺跡 第II章 3.(2)』
- 上屋真一ほか 1987『カリンバ2遺跡』
- 上屋真一ほか 1989『ユカンボシE 8遺跡』
- 上屋真一ほか 1990『柏木川11遺跡』
- 遠藤邦彦・隅田まり・宇野リベカ 1987『北海道カリンバ2遺跡のテフラ』(上屋真一編『カリンバ2遺跡』恵庭市教育委員会 pp. 112-117)
- 恵庭市教育委員会 1984『カリンバ2、カリンバ3遺跡試掘調査報告書』
- 江別市教育委員会 1987『高砂遺跡』
- 大泉博嗣 1987「第2章 第2節 遺構の分類」『苫小牧東部工業地帯の遺跡群II』
- 大場利夫・石川徹 1967『千歳遺跡』
- 大沼忠春 1989「初期擦文土器」『古代史復元9 古代の都と村』
- 菊池徹夫ほか 1975『鳥柵舞』
- 木村哲朗 1991「西野幌12遺跡の焼土について」『北海道考古学第27輯』
- 近藤錬三 1993「函館市中野A遺跡土壌および焼土(?)の植物珪酸体分析」(財北海道埋蔵文化財センター『函館市中野A遺跡(2)』に所収、印刷中)
- 佐々木竜男・片山雅弘・音羽道三・天野洋司 1970「渡島半島の火山灰について」(『北海道農業試験場土性調査報告』第20編 北海道農業試験場 pp. 255-281)
- 曾谷龍典・佐藤博之 1980『千歳地域の地質』地域地質研究報告 地質調査所
- 高橋正勝 1971『柏木川』
- 高橋正勝ほか 1982『萩ヶ岡』
- 田才雅彦 1983「北大式土器」『北奥古代文化 第14号』
- 田才雅彦 1993「続縄文時代後北期から擦文時代初頭の土壙墓について」『二十一世紀への考古学』
- 千歳市教育委員会 1984『末広遺跡における考古学物調査(続)』
- 千歳市教育委員会 1988『ユカンボシ2遺跡発掘調査概報』
- 千歳市教育委員会 1989『イヨマイ6遺跡における考古学的調査(1)・(2)』
- 千歳市教育委員会 1990『ユカンボシ2遺跡発掘調査概要報告(2)』
- 千歳市教育委員会 1991『ユカンボシ3・5・6遺跡発掘調査概要報告』
- 戸磯史編集発行委員会 1989『戸磯百年のあゆみ』
- 花岡正光 1992「中野A遺跡の火山灰の対比と明赤褐色土の成因(予察)」(財北海道埋蔵文化財センター『函館市中野A遺跡』北理調報79 pp. 281-282)
- 花岡正光 1993「中野A遺跡の火山灰の対比と明赤褐色土の成因」(財北海道埋蔵文化財センター『函館市中野A遺跡(2)』に所収、印刷中)
- 北海道埋蔵文化財センター 1989『忍路土場遺跡・忍路5遺跡』
- 北海道埋蔵文化財センター 1992『ユカンボシE 4遺跡』
- 松谷純一ほか 1989『中島松5遺跡A地点』
- 松谷純一ほか 1990『中島松5遺跡B地点、中島松7遺跡C地点』

松谷純一ほか 1988 『中島松 6・7 遺跡』

横山英介 1990 『擦文文化』

渡辺茂 編著 1979 『恵庭市史』

渡辺誠 1980 「飛騨白川村のトチムキ石」『藤井裕介君追悼記念考古学論叢』



## ユカンボシ E 5 遺跡 B 地区 (A-04-06) から検出された植物種子

吉崎昌一 (北海道大学)

### (1) 扱った資料の性格

ここに報告する資料は、北海道石狩管内恵庭市戸磯180-4ほかに広がるユカンボシ E 5 遺跡 B 地区から得られたものである。この地点は、平成4年度に北海道埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施され、主として縄文時代早期後半の土器と、中期の萩ヶ岡式及び天神山式相当型式の遺構や焼土スポットが検出されている。表1に検出された種子類とそれが発掘された遺構ナンバー、採取グリッド、層位をまとめておいた。

### (2) 検出された種子

かなり多量の土壌サンプルがおこなわれている割には種子の出土量が少ない。それも、不思議なことには、焼土あるいは焼土周辺からの種子の出土は FP 1 (b)、FP 13、FP 16、FP 30の4ヵ所から総数でわずか5粒検出されているに過ぎない。しかもすべて確実な同定に耐えない保存状態のものだけであった。

FP 1 (a) と FP 29、FP 34からは、少量のクルミ属 *Juglans* L. の核果細片が検出されている。すべて炭化しており、加熱して破核したものの残存であろう。個数を調べる事が出来ないので、乾燥後の重量を掲示しておいた。

図1-1 a・1 bは、イネ科の穎果と見られるものである。TP 24の覆土からほぼ同様な資料が3粒出土している。1 aはその中でもっとも保存のよいもの。紡錘形の形状を持ち、全長のほぼ4/5に達する胚が見られる。長さ1.4mm、幅0.7mmでススキ *Miscanthus sinensis* Anderss. でないかと思われるが、はっきりしない。1 bは1 aの表面構造の残っている部分を拡大したもの。

図1-2 a・2 bもイネ科の種子であろう。長さ1.75mm、幅0.8mm。両端がわずかに尖る長卵形のもので、下端に扇状に広がる胚が観察される。手元に集められているイネ科の種子標本と比較してみると、ササ属 *Sasa Makino et Shibata* の種子にきわめて類似すると思われるのだが決め手に欠ける。2 bにはその胚部分の拡大を示しておく。TP 3から1粒検出された。

FP 13からはマタタビ属 *Actinidia* Lindl. の種子が1点検出されている。図1-3 a・3 bに示したものがそれで、卵形に近い形状をもち、表面には独特のアバタ状構造が観察される。その拡大図を図1-3 bに示しておく。

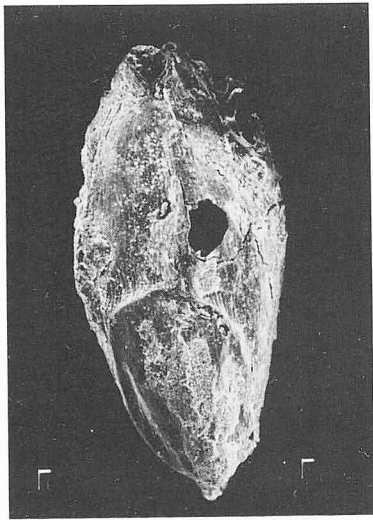
図2-4 a・4 bは長さ2.1mm、幅1.3mmの種子であるがいまのところ手掛りがなく不明。図2-5 a・5 bはヘソの認められない球形のもので長さ1.2mm、幅1.25mm。5 bに拡大撮影して掲げてあるように表面に不規則なしわ状の構造が見られる。植物種子ではなく菌核である可能性がある。



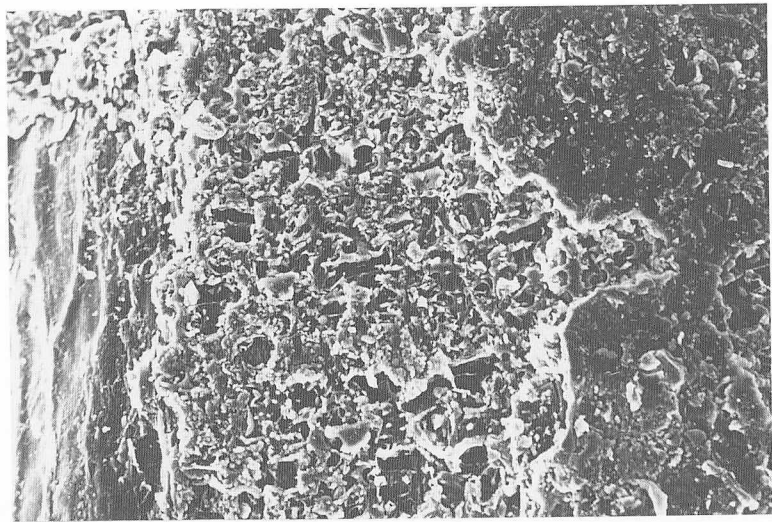
表1 ユカンボシE5遺跡B地区出土炭化植物遺体一覽

遺構名	サツカ概区	層位	イ科	マタビ属	キダ属片	クルミ属	不明種子	遺構名	サツカ概区	層位	イ科	マタビ属	キダ属片	クルミ属	不明種子
FP 1-a	1・13-51	焼土				0.01		FP42	4・3-10	焼土					
FP 1-b	1・13-61	焼土					1	FP43	4・1-37	焼土					
FP 2	0・10-46	焼土						FP44	4・1-38	焼土					
FP 3	1・10-68	焼土						FP45	3・2-75	焼土					
FP 4	2・10-96	焼土						FP46	3・2-57	焼土					
FP 5	2・10-29	焼土						FP47	3・2-84	焼土					
FP 6	2・10-88	焼土						FP48	3・4-21	焼土					
FP 7	1・10-35	焼土						FP49	2・4-93	焼土					
FP 8	2・10-63	焼土						FP50	3・5-57	焼土					
FP 9	3・8-03	焼土						FP51	4・2-38	焼土					
FP10	2・7-76	焼土						FP52	2・4-63	焼土					
FP11	3・7-36	焼土						FP53	2・4-42	焼土					
FP12	3・8-66	焼土						FP54	3・1-81	焼土					
FP13	2・8-87	焼土		1				FP55	2・4-40	焼土					
FP14	2・8-47	焼土						FP57	1・4-85	焼土					
FP15	1・7-66	焼土						FP58	1・4-66	焼土					
FP16	2・8-14	焼土					1	FP59	0・4-38	焼土					
FP17	0・9-90	焼土						FP63	0・3-38	焼土					
FP18	0・7-15	焼土						FP64	3・3-20	焼土					
FP19	2・4-28	焼土						FP65	3・3-12	焼土					
FP20	0・6-65	焼土						FP66	3・3-03	焼土					
FP21	3・5-23	焼土						FP67	2・3-94	焼土					
FP22	4・8-19	焼土						FP68	2・3-76	焼土					
FP23	4・8-21	焼土						FP69	2・3-68	焼土					
FP24	4・7-16	焼土						FP72	3・4-31	焼土					
FP25	4・7-36	焼土						FP73	1・3-13	焼土					
FP26	3・7-28	焼土						FP74	1・3-25	焼土					
FP27	2・8-82	焼土						HP 1	2・7-99	炉2					
FP28	3・8-66	焼土						HP 3	1・4-43	炉1					
FP29	2・9-90	焼土				>0.01		HP 3	1・4-51	炉2					
FP30	2・5-27	焼土					2	TP 1	4・5-35	覆土25					
FP31	1・5-16	焼土						TP 3	3・8-91	覆土12	1	2	1		2
FP32	1・6-43	焼土						TP 3	3・8-91	覆土14					
FP33	1・5-14	焼土						TP23	3・4-43	覆土9					
FP34	1・6-01	焼土				0.02		TP24	0・4-27	覆土11	3				
FP35	3・5-14	焼土						GP 1	1・12-41	埋土					
FP36	1・6-35	焼土													
FP37	3・5-13	焼土													
FP38-A	1・5-77	焼土													
FP38-B	1・5-59	焼土													
FP38-C	1・5-58	焼土													
FP38-D	1・5-56	焼土													
FP38-E	1・5-55	焼土													
FP38-F	1・5-36	焼土													
FP38-G	1・5-36	焼土													
FP39	3・6-00	焼土													

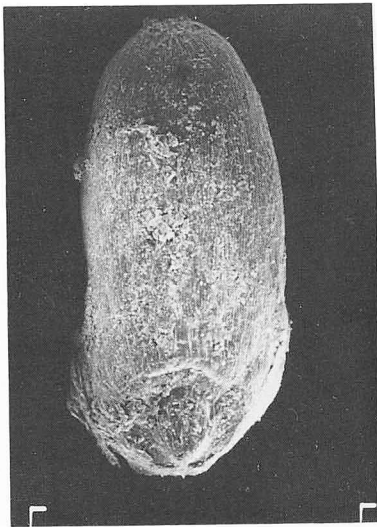
注：表中の単位は、クルミ属がg、キハダ属が破片点数、他は粒の点数である。



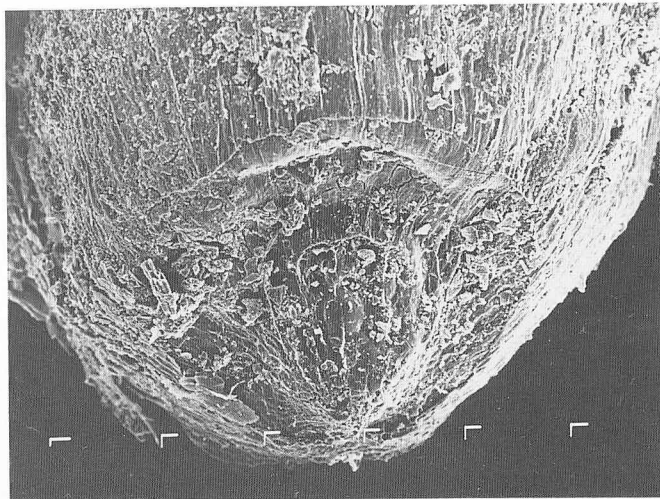
1 a イネ科 ×35



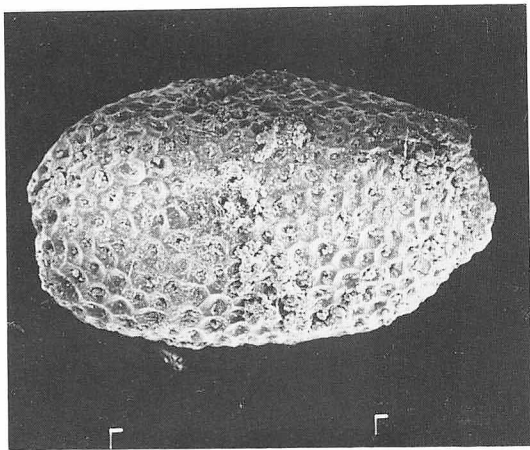
1 b 1 aの拡大 ×500



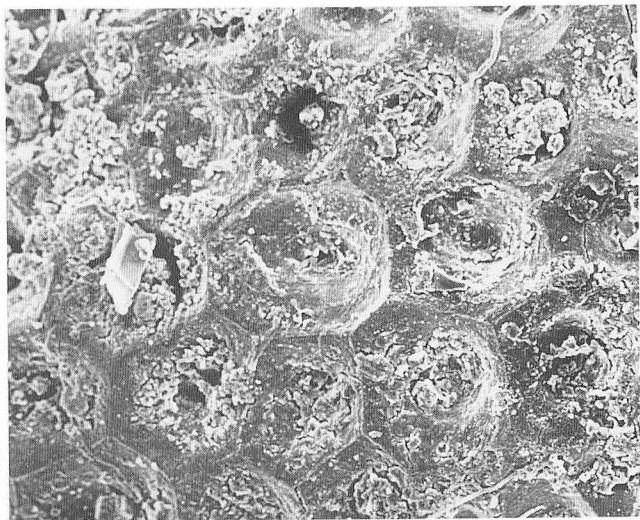
2 a イネ科 ×35



2 b 2 aの拡大 ×200

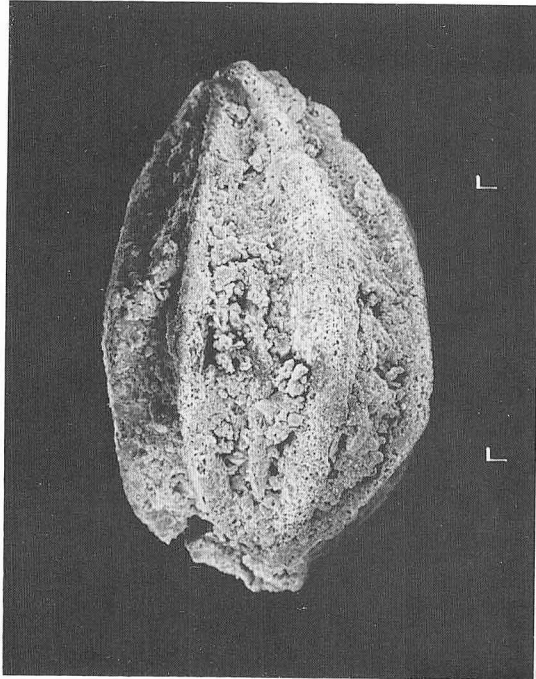


3 a マタタビ属 ×35

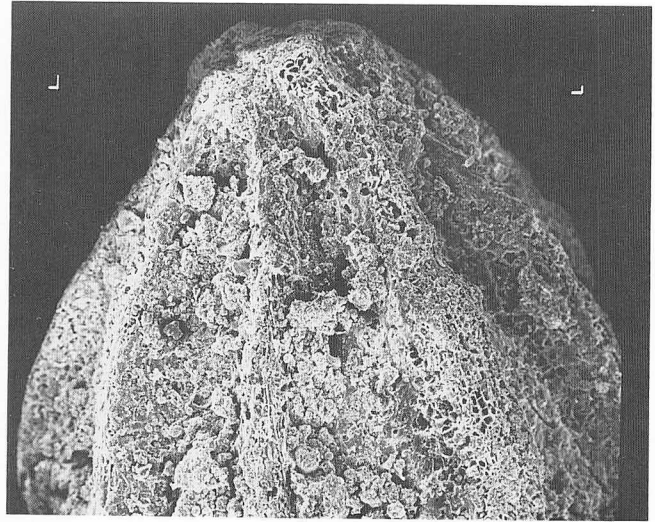


3 b 3 aの拡大 ×200

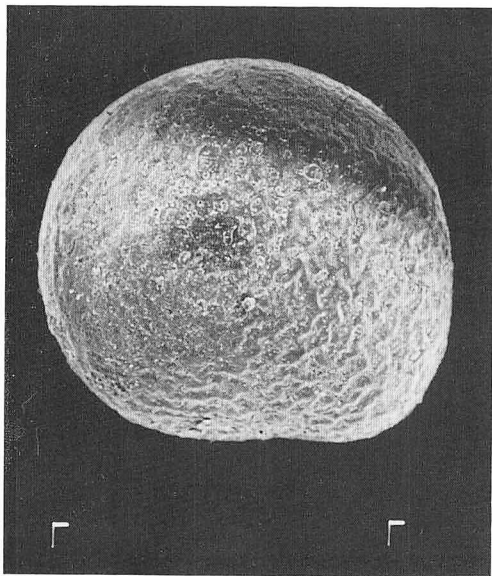
図1 ユカンボシ E 5 遺跡 B 地区出土炭化種子 (1)  
(×35撮影のスケール 「」の間隔1mm)



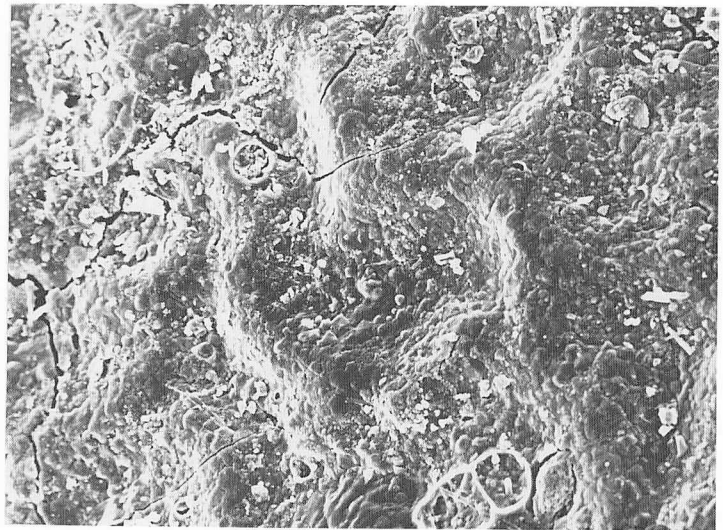
4 a 不明種子 ×35



4 b 4 aの拡大 ×100



5 a 不明種子 ×35



5 b 5 aの拡大 ×500

図2 ユカンボシ E 5 遺跡 B 地区出土炭化種子 (2)

---

財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第81集

恵庭市 ユカンボシE5遺跡

---

平成5年3月26日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒064 札幌市中央区南26条西11丁目

Tel 011-561-3131

印刷 富士プリント株式会社

〒064 札幌市中央区南16条西9丁目

Tel 011-531-4711

---

※この報告書は札幌開発建設部のご了解を得て増刷したものです。

